



ES500e / ES350e

取扱説明書

イラスト目次	イラストから検索	
安全・安心のために	お客様に 必ずお読みいただきたいこと (主な項目：チャイルドシートの取扱い、盗難防止装置)	1
EV システム	充電に関する情報など (主な項目：EV システム、充電のしかた)	2
走行に関する情報表示	走行に関する情報を表示する計器類の見方 (主な項目：メーター・マルチインフォメーションディスプレイ)	3
運転する前に	ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整 (主な項目：キー、ドア、シート、パワーウィンドウ)	4
運転	運転に必要な操作やアドバイス (主な項目：EV システム始動のしかた、運転支援装置)	5
室内装備・機能	室内装備の使い方など (主な項目：エアコン・収納装備の使い方)	6
お手入れのしかた	車のお手入れ・メンテナンスの方法 (主な項目：内装・外装の手入れ、電球の交換)	7
万一の場合には	故障したときや、緊急時などの対処 (主な項目：補機バッテリーあがりやタイヤがパンクしたときの対処)	8
車両情報	車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報 (主な項目：各フルード量、タイヤ空気圧)	9
さくいん	症状から検索	
	音から検索	
	アルファベットで検索	
	五十音で検索	

知っておいていただきたいこと	6
本書の見方	12
検索のしかた	13
イラスト目次	14

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に	26
安全なドライブのために	27
シートベルト	29
SRS エアバッグ	33
ポップアップフード	39

1-2. お子さまの安全

お子さまを乗せるときは	41
チャイルドシート	42

1-3. 盗難防止装置

イモビライザーシステム	56
オートアラーム	57

2 EV システム

2-1. EV システムについて

EV システムの特徴	64
EV システムの注意	67
電気自動車運転のアドバイス	71
走行可能距離について	73

2-2. 充電について

充電に関する装備について	75
普通充電ケーブルについて	78
普通充電コネクターのロック・アン ロック	85
接続可能な外部電源について	88
充電方法について	92
充電に関するアドバイス	94
充電の前に知っておいていただきたい こと	96
普通充電のしかた	99
急速充電・V2H 充電／V2H 給電のし かた	106

充電スケジュール機能を使う	112
バッテリープレコンディショニングを 使う	120
マイルームモードを使う	122
正常に充電できないときは	125

2-3. 外部給電システムについて

AC 外部給電システムについて ...	139
正常に AC 外部給電できないときは	152
DC 外部給電システムについて ...	154
DC 外部給電システムの使い方 ...	155
DC 外部給電システムが正常に作動し ないときは	162

3 走行に関する情報表示

3-1. 計器の見方

警告灯／表示灯	166
計器類	171
マルチインフォメーションディスプレ イ	176
ヘッドアップディスプレイ	184

4 運転する前に

4-1. キー

キー	190
デジタルキー	193

4-2. ドアの開閉、ロックのしかた

ドア	197
トランク	203
スマートエントリー&スタートシステ ム	211

4-3. シートの調整

フロントシート	217
パワーリヤシート	219
ヘッドレスト	222

4-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル	224
デジタルインナーミラー	225
ドアミラー	232

4-5. ドアガラス・ムーンルーフの開閉

パワーウインドウ.....	235
パノラマムーンルーフ.....	238

4-6. お好み設定

パワーイージーアクセスシステム／ボ ジションメモリー／メモリーコール 機能.....	242
マイセッティング.....	245

5 運転

5-1. 運転にあたって

運転にあたって.....	251
荷物を積むときの注意.....	257

5-2. 運転のしかた

パワー（イグニッション）スイッチ	258
シフトポジション.....	262
インタラクティブマニュアルドライブ	269
方向指示レバー.....	270
パーキングブレーキ.....	271
ブレーキホールド.....	275
ASC（アクティブサウンドコントロ ール）.....	277

5-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い 方

ランプスイッチ.....	278
AHS（アダプティブハイビームシス テム〔高精細式〕）.....	282
AHB（オートマチックハイビーム）	285
マルチウェザーライト.....	288
リヤフォグランプ.....	289
ワイパー＆ウォッシャー.....	290

5-4. 運転支援装置について

運転支援システム情報.....	294
Lexus Safety System +.....	298
ドライバーモニター.....	307
PCS（プリクラッシュセーフティ）	309

LTA（レーントレーシングアシスト）	318
LCA（レーンチェンジアシスト）	322
LDA（レーンディパーチャーアラ ート）.....	326
PDA（プロアクティブドライビングア シスト）.....	333
FCTA（フロントクロストラフィック アラート）.....	337
発進遅れ告知機能.....	339
RSA（ロードサインアシスト）...	340
レーダークルーズコントロール..	343
クルーズコントロール.....	354
ドライバー異常時対応システム..	358
アドバンスド ドライブ（渋滞時支援）	360
急加速抑制.....	365
ITS Connect.....	369
BSM（ブラインドスポットモニター）	375
後方車両接近告知.....	380
周辺車両接近時サポート（録画機能、 通報提案機能）.....	383
後方車両への接近警報.....	386
セカンダリーコリジョンブレーキ（停 車中後突対応）.....	388
安心降車アシスト.....	391
クリアランスソナー.....	396
RCTA（リヤクロストラフィックア ラート）.....	403
RCD（リヤカメラディテクション）	408
PKSB（パーキングサポートブレーキ）	412
パーキングサポートブレーキ（前後方 静止物／周囲静止物）.....	416
パーキングサポートブレーキ（後方接 近車両）.....	419
パーキングサポートブレーキ（後方歩 行者）.....	421
Lexus Teammate Advanced Park	422
ドライブモードセレクトスイッチ	448

運転を補助する装置	450
プラスサポート（販売店装着オプション）	458

5-5. 運転のアドバイス

寒冷時の運転	463

6 室内装備・機能

6-1. レクサスクライメイト コンシェルジュ

レクサスクライメイトコンシェルジュ	468

6-2. エアコンの使い方

オートエアコン	469
ステアリングヒーター／シートヒーター／シートベンチレーター／輻射ヒーター	478

6-3. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	482

6-4. 収納装備

収納装備一覧	486
トランク内装備	491

6-5. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備	492
アクセサリコンセント（AC100V・1500W）・非常時給電システム	504
正常にアクセサリコンセント（AC100V 1500W）または非常時給電システムが使用できないときは	512

7 お手入れのしかた

7-1. お手入れのしかた

外装の手入れ	518
内装の手入れ	522

7-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	525
ガレージジャッキ	526
ウォッシュ液の補充	527

タイヤについて	528
タイヤの交換	538
タイヤ空気圧について	542
エアコンフィルターの交換	543
電子キーの電池交換	545
ヒューズの点検・交換	547
電球（バルブ）の交換	549

8 万一の場合には

8-1. まず初めに

故障したときは	552
非常点滅灯（ハザードランプ）	553
発炎筒	553
車両を緊急停止するには	554
水没・冠水したときは	555
車中泊が必要なときは	556

8-2. 緊急時の対処法

けん引について	557
警告灯がついたときは	562
警告メッセージが表示されたときは	570
パンクしたときは	581
EV システムが始動できないときは	591
キーをなくしたときは	593
充電リッドが開かないときは	593
電子キーが正常に働かないときは	594
ドア開スイッチでドアを開けることができないときは	597
補機バッテリーがあがったときは	599
オーバーヒートしたときは	603
スタックしたときは	605

9 車両情報

9-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ	608

9-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能一覧 . 611

9-3. 初期設定

初期設定が必要な項目 636

9-4. フリー／オープンソースソフトウェア

フリー／オープンソースソフトウェア
情報 637

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）
..... 640

車から音が鳴ったときは（音さくい
ん） 642

アルファベット順さくいん 645

五十音順さくいん 647

1

2

3

4

5

6

7

8

9

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

レクサス販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- レクサスが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

また、このような改造は Lexus Safety System + のような先進安全装備にも影響を与え、正しく作動しない危険や作動すべきでない場面での作動をする恐れがあり危険です。

- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エ

アバグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 次の場合はレクサス販売店にご相談ください。

- ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換

異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。

- ・ 電装品・無線機の取り付け・取りはずし

電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。

RF 送信機の取り付けについては、P.9 も参照してください。

- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

サイバー攻撃のリスクについて

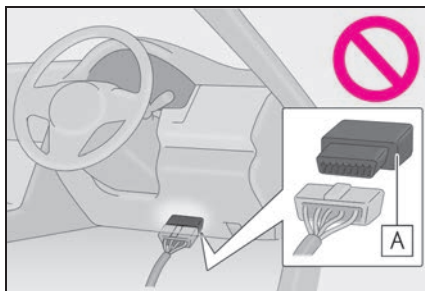
電子機器や無線機を取り付けると、装着された部品を通じてサイバー攻撃のリスクを高め、思わぬ事故や個人情報の流出などにつながるおそれがあります。

レクサス純正品以外を取り付けたことに起因する問題に関してレクサスは保証いたしません。

故障診断コネクタなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクタ[A]などに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けしないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装着されています。

■ コンピュータ（マルチメディアシステム除く）に記録されるデータ ※1

※1 グレード／オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

- 車両の挙動に関する基本的なデータ（電気モーター回転数・アクセルペダルの操作状況・ブレーキペダルの操作状況・車速など）
- 運転支援システムの作動状況（システムの作動に付随して記録される車両の挙動に関する基本的なデータも含まれます）

- 運転支援システムのセンサーのデータ
- 画像データ（前方・後方・周辺・ドライバモニターのカメラ画像）※2

※2 車両には複数のカメラが付いています。どのカメラが画像を記録しているかはレクサス販売店にお問い合わせください。

● 位置情報

コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

また、お客様個人を特定できる種類のデータ（氏名・性別・年齢など）は車両に記録されません。

■ Lexus Safety System + によるデータの記録・個人情報の取り扱いについて

トヨタ自動車は Lexus Safety System + により車両に記録された各システムの作動状況・各センサーのデータ・画像データ（前方・後方カメラの画像）・位置情報を次の場合に該当するときに限り、お客様が販売店に入庫されたときに取得するほか、トヨタ自動車のサーバーに送信する形で取得します。

- 一定の衝突や衝突に近い状態などが発生した場合
- 渋滞や悪路、悪天候などの特定の交通環境にある道路を走行している場合
- 新規開通道路、拡張された道路などの特定の道路を走行している場合
- EV システム始動後の一定のタイミング

Lexus Safety System + によって記録され、トヨタ自動車が取得したデータの取り扱いについての詳細は、G-Link ご契約時にご署名いただいた留意事項説明をご覧ください。

■ データの利用目的と第三者提供について

車両に記録されたデータは、事故解析・故障診断、自動運転・先進安全・地図関連技術のための研究開発（技術・商品開発、品質向上など）、データを利用した商品・サービス（自動運転・先進安全技術用の地図の提供、走行状況の分析・道路インフラなど走行環境の分析・交通状況の配信などがあります。以下、これらを「個別サービス」といいます）および事故に関するお客様対応、事故の解決のための協議を目的に利用することがあります。

なお、次の場合に、トヨタ自動車は、取得したデータを第三者へ開示または提供することがあります。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察／裁判所／政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- トヨタ自動車が訴訟で使用する場合
 - ・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

Lexus Safety System + によって記録され、トヨタ自動車が取得したデータについては、上記に加え、次の場合に第三者に提供することがあります。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合。レクサス以外の第三者が提供する車両記録データを利用する個別サービスに申し込みされた場合などであって、第三者がレクサスに代わり、レクサスから第三者へのデータの提供についてお客様の同意を取得した場合も含みます。
- 自動運転・先進安全・地図関連技術のための研究開発（技術／商品開発／品

質向上など）の目的で、自動運転ソフトウェア関連の会社などの第三者に提供する場合

- 地図関連技術のための研究開発の目的で、地図作成会社などの第三者に画像データと位置情報を提供する場合
- 道路整備などの目的で、地方自治体などの第三者に画像データと位置情報を提供する場合
- 交通状況配信などの個別サービスの申込者に対して、画像データと位置情報を加工した情報を提供する場合
- レクサスと別途契約を締結した各自治体の消防組織に対して、火災発生時または救急出動時に、現場付近の画像データを提供する場合

知識

車両に記録されている画像情報や位置情報は、レクサス販売店にて、消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとシステム作動時のデータは残りません。

Lexus Safety System + によって研究開発、および個別サービスの提供を目的としてトヨタのサーバーに送信する形で取得しているデータの取得と利用を停止したい場合は、My LEXUS より停止いただけます。詳細は、My LEXUS のマイページをご覧ください。

G-Link によるデータの取り扱いについて

お客様が G-Link をご利用の場合、記録データとその使用について、G-Link 利用規約をご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDRは、一定の衝突や衝突に近い状態（SRSエアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDRは車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDRは次のようなデータを記録します。

- ・ 車両の各システムの作動状況
- ・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDRは衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータとEDRデータを組み合わせて使用することがあります。EDRで記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両またはEDRへ接続する必要があります。レクサスに比べ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両またはEDRに接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、レクサスはEDRで記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ レクサスが訴訟で使用する場合

ただし、レクサスは

- ・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- ・ 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

ソフトウェアアップデートについて

G-Link ご利用契約中のお客様は通信モジュール（DCM）を使ってソフトウェアアップデートを実施することで、システムのアップデート・機能の変更／追加ができます。詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

RF 送信機の取り付けについて

お車へRF送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- EV システム
- Lexus Safety System +
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- VDIM（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント）★

● SRS エアバッグ

● シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずレクサス販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をレクサス販売店にてご提供します。

高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品と比べて、電磁波が多いということはありません。

アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

プラスサポートについて

レクサス販売店で専用の電子キーをご購入し、ご使用いただくことで、プラスサポート（→P.458）の機能が利用可能になります。詳細については、レクサス販売店にお問い合わせください。

高電圧部位に貼り付けられている記号について

パワーコントロールユニットなどの高電圧部位には、取り扱いに注意することを示すラベルが貼付されている場合があります。

記号の示す意味は次のとおりです。

記号	意味
	危険であることを示しています。
	高電圧部位であることを示しています。
	手で触れてはいけない部位であることを示しています。
	高温部位であることを示しています。

アクセサリパーツ・用品について

下記サイトより取扱説明書（デジタル配信）をご確認いただけます。ご購入いただきましたアクセサリパーツの取扱説明書をご使用前にお読みいただき、記載された内容に従って正しくお使いください。商品の使用方法や安全にお使いいただく上での注意点を記載しております。なお、デジタル配信により印刷や輸送にともなう CO2 排出量の低減が見込まれます。持続可能な社会を構

築するためにレクサスはこれからも取扱説明書のあり方を見直してまいります。

アクセサリーパーツ取扱説明書掲載サイト：

お持ちのスマートフォンやタブレット、携帯電話等にて QR コードを読み取りいただくか、URL より閲覧してください。

URL:<https://manual-accessories.toyota/CAWeb/index.html>



なお、紙面で必要な場合はサイトより印刷いただくか、レクサス販売店にご相談ください。

QR コードについて

QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

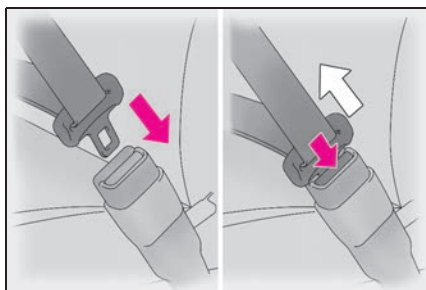
本書の見方

本書で使用している、記号について説明します。

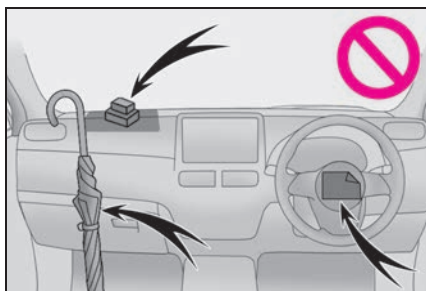
本文の記号について

記号	意味
	警告： お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。
	注意： お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。
1 2 3...	操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。
	機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト上の記号について



記号	意味
	押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。
	フタが開くなど、操作後の作動を示しています。

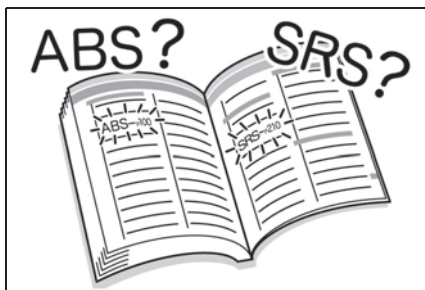


記号	意味
	説明の対象となるもの・場所を示しています。
	してはいけません、このようにしないでください、このようなことを起こさないでくださいという意味です。

検索のしかた

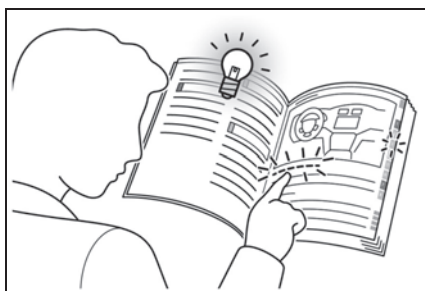
■ 名称から探す

- 五十音順さくいん：→P.647
- アルファベット順さくいん：→P.645



■ 取り付け位置から探す

- イラスト目次：→P.14



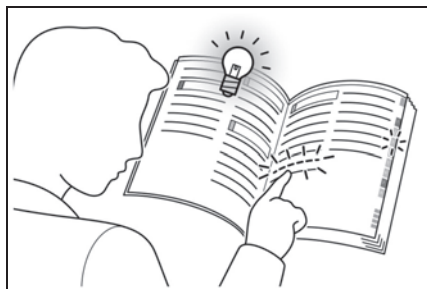
■ 症状や音から探す

- こんなときは（症状別さくいん）：→P.640
- 車から音が鳴ったときは（音さくいん）：→P.642



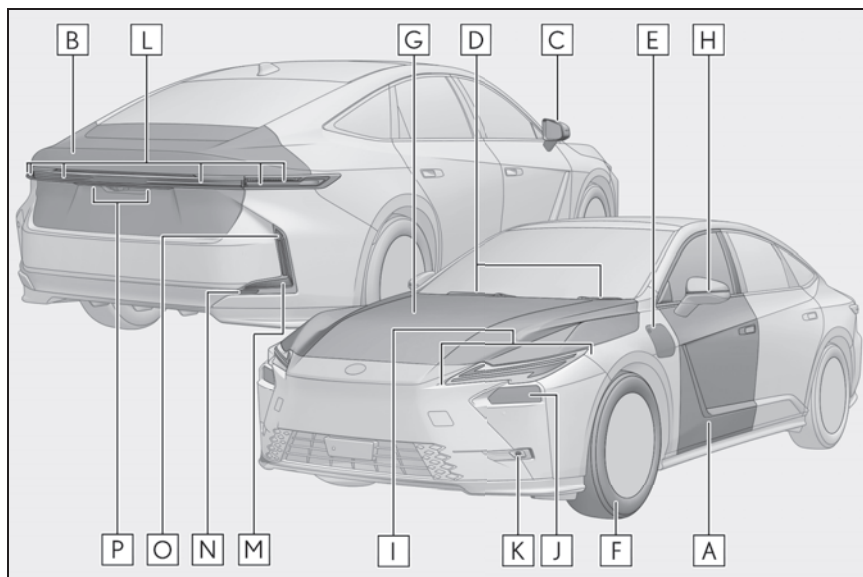
■ タイトルから探す

- 目次：→P.2



イラスト目次

■ 外観



A	ドア.....	P.197
	施錠／解錠.....	P.197
	ドアの開閉.....	P.201
	ドアガラスの開閉.....	P.235
	メカニカルキーでの施錠／解錠.....	P.594
	警告ブザー.....	P.201
B	トランク.....	P.203
	車内から開ける.....	P.206
	車外から開ける.....	P.206
	メカニカルキーで開ける.....	P.595
	警告ブザー.....	P.201
C	ドアミラー.....	P.232
	鏡面の角度調整.....	P.232
	ミラーの格納.....	P.233
	曇りを取る（ミラーヒーター）.....	P.472

調整位置の登録	P.242
D ワイパー	P.290
冬季の注意	P.463
凍結防止（ウインドシールドデアイサー）	P.475
洗車時の注意	P.521
E 充電ポート	P.75
充電方法	P.92
DC 外部電源供給システム	P.154
F タイヤ	P.528
サイズ・空気圧	P.610
冬用タイヤ・タイヤチェーン	P.463
点検・ローテーション・空気圧警報システム	P.528
パンク時の対処	P.581
G ボンネット	P.525
開け方	P.525
オーバーヒート時の対処	P.603
警告ブザー	P.210

走行に関わる外装の電球（バルブ）

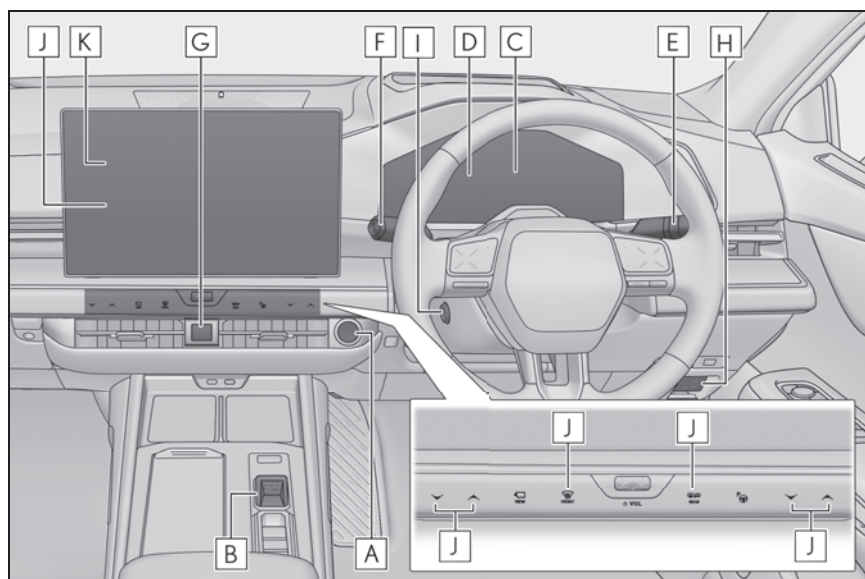
（交換要領：P.549）

H サイド方向指示灯	P.270
I 車幅灯・デイトタイムランニングランプ・フロント方向指示灯 ..	P.270, 278
J ヘッドランプ	P.278
K コーナリングランプ★・補助灯★	P.281, 288
L 尾灯・制動灯	P.278
緊急ブレーキシグナル	P.451
M リヤ方向指示灯	P.270
N 後退灯	
シフトポジションを R にする	P.262
O リヤフォグランプ	P.289

P 番号灯.....	P.278

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ インストルメントパネル



- A** パワースイッチ P.258
 - EV システムの始動・モード切りかえ P.258, 260
 - EV システムの緊急停止 P.554
 - EV システムが始動できないときの対処 P.591
 - 警告メッセージ P.259, 570
- B** シフトレバー P.262
 - シフトポジションの切りかえ P.263
 - けん引時の注意 P.557
- C** メーター P.171
 - 見方・明るさの調整 P.171, 175
 - 警告灯／表示灯 P.166
 - 警告灯点灯時の対処 P.562
- D** マルチインフォメーションディスプレイ P.176
 - 表示内容 P.176
 - 警告メッセージ表示時の対処 P.570

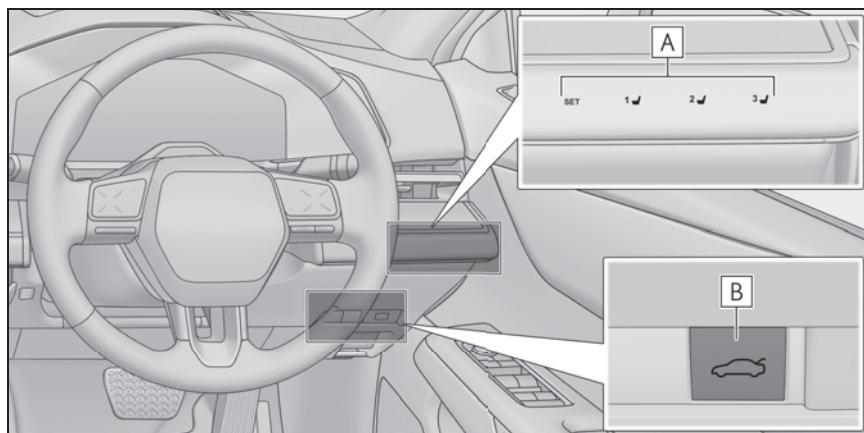
E	方向指示レバー	P.270
	ランプスイッチ	P.278
	ヘッドランプ・車幅灯・尾灯・番号灯・デイトタイムランニングランプ	P.278
	AHS (アダプティブハイビームシステム) ★	P.282
	AHB (オートマチックハイビーム)	P.285
	マルチウェザーライト★	P.288
	リヤフォグランプ	P.289
F	ワイパー&ウォッシャースイッチ	P.290
	使い方	P.290
	ウォッシャー液の補充	P.527
	警告メッセージ	P.527, 570
	ヘッドランプクリーナー	P.290
G	非常点滅灯スイッチ	P.553
H	ボンネット解除レバー	P.525
I	ハンドル位置調整スイッチ	P.224
	調整方法	P.224
	調整位置の登録	P.242
J	オートエアコン ※ ¹	P.469
	操作方法	P.469
	リヤウインドウの曇り取り (リヤウインドウデフォグガー)	P.472
K	オーディオ ※ ²	
	音楽を聴く ※ ²	

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※¹レスポンスビヒドゥンスイッチの設定によって、スイッチの点灯状態が異なります。

※²別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

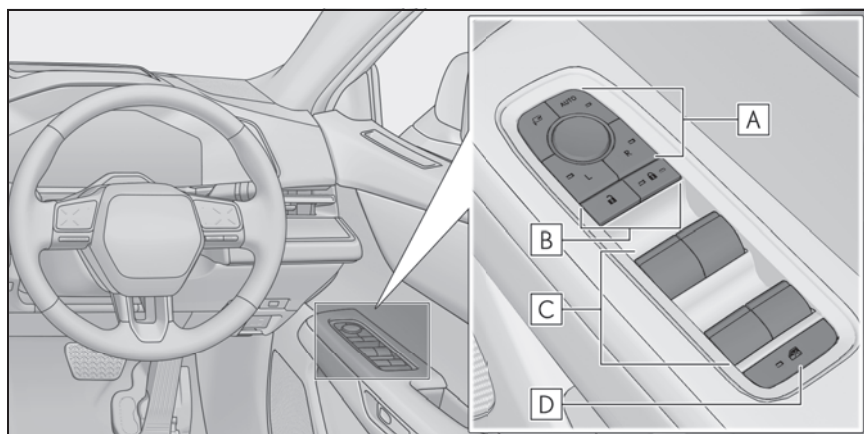
■ スイッチ類



A 運転席側ポジションメモリースイッチ ※ P.242

B トランクオープナースイッチ P.206

※ レスポンシブヒドゥンスイッチの設定によって、スイッチの点灯状態が異なります。

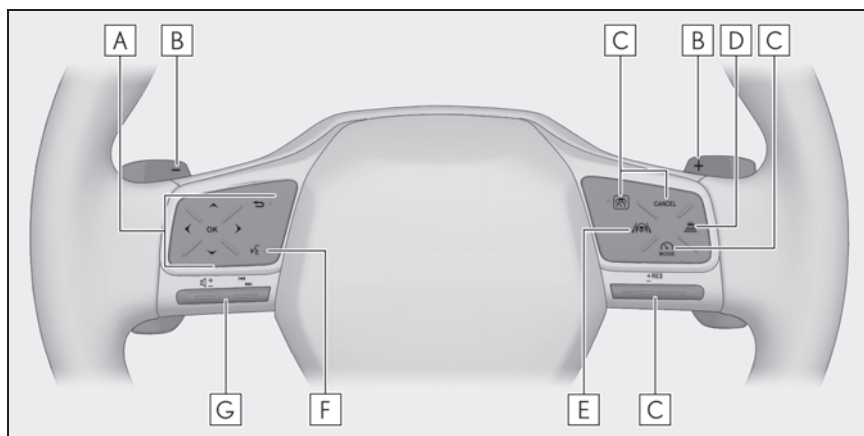


A ドアミラースイッチ P.232

B ドアロックスイッチ P.200

C パワーウインドウスイッチ P.235

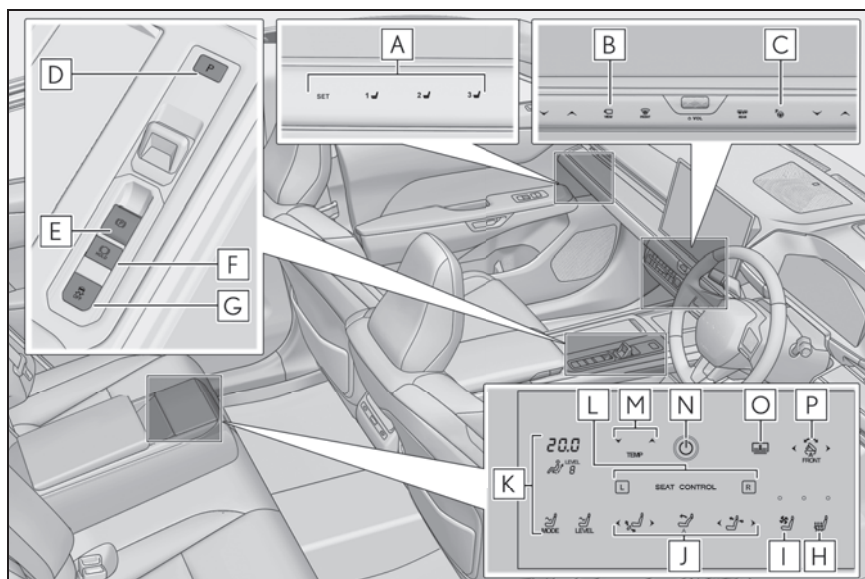
D ウインドウロックスイッチ P.237



- A** メーター操作スイッチ ※¹ P.177
- B** パドルシフトスイッチ P.267
- C** クルーズコントロールスイッチ ※¹
 - レーダークルーズコントロール P.343
 - クルーズコントロール P.354
- D** 車間距離切りかえスイッチ ※¹ P.346
- E** LTA（レーントレーシングアシスト）スイッチ ※¹ P.318
- F** トークスイッチ ※^{1,2}
- G** オーディオ操作スイッチ ※^{1,2}

※¹レスポンスビッドダウンスイッチの設定によって、スイッチの点灯状態が異なります。

※²別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。



- A** 助手席側ポジションメモリスイッチ★※1 P.242
- B** カメラスイッチ ※1,2
- C** Advanced Park（駐車支援システム）メインスイッチ ※1 P.422
- D** Pポジションスイッチ.....P.263
- E** パーキングブレーキスイッチ.....P.271
 - かける・解除する P.271
 - 冬季の注意 P.464
 - 警告ブザー・警告メッセージ.....P.570
- F** ブレーキホールドスイッチ.....P.275
- G** VSC OFF スイッチ.....P.452
- H** リヤシートヒータースイッチ★ P.479
- I** リヤシートシートベンチレータースイッチ★ P.480
- J** リヤシート調整スイッチ★ P.220
- K** リヤシートリフレッシュシステム操作スイッチ★ P.221
- L** リヤシート選択スイッチ★ P.220

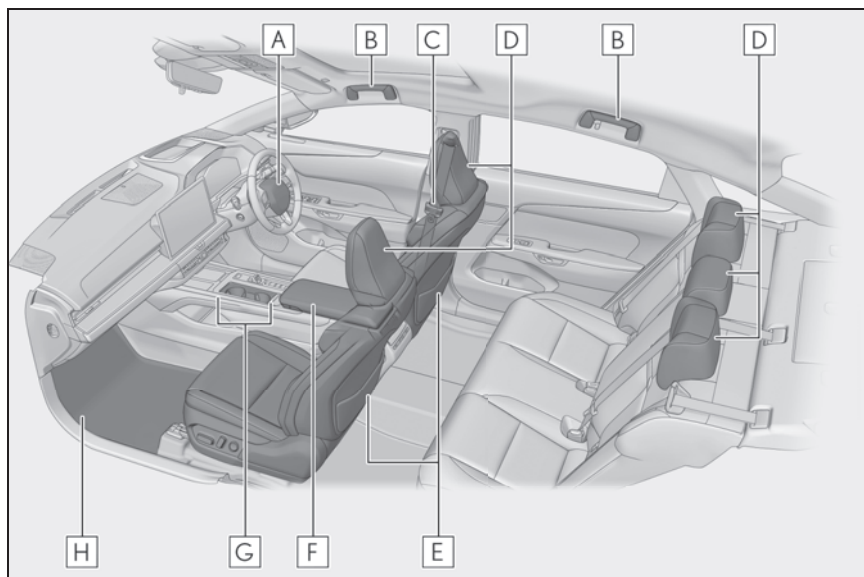
M	リヤ席温度調整スイッチ★	P.476
N	リヤコントロールパネル電源スイッチ★	P.220
O	リヤサンシェードスイッチ★	P.502
P	助手席操作スイッチ★	P.218

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※¹レスポンスビドゥンスイッチの設定によって、スイッチの点灯状態が異なります。

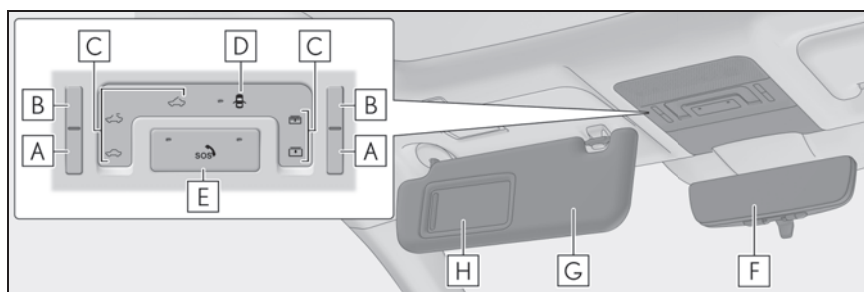
※²別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ 室内



- A** SRS エアバッグ P.33
- B** アシストグリップ P.501
- C** シートベルト P.29
- D** ヘッドレスト P.222
- E** フロントシート P.217
- F** コンソールボックス P.488
- G** カップホルダー P.488
- H** フロアマット P.26

■ 天井



A	インテリアランプ	P.484
B	パーソナルランプ	P.485
C	パノラマムーンルーフスイッチ	P.238
D	インテリアランプ&パーソナルランプドア連動スイッチ	P.484
E	ヘルプネットスイッチパネル ※ ¹	
F	デジタルインナーミラー	P.225
G	サンバイザー ※ ²	P.492
H	バニティミラー	P.492

※¹別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

※²やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。(→P.44)



安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に	26
安全なドライブのために	27
シートベルト	29
SRS エアバッグ	33
ポップアップフード	39

1-2. お子さまの安全

お子さまを乗せるときは	41
チャイルドシート	42

1-3. 盗難防止装置

イモビライザーシステム	56
オートアラーム	57

運転する前に

お車を安全に運転していただくために、運転する前は必ず次のことを確認してください。

点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

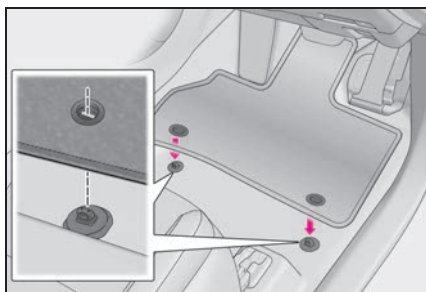
日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

異常が見つかった場合は、レクサス販売店で必ず点検整備を受けてください。

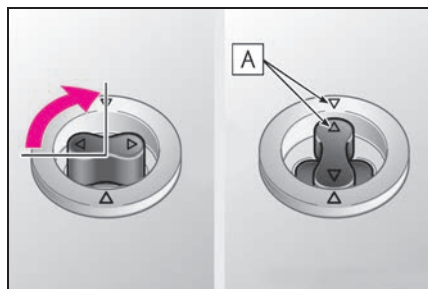
フロアマットを固定するには

専用のフロアマットを、フロアカーパーットの上にしっかりと固定してお使いください。

- 1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



- 2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する



△ マーク **A** を必ず合わせてください。

固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

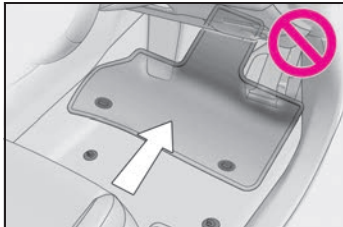
■ 運転席にフロアマットを敷くとき

- レクサス純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

⚠ 警告

■ 運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的を確認し、特に洗車後は必ず確認を行う

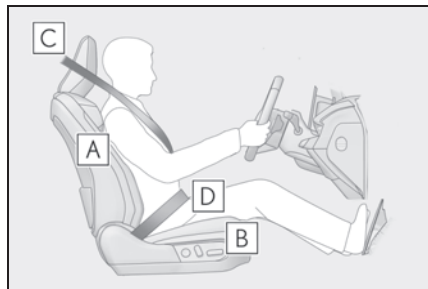


- EV システム停止およびシフトポジションがPの状態、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢をとるには



- A** まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→P.217）
- B** ペダルがしっかりと踏み込み、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→P.217）
- C** ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→P.222）
- D** シートベルトを正しく着用する（→P.29）

⚠ 警告

■ 安全な運転のために

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 警告

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にもものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。
お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。
周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルトを正しく着用するには

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。
(→P.29)

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。(→P.42)

ミラーを調整するには

後方が確実に確認できるように、デジタルインナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。
(→P.225, 232)

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

⚠ 警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■ 妊娠中の女性の場合



医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P.30)

通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■ お子さまを乗せるとき

→P.41

■ シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

警告

- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにレクサス販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、レクサス販売店以外でしないでください。不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

正しく着用するには



- 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれないようにする

知識

■ お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

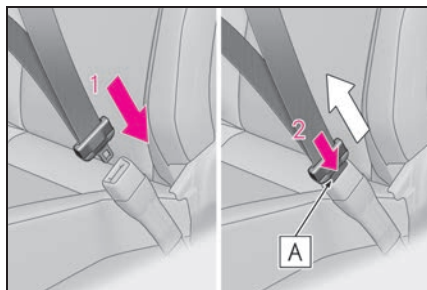
- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P.42)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→P.30)

■ リヤ席シートベルトについて

シートベルトがガイドからはずれた場合には、ガイドに通してから使用してください。



着け方・はずし方



- 1 ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートを保クルに挿し込む

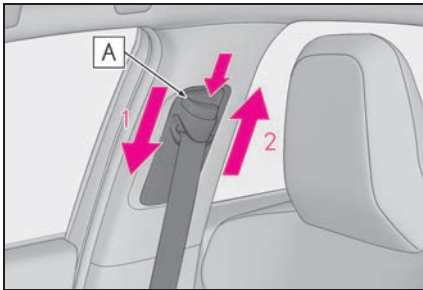
2 ベルトを解除するには、解除ボタン[A]を押す

知識

■シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

シートベルトの高さ調節（フロント席）



- 1 解除ボタン[A]を押しながら、アジャスターを下げる
 - 2 解除ボタン[A]を押しながら、アジャスターを上げる
- “カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。

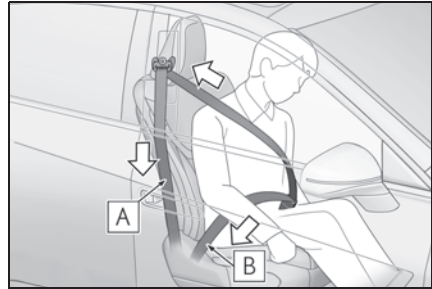
シートベルトプリテンショナー（フロント席・リヤ外側席）

前方・側方から強い衝撃を受けたとき、フロント席・リヤ外側席のシートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作

動しません。

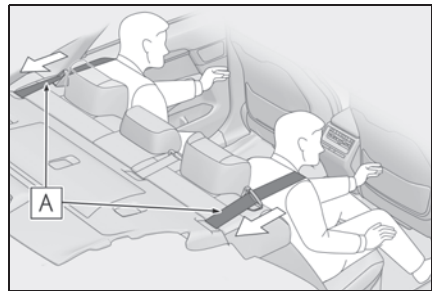
▶ フロント席



[A] 肩ベルトプリテンショナー

[B] 腰ベルトプリテンショナー

▶ リヤ外側席



[A] 肩ベルトプリテンショナー

知識

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

■予防連携機能について

プリクラッシュセーフティによって車両との衝突の可能性が高いと判断されたとき、シートベルトプリテンショナーの作動準備を整えます。

 警告**■ プリテンショナー付きシートベルトについて**

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 助手席座面にはクッションなどを置かないでください。

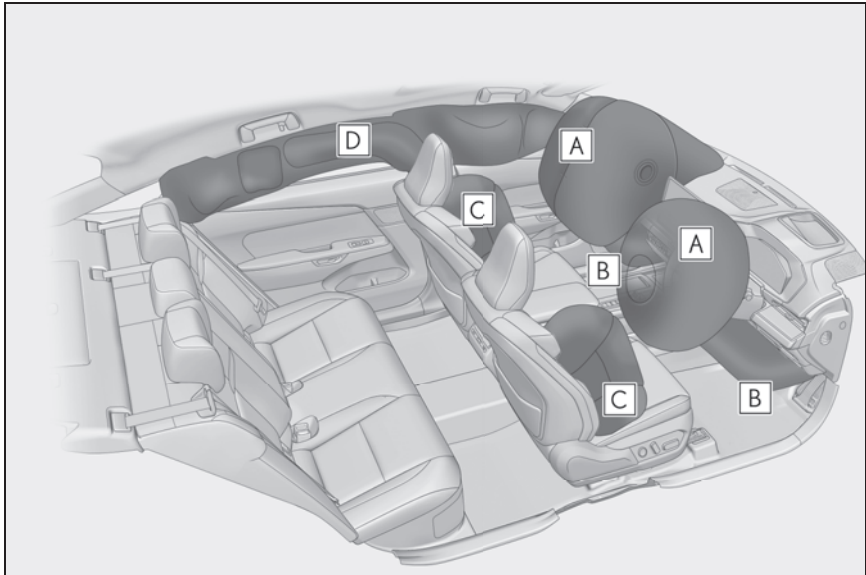
乗員の重量が分散されるためセンサーが乗員を検知せず、衝突時に助手席のシートベルトプリテンショナーが作動しないことがあります。

- シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずレクサス販売店で交換してください。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

SRS エアバッグシステム



A フロント SRS エアバッグ（運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ）

運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和

B SRS ニーエアバッグ

運転者と助手席乗員の衝撃緩和を補助

C SRS サイドエアバッグ

・フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和

D SRS カーテンシールドエアバッグ

フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和



知識

■ SRS エアバッグが作動すると

● SRS エアバッグは高温のガスにより非

常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。

● 作動音と共に白いガスが発生します。

- エアバッグ周辺の部品の一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

- フロントウインドウガラスが破損することがあります。

- EV システムを停止します。（→P.70）

- すべてのドアが解錠されます。（→P.198）

- 自動的にブレーキと制動灯を制御します。（→P.451）

- 室内灯が自動で点灯します。（→P.484）

- 非常点滅灯が自動で点滅します。（→P.553）

■緊急通報について

- G-Link の契約期間内は、次の場合、自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。

- ・ SRS エアバッグが作動した
- ・ シートベルトプリテンショナーが作動した
- ・ 車両に一定以上の衝撃を受けた

オペレーターからの呼びかけに応答がなくても、緊急車両などを手配することがあります。詳しくは「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■正面からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき

- 次のエアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

- ・ フロント SRS エアバッグ
- ・ SRS ニーエアバッグ

- 次の場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。

- ・ 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
- ・ もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

- 衝突条件によっては次の部品のみが作動する場合があります。

- ・ シートベルトプリテンショナー

- 前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

■側面からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき

- 次の SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が、約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

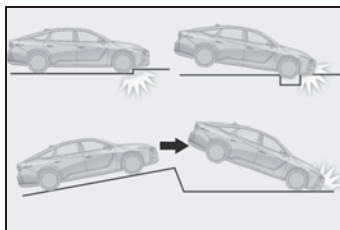
- ・ SRS サイドエアバッグ
- ・ SRS カーテンシールドエアバッグ

- 車両側面のどちらかに衝突があった場合でも、左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動します。

■車両下部からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき

- 次の SRS エアバッグは、車両下部が固いものにぶつかったときなどの状況で作動する場合があります。

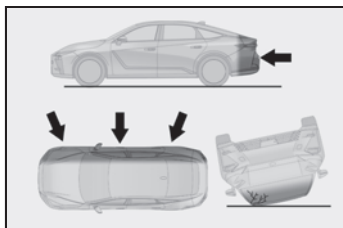
- ・ フロント SRS エアバッグ
- ・ SRS ニーエアバッグ
- ・ SRS サイドエアバッグ
- ・ SRS カーテンシールドエアバッグ



■ SRS エアバッグが作動しないとき

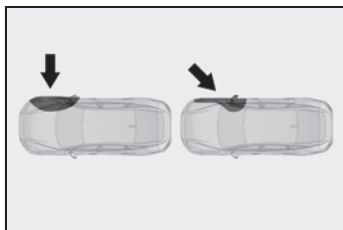
- 次の SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、作動することがあります。

- ・ フロント SRS エアバッグ
- ・ SRS ニーエアバッグ



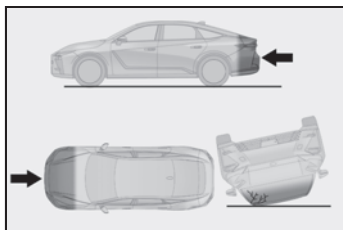
- 次の SRS エアバッグは、斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときに作動しない場合があります。

- ・ SRS サイドエアバッグ
- ・ SRS カーテンシールドエアバッグ



- 次のエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

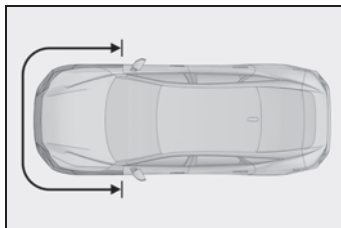
- ・ SRS サイドエアバッグ



■ レクサス販売店に連絡が必要な場合

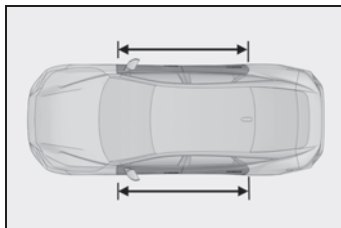
次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くレクサス販売店へご連絡ください。

- いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき
- 次のエアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき
- ・ フロント SRS エアバッグ
- ・ SRS ニーエアバッグ



- 次のエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形・穴あきなどがあるとき

- ・ SRS サイドエアバッグ
- ・ SRS カーテンシールドエアバッグ



- ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近・インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

- SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

- SRS カーテンシールドエアバッグが内

蔵されているフロントピラー・リヤピラー一部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

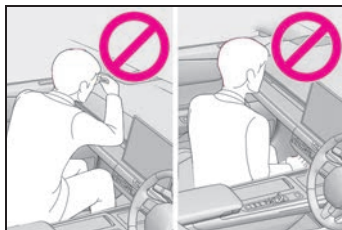
警告

■ SRS エアバッグについて

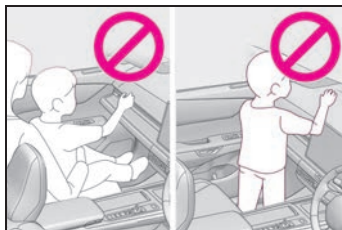
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。お子さまはリヤ席に寄せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→P.42)

- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない



- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない
- ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない

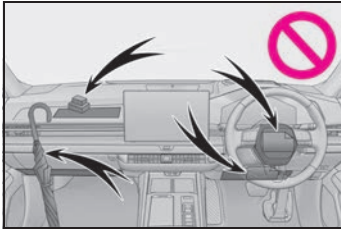


警告

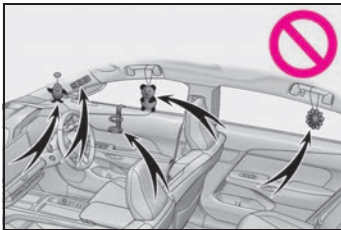
- ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない



- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない



- ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー、ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない
(速度制限ラベルを除く：→P.585)



- コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。
- エアバッグがふくらむ場所を覆うようなアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺およびフロントドアの周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 助手席のシートを調整し、ヘッドレストが天井やサンバイザーなどにふれないようにしてください。ヘッドレストが天井やサンバイザーなどに接したままの場合、システムが助手席の乗員を正しく検出できず、エアバッグが適切に作動しないことがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。

 警告

● SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。

● SRS エアバッグが収納されている部分に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずレクサス販売店で交換してください。

■ 改造・廃棄について

レクサス販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。

SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理

● 次の部品周辺の修理・取りはずし・改造

- ・ ハンドル
- ・ インストルメントパネル
- ・ ダッシュボード
- ・ シート
- ・ シート表皮
- ・ フロントピラー
- ・ センターピラー
- ・ リヤピラー
- ・ ルーフサイドレール
- ・ フロントドアパネル
- ・ フロントドアトリム
- ・ フロントドアスピーカー

● フロントドアパネルの穴あけなどの改造

● 次の部品やその周辺の修理・改造

- ・ フロントフェンダー
- ・ フロントバンパー
- ・ 車内側面部

● 次の部品、または装置の取り付け

- ・ グリルガード
- ・ 除雪装置
- ・ ウインチ

● サスペンションの改造

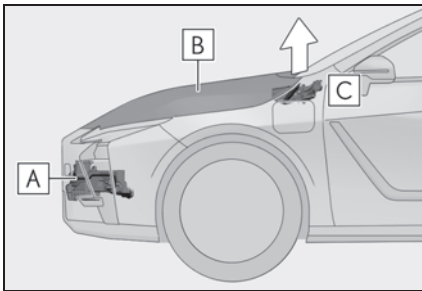
● CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

ポップアップフード

ポップアップフードは前方向からの衝突時にボンネットを持ち上げ、モータールーム内の空間を確保し、歩行者の頭部への衝撃を緩和させます。

作動速度範囲での走行時に、歩行者やその他の物体と前方向から衝突したとき、フロントバンパー裏にあるセンサーが衝突を感知し作動します。

システムの構成部品



- A** センサー
- B** ボンネット
- C** リフター



知識

■ポップアップフードについて

- 廃車するときは、必ずレクサス販売店にご相談ください。
- ポップアップフードは、一度作動すると再使用できません。レクサス販売店で交換してください。

■予防連携機能について

プリクラッシュセーフティによって歩行者・自転車運転者との衝突の可能性が高

いと判断されたとき、ポップアップフードの作動準備を整えます。

■ポップアップフードが作動するとき

次のような衝撃を受けたときに作動します。

- 作動速度範囲（約 25 ～ 55km/h）での走行時、フロントバンパーに歩行者と同等、もしくはそれ以上の衝撃を正面から受けたとき（衝突したときにフロントバンパーに痕跡が残らないような場合でも、一定以上の衝撃が加われば作動します。また、軽いもの・小さな動物や他の小さな物体でも衝突の状況、速度によっては作動することがあります）
- その他に、次のような車両下部やフロントバンパーに衝撃を受けたときも作動することがあります。
 - ・縁石に衝突したとき
 - ・深い溝や穴に落ち込んだとき
 - ・ジャンプして地面にぶつかったとき
 - ・駐車場のスロープ・うねりのある道路・突起物や落下物などにぶつかったとき

■ポップアップフードが作動しにくいとき

- 走行中、フロントバンパーの左右の角や側面に歩行者がぶつかったときは、衝撃を検知しにくい場合、作動しないことがあります。また、歩行者の衝撃によっては作動しにくい場合があります。
- 車両が横すべりするなどして、車速が正しく検知できないときは正常に作動しないことがあります。

■ポップアップフードが作動しないとき

次のようなときは作動しません。

- 横たわっている人に衝突したとき
- 作動速度範囲外での走行時にフロントバンパーが衝撃を受けたとき
- 横方向や後部から衝撃を受けたとき

- 横転、転覆したとき（事故の状況、形態によっては、ポップアップフードが作動することがあります）

警告

■ポップアップフードが作動したとき

- ボンネット解除レバーを引かないでください。ポップアップフードが作動したあとにボンネット解除レバーを引くと、さらにボンネットが上がり、思わぬけがをするおそれがあり危険です。また、ボンネットが上がったまま走行すると視界がさまたげられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ボンネットを無理に押しもどさないでください。作動したボンネットは手動では下げることができないため、ボンネットが変形したり、思わぬ傷害につながるおそれがあり危険です。
- ポップアップフードが作動したあとはレクサス販売店で交換してください。なお、車両の移動は安全な場所までにとどめ、販売店に連絡してください。
- ポップアップフードが作動した直後は、リフターにふれないでください。作動直後はリフターが熱くなっているため、やけどをするおそれがあります。

注意

■ポップアップフードについて

- ボンネットが完全に閉まっていないと、正常に作動しないおそれがあります。走行前にボンネットが閉まっていることを必ず確認してください。

- 4輪とも指定されたサイズのタイヤを指定空気圧で使用してください。異なるサイズのタイヤを使用すると、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- フロントバンパー周辺に何かがぶつかったときは、ポップアップフードが作動していても、センサーが損傷しているおそれがあります。必ずレクサス販売店で点検を受けてください。
- ポップアップフードの部品や配線などを取りはずしたり修理しないでください。誤って作動したり、正常に作動しなくなるおそれがあります。修理や交換作業が必要なときは、レクサス販売店にご相談ください。
- フロントバンパー・ボンネット・サスペンションなどを純正品以外のものに交換しないでください。また、取りはずしたりしないでください。システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- フロントバンパーやボンネットにものを取り付けしないでください。衝撃を正しく検知できず、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- ボンネットを強く閉めたり、リフターに荷重を加えないでください。リフターが損傷し、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- サスペンションを改造しないでください。車高が変わると、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のこと
をお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。(→P.42)
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウィンドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター(→P.202)・ウィンドウロックスイッチ(→P.237)をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウィンドウ・ボンネット・トランクやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

■ お子さまを乗せるときは

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシート」を参照してください。(→P.42)

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。

- レクサスでは、より安全にお使いいただくために、レクサス純正チャイルドシートの使用を推奨しています。

レクサス純正チャイルドシートは、レクサス車のために作られたチャイルドシートです。レクサス販売店で購入することができます。

目次

知っておいていただきたいこと：
P.42

チャイルドシートを使用するとき
は：P.43

シート位置別チャイルドシートの適合性について：P.46

チャイルドシートの取り付け方法：
P.50

・ シートベルトで固定する：P.51

- ・ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する：P.53
- ・ トップテザーアンカレッジを使用する：P.54

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。

警告

■ お子さまを乗せるときは

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。

警告

- レクサスでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウィンドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。
- **チャイルドシートについて**
次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いいため、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください（→P.46）。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けられた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。

- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、トランク内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートを使用するときは

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

- シートをいちばんうしろに下げる
- 背もたれを可能な限り起こす
前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。
- クッション前端をいちばん上に上げる
- シートの高さをいちばん高い位置まで上げる
- ランバーサポート（腰部前後調整）をいちばんうしろに下げる
- ランバーサポート（腰部上下調整）★をいちばん下に下げる
- ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上ま

で上げてください。



★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

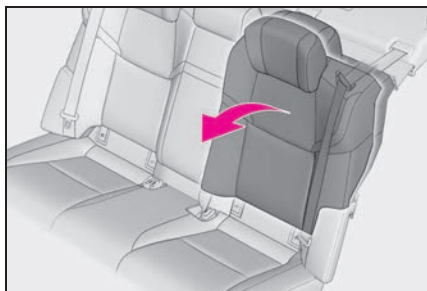
■ リヤシート（リクライニング調整 可能タイプ）★にチャイルドシート を取り付けるとき

リヤシートにチャイルドシートを取り
付ける場合には、リヤシートを次
のように調整し、チャイルドシート
を取り付けてください。

● 背もたれを可能な限り起こす

前向きにチャイルドシートを取り付ける
ときに、背もたれとチャイルドシート
の間にすき間がある場合は、背もたれと
チャイルドシートのすき間が少なくなる
ように背もたれを調整してください。

● ヘッドレストとチャイルドシート
が干渉してチャイルドシートが正
しく取り付けられない場合は、
ヘッドレストを取りはずしてくだ
さい。取りはずしができない場合
は、ヘッドレストをいちばん上ま
で上げてください。



★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

⚠ 警告

■ チャイルドシートを使用するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害に
およぶか、最悪の場合死亡につながる
おそれがあります。

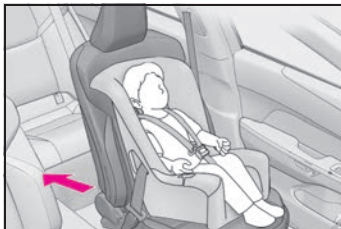
- やむを得ず 助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

警告



警告

- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。
助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



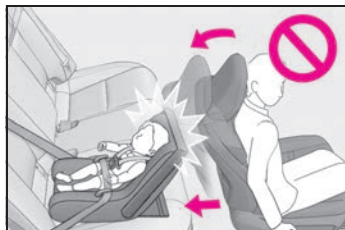
- チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。

警告

- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。



- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

シート位置別チャイルドシートの適合性について

■ シート位置別チャイルドシートの適合性一覧表について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→P.47）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。

推奨チャイルドシートについては、「推奨チャイルドシートと適合性一覧表」を確認してください。（→P.49）次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

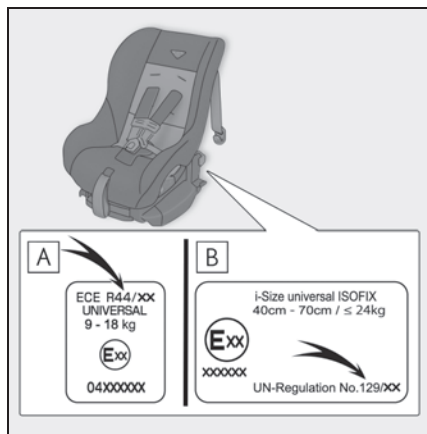
- 1 チャイルドシートの規格を確認する

UN（ECE）R44※¹ または、UN

（ECE）R129※¹ に適合したチャイルドシートを使用してください。

適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。

チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。



法規番号の表示例

- A UN（ECE）R44 認可マーク ※²
対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

- B UN（ECE）R129 認可マーク
※²

対象となるお子さまの身長範囲および使用可能な体重が記載されています。

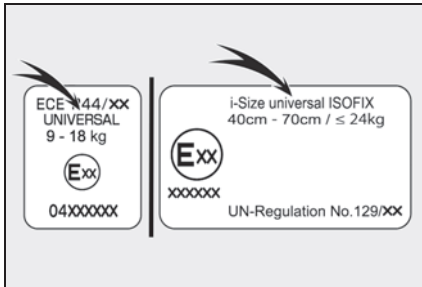
- 2 チャイルドシートのカテゴリーを確認する

チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。

また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取扱説明書を確認

頂くか、または販売業者へ確認してください。

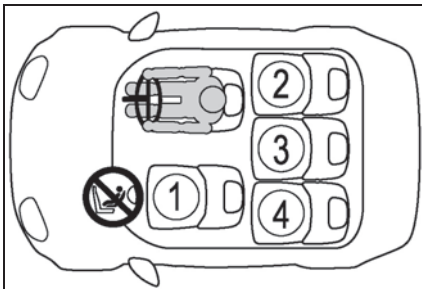
- ・ユニバーサル「universal（汎用）」
- ・セミユニバーサル
「semi-universal（準汎用）」
- ・リストラクティッド「restricted（限定）」
- ・ビークルスペシフィック
「vehiclespecific（特定車両）」



※¹UN (ECE) R44、UN (ECE) R129 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

※²表示されているマークは、商品により異なります。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性



① ※1, 2, 3	UF ※4
② ※2, 3	U L  
③ ※2, 3	U
④ ※2, 3	U L  

U

車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

UF

車両のシートベルトで固定するタイプの前向きに取付けるユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

L

推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→P.49）に記載されたチャイルドシートに適しています。



i-Size チャイルドシートおよび ISOFIX チャイルドシートに適しています。



トップテザーアンカレッジが装備されています。



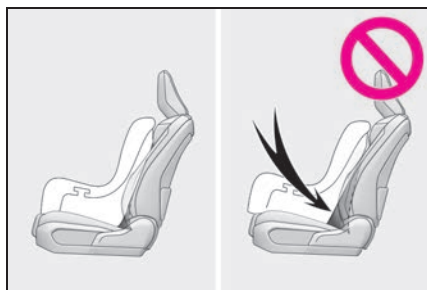
やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。

※¹シートをいちばんうしろに下げた状態

で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※2 背もたれを可能な限り起こしてください。

前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



※3 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。
取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

※4 チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置				
シート位置の番号	①	②	③	④
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有 / 無）	有 前向きのみ	有	有	有
アイサイズ着座位置（有 / 無）	無	有	無	有
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1/L2）	×	×	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1/R2X/R2/R3）	×	R1, R2X, R2, R3	×	R1, R2X, R2, R3
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X/F2/F3）	×	F2X, F2, F3	×	F2X, F2, F3
搭載可能なジュニアシートの治具（B2/B3）	×	B2, B3	×	B2, B3

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。

チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

■ 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

推奨チャイルドシート	適応範囲	搭載する向き	着座位置			
			①	②	③	④
レクサス純正 NEO G-Child i-Size	身長：～ 83cm (体重：～ 13 kg)	後向き	×	○	×	○
	月齢 15 か月以上かつ、身長：76 ～ 100 cm (体重：～ 18 kg)	前向き	×	○	×	○
レクサス純正 NEO G-Child Junior	身長：100 ～ 150 cm (体重 15 ～ 36 kg)	前向きのみ	×	○	×	○

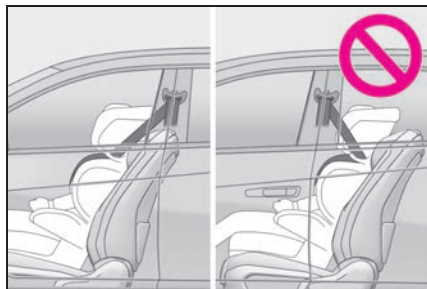
チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認し

てください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルド

シートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。
- サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してください。
- シートベルトのショルダースト랩

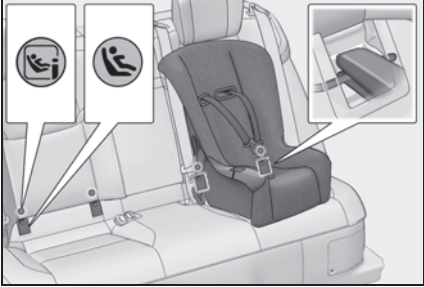
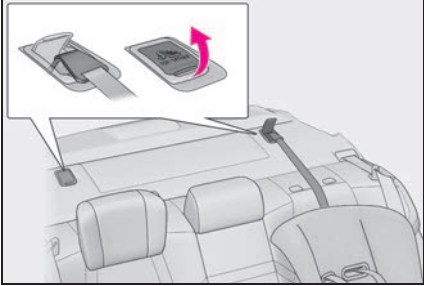
カーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。



- ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダースト랩がチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。

固定方法		ページ
シートベルトで固定する		P.51
ISOFIX ロアアンカレッジで固定する		P.53
テザーベルトを固定する		P.54

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にある）場合は、チャイルドシートメーカーが

提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→P.46, 47）

1 助手席：

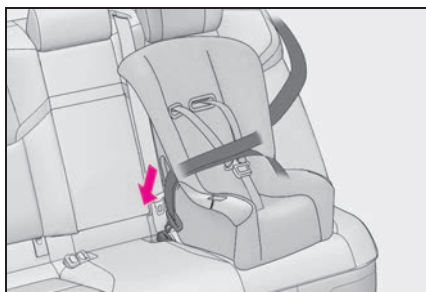
やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整してください。（→P.43）

リヤシート（リクライニング調整可能タイプ）★：

背もたれとチャイルドシートの間
にすき間がある場合は、背もたれ
とチャイルドシートのすき間が少
なくなるように背もたれを調整し
てください。(→P.44)

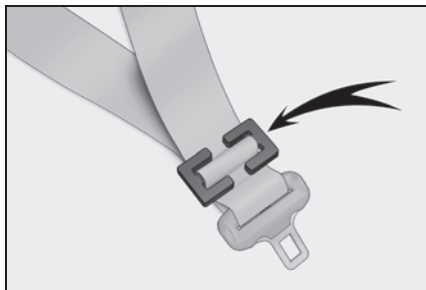
- 2 チャイルドシートにシートベルト
を取り付け、プレートをバックル
に“カチッ”と音がするまで挿
し込む。ベルトがねじれていない
ようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に
従い、シートベルトをチャイルドシート
にしっかりと固定させてください。



- 3 チャイルドシートにシートベルト
の固定装置が備わっていない場合
は、ロッキングクリップ（別売）
を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、
レクサス販売店にご相談ください。（ロッ
キングクリップ品番：73119-22010）



- 4 取り付け後はチャイルドシートを
前後左右にゆすり、しっかりと固

定されていることを確認してくだ
さい。(→P.52)

★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

■ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シー
トベルトをチャイルドシートから取
りはずす

バックル解除時に、シートクッションの
反発により、チャイルドシートが跳ね上
がる場合があります。

チャイルドシートを抑えながらバックル
の解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られます
ので、ゆっくりもとしてください。

⚠ 警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害に
およぶか、最悪の場合死亡につながる
おそれがあります。

- お子さまをシートベルトで遊ばせな
いください。万一ベルトが首に巻
き付いた場合、窒息など重大な傷害
におよぶか、最悪の場合死亡につな
がるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしま
い、バックルもはずせない場合は、
ハサミなどでシートベルトを切断し
てください。
- シートベルトのプレートとバックル
がしっかりと固定されて、ベルトがね
じれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆ
すって、しっかりと固定されているか
確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、
シートを調整しないでください。

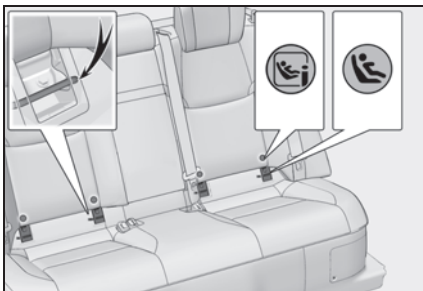
警告

- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

■ ISOFIX ロアアンカレッジについて

この車はリヤ外側席に ISOFIX ロアアンカレッジが装備されています。(ロアアンカレッジが装備されていることを示すマークがシートに付いています)



■ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

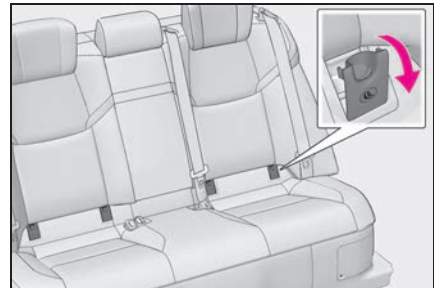
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリでない（または必要な情報が表の中にある）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参

照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。(→P.46, 47)

1 リヤシート（リクライニング調整可能タイプ）★：背もたれを可能な限り起こす

前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

2 カバーを取りはずす

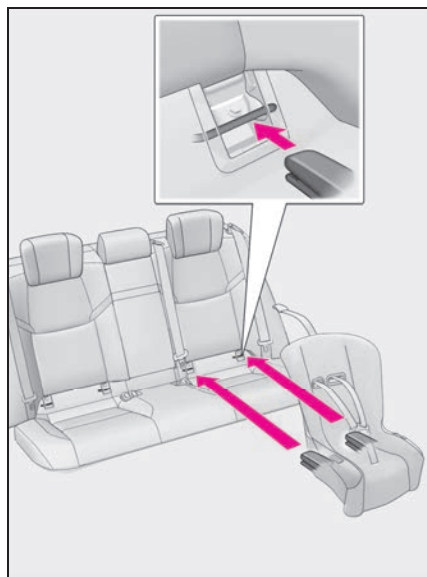


3 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートのコネクタ（取り付け金具）をロアアンカレッジに取り付けます。

取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってくだ

さい。



- 4 取り付けしたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する (→P.52)

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

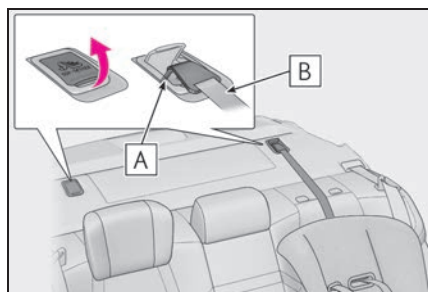
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ISOFIX ロアアンカレッジを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

トップテザーアンカレッジを使用する

■ トップテザーアンカレッジについて

この車はリヤ外側席にトップテザーアンカレッジが装備されています。

テザーベルトを固定するときに使います。



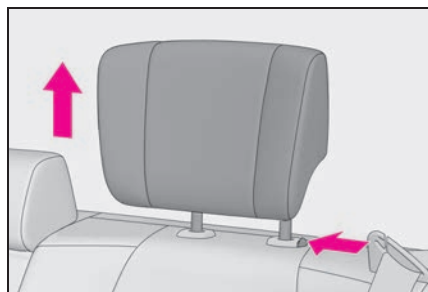
A トップテザーアンカレッジ

B テザーベルト

■ テザーベルトをトップテザーアンカレッジに固定する

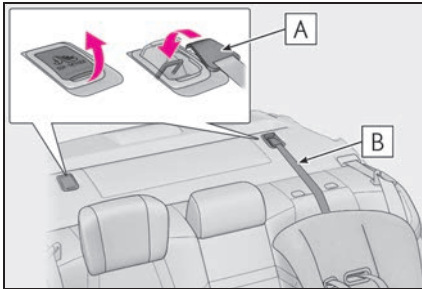
チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

1 ヘッドレストを取りはずす



2 フタを開けてトップテザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。(→P.52)



A フック

B テザーベルト

⚠ 警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- テザーベルトはトップテザーアンカレッジ以外に掛けないでください
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

⚠ 注意

■ トップテザーアンカレッジについて

使用しないときはフタを確実に閉めてください。開けたままにしておくとフタが破損するおそれがあります。

イモビライザーシステム

あらかじめ登録されたキー以外では EV システムを始動できません。

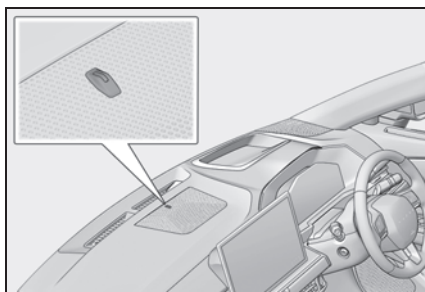
車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

システムを作動させるには

パワースイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、パワースイッチを ACC または ON にするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。



知識

■ メンテナンスについて

イモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ システムが正常に作動しないとき

- 電子キー、デジタルキー★、NFC キーカード★が金属製のものに接したり、覆

われているとき

- 電子キー、デジタルキー★、NFC キーカード★が他の車両に登録されたキーと重なっているときや接近しているとき
- ★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

■ イモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

- 施錠されたドアまたはトランクが、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使わずに解錠されたり、開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき
- 侵入センサーが車内で動く物体を検知したとき（侵入者がガラスを割るなどして車内に乗り込んだとき）
- 傾斜センサーが車内の傾きを検知したとき

※ G-Link サービスをご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合メールやスマートフォンアプリへお知らせすることができます。G-Link サービスの詳細は、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

オートアラームを設定／解除／停止する

■ ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

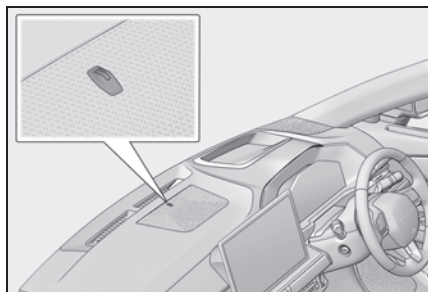
- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスとパノラマムーンルーフが閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

いか

■ オートアラームを設定するには

ドア・トランク・ボンネットを開め、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使って施錠します。30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームがセットされるとインジケータは点灯から点滅にかわります。



■ オートアラームを解除／停止するには

次のいずれかを行ってください。

- スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使ってドアまたはトランクを解錠する
- EV システムを始動する（数秒後に解除・停止します）

□ 知識

■ オートアラームの設定について

トランク、ボンネットを開けていても、すべてのドアが閉じていれば、オートアラームは設定できます。

■ メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ G-Link（ご契約のお客様のみ）

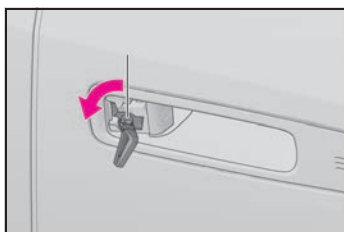
- うっかり通知機能によって、施錠のし忘れや非常点滅灯の消し忘れ、ドアガラスの閉め忘れ、パノラマムーンルーフの閉め忘れを、メールやスマートフォンアプリへお知らせすることができます。うっかり通知機能は車内の電子キー検知を使用しているため、スマートエントリー&スタートシステムが正しく作動しない場合は、うっかり通知機能が正しく動かないことがあります。
- リモート確認機能によって、ドアの開閉や施錠の状態、非常点滅灯の点滅状態、電子キーの車内への置き忘れなどをスマートフォンアプリで確認できます。

G-Link サービスの詳細は、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームを解除・作動を停止する操作を行ってください。

- メカニカルキーを使ってドアを解錠したとき



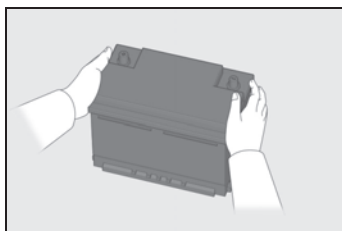
- 車内に残った人が、ドア・トランク・ボンネットを開けたり、解錠したとき



- 車内に残った人が、EV システムを始動したとき

アラーム作動から数秒後に停止します

- 施錠後、補機バッテリーあがりなどで、補機バッテリーの充電や交換をしたとき（→P.599）



■ オートアラーム作動によるドアロック機能

次のような場合、車内への不正な侵入を防止するため自動的にドアが施錠されることがあります。

- 車内に残った人がドアを解錠し、オートアラームが作動したとき
- オートアラーム作動中に車内に残った人がドアを解錠したとき
- 補機バッテリーあがりなどで充電・交換したとき

■ カスタマイズ機能

機能の一部は設定を変更することができます。（→P.630）



注意

■ オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

侵入・傾斜センサー

■ 侵入・傾斜センサーの検知について

- 侵入センサーは、車内に不正に入り込んだ侵入者の動きを超音波で検知するセンサーです。侵入者の動きで検知するため、ドアを開けずガラスを割って入り込んだ侵入者なども検知できます。
- 傾斜センサーは、車両の傾きの変化を検知するセンサーです。けん引などで車が盗難される場合などを検知します。

このシステムは、車両盗難を防止または抑止する機能であり、すべての侵入に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

■ 侵入・傾斜センサーを設定する

オートアラームを設定すると、自動でセットされます。(→P.57)

■ 侵入・傾斜センサーを停止する

車内で動くものに反応するため、ペットや動くものを車内に残すときは、必ず侵入・傾斜センサーを停止してからオートアラームを設定してください。

- 1 クイックコントロール画面を表示する
- 2 “セキュリティセンサー” にタッチする

侵入・傾斜センサーが停止します。

もう一度タッチすると、侵入・傾斜センサーは再びセットされます。

メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

クイックコントロール画面の詳細は、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

知識

■ 侵入・傾斜センサーの作動・停止について

- 侵入・傾斜センサーの作動を停止しても、オートアラームは作動します。
- 侵入・傾斜センサーを停止したあとにパワースイッチを押すか、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンによる解錠操作を行うと、侵入・傾斜センサーは復帰します。
- オートアラームの設定を解除するたびに侵入・傾斜センサーは復帰します。

■ 侵入センサーについての留意事項

次のような場合、侵入センサーの検知によりオートアラームが作動することがあります。状況に応じ、侵入センサーを停止してからアラームを設定してください。

- 車内に乗員やペットなどを残して車両から離れる場合

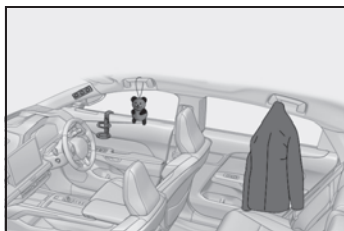


- ドアガラスやパノラマムーンルーフなどが開いている場合、次のものを検知することがあります。

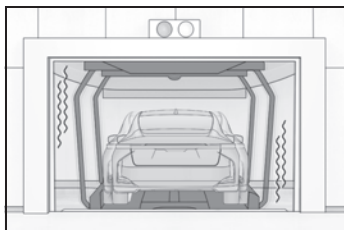
- ・ 室内に入った落ち葉・虫・風など
- ・ 他車の侵入センサーなどが発する超音波
- ・ 室外の歩行者の動き



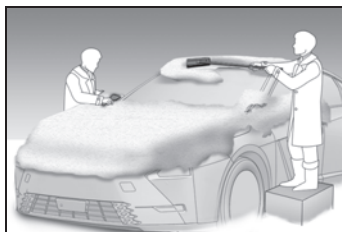
- 蛾やハエなど小さな虫が車内にいる場合
- マスコットやアクセサリーをぶら下げた状態で取り付けたり、コートフックに衣類をかけているときなど、動きやすいものが車内にある場合



- 立体駐車場のような振動や騒音の激しい場所に駐車したとき



- 雪かきやガラスに付着した氷を削り落とす際に、連続的な衝撃や振動が車両に伝わったとき



- 高圧洗車機や自動洗車機などを使うとき
- ひょうや落雷などにより、連続的な衝撃や振動が車両に伝わったとき

■ 傾斜センサーについての留意事項

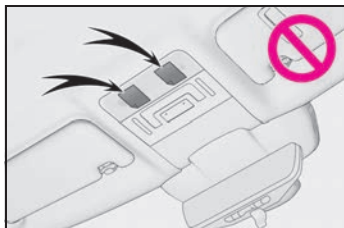
次のような場合、傾斜センサーの検知によりオートアラームが作動することがあります。状況に応じ、傾斜センサーを停止してからアラームを設定してください。

- フェリー・トレーラー・列車などで運搬するとき
- 立体駐車場に駐車したとき
- 車両移動をともなう洗車機を使用するとき
- タイヤ空気圧が少ないとき
- ジャッキアップするとき
- 地震や路面陥没が起きたとき
- ルーフキャリアにスキー板やスノーボード等を積んだり、荷降ろしするとき

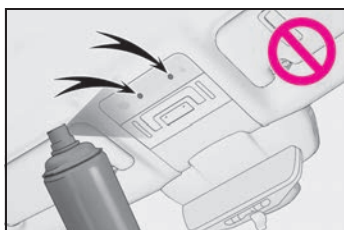
 注意

■ 侵入センサーを正しく作動させるために

- センサーの穴はふさがないようにしてください。



- センサーの穴に向かって、直接消臭スプレーなどを噴霧しないでください。



- 運転席と助手席のシートのあいだに、レクサス純正品以外のアクセサリーを装着したりものを放置したりすると、検知性能が低下することがあります。

2-1. EV システムについて

EV システムの特徴	64
EV システムの注意	67
電気自動車運転のアドバイス	71
走行可能距離について	73

2-2. 充電について

充電に関する装備について	75
普通充電ケーブルについて	78
普通充電コネクタのロック・アン ロック	85
接続可能な外部電源について	88
充電方法について	92
充電に関するアドバイス	94
充電の前に知っておいていただき たいこと	96
普通充電のしかた	99
急速充電・V2H 充電／V2H 給電の しかた	106
充電スケジュール機能を使う ..	112
バッテリープレコンディショニング を使う	120
マイルームモードを使う	122
正常に充電できないときは	125

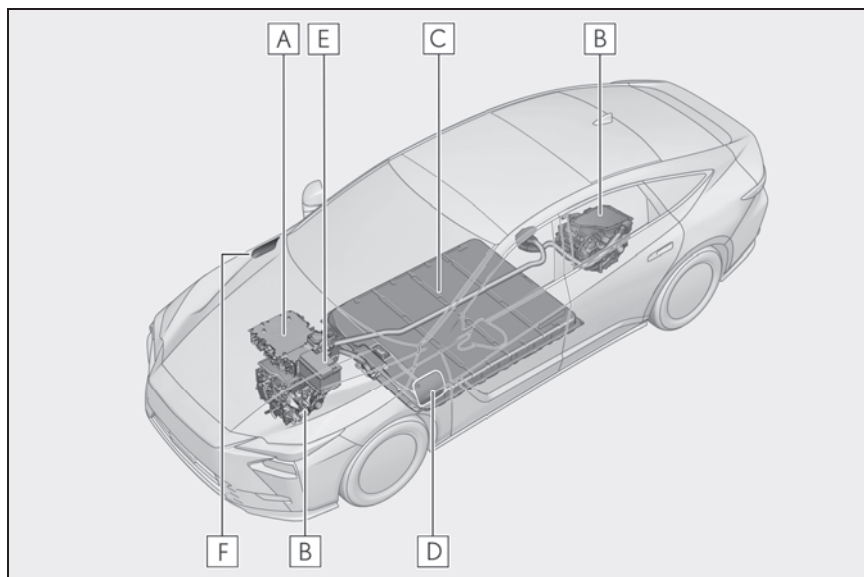
2-3. 外部給電システムについて

AC 外部給電システムについて	139
正常に AC 外部給電できないときは	152
DC 外部給電システムについて	154
DC 外部給電システムの使い方	155
DC 外部給電システムが正常に作動 しないときは	162

EV システムの特徴

電気自動車は、従来の車両とは大きく異なります。駆動用電池に充電された電気で電気モーターを駆動させることで、走行します。電気自動車は電気を使用して走行するため、CO₂（二酸化炭素）や、NO_x（窒素酸化物）などを排出せず、環境に優しい自動車です。

システムの構成部品



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

A ESU : Electricity Supply Unit（車載充電器・DC / DC コンバーター内蔵）

B eAxle（イーアクスル）（駆動用モーター／インバーター）（フロント／リヤ★）

C 駆動用電池

eAxle に電気を供給します。

D 急速充電ポート

E 補機バッテリー

SRS エアバッグ、ヘッドライト、ワイパーなどのさまざまなシステムに電力を供給します。

F 普通充電ポート

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 減速時・制動時（回生ブレーキ）

車輪が電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

この回生ブレーキ機能を活用して駆動用電池に電気を蓄えることで、走行できる距離をのばすことができます。

充電について

- 充電に関する装備について（→P.75）
- 普通充電ケーブルについて（→P.78）
- 接続可能な外部電源について（→P.88）
- 充電の前に知っておいていただきたいこと（→P.96）
- 充電方法について（→P.99, 106）
- 正常に充電できないときは（→P.125）



知識

■ 回生ブレーキについて

次の場合、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、駆動用電池へ充電すると共に減速力を得ることができます。

- シフトポジションがDで走行中に、アクセルペダルから足を離したとき
- シフトポジションがDで走行中に、ブレーキペダルを踏んだとき

■ 補機バッテリーの充電について

補機バッテリーは、EV システムが作動しているとき、または駆動用電池の充電中に、駆動用電池から充電されます。車両

を長時間使用しないと、補機バッテリーの電力が自然放電のために低下する場合があります。この場合は、正しい手順に従って、対処してください。（→P.599）

■ 車を長期間使用しないとき

- 車を長期間使用しない場合は、駆動用電池が極端に充電不足になるのを防ぐため、1ヶ月に一度は駆動用電池を充電してください。
- 車を長期間使用しない場合は、補機バッテリーあがりを低減する目的で、駆動用電池の電力で補機バッテリーを充電します。その場合、冷却ファンが作動することがありますが、異常ではありません。
- 車両に普通充電ケーブルを接続したまま長期間放置すると、システムチェックなどの制御が働くことにより、補機バッテリーの電力消費量が増加します。普通充電ケーブルを接続しておく必要がないときは、車両から取りはずしておいてください。

■ 駆動用電池の充電について

- 駆動用電池が低下すると、駆動用電池充電警告灯が点灯または点滅し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- 必要に応じて駆動用電池を充電してください。駆動用電池が電欠になると、走行ができなくなります。駆動用電池の残量が少なくなっているときは、できるだけ早く充電してください。

■ 電気自動車特有の音と振動について

電気自動車はREADY インジケーターが点灯し、走行可能な状態でも、通常の車のようにエンジン音や振動がないことがあるため、走行可能な状態であることに気が付かない場合があります。安全のため、駐車時は確実にパーキングブレーキをか

けて、シフトポジションをPにしてください。

EV システム始動後は、次のような音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

- 運転席のドアが開いたときに車両の前方から聞こえるブレーキシステムの操作音
- モータールームもしくはラゲージルームからのモーター音
- EV システム始動時および停止時に車両モータールームから聞こえるリレーの音
- 次のような場合は、“コトン”、“カチッ”などのリレー作動音が駆動用電池から聞こえます。
 - ・ EV システムが始動または停止したとき
 - ・ 充電が開始または終了するとき
 - ・ 急速充電を使用して駆動用電池を充電した後、初めて車両を運転するとき
- ブレーキペダルを踏んだときや、アクセルペダルをゆるめたときに聞こえる作動音
- ラジエーターから聞こえる冷却ファンの作動音
- エアコンシステム（エアコンコンプレッサー、送風機モーターなど）の作動音

■ メンテナンスや修理・廃車について

お車のメンテナンスや修理・廃車の際は必ずレクサス販売店にご相談ください。

特に廃車する場合は、レクサス販売店を通じて駆動用電池の回収を行っていますので、ご協力ください。

にも聞こえることがあります。車速が約 25km/h をこえると消音します。

知識

■ 車両接近通報装置について

次のような場合は、周囲の人に通報音が聞こえにくくなることがあります。

- 周囲の騒音が大きい場合
- 雨または強風の場合

■ 車速連動制御について

音量と音色は車速に連動して変化します。

■ マルチインフォメーションディスプレイに“車両接近通報装置故障 販売店で点検を受けてください”が表示されたとき

車両接近通報装置に異常があるおそれがあります。レクサス販売店に連絡してください。

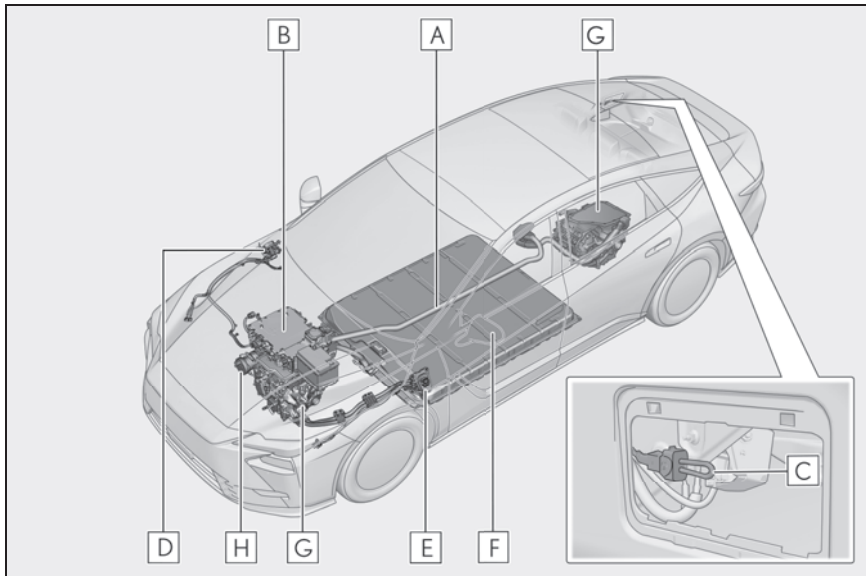
車両接近通報装置

走行時、車両の接近を周囲の人に知らせるため、車速に応じた音階で通報音を鳴らします。この音は、車内

EV システムの注意

EV システムには、駆動用電池・ESU・オレンジ色の高電圧ケーブル・電気モーターなどの高電圧部位（公称約 391.0V）や、冷却用ラジエーターなどの高温部位がありますので、ご注意ください。ご使用前に、ここで説明している内容をよくお読みいただき、正しく取り扱ってください。なお、高電圧部位には、取り扱い上の注意喚起のため  表示を含んだラベルが貼付されています。

システムの構成部品



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

- A** 高電圧ケーブル（オレンジ色）
- B** ESU：Electricity Supply Unit（車載充電器・DC / DC コンバーター内蔵）
- C** サービスプラグ
- D** 普通充電インレット
- E** 急速充電インレット
- F** 駆動用電池
- G** eAxle（イーアクスル）（駆動用モーター／インバーター）（フロント／リ

ヤ★)

[H] エアコンコンプレッサー

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■電磁波について

- 高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や電気製品とくらべて、電磁波が多いということはありません。
- アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■駆動用電池（リチウムイオン電池）について

駆動用電池には寿命があります。駆動用電池の容量（蓄電能力）は、ほかの充電式電池と同様に時間の経過や使用状況にともない低下します。低下の程度は運転のしかた、充電のしかたなど、お車の使用状況や環境（外気温等）により大きく異なります。

これらはリチウムイオン電池本来の特性であり、不具合ではありません。なお、電池の容量が低下すると走行できる距離が減少しますが、車両性能などが著しく低下するものではありません。

容量低下を抑えるためには、P.97 の “ 駆動用電池の容量低下について ” に記載されていることを心がけてください。

■極寒の環境での始動について

外気温の影響により駆動用電池の温度が著しく低くなっている場合（およそ－30℃以下）、EV システムが始動できなくなることがあります。

その場合は気温の上昇を待つなど、駆動用電池の温度が上がってから再度始動操作をしてください。

■適合宣言

この車両は、ECE100（バッテリー電気車両安全）に基づいた水素排出量に適合しています。

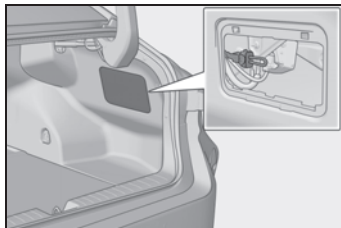
警告

■高電圧・高温について

この車は、高電圧システムを使用しています。

次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクタの取りはずし・分解などは絶対に行わないでください。
- 高電圧部位にふれないでください。特に走行後は高温になっており危険です。
- サービスプラグがトランク内右側に設置してあります。サービスプラグは絶対にさわらないでください。サービスプラグは、レクサス販売店での車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。



⚠ 警告

■ 事故が発生したとき

次のことをお守りいただかないと、感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 続発事故防止のため、安全な場所に停車して、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにして、EV システムを停止する
- 高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）などには、絶対にさわらない
- 車室内および車室外に、はみ出している電気配線には絶対にさわらない
- 液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない
駆動用電池の電解液（炭酸エステルを主とする有機電解液）が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。
- 駆動用電池の電解液がもれている場合は、車両に近付かない
万一、駆動用電池が破損しても、電池内部の構造により大量に電解液が流出することはありませんが、流出すると蒸気を発生します。蒸気は目や皮膚に刺激性があり、吸引すると急性中毒を起こすおそれがあり危険です。
- 火気や高温のものを絶対に近付けない
電解液に引火するおそれがあり危険です。
- 万一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火する
水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。

- 前輪（2WD 車）または 4 輪（AWD 車）が接地した状態でけん引しない
電気モーターから発電され、破損の状態によっては、火災のおそれがあり危険です。（→P.557）

- 車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかった場合、駆動用電池が損傷している可能性があります。できるだけ早く車両を離れてください。

この場合は、レクサス販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

軽度な事故であっても、駆動用電池や周辺部位が損傷している可能性がありますので、事故にあった場合は、レクサス販売店で駆動用電池の点検を受けてください。

■ 駆動用電池について

- この車両には、リチウムイオンバッテリーが搭載されています。
- 絶対に転売・譲渡・改造などをしないでください。廃車から取りはずされた駆動用電池は事故防止のため、レクサス販売店を通じて回収を行っていますので、ご協力ください。
適切に回収されないと、次のようなことが起こり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ・ 不法投棄または放置され、環境汚染となるばかりか、第三者が高電圧部位にふれてしまい、感電事故が発生する
- ・ 装備された車両以外で駆動用電池を使用（改造などを含む）し、感電事故、発熱・発煙・発火・爆発事故、電解液漏出事故などが発生する
特に、転売・譲渡などを行うと、相手にこれらの危険性が認識されず、事故につながるおそれがあります。

⚠ 警告

- 駆動用電池を取りはずさないままでお車を廃棄された場合、高電圧部品・ケーブル・それらのコネクタにふれると、深刻な感電の危険があります。お車を廃棄するときには、レクサス販売店で駆動用電池を廃棄してください。駆動用電池は適切に廃棄しないと、感電を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

- 電気自動車は走行時にエンジン音がないため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が装備されていても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。
- 車両床下に強い衝撃を受けたときは、すぐに安全な場所に停車し下まわりを点検してください。
床下に駆動用電池の液もれや損傷が見られる場合、絶対に車両にふれず、すみやかにレクサス販売店にご連絡ください。
また、床下に異常が見られない場合でも、駆動用電池が損傷している可能性がありますので、車両床下に衝撃を受けた場合には、レクサス販売店で駆動用電池の点検を受けてください。

■ 改造について

車高を下げると、床下にある駆動用電池が衝撃を受けやすくなり、電池を損傷し、発火や車両火災などが発生し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。車高を下げる改造は絶対に行わないでください。

緊急停止システム

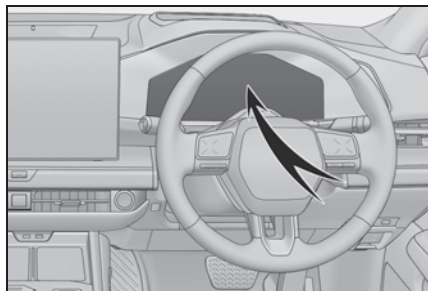
事故により衝撃を受けたときなどは、EV システムを停止して高電圧を遮断します。

この場合、EV システムを再始動させることができなくなるためレクサス販売店へご連絡ください。

警告メッセージ

EV システムの異常やお知らせしたい事項が発生すると自動で表示されます。

警告メッセージは、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。表示された画面の指示に従ってください。(→P.570)



□ 知識

- 警告灯が点灯したときや、警告メッセージが表示されたとき、または補機バッテリーとの接続が断たれたとき

EV システムを再始動できないおそれがあります。

もう一度始動操作をしても READY インジケーターが点灯しない場合はレクサス販売店にご連絡ください。

- 駆動用電池が電欠になったとき

駆動用電池が電欠で EV システムが始動できないときは、駆動用電池充電警告灯が

消灯するまで、十分に充電（普通充電または急速充電 [V2H 充電]）してから再始動してください。

電気自動車運転のアドバイス

従来の車両とは異なり、電気自動車が走行を続けると電力消費率は低下します。高速道路での運転または平均车速の高い運転を続けた場合、走行できる距離が短くなる可能性があります。駆動用電池の残量が低下しているときは、表示された走行可能距離に頼りすぎたり、高速道路を運転したりしないでください。適度な車速で走行すると、電力消費を抑えることができます。経済的な運転のためには、次のことを心がけてください。

シフトポジションの操作

- 信号待ちや渋滞のときなどは、シフトポジションを D にしましょう。
- 駐車するときは、シフトポジションを P にしましょう。
- シフトポジションを N にしても、電費向上の効果はありません。N では、駆動用電池は充電されないため、エアコンなどを使用していると駆動用電池の残量が低下します。

エコドライブモード／レンジモードの利用

■ エコドライブモード

エコドライブモードを使用すると、通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆる

やかになります。また、エアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、電費の向上につながります。（→P.448）

■ レンジモード

レンジモードを使用すると、電費を向上させる走行制御（車速制限／最大駆動力制限／前後駆動力配分最適化など）にかわり、エアコン（暖房／冷房）を OFF にします。レンジモードでクルーズコントロールまたはレーダークルーズコントロールが作動したときは、車速の上限が 100km/h になるため、設定速度にならない場合があります。レンジモードでは航続可能距離の最大化につながります。＊（→P.448）

＊ M モード（→P.269）選択時は、レンジモードを使用しても、車速制限／最大駆動力制限機能は無効化されます。

渋滞

加速・減速のくり返しや、長い信号待ちは電費を悪化させます。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際は、ブレーキペダルをゆるめて微前進し、アクセルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分な電気消費を抑えることができます。

減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

高速道路での運転

速度を抑え、一定速度で走行しましょう。また、料金所手前では早めにアクセルをもどし、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

エアコンの ON / OFF

- 必要時以外はエアコンスイッチを OFF にしましょう。余分な電力消費を抑えることができます。

夏季：外気温が高いときは、内気循環モードに設定しましょう。エアコンへの負荷が減り、電費向上につながります。

冬季：過剰または不要な暖房は避けましょう。ヒーターを使いすぎないことも電費向上に効果的です。

- レクサスクライメイトコンシェルジュを使用すると、空調が自動的に快適な状態に制御され、余分な電力消費を抑えることができます。（→P.468）

タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。タイヤ空気圧が適切でないとき、電費悪化につながります。また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいため、乾燥した路面では電力消費量が大きくなります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

荷物

重い荷物が積まれていると、電費が

悪化します。不要な荷物は、積んだままにせず、降ろしましょう。

走行可能距離について

マルチインフォメーションディスプレイに表示される走行可能距離は、現在どのくらい走行が可能かの目安を示しており、表示の距離を実際に走行できない場合があります。

表示値について

マルチインフォメーションディスプレイには、駆動用電池の残量や状態から十分な走行性能が出せる値を推定して表示しています。(→P.171)
低温時には、駆動用電池残量が残っていても、走行距離がなくなる場合があります。早めに充電してください。

走行できる距離を伸ばすためのヒント

走行できる距離は、運転のしかた・道路状況・天候や気温・電装品の使用状況・乗員数などに大きく左右されます。

次のことに気を付けて運転していただくと、より走行できる距離を伸ばすことが可能です。

- 車間距離を十分にとり、不要な加減速をしない
- むだな加減速をくり返さない
- 走行中は、一定の速度で走行することを心がける
- エアコンを適切に使用し、過剰または不要な冷房・暖房は避ける
- 指定されたサイズのタイヤを使用

し、タイヤの空気圧を適正に維持する

- 不要な荷物を積まないように心がける

充電が完了したときの表示について

車両の充電が正しく完了したかどうかは、次のことで確認できます。

- 普通充電ポートの充電インジケータが緑点灯する ※
- パワースイッチがOFFの状態ではドアを開けると、マルチインフォメーションディスプレイに“充電結果のお知らせ 充電完了しました”と表示される（→P.95）

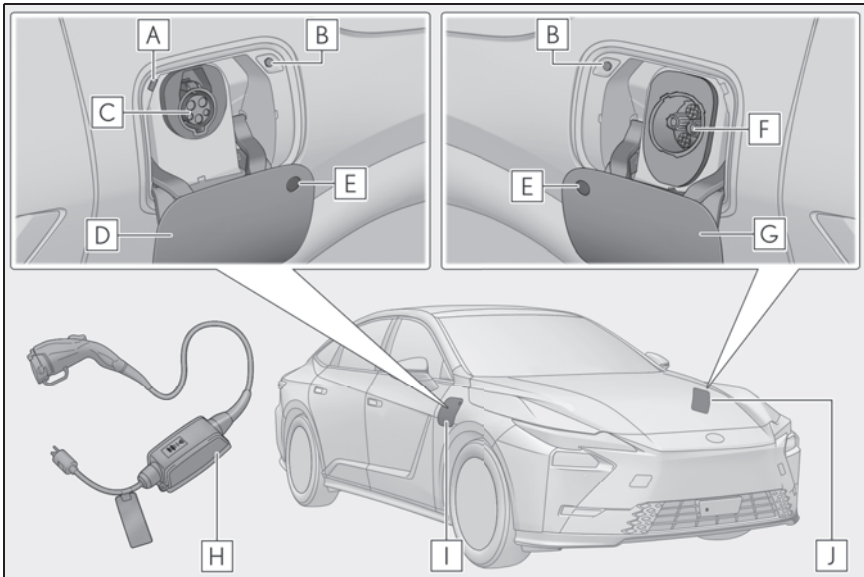
※ 一定時間点灯したあと、消灯します。

接続する電源や充電スケジュール機能の使用に関わらず、上記のことが確認できれば正しく充電されています。

充電に関するメッセージについて：
P.132

充電に関する装備について

充電装備と名称



A 充電インジケータ（→P.77）／普通充電インレット照明

B リッドクローズ／コネクタアンロックスイッチ

C 普通充電インレット

D 普通充電リッド（→P.75）

E リッドオープナースイッチ

F 急速充電インレット

G 急速充電リッド（→P.75）

H 普通充電ケーブル★（→P.78）

I 普通充電ポート

J 急速充電ポート

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

充電リッドの開閉

普通充電リッドと急速充電リッドの開閉操作は同様です。

■ 充電リッドの開け方

パワースイッチがOFF、かつ運転席ドアが解錠されている状態で、充電

リッドのリッドオープナースイッチを約 1 秒押す。

充電リッドが開きます。



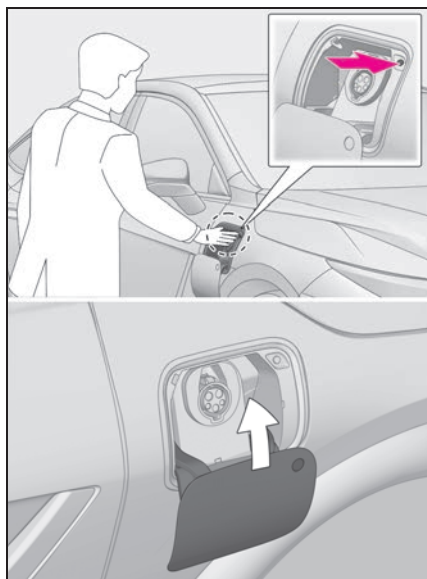
■ 充電リッドの閉め方（自動）

コネクターを取りはずすと、約 5 秒後に充電リッドは自動的に閉じます。

■ 充電リッドの閉め方（手動）

リッドクローズスイッチを約 1 秒押す。

充電リッドが閉じます。



□ 知識

■ 充電リッドの開閉について

- 次の方法でも充電リッドを開閉することができます。

- ・ パワースイッチを OFF にしたときに、センターディスプレイに表示されるエンディング画面で操作する ※

※ メニュー内の“ACC カスタマイズ”のスイッチが OFF に設定されていないと、エンディング画面が表示されません。その場合は、センターディスプレイの設定内容を確認してください。

- ・ 手で充電リッドを押し上げる

充電リッドが自動で閉じます。

- ・ スマートフォンアプリから操作する

- 次のときは、充電リッドは自動で閉じます。

- ・ 充電リッドが開いた状態で約 3 分経過したとき
- ・ パワースイッチを ON にしたとき

- 左右の充電リッドを同時に開けることはできません。

反対側の充電リッドを開けたいときは、開いている充電リッドを閉じてください。

■ 挟み込み防止機能

充電リッドが作動しているときに、車両と充電リッドのあいだに異物が挟まると、充電リッドは反対作動します。

■ 充電リッドが開かないとき

→P.593

■ 補機バッテリーを脱着したときは

システムを初期化する必要があります。パワースイッチがOFFの状態、リッドオープナースイッチを約1秒押してください。初期化作動（充電リッド開閉）が開始します。充電リッドが閉じると初期化は完了です。

初期化作動中に充電ケーブルを接続すると、充電ケーブルがロックされて抜けなくなります。

普通充電リッドと急速充電リッド両方の初期化が必要です。



警告

■ 充電リッドを開閉するとき

- 充電リッドを開閉するときには、手などを挟んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないように声かけをしてください。
- 充電リッドを閉じるとき、またはパワースイッチの操作に連動して充電リッドが閉じるときは、充電リッドに手などが挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには操作をさせないでください。お子さまや他の人の手などが充電リッドに挟まれる可能性があります。

■ 挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、手などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、充電リッドが完全に閉じる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。



注意

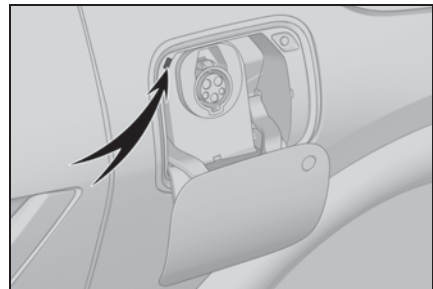
■ 充電リッドの破損を防ぐために

- 充電リッドを手で無理に開けようとしないでください。
- 充電リッドに充電ケーブルをひっかけたり、ものを置かないでください。

充電インジケーター

充電インジケーターは、普通充電ポートにのみ搭載されています。

点灯・点滅、色のパターンにより、次のように充電に関する状況をお知らせします。



点灯・点滅パターン	車両の状況
白点灯 ※1	・ 普通充電リッドを開けたとき ・ 普通充電ケーブルを抜いたとき
緑点滅（即点灯／即消灯）	AC 外部給電の開始操作後の給電準備中 ※2
緑点滅（フェードイン点灯／フェードアウト消灯）	・ 充電中 ・ 外部給電中 ※2 ・ 駆動用電池ヒーター（→P.93）の作動中
緑点灯 ※1	充電が完了したとき
青点灯 ※1	充電スケジュール（→P.112）が登録されている状態で、普通充電ケーブルを車両に接続したとき
赤点灯 ※1	電源または車両の異常などにより充電、または給電が停止（→P.127）したとき

※1 一定時間点灯したあと、消灯します。

※2 AC 外部給電システムについては、P.139 を参照してください。

普通充電ケーブルについて★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

普通充電ケーブルの機能や正しい取り扱い方法などについて説明しています。

⚠ 警告

■ 普通充電ケーブル・コントロールユニットを取り扱うとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 普通充電ケーブルや電源プラグ・普通充電コネクター・コントロールユニットの分解・修理・改造をしない
普通充電ケーブル・コントロールユニットに異常が認められた場合は、ただちに使用を中止してレクサス販売店にご連絡ください。
- 普通充電ケーブルや電源プラグ・普通充電コネクター・コントロールユニットに強い衝撃を与えたり落としたりしない
- 普通充電ケーブルを無理に折り曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、引きずるなどの負担をかけない
- 普通充電ケーブルを鋭利なもので傷付けたりしない
- 電源プラグの端子を折り曲げたり異物を付けたりしない
- 普通充電コネクター・電源プラグを水に浸けない
- 普通充電ケーブルを熱器具等の高温物に近付けない

⚠ 警告

- 普通充電ケーブル・電源プラグコードに負荷をかけない（コントロールユニット・普通充電コネクタに普通充電ケーブルを巻き付けるなど）
- コンセント・電源プラグに負荷がかかる状態で使用したり、放置したりしない（コントロールユニットが接地せず、宙吊りになっているなど）

⚠ 注意**■ 普通充電ケーブルの取り扱いに関する注意**

次のことをお守りください。お守りいただかないと、普通充電ケーブルや普通充電インレットの故障につながるおそれがあります。

- 普通充電コネクタは、斜めになったり傾いたりしないよう、普通充電インレットにまっすぐ挿し込む
- 普通充電コネクタを挿し込んだあとは、普通充電コネクタに無理な力をかけたり、こじったりしない。また、体や荷物などをぶつけないように注意する
- 普通充電ケーブルを踏んだり、つまずいたりしないように注意する
- 普通充電コネクタを取りはずす前に、普通充電コネクタがアンロックされていることを確認する（→P.85）
- 普通充電ケーブルを取りはずしたあとは、すみやかに所定の位置に片付ける
- 普通充電コネクタを取りはずしたあとは、普通充電リッドを確実に閉める

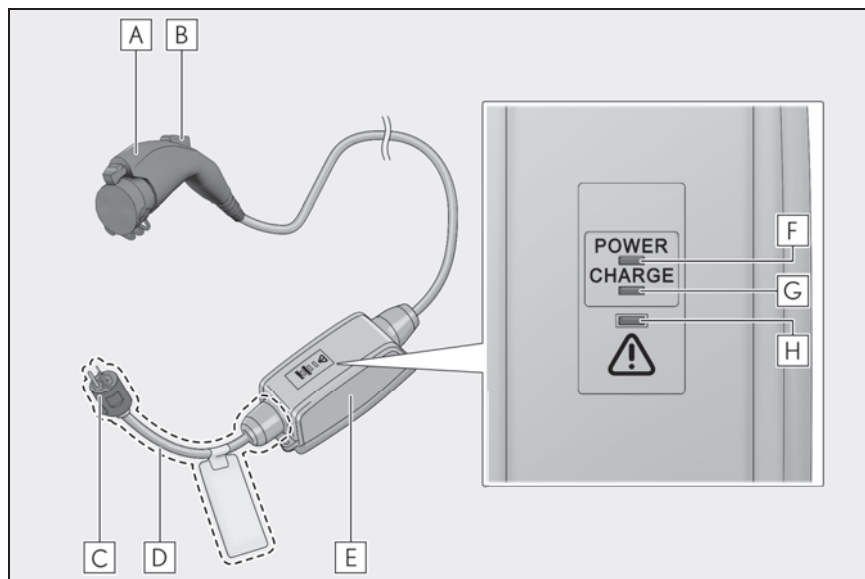
■ 普通充電ケーブルや関連部品などを取り扱うとき

→P.99

■ 寒冷時の注意

寒冷時は、普通充電ケーブル・電源プラグコードが通常より固くなることがあるため、固くなった状態で無理な力をかけないでください。普通充電ケーブル・電源プラグコードの損傷につながるおそれがあります。

各部の名称



- A** 普通充電コネクタ
- B** ロック解除ボタン
- C** 電源プラグ
- D** 電源プラグコード※
- E** コントロールユニット
- F** 電源インジケータ (→P.81)
- G** 充電インジケータ (→P.81)
- H** エラーインジケータ (→P.81)

※ 接続する電源電圧 (200V または 100V) に合わせて、電源プラグコードを交換する必要があります。(→P.82)

安全機能について

普通充電ケーブルに取り付けられているコントロールユニットは、次のような安全機能を備えています。

■ 漏電検知機能

充電中に漏電を検知すると、自動的

に電気を遮断し、漏電による感電や火災などを未然に防ぎます。

漏電検知機能により電気が遮断された場合は、エラーインジケータが点滅します。(電気が遮断された場合の対処方法については、P.81 を参照してください)

■ 自動チェック機能

漏電検知機能の作動に問題がないか、充電開始前に自動でシステムチェックが実施されます。

システムチェックの結果、漏電検知機能の異常が検出されると、エラーインジケータの点滅でお知らせします。
(→P.81)

■ 温度検知機能

電源プラグに温度検知機能が搭載されており、充電中、コンセント側のゆるみなどにより電源プラグ部が発熱した場合に、充電電流を制御することで発熱を抑制します。

■ 車両との通電の条件

電源プラグがコンセントに挿してあっても、普通充電コネクタが車両に接続されていないと、普通充電コネクタに通電されない構造になっています。

■ 充電時に異常が発生したとき

コントロールユニット上のインジケータの点灯・点滅状態の組み合わせにより、異常の内容をお知らせします。

エラーインジケータが点灯・点滅したときは、いったん電源プラグをコンセントから抜き、再度コンセントに挿し込んで、エラーインジケータが消灯するか確認してください。

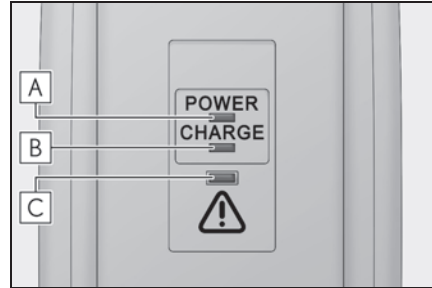
電源インジケータが点灯し、エラーインジケータが消灯していれば、そのまま充電が可能です。それ以外の場合には、次の表に従って対処してください。

状況	電源インジケータ	エラーインジケータ	原因・対処
充電システムエラー	消灯	消灯または点灯	漏電を検知して充電を中断しているか、普通充電ケーブルが故障しています。 → レクサス販売店にご相談ください。
	点灯	点滅	

コントロールユニット上のインジケータについて

■ 各インジケータの働き

3つのインジケータで、それぞれ次の状態を示します。



【A】電源インジケータ

コントロールユニットに通電しているときに点灯します。

【B】充電インジケータ

充電中に点灯します。

【C】エラーインジケータ

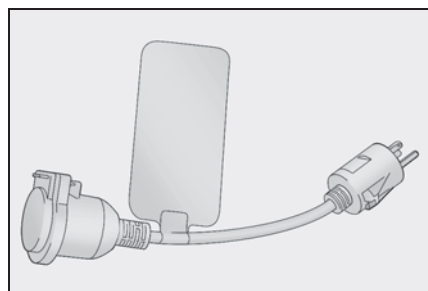
漏電が発生したとき、またはコントロールユニットに異常が発生したとき点滅します。

状況	電源インジケーター	エラーインジケーター	原因・対処
電源プラグ温度検知異常	点滅	点滅	電源プラグの温度検知部品が故障しています。 → レクサス販売店にご相談ください。
電源プラグ温度上昇検知	点滅	消灯	コンセントと電源プラグとの接触不良などにより、電源プラグの温度上昇を検知しました。 → 電源プラグがコンセントに確実に挿し込まれているか確認してください。点滅が解消しない場合も、電流を制限して充電が行われます。
普通充電ケーブル寿命予告	点灯	点滅	普通充電ケーブルの充電回数が、使用可能な上限に近付いています。 → レクサス販売店にご相談ください。
普通充電ケーブル寿命	点灯	点灯	普通充電ケーブルの充電回数が、使用可能な上限をこえています。 → レクサス販売店にご相談ください。

電源プラグコードの交換

電源プラグを 100V 用、または 200V 用に交換したい場合は、次の手順で電源プラグコードを交換してください。

- 1 普通充電ケーブル (→P.80) と交換用電源プラグコードを用意する



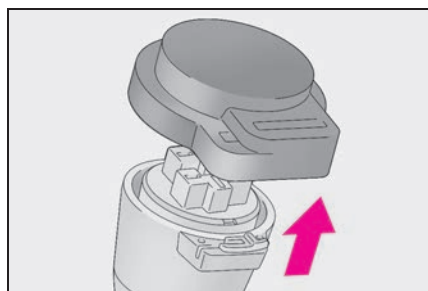
2 解除キーを取り出す

取り出した解除キーをなくさないように

ご注意ください。

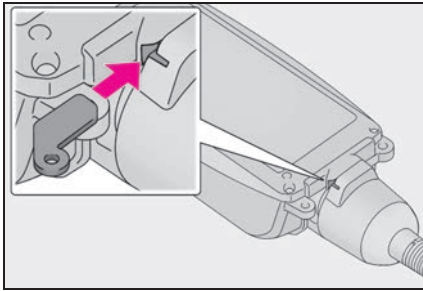


3 保護キャップを取りはずす



4 コントロールユニットの解除穴に 解除キーを挿し込む

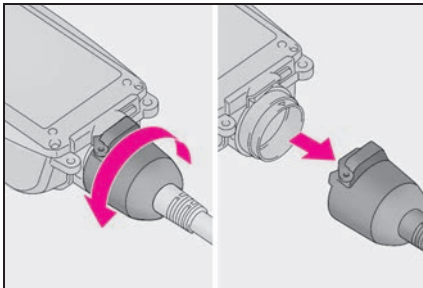
解除キーは図の向きで挿し込んでください。



5 コントロールユニットの解除穴に 解除キーを奥まで挿し込んだま ま、電源プラグコードのナット部 をまわして、電源プラグコードを 取りはずす

電源プラグコードを取りはずしたら、解除キーを抜いてください。

電源プラグコードを取りはずしたまま放置しないでください。電源プラグコードが接続されていないと、コントロールユニットの内部に水などが入り、故障につながるおそれがあります。

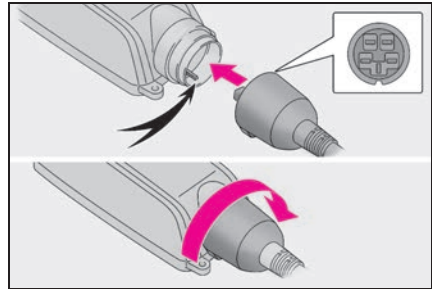


6 コントロールユニット接合部の突 起と、電源プラグコードコネク ターの溝とを合わせて挿し込み、 電源プラグコードのナット部をま わして取り付ける

電源プラグコードを取り付ける前に、接

続部に異物が付着していないか確認してください。異物が付着している場合は、必ず取り除いてください。異物が付着している状態で接続すると、水などが入り、故障につながるおそれがあります。

“カチッ” という音がして固定されるまで、取りはずしたときと逆方向にまわします。



7 取りはずした電源プラグコード に、保護キャップと解除キーを取り 付ける

紛失を防ぐため、解除キーは保護キャップに確実に取り付けてください。また、解除キーが保護キャップから意図せず脱落しないよう、ご注意ください。

電源プラグコードは、ほこりや水などがかからない安全な場所に保管してください。

⚠ 警告

■ 電源プラグコードを交換するとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 電源プラグコードの交換作業は、ぬれた手で行わない
また、雨や水のかかる場所で行わないでください。

⚠ 警告

- 電源プラグ・普通充電コネクタを接続した状態で、電源プラグコードの交換作業を行わない
- コントロールユニットから電源プラグコードを取りはずした状態で放置しない
- 電源プラグコードをコントロールユニットに取り付けるときは、接続部に異物が付着していないことを必ず確認する
- 電源プラグコードの交換時には、“カチッ”という音がするまで電源プラグコードのナット部をしっかりとまわす
- 電源プラグコードを交換する際は、必ず解除キーを使用する

⚠ 注意**■ 電源プラグコードについての注意**

電源プラグコードは充電以外の用途で使わないでください。電源プラグコードの損傷につながるおそれがあります。

普通充電ケーブルの点検・お手入れ

安全にお使いいただくために、日常的に次の事項を点検してください。

⚠ 警告**■ 日常点検について**

定期的に次のことを確認してください。

点検をしないで使い続けると、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 普通充電ケーブルや電源プラグ・普通充電コネクタ・コントロールユニットに破損などがないこと
- コンセントに破損がないこと
- コンセントの挿し込みがゆるくなっていないこと
- 充電中に電源プラグが極端に熱くならないこと
- 電源プラグの刃が変形していないこと
- 電源プラグにほこり等の汚れがないこと

電源プラグはコンセントから抜いて点検してください。また、点検の結果、普通充電ケーブルに異常が見つかった場合は、ただちに使用を中止して、レクサス販売店にご相談ください。

■ 普通充電ケーブルのお手入れについて

汚れたときは固くしぼった布で汚れをふき取ったあと、乾いた布でから拭きしてください。

なお、水洗いは絶対に行わないでください。普通充電ケーブルを水洗いすると、充電時に火災や感電事故が発生し、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告**■ 長期間普通充電ケーブルを使用しないとき**

電源プラグをコンセントから抜いてください。電源プラグやコンセントにはこりがたまり、過熱や発火の原因となります。

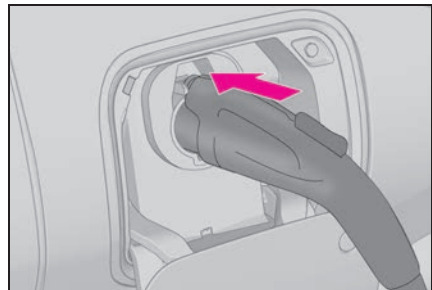
また、普通充電ケーブルは水気がない場所で保管してください。

普通充電コネクタのロック・アンロック

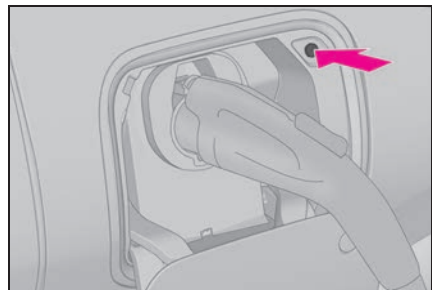
普通充電中の充電コネクタの取り外しや、第三者による充電ケーブルの持ち去りなど、いたずらの防止に寄与することができます。

普通充電コネクタをロック・アンロックするには**■ ロックするときは**

普通充電インレットに普通充電コネクタを挿し込むと、自動的にロックされます。

**■ アンロックするときは**

ドアを解錠するか電子キーを携帯して、コネクタアンロックスイッチを押すと、普通充電コネクタがアンロックされます。





■ 普通充電コネクターのロック機能について

- 普通充電コネク터를ロック・アンロックくり返し操作すると、普通充電コネクターのロックシステムがシステムを保護するために、一時的に作動しないことがあります。この場合は、普通充電コネク터를普通充電インレットに再び接続する前に、少し待ってください。
- コネクターアンロックスイッチを押しても、普通充電コネクターはロックされません。
- 普通充電コネクターのロック機能は、普通充電ケーブルの盗難防止を保証するものではありません。また、すべてのいたずら行為に効果を発揮するものではありません。

■ AC 外部給電システム (→P.139) を使用するとき

普通充電コネクターと同様に、ヴィークルパワーコネクタをロック・アンロックすることもできます。

■ 普通充電インレットに普通充電コネクタを挿し込めないとき

コネクターロックピンが出ていないか確認してください。

コネクターロックピンが出ている場合は、コネクターアンロック操作をしてコネクタをアンロックし、コネクターロックピンが出ていない状態にしてください。



■ カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたとき

電子キーを携帯してコネクターアンロックスイッチを押しても普通充電コネクターはアンロックされません。ワイヤレスリモコンでドアの解錠操作をして、コネクターアンロックスイッチを押すと普通充電コネクタをアンロックできます。

■ 普通充電コネクタをアンロックできないとき

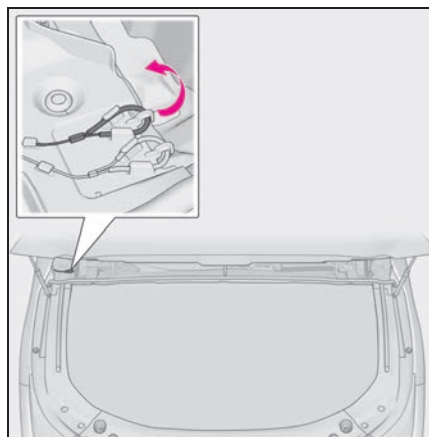
電子キーを携帯していてもコネクターアンロックができない場合は、ドアを解錠してからコネクターアンロック操作をしてください。

上記の方法でも普通充電コネクタをアンロックできないときは、コネクターロック緊急解除ケーブルを操作して、普通充電コネクタをアンロックすることができます。

緊急時以外は、この方法でアンロックさせないでください。

異常が解消しない場合は、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

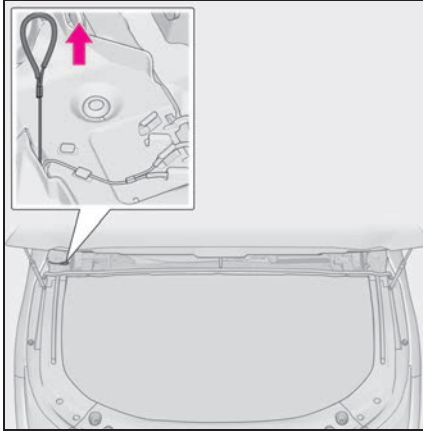
- 1 ボンネットを開ける (→P.525)
- 2 緊急解除ケーブル (黄色) をツメから取り外す



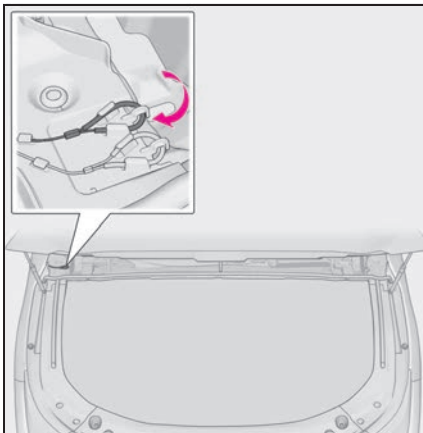
3 緊急解除ケーブル（黄色）を上側に引く

リングに無理な力をかけたり、引っ張りすぎないようにしてください。

普通充電コネクタがアンロックされ、普通充電コネクタの取りはずしが可能になります。



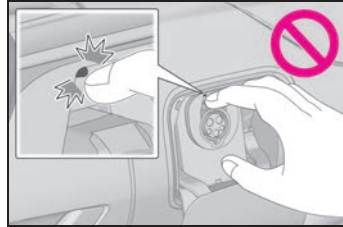
4 普通充電コネクタのアンロック後、緊急解除ケーブル（黄色）をツメに取りつける



⚠ 警告

■ 普通充電インレットに普通充電コネクタを接続するとき

コネクタロック部に手を入れないでください。コネクタロックピンに挟まれ、けがをするおそれがあり危険です。



⚠ 注意

■ 普通充電コネクタをロックするとき

次のことをお守りください。お守りいただかないと、コネクタロックシステムの故障の原因となります。

- 普通充電コネクタがこの車両に適合していることを確認する
異なるタイプの普通充電コネクタや、挿入部が破損・変形した普通充電コネクタなどは、ロックできない可能性があります。
- 普通充電コネクタを挿し込んだあとは、普通充電コネクタに無理な力をかけない
普通充電コネクタを取りはずすときは、必ずコネクタをアンロックしてください。

接続可能な外部電源について

この車両を充電するための外部電源は、ここで説明する要件を備えている必要があります。

充電作業を行う前に、あらかじめ次の事項をご確認ください。

⚠ 警告

■ 電気事故についての警告

車両の充電を行うときは、必ず本書に記載されている注意事項をお守りください。

必要要件を満たしていない電源を使用したり、記載されている禁止事項を守らずに充電を行ったりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

📖 知識

■ 契約電力について

自宅の電源で充電する際は、契約電力※をご確認ください。

200V 電源で充電する場合は、100V 換算での契約容量が必要となります（例えば 200V 電源で 16A の場合、100V 換算で 32A となります）。必要な電力に応じた契約電力でないと、充電時にブレーカーが作動する場合があります。

※ 電力会社との電気契約の変更が必要になる場合があります。電気契約に関するご相談については、ご契約中の電力会社にお問い合わせください。

■ 充電環境について

● 必要な電力に対応した普通充電器（スタンド）、または普通充電ケーブルを使

用して、充電を行ってください。

- ・ 200V 電源で 30A に対応した普通充電器（スタンド）を使用した場合、約 6kW で充電されます。
- ・ 200V 電源で 16A に対応した普通充電器（スタンド）または普通充電ケーブルを使用した場合、約 3kW で充電されます。
- ・ 家庭の 100V 電源で 6A に対応した普通充電ケーブルを使用した場合、約 0.6kW で充電されます。

● 自宅で普通充電器（スタンド）を使用して充電するには、普通充電器（スタンド）の設置が必要です。普通充電器（スタンド）の設置については、販売業者にお問い合わせください。

電源について

■ 200V 電源を使用する場合

- 200V の充電用コンセントには、必ず専用回路を設置してください。
- AC200V で 16A（100V 換算で 32A）の電流が流れてもブレーカーが作動しない（電流が遮断されない）コンセントに接続してください。※

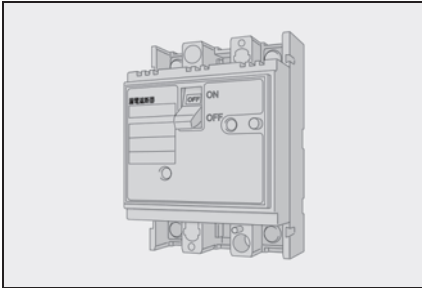
※ 電力会社との電気契約の変更が必要となる場合があります。電気契約に関するご相談については、ご契約中の電力会社にお問い合わせください。

- 分岐回路内に専用の漏電遮断器が設置されていることを確認してください。

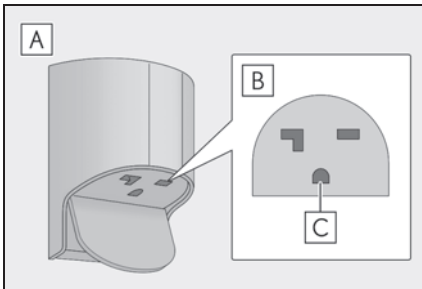
もし設置されていない場合は、必ず設置した上で車両の充電を行ってください。※

※ 建物の電気工事や、電流容量などのご相談については、電気工事業者などに

お問い合わせください。



- BEV / PHEV 専用コンセントに接続してください。



- A** BEV / PHEV 専用コンセントの例

推奨コンセント型式：パナソニック製 WK4322 (200V)

- B** 200V コンセント極配置 ※

JIS C 8303 2 極接地極 (アース) 付コンセント 20A 250V

- C** 接地極 (アース)

※ 図は代表的な形状を示したもので、実際のコンセントとは形状が異なる場合があります。

■ 100V 電源を使用する場合 ※

※ 100V 電源で充電する際は、普通充電ケーブルの電源プラグを 100V 用のものに交換してください。(→P.82)

- ブレーカーの容量を確認してください。この車両の充電時には、

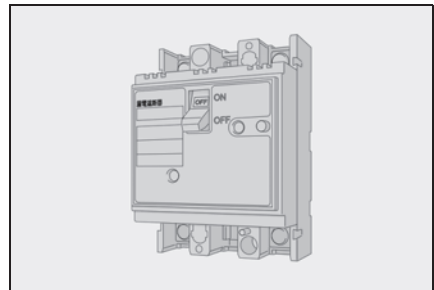
100V で最大 6A の電流が流れます。余裕をみて、20A のブレーカーを備えたコンセントに接続することを推奨します。※

ブレーカーの容量に余裕がないと、ほかの電気製品を接続した際にブレーカーが作動して、電流が遮断される可能性があります。

※ 建物の電気工事や、電流容量などのご相談については、電気工事業者などにお問い合わせください。

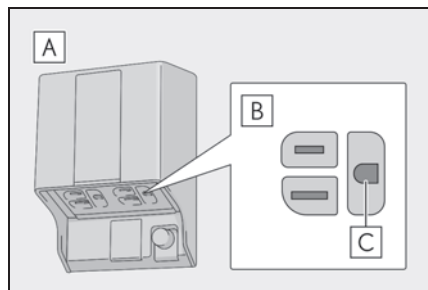
- 回路上に漏電遮断器が設置されていることを確認してください。(主幹含む)
もし設置されていない場合は、必ず設置した上で車両の充電を行ってください。※

※ 建物の電気工事や、電流容量などのご相談については、電気工事業者などにお問い合わせください。



- 屋外で充電する場合は、軽負荷電動車両充電用コンセントに接続してください。※

※ 日々の充電にあたっては、電源プラグのひんぱんな抜き挿しが必要となるため、抜止形の防雨形 100V コンセントでは耐久性が十分でない場合があります。



A 一般回路用の軽負荷電動車両充電用コンセントの例

推奨コンセント型式：パナソニック製 WK4632 (100V)

B 100V コンセント極配置 ※

JIS C 8303 2 極接地極 (アース) 付コンセント 15A 125V

C 接地極 (アース)

※ 図は代表的な形状を示したもので、実際のコンセントとは形状が異なる場合があります。

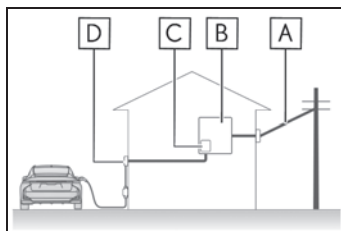
- 普通充電ケーブルのコントロールユニットをフックに引っかけることにより、コンセントや電源プラグに荷重がかからないようにしてください。



知識

■ 自宅の電源 (コンセント) と普通充電ケーブルを使用して充電するとき (200V 電源の使用時)

より安全に充電を行うために、次のような充電設備を設置することをおすすめします。※



A 電線

B 分電盤

C 分岐専用回路内高速高感度形漏電遮断器

万一、漏電が発生したときに住宅全体が停電する可能性を低減します。また、漏電発生時における人体への影響を最小限に抑えることができます。

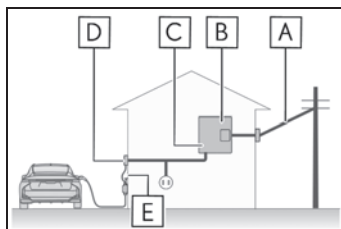
D BEV / PHEV 専用コンセント (→P.88)

BEV / PHEV 専用コンセントは日々の使用に対する耐久性が確保されており、充電中に電源プラグがコンセントから脱落するのを防ぎます。

※ 手元スイッチを使うと、スイッチ操作でコンセントへの電気が遮断できるため、電源プラグの抜き挿しをより安全に行うことができます。

■ 自宅の電源 (コンセント) と普通充電ケーブルを使用して充電するとき (100V 電源の使用時)

より安全に充電を行うために、次のような充電設備を設置することをおすすめします。



A 電線**B** 分電盤**C** 高速高感度形漏電遮断器

漏電発生時における人体への影響を最小限に抑えることができます。

D 軽負荷電動車両充電用コンセント
(→P.89)

一般的な抜止形の防雨形 100V コンセントでは、ひんぱんな抜き差し使用による耐久性が十分ではない場合がありますが、軽負荷電動車両充電用コンセントは耐久性が確保されています。

充電中に電源プラグがコンセントから脱落するのを防ぐため、フックを併用していただくことをおすすめします。

E フック

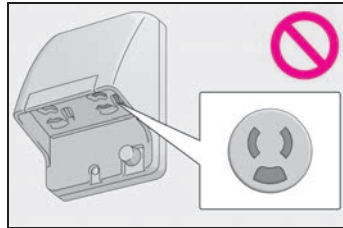
普通充電ケーブルのコントロールユニットをフックに引っかけることにより、コンセントや電源プラグに荷重がかからないようにしてください。

⚠ 警告
■ 電源についての警告

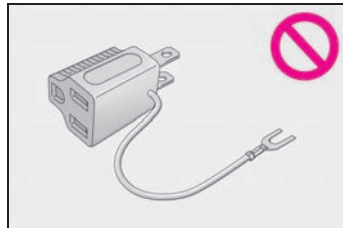
充電時に使用する外部電源については、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 安全のため、必ず接地極（アース）付きのコンセントに接続してください。
- 必ずブレーカーおよび漏電遮断器が設置されたコンセントを使用してください。
ブレーカーがないと、ショートなど異常時の過電流に対して安全を確保できません。

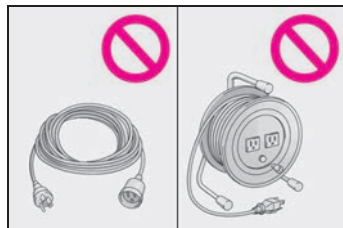
- 抜止形のコンセントは耐久性が十分ではないことがあるため、充電用コンセントとしては常用しないでください。



- コンセントと電源プラグは、必ず直接接続してください。
コンセントとのあいだに分岐アダプターを接続したり、変換アダプターなどを接続したりしないでください。

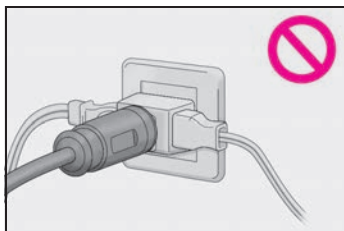


- 必ず普通充電ケーブルで届く範囲のコンセントに接続し、延長コードは使用しないでください。
延長コードを使用すると、異常発熱や漏電検知機能（→P.80）が働かなくなるなどの原因になります。



⚠ 警告

- 分岐用コンセントには接続しないでください。

**充電方法について**

この車は、次の方法で駆動用電池を充電することができます。

充電方法の種類**■ 普通充電 (→P.99)**

AC コンセントと普通充電ケーブル、または普通充電器 (スタンド) などで行う充電方法です。

充電スケジュールを設定することで、ご希望の日時に充電を行うことも可能です。(→P.112)

■ 急速充電 (→P.106)

CHAdemo (チャデモ) ※ 規格に準拠した急速充電器 (スタンド) を使用して行う充電方法です。普通充電にくらべて短時間で駆動用電池を充電できます。

※ CHAdemo は一般社団法人チャデモ協議会が提案する商標名です。

■ V2H (→P.106)

車両と V2H 機器双方向に電源供給することを「V2H (ヴィーツーエッチ)」といいます。V2H 機器から車両へ充電を行うことを「V2H 充電」、V2H 機器を経由して車両から自宅へ電源供給することを「V2H 給電」といいます。

このシステムを使用するには、V2H 機器

※ が必要です。(車両には付属していません)

V2H の詳細については、各 V2H 機器の取扱説明書などをご確認いただくか、V2H 機器の製造元へお問い合わせください。

※ 車両から自宅へ電力を供給するために、

車両から取り出した DC（直流）電力を AC（交流）電力に変換する機器。一般社団法人電動車両用電力供給システム協議会が発行する電動自動車用充電システムガイドライン V2H DC 版に準拠し、一般社団法人チャデモ協議会の認証を受けたもの。接続確認済みの V2H 機器一覧はトヨタ自動車の Web サイトでご確認いただけます。一覧に記載のない機器は動作未確認のため車両及び V2H 機器が動作しない場合があります。

充電に連携する機能について

この車両には、充電に連携する各種の機能が搭載されています。

■ マイルームモード（→P.122）

車両に充電ケーブルを接続した状態のとき、外部電源からの電力※で、車両のエアコンやオーディオなどの電装品を使用できます。

※ 状況により、駆動用電池の電力が消費される場合があります。

■ 駆動用電池ヒーター

外気温が低い場合、車両に充電ケーブルが接続されていると、駆動用電池が一定以上の温度になるように、自動で昇温します。

- 車両から充電ケーブルをはずす、または充電ケーブルを接続したまま、およそ 3 日が経過すると、システムが自動で停止します。
- 充電スケジュール時（→P.112）は、充電開始時刻に合わせて作動します。

■ 駆動用電池の保温制御

この制御は、普通充電ケーブルを接続したままおよそ 3 日が経過し、駆

動用電池ヒーターが自動で停止した後に作動します。

外気温が極度に低温になったときに、自動的に昇温して駆動用電池を保護します。

- 普通充電ケーブルを接続したまま 31 日経過すると、この制御は停止します。
- この制御が作動している間は、充電スケジュールの設定が無効になり、充電を開始します。

■ 駆動用電池冷却

駆動用電池の温度が高いとき、車両に普通充電ケーブルが接続されていると、駆動用電池を冷却し、保護します。

- 高速道路で高い速度で連続運転するときや急速充電中などの場合には、作動することがあります。
- 普通充電のみ：マルチインフォメーションディスプレイまたはセンターディスプレイの電池冷却が ON になっているときに作動します。（→P.616）OFF にすると、走行状況に応じて駆動用電池の出力を制限される場合があります。

知識

■ 急速充電中のマイルームモード使用について

→P.122

■ 普通充電について

普通充電は、急速充電にくらべて駆動用電池への負荷が少ないため、駆動用電池を長持ちさせることができます。

■ 駆動用電池ヒーターについて

- 充電中以外でも作動する場合があります

す

- 駆動用電池ヒーターの作動中は、充電インジケーターが緑色に点滅します。
- 駆動用電池ヒーターが作動すると、駆動用電池の残量が低下するため、駆動用電池の残量を補うために再度充電を行うことがあります。

■ 駆動用電池冷却について

- 駆動用電池冷却の待機中、または作動中のときは、充電インジケーターが緑色に点滅します。
- 駆動用電池冷却は、最大で約 30 分作動します。
- 駆動用電池の残量が少ないときは、駆動用電池が高温であっても、駆動用電池冷却が作動しない場合があります。
- 駆動用電池冷却の作動中に次の操作を行うと、駆動用電池の冷却作動が停止します。
 - ・ ボンネットを開けたとき
 - ・ パワースイッチを OFF 以外にしたとき
 - ・ シフトポジションを P 以外にしたとき
 - ・ 駆動用電池の残量が一定未満になったとき
- 駆動用電池冷却は、駆動用電池と外部電源からの電力を利用します。
 - ・ 駆動用電池冷却の作動中は、駆動用電池残量が一定の幅で増減し、通常充電時のように駆動用電池残量が増加しません。
 - ・ 駆動用電池冷却の作動中も、充電器（スタンド）からは充電中と認識されます。

よって、充電時間に応じて課金される充電器（スタンド）では、駆動用電池冷却の作動中にも課金が発生します。

充電に関するアドバイス

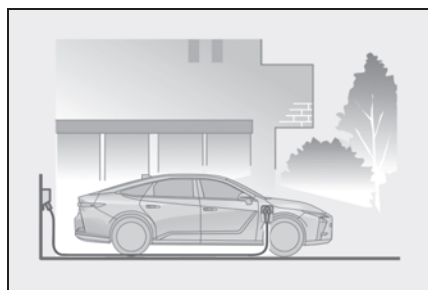
この車両の充電機能を活用する方法や、充電に関する情報の確認方法などを説明しています。

上手に充電するには

出発前・ドライブ中など、車両の状況に応じて充電機能を使い分けると便利です。

■ お出かけの前に

電気自動車を使用するために、お出かけの前には普通充電で駆動用電池を充電しましょう。（→P.99）



■ ドライブの途中で

ドライブ中に駆動用電池の残量が少なくなったら、最寄りの充電設備で駆動用電池を充電しましょう。

■ 帰宅したら

次のドライブのために、駆動用電池を充電しておきましょう。充電スケジュールを登録しておけば、深夜・早朝などのご希望の時間に駆動用電池を充電できます。なお、充電スケジュールは、毎日、またはご希望の曜日の同じ時刻に、自動で充電されるように設定することも可能です。（→P.112）

充電に関する情報を確認するには

車両のマルチインフォメーションディスプレイで、充電に関する各種の情報を確認できます。

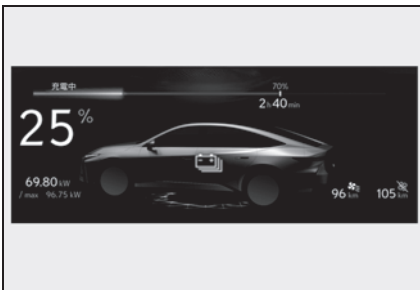
■ 充電中は

充電中にパワースイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開けると、現在の充電状態と充電完了までに必要な時間の目安※が一定時間表示されます。

駆動用バッテリーの残量や外気温、充電器（スタンド）の仕様、外部電源の供給電圧などの条件により、実際の充電時間や充電電力とは異なることがあります。

充電電流が小さくなり、充電時間が長くなると、充電完了するまでの時間が表示されない場合があります。

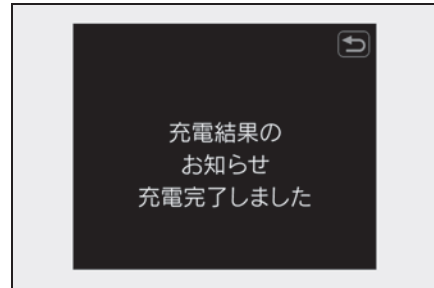
※ V2H 充電中は、充電完了までに必要な時間の目安は表示されません。



■ 充電が終わったあとは

充電終了後、パワースイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開けると、充電結果についてのメッセージが一定時間表示されます。また、充電停止となる操作をしたときや、充電できない状況が発生した場合などには、メッセージが表示されます。

表示されたメッセージの指示に従って、それぞれ必要な操作を行ってください。
(→P.132)



□ 知識

■ 充電中のメーター表示について

充電中にパワースイッチを ON にしたあと、マイルームモードを選択しない状態が約 100 秒間続くと、パワースイッチが自動で OFF になります。

充電の前に知っておいていただきたいこと

充電を行う前に、必ず次の事項をご確認ください。



知識

■安全機能について

- 車両に充電ケーブルが接続されているときは、パワースイッチを操作してもEVシステムを始動することはできません。
- READY インジケーターが点灯しているときに充電ケーブルを接続すると、EVシステムは自動的に停止し、走行できなくなります。

⚠ 警告

■充電、V2H 充電／V2H 給電するときの警告

ペースメーカー（植込み型心臓ペースメーカー／植込み型両心室ペースメーカー）装着のお客様は、充電または給電の操作はご自身ではならず、ほかの方をお願いしてください。

- 充電または給電時、充電器（スタンド）、充電ケーブル、V2H 機器に近付かないでください。充電または給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
- 充電または給電中は車内にとどまらないでください。充電または給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
- ものを取るときなどに、車内に入り込まないでください。充電または給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

■車両に充電ケーブルが接続されているとき

シフトポジションを P から切り替えないでください。

万一、充電ケーブルが故障していた場合、シフトポジションが P からほかのシフトポジションに切りかわることがあり、車両が動いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■充電に関する留意事項

この車は一般家庭用の AC コンセントに接続して駆動用電池を充電できます。ただし、一般的な電気製品と次の点が大きく異なるため、取り扱いを誤ると火災や感電事故が発生し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 200V での普通充電時は、長時間にわたって大電流が流れる（→P.88）
- お客様の充電環境によっては、充電作業が屋外で行われる

⚠ 注意

■充電に関する留意事項

充電作業は、本書で説明している内容をよくお読みいただいた上で、正しい手順に沿って行ってください。

- お子さまなど、不慣れな方だけで充電作業を行わないでください。また、普通充電ケーブルは幼児の手の届かない場所で保管してください。
- 充電器（スタンド）または、V2H 機器で充電する場合は、機器の使用手順に従って作業を行ってください。

充電前の重要確認事項

必ず次の点をご確認ください。

- パーキングブレーキが確実にか

かっていること (→P.271)

- パワースイッチがOFFになっていること (→P.260)
- ヘッドランプ・非常点滅灯・室内灯などのランプ類が消灯していること

ランプ類が点灯していると、それらの機器に電力が消費され、充電時間が長くなります。

普通充電ケーブルの点検

充電の前に、普通充電ケーブル各部の状態に異常がないかご確認ください。(→P.84)



知識

■ 充電中は

- 車両の状態により、充電が開始されるまでの時間が異なる場合がありますが、異常ではありません。
- 充電中は、空調システムおよび駆動用電池冷却の作動にともない、駆動用電池付近から音が聞こえることがあります。
- コントロールユニットの表面が温かくなることがありますが、異常ではありません。
- 電波の状況によっては、ラジオに雑音が入ることがあります。

■ 普通充電・急速充電・V2H 充電／V2H 給電について

普通充電・急速充電・V2H 充電／V2H 給電を同時に行うことはできません。2 つある充電インレットの両方に充電ケーブルを接続しても、いずれか一方のみで充電されます。

■ 公共の普通充電器（スタンド）で充電するとき

充電スケジュールの設定状態を確認してください。

- 充電スケジュールが登録されているときは一時的に OFF にするか、“今すぐ充電”を ON にしてください。(→P.116, 118)

- 充電スケジュールが ON になっていると、普通充電ケーブルを接続しても充電が開始されません。また、充電が開始しなくても、普通充電ケーブルを接続したことで課金される場合があります。

■ 駆動用電池の容量低下について

駆動用電池は使用していくうちに、徐々に電池容量が低下していきます。低下する割合は車の使い方、使用環境により異なります。電池容量の低下を抑えるために、次のことを心がけてください。

- 満充電状態で的高温炎天下での駐車は極力避ける
- 走行中にひんぱんな急加速、急減速をしない
- 最高車速付近での走行を控える
- 充電は走行開始前に満充電になるよう、充電スケジュール (→P.112) を活用する
- ひんぱんな急速充電は避ける

なお、電池の容量が低下すると走行できる距離が減少しますが、車両性能などが著しく低下するものではありません。

■ 充電後に駆動用電池の残量が低下するとき

次の場合、システムの保護のために、充電完了後の駆動用電池の残量が通常よりも少なくなる（満充電後の走行可能距離が短くなる）※ ことがあります。

- 気温が低い、または高い環境で充電し

たとき

- 高負荷走行の直後、かつ炎天下で充電したとき

上記に該当しないのに、充電完了後の駆動用電池残量が大幅に低下したときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

※ この場合、駆動用電池の残量表示が満充電になっていても、通常よりも早く残量が低下します。

■ 駆動用電池への充電量が減少するとき

エアコンの使用、または駆動用電池ヒーターの作動等により駆動用電池への充電電力が小さくなった場合、駆動用電池への充電量もしくは駆動用電池残量が減少することがあります。

■ 充電時間が長くなるとき

次のような場合は、充電時間が通常より長くなることがあります。

- 低温または高温の環境下にあるとき
- 高負荷走行の直後などで駆動用電池の温度が高いとき
- 車両の電力消費量が大きいとき（ヘッドランプが点灯しているときなど）（→P.278）
- マイルームモードを使用しているとき（→P.122）
- 充電中にボンネットを開いたとき
- 充電中に停電したとき
- 充電器（スタンド）、V2H 機器で供給電力を調整しているとき
- 外部電源の供給電圧が低下したとき
- 車両を長期間放置したことなどにより、補機バッテリーの充電量が低下したとき
- 車両の充電電流設定で充電電流上限を変更したとき（200V での普通充電時のみ）（→P.101）
- 駆動用電池ヒーター（→P.93）が作動

したとき

- 充電前に駆動用電池冷却（→P.93）が作動したとき
- 接続先のコンセントなどに問題があるとき
- ひんぱんに急速充電をくり返したとき
- 車両の急速充電電力設定で充電電力上限を変更したとき（急速充電時のみ）
- 充電関連部品の温度が高いとき

■ 普通充電電力について

この車両は最大約 6kW の普通充電が可能です。

ただし、使用する普通充電器（スタンド）、または普通充電ケーブルによっては、充電電力が制限される場合があります。

100V 電源での充電は、充電電力が小さいため、充電時間が長くなります。

また、100V 電源での充電時に、外部電源の供給電圧低下などにより充電電力が低下した場合、充電を停止する可能性があります。

200V 電源での充電をおすすめします。

普通充電のしかた

ここでは、普通充電ケーブルを使用して普通充電する手順を説明しています。

充電設備を利用する際は、普通充電器（スタンド）の取り扱い方法もご確認ください。

充電スケジュールが登録されているときは、“今すぐ充電”をONにしてから充電を実施してください。（→P.116, 118）

注意

■ 普通充電関連部品を取り扱うとき

普通充電関連部品の損傷を防ぐため、取り扱いの際は次のことをお守りください。

- 充電を中断・終了するときは、電源プラグを抜く前に普通充電コネクターを抜く。
- 普通充電ケーブルを抜くときは、普通充電コネクターがアンロックされていることを確認する。
- 普通充電コネクターの保護キャップを無理に引っ張らない。
- 充電中に普通充電コネクターを揺するなど振動を与えない。
充電を停止することがあります。
- 普通充電インレットに普通充電コネクター・ヴィークルパワーコネクタ以外のものを挿し込まない。
- 電源プラグをコンセントに抜き挿しするときは、必ず電源プラグ本体を持って操作する。

- ケーブルが引っかかったり、絡んだ状態から無理に引っ張らない。
絡んだ場合は、ほどいてから使用してください。
- 普通充電インレットの分解・修理・改造などをしない。修理が必要な場合は、必ずレクサス販売店にご相談ください。

充電前の重要確認事項

→P.96

充電するときは

- 1 普通充電ケーブルを用意する
- 2 普通充電ケーブルの電源プラグを外部電源のコンセントに挿し込む

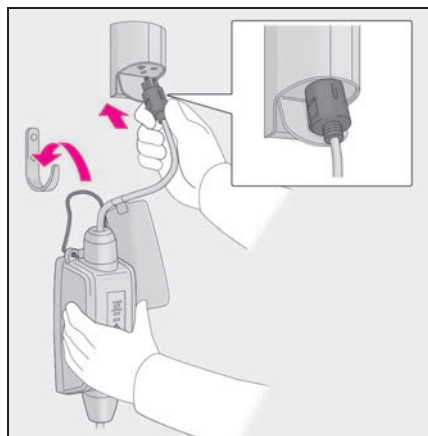
必ず電源プラグ本体を持って、確実に奥まで挿し込んでください。

手元スイッチがある場合は、スイッチをONにしてください。

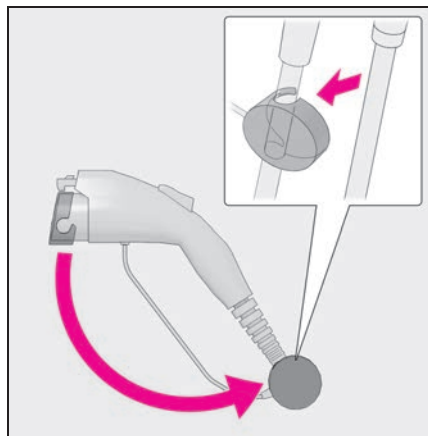
コントロールユニット上の電源インジケータが点灯していることを確認してください。（点灯していないときは、P.81を参照してください）

コンセントや電源プラグへの負荷を軽減するために、電源プラグを挿しているときは、ひもなどを使って、コントロールユニットをフック等に引っかけて使用し

てください。



- 3 普通充電リッドを開ける
(→P.75)
- 4 普通充電コネクタの保護キャップをはずし、ケーブルにかけて固定する

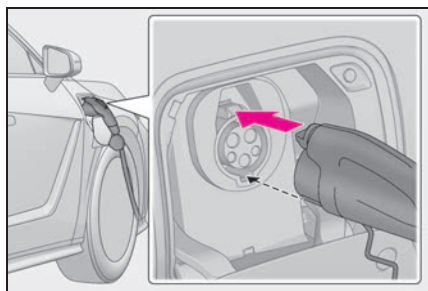


- 5 普通充電コネクタを普通充電インレットに差し込む

普通充電コネクタの下側にあるガイドの位置を合わせて、まっすぐにいっぱいまで差し込みます。

“カチッ”という音がして、普通充電コネクタが確実に接続されたことを確認してください。

普通充電コネクタを挿し込むと、自動的にロックされます。(→P.85)



- 6 充電ポートの充電インジケータが緑色に点滅していることを確認する

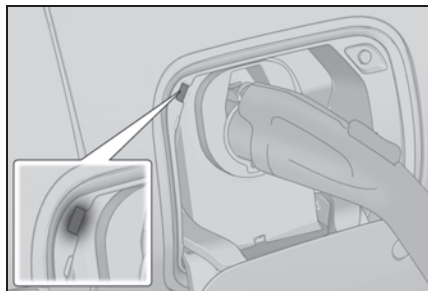
充電インジケータが緑色に点滅していないときは、充電が開始されていません。(→P.77)

充電インジケータが青色に点灯しているときは、充電スケジュールが登録されています。(→P.112)

充電時にコントロールユニット上のエラーインジケータが点滅したときは、P.81 の記載を確認し、対処してください。

充電が完了すると、一定時間充電インジケータが緑色に点灯して、消灯します。

充電完了前に何らかの理由により充電が停止したときも、充電インジケータが消灯します。その場合は、P.125 の記載をご確認ください。

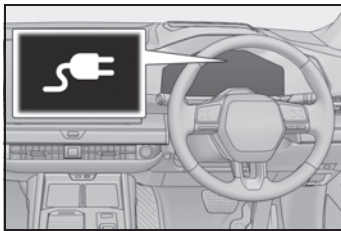




知識

■ 普通充電コネクタが接続されているとき

普通充電コネクタが接続された状態でドアを開けるまたはパワースイッチを ON にすると、メーターの充電コネクタ接続表示灯（プラグ形状）が点灯し、充電コネクタが接続されていることをお知らせします。



■ 普通充電コネクタの接続後に充電ポートの充電インジケータが青色に点灯したとき

充電スケジュール（→P.112）が登録されている状態になっており、充電を開始することができません。充電スケジュールをキャンセルして充電を開始したいときは、次のいずれかの操作を行ってください。

- “今すぐ充電” を ON にする（→P.116, 118）
- 充電インジケータが青色に点灯しているあいだに、接続した普通充電コネクタを取りはずして、すぐに接続し直します。この操作をすると、充電電流と充電量上限の設定が一時的に初期設定になります。（→P.102）

■ 普通充電インレットに普通充電コネクタを挿し込めないとき

→P.86

■ 安全機能について

普通充電コネクタを普通充電インレットに挿し込んだ状態でも、ロック解除ボ

タンを押しているあいだは、充電が開始されません。

なお、充電中に数秒程度ロック解除ボタンを押し続けると充電が中止されます。充電を再開したいときは、いったん普通充電コネクタを抜いてから再度、普通充電コネクタを挿し直して、充電ポートの充電インジケータが緑色に点滅することを確認してください。

■ 充電時間が長くなるとき

→P.98

■ 200Vでの充電時に家庭のブレーカーが落ちる場合は

マルチインフォメーションディスプレイまたはセンターディスプレイで、充電電流の上限値を変更することができます。※1

▶ マルチインフォメーションディスプレイでの設定操作

- 1  を選択し、“OK” を押す
- 2 “車両設定” を選択し、“OK” を押し続ける
- 3 “充電設定” を選択し、“OK” を押す

“充電設定” 画面が表示されます。

- 4 “充電電流” を選択し、“OK” を押す

“充電電流” 画面が表示されます。

- 5 ご希望の値を選択し、“OK” を押す

▶ センターディスプレイでの設定操作

- 1  にタッチする
- 2 “EV・充電” にタッチする
- 3 “充電・給電設定” にタッチする
- 4 “充電電流” にタッチする
- 5 ご希望の値にタッチする

充電時の最大電流が選択した電流以下に制限されます。※2

充電電流の上限値を変更しても、充電時に家庭のブレーカーが落ちる場合は、接続した電源が充電に必要な要件を満たしているか確認してください。(→P.88)

充電電流の設定は充電中でも変更可能ですが、反映されるまでに時間がかかる場合があります。

充電中に充電電流の設定を変更すると、家屋の照明がちらついたり、ブレーカーが落ちる可能性があります。

※¹ カスタマイズ設定で充電電流の設定を変更しても、100V 充電時の最大電流は 6A から変更されません。

※² 充電電流を制限すると、充電完了までの時間は長くなります。

■ 充電量上限設定のしかた

マルチインフォメーションディスプレイまたはセンターディスプレイで、充電時の充電量の上限を変更することができます。

充電量上限で設定した値は普通充電、急速充電共通です。

▶ マルチインフォメーションディスプレイでの設定操作

- 1  を選択し、“OK” を押す
- 2 “車両設定” を選択し、“OK” を押し続ける
- 3 “充電設定” を選択し、“OK” を押す
“充電設定” 画面が表示されます。
- 4 “充電量上限” を選択し、“OK” を押す
“充電量上限” 画面が表示されます。
- 5 ご希望の値を選択し、“OK” を押す

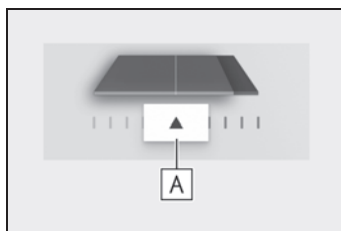
▶ センターディスプレイの“充電・給電設定”画面での設定操作

- 1  にタッチする

- 2 “EV・充電” にタッチする
- 3 “充電・給電設定” にタッチする
- 4 “充電量上限” にタッチする
- 5 ご希望の値にタッチする

▶ センターディスプレイの“充電情報”画面での設定操作

- 1  にタッチする
- 2 “EV・充電” にタッチする
- 3 充電量上限設定スライドバー  を操作して、ご希望の値に設定する



急速充電中に変更した場合、充電器（スタンド）のタイムアウトにより、満充電せずに途中で停止することがあります。

■ 充電電流と充電量上限の設定を一時的に初期設定に変更したいとき

普通充電コネクタを接続してから約 15 秒以内に切りはずし、すぐに接続し直すと、充電電流と充電量上限の設定を一時的に初期設定に変更することができます。

また、充電スケジュールが登録されている状態で、充電インジケータが青色に点灯しているときにこの操作を行うと、“今すぐ充電” が ON になります。(→P.101)

■ 普通充電インレット過熱保護

充電コネクタの接点への異物混入などにより、温度が上昇して溶損してしまうことを防ぐために、普通充電インレット部に温度センサを搭載しています。

一定の温度上昇が検知されると、速やかに充電を停止します。その後、パワース

イッチがOFFの状態ではドアを開けると、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
(→P.125)

⚠ 警告

■ 充電するときの警告

充電するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 必ず充電に必要な要件を満たす電源に接続する (→P.88)
- 充電前に普通充電ケーブル・電源プラグ・コンセントに変形・破損・水分・腐食・ほこり等の異物がないことを確認する
- 充電前に普通充電インレットに変形・破損・腐食・ほこり等の異物がないか、または雪・氷が付着していないことを確認する
付着している場合は、普通充電コネクタを接続する前にしっかりと取り除いてください。
- 挿し込みがゆるくなったコンセントは使用しない
- 過熱するおそれがあるため、普通充電ケーブルを束ねたり巻いたりした状態で充電しない
- 普通充電コネクタ・普通充電インレットの端子に金属製の鋭利なもの(針金など)でふれたり、手でふれたり、異物でショートさせたりしない
- 屋外では必ず防雨形コンセントを使用する
防雨スイッチプレートを確実に閉めてください。閉まらない場合は、新しいプレートに交換してください。

- 充電を中断するときは、普通充電器(スタンド)の取り扱い方法に従う
- 充電中に発熱・発煙・異臭・異音などを発見したときは、ただちに充電を中止する
- コンセントが水没または雪に埋もれている場合は、電源プラグは挿さない
- 雨や雪の中で充電を行うときは、ぬれた手で電源プラグの抜き挿しを行わない。また、コンセントや電源プラグをぬらさない
- 落雷の可能性のある天候のときは充電を行わない
- 普通充電ケーブルをドアやトランクで挟まない
- 普通充電ケーブルや電源プラグ・普通充電コネクタ・コントロールユニットを車両で踏まない
- 電源プラグはコンセントにしっかりと挿し込む
- 普通充電コネクタと普通充電インレットとのあいだに、変換アダプタを接続しない
- 必ず普通充電ケーブルで届く範囲のコンセントに接続し、延長コードは使用しない
- 普通充電システムを使用するときは、ボンネットを開める
冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ファンなど回転部分にふれたり、近づいたりすると、手や着衣(特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど)が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 普通充電ケーブルの接続後、どこかに巻き付いていないか確認する

 警告

- 普通充電ケーブルを接続しても、コントロールユニット上の電源インジケーターが点灯しない場合は、すぐに普通充電ケーブルを取りはずしてください

- **充電時にコントロールユニット上のエラーインジケーターが点灯・点滅したときは**

電源経路に漏電が発生しているか、普通充電ケーブル・コントロールユニットに異常がある可能性があります。P.81の記載内容を確認し、対処してください。対処してもエラーインジケーターが消灯しない場合は、ただちに充電を中止し、普通充電ケーブルを取りはずして、レクサス販売店にご連絡ください。そのまま充電を続けると、思わぬ事故の発生や重大な傷害につながるおそれがあります。

- **車載充電器について**

モータールームに車載充電器があります。車載充電器については、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 充電時は高温になります。やけどをするおそれがあるため、ふれないでください。
- 分解・修理・改造しないでください。修理が必要な場合は、必ずレクサス販売店にご相談ください。

 注意

- **充電時の注意**

普通充電インレットに電源プラグを挿し込まないでください。

普通充電インレットが故障するおそれがあります。

- **自家用発電機の使用について**

充電用電源に自家用発電機は使用しないでください。

安定した充電ができなかったり、電圧が足りず、充電が停止したりするおそれがあります。

充電が継続できる場合でも、モータールーム付近から音が聞こえることがあります。

- **充電設備について**

電力設備などが併設された環境では、ノイズにより安定した充電ができなかったり、電圧が足りず、充電が停止するおそれがあります。

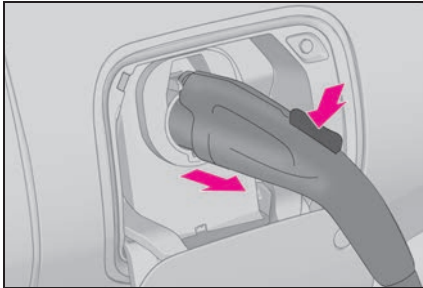
充電したあとは

- 1 コネクターアンロックスイッチを押して、普通充電コネクターをアンロックする（→P.85）
- 2 ロック解除ボタンを押しながら手前に引いて、普通充電コネクターを取りはずす

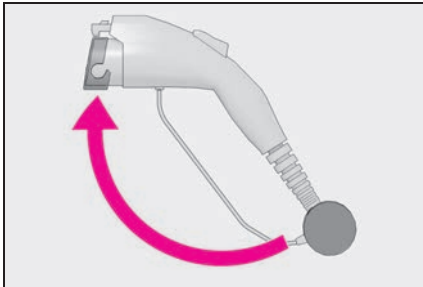
普通充電コネクターを取りはずすと、約5秒後に普通充電リッドは自動的に閉じます。

充電中（充電インジケーターが緑色に点滅中）にロック解除ボタンを押すと、充

電が停止します。



3 普通充電コネクターの保護キャップを取り付ける

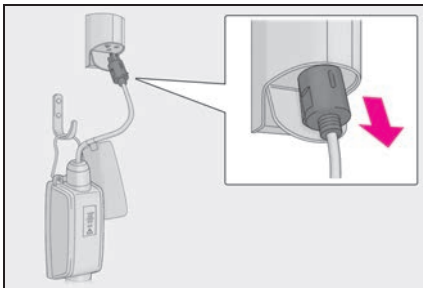


4 長期間使用しないときは、コンセントから電源プラグを抜く

必ず電源プラグ本体を持って抜いてください。

取りはずした普通充電ケーブルは、すみやかに片付けてください。(→P.106)

電源プラグを挿したままにするときは、1ヶ月に1回は電源プラグに汚れやほこりがないか点検してください。



知識

■ 充電停止後、しばらくしてから充電状態を確認したいとき

普通充電コネクタを抜く前に、電子キーを携帯した状態で車両に近づくと、充電が完了していれば緑色に点灯し、異常が発生していれば赤色に点灯します。(→P.77)

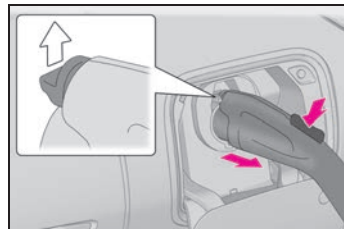
■ 周囲の温度が低温または高温のとき

充電が完了して駆動用電池残量計(→P.171)が満充電の状態になっていても、パワースイッチをONにすると残量表示がわずかに低下することがありますが、異常ではありません。

■ 普通充電コネクタをはずすとき

ロック解除ボタンを押して、レバーが上がることを確認してから普通充電コネクタを手前に引いてください。

普通充電コネクタがロックされている場合は、アンロックしてからはずしてください。(→P.85)



■ 普通充電コネクタをアンロックできないとき

→P.86

 警告**■ 充電後の警告**

長期間使用しないときは、電源プラグを抜いておいてください。

電源プラグやコンセントにほこり等の汚れがたまると、故障や火災などが発生し、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意**■ 充電後の注意**

- 普通充電ケーブルは幼児やお子さまの手の届かない場所で保管してください。
- コンセントから電源プラグを取りはずしたあとは、普通充電ケーブルをほこりや水などがつかからない安全な場所に保管してください。
普通充電ケーブルを足や車両で踏んだりすると、普通充電ケーブルや電源プラグが損傷する原因となります。
- 普通充電インレットから普通充電コネクターを取りはずしたあとは、必ず普通充電リッドを閉めてください。
普通充電リッドを開けたまま放置すると、普通充電インレットに水や異物が入り、車両故障につながるおそれがあります。

**急速充電・V2H 充電／
V2H 給電のしかた**

ここでは、急速充電・V2H 充電／V2H 給電の手順を説明しています。

充電設備を利用する際は、急速充電器（スタンド）および V2H 機器の取り扱い方法をご確認ください。

“バッテリープレコンディショニング”を使用すると急速充電時の駆動用電池温度を充電に最適な状態に調整します。駆動用電池を最適な温度にすることにより充電時間を短縮できます。（→P.120）

 警告**■ 急速充電器（スタンド）・V2H 機器を使用するとき**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- CHAdeMO 規格に準拠し、一般社団法人チャデモ協議会の認証を受けた急速充電器（スタンド）を使用してください。
- 電動自動車用充放電システムガイドライン V2H DC 版に準拠し、一般社団法人チャデモ協議会の認証を受けた V2H 機器を使用してください。
- 30m をこえるケーブルを使用しないでください。

急速充電・V2H 充電／V2H 給電前の重要確認事項

→P.96

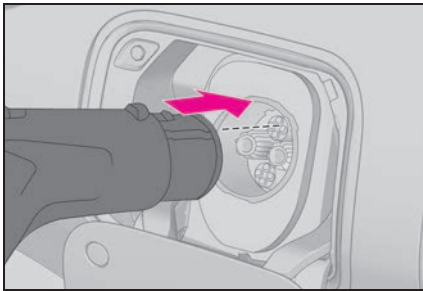
急速充電・V2H 充電／V2H 給電するとき

- 1 急速充電リッドを開ける
(→P.75)
- 2 急速充電コネクタを急速充電インレットに挿し込む

“カチッ”という音がして、急速充電コネクタが確実に接続されたことを確認してください。

急速充電コネクタの形状や取り扱い方法などは、急速充電器（スタンド）・V2H 機器のタイプにより異なります。

急速充電器（スタンド）・V2H 機器の取り扱い方法に従って、作業を行ってください。



- 3 急速充電器（スタンド）・V2H 機器を操作して急速充電・V2H 充電／V2H 給電を開始する

具体的な開始方法については、急速充電器（スタンド）・V2H 機器の取り扱い方法に従ってください。

システムチェックが実施されたあと、急速充電・V2H 充電／V2H 給電が開始されます。

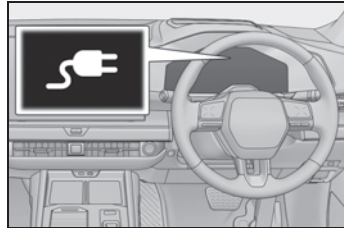
急速充電・V2H 充電／V2H 給電を中断

したいときは、急速充電器（スタンド）・V2H 機器の取り扱い方法に従って、停止してください。

知識

■ 急速充電器（スタンド）・V2H 機器に接続されているとき

急速充電器（スタンド）・V2H 機器に接続された状態でドアを開けるまたはパワースイッチを ON にすると、メーターの充電コネクタ接続表示灯（プラグ形状）が点灯し、充電コネクタが接続されていることをお知らせします。



■ 充電時間が長くなるとき

→P.98

■ 急速充電器（スタンド）・V2H 機器に車両異常があるようなメッセージが表示されたとき

急速充電器（スタンド）・V2H 機器に車両異常があるようなメッセージ（例えば、“車両に異常がみつかりました”、“車両故障発生” など）が表示されても、車両の異常ではなく、急速充電器（スタンド）・V2H 機器と車両間の通信異常である可能性があります。

この場合、急速充電コネクタ端子故障（接点不良）などが考えられます。

車両に異常がない場合は、急速充電器（スタンド）の管理者に連絡するか、V2H 機器に付属の取扱説明書を確認してください。

■急速充電器（スタンド）に表示される充電時間について

急速充電器（スタンド）によっては実際の充電時間より多めの充電時間が表示されることがありますが、故障ではありません。

■急速充電・V2H 充電／V2H 給電中は

- マルチインフォメーションディスプレイで、現在の充電状態を確認することができます。
ただし、V2H 充電中の充電時間は表示されません。
- 急速充電器（スタンド）での充電中、急速充電器（スタンド）に表示される充電時間と、実際の充電時間とは異なる場合があります。
- 急速充電中・V2H 充電／V2H 給電中は、ノイズの発生によりラジオが聞こえなくなる場合があります。
- 満充電に近づくと充電速度が低下して、充電完了までの時間が長くなります。
- 急速充電器（スタンド）の仕様により、満充電になる前に充電停止する場合があります。
- 駆動用電池の残量・外気温・充電器（スタンド）の仕様などの条件により、充電完了までの時間が変化する、または充電量上限まで到達する前に充電が停止する場合があります。
- 駆動用電池の容量の低下を防ぐため、ひんぱんな急速充電は避けることをおすすめします。
- 急速充電が終了したあとは、ほかの利用者のため、すみやかに急速充電スペースから移動してください。
- 寒冷時など、駆動用電池が冷えているときに急速充電・V2H 充電を行うと、モータールームから蒸気が出たり、ボンネットに結露ができたりします。駆動用電池の昇温時に発生した熱が雪や

氷、霜を蒸発させるため、故障ではありません。

- 満充電時に充電量を補正しているため、駆動用電池残量が 100% を表示しない場合があります。
- 急速充電時、満充電付近において、充電量の補正により駆動用電池残量が 100% となり、充電停止する場合があります。
- 駆動用電池残量の上限設定がある V2H 機器では、車両の上限設定を解除してください。車両で設定した充電量上限まで到達する前に充電が停止する場合があります。

■停電時の V2H 機器の利用について

V2H 機器の中には、停電時に機器起動のため、車両から電源供給を必要とするものもあります。その場合、DC 外部給電システム（→P.154）を使うことにより、車両の補機バッテリーから機器起動のための電力を供給することで、停電時にも電源供給を行うことができます。

停電時の V2H 機器の利用については、V2H 機器に付属の取扱説明書を確認してください。

■急速充電電力設定のしかた

マルチインフォメーションディスプレイ、またはセンターディスプレイで急速充電電力の上限を変更することができます。

▶マルチインフォメーションディスプレイでの設定操作

- 1  を選択し、“OK” を押す
- 2 “車両設定” を選択し、“OK” を押し続ける
- 3 “充電設定” を選択し、“OK” を押す
“充電設定” 画面が表示されます。
- 4 “急速充電電力” を選択し、“OK” を押す

“急速充電電力”画面が表示されます。

- 5 ご希望の値を選択し、“OK”を押す
▶ センターディスプレイでの設定操作

- 1  にタッチする
- 2 “EV・充電”にタッチする
- 3 “充電・給電設定”にタッチする
- 4 “急速充電電力”にタッチする
- 5 ご希望の値にタッチする

充電時の最大電力が選択した電力以下に制限されます。“MAX”を選択した場合、車両が充電可能な最大電力で充電されます。

■ 充電量上限設定のしかた

→P.102

■ 急速充電電力設定と充電量上限の設定 が変更できないとき

接続した急速充電コネクタを取りはずしてすぐに接続し直すと、急速充電電力設定と充電量上限の設定が初期設定に変更されます。

また、次回充電するときはカスタマイズした設定に戻ります。

警告

■ 急速充電・V2H 充電／V2H 給電するときの警告

充電するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 急速充電器（スタンド）・V2H 機器・急速充電インレットに破損箇所がないか確認する

急速充電インレットに破損箇所がある場合は絶対に急速充電・V2H 充電／V2H 給電を行わず、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

- 急速充電コネクタ・急速充電インレットの端子に手をふれたり、異物でショートさせたりしない

- 急速充電インレットに急速充電コネクタ以外のものを挿し込まない

- 急速充電コネクタ・急速充電インレットの端子に、金属製の鋭利なもの（針金や針など）でふれない

- ケーブルが折れ曲がったり、重いものの下敷きになったりしていないことを確認する

- 急速充電コネクタと急速充電インレットは、必ず直接接続する

急速充電コネクタと急速充電インレットとのあいだに、変換アダプターや延長コードなどを接続しないでください。

- 急速充電・V2H 充電／V2H 給電を中断するときは、急速充電器（スタンド）の取り扱い方法・V2H 機器に付属している取扱説明書に従う

急速充電中・V2H 充電／V2H 給電中に発熱・発煙・異音・異臭などを発見したときは、ただちに急速充電・V2H 充電／V2H 給電を中止してください。

- 急速充電コネクタ・急速充電インレットに異物がないか、または、雪・氷が付着していないか確認する

付着している場合は、急速充電コネクタを接続する前にしっかりと取り除いてください。

- 落雷の可能性がある天候のときは急速充電・V2H 充電／V2H 給電を行わない

急速充電中・V2H 充電／V2H 給電中、雷に気付いたときは、車両およびケーブルにさわらないでください。

- 急速充電インレットの端子部が濡れないようにする

警告

- 急速充電システムまたは V2H 充電／V2H 給電システムを使用するときは、ボンネットを閉める

冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ファンなど回転部分にふれたり、近づいたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ 急速充電コネクタを接続するとき

- 急速充電器（スタンド）・V2H 機器の取り扱い方法に従って急速充電コネクタを接続してください。急速充電コネクタが正しく接続されていない場合、システムがコネクタの接続を認識できず、EV システムを始動できてしまうことがあります。

- 急速充電中・V2H 充電／V2H 給電中に、急速充電インレットから急速充電コネクタを取りはずさないでください。急速充電器（スタンド）・V2H 機器を操作して充電を停止した後、急速充電インレットから急速充電コネクタを取りはずしてください。

注意

■ 急速充電・V2H 充電／V2H 給電するとき

必ず急速充電器（スタンド）・V2H 機器の取り扱い方法に従って、急速充電・V2H 充電／V2H 給電を行ってください。誤った取り扱いをすると、車両や急速充電器（スタンド）・V2H 機器などを損傷するおそれがあります。

急速充電・V2H 充電／V2H 給電したあとは

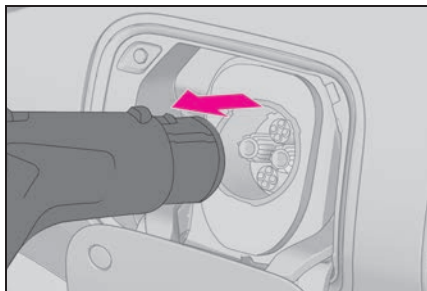
- 1 急速充電器（スタンド）・V2H 機器を操作して充電を停止する

- 2 急速充電コネクタを取りはずす
急速充電コネクタを取りはずすと、約 5 秒後に急速充電リッドは自動的に閉じます。

急速充電コネクタの形状や取り扱い方法などは、急速充電器（スタンド）・V2H 機器のタイプにより異なります。

急速充電器（スタンド）・V2H 機器の取り扱い方法に従って、作業を行ってください。

取りはずした急速充電コネクタは、もとの位置にもどしてください。



知識

- 急速充電後・V2H 充電／V2H 給電後、マルチインフォメーションディスプレイに“充電システム 確認のため 充電リッドを閉めてください 取扱書を確認”が表示されたとき

急速充電後・V2H 充電／V2H 給電後のシステムチェックが正常に終了しなかった場合は、ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを押しても、EV システムを始動できなくなります。

急速充電後・V2H 充電／V2H 給電後に EV システムを始動できなくなったときは

次の手順で充電システムのチェックを実施してください。

- 1 パーキングブレーキをしっかりとかけ、パワースイッチを OFF にする
- 2 急速充電リッドを閉める
- 3 パワースイッチを ON にする（パワースイッチを 1 回もしくは 2 回押す※）（→P.260）

マルチインフォメーションディスプレイに“パワー ON”と表示されていることを確認してください。

※ACC カスタマイズ機能の設定状態により異なります。

マルチインフォメーションディスプレイに“充電システム確認中”が表示されたことを確認してください。

充電システムのチェック中は、急速充電リッドを開けないでください。

充電システムチェックが終了すると、パワースイッチが自動で OFF になります。

- 4 ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを押し、READY インジケータが点灯することを確認する

充電システムのチェックを実施しても EV システムを始動できない場合は、レクサス販売店にご連絡ください。

■急速充電コネクタをアンロックできないとき

- 急速充電コネクタは、急速充電器（スタンド）・V2H 機器によりロックしています。
- 急速充電中・V2H 充電／V2H 給電中は急速充電コネクタをはずすことはできません。はずす必要があるときは急速充電・V2H 充電／V2H 給電を中止してください。急速充電・V2H 充電／V2H 給電が停止すると急速充電コネクタをはずすことができます。
- 急速充電・V2H 充電／V2H 給電が停止しても急速充電コネクタが抜けない

場合、急速充電器（スタンド）・V2H 機器に異常がある可能性があります。

- ・急速充電器（スタンド）に問題がある場合は、設備の管理者にご連絡ください。
- ・V2H 機器に問題がある場合は、V2H 機器の製造業者または販売業者にご連絡ください。

■急速充電・V2H 充電をしたあと

充電量上限で設定した値まで充電しても、急速充電器（スタンド）・V2H 機器に表示される充電量が実際の充電量より低く表示されることがあります。

⚠ 警告

■急速充電・V2H 充電／V2H 給電後の警告

急速充電・V2H 充電／V2H 給電完了後、EV システムを始動する前に、必ず急速充電コネクタを車両の急速充電インレットから取り外してください。もしコネクタが接続されたままの車両を発進させると、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■急速充電・V2H 充電／V2H 給電後の注意

急速充電インレットから急速充電コネクタを取りはずしたあとは、必ず急速充電リッドを閉めてください。

充電スケジュール機能を使う

充電スケジュールを登録しておくことで、ご希望の時刻に普通充電を実施することができます。



知識

■ 日時設定について

充電スケジュールは、車両の時計に従って動作します。

日時設定が誤っていると、充電スケジュール機能が正しく作動しくなくなります。

充電スケジュール設定でできること

充電スケジュールを登録する際は、次の各機能の設定が可能です。

■ 充電スケジュールモードの選択

次の 2 種類から充電スケジュールモードを選択できます。

● オート提案

日常の充電データから、簡単な操作でおすすめの充電スケジュールを設定することができます。(→P.112)

● マニュアル

充電する時刻・曜日をお客様ご自身で設定することができます。(→P.112)

充電スケジュールモード “オート提案” でできること

充電スケジュールモード “オート” を選択しているときは、次の各機能の設定が可能です。

■ 充電量上限と充電スケジュールの提案

日常の充電データに基づいた、おすすめ充電量上限の値と充電スケジュールを併せて提案します。

■ 充電履歴の表示

直近 3 回の駆動用電池の使用状況を表示します。

充電スケジュールモード “マニュアル” でできること

充電スケジュールモード “マニュアル” を選択しているときは、次の各機能の設定が可能です。

■ 充電モードの選択

次の 2 種類から充電モードを選択できます。

● 開始

設定した時刻に普通充電が開始され、満充電になると充電が終了します。

● 開始・終了

設定した開始時刻と終了時刻に従って普通充電を実施します。

■ 繰り返し設定

ご希望の曜日を選択することで、繰り返し充電が行われるように設定できます。充電を実施したい曜日を 1 つ以上選択してください。

■ 今すぐ充電の ON・OFF

充電スケジュールの登録内容を変更することなく充電を行いたいときは、“今すぐ充電” を ON にすることで、充電スケジュールが一時的に無効になり、普通充電コネクター接続後、普通充電を開始することができます。

充電スケジュールが登録されており、かつ今すぐ充電がONの時に普通充電コネクタを取り外した場合、今すぐ充電がOFFになります。

■ 次回充電予定

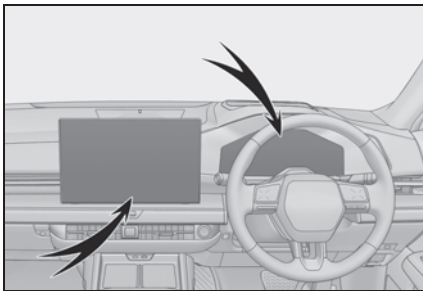
登録済みの充電スケジュールのうち、現在時刻以降で最も近い充電スケジュールを“次回充電予定”と呼びます。

充電スケジュールは、次回充電予定に従い、普通充電を実施します。

充電スケジュールを登録するには

マルチインフォメーションディスプレイ、またはディスプレイオーディオで、充電スケジュールを登録できます。

- マルチインフォメーションディスプレイでの設定操作：P.114
- センターディスプレイでの設定操作：P.117



知識

■ 充電スケジュール機能について

- 走行中に充電スケジュールの設定操作を行うことはできません。
- 充電スケジュールモードを“マニュアル”に設定しているときは、充電スケ

ジュールを最大で15件まで登録できます。

- 充電モードを“開始-終了”に設定し、開始時刻と終了時刻を同時刻に設定した場合、開始時刻から24時間充電を実施します。
- 充電スケジュール機能は、急速充電時・V2H充電／V2H給電時には使用できません。
- 普通充電コネクタが接続されているときは、充電スケジュールモードの変更はできません。

■ 充電スケジュール機能を正しく動作させるために

次のことをご確認ください。

- 時刻・曜日が正しく設定されていること※
- パワースイッチがOFFになっていること
- 充電スケジュールの登録後に普通充電コネクタを接続すること
- 開始時刻よりも前に普通充電コネクタを接続すること

普通充電コネクタを接続した時点の充電スケジュールを基に、充電の開始時刻が決定されます。

充電モードを「開始」に設定したときは、設定した開始時刻を過ぎてから普通充電コネクタを接続すると、次の充電スケジュールが参照されます。

- 充電モードが「開始-終了」の場合は、開始時刻を過ぎてから普通充電コネクタを接続すると、すぐに充電を開始し、終了時刻まで充電を実施します。
- 普通充電コネクタの接続後、充電ポートの充電インジケータが青色に点灯することを確認する（→P.77）
- 電力遮断機能（タイマー機能を含む）を持つコンセントで使用しない

常に電力が供給されているコンセントを使用してください。タイマー機能などで電力が遮断されるコンセントでは、設定されている時間帯に電力が遮断されるため、意図どおりに充電が行われない場合があります。

※ 時計や日付の設定のしかたについては、別冊 “マルチメディア取扱説明書” を参照してください。

■ 普通充電コネクタが車両に接続されたままの状態のとき

- 充電モードを “開始” に設定したときは、連続する複数の充電スケジュールが登録されていても、充電完了後に普通充電コネクタを取りはずして再接続するまで、次の充電は実施されません。また、駆動用電池が満充電のときは、充電は実施されません。
- 充電モードを “開始-終了” に設定したときは、満充電となる前に終了時刻に到達した場合、終了時刻以降で最も近い充電スケジュールを次回充電予定に更新して、満充電となるまで充電を繰り返して実施します。

■ スマートフォンとの連携について

G-Link サービスご契約のお客様は、アプリで充電設定の変更を行うことができます。詳しくは、別冊 “マルチメディア取扱説明書” を参照してください。

■ 充電スケジュールが無効になるとき

充電スケジュールの待機中に次の操作を行ったときは、充電スケジュールを一時的にキャンセルして、充電を開始します。

- リモートエアコンシステムを作動させたとき
- マイルームモード (→P.122) を開始したとき
- “今すぐ充電” を ON にしたとき (→P.116, 118)
- 充電スケジュールを一時的にキャンセ

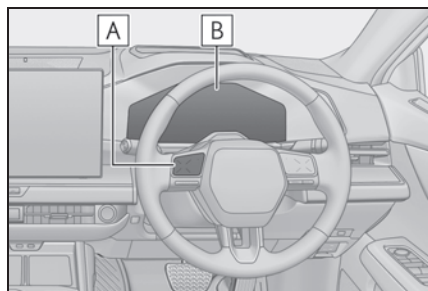
ルする操作を行ったとき (→P.101)

■ 駆動用電池ヒーター (→P.93) / 駆動用電池冷却 (→P.93) について

駆動用電池の温度によっては、充電スケジュールの待機中に駆動用電池ヒーターまたは駆動用電池冷却機能が作動し、充電インジケータが緑色に点滅する場合があります。

マルチインフォメーションディスプレイでの設定操作

充電スケジュール操作を行うときは、メーター操作スイッチを使用します。



A メーター操作スイッチ
(→P.177)

B マルチインフォメーションディスプレイ

■ “充電スケジュール” 画面を表示するには

- 1  を選択し、“OK” を押す
- 2 “車両設定” を選択し、“OK” を押し続ける
- 3 “充電設定” を選択し、“OK” を押す

“充電設定” 画面が表示されます。

- 4 “充電スケジュール” を選択し、“OK” を押す

“充電スケジュール” 画面が表示され

ます。

■ 充電スケジュールを登録するには

1 “充電スケジュール” 画面を表示する (→P.114)

2 “スケジュール設定” を選択し、“OK” を押す

“設定リスト” 画面が表示されます。

3 “追加” を選択し、“OK” を押す

“充電モード” 画面が表示されます。

4 “開始” または “開始・終了” を選択し、“OK” を押す

充電モード “開始” では、充電開始時間を設定できます。

充電モード “開始・終了” では、充電開始時間および充電終了時間を設定できます。

5 充電開始時間を選択し、“OK” を押す

手順 4 で充電モード “開始・終了” を選択した場合は、続けて充電終了時間を設定します。

6 繰り返し設定を有効にしたい曜日を選択し、“OK” を押す

“OK” を押すたびに、繰り返し設定の ON / OFF が切りかわります。

設定を ON にすると、選択した曜日に充電が繰り返し実施されます。複数の曜日に対して、繰り返し設定を ON にすることも可能です。

ご希望の設定に変更したら、“完了” を選択し、“OK” を押す

設定の保存を確認する画面が表示されます。

7 “保存” を選択し、“OK” を押す

設定した内容が保存されます。

設定の終了後、車両に普通充電コネクタを接続すると、設定内容に従って充電が実施されます。

■ 充電スケジュールの ON・OFF を切りかえるには

登録済みの充電スケジュールを無効 (OFF) にしたり、再度有効 (ON) にしたりできます。

1 “充電スケジュール” 画面を表示する (→P.114)

2 “スケジュール設定” を選択し、“OK” を押す

登録済みの充電スケジュールが一覧表示されます。

3 ON・OFF を切りかえたい設定の行を選択し、“OK” を押す

“OK” を押すたびに ON・OFF が切りかわります。

OFF に設定すると充電スケジュールが無効になり、充電スケジュール機能が実施されなくなります。

■ 充電スケジュールの登録内容を変更するには

登録済み充電スケジュールの登録内容を変更したり、削除したりすることができます。

1 “充電スケジュール” 画面を表示する (→P.114)

2 “スケジュール設定” を選択し、“OK” を押す

登録済みの充電スケジュールが一覧表示されます。

3 変更したい充電スケジュールを選択し、それぞれ必要な操作を行う

● 変更

“OK” を長押しし、“変更” を選択します。その後、“充電スケジュールを登録するには” (→P.115) の手順 4 以降

の操作要領で、ご希望の設定内容に変更します。

“保存”を押すと、変更内容が保存されます。

● 削除

“OK”を長押しし、“削除”を選択します。削除を確認する画面が表示されます。

“はい”を選択し、“OK”を押すと、選択した充電スケジュールが削除されます。

登録内容の削除を中止するときは、“いえ”を選択して“OK”を押します。

■ “今すぐ充電”をONにするには
次の2つのうち、いずれかの方法で
“今すぐ充電”の設定を変更できます。

▶ “充電スケジュール”画面での操作

1 “充電スケジュール”画面を表示する(→P.114)

2 “今すぐ充電”を選択し、“OK”を押す

“OK”を押すたびにON・OFFが切りかわります。

▶ エンディング画面での操作

1 パワースイッチをOFFにする
マルチインフォメーションディスプレイにエンディング画面が表示されます。
(充電スケジュールの待機中にドアを開けた場合にも、同様の画面が表示されます。)

2 “OK”を押して、“今すぐ充電”をONにする

“OK”を押すたびに、“今すぐ充電”のON・OFFが切りかわります。

設定の終了後、車両に普通充電コネ

クターを接続すると、普通充電が開始されます。(→P.99) ※

※ 充電スケジュールが登録されており、かつ今すぐ充電がONの時に普通充電コネクターを取り外した場合、今すぐ充電がOFFになります。

上記の方法でも“今すぐ充電”をONにできないときは、充電インジケーターが青色に点灯しているあいだに、接続した普通充電コネクターを取りはずして、すぐに接続し直すと“今すぐ充電”がONになります。

また、この操作をすると、充電電流と充電量上限の設定が一時的に初期設定になります。(→P.102)

■ “次回充電予定”を表示するには

1 “充電スケジュール”画面を表示する(→P.114)

2 “次回充電予定”を選択し、“OK”を押す

“次回充電予定”画面が表示されます。

知識

■ 充電スケジュールの設定操作が中断されるとき

車両が次の状態になると、充電スケジュールの設定操作が中断されます。

- 設定を確定する前にパワースイッチを操作したとき
- 車両が走行し始めたとき
- 充電スケジュール設定よりも優先度が高い画面が表示されたとき

■ 充電中に充電スケジュールを変更したとき

充電スケジュールを変更すると、次回充電予定が更新され、充電が停止することがあります。充電スケジュール変更後は、

次回充電予定をご確認ください。充電を継続したい場合は、“今すぐ充電”をONにしてください。



注意

■ 設定操作を行うとき

EVシステムが停止した状態で設定操作を行うときは、補機バッテリーあがりにご注意ください。

センターディスプレイでの設定操作※

※ センターディスプレイの詳しい操作方法については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

充電スケジュールに関する設定操作は、充電スケジュール画面上で行います。

■ “充電スケジュール” 画面を表示するには

- 1 パワースイッチをONにする※

※ ACCでは充電スケジュールの設定操作を行うことはできません。

- 2  にタッチする

- 3 “EV・充電” にタッチする

- 4 “充電スケジュール” にタッチする

“充電スケジュール” 画面が表示されます。

■ 充電スケジュールモードを設定するには

- 1 “充電スケジュール” 画面を表示する (→P.117)

- 2 設定している充電スケジュールモードにタッチする

“スケジュールモード” 画面が表示さ

れます。

- 3 “オート提案” または “マニュアル” にタッチする

■ 充電スケジュールモード “オート提案” のときに、充電量上限と充電スケジュールを登録するには

- 1 充電量上限と充電スケジュールの提案画面が表示されます

- 2 “確認” にタッチする

- 3 充電量上限の設定値と、駆動用電池の使用状況を確認する

- 4 提案された充電量上限と充電スケジュールを確認し、“適用” にタッチする

提案された充電量上限と充電スケジュールが保存されます。

■ 充電スケジュールモード “マニュアル” のときに、充電スケジュールを登録するには

- 1 “充電スケジュール” 画面を表示する (→P.117)

- 2 “スケジュール追加” にタッチする

“スケジュール追加” 画面が表示されます。

- 3 充電モードを選択する

“開始設定” または “開始 - 終了設定” にタッチします。

- 4 ご希望の時刻を設定する

充電モードが “開始設定” のときは普通充電を開始する時刻を、“開始 - 終了設定” のときは普通充電を開始および終了したい時刻を設定します。

- 5 繰り返し設定を有効にしたい曜日を選択する

複数の曜日に対して、繰り返し設定をONにすることも可能です。

チェックボックスを選択するたびに、選

択した曜日の繰り返し設定の ON・OFF が切りかわります。

- 6 すべての設定が終了したら、“保存” にタッチする

充電スケジュールが登録されます。

■ 充電スケジュールモード “マニュアル” のときに、充電スケジュールの ON・OFF を切りかえるには

- 1 “充電スケジュール” 画面を表示する (→P.117)
- 2 ON・OFF を切りかえたい充電スケジュールのボタンにタッチする

ON・OFF を切りかえたい充電スケジュールが画面上に表示されていないときは、リスト表示を上下にスクロールして、対象の充電スケジュールを表示させます。

ボタンを選択するたびに充電スケジュールの ON・OFF が切りかわります。

■ 充電スケジュールモード “マニュアル” のときに、充電スケジュールの登録内容を変更するには

- 1 “充電スケジュール” 画面を表示する (→P.117)
- 2 登録内容を変更したい充電スケジュールの  にタッチする

● 登録内容を変更するときは：

“充電スケジュールを登録するには” (→P.117) の手順 3 以降の操作要領で、ご希望の設定内容に変更する

● 登録内容を削除するときは：

“削除” にタッチする

削除を確認するメッセージが表示されます。

“削除” をタッチして、選択した充電スケジュールを削除します。

■ “今すぐ充電” を ON するには

- 1  にタッチする

- 2 “EV・充電” にタッチする

- 3 “今すぐ充電” ボタンにタッチする

ボタンを選択するたびに、“今すぐ充電” の ON・OFF が切りかわります。

設定の終了後、車両に普通充電コネクタを接続すると、普通充電が開始されます。(→P.99)

“充電スケジュール” 画面からも “今すぐ充電” を ON にできます。(→P.117)

上記の方法でも “今すぐ充電” を ON にできないときは、充電インジケータが青色に点灯しているあいだに、接続した普通充電コネクタを取りはずして、すぐに接続し直すと “今すぐ充電” が ON になります。

また、この操作をすると、充電電流と充電量上限の設定が一時的に初期設定になります。(→P.102)

■ 次回充電予定を表示するには

次の 2 つのうち、いずれかの方法で “次回充電予定” を表示できます。

▶ “充電スケジュール” 画面での表示方法

“充電スケジュール” 画面を表示する (→P.117)

設定された充電スケジュールに従って、次回充電予定が表示されます※。

※ メニュー内の “ACC カスタマイズ” のスイッチが OFF に設定されていない

いと、エンディング画面が表示されません。その場合は、センターディスプレイの設定内容を確認してください。

▶ “充電情報” 画面での表示方法

1 パワースイッチを ON にする

2  にタッチする

3 “EV・充電” にタッチする

充電スケジュールの待機中のみ、次回充電予定が表示されます



知識

■ 充電スケジュール設定操作が中断されるとき

車両が次の状態になると、充電スケジュール設定操作が中断されます。

- 設定を確定する前にパワースイッチを操作したとき
- 車両が走行し始めたとき
- 充電スケジュール設定よりも優先度が高い画面が表示されたとき

■ 充電中に充電スケジュールを変更したとき

充電スケジュールを変更すると、次回充電予定が更新され、充電が停止することがあります。充電スケジュール変更後は、次回充電予定をご確認ください。

充電を継続したい場合は、“今すぐ充電” を ON にしてください。

■ 充電スケジュールモード画面で“オート提案”が選択できないとき

オート提案には、約 1 か月程度の充電履歴の学習が必要です。充電の使い方次第では、提案に要する日数も増えます。



注意

■ 設定操作を行うとき

EV システムが停止した状態で設定操作を行うときは、補機バッテリーあがりにご注意ください。

バッテリープレコンディショニングを使う

バッテリープレコンディショニングを急速充電の実施前にあらかじめ設定することで駆動用電池の温度を充電に最適な状態に調整します。駆動用電池を充電に最適な温度にすることにより充電時間を短縮できます。

- 駆動用電池の温度を調整するときに電力を使用するため航続距離が短くなることがあります。
- 駆動用電池の充電量が低いときはバッテリープレコンディショニングを使用できないことがあります。

バッテリープレコンディショニング設定でできること

バッテリープレコンディショニングの設定では、次の機能の設定が可能です。

■ 走行中バッテリープレコンディショニング (→P.120)

ON にするとバッテリープレコンディショニングを開始して駆動用電池の温度を調整します。

■ ナビ連携バッテリープレコンディショニング (→P.120)

ナビゲーションシステムにて目的地に急速充電所を設定したとき、到着予想時刻に合わせて自動的にバッテリープレコンディショニングを ON にします。

- ナビの目的地設定方法や、急速充電所によっては作動しない場合が

あります。

- 交通状況、走り方によって到着時までに温度調整が完了しない場合があります。

■ 出発前バッテリープレコンディショニング (→P.121)

出発時間を設定しておくことで出発時間に合わせて事前に駆動用電池の温度を調整します。

この機能により、駆動用電池はより高速な充電速度に対応できるようになります。

走行中バッテリープレコンディショニングの ON / OFF を切りかえるには

1 パワースイッチを ON にする

2  にタッチする

3 “EV・充電” にタッチする

4 “プレコンディショニング” にタッチする

5 “走行中バッテリープレコンディショニング” を ON にする

ボタンをタッチするたびに “走行中バッテリープレコンディショニング” の ON・OFF が切りかわります。

ナビ連携バッテリープレコンディショニングの ON / OFF を切りかえるには

1 パワースイッチを ON にする

2  にタッチする

3 “EV・充電” にタッチする

- 4 “プレコンディショニング” にタッチする
- 5 “ナビ連携バッテリープレコンディショニング” を ON にする

ボタンをタッチするたびに“ナビ連携バッテリープレコンディショニング”の ON・OFF が切りかわります。

ナビ連携バッテリープレコンディショニングが ON のときに、ナビゲーションシステムで目的地に急速充電所を設定すると、バッテリープレコンディショニングが自動的に ON になります。

出発前バッテリープレコンディショニングを設定するには

■ スケジュール設定について

“出発前バッテリープレコンディショニング”は、センターディスプレイに表示される日時に従って実行されます。

現在の日時の情報は、GPS を利用して自動で設定されますが、センターディスプレイの設定で、時計の自動設定を OFF にした場合は、手動で日時の設定を行う必要があります。詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

時計の自動設定を OFF にしていると、“出発前バッテリープレコンディショニング”が正しく作動しないおそれがあります。

■ 出発前バッテリープレコンディショニングを登録するには

- 1 パワースイッチを ON にする
- 2  にタッチする
- 3 “EV・充電” にタッチする

- 4 “プレコンディショニング” にタッチする
- 5 “出発前プレコンディショニング” にタッチする

- 6 “追加” にタッチする
- 7 画面を操作して、ご希望の時刻を設定し“OK” にタッチする
- 8 繰り返し設定を有効にしたい曜日を選択し“OK” にタッチする

チェックボックスを選択するたびに、選択した曜日の繰り返し設定の ON・OFF が切りかわります。

- 9 すべての設定が終了したら、“保存” にタッチする

■ バッテリープレコンディショニング予定の設定を切りかえるには

- 1 パワースイッチを ON にする
- 2  にタッチする
- 3 “EV・充電” にタッチする
- 4 “プレコンディショニング” にタッチする
- 5 “出発前プレコンディショニング” にタッチする
- 6 表示されているリストの中から、ON・OFF を切りかえたいプレコンディショニング設定のボタンをタッチする

ON・OFF を切りかえたいプレコンディショニング設定が画面上に表示されていないときは、リスト表示を上下にスクロールして、プレコンディショニング設定を表示させます。

ボタンを選択するたびにプレコンディショニング設定の ON・OFF が切りかわります。

■ 出発前プレコンディショニングの登録内容を変更するには

- 1 パワースイッチを ON にする
- 2  にタッチする
- 3 “EV・充電” にタッチする
- 4 “プレコンディショニング” にタッチする
- 5 “出発前プレコンディショニング” にタッチする
- 6 画面に表示されているリストの中から、登録内容を変更したいプレコンディショニング設定にタッチする

● 登録内容を変更するときは：

“出発前バッテリープレコンディショニングを登録するには”
(→P.121) の手順 7 以降の操作要領で、ご希望の設定内容に変更する

● 登録内容を削除するときは：

“削除” にタッチする
削除を確認するメッセージが表示されます。

“削除” をタッチして、選択した充電スケジュールを削除します。

マイルームモードを使う

車両に充電ケーブルを接続した状態のとき、外部電源からの電力により、エアコンやオーディオなどの電装品を使用することができます。

マイルームモードを開始するには

- 1 車両に充電ケーブルを接続して充電を開始する
普通充電するとき：P.99
急速充電するとき：P.106
- 2 充電の実施中にパワースイッチを ON にする

マルチインフォメーションディスプレイにマイルームモードの設定画面が自動表示されます。

3 “はい” を選択する

マイルームモードが開始され、車内でエアコンやオーディオなどが利用可能になります。

マイルームモードを使用しないときは、“いいえ” を選択します。

マイルームモードを停止するときは、パワースイッチを OFF にします。

急速充電が完了すると、マイルームモードは自動的に停止します。

知識

■ 充電中のセンターディスプレイ表示について

充電中にパワースイッチを ON にしたあと、マイルームモードを選択しない状態が約 100 秒間続くと、パワースイッチが自動で OFF になります。

■マイルームモードの使用中は

次のようなことが起こる場合があります。

- 駆動用電池の残量が下限に達すると、マイルームモードが自動的に停止する
その場合は、駆動用電池の残量が増えるまでエアコンなどを操作できなくなります。いったんパワースイッチを OFF にし、駆動用電池の残量が回復したあとで、マイルームモードを使用してください。
- 駆動用電池の充電時間が長くなる
- 電波の状況によっては、ラジオに雑音が入る
- 普通充電中・充電完了後は、車載充電器が搭載されているモータールーム周辺が温かくなることがあります。
- パワーステアリング警告灯（黄色）及び EV システム異常警告灯が点灯することがありますが、異常ではありません。

■急速充電中のマイルームモード使用について

急速充電中にマイルームモードを使用するときは、使用しないときと比べて、充電完了時の充電量が低下します。

また、外気温が低く湿度が高い環境での急速充電は、エアコンが車内の除湿を優先するため、充電完了時の充電量がさらに低下する場合があります。充電量を優先する場合は冷房・除湿機能を OFF にしてください。（→P.469, 472）

■駆動用電池が満充電の状態でもマイルームモードを使用するとき

駆動用電池が満充電、かつ電力が供給されている普通充電コネクタが接続された状態で、パワースイッチを ON にすると、“充電リッド正常に閉まっています”というメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。その場合は、メーター操作スイッチの

を押すことで、マイルームモードの設

定画面が表示され、“マイルームモード”を選択することができます。

駆動用電池が満充電の状態でもマイルームモードを使用すると、駆動用電池量の電力が消費されることがあります。その場合は、再度充電を行うことがあります。

■マイルームモードに関するメッセージが表示されたとき

マイルームモードを開始しようとしたとき、またはマイルームモードの使用中に、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されたときは、それぞれ次のように対処してください。

- “ 駆動用電池残量不足 マイルームモード起動不可 ”

マイルームモードの開始に必要な駆動用電池の残量がない状態です。駆動用電池の残量が増えるまでしばらく待ってから、マイルームモードを開始してください。

- “ 駆動用電池残量不足 マイルームモードを終了します ”

駆動用電池の残量が不足しています。マイルームモードの使用を中止して、駆動用電池を充電してください。

- “ 駆動用電池残量低下 使用電力抑制下さい ”

駆動用電池への充電量よりも車内の電力消費量が多く、駆動用電池の残量が低下しています。※

- ・ 車内の電力消費状況が改善されない場合は、マイルームモードが終了します。
- ・ マイルームモードを継続したいときは、エアコンやオーディオなどの電源を OFF にして、駆動用電池の残量を増やしてください。

※ マルチメディアに表示される駆動用電池の残量表示画面で、マイルームモード中の電力収支の状況を確認できます。

 警告**■ マイルームモードの使用上の警告**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまや介護を必要とする方、
ベットを車内に残さないでください。
システムの自動停止等により車室内が高温または低温になり、熱中症・脱水症状・低体温症になるおそれがあります。また、ワイパーなどが使用できる状態になるため、誤操作による事故につながるおそれもあります。
- 車両の周囲の安全を十分に確認してから使用してください。

正常に充電できないときは

正しい手順に従って作業しても充電が開始されない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示された場合は、P.132 も併せて参照してください。

正常に普通充電できないとき

次の記載を参照して、それぞれ必要な処置を行ってください。

■ 電源プラグを外部電源に接続してもコントロールユニット上の電源インジケータが点灯しない

考えられる原因	対処方法
電源プラグがコンセントに正しく接続されていない	電源プラグがコンセントに正しく接続されているか確認してください。
停電している	停電の解消後、再度充電してください。
手元スイッチが OFF になっている	手元スイッチが設定されている場合は、スイッチを ON にしてください。
建物側のブレーカーが作動して電気が遮断されている	ブレーカーの接続状態を確認し、異常がない場合はほかのコンセントで充電可能かご確認ください。ほかのコンセントが近くにない場合はレクサス販売店にご相談ください。 充電できた場合、最初に接続したコンセントの異常が考えられます。建物・設備の管理者、または電気工事業者にご連絡ください。

上記のチェックで解消しない場合、普通充電ケーブル（電源プラグコードを含む）に断線等の可能性がありますので、ただちに充電を中止して、レクサス販売店にご連絡下さい。

■ コントロールユニット上のエラーインジケーターが点滅している

考えられる原因	対処方法
漏電検知機能、または自己診断機能が作動して電気が遮断された	電圧が不足している場合や、ノイズの影響を受けた場合などに、エラーインジケーターが点滅することがあります。いったん電源プラグをコンセントから抜き、正常な電源に接続しなおしてください。 (→P.81) 充電が開始されない場合は、ただちに充電を中止してレクサス販売店にご連絡ください。

■ 普通充電コネクタを接続しても充電ポートの充電インジケーターが緑色に点滅しない

考えられる原因	対処方法
普通充電コネクタが普通充電インレットに確実に接続されていない	普通充電コネクタの接続状態を確認してください。 ●普通充電コネクタを接続するときは、ロック解除ボタンにふれないように注意し、“カチッ”と音がするまで挿し込んでください。ロック解除ボタンを押しながら挿し込むと、正しく接続されないおそれがあります。 ●普通充電コネクタの接続後は、ロック解除ボタンが押し込まれておらず、充電ポートの充電インジケーターが緑色に点滅していることを確認してください。 普通充電コネクタが確実に接続されているのに充電ポートの充電インジケーターが緑色に点滅しない場合は、システムに異常があるおそれがあります。ただちに充電を中止して、レクサス販売店にご連絡ください。
すでに駆動用電池が満充電になっている	駆動用電池が満充電の場合、充電は行われません。

考えられる原因	対処方法
設定した充電量上限より駆動用電池残量が多い	充電量上限を現在の駆動用電池残量より高い値に設定して、再度充電してください。(→P.102)
普通充電器（スタンド）が作動しない	普通充電器（スタンド）に問題がある場合は、設備の管理者にご連絡ください。

■ 普通充電ポートの充電インジケータが緑色以外の色に点灯して充電できない

考えられる原因	対処方法
普通充電ポートの充電インジケータが青色に点灯しているとき※：充電スケジュールが登録されている	充電スケジュールを実施したい場合は、設定した時刻になるまでそのままお待ちください。 充電を開始したい場合は、“今すぐ充電”をONにしてください。(→P.116, 118)
充電ポートの充電インジケータが赤色に点灯しているとき※：外部電源、または車両に異常が発生している	パワースイッチがOFFの状態ではドアを開けると、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示されたメッセージの指示に従って、それぞれ対処してください。(→P.132)

※ 普通充電ポートの充電インジケータの色・点灯については、P.77を参照してください。

正常に急速充電・V2H 充電／V2H 給電できないとき

■ 急速充電・V2H 充電／V2H 給電が開始しない

考えられる原因	対処方法
急速充電コネクタが車両に正しく接続されていない	急速充電コネクタの接続状態を確認し、コネクタを確実にロックしてください。
急速充電コネクタが確実にロックされていない	接続状態に異常がないのに急速充電・V2H 充電／V2H 給電が開始されないときは、急速充電器（スタンド）または充電システムに異常がある可能性があります。 ●急速充電器（スタンド）に問題がある場合は、設備の管理者にご連絡ください。 ●V2H 機器に問題がある場合は、V2H 機器の製造業者または販売業者にご連絡ください。 ●急速充電器（スタンド）・V2H 機器に問題がない場合は、充電システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店にご連絡ください。
急速充電器（スタンド）・V2H 機器または車両のセルフチェック機能でエラーが検出された	急速充電器（スタンド）・V2H 機器、または充電システムに異常がある可能性があります。 ●急速充電器（スタンド）に問題がある場合は、設備の管理者にご連絡ください。 ●V2H 機器に問題がある場合は、V2H 機器の製造業者または販売業者にご連絡ください。 ●急速充電器（スタンド）・V2H 機器に問題がない場合は、充電システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店にご連絡ください。 ●EV システムを始動できなくなった場合は、レクサス販売店にご連絡ください。
急速充電器（スタンド）・V2H 機器の電源が OFF になっている	●急速充電器（スタンド）の管理者に連絡して、電源状態をご確認ください。 ●V2H 機器の取扱説明書を確認するなど、電源状態をご確認ください。

考えられる原因	対処方法
すでに駆動用電池が満充電になっている	駆動用電池が満充電の場合、充電は行われません。
普通充電コネクタも接続している	普通充電と急速充電・V2H 充電／V2H 給電を同時に行うことはできません。
EV システムが始動している	EV システムが始動していると、急速充電・V2H 充電／V2H 給電を開始できません。 また、シフトポジションがPでないと急速充電システムまたはV2H 充電／V2H 給電システムを使用できません。
設定した充電量上限より駆動用電池残量が多い	充電量上限を現在の駆動用電池残量より高い値に設定して、再度充電してください。 (→P.102)
繰り返し急速充電・V2H 充電／V2H 給電を行った	EV システムを始動させた状態でしばらく待ってから、EV システムを停止して、再度充電してください。

■ 急速充電・V2H 充電／V2H 給電が途中で停止する

考えられる原因	対処方法
急速充電器（スタンド）・V2H 機器のタイマーが作動した	急速充電器（スタンド）またはV2H 機器によっては、一定時間で充電が停止するようにタイマーが設定されている場合があります。急速充電器（スタンド）の管理者に確認するか、V2H 機器に付属の取扱説明書を確認してください。
急速充電器（スタンド）・V2H 機器の電源が OFF になった	急速充電器（スタンド）またはV2H 機器の電源状態を確認してください。電源の状態が不明な場合は、急速充電器（スタンド）の管理者に連絡するか、V2H 機器に付属の取扱説明書を確認してください。
駆動用電池の温度が極端に高い、または極端に低い	極端な高温、または極低温の環境下では、急速充電またはV2H 充電／V2H 給電できない場合があります。気温が安定してから急速充電・V2H 充電／V2H 給電を実施してください。

考えられる原因	対処方法
急速充電器（スタンド）・V2H 機器または車両のセルフチェック機能でエラーが検出された	急速充電器（スタンド）・V2H 機器または充電システムに異常がある可能性があります。 ●急速充電器（スタンド）に問題がある場合は、設備の管理者にご連絡ください。 ●V2H 機器に問題がある場合は、V2H 機器に付属の取扱説明書を確認してください。 ●急速充電器（スタンド）・V2H 機器に問題がない場合は、充電システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店にご連絡ください。 ●EV システムを始動できなくなった場合は、レクサス販売店にご連絡ください。
充電関連部品の温度が高い	充電関連部品の温度が高いと急速充電・V2H 充電／V2H 給電できない場合があります。しばらく時間をあけてから再度急速充電・V2H 充電／V2H 給電をおこなってください。
満充電付近で車両のエアコンや電装品の使用を停止した	車両のエアコンや電装品が OFF の状態で、再度急速充電・V2H 充電／V2H 給電してください。

■ 急速充電後・V2H 充電／V2H 給電後に EV システムが始動できなくなった

考えられる原因	対処方法
急速充電後・V2H 充電／V2H 給電後の充電システムチェックが正常に終了しなかった	P.110 の手順でシステムチェックを実施してください。再試行してもシステムチェックが正常に終了しない場合は、レクサス販売店にご連絡ください。

考えられる原因	対処方法
急速充電コネクタが接続されたままになっている	急速充電コネクタが接続されているときは、安全のため、EVシステムを始動することができません。(→P.96) 急速充電・V2H 充電／V2H 給電終了後は、すみやかに急速充電コネクタを取りはずしてください。
急速充電システムまたは V2H 充電／V2H 給電システムが故障した	●故障の原因によっては、システムチェック終了後に EV システムを始動できる場合があります。(→P.110) ●始動できない場合は、レクサス販売店にご連絡ください。

充電スケジュール機能が正常に作動しないとき

次の記載を参照して、それぞれ必要な処置を行ってください。

■ 希望の時刻に充電が開始しない

考えられる原因	対処方法
車両の時刻と曜日が正しく設定されていない	正しい時刻と曜日に設定してください。
車両に普通充電コネクタが接続されていない	充電スケジュールを使用する際は、あらかじめ普通充電コネクタを接続しておいてください。
設定した開始時刻を過ぎてから普通充電コネクタを接続した	充電モードが“開始”の場合は、設定した開始時刻よりも前に普通充電コネクタを接続してください。 充電モードを“開始終了”に設定した場合は、終了時刻よりも前に普通充電コネクタを接続すれば、開始時刻を過ぎていても充電します。

■ スマートフォンのアプリケーションから充電スケジュールの変更ができない

考えられる原因	対処方法
スマートフォンが通信圏外にある ※	電波状態を確認し、通信圏外になっている場合は電波の状況がよい場所へ移動してください。

※ 次回の充電予定を変更するには、スマートフォン専用アプリが必要です。

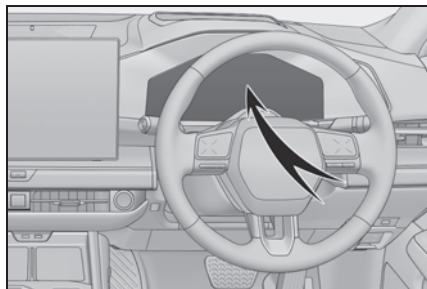
■ 充電スケジュールを登録してあるのに充電が開始される

考えられる原因	対処方法
“今すぐ充電” が ON になっている	充電スケジュール機能を使用する際は、“今すぐ充電” を OFF に設定してください。(→P.116, 118)
充電スケジュールが OFF になっている	充電スケジュールが OFF に設定されていないか確認してください。(→P.115, 118)
充電モードが“開始・終了”に設定されており、かつ開始時刻と終了時刻のあいだに普通充電コネクタを接続した	充電モードが“開始・終了”のときは、開始時刻を過ぎて普通充電コネクタを接続すると、終了時刻まで充電が実施されます。充電スケジュールを確認してください。
充電ポートの充電インジケータが青色に点灯しているときに普通充電コネクタを抜き挿しした	充電インジケータが青色に点灯しているときに普通充電コネクタを抜き挿しすると、充電スケジュールがキャンセルされます(→P.101)。いったん普通充電コネクタを取りはずして、再度、接続し直してください。
マイルームモード、またはリモートエアコンシステムを作動させた	マイルームモード、またはリモートエアコンシステムを作動させると、充電スケジュールが登録されていても、充電が開始されます。充電スケジュールを実施したい場合は、それぞれの機能を停止してから、接続し直してください。

充電に関するメッセージが表示されたときは

充電後にパワースイッチが OFF の状態でドアを開けると、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

その場合は、メッセージの指示に従って、それぞれ必要な処置を行ってください。



■ “充電コネクタ操作により充電停止しました” と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
普通充電中に普通充電コネクタを取りはずした	普通充電中に普通充電コネクタを取りはずすと、充電は中断されます。充電を継続する場合は、再度コネクタを接続してください。
普通充電で満充電になったあと、電力を消費する機能※が作動したことで低下した駆動用電池残量を補うための再充電時に、普通充電コネクタを取りはずした	
普通充電中に普通充電コネクタのロック解除ボタンを押した	普通充電中にロック解除ボタンを押し続けると、充電が停止します。充電を続ける場合は、普通充電コネクタを接続し直してください。

※ 駆動用電池ヒーター（→P.93）・リモートエアコンシステムが作動すると、電力が消費されます。また、マイルームモード（→P.122）の使用も、電力を消費します。

■ “充電完了しました（駆動用電池温度による制限）” と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
駆動用電池が高温の状態が続いたため、駆動用電池の保護のために充電が終了した	ご希望の充電量に到達していないときは、駆動用電池が冷えてから再度、充電を行ってください。

■ “ 停電または電源プラグ抜けにより充電停止しました ” と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
外部電源からの電源供給に問題がある	次の点をご確認ください。 ●電源プラグが抜けていないか ●手元スイッチが OFF になっていないか ●コントロールユニット上の電源インジケータが点灯しているか ●ブレーカーが落ちていないか 以上の点に問題がない場合は、建物のコンセントなどに問題がある可能性があります。電気工事業者に点検を依頼してください。（充電設備のご利用時に問題が生じた場合は、設備の管理者にご連絡ください） 電源経路に問題がないのに充電できない場合は、システムの異常が考えられます。レクサス販売店で点検を受けてください。 なお、コントロールユニット上のエラーインジケータが点滅している場合は、漏電の可能性があります。レクサス販売店にご相談ください。
普通充電器（スタンド）が充電を停止した	●普通充電器（スタンド）の仕様により、電源供給が停止されることで充電中止となることがあります。例えば、次のような場合があります。普通充電器（スタンド）の取り扱い説明をご確認ください。 ・ 普通充電器（スタンド）の停止ボタンを押した ・ 普通充電器（スタンド）に充電スケジュール機能がある ・ 普通充電器（スタンド）が車両の充電スケジュール機能に対応していない ●この車両に装備されている普通充電ケーブルでの充電が可能かどうかご確認ください。レクサス純正の普通充電ケーブルを使用しても充電できない場合は、レクサス販売店にご相談ください。

■ “充電設備の要因により充電停止しました” と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
普通充電器（スタンド）が車両に適合していない	この車両に装備されている普通充電ケーブルでの充電が可能かご確認ください。 レクサス純正の普通充電ケーブルを使用しても充電できない場合は、レクサス販売店にご相談ください。
急速充電器（スタンド）・V2H 機器が故障している	本メッセージが表示された場合は、急速充電器（スタンド）・V2H 機器が故障しているおそれがあるため、その急速充電器（スタンド）・V2H 機器は使用しないでください。他の急速充電器（スタンド）・V2H 機器での充電が可能かご確認ください。
急速充電器（スタンド）・V2H 機器が車両に適合していない	他の急速充電器（スタンド）・V2H 機器で充電しても本メッセージが表示されて充電ができない場合は、数 km 走行してから別の急速充電器（スタンド）・V2H 機器で充電してください。

■ “AC 供給電源の要因により充電停止しました” と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
外部電源からの電源供給に問題がある	次の点をご確認ください。 ●電源プラグがしっかりと挿し込まれているか ●延長コードを使用したり、分岐用コンセントに接続したりしていないか ●専用回線に接続されているか ●停電が発生していないか ●外部電源の供給電圧が低下していないか 以上の点に問題がない場合は、建物のコンセントなどに問題がある可能性があります。電気工事業者に点検を依頼してください。（充電設備のご利用時に問題が生じた場合は、設備の管理者にご連絡ください） 電源経路に問題がないのに充電できない場合は、システムの異常が考えられます。レクサス販売店で点検を受けてください。
普通充電器（スタンド）が充電を停止した	この車両に装備されている普通充電ケーブルでの充電が可能かご確認ください。 レクサス純正の普通充電ケーブルを使用しても充電できない場合は、レクサス販売店にご相談ください。

■ “電装品の電力消費大のため充電停止しました” と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
車両の電装品によって電力が消費されている	次の点をご確認の上、再度充電してください。 ●ヘッドランプやオーディオなどが ON になっている場合は、OFF にしてください。 ●パワースイッチを OFF にしてください。 以上を実施しても充電できない場合は、補機バッテリーの充電不足が考えられます。EV システムを約 15 分以上作動させて、補機バッテリーを充電してください。

■ “システムの要因により充電停止しました” と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
充電システムに異常が発生した	レクサス販売店で点検を受けてください。

■ “駆動用電池が低温になりました 電池保護のため充電を優先しました” と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
駆動用電池の保温制御が作動している (→P.93)	駆動用電池の保温制御が作動すると、充電スケジュールの設定が無効になり、充電を開始します。 これは、駆動用電池を保護する制御のため、故障ではありません。

■ “充電システム確認のため充電リッドを閉めてください 取扱書を確認” と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
急速充電時・V2H 充電／V2H 給電時の充電システムチェックが正常に終了しなかった	この場合は、充電システムチェックが正常に終了するまで、EV システムを始動できなくなります。P.110 の記載に従って、充電システムのチェックを実施してください。

■ “充電終了時間に達したため充電停止しました” と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
急速充電器（スタンド）の制限時間内に急速充電が完了しなかった	急速充電器（スタンド）によっては、一定時間で充電が停止するように、タイマーが設定されている場合があります。急速充電器（スタンド）の管理者に確認してください。
	車両の状態によっては、充電時間が長くなり、制限時間内に急速充電が完了しない場合があります。 ●エアコンやヘッドランプ、オーディオなどの電源が ON のため、消費電力が大きいです。電装品の電源を OFF にしてから、急速充電を行ってください。 ●駆動用電池の温度が低い可能性があります。駆動用電池が温まってから急速充電を行ってください。

AC 外部給電システムについて

普通充電インレットに給電用コネクタ（ヴィークルパワーコネクタ）※を取り付け、外部給電開始操作を行うことで、AC100Vで消費電力の合計が1500W以下※の電気製品を使用することができるシステムです。

車両から屋外での外部給電が可能という点で一般家庭のコンセントと異なるため、取り扱いには注意が必要です。

ご使用前に、必ずここで説明している内容をよくお読みいただいた上で、正しく取り扱ってください。

AC 外部給電を使用している場合は、アクセサリコンセントを使用することができません。

※ 安全にお使いいただくために、レクサス純正ヴィークルパワーコネクタを使用してください。

AC 外部給電モードについて

■ EV 給電モード

駆動用電池に蓄えられている電力のみを使用して AC 外部給電を行います。外部給電可能な駆動用電池の残量を下まわると、外部給電を終了します。

駐車中に使用するときの重要確認事項

必ず、給電作業前に次の点をご確認

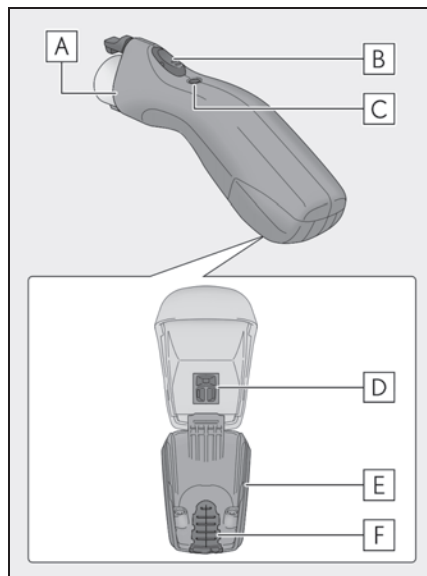
ください。

- 急速充電を行っていないこと
- DC 外部給電または V2H 給電を行っていないこと
- 地面が固く平らな場所に駐車すること

輪止めの使用をおすすめします。輪止めはレクサス販売店で購入することができます。

- ボンネットが閉まっていること
- パーキングブレーキがかかっていること
- シフトポジションが P になっていること
- パワースイッチが OFF になっていること
- 給電中はオートアラームを設定することができません。盗難を防ぐために、車内やトランク内に貴重品などを放置しないこと

ヴィークルパワーコネクタ各部の名称



- A** ヴィークルパワーコネクタ
- B** ロック解除ボタン
- C** 電源スイッチ
- D** 車外コンセント
- E** 防水カバー
- F** 防水ゴム

AC 外部給電システムを使用するには

■ マルチインフォメーションディスプレイでの操作

- 1 ブレーキペダルを踏まずに、パワースイッチを ON にする（パワースイッチを 1 回もしくは 2 回押す※）（→P.260）

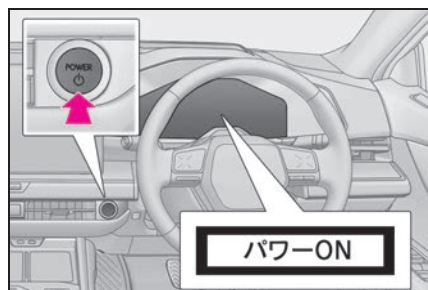
マルチインフォメーションディスプレイに“パワー ON”と表示されているこ

とを確認してください。

※ ACC カスタマイズ機能の設定状態により異なります。

ブレーキペダルを踏んだままパワースイッチを押し、READY インジケーターが点灯した場合、AC 外部給電システムは使用できません。

ON にしたあとは、シフトポジションを操作しないでください。シフトポジションが P でないと、AC 外部給電システムを使用できません。



- 2 始動操作に関するアドバイス画面が表示されたときは、 を押して前の画面にもどす

一定時間、メーター操作スイッチを操作しないと、始動操作に関するアドバイス画面が再表示されます。その場合は、そのつど を押して前の画面にもどしてください。



- 3 を選択し、“OK” を押す

- 4 “車両設定” を選択し、“OK” を押し続ける
- 5 “外部給電” を選択し、“OK” を押す

外部給電モードの選択画面が表示されます。

- 6 外部給電モードを選択し、“OK” を押す※¹

外部給電モードの選択画面上に、外部給電可能時間の目安が表示されます。※²

※¹ 駆動用電池の残量が低下しているときは、EV 給電モードを選択できません。

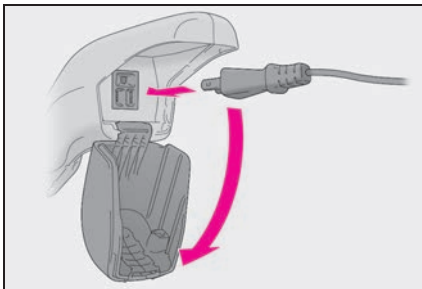
※² 使用する電気製品や使用環境などにより、表示されている時間と実際の外部給電可能時間が異なる場合があります。

- 7 操作ガイド画面の表示に従う
- 8 ヴィークルパワーコネクタを用意する

ヴィークルパワーコネクタに異常がないことを確認してください。(→P.150)

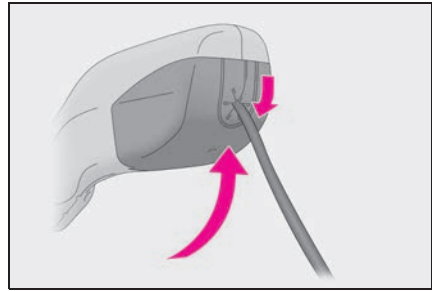
- 9 ヴィークルパワーコネクタの防水カバーを開け、使用する電気製品の電源プラグを車外コンセントに接続する

電源プラグは奥までしっかり挿し込んでください。(→P.145)



- 10 防水ゴムに電源コードを通し、防水カバーを閉じる

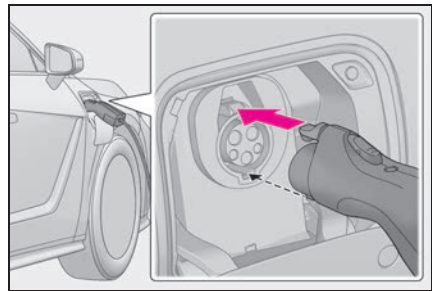
防水カバーがロックされたことを確認してください。(→P.147)



- 11 普通充電リッドを開ける(→P.75)
- 12 ヴィークルパワーコネクタを普通充電インレットに接続する

ヴィークルパワーコネクタの下側にあるガイドの位置を合わせて、まっすぐにいっぱいまで挿し込み、“カチッ”という音がして、確実に接続されたことを確認してください。

ヴィークルパワーコネクタを挿し込むと、自動的にロックされます。

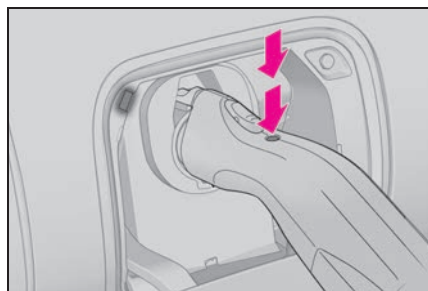


- 13 ヴィークルパワーコネクタの電源スイッチを2回連続で押す

充電ポートの充電インジケーターが緑色に点滅します。(→P.77)

電源スイッチを2回連続で押す間隔が3秒以上空いたり、2回よりも多く押したりした場合は、AC 外部給電は開始され

ません。



14 充電インジケータが緑色に点滅したら、接続した電気製品の電源を ON にする

AC 外部給電中は、マルチインフォメーションディスプレイやセンターディスプレイの表示で、現在の外部給電状況をお知らせします。

■ センターディスプレイでの操作

- 1 ブレーキペダルを踏まずに、パワースイッチを ON にする（パワースイッチを 1 回もしくは 2 回押す ※）（→P.260）

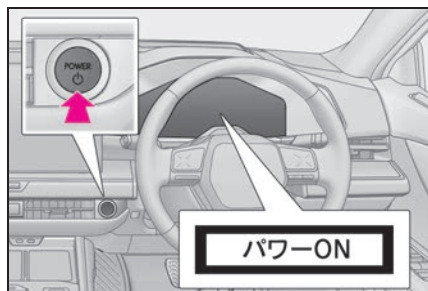
マルチインフォメーションディスプレイに“パワー ON”と表示されていることを確認してください。

※ ACC カスタマイズ機能の設定状態により異なります。

ブレーキペダルを踏んだままパワースイッチを押し、READY インジケータが点灯した場合、AC 外部給電システムは使用できません。

ON にしたあとは、シフトポジションを操作しないでください。シフトポジションが P でないと、AC 外部給電システム

を使用できません。



- 2 センターディスプレイの  にタッチする

- 3 “EV・充電” にタッチする

- 4 “外部給電” にタッチする

- 5 外部給電モードを選択する ※1

外部給電モードの選択画面上に、外部給電可能時間の目安が表示されます。※2

※1 駆動用電池の残量が低下しているときは、EV 給電モードを選択できません。

※2 使用する電気製品や使用環境などにより、表示されている時間と実際の外部給電可能時間が異なる場合があります。

EV 給電モードを選択した場合：操作ガイドの画面の表示に従ってください。

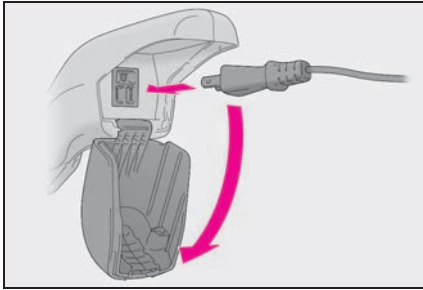
- 6 ヴィークルパワーコネクタを用意する

ヴィークルパワーコネクタに異常がないことを確認してください。（→P.150）

- 7 ヴィークルパワーコネクタの防水カバーを開け、使用する電気製品の電源プラグを車外コンセントに接続する

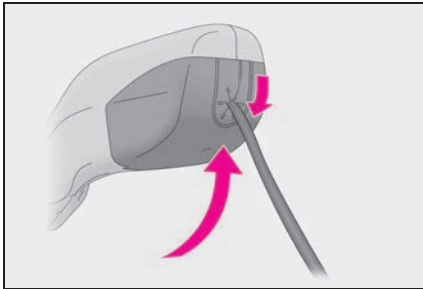
電源プラグは奥までしっかり挿し込んで

ください。(→P.145)



8 防水ゴムに電源コードを通し、防水カバーを閉じる

防水カバーがロックされたことを確認してください。(→P.147)



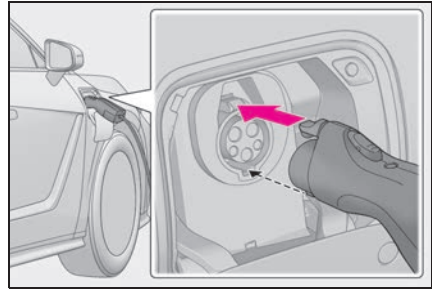
9 普通充電リッドを開ける (→P.75)

10 ヴィークルパワーコネクタを普通充電インレットに接続する

ヴィークルパワーコネクタの下側にあるガイドの位置を合わせて、まっすぐにいっぱいまで挿し込み、“カチッ”という音がして、確実に接続されたことを確認してください。

ヴィークルパワーコネクタを挿し込むと、

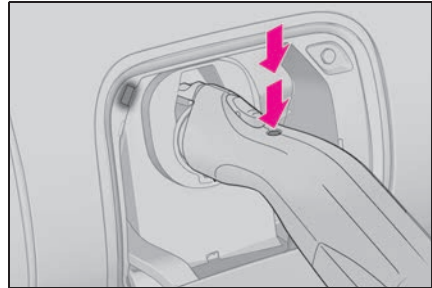
自動的にロックされます。



11 ヴィークルパワーコネクタの電源スイッチを2回連続で押す

充電ポートの充電インジケータが緑色に点滅します。(→P.77)

電源スイッチを2回連続で押す間隔が3秒以上空いたり、2回よりも多く押し続けた場合は、AC 外部給電は開始されません。



12 充電インジケータが緑色に点滅したら、接続した電気製品の電源をONにする

AC 外部給電中は、マルチインフォメーションディスプレイやセンターディスプレイの表示で、現在の外部給電状況をお知らせします。

知識

■ 外部給電モードの選択画面の表示方法

次の手順でも外部給電モードの選択画面を表示することができます。

- 1 普通充電リッドを開け、ヴィークルパワーコネクタを普通充電インレットに接続する
- 2 ブレーキペダルを踏まずに、パワースイッチを ON にする（パワースイッチを 1 回もしくは 2 回押す※）
（→P.260）

マルチインフォメーションディスプレイに“パワー ON”と表示されていることを確認してください。

※ ACC カスタマイズ機能の設定状態により異なります。

■ 給電量下限設定のしかた

マルチインフォメーションディスプレイまたはセンターディスプレイで、給電後の駆動用電池残量の下限を設定することができます。

給電量下限で設定した値は AC 外部給電、DC 外部給電共通です。

▶ マルチインフォメーションディスプレイでの設定操作

- 1  を選択し、“OK” を押す
 - 2 “車両設定” を選択し、“OK” を押し続ける
 - 3 “充電設定” を選択し、“OK” を押す
- “充電設定” 画面が表示されます。
- 4 “給電量下限” を選択し、“OK” を押す
- “給電量下限” 画面が表示されます。

- 5 ご希望の値を選択し、“OK” を押す

▶ センターディスプレイでの設定操作

- 1  にタッチする
- 2 “EV・充電” にタッチする
- 3 “充電・給電設定” にタッチする
- 4 “給電量下限” にタッチする
- 5 ご希望の値にタッチする

外気温によっては、駆動用電池の残量が設定した給電量下限まで低下する前に外部給電が停止する場合があります。

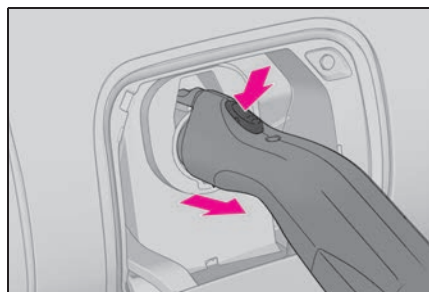
AC 外部給電を停止するときは

- 1 使用している電気製品の電源を OFF にする
- 2 コネクターアンロックスイッチを押して、ヴィークルパワーコネクタをアンロックする（→P.85）
- 3 ロック解除ボタンを押しながら手前に引いて、ヴィークルパワーコネクタを取りはずす

ヴィークルパワーコネクタを取りはずすと、約 5 秒後に普通充電リッドは自動的に閉じます。

パワースイッチが自動で OFF になります。

ロック解除ボタンを押すだけでも、AC 外部給電は停止します。また、パワースイッチを押して、AC 外部給電を停止することもできます。



- 4 車外コンセントから電源プラグを取りはずす

ヴィークルパワーコネクタと電気製品を片付けてください。

電気製品の電源プラグを接続するとき

■ 電源プラグを接続するとき

各電気製品の取扱説明書に記載されている注意事項に従ってください。

電源プラグをコンセントに接続する前に、電気製品の電源が OFF になっていることを確認してください。

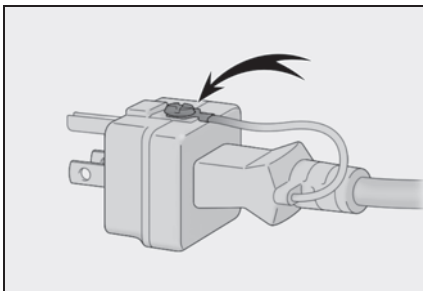
- 1 防水カバーを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり差し込む

電源プラグが半挿しの状態にならないようにしてください。

次の場合は、延長ケーブルなどを使用し、電源プラグを確実に接続してご使用ください。

- 電源プラグが大きくコンセントの奥までしっかり差し込めない
- 電源プラグが重くコンセントから抜けるおそれがある

アース線のある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線を変換アダプターのアース端子に接続してください。



AC 外部給電に関する情報の表示

AC 外部給電システムの使用中は、

マルチインフォメーションディスプレイやセンターディスプレイに外部給電中画面が表示され、外部給電可能時間※などの情報を確認することができます。

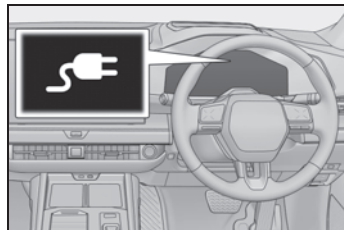


※ 表示される時間は 400W 消費時の目安であり、電気製品の使用状況や、使用環境などにより実際の外部給電可能時間が異なる場合があります。

□ 知識

■ ヴィークルパワーコネクタが接続されているとき

ヴィークルパワーコネクタが接続された状態でドアを開けるまたはパワースイッチを ON にすると、メーターの充電コネクタ接続表示灯（プラグ形状）が点灯し、ヴィークルパワーコネクタが接続されていることをお知らせします。



■ AC 外部給電システムについて

- AC100Vで消費電力の合計が1500W以下の電気製品を使用してください。規定容量をこえる電気製品を使用すると、保護機能が働き、給電機能が停止する

ことがあります。

- 消費電力が大きな電気製品（ホットプレートなど）の中には、コンセントを単独で使うことを必須としているものがあります。
その場合は、他の電気製品と併用しないでください。
- 複数の電気製品に給電する場合、電気製品によっては正常に作動しない可能性があります。
その場合は、単独で電気製品を使用してください。
- コンセントの使用時、使用する電気製品によっては、大きな電流が流れ、瞬間電力が1500Wをこえるときがあります。この場合は、保護機能が働き、給電機能が停止することがあります。
- コンセントの使用時、使用する電気製品によっては、テレビやラジオに雑音が入ることがあります。
- AC外部給電を開始した時点で、いったんエアコンがOFFになります。AC外部給電中にエアコンを使用したい場合は、エアコンの操作スイッチを操作して、エアコンを作動させてください。※

※AC外部給電中にエアコンを使用すると、マルチインフォメーションディスプレイやセンターディスプレイに表示される外部給電可能時間と実際の外部給電時間が異なる場合があります。

■エアコンの使用について

エアコンの作動が制限され、暖房が効きにくくなる場合がありますが、故障ではありません。

■正しく作動しないおそれがある電気製品

次のような電気製品は、消費電力の合計が1500W以下でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時の電力が大きい電気製品

- 取扱説明書などに記載されている消費電力よりも大きな供給電力を必要とする電気製品

- 精密なデータ処理をする計測機器

- きわめて安定した電力供給を必要とする電気製品

- タイマー設定する機器など、コンセントの出力が連続して必要な電気製品

■スマートフォンとの連携について

G-Link サービスご契約のお客様は、アプリでAC外部電源供給システムに関する情報を確認したり、一部の操作を行ったりすることができます。詳しくは、別冊“マルチメディア取扱説明書”を参照してください。

■AC外部給電システムの使用中は

- スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠・解錠することはできません。
- ワイヤレスリモコンでドアの施錠・解錠をすることができます。使用する電気製品から発生するノイズにより、正常に動作しない場合があります。
- ドアの開閉などにより、プザーが鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに“キーが見つかりません”と表示されたりすることがあります。電子キーを携帯していることを確認してください。
- 給電中に周囲が暗くなると、自動でヘッドランプなどが点灯します。ランプを消灯したいときは、P.278を参照してください。

■AC外部給電中のいたづらなどを防ぐために

普通充電コネクタと同様に、ヴィークルパワーコネクタを挿し込むと、自動的にヴィークルパワーコネクタをロックできます。(→P.85)

■ ヴィークルパワーコネクタをアンロックできないとき

→P.86

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

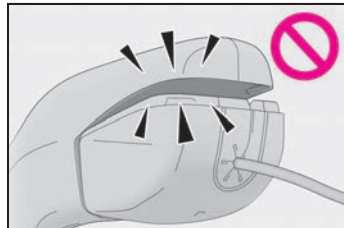
- レクサス純正ヴィークルパワーコネクタを使用してください。
- 給電システムの使用中は、お子さまや介護を必要とする方、ペットを車内に残さないでください。エアコンを使用していても、システムの自動停止等により室内が高温、または低温になる場合があります。熱中症・脱水症状・低体温症になるおそれがあります。
- お子さまなど、不慣れな方だけで給電作業を行わないでください。また、ヴィークルパワーコネクタは幼児の手の届かない場所で保管してください。
- ぬれた手で電気製品の電源プラグを抜き差ししたり、ピンなどをヴィークルパワーコネクタの端子・コンセントに挿したりしないでください。また、コンセントに雨水・飲料水・雪などが付着した場合は乾燥させてから使用してください。
- ヴィークルパワーコネクタの改造・分解・修理・塗装などはしないでください。修理についてはレクサス販売店にご相談ください。
- コンセントに液体やほこりが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。

- コンセントへは電源プラグ本体を持って抜き差しをし、プラグの刃にふれないようにしてください。コードを引っ張って電源プラグを抜くと、電源プラグやコードが損傷するおそれがあります。

- 車外コンセントが水没または雪に埋もれている場合は、電源プラグを挿さない。

すでに電源プラグが挿してあり、抜く必要がある場合は、まずパワースイッチを OFF にし、ヴィークルパワーコネクタを車両から取りはずしたあと、電源プラグを抜いてください。

- 車外コンセントに電源プラグを接続したあとは、防水カバーを閉じる。確実にロックがかかるまで閉じてください。防水カバーがロックできないような大きな電源プラグは使用しないでください。



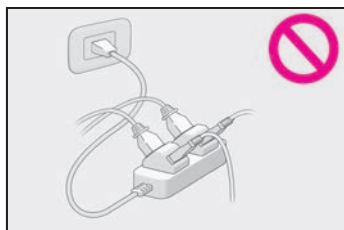
- ヴィークルパワーコネクタの上に重量物を置いたり、ものを引っかけたりしない。



警告

- コードやコンセントに異常な発熱を感じたらただちに使用を中止してください。また、コードやコンセントの発熱を防ぐために、次のことをお守りください。

- ・コンセントに、分岐用コンセントを複数接続しない



- ・コードリールを使用する場合、コードはリールからすべて引き出す

- アース線のある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線を変換アダプターのアース端子に接続してください。

- 電気製品の電源プラグをコンセントに挿し込んでもゆるいときは、ヴィークルパワーコネクタを交換してください。交換についてはレクサス販売店にご相談ください。

- コンセントは、照明器具などの電気製品と直接接続して使用するものです。家屋などへ電気を供給する用途として使用しないでください。また、家屋などに設置されている非常時の給電システム（外部電源と接続ができる専用設備、外部電源からの供給回路が電力会社からの電気配線と分離されている設備など）に接続する場合は、当該システムの製造業者または販売業者にご相談ください。

- コンセントの使用中はパーキングブレーキをしっかりとかけ、シフトポジションをPから切りかえないでください。車両が動いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- コンセントの使用中は車両から離れないでください。

- 落雷の可能性がある天候のときは給電を行わないでください。給電中、雷に気付いたときは給電を停止してください。

- 車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しないでください。

- 傾いた場所や坂道などに停めて使用しないでください。使用中に車両を移動させたり、傾けたりしないでください。

- 洗車は行わないでください。

- ボンネットが閉まっていることを確認してください。

- 燃えやすいものの近くに停めて使用しないでください。

- 腐食性のガスまたは溶液の発散する場所では使用しないでください。

- 破損したヴィークルパワーコネクタ・コード・電源プラグ・コンセントは使用しない

使用中は不要な荷重がかからないようにし、コードなどを足や車両で踏まないようにしてください。

- ヴィークルパワーコネクタと普通充電インレットは、必ず直接接続する。ヴィークルパワーコネクタと普通充電インレットとのあいだに、変換アダプターや延長コードなどを接続しないでください。

- 普通充電インレットに普通充電コネクタ・ヴィークルパワーコネクタ以外のものを挿し込まない。

 警告

- ヴィークルパワーコネクタに破損箇所がないか確認する。
- ヴィークルパワーコネクタ・電源プラグ・車外コンセントに変形・破損・水分・腐食・ほこり等の異物がないことを確認する。
- ヴィークルパワーコネクタ・普通充電インレットに変形・破損・腐食・ほこり等の異物がないか、または雪・氷が付着していないか確認する。付着している場合は、ヴィークルパワーコネクタを接続する前にしっかりと取り除いてください。
- ヴィークルパワーコネクタの端子部分がぬれないようにする。
- ヴィークルパワーコネクタの端子・車外コンセント・普通充電インレットの端子に金属製の鋭利なもの（針金など）でふれたり、手でふれたり、異物でショートさせたりしない。
- ヴィークルパワーコネクタの車外コンセントに水や液体・雪がかからないようにする。
- AC 外部給電中は、ヴィークルパワーコネクタを無理に引き抜かない。車両やヴィークルパワーコネクタの破損、感電の原因となります。
- AC 外部給電中に発熱・発煙・異臭・異音などを発見したときは、ただちに AC 外部給電を中止する。

■ AC 外部給電システムがおよぼす影響について

ペースメーカー（植込み型心臓ペースメーカー／植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータ）装着のお客様は、給電の操作はご自身ではなさらず、ほかの方をお願いしてください。

- 給電時は、ヴィークルパワーコネクタに近付かないでください。給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
 - 給電中は車内にとどまらないでください。給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
 - ものを取るときなどに、車内に入り込まないでください。給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
- 接続する電気製品について**
- 使用する電気製品に付属の取扱説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。
 - 電源プラグや、電気製品が故障しているときは使用しないでください。
 - 特に外気温が低いときや高いときは、故障や作動不良になる可能性があります。
 - 水平設置が必要な電気製品は、正常に作動しない可能性があります。
 - 防水仕様の電気製品を除き、雨や水のかかる場所、湿気の多い場所では使用しないでください。
 - 水没や浸水した、またそのおそれのある電気製品は使用しないでください。
 - 車両の状態によっては、一時的に給電機能が停止することがあります。

 警告**■ 電源周波数について**

- 工場出荷時、車両側の電源周波数は、50Hzに設定されています。

コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しないでください。誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。

電気製品によっては、電源周波数の切りかえ（50/60Hz）機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を同じにしてください。

車両側の電源周波数切りかえが必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

- 特に電子レンジは使用中に発熱するおそれがあるため、必ずコンセントと電源周波数が合っていることを確認してください。

■ ヴィークルパワーコネクタを取り扱うとき

- 強い衝撃を与えたり落としたりしない
- 水にぬれたときや汚れがあるときは、乾いた布でふく
- 水洗いしたり、水やほかの液体に浸けたりしない
水やほかの液体に浸けた場合は使用しないでください。
- シールなどを貼り付けない
- 警告ラベルを汚したり、はがしたりしない
- お子さまにはさわらせない
- 対応していない、ほかの車両には接続しない

■ ご使用前の点検について

次のことを確認してください。点検をしないで使い続けると、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヴィークルパワーコネクタに破損などがないこと

異常がある場合はただちに使用を中止して、レクサス販売店にご連絡ください。

- 電源プラグに破損・変形などがないこと

異常がある場合はただちに使用を中止してください。

- 車外コンセントに汚れや破損などがないこと

■ ヴィークルパワーコネクタを清掃するとき

- 水洗いによる清掃は行わないでください。ヴィークルパワーコネクタ内部に水が浸入すると、使用時に火災や感電事故が発生し、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヴィークルパワーコネクタが汚れたときは、固くしぼった布で汚れをふき取ったあと、乾いた布でからぶきしてください。

- ガソリン等の溶剤・酸またはアルカリ性の溶剤は使用しないでください。

■ 車載充電器について

モータールームに車載充電器があります。車載充電器については、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

- 給電時は高温になります。やけどをするおそれがあるため、ふれないでください。
- 分解・修理・改造しないでください。修理が必要な場合は、必ずレクサス販売店にご相談ください。

⚠ 注意**■ ショートや故障を防ぐために**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、正常に作動しなかったり、車両や電気製品が損傷したりするおそれがあります。

- 車内のトリムの近くやシートの上などで、トースターなどの熱気を出す電気製品を使用しないでください。熱により溶損や焼損のおそれがあります。
- 振動や熱などに弱い電気製品を車内で使用しないでください。車両の振動や、炎天下での駐車時の熱などにより、電気製品が故障するおそれがあります。
- 使用中はヴィークルパワーコネクタを揺するなどの不要な振動を与えないでください。
外部給電を停止することがあります。
- 晴天であっても、防水カバーを確実に閉めた状態で使用してください。
- ヴィークルパワーコネクタを挿し込んだあとは、ヴィークルパワーコネクタに無理な力をかけたり、こじったりしない。また、体や荷物などをぶつけないように注意する。
- ヴィークルパワーコネクタを抜くときは、ヴィークルパワーコネクタがアンロックされていることを確認する。

- 普通充電インレットの分解・修理・改造などをしない
修理が必要な場合は、必ずレクサス販売店にご相談ください。

■ ヴィークルパワーコネクタをロックするとき

→P.85

■ AC 外部給電システムを使用したあとの注意

- 必ず電気製品の電源を切ってから、ヴィークルパワーコネクタを取りはずしてください。
電気製品の電源を OFF にしないまま、先に車両からヴィークルパワーコネクタを取りはずすと、電気製品が正常に終了せず、電気製品の故障につながるおそれがあります。
- 普通充電インレットからヴィークルパワーコネクタを取りはずしたあとは、必ず普通充電リッドを閉めてください。普通充電リッドを開けたまま放置すると、普通充電インレットに水や異物が入り、車両故障につながるおそれがあります。
- 車両から離れる際は、ドアを確実に施錠したことを確認してください。
- ヴィークルパワーコネクタを使用しないとき

衝撃やほりから保護するため、すみやかに車両から取りはずして保管してください。

なお、長期間使用しないときは、水気がなく、直射日光があたらない場所に保管してください。

正常に AC 外部給電できないときは

正しい手順に従って作業しても外部給電が開始されない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。

正常に AC 外部給電できないとき

次の記載を参照して、それぞれ必要な処置を行ってください。

■ 外部給電モードの選択画面（→P.140）が表示されない

考えられる原因	対処方法
ヴィークルパワーコネクタがしっかりと接続されていない	ヴィークルパワーコネクタを接続してからパワースイッチを ON にする際、しっかりと接続されていないと外部給電モードの選択画面が表示されません。 いったんヴィークルパワーコネクタを取りはずし、再度、“カチッ”と音がするまで確実に挿し込んでください。
ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを操作している	ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを操作してください。
パワースイッチが ACC になっている	パワースイッチが OFF の状態から、ブレーキペダルを踏まずに、パワースイッチを ON にしてください。
シフトポジションが P 以外にある	シフトポジションが P になっていることを確認してください。

■ EV 給電モードを選択できない

考えられる原因	対処方法
駆動用電池の残量が不足している	駆動用電池の残量を確認し（→P.171）、残量が少なくなっているときは、駆動用電池を充電してください。（→P.99, 106）
駆動用電池の残量が設定した給電量下限の値より少ない、または設定した値に近い	給電量下限を現在の駆動用電池残量より低い値に設定して、再度給電してください。（→P.144）

■ ヴィークルパワーコネクタの電源スイッチを押してもAC外部給電が始まらない

考えられる原因	対処方法
電源スイッチを2回押す間隔が長すぎる、または電源スイッチを2回よりも多く押している	電源スイッチは、約3秒以内に2回連続で押してください。(→P.140)
消費電力の合計が1500Wを超えている	電気製品の電源プラグを抜き、消費電力の合計が1500W以下になっているかを確認後、パワースイッチをOFFにし、はじめから操作をやり直してください。
電気製品が故障などで作動しない	電気製品の電源プラグを抜き、電気製品自体が故障していないか確認後、パワースイッチをOFFにし、はじめから操作をやり直してください。 それでも作動しない場合は電気製品の取扱説明書を確認してください。
特に外気温が高いときなど、駆動用電池、車載充電器などが高温になっている	パワースイッチをOFFにし、外気温が下がってから、はじめから操作をやり直してください。
特に外気温が低いときなど、駆動用電池、車載充電器などが低温になっている	パワースイッチをOFFにし、外気温が上がってから、はじめから操作をやり直してください。
コンセントがショートしている	電気製品の電源プラグを抜き、下記項目を確認後、はじめから操作をやり直してください。 ●ピンなどの異物が挿さっていないか ●飲料水、雨水、雪などが付着していないか ●ほこりやごみが付着していないか
駆動用電池の残量が不足している	駆動用電池の残量を確認してください。(→P.171) 残量が少なくなっているときは、ヴィークルパワーコネクタを取り外し、充電を実施し、駆動用電池の残量を回復させてください。(→P.99, 106)

DC 外部給電システムについて

ご使用前に、必ずここで説明している内容をよくお読みいただいた上で、正しく取り扱ってください。

DC 外部給電システムについて

車両に外部給電器^{※1}を接続することで、車両から外部へ給電^{※2}を行います。

車両の補機バッテリーから機器起動のための電力を供給することで、停電時にも給電を行うことができます。

■ EV 給電モード

駆動用電池に蓄えられている電力を使用して DC 外部給電を行います。外部給電可能な駆動用電池の残量を下まわると、外部給電を終了します。

このシステムを使用するには、外部給電器^{※1}が必要です。(車両には付属していません)

※1 車両から電気製品へ電力を供給するために、車両から取り出した DC (直流) 電力を AC (交流) 電力に変換する機器。一般社団法人電動車両用電力供給システム協議会が発行する電動自動車用充放電システムガイドライン V2L DC 版に準拠し、一般社団法人チャデモ協議会の認証を受けたもの。接続確認済みの外部給電器一覧はトヨタ自動車の Web サイトでご確認いただけます。一覧に記載のない給電器は動作未確認のため車両及び外部給電器が動作しない場合があります。

※2 車両側の定格出力は DC9kW です。ただし、接続する外部給電器の出力上

限以上は出力されません。

知識

■ スマートフォンとの連携について

G-Link サービスご契約のお客様は、アプリで DC 外部電源供給システムに関する情報を確認したり、一部の操作を行ったりすることができます。詳しくは、別冊“マルチメディア取扱説明書”を参照してください。

DC 外部給電システムの使い方

DC 外部給電作業は、ここで説明している内容をよくお読みいただいた上で、正しい手順に沿って行ってください。

DC 外部給電作業前の重要確認事項

必ず、次の点をご確認ください。

- 普通充電を行っていないこと
- AC 外部給電または V2H 給電を行っていないこと
- パーキングブレーキがかかっていること (→P.271)
- パワースイッチが OFF になっていること (→P.258)
- 地面が固く平らな場所に駐車すること

輪止めの使用をおすすめします。輪止めはレクサス販売店で購入することができます。

- ボンネットが閉まっていること
- シフトポジションが P になっていること
- 給電中はオートアラームを設定することができません。盗難を防ぐために、車内やトランク内に貴重品などを放置しないこと

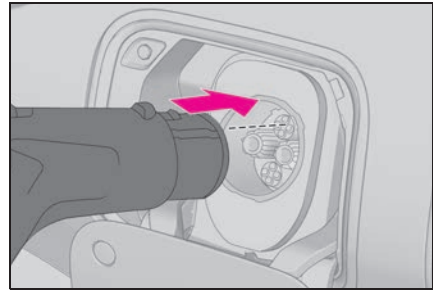
DC 外部給電を開始するときは

- 1 急速充電リッドを開ける (→P.75)

2 外部給電コネクタを急速充電インレットに挿し込む

“カチッ” という音がして、外部給電コネクタが確実に接続されたことを確認してください。

外部給電コネクタの形状や取り扱い方法などは、外部給電器により異なります。外部給電器の取扱説明書に従って、作業を行ってください。



- 3 ブレーキペダルを踏まずに、パワースイッチを ON にする (パワースイッチを 1 回もしくは 2 回押す ※) (→P.260)

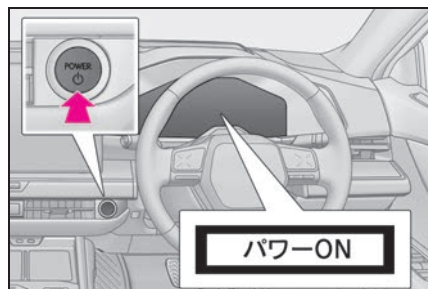
マルチインフォメーションディスプレイに “パワー ON” と表示されていることを確認してください。

※ ACC カスタマイズ機能の設定状態により異なります。

ブレーキペダルを踏んだままパワースイッチを押すと、EV システムが始動してしまい、DC 外部給電システムが使用できません。

ON にしたあとは、シフトポジションを操作しないでください。シフトポジションが P でないと、DC 外部給電システム

を使用できません。



- 4 始動操作に関するアドバイス画面が表示されたときは、を押して前の画面にもどす

一定時間、メーター操作スイッチを操作しないと、始動操作に関するアドバイス画面が再表示されます。その場合は、そのつどを押して前の画面にもどしてください。



マルチインフォメーションディスプレイまたは、センターディスプレイで外部給電の設定が行えます

- ▶ マルチインフォメーションディスプレイでの操作：

- 5 を選択し、“OK”を押す
- 6 “車両設定”を選択し、“OK”を押し続ける
- 7 “外部給電”を選択し、“OK”を押す

外部給電モードの選択画面が表示されま

す。

- 8 “EV 給電”を選択し、“OK”を押す

外部給電モードの選択画面上に、給電時間の目安が表示されます。※

駆動用電池の残量が低下しているときは、EV 給電を選択できません。

※ 使用する電気製品や使用環境などにより、表示されている時間と実際の外部給電可能時間が異なる場合があります。

- 9 操作ガイド画面の表示に従う

▶ センターディスプレイでの操作：

- 5 にタッチする

- 6 “EV・充電”にタッチする

- 7 “外部給電”にタッチする

外部給電モードの選択画面が表示されます。

- 8 “EV 給電”にタッチする

外部給電モードの選択画面上に、給電時間の目安が表示されます。※

駆動用電池の残量が低下しているときは、EV 給電を選択できません。

※ 使用する電気製品や使用環境などにより、表示されている時間と実際の外部給電可能時間が異なる場合があります。

- 9 操作ガイド画面の表示に従う

- 10 外部給電器で開始操作をする

外部給電器に付属の取扱説明書に従い、操作してください。

外部給電器によっては、パワースイッチが OFF になり、給電が停止することがあります。その場合は、再度手順 3 から開始操作を行ってください。

- 11 接続した電気製品の電源を ON にする

DC 外部給電中は、マルチインフォメー

ションディスプレイまたはセンターディスプレイの表示で、現在の給電状況をお知らせします。

知識

■ DC 外部給電システムの使用中は

- シフトポジションをPからほかのシフトポジションに切りかえることはできません。
- 外部給電器の出力上限以上の電力を使用した場合、外部給電器が出力を制限したり、給電を停止したりすることがあります。
- 車両側の定格出力以上の電力を使用した場合、車両が給電を停止することがあります。
- 駆動用電池の残量・外気温・DC 外部給電器の仕様などの条件により、車両側の定格出力以下の電力を使用した場合でも、給電を停止することがあります。
- スマートエントリー&スタートシステムでドアを解錠・施錠することはできません。
- ワイヤレスリモコンでドアの解錠・施錠をすることができます。使用する電気製品から発生するノイズにより、正常に作動しない場合があります。
- ドアの開閉などにより、ブザーが鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに“キーが見つかりません キーの所在を確認してください”と表示されたりすることがあります。
- 気温が低いときまたは高いときは、出力を制限または停止することがありますが、異常ではありません。その場合は、使用する電気製品を減らしてください。
- 走行中はDC 外部給電システムを使用できません。
- 使用する電気製品によっては、周囲の

テレビやラジオに雑音が入ることがあります。

- 炎天下など、車内が高温になる状態で使用すると、システムを保護するためにDC 外部給電システムが自動で停止することがあります。
その場合は、いったん外部給電コネクタを取りはずしてから、車両を日陰に移動するなどして車内の温度を下げ、再度、DC 外部給電を開始してください。
- 特に外気温が低いときは、駆動用電池を保護するため、DC 外部給電システムを使用できないことがあります。
その場合は、いったん外部給電コネクタを取りはずしてからしばらく走行するなどして、駆動用電池を暖めてから使用してください。
- DC 外部給電システム使用中はエアコン・アクセサリコンセントを使用することができます。
- DC 外部給電システムを開始した時点で、いったんエアコンがOFFになります。DC 外部給電中にエアコンを使用したい場合は、エアコンの操作スイッチを操作してエアコンを作動させてください。※
- ※ DC 外部給電システムの使用中にエアコンを使用すると、マルチインフォメーションディスプレイに表示される外部給電可能時間と実際の給電時間が異なる場合があります。
- 外部給電器に車両に異常があるようなメッセージ（例えば、「車両に異常が見つかりました」、「車両故障発生」など）が表示されても、車両の異常ではなく、外部給電器と車両間の通信異常である可能性があります。
この場合、外部給電コネクタの端子故障（接点不良）などが考えられます。外部給電器に付属の取扱説明書を確認してください。

- 駆動用電池残量の給電量下限設定がある外部給電器では、車両の給電量下限設定を解除してください。車両で設定した給電量下限設定まで到達する前に給電が停止する場合があります。

■ 給電量下限設定のしかた

→P.144

警告

■ DC 外部給電システムを使用するときの警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、給電時に車両火災や感電事故などが発生し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 傾いた場所や坂道などに停めて使用しない
使用中に車両を移動させたり、傾けたりしないでください。
- 洗車は行わない
- ボンネットが閉まっていることを確認する
- モータールーム内に顔や手を近づけない
冷却用ファンが急にまわりだすことがあります。ファンの回転部分にふれたり、近づいたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれるおそれがあります。
- 可燃物や危険物を車両の近くに置かない
- 腐食性のガスまたは溶液の発散する場所では使用しない
- 破損した外部給電器・コード・電源プラグ・コンセントは使用しない
使用中は不要な荷重がかからないようにし、コードなどを足や車両で踏まないようにしてください。

- 給電を開始する前に、接続した電気製品の電源が OFF になっていることを確認する
電源が ON になっていると、電気製品が突然作動するおそれがあります。
- 車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しない
- お子さまなど、不慣れな方だけで作業を行わない
- 外部給電コネクタと急速充電インレットは、必ず直接接続する
外部給電コネクタと急速充電インレットとのあいだに、変換アダプターや延長コードなどを接続しないでください。
- 落雷の可能性がある天候のときは DC 外部給電システムを使用しない
使用中、雷に気付いたときには DC 外部給電システムを停止してください。
- 急速充電インレットに急速充電コネクタ・外部給電コネクタ以外のものを挿し込まない
- 外部給電器に破損箇所がないか確認する
- 外部給電コネクタ・急速充電インレットに異物がないか、または、雪・氷が付着していないか確認する
付着している場合は、外部給電コネクタを接続する前にしっかりと取り除いてください。
- 急速充電インレットの端子部がぬれないようにする
- 外部給電コネクタ、急速充電インレットの端子に金属製の鋭利なもの（ピンや針金など）を挿し込まない
- DC 外部給電中に発熱・発煙・異臭・異音などを発見したときは、ただちに DC 外部給電を中止する

⚠ 警告

■ 車両に給電ケーブルが接続されているとき

- シフトレバーを操作しないでください。万一、給電ケーブルが故障していた場合、シフトポジションがPからほかのシフトポジションに切りかわることがあり、車両が動いて思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ DC 外部給電システムがおよぼす影響について

ペースメーカー（植込み型心臓ペースメーカー／植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータ）装着のお客様は、給電の操作はご自身ではなさらず、ほかの方をお願いしてください。

- 給電時は、外部給電器、給電ケーブルに近付かないでください。給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
- 給電中は車内にとどまらないでください。給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
- ものを取るときなどに、ラゲージルームなど含めた車内に入り込まないでください。給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

■ 接続する電気製品について

給電を行うときは、必ず本書および接続する外部給電器や使用する電気製品に付属の取扱説明書に記載されている注意事項をお守りください。

記載されている禁止事項を守らずに給電すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 接続する外部給電器について

必ず電動自動車用充放電システムガイドライン V2L DC 版（→P.154）に準拠し、一般社団法人チャデモ協議会の認証を受けた外部給電器を接続してください。

それ以外の外部給電器を使用すると火災や感電事故が発生し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ ショートや故障を防ぐために

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、正常に作動しなかったり、車両や外部給電器が損傷したりするおそれがあります。

- ケーブルを損傷するおそれがあるので、使用中は急速充電リッドでケーブルを挟まないでください。
- 外部給電コネクタを急速充電インレットに抜き挿しするときは、過度の負荷をかけないでください。挿し込み不足の原因になります。
- 給電中に外部給電コネクタ・ケーブルに物をのせたり、引っかけたりしないでください。
- 給電中に外部給電コネクタ・ケーブルを引っ張ったり、過度の負荷をかけたりしないでください。
- 給電中に外部給電コネクタ・ケーブルに異常な発熱を感じたらすぐに使用を中止してください。

■ 車から離れるとき

盗難を防止するため、ドアが確実に施錠されたことを確認してください。

DC 外部給電に関する情報の表示

DC 外部給電システムの使用中は、マルチインフォメーションディスプレイまたはセンターディスプレイに外部給電中画面が表示され、外部給電可能時間※などの情報を確認することができます。

※ 表示される時間は 400W（急速充電インレットにおける電力）消費時の目安であり、電気製品の使用状況や、使用環境などにより実際の給電時間と異なる場合があります。

DC 外部給電を停止するときは

1 使用している電気製品の電源を OFF にする

2 外部給電器を停止させる

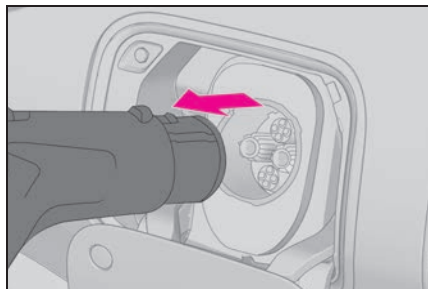
外部給電器に付属の取扱説明書に従い、操作してください。

パワースイッチを OFF にしても給電を停止できます。

3 外部給電コネクタを取りはずす
外部給電コネクタを取りはずすと、約 5 秒後に急速充電リッドは自動的に閉じます。

外部給電コネクタの形状や取り扱い方法などは、外部給電器により異なります。外部給電器に付属の取扱説明書に従って、

作業を行ってください。



知識

■ DC 外部給電後、マルチインフォメーションディスプレイに“充電システム確認のため充電リッドを閉めてください取扱書を確認”が表示されたとき

「急速充電後・V2H 充電／V2H 給電後、マルチインフォメーションディスプレイに“充電システム 確認のため 充電リッドを閉めてください取扱書を確認”が表示されたとき」の手順に従い、処置してください。（→P.110）

■ 外部給電コネクタをアンロックできないとき

「急速充電コネクタをアンロックできないとき」の手順に従い、処置してください。（→P.111）

注意

■ DC 外部給電システムの故障を防ぐために

給電を停止するときは、使用している電気製品の電源を切ってから停止してください。

■ DC 外部給電システムを使用したあとは

● 外部給電コネクタを急速充電インレットから取りはずすときは、過度の負荷をかけないでください。

**注意**

- 急速充電インレットから外部給電コネクタを取りはずしたあとは、必ず急速充電リッドを閉めてください。

急速充電インレットを開けたままにすると、急速充電インレットに水や異物が入り、故障につながるおそれがあります。

DC 外部給電システムが正常に作動しないときは

正しい手順に従って作業しても DC 外部給電が開始されない場合や、給電作業後にエラーを伝えるメッセージが表示された場合は、次の事項をご確認ください。

正常に DC 外部給電できないとき

次の記載を参照して、それぞれ必要な処置を行ってください。

■ 外部給電モードの選択画面 (→P.155) が表示されない

考えられる原因	対処方法
ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを操作している	ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを操作してください。
パワースイッチが ACC になっている	パワースイッチが OFF の状態から、ブレーキペダルを踏まずに、パワースイッチを ON にしてください。

■ EV 給電モードを選択できない

考えられる原因	対処方法
駆動用電池の残量が不足している	駆動用電池の残量を確認し (→P.171)、残量が少なくなっているときは、駆動用電池を充電してください。(→P.99)

■ 給電が開始されない

考えられる原因	対処方法
外部給電コネクタがしっかりと接続されていない	外部給電コネクタが急速充電インレットに確実に接続されているか確認してください。
シフトポジションが P 以外にある	シフトポジション表示灯 (→P.263) でシフトポジションが P になっていることを確認してください。
開始操作が適切でない	外部給電器によっては、開始操作が通常の手順と異なるものがあります。外部給電器の製造業者または販売業者にご確認ください。
外部給電器に異常が発生している	外部給電器の取扱説明書に従って、適切に処置してください。
外部給電器の電源が OFF になっている	

考えられる原因	対処方法
前回使用時に正常終了していない	「急速充電後・V2H 充電／V2H 給電後、マルチインフォメーションディスプレイに“充電システム確認のため 充電リッドを閉めてください取扱書を確認”が表示されたとき」の手順に従い、処置してください。(→P.110) その後、再度開始操作を行ってください。
普通充電・AC 外部給電システムまたは急速充電・V2H 充電／V2H 給電を使用している	普通充電・AC 外部給電システムまたは急速充電・V2H 充電／V2H 給電を終了してから DC 外部給電システムの開始操作を行ってください。
設定した給電量下限より駆動用電池残量が少ない	給電量下限を現在の駆動用電池残量より低い値に設定して、再度給電してください。
繰り返し DC 外部給電を行った	EV システムを始動させた状態でしばらく待ってから、EV システムを停止して、再度給電してください。
その他	「DC 外部給電作業前の重要確認事項」(→P.155)の手順により、再度開始操作を行ってください。

■ 給電が途中で停止する

考えられる原因	対処方法
外部給電器の電源が何らかの理由で OFF になっている	外部給電器の取扱説明書に従って、適切に処置してください。
車両の出力を超過する電気製品を使用している	使用する電気製品を減らして、再度開始操作を行ってください。
外部給電器に異常が発生している	外部給電器の取扱説明書に従って、適切に処置してください。

■ 給電後、EV システムが始動しない

考えられる原因	対処方法
車両に外部給電器が接続されている	外部給電器の取扱説明書に従って、外部給電コネクタを取りはずしてください。
給電終了時に正常終了していない	「急速充電後・V2H 充電／V2H 給電後、マルチインフォメーションディスプレイに“充電システム確認のため 充電リッドを閉めてください取扱書を確認”が表示されたとき」の手順に従い、処置してください。(→P.110)

■ 給電終了後、外部給電コネクターがはずれない

考えられる原因	対処方法
外部給電コネクターが何らかの理由でロックされている	外部給電器の取扱説明書に従って、適切に処置してください。

■ 給電後に関するメッセージが表示されたときは

給電後にパワースイッチを押していない状態でドアを開けると、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
その場合は、メッセージの指示に従って、それぞれ必要な処置を行ってください。

■ “ 外部給電器または車両の要因により給電停止しました ” と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
外部給電器に異常が発生している	外部給電器の取扱説明書に従って、適切に処置してください。

3-1. 計器の見方

警告灯／表示灯	166
計器類	171
マルチインフォメーションディスプレイ	176
ヘッドアップディスプレイ	184

▶ 2 メーター



警告灯一覧

システム異常などを警告します。



ブレーキ警告灯 ※1
(→P.562)



ブレーキ警告灯 ※1
(→P.562)



充電警告灯 ※2 (→P.562)



駆動用電池残量低下警告灯
(→P.562)



EV システム異常警告灯 ※1
(→P.563)



EV システム異常警告灯 ※1
(→P.563)



SRS エアバッグ/プリテン
ショナー警告灯 ※1
(→P.563)



ポップアップフード警告灯
※1 (→P.563)



ABS & ブレーキアシスト警告
灯 ※1 (→P.563)



ペダル誤操作警告灯 ※2
(→P.564)



パワーステアリング警告灯 ※1
(→P.564)



パワーステアリング警告灯 ※1
(→P.564)



運転席・助手席シートベルト
非着用警告灯 (→P.564)



リヤ席シートベルト非着
用警告灯 (→P.565)



タイヤ空気圧警告灯 ※1
(→P.565)



クリアランスソナー OFF 表示
灯 ※1 (→P.565)



PKSB OFF 表示灯 ※1
(→P.566)



PCS 警告灯 ※1 (→P.565)



LTA 表示灯 (→P.566)



LDA 表示灯 (→P.566)



(黄色)

レーダークルーズコントロール表示灯 (→P.566)



(黄色)

レーダークルーズコントロールエコランモード表示灯 (→P.567)



(黄色)

クルーズコントロール表示灯 (→P.566)



ドライバーモニター警告灯 ※1 (→P.567)



運転支援警告灯 ※1 (→P.567)



(点灯)

スリップ表示灯 ※1 (→P.567)



(点滅)

パーキングブレーキ表示灯 (→P.568)



(点滅)

ブレーキホールド作動表示灯 ※1 (→P.568)

※1 作動確認のためにパワースイッチをON にすると点灯し、数秒後またはEV システムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

※2 マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

警告

安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなど安全装置の警告灯がパワースイッチを ON にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

表示灯一覧

システムの作動状況を表示します。



方向指示表示灯 (→P.270)



尾灯表示灯 (→P.278)



ハイビーム表示灯 (→P.280)



(白色)

AHS 表示灯★ (→P.282)



(白色)

AHB 表示灯 (→P.285)



(緑色)

AHS 表示灯★ (→P.282)



(緑色)

AHB 表示灯 (→P.285)



(緑色)

AHS 表示灯★ (→P.282)



(緑色)

AHB 表示灯 (→P.285)



(緑色)

AHS 表示灯★ (→P.282)



マルチウェザーライト表示灯★ (→P.288)



リヤフォグランプ表示灯 (→P.289)



OFF

PCS 警告灯 ※1, 2 (→P.309)



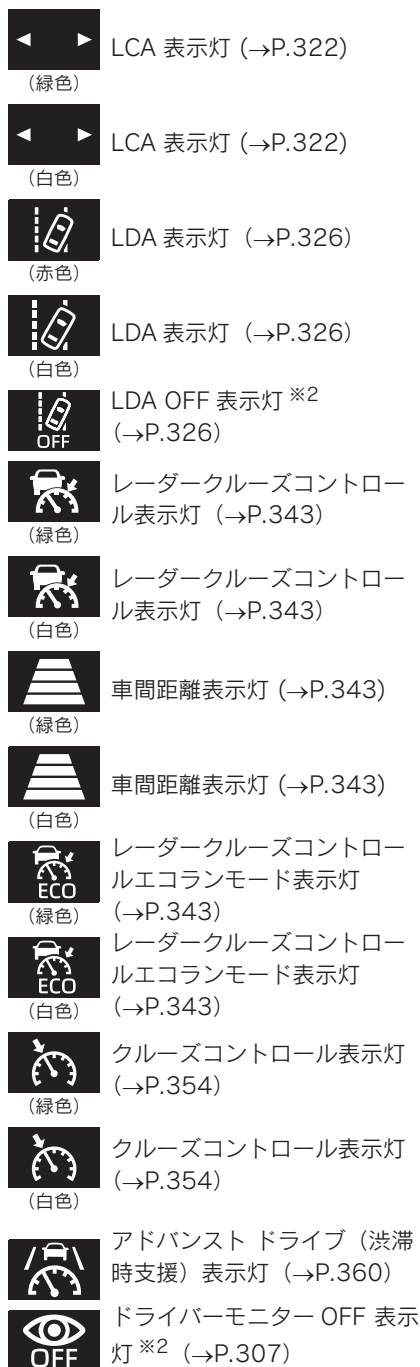
(緑色)

LTA 表示灯 (→P.318)



(白色)

LTA 表示灯 (→P.318)





充電コネクタ接続表示灯
(→P.101)



REC 表示灯 (→P.363)



エコドライブモード表示灯
(→P.448)



スポーツ表示灯 (→P.448)



カスタマイズモード表示灯
(→P.448)



レンジモード表示灯
(→P.448)

● ドライバー異常時対応システム

★ : グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

※¹ 作動確認のためにパワースイッチを
ON にすると点灯し、数秒後または
EV システムを始動すると消灯します。
点灯しない場合や点灯したまのとき
はシステム異常のおそれがあります。
レクサス販売店で点検を受けてくださ
い。

※² システムが OFF のときに点灯します。

※³ ドアミラーに表示されます。

※⁴ 外気温が約 3° C 以下のとき、約 10
秒間点滅後に点灯します。



知識

■ 運転支援 OFF 表示灯について

次のシステムのいずれかが停止、または
設定が OFF になっています。

マルチインフォメーションディスプレイ
に表示されているメッセージの指示に
従ってください。

- RCD (リヤカメラディテクション)
- BSM (ブラインドスポットモニター)
- RCTA (リヤクロストラフィックアラート)
- 安心降車アシスト

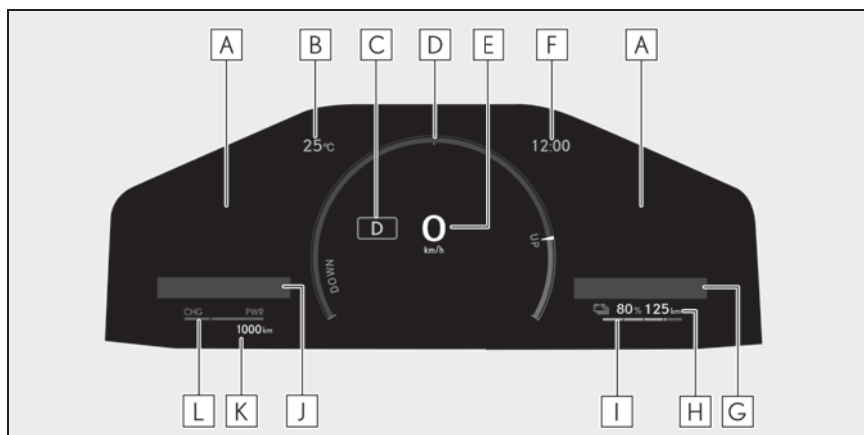
計器類

メーターの表示について

■ 計器類の位置

シフトポジションや走行モード、設定などに応じて、メーターの表示や一部の計器類の配置が切りかわります。設定はマルチインフォメーションディスプレイで変更することができます。(→P.612)

▶ シンプル / 1 メーター / ナビ / 運転支援システム情報 / ECO



A マルチインフォメーションディスプレイ

走行に関するさまざまな情報を表示します。(→P.176)

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(→P.570)

B 外気温

外気温度を -40°C ~ 60°C のあいだで表示します。

C シフトポジション/シフトレンジ/ギヤ段表示 (ES500e)^{※1} (→P.262)

D アナログメーター (1 メーター のみ)

お好みのメーターに変更することができます。(→P.183)

パワーメーター：EV システムの出力や回生レベルを示します。(→P.173)

シフトガイドメーター：M モード★使用時に適切なシフト操作範囲を示します。(→P.174)

アナログスピードメーター：車両の走行速度を示します。

E デジタルスピードメーター ^{※1}

F 時計

GPS の時刻情報 (GPS 時計) を利用して、時刻を自動で調整します。詳しくは別冊

「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

G ウィジェット（電費グラフ）

電費グラフの一部を簡易表示します。（→P.178）

コンテンツ一覧が表示されているときは、ウィジェットが非表示になります。

H EV 走行可能距離

現在の駆動用電池残量で走行可能なおよその距離を表示します。

一部の警告灯が点灯したときは、表示位置が切りかわる場合があります。

I 駆動用電池残量計

駆動用電池の残量を示します。

J ウィジェット（オーディオシステム連携表示）

オーディオシステム連携表示の一部を簡易表示します。（→P.181）

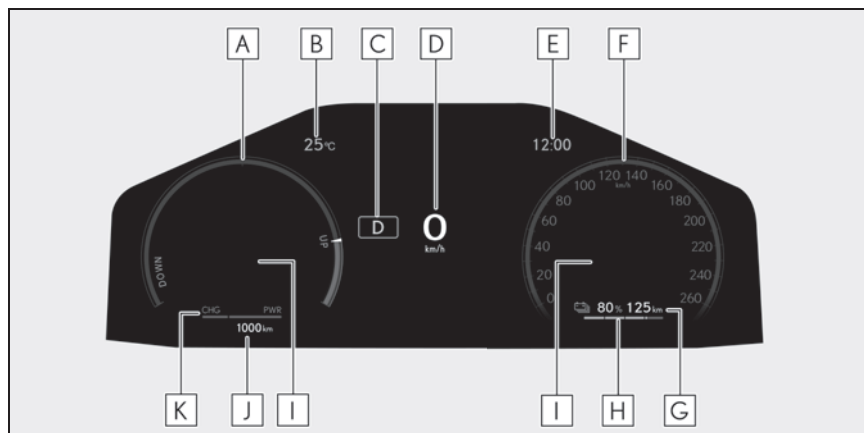
コンテンツ一覧が表示されているときは、ウィジェットが非表示になります。

K オドメーターディスプレイ

L パワーメーター ※2

EV システムの出力や回生レベルを示します。

▶ 2 メーター



A アナログメーター

好みのメーターに変更することができます。（→P.183）

パワーメーター：EV システムの出力や回生レベルを示します。（→P.173）

シフトガイドメーター：M モード★使用時に適切なシフト操作範囲を示します。（→P.174）

B 外気温

外気温度を -40° C ~ 60° C のあいだで表示します。

C シフトポジション／シフトレンジ／ギヤ段表示 (ES500e)^{※1} (→P.262)

D デジタルスピードメーター ^{※1}

E 時計

GPS の時刻情報 (GPS 時計) を利用して、時刻を自動で調整します。詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

F アナログスピードメーター

G EV 走行可能距離

現在の駆動用電池残量で走行可能なおよその距離を表示します。

一部の警告灯が点灯したときは、表示位置が切りかわる場合があります。

H 駆動用電池残量計

駆動用電池の残量を示します。

I マルチインフォメーションディスプレイ

走行に関するさまざまな情報を表示します。(→P.176)

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(→P.570)

J オドメーター

K パワーメーター ^{※2}

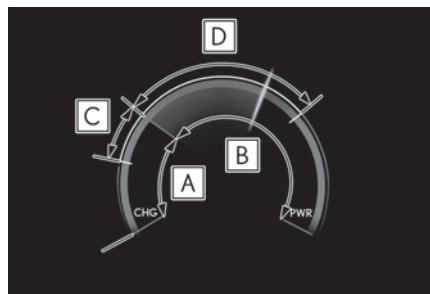
EV システムの出力や回生レベルを示します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

^{※1}現在選択中のメーター表示タイプや、割込み表示の有無など、表示状態によっては、表示される位置が異なることがあります。

^{※2}マルチインフォメーションディスプレイの表示項目や運転支援システムの作動状態によっては表示されません。

■ パワーメーターについて



イラストは説明のための例であり、仕様によって表示は異なります。

A チャージエリア

回生 ^{※1} ブレーキ機能により、エネル

ギーを回収している状態を示します。

回生した電力は、駆動用電池を充電します。

B パワーエリア

走行中の出力（加速力）を表示します。

C 回生制限表示 ^{※1, 2}

次のような状況では、回生ブレーキが制限されるため、その制限の目安を、チャージエリア内に表示します。

- ・ 駆動用電池の充電量が多く、これ以上回生ができないとき
- ・ 駆動用電池の温度が極端に高いとき、または極端に低いとき

D 出力制限表示 ※2

次のような状況では、出力が制限されるため、その制限の目安を、パワーエリア内に表示します。

- ・ 駆動用電池の充電量が少なく、これ以上出力ができないとき
- ・ 駆動用電池の温度が極端に高いとき、または極端に低いとき

※1ここでの「回生」の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。

※2車両状態によって実際の制限と異なる場合があります。

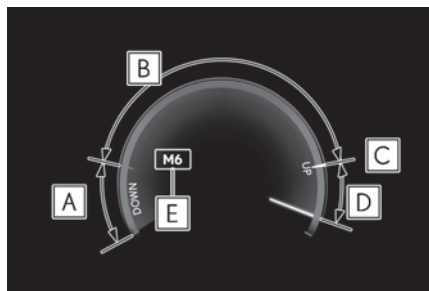
■ シフトガイドメーターについて★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

M モード走行中のパドルシフト操作タイミングを視覚的に伝達・サポートします。(→P.269)

システム上変速可能な状態であれば、バーの長さによらずシフトアップ、シフトダウンが可能です。

(→P.269)



イラストは説明のための例であり、仕様によって表示は異なります。

A シフトダウン推奨エリア

仮想パワーソースの回転数が低く、アクセルを踏んでも加速しにくい状態を示します。

B インタラクティブエリア

アクセル操作で車両性能を大きく引き出すことが出来る状態を示します。

C シフトアップポイント

アクセル全開加速時に、仮想パワーソースの特性を最も引き出すシフトアップタイミングの目安を表示します。

D シフトアップ推奨エリア

仮想パワーソースの回転数が高く、現在の仮想ギア段の上限車速に近い状態を示します。

E シフトポジションと仮想ギア段表示 (→P.269)**□ 知識****■ メーター・ディスプレイの作動条件**

パワースイッチが ON のとき

■ 外気温表示について

- 次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
 - ・ 停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
 - ・ 外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）
- “--” または “E” が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

■ 走行可能距離について

- エアコンの作動中は  が表示され、エアコンを使用した場合の走行可能距離にかかります。
- システムの電力消費により、走行していなくても走行可能距離が減少する場合があります。

■ 航続可能距離について

現在の電力残量で走行できるおよその距離を示します。表示される距離は、過去の平均電費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。

■ 液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

■ カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイの  で計器類の表示を変更できます。
(→P.183)

警告

■ 低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えば回生ブレーキカインジケーターを使用した場合、シフト操作をしてもすぐに回生ブレーキカインジケーターが切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度の回生ブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

インストールメントパネル照明の明るさを調整するには

マルチインフォメーションディスプレイの  から、インストールメントパネルの明るさを調整することができます。(→P.183)

知識

■ メーターの照度について（昼照度と夜照度）

メーターの照度には昼照度と夜照度があり、次のときに照度が切りかわります。

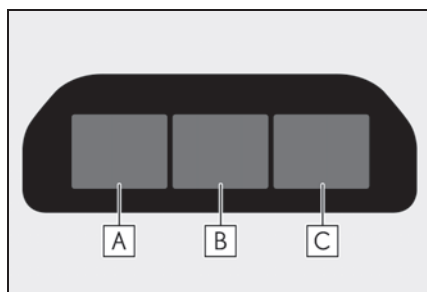
- 昼照度：周囲が明るいときに車幅灯が点灯しているとき、または車幅灯が点灯しているとき
- 夜照度：周囲が暗いときに車幅灯が点灯しているとき

マルチインフォメーションディスプレイ

ディスプレイの表示

■ 表示エリア

マルチインフォメーションディスプレイの各エリアには、次の情報が表示されます。



A コンテンツ表示エリア (左)

B コンテンツ表示エリア (中央)

C コンテンツ表示エリア (右)

■ コンテンツ表示エリアの表示項目

● コンテンツ表示エリア (中央)

- ・ 運転支援システム情報 (→P.181)
- ・ 地図表示 (→P.181)
- ・ 電費画面 (→P.179)

● コンテンツ表示エリア (左)

- ・ 電費グラフ (→P.178)
- ・ AWD 作動状態表示★ (→P.180)
- ・ ナビゲーションシステム連携表示 (→P.181)
- ・ オーディオシステム連携表示 (→P.181)
- ・ ドライブインフォメーション (→P.178)
- ・ トリップインフォメーション A

(→P.178)

- ・ トリップインフォメーション B (→P.178)
- ・ タイヤ空気圧 (→P.181)
- ・ G モニター (→P.179)
- ・ 電池状態 (→P.181)
- ・ 設定 (→P.183)
- ・ 警告メッセージ
- ・ ブランク (非表示)

● コンテンツ表示エリア (右)

- ・ 運転支援システム情報 ※¹ (→P.181)
- ・ ナビゲーションシステム連携表示 ※² (→P.181)

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※¹メーター表示タイプが「運転支援システム情報」以外の場合

※²メーター表示タイプが「運転支援システム情報」の場合

■ 表示項目の設定

→P.612



知識

■ 液晶ディスプレイについて

→P.175

⚠ 警告

■ 運転中の使用について

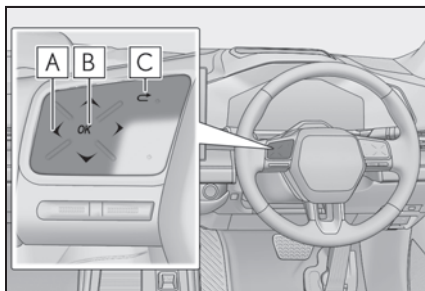
- マルチインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に十分注意してください。
- マルチインフォメーションディスプレイを見続けしないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

警告

■ 低温時の画面表示について

→P.175

メーター操作スイッチ



A < / > : メニューの切り替え／カーソル移動
 ▲ / ▼ : 表示項目の切り替え／ページ送り

B 短押し : 決定
 長押し : リセット・詳細項目表示・カーソル表示

C ひとつ前の画面にもどる



知識

■ メーター操作スイッチに触れても反応しないとき

- スイッチに触れたまま指を動かすと、反応しやすくなります。
- スイッチの表面が汚れている場合は、パワースイッチを OFF にしてスイッチを清掃してください。

■ レスポンシブヒドゥンスイッチについて

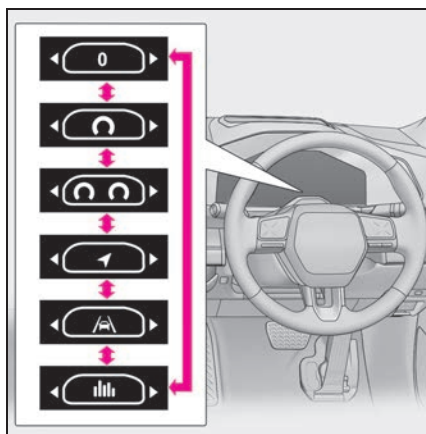
スイッチの点灯状態や手がざし機能の反応感度を変更することができます。

(→P.630)

マルチインフォメーションディスプレイの表示を切りかえるには

■ ページの切りかえ

メーター操作スイッチの < または > を押してページを切りかえます。



■ メータータイプの設定

マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ から、それぞれのメータータイプを、次のように設定することができます。(→P.612)

- シンプル
- 1 メーター
- 2 メーター
- ナビゲーション
- 運転支援
- ECO

警告

■ 走行中の警告

安全のため、メーター操作スイッチはできるだけ走行中に操作しないでください。メーター操作スイッチは、安全な場所に停車して操作してください。走行中に操作すると、ハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、走行中は画面を見続けしないでください。

電費グラフ

マルチインフォメーションディスプレイに次の項目を表示できます。

表示される数値は参考として利用してください。

● 瞬間電費

現在の瞬間電費を表示します。

● 通算平均電費 ※1,2

● 始動後平均電費 ※1,3

始動時からの平均電費を表示します。

※1  画面の「グラフ情報切替」で選択した電費が表示されます。(→P.612)

※2 通算平均電費の表示中に OK を押し続けると、リセットされます。

※3 始動後平均電費は、EV システムを始動するたびに、表示がリセットされます。

知識

■ 電費について

EV 走行時の電力消費率を表す数値で、ガソリンエンジン車の燃料消費率に相当します。この車では、電力 1 キロワット時 (1kWh) あたりの走行キロ数 (km/kWh) が、“電費”として各画面上に表示され

ます。

ドライブインフォメーション

マルチインフォメーションディスプレイに次の項目を表示できます。

表示される数値は参考として利用してください。

● 平均車速 ※

● 走行距離 ※

● 走行時間 ※

※ EV システムを始動するたびに、表示がリセットされます。

トリップインフォメーション

マルチインフォメーションディスプレイに次の項目を表示できます。

表示される数値は参考として利用してください。

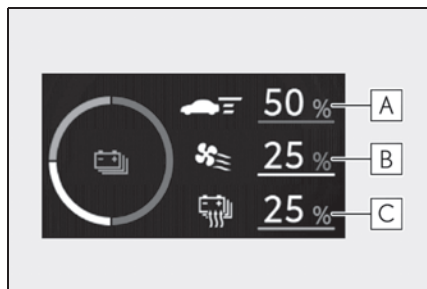
● 平均車速 ※

● 走行距離 ※

● 走行時間 ※

※ EV システムを始動するたびに、表示がリセットされます。

エネルギー消費割合



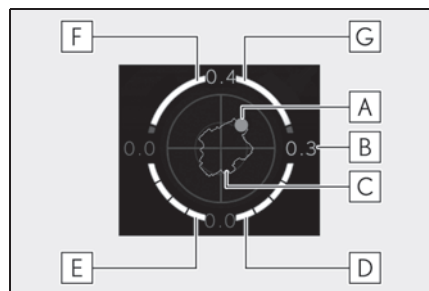
マルチインフォメーションディスプレイに次の項目を表示できます。
表示される数値は参考として利用してください。

- A** 走行エネルギー
- B** 空調エネルギー
- C** バッテリープレコンディショニングエネルギー (→P.120)

G モニター

マルチインフォメーションディスプレイに車両にかかる前後左右の G (加速度) を表示します。

また、G モニターの周囲にはステアリング操作量・アクセル開度量・ブレーキ液圧が表示されます。



- A** 車両にかかる G
- B** 現在の G 値 (前後左右に分解した値)
- C** 最大 G の軌跡
- OK 短押し: 表示有無の切り替え
- OK 長押し: リセット
- D** アクセル開度量
- E** ブレーキ操作量
- F** 左側ステアリング操作量
- G** 右側ステアリング操作量

表示画面については路面状況、気温、車速などによって実際の車両状態と異なる場合があります。表示画面は参考として利用してください。

● ピークホールド機能

0.5G 以上の力を発生した場合、G 値表示が橙色に変わり、2 秒間保持されます。

□ 知識

■ G モニターの表示について

- 傾斜のある場所など、路面の状況によっては停車中でも G 値が 0 にならない場合があります。
- 車両や使用環境によって、ブレーキペダルを一杯に踏み込んでもブレーキ操作量の表示が最大にならない場合があります。
- 補機バッテリー端子の脱着をしたときは、一時的にステアリング操作量が表示されなくなりますが、しばらく走行することで表示されます。

ブランク (非表示)

マルチインフォメーションディスプレイにブランク画面を表示します。

瞬間電費／電費履歴画面

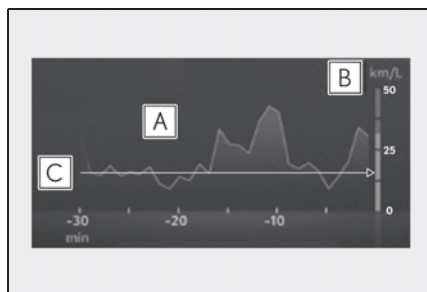
ページの切りかえ (→P.177) で“ECO”を選択することで、コンテンツ表示エリア (中央) に電費に関する情報を表示できます。

■ 瞬間電費／電費履歴画面を表示させるには

- 1 マルチインフォメーションディスプレイの  を選択する

- 2 “表示設定” 選択し “メータータイプ設定” を選択して “ECO” を選択する
- 3 “電費” を選択し、“グラフ情報切替” を選択して、“電費推移” または “過去電費” を選択する

■ 瞬間電費画面



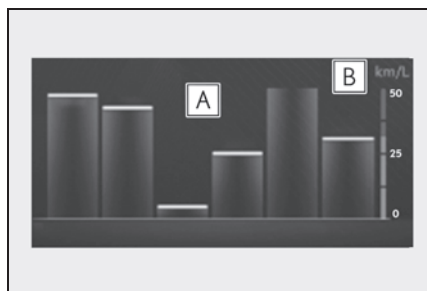
- A** 過去 30 分間の 1 分ごとの電費（平均電費）
- B** 瞬間電費
- C** 基準電費

航続距離の実現に必要な電費

表示される数値は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

■ 電費履歴画面



- A** 最新値表示
- B** 過去平均電費表示

表示される数値は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

□ 知識

■ 過去の区間平均電費の記録を更新するには

- 1 マルチインフォメーションディスプレイの⚙️を選択する
- 2 “表示設定” 選択し “メータータイプ設定” を選択して “ECO” を選択する
- 3 “電費” を選択し、“過去電費更新” を選択する

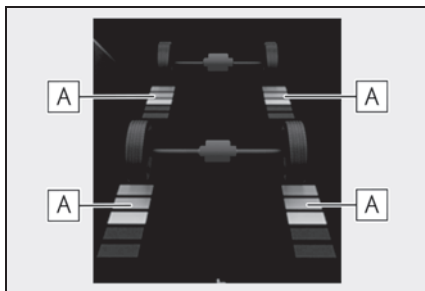
■ 電費データをリセットするには

- 1 マルチインフォメーションディスプレイの⚙️を選択する
- 2 “表示設定” 選択し “メータータイプ設定” を選択して “ECO” を選択する
- 3 “電費” を選択する
- 4 “電費推移消去” または “過去電費消去” いずれかリセットしたいほうを選択する

AWD 作動状態表示 (AWD 車)

AWD の作動状態がマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。

図の画面表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。



A 駆動力表示

0～5の6段階で、各車輪の駆動状態を表示します。

タイヤ空気圧

タイヤ空気圧警報システムが検知した空気圧をマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。



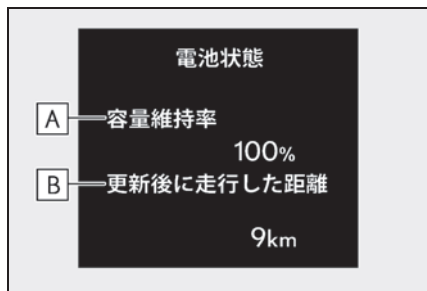
知識

■ タイヤ空気圧表示について

→P.530

電池状態表示

バッテリーの劣化状態をマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。



A 容量維持率

初期の満充電容量を 100% とした際に、劣化時の満充電容量の割合を表示します。

B 更新後に走行した距離

容量維持率の値が更新されてからの総走行距離を表示します。

新車納車時やレクサス販売店での点検・修理後に、更新後に走行した距離の初期値 (65535km) が表示されることがあります。この値は、容量維持率が更新されるとリセットされます。

オーディオシステム連携表示について

オーディオシステムの作動状況をマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。

地図表示

ナビゲーションシステムと連携して、マルチインフォメーションディスプレイに地図情報などを表示します。

運転支援システム情報について

マルチインフォメーションディスプレイやヘッドアップディスプレイに次のシステムの作動状況を表示します。

- レーダークルーズコントロール (→P.343)
- クルーズコントロール (→P.354)
- LTA (レーントレーシングアシスト) (→P.318)
- LDA (レーンディパーチャーアラート) (→P.326)
- LCA (レーンチェンジアシスト) (→P.322)
- RSA (ロードサインアシスト)

(→P.340)

- PDA（プロアクティブドライビングアシスト）（→P.333）
- PCS（プリクラッシュセーフティ）（→P.309）
- 安心降車アシスト（→P.391）
- BSM（ブラインドスポットモニター）（→P.375）
- 発進遅れ告知機能（→P.339）
- FCTA（フロントクロストラフィックアラート）（→P.337）



知識

■ 表示位置について

ヘッドアップディスプレイの表示を最大に設定している場合、マルチインフォメーションディスプレイのコンテンツ表示エリアの運転支援システム情報表示は非表示になります。

提案サービス機能

状況に応じて運転者に提案メッセージを表示する機能です。提案メッセージが表示されたときにハンドル上のスイッチを操作することで、提案された内容を直接操作することができます。

■ ヘッドランプ消灯提案

パワースイッチを OFF にしたあとにヘッドランプを点灯したまましばらく車内にいると、ヘッドランプの消灯を提案するメッセージを表示します。

ランプスイッチが AUTO のとき：このとき「はい」を選択すると、ヘッドランプが消灯します。

パワースイッチを OFF にしてから

メッセージが表示されるまでのあいだに運転席のドアを開けたときは、提案メッセージが表示されません。

■ 窓閉め提案（ワイパー連動）

雨が車内に入ることを防ぐために、ドアガラスが開いている状態でワイパーが動き始めるとドアガラスを開める提案メッセージを表示します。

このとき「はい」を選択すると、開いているすべてのドアガラスが閉まります。

■ 窓閉め提案（高速走行時）

ドアガラスが開いている状態で一定以上の車速になると、ドアガラスを閉める提案メッセージを表示します。

このとき「はい」を選択すると、開いているすべてのドアガラスが閉まります。

■ レンジモード切りかえ提案

駆動用電池の残量が一定以下になると、ドライブモードをレンジモードに切りかえる提案メッセージを表示します。（→P.448）

このとき「はい」を選択すると、レンジモードに切りかわります。

パワースイッチを OFF にしたときに表示される項目

パワースイッチを OFF にしたときに、マルチインフォメーションディスプレイに次の項目を表示します。

- 充電スケジュール
- 始動後平均電費 ※
- 始動後走行距離 ※
- 始動後走行時間 ※

※ EV システムを始動するたびに、表示がリセットされます。

設定について

メーター操作スイッチを操作してご希望の項目を選択することで、車両の設定や画面の表示内容などを変更することができます。

■ 変更できる項目（機能の切りかえ）

→P.612

■ 変更できる項目（メーター表示）

● 言語

表示される言語を選択することができます。

● 単位

電費単位の単位を選択することができます。

● メータータイプ

メーター表示のタイプを変更することができます。

● インフォメーション設定

コンテンツ表示エリア（左）に表示させる項目の設定ができます。

● ドライブインフォメーション

ドライブインフォメーションに表示する項目の種類を選択することができます。

● TRIP A 項目選択

トリップインフォメーション A に表示する項目の種類を選択することができます。

● TRIP B 項目選択

トリップインフォメーション B に表示する項目の種類を選択することが

できます。

● 割り込み表示

割り込み表示される項目の表示／非表示を、項目ごとに変更することができます。

● カレンダー

年・月・日を設定することができます。（マルチメディアシステムの設定で、時計の GPS 補正を OFF にした場合にのみ、設定が可能になります）

● 表示設定初期化

メーターの表示設定を初期状態にもどすことができます。

■ 変更できる項目（車両設定）

→P.611



知識

■ 設定画面の操作について

● 一部の項目を除き、車両走行中は設定画面を操作することができません。設定を変更するときは、安全な場所に停車して操作してください。

● 警告メッセージが表示されたときは、設定画面の操作が一時中断されます。

● 車両に装着されていない機能の設定項目は表示されません。

● 設定変更の対象となる機能が OFF になっているときは、関連する設定項目も選択不可になります。



注意

■ ディスプレイの設定を変更するとき

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実に EV システムが作動している状態で実施してください。

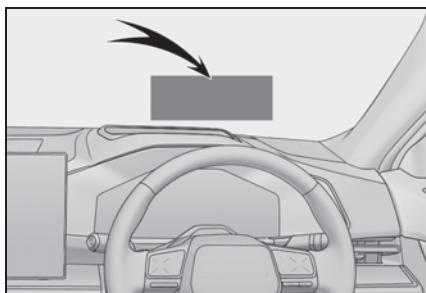
ヘッドアップディスプレイ

ヘッドアップディスプレイは、フロントウインドウガラスに運転支援システムの作動状況や走行に関するさまざまな情報を表示することができます。

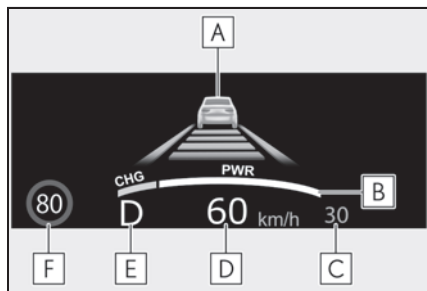
システムの構成部品

ヘッドアップディスプレイ表示のタイプを変更することができます。
(→P.185)

表示内容は、走行状況やヘッドアップディスプレイの表示モードによって異なります。また、状況に応じて割り込み表示します。



▶ フル



イラストは説明のための例であり、実際の表示状況とは異なります。

A 運転支援システム表示エリア

(→P.186) / ナビゲーションシステム連携表示エリア

B パワーメーター / シフトガイドメーター

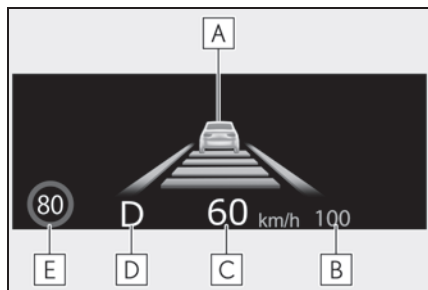
C 運転支援システム表示エリア
(→P.186)

D スピードメーター

E シフトポジション / シフトレンジ / ギヤ段表示 (→P.262)

F RSA (ロードサインアシスト) 表示エリア (→P.340)

▶ スタンダード



イラストは説明のための例であり、実際の表示状況とは異なります。

A 運転支援システム表示エリア
(→P.186) / ナビゲーションシステム連携表示エリア

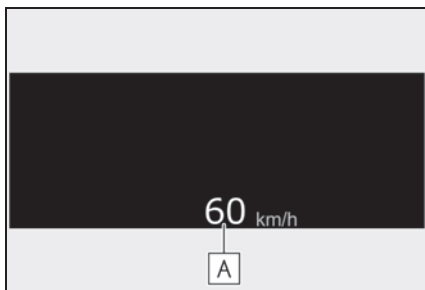
B 運転支援システム表示エリア
(→P.186)

C スピードメーター

D シフトポジション / シフトレンジ / ギヤ段表示 (→P.262)

E RSA (ロードサインアシスト) 表示エリア (→P.340)

▶ ミニマム



イラストは説明のための例であり、実際の表示状況とは異なります。

A スピードメーター

知識

■ ヘッドアップディスプレイの作動条件

パワースイッチがON のとき

■ ヘッドアップディスプレイについて

サングラス（特に偏光サングラス）を着用していると、ヘッドアップディスプレイの表示が見づらくなる場合があります。表示が見づらい場合は、輝度を調整するか、サングラスをはずしてください。

■ 交差点名表示について

地図データに情報がない場合など、状況によっては交差点名称が表示されない場合があります。

■ レーン（車線）表示について

地図データに情報のない交差点では、レーン表示は行われません。また、交差点によっては、レーン表示と実際の交差点形状が異なる場合があります。現場の標識、道路形状に従ってください。（レーン情報のある交差点の手前 300m 以内にレーン情報のない交差点がある場合、道路形状が工事等で変更になった場合など）

警告

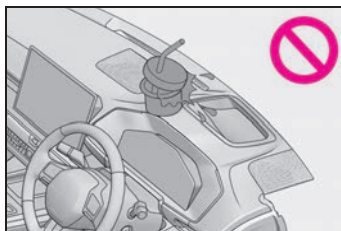
■ ヘッドアップディスプレイ使用上の留意点

- 映像の明るさ、および表示位置は、安全運転に支障がないよう適切な状態に調整してください。調整が不適切だと運転者の視界のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ヘッドアップディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあります。

注意

■ ヘッドアップディスプレイ映写部についての注意

- 映写部の付近に飲み物を置かないでください。水やその他の液体が映写部にかかると、装置が故障の原因になります。



- 映写部の上にものを置いたり、シールなどを貼り付けたりしないでください。ヘッドアップディスプレイの表示のさまたげとなります。
- 映写部の内部にふれたり、とがったものを押し付けたりしないでください。装置が故障する原因となります。

ヘッドアップディスプレイの使い方

マルチインフォメーションディスプレイ

レイのから、次の設定を変更することができます。(→P.616)

■ ヘッドアップディスプレイの表示／非表示

ヘッドアップディスプレイの表示／非表示を切りかえることができます。

■ ヘッドアップディスプレイの設定変更

● 表示の明るさ／上下位置

表示の明るさや、上下の位置を調整することができます。

● 表示タイプ

ヘッドアップディスプレイ表示のタイプ(→P.184)を変更することができます。

● 表示の傾き

表示の傾きを調整することができます。



知識

■ ヘッドアップディスプレイの表示／非表示について

ヘッドアップディスプレイを非表示にしたときは、パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、非表示のままです。

■ 表示の明るさについて

● 明るさの設定に加えて、周囲の明るさに応じて表示の明るさが自動で調整されます。

● ヘッドアップディスプレイ周辺の温度が高くなると、ヘッドアップディスプレイの保護のため、表示の明るさが徐々に暗くなります。周囲の温度が下がると徐々に元に戻ります。

■ ヘッドアップディスプレイ表示位置の自動調整

お好みのヘッドアップディスプレイ表示位置をポジションメモリーに登録すると、

自動で調整されます。



注意

■ ヘッドアップディスプレイの設定を変更するときは

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実に EV システムが始動している状態で実施してください。

運転支援システム表示

次のシステムの作動状況を表示します。

- レーダークルーズコントロール (→P.343)
- LTA (レーントレーシングアシスト) (→P.318)
- LDA (レーンディパーチャーアラート) (→P.326)
- LCA (レーンチェンジアシスト) (→P.322)
- PDA (プロアクティブドライビングアシスト) (→P.333)
- アドバンスド ドライブ (渋滞時支援) (→P.360)

ヘッドアップディスプレイに表示される内容は、マルチインフォメーションディスプレイに表示される内容と異なる場合があります。詳しくは各システムの説明をご覧ください。

地図表示

ナビゲーションシステムと連携して、マルチインフォメーションディスプレイに地図情報などを表示します。

割り込み表示について

状況に応じて、次の項目が割り込み表示されます。

■ 運転支援システム

運転支援システムの警告／注意喚起／通知／作動状況を表示します。

■ 警告メッセージ

一部の警告メッセージが表示されます。

■ ハンズフリー作動表示

ハンズフリーの作動中に表示されます。



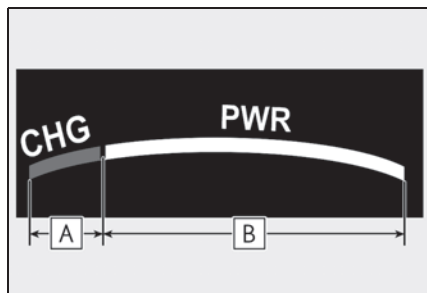
知識

■ 割り込み表示について

割り込み表示される項目によっては、一部の表示エリアが非表示になります。割り込み表示終了後、もとの表示にもどります。

パワーメーター／シフトガイドメーター表示エリア

■ パワーメーター



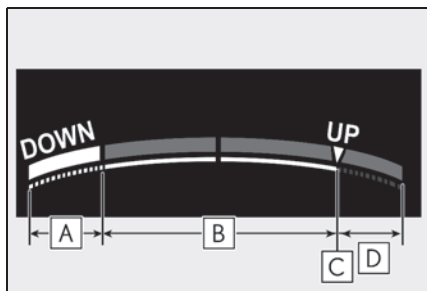
イラストは説明のための例であり、仕様によって表示は異なります。

A チャージエリア

B パワーエリア

詳しくは各システムの説明をご覧ください。(→P.173)

■ シフトガイドメーター



イラストは説明のための例であり、仕様によって表示は異なります。

A シフトダウン推奨エリア

B インタラクティブエリア

C シフトアップポイント

D シフトアップ推奨エリア

詳しくは各システムの説明をご覧ください。(→P.174)

4-1. キー

キー 190

デジタルキー 193

4-2. ドアの開閉、ロックのしかた

ドア 197

トランク 203

スマートエントリー&スタートシ
テム 211**4-3. シートの調整**

フロントシート 217

パワーリヤシート 219

ヘッドレスト 222

4-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル 224

デジタルインナーミラー 225

ドアミラー 232

**4-5. ドアガラス・ムーンルーフの開
閉**

パワーウィンドウ 235

パノラマムーンルーフ 238

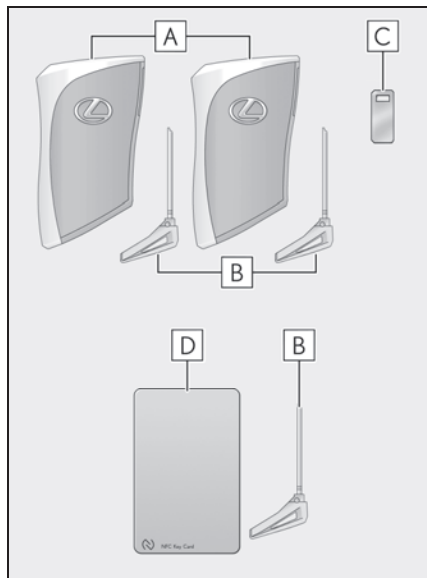
4-6. お好み設定パワーイージーアクセスシステム/
ポジションメモリー/メモリー
コール機能 242

マイセッティング 245

キー

キーの種類

お客様へ次のキーをお渡しします。



A 電子キー

- ・スマートエントリー&スタートシステムの作動 (→P.211)
- ・ワイヤレス機能の作動 (→P.192)

B メカニカルキー

C キーナンバープレート

D NFC キーカード★

NFC キーカードの作動 (→P.193)

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



知識

■ 航空機に乗るとき

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管す

る場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■ 電池の消耗について

- 電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。
- 電池残量が少なくなると、EV システムを停止した際に車内から警告音が鳴ります。
- 長期間使用しない電子キーは、節電モードにすることで電池の消耗を抑えることができます。(→P.213)
- 電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。(→P.545)
 - ・ スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
 - ・ 作動範囲が狭くなった
 - ・ 電子キーの LED が点灯しない
- 電池はお客様自身で交換することができます (→P.545) が、交換の際にキーが破損するおそれがあるため、レクサス販売店での交換をおすすめします。
- 電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の 1m 以内に電子キーを保管しないでください。
 - ・ TV
 - ・ パソコン
 - ・ 携帯電話やコードレス電話機、および充電器
 - ・ 電気スタンド
 - ・ 電磁調理器

■ 電池の交換方法

→P.545

■ キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認する

ことができます。詳しくはレクサス販売 店へご相談ください。

■電子キーの取り扱いについて

JP

電子キーは電波法の認証に適合しています。

必ず以下のことをお守り下さい。

- ・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- ・必ず日本国内でご使用下さい。

00

本製品は電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守りください。

- ・本製品を不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- ・必ず日本国内でご使用ください。

■マルチインフォメーションディスプレイに“新しいキーが登録されました心当たりがない場合は販売店に問い合わせください”と表示されたときは

追加で新しくキーが登録された場合、車外から解錠して運転席ドアを開けたときにメッセージが表示されることが10日ほど続きます。キーの登録をした覚えがないにも関わらずメッセージが表示されたときは、お持ちのキー以外に登録されているキーがないかをレクサス販売店で確認してください。



注意

■キーの故障を防ぐために

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない

- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- 電子キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品の近くに置かない
- 電気医療機器（マイクロ波治療器や低周波治療器など）の近くに置いたり、身につけたまま治療を受けない

■キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは10cm以上離して携帯してください。10cm以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

⚠ 注意

■ スマートエントリー&スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

→P.594

■ 電子キーを紛失したとき

→P.593

■ NFC キーカード★の破損を防ぐために

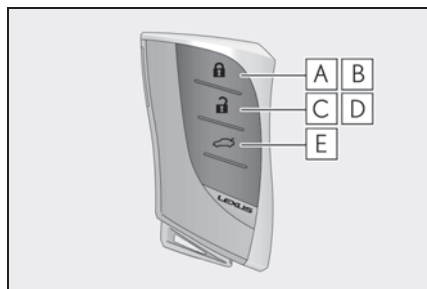
★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

次のことをお守りください。

- 特殊な環境（高放射線区域など）での使用を避ける
- 小銭などの硬いものと一緒に保管しない
- 直射日光に長時間さらさない
- 湿気やほこりの多い場所に保管しない
- お子さまの手の届かないところに保管する
- 薬品に漬けない

ワイヤレス機能について

キーには次のワイヤレス機能が搭載されています。



A ドアの施錠 (→P.197)

B ドアガラスとパノラミックムーンルーフを閉める ※ (→P.197)

C ドアの解錠 (→P.197)

D ドアガラスとパノラミックムーンルーフを開く ※ (→P.197)

E トランクを開ける (→P.207)

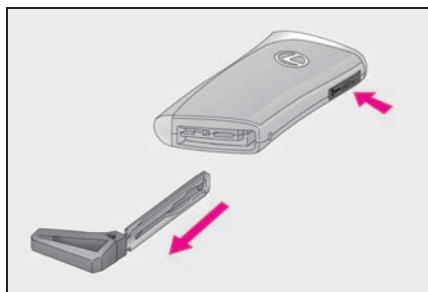
※ レクサス販売店ででの設定変更が必要です。

メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出してください。

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。(→P.594)



□ 知識

■ 駐車場などでキーを預けるとき

必要に応じてトランクオープナーメインスイッチを OFF (→P.211) にして、グローブボックス (→P.488) ・ アームレス

トドア（→P.503）を施錠します。
メカニカルキーを取り出し、電子キーの
みを渡してください。

■メカニカルキーを紛失したとき

→P.593

■不正キーの使用について

指定のメカニカルキー以外のキーを使用
すると、キーシリンダーが空まわりして
解錠できません。

デジタルキー★

★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

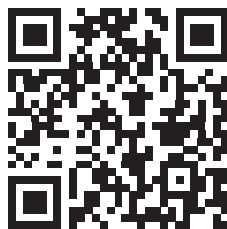
デジタルキーに対応しているス
マートフォン（スマートウォッチ）
を車両の電子キーの代わりとして
利用できます。

また、家族や友人などとのあいだ
で、デジタルキーを共有すること
もできます。

本書では、デジタルキーについて
の基本的な情報のみを記載してい
ます。システム全体の説明や、デ
ジタルキーをお使いいただく上で
の注意事項やアプリのインストー
ル方法などについては、デジタル
キーの Web サイトの説明を必ず
ご覧の上、正しくご使用ください。

URL：[https://lexus.jp/service/
digitalkey/](https://lexus.jp/service/digitalkey/)

QR コード：



知識

■NFC キーカードについて

付属の NFC キーカードでドアの解錠／施
錠および、EV システムの始動をすること
ができます。

デジタルキーが使用できないときでも、

NFC キーカードは使用することができます。

■ NFC キーカードを使用してドアを解錠／施錠するには

運転席外側の図で示す位置に NFC キーカードの中央をかざしてください。全てのドアが解錠されます。

施錠する場合も同じようにかざすことで、全てのドアを施錠することができます。



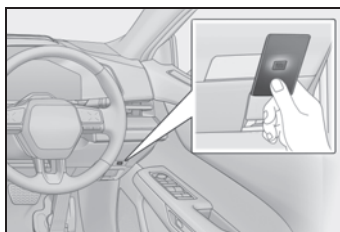
■ NFC キーカードを使用して EV システムを始動するには

- 1 シフトポジションが P の状態でブレーキペダルを踏む

■ デジタルキーの取り扱い

手順 3 までブレーキペダルを踏み続けてください。

- 2 図で示す位置に NFC キーカードの中央をかざす



NFC キーカードを認識するとブザーが鳴り、自動的にパワースイッチが ON へ切りかわります。車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定が非作動になっている、かつ ACC カスタマイズが ON のときは、ACC へ切りかわります。

- 3 パワースイッチを短く確実に押す

JP

- ・本機は、電波法の基準に適合しています。
- ・本機を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

00

この製品には、総務省指定第 CC-25001 号の RFID (誘導式読み書き通信設備) が内蔵されています。

- ・本機は、電波法の基準に適合しています。
- ・本機を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。
- ・本製品には、総務省指定第 CC-25007 号の RFID (誘導式読み書き通信設備) が内蔵されています。

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.618)

デジタルキーの使用条件

デジタルキーを使用するためには、G-Link 契約が必要となります。

ダウンロードやご利用時にかかるパケット通信料はお客様の負担となります。

デジタルキーの注意事項

- デジタルキーは本書に記載された使用方法および注意事項を守ってご利用ください。

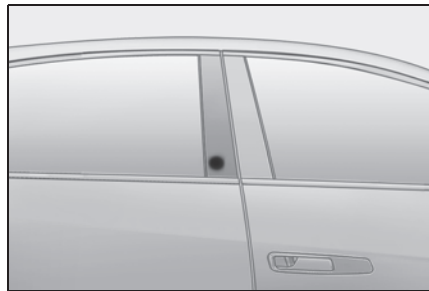
デジタルキーは以下の場合などでは使用できなくなることがあります（詳細は、https://toyota.jp/digital_key/ をご確認ください）。そのため、必要に応じて車両の電子キーも携行してください。

- ・ スマートフォンが故障した場合
- ・ システムメンテナンス等により一時的にサービスが停止している場合
- デジタルキーの利用登録及び登録削除は、車両とサーバー、スマートフォンとサーバーとが通信可能な状態のとき、利用できます。
- スマートフォンのバッテリーの充電が必要な状態でも一定時間はデジタルキーを使用することが可能です。
デジタルキーが使用できない場合は電子キーもしくは、NFC キーカードを使用してください。
- お客様が車両を売却するときはデジタルキーを必ず削除してください。

削除方法はデジタルキーの Web サイトを参照ください。

- 14 日間以上、車両の操作が無い

場合はデジタルキーが自動では接続されません。この場合、デジタルキーを下記のイラストの位置にかざして、ドアの解錠操作を実施してください。



- サーバーメンテナンス期間はサービスを一部停止させて頂く場合があります。ただし、登録済みのデジタルキーは一定期間ご利用いただけます。
- デジタルキーをダウンロードしたスマートフォンは、車両の電子キーと同様にドアの施錠／解錠やEVシステムの始動などが可能になるため、スマートフォンの車内への置き忘れや盗難などには特にご注意ください。
- 万一、スマートフォンを紛失した、または盗難にあった場合は、お車のディスプレイでデジタルキーを削除またはデジタルキーの設定を無効にしてください。または、ただちにレクサスオーナーズデスク、レクサス販売店にご相談ください。
- 点検や修理などでレクサス販売店にお越しの際は、電子キーと NFC キーカードを必ずご持参ください。
- デジタルキーシステムは、スマー

トフォンと通信を行っており、車両操作が検知できない場合は自動的に節電状態に移行します。節電状態では下記の機能が作動しません。その際は、運転席のドアハンドルに触れてドアを解錠してください。なお、節電状態は車両パワースイッチを ON にすることで解除されます。

- ・ 接近時オートアンロック
- ・ イルミネーテッドエントリー システム

機能が正常に働かないおそれのある状況

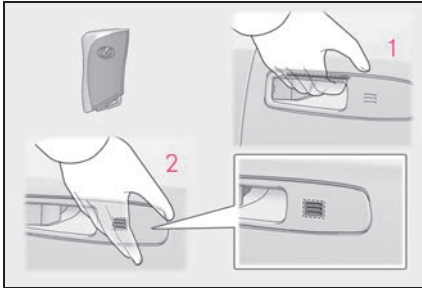
- 電波環境によりデジタルキーが不作動になる場合があります。(デジタルキーの Web サイト参照)
- スマートフォン (デジタルキー) または NFC キーカードと NFC アンテナ間の通信で使用する周波数は、13.56MHz です。この周波数帯は、ISM バンドとしても割り当てられており、高周波電源装置・高周波乾燥機・高周波プラズマ発生器に使用されています。これらの機器ならびにこれらに類する機器が使用されている環境でご利用された場合、通信機能上の損傷を受ける場合がありますのでご注意ください。また、非接触通信機能は、静電気、電波ノイズや周辺金属等の環境により影響を受ける場合がありますのでご注意ください。特に製品が金属物に囲まれたり、接したりした場合、通信が正常に機能しないことがあります。

ドア

車外から解錠／施錠するには

■ スマートエントリー&スタートシステムを使用する

電子キーを携帯して操作します。



1 ハンドルを握って解錠する※

ハンドル開口上端のセンサー部に確実に触れてください。

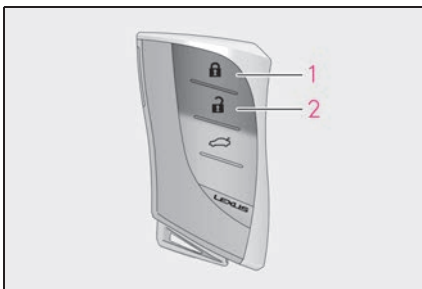
施錠操作後約3秒間は解錠できません。

※ 解錠の設定を変更することができます。

2 ドアハンドル表面のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

■ ワイヤレス機能を使用する



1 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

押し続けるとドアガラスとパノラマムー

ンルーフが閉まります。※

2 全ドアを解錠する

押し続けるとドアガラスとパノラマムー
ンルーフが開きます。※

※ レクサス販売店ででの設定変更が必要です。

知識

■ 降車オートロック機能※

※ 設定変更が必要です。（→P.619）

次の手順で車から離れることで、自動で施錠することができます。

1 電子キーを携帯して降車し、すべてのドアを閉める

車内に電子キーがあると施錠できません。
車内にあるすべての電子キーを携帯してください。

2 電子キーの作動範囲内（→P.212）でブザーが“ピピッ”と鳴るまで待機する

降車オートロック待機状態になります。

3 降車オートロック待機状態になったら、電子キーの作動範囲から離れる

車から2～5m※ 離れると、すべてのドアが施錠され、作動の合図でお知らせします。（→P.198）

約1分間電子キーの作動範囲から離れなかったときは、警告ブザーが鳴り、降車オートロック待機状態が解除されます。この場合は、ドアを開閉することで降車オートロック待機状態にもどります。

※ 作動する距離は、歩く速度によって変わります。

■ 降車オートロック機能を一時的に非作動にするには

降車オートロック待機状態のときに電子キーを携帯し、ブザーが“ピッピー”と鳴るまでドアハンドルを握り続けるこ

とで、降車オートロック機能を非作動にすることができます。

降車オートロック機能を一時的に非作動にした場合、次の操作のあとドアを開閉することで作動可能状態にもどります。

- ドアを施錠・解錠する
- EV システムを始動する

■ 接近時オートアンロック機能 ※

※ 設定変更が必要です。(→P.619)

次の条件を満たしているときに、電子キーの作動範囲内に電子キーがあるとドアを解錠することができます。

- すべてのドアが閉まっている
- すべてのドアが施錠されている

■ 接近時オートアンロック機能を一時的に非作動にするには

すべてのドアが閉まっている状態のときに電子キーを携帯し、ブザーが“ピッピー”と鳴るまでドアハンドル表面のロックセンサー部にふれ続けることで、接近時オートアンロック機能を非作動にすることができます。

接近時オートアンロック機能を一時的に非作動にした場合、EV システムを始動することで作動可能状態にもどります。

■ 解錠するドアを切りかえるには

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー&スタートシステムで解錠できるドアの設定を切りかえることができます。

- 1 パワースイッチを OFF にする
- 2 キー表面のインジケーターが消灯しているときに  ボタンと同時に、 または  のいずれかを約 5 秒間押し続ける

操作を行うごとに次のように設定が切りかわります。(続けて切り替え操作を行う

場合は、ボタンから手を離れたあと 5 秒以上間隔をあけてから手順 2 を行ってください)

マルチインフォメーションディスプレイ表示/ブザー音	解錠できるドア
 車外：“ピッピ” (3回)	運転席のドアハンドルを握ると運転席のみ解錠
	助手席のドアハンドルを握ると全席解錠
 車外：“ピッピ” (2回)	いずれかのドアハンドルを握ると全席解錠

オートアラームの誤作動防止のため、登録後はいったんワイヤレスリモコンで解錠し、ドアを開閉してください。( ボタンを押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます) オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作を行ってください。(→P.58)

■ 衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。衝撃の度合いや事故の状況によっては作動しないことがあります。

■ 作動の合図

ドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

ドアガラスとパノラマムーンルーフの開閉をブザーで知らせます。

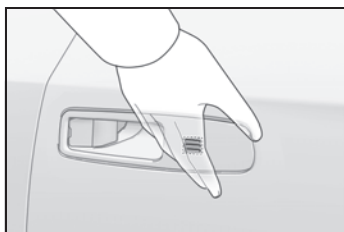
■ 解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

セキュリティ機能で施錠されたとき、電子キーの位置によって室内の作動範囲内に電子キーがあると検知されると、再度解錠されることがあります。

■ ドアハンドル表面のロックセンサーで施錠できないとき

ドアハンドル表面のロックセンサーに指でふれても施錠できないときは、手のひらでロックセンサーにふれてください。手袋を着用しているときは、手袋をはずしてください。



■ 半ドア警告ブザー

次のような場合、半ドア警告ブザーが鳴ります。すべてのドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

- スマートエントリー&スタートシステムで施錠操作をしたときに、施錠しようとしたドア以外のドアが開いていた
- ワイヤレス機能で施錠操作をしたときに、いずれかのドアが開いていた

■ オートアラームの設定制御

施錠するとオートアラームが設定されます。(→P.57)

■ スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのあるとき

→P.213

■ スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P.594) 電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。(→P.545)

■ 補機バッテリーがあがったときは

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンでドアを施錠・解錠することはできません。

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠をしてください。(→P.594)

■ リヤシートリマインダー機能

リヤシートへの荷物の置き忘れなどを防止するため、次の操作を行ってからパワースイッチを OFF にするとブザーが鳴り、約 6 秒間マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

また、ドアを施錠したときにマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、ブザーと非常点滅灯が数秒作動します。

パワースイッチを OFF にしてからリヤドアを開けた場合は、ドアを施錠してもリヤシートリマインダー機能は作動しません。

- リヤドアを開閉したあと約 15 分以内に EV システムを始動した
- EV システムが始動している状態でリヤドアを開閉した

ただし、リヤドアを開けてから約 2 秒以内にリヤドアを閉めたときは、リヤシートリマインダー機能は作動しません。

リヤシートリマインダー機能は、リヤドアの開閉によりリヤシートに荷物などを載せたと判断します。そのため、使い方によってはリヤシートに荷物を置き忘れていてもリヤシートリマインダー機能が

作動しないなど、実際の状況とは異なる作動をする場合があります。

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.617)

⚠ 警告

■ 事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する

- 走行中はドア内側のドア開スイッチを押さない
特に、運転席はドアロックボタンが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ ドアを開閉するときの留意事項

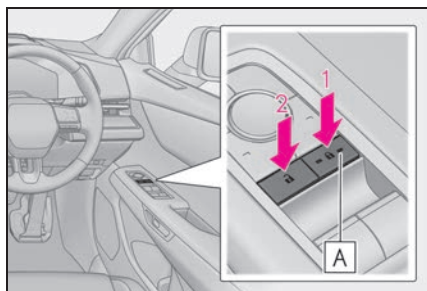
傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

■ ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスやパノラマムーンルーフを操作するとき

ドアガラスやパノラマムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやパノラマムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

車内から解錠／施錠するには

■ ドアロックスイッチを使用する



- 1 前席：全ドアを施錠する
後席：ドアを施錠する

ドアロックインジケーター **A** が点灯します。

- 2 前席：全ドアを解錠する
後席：ドアを解錠する

ドアロックインジケーター **A** が点灯します。

□ 知識

■ イージークローザー（イージークローザー装着車）

ドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが作動し自動で完全に閉まります。

- パワースイッチがOFFになっていても、

イージークローザーは作動します。

- 車内のドアハンドルや車外のドアハンドルを引いたままドアを閉めたときは、イージークローザーは作動しません。
- イージークローザーが作動中でも、車内のドアハンドルや車外のドアハンドルを引いてドアを開けることができます。(ドアロックボタンやチャイルドプロテクターが施錠側のときを除く。)
- イージークローザーでドアが閉まったあと数秒間モーター音が聞こえますが、異常ではありません。

■ 半ドア走行時警告ブザー

いずれかのドア、トランクまたはボンネットが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえると警告ブザーが鳴ります。開いているドア、トランクまたはボンネットがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ カスタマイズ機能

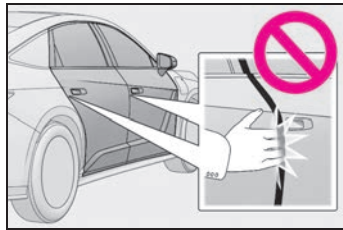
機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.617)

⚠ 警告

■ イージークローザーについて

ドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが動き完全に自動で閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などをドアのあいだに挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。

チャイルドプロテクターが施錠側になっているドアは、車内のドアハンドルを引いてもイージークローザーの作動を停止できないため、特にご注意ください。

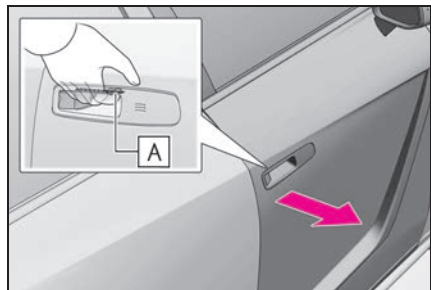


⚠ 注意

■ イージークローザーの故障を防ぐために

ひんぱんにドアの開閉を繰り返したり、イージークローザーの作動中にドアに無理な力をかけたりしないでください。

車外からドアを開けるには



ドアハンドルのドア開スイッチ **A** を押してドアを開く

ドアハンドル裏面のドア開スイッチ **A** を確実に押してください。

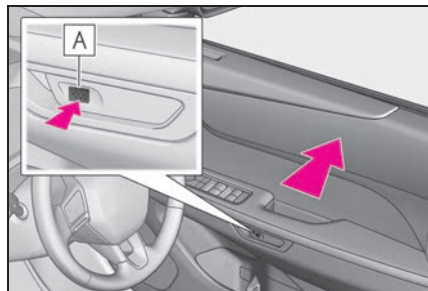


■補機バッテリーがあがったときは

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンでドアを施錠／解錠することや、ドア開スイッチでの操作はできません。

メカニカルキーを使って手動リリースハンドルの作動を有効／無効にしてください。手動リリースハンドルの作動を有効にすることでドアを開くことができます。(→P.597)

車内からドアを開けるには



ドア開スイッチ **A** の前側を押してドアを開く

運転席：ドアが施錠されていても開きます。

ドアが解錠されると、ドアロックインジケータが消灯します。



■車内のドア開スイッチの作動条件

次のいずれかの条件を満たしたときに作動します。

- 車速が 4km/h 未満で、パーキングブレーキがかかっているとき
- 車速が 4km/h 未満で、ブレーキペダルを踏んでいるとき
- シフトポジションがPの位置にあるとき

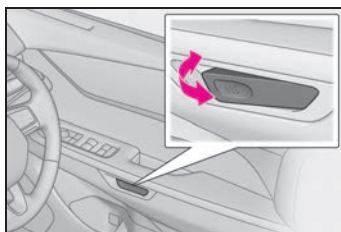
■車内からドアを開けるときは

半ドア状態になった場合は、ドア開スイッチを 2 回押してドアを開けてください。

■車内の手動リリースハンドルについて

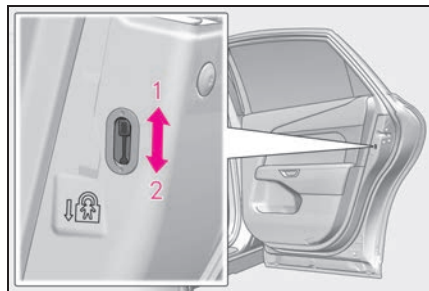
車内のドア開スイッチは、手動でドアを開けることもできます。

ドア開スイッチを押すと電動操作でドアが開き、ドア開スイッチを 2 回引くと手動リリースハンドルとしてドアを開けることができます。



チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。



1 解錠

2 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。



■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

オートドアロック・アンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。

設定変更のしかたについては、P.617を参照してください。

機能	作動内容
車速感应オートドアロック	速度が約 4km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
シフト操作連動ドアロック	EV システムが作動中にシフトポジションを P 以外にしたとき全ドアが施錠されます。
シフト操作連動アンロック	シフトポジションを P にしたとき全ドアが解錠されます。
運転席ドア開連動アンロック	パワースイッチを OFF にしてから約 45 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

トランク

トランクオープナースイッチやスマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスリモコンを使って開けることができます。

トランククローザーで閉めることもできます。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行する前に

●走行前にトランクが閉まっていることを必ず確認してください。完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたったり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

●トランクの中でお子さまを遊ばせないでください。誤って閉じ込められた場合、熱射病や窒息などを引き起こすおそれがあります。

●お子さまにはトランクの開閉操作をさせないでください。不意にトランクリッドが開いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■走行中の留意事項

トランク内には絶対に人を乗せないでください。

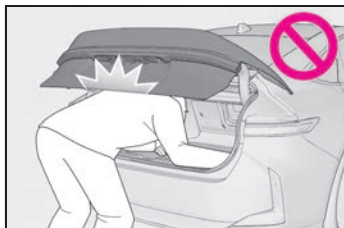
急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■ トランクの使用にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあります。

- トランクを開ける前に、トランクリッド上の雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでトランクリッドが突然閉じるおそれがあります。
- トランクを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
トランクリッドが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- 半開状態で使用すると、トランクリッドが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜した場所では、平坦な場所よりもトランクの開閉がしにくく、急にトランクが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずトランクが全開で静止していることを確認して使用してください。



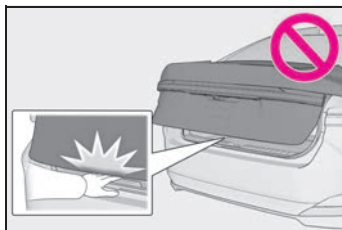
- トランクを閉めるときは、トランクリッドで指などを挟まないよう十分注意してください。



- トランクは必ず外からトランクリッド背面を軽く押して閉めてください。トランクグリップで直接トランクを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。
- トランクリッドにレクサス純正品以外のアクセサリ用品を取り付けしないでください。トランクリッドの重量が重くなると、開いたあとに突然閉じるおそれがあります。

■ イージークローザーについて

トランクが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き完全に自動で閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などをトランクのあいだに挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。



警告

■ パワートランクリッドについて

パワートランクリッドの操作時は、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- 周囲の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
- 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- トランクリッドが自動で開いている途中でパワートランクリッドスイッチを押すと、作動が停止します。坂道などの傾斜地では、停止させたとき急に開いたり閉じたりするおそれがあるため、十分注意してください。
- 傾斜した場所では、自動で開いたあとにトランクリッドが突然閉じる場合があります。トランクは必ず全開で静止していることを確認して使用してください。
- 次のような場合、システムが異常と判断し自動作動が停止することがあります。手動作動に切りかわり、急にトランクリッドが閉じるなどして思わぬ事故につながるおそれがあるため、十分に注意してください。
 - ・ 自動作動中、障害物に干渉したとき
 - ・ EV システム停止時でパワートランクリッドが自動作動しているときに、パワースイッチを ON にしたり EV システムを始動したりして、補機バッテリー電圧が急に低下したとき

- トランクリッドにレクサス純正品以外のアクセサリ用品を取り付けないでください。自動で作動できずにパワートランクリッドが故障したり、開いたあとに突然閉じるおそれがあります。

■ ハンズフリーパワートランクリッド★について

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- 周囲の安全を確かめ、障害物がないか、身体及び身の回りの品が挟み込まれる危険が無いか確認してください。
- リヤバンパーの下スペースが狭い場合は、操作しないでください。

■ 挟み込み防止機能

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、トランクが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

⚠ 注意

■ イーजीクローザーの故障を防ぐために

イーजीクローザーの作動中は、トランクに無理な力をかけないでください。

■ パワートランクリッドの故障を防ぐために

● パワートランクリッドを作動させる前に、トランクリッドの上に雪や荷物などが乗っていないことを確認してください。また、凍結によるトランクの貼り付きがないことを確認してください。トランクリッドに無理な力がかかっている状態で作動させると、故障の原因になります。

● パワートランクリッドの作動中は、トランクリッドに無理な力をかけないでください。

■ ハンズフリーパワートランクリッド★について

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

キックセンサーは、リヤバンパーの内側に設置されています。ハンズフリーパワートランクリッドを正しく作動させるために次のことをお守りください。

● リヤバンパーは常にきれいにしておく

リヤバンパーに汚れや着雪などがある場合、キックセンサーが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落としたあと、現在の位置から車両を動かしてから作動するか確認を行ってください。それでも作動しない場合はレクサス販売店にて点検を受けてください。

● リヤバンパーに親水性コーティングなどの液体を塗らない

● リヤバンパーへの強い衝撃を避ける
リヤバンパーが強い衝撃を受けると、キックセンサーが正常に作動しなくなるおそれがあります。次のような場合にキックセンサーが作動しないときは、必ずレクサス販売店で点検を受けてください

- ・ キックセンサーやキックセンサー周辺に強い衝撃を受けた
- ・ リヤバンパーに傷や破損がある

● リヤバンパーを分解しない

● リヤバンパーにステッカーを貼らない

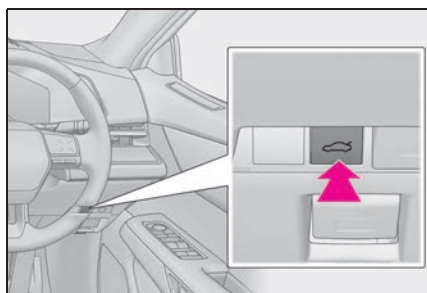
● リヤバンパーを塗装しない

● トランクに自転車キャリアなどを取り付けた場合は、ハンズフリーパワートランクリッドの作動を OFF にする

トランクを開閉するには

■ トランクオープナースイッチを使用して開く

トランクオープナースイッチを押す

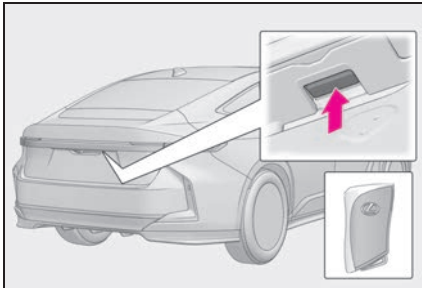


■ スマートエントリー&スタートシステムを使用して開く

電子キーを携帯し、スイッチを押す次のいずれかの方法ですべてのドアを解錠したときは、電子キーを携帯しなくてもトランクを開けることが

できます。

- スマートエントリー&スタートシステム
- ワイヤレス機能
- ドアロックスイッチ
- メカニカルキー
- オートドアアンロック機能



■ ワイヤレス機能を使用して開く

スイッチを押し続ける

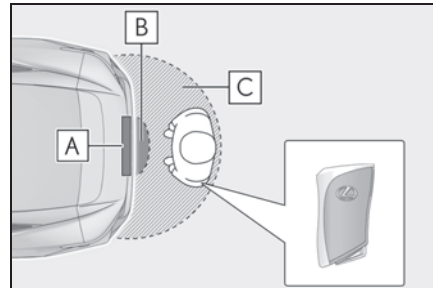


■ ハンズフリーパワートランクリッド★を使用して開閉する

ド★を使用して開閉する

★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

1 電子キーを携帯し、スマートエントリー&スタートシステムの作動範囲内に立つ



A キックセンサー

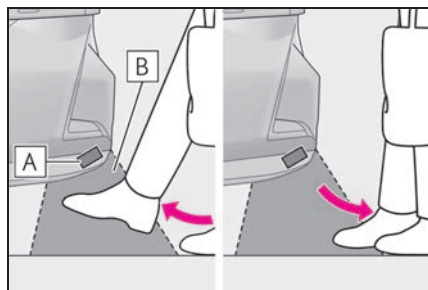
B ハンズフリーパワートランクリッド作動検知エリア

C スマートエントリー&スタートシステム作動検知エリア
(→P.212)

2 足をリヤバンパー中央の下に入れ、ブザーが1回鳴ったあと足を引く

- ・足を近付けて引く動作を1秒以内に行ってください。
- ・足先をリヤバンパーの下に入れたままでは作動しません。
- ・リヤバンパーに足先をあてずに非接触で操作してください。
- ・車室内またはトランク内に他の電子キーがあると、作動までの時間が少し長くなることがあります。
- ・ブザーが2回鳴った場合は、再度足を近付けて引く動作を行って

ださい。



A キックセンサー

B ハンズフリーパワートランクリッド作動検知エリア

- 3 足を引く動作をキックセンサーが検知するとブザーが鳴り、その後トランクが自動で全開・全閉します。

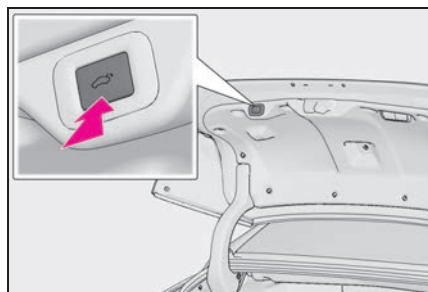
トランクの開閉作動中に再度操作をすると、作動を停止します。

■ トランククローザースイッチを使用して閉じる

スイッチを押す

ブザーが鳴り、自動で閉まります。

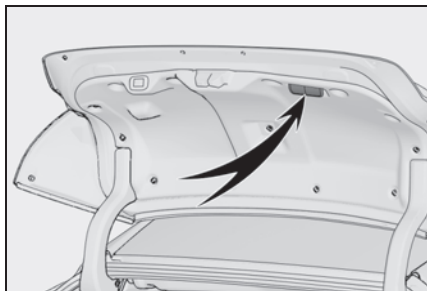
トランクが閉まる途中でスイッチを押すと、作動は停止します。



■ トランクグリップを使用して閉じる

トランクグリップを持ってトランクを引き下げる

ブザーが鳴り、自動で閉まります。



□ 知識

■ トランクランプ

- トランクを開けたとき、トランクランプが点灯します。
- パワースイッチがOFFの場合、トランクランプが点灯したままのときは、約10分後に自動消灯します。

■ イージークローザー

トランクが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き自動で閉まります。

- パワースイッチがOFFになっていても、イージークローザーは作動します。
- イージークローザーが作動しないときには、いったんトランクを半分以上開けてから、再度閉めてください。

■ トランク内キー閉じ込み防止機能について

- すべてのドアが施錠されている場合、トランク内に電子キーを置いたままトランクを閉めると、警告音が鳴ります。この場合、車外にあるトランクオープンスイッチで開けられます。
- すべてのドアが施錠されている状態で、予備のキーをトランクに入れたときも、キー閉じ込み防止機能が働き、トランクを開けることができます。盗難防止のため、車から離れるときは必ずすべての電子キーを携帯してください。

●すべてのドアが施錠されている状態でトランク内に電子キーを置いても、電子キーが置かれた場所や、周囲の電波状況によっては、トランク内の電子キーを検知できないことがあります。この場合は、キー閉じ込み防止機能が働かず、トランクを開めたときに施錠されてしまいます。トランクを閉めるときには、必ず電子キーの所在を確認してください。

●ドアがひとつでも解錠されている場合は、キー閉じ込み防止機能は働きません。この場合は、車内のトランクオープンスイッチでトランクを開けてください。

■過負荷防止機構

トランクリッドの上に無理な力がかかっているとパワートランクリッドは作動しません。

■落下防止機構

トランクリッドが自動で開くときに無理な力がかかると、トランクリッドが急激に落下しないようにブレーキをかけます。

■挟み込み防止機構

トランクリッドが自動で閉まる途中で異物を挟むと、作動が停止して開きます。

■メカニカルキーについて

トランクはメカニカルキーを使用して開けることもできます。(→P.595)

トランクをメカニカルキーで開けたときは、パワートランクリッドとイージークローザーは作動しません。作動させるには、手でトランクを全閉にしてから操作してください。

■スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

メカニカルキーを使ってトランクを開けることができます。(→P.594)
電子キーの電池が消耗しているときは、

電池を交換してください。(→P.545)

■ハンズフリーパワートランクリッドの作動条件

●ハンズフリーパワートランクリッド(キックセンサー)の作動の設定がONのとき

●電子キーを携帯して作動範囲内にいるとき

■ハンズフリーパワートランクリッドが正常に作動しない状況

ハンズフリーパワートランクリッドは、次のような状況では作動しないことがあります。

●足先をリヤバンパーの下に入れたままのとき

●リヤバンパーに足先が強くあたったときや、一定時間ふれたとき
リヤバンパーに一定時間ふれた場合は、少し時間をおいてから再度操作してください。

●電子キーと車両間の通信をさまたげる電波があるとき (→P.213)

●近くにテレビ塔や発電所・ラジオ放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●洗車や大雨などでリヤバンパーに大量の水がかかっているとき

●リヤバンパーの表面に泥・雪・氷などが付着したとき

●リヤバンパーに草木などの動くものがふれる状態が長時間続いたとき

●リヤバンパーにアクセサリ用品を付けたとき
アクセサリ用品を取り付けた場合は、ハンズフリーパワートランクリッド(キックセンサー)の作動の設定をOFFにしてください。

●外部電源から駆動用電池を充電してい

る時や、普通充電ケーブルを接続しているとき。

■ハンズフリーパワートランクリッドの誤作動を防ぐために

ハンズフリーパワートランクリッドは、電子キーが作動範囲内にあるときに誤作動するおそれがありますので、以下のことにご注意ください。

- 洗車や大雨などでリヤバンパーに大量の水がかかっているとき
- リヤバンパーの汚れを拭き取る動作をしたとき
- 小動物やボールなどがリヤバンパーの下を横切ったとき
- リヤバンパーの下のものを取る動作をしたとき
- リヤバンパーに腰かけて、足を動かしたとき
- リヤバンパーに足や体をふれながら車両を横切ったとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ラジオ放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- リヤバンパーの近くに草木などがある場所に駐車したとき
- リヤバンパーの近くで荷物などの積み降ろしをしたとき
- リヤバンパーの近くでアクセサリ用品やカーカバーの着脱作業をしたとき
- けん引されるとき

誤作動を防ぐときは、ハンズフリーパワートランクリッド（キックセンサー）の作動の設定を OFF にしてください。

■半ドア走行時警告ブザー

→P.201

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することがで

きます。（→P.618）

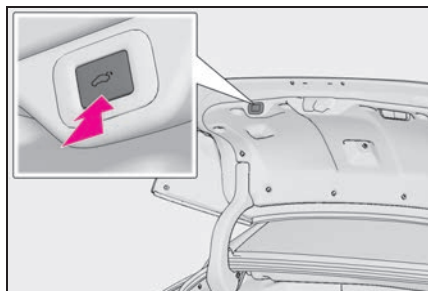
トランク自動開停止位置調整について

トランクを自動で開けたときに、開く位置を調整できます。

- 1 トランクをお好みの位置で停止させる（→P.208）
- 2 トランク下部のトランククローザースイッチを約 2 秒間押し続けたあと、スイッチから手をはなす

設定が完了するとブザーが 4 回鳴ります。

次回トランクを開けると、その位置でトランクが停止します。

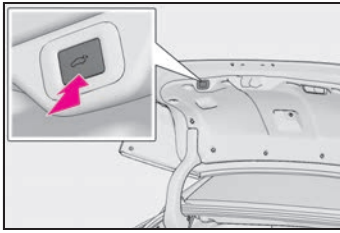


□ 知識

■トランク自動開停止位置を初期状態の位置にもどすには

トランク下部のトランククローザースイッチを約 6 秒間押し続けてください。

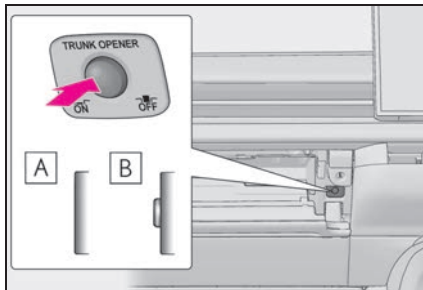
ブザーが 2 回鳴ります。次回トランクを開ける操作をすると、初期状態の位置までトランクが開きます。



荷物の盗難防止などのために

トランクに積んだ荷物の盗難防止などのために、トランクオープナースイッチを一時的に無効にすることができます。

グローブボックス内のトランクオープナーメインスイッチを OFF にする



A ON

B OFF

ワイヤレスリモコン・スマートエントリー&スタートシステム・ハンズフリーパワー・トランクリッド★でもトランクを開けられなくなります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



■ 駐車場などでキーを預けるときは

→P.192

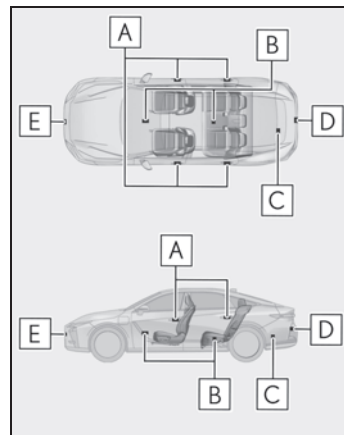
スマートエントリー&スタートシステム

電子キーをポケットなどに携帯すると、次の操作が行えます。必ず運転者がキーを携帯してください。

- ドアを解錠・施錠する (→P.197)
- トランクを開ける (→P.206)
- EV システムを始動する (→P.258)



■ アンテナの位置



A 車外アンテナ

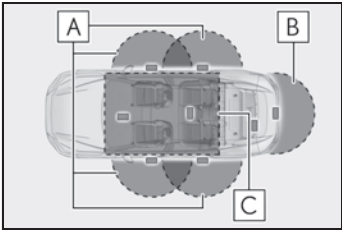
B 車室内アンテナ

C トランク内アンテナ

D トランク外アンテナ

E 車外アンテナ (Lexus Teammate Advanced Park リモート機能用)

■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）



A ドアの施錠・解錠時

ドアハンドルから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

B トランクの解錠時

トランクオープンスイッチから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。

C EV システム始動時またはパワースイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

■ 警告音が鳴ったり警告表示が出たりしたとき

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。（→P.570）

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次の通りです。

- 車外から警告音が “ピー” と 5 秒鳴るとき

状況	対処方法
いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムもしくは、ワイヤレス機能で施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠する
全ドアが施錠されている状態で電子キーをトランク内に置いたままトランクを開けた	トランク内から電子キーを取り出した後、トランクを閉じる

- 車内から警告音が “ポーン、ポーン” と鳴り続けるとき

状況	対処方法
運転席ドアが開いている状態でパワースイッチを ACC にした（パワースイッチが ACC のとき運転席ドアを開いた）	パワースイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉める
運転席ドアが開いている状態でパワースイッチを OFF にした	運転席ドアを閉める

■ マルチインフォメーションディスプレイに “車室内にキーがあります” と表示されたとき

車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠しようすると、警告メッセージが表示されます。車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠してください。

■ 節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両の補機バッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

- 次の状況では、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。

- ・車の周辺に電子キーを一定時間以上放置した
- ・数日間スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった
- 14 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■ 電子キーを節電モードにするには

- 節電モードに設定すると、電子キーによる、電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。
- 電子キーの  を押しながら、 を 2 回押し、電子キーのインジケータが 4 回光ることを確認してください。
- 節電モード中は、スマートエントリー&スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。



- 長期間使用しない電子キーは、節電モードにしておくことをおすすめします。

■ 電子キーの機能が停止するとき

電子キーを置いたままにするなど、一定時間電子キーの位置に変化がなかった場合、電池の消耗を抑えるために電子キーの機能が停止します。

この場合は、電子キーを持ち上げるなどして位置を動かすことで、自動的に復帰

します。

■ 機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。(対処方法：→P.594)

- 電子キーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- 電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・ アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・ アルミ箔を使用したタバコの箱
 - ・ 金属製の財布やかばん
 - ・ 小銭
 - ・ カイロ
 - ・ CD や DVD などのメディア
- 近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- 電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
 - ・ 他の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
 - ・ パソコンや携帯情報端末 (PDA など)
 - ・ デジタルオーディオプレーヤー
 - ・ ポータブルゲーム機器
- リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき
- 充電器など電子機器の近くに電子キーを置いたとき

- コインパーキングなど通信をさまたげる電波がある場所に駐車したとき

スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠・解錠できない場合は、次の方法を試してください。

- ドアハンドルに電子キーを近付けて操作する
- ワイヤレス機能を使用する

上記の方法でも施錠・解錠できない場合は、メカニカルキーを使用してください。(→P.594)

また、スマートエントリー&スタートシステムでEVシステムが始動できない場合は、→P.595を参照してください。

■ ご留意いただきたいこと

- 電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のようなときは正しく作動しないことがあります。
 - ・ ドアの施錠・解錠時、電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎている、または地面の近くや高い場所にある
 - ・ トランクを開けるときの、電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央に近付きすぎている
 - ・ EVシステム始動時やパワースイッチの切りかえ時、電子キーがインストルメントパネルやフロア上・リヤシート後方のパッケージトレイ上・ドアポケット、またはグローブボックス内などに置かれている
 - ・ ドア解錠時に電子キーと車両との間を体でさえぎっている
- インストルメントパネル上面やドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外から施錠でき、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。
- 電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・

解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外は解錠しません。

- 車外でも電子キーがドアガラスに近付いていると、EVシステムを始動できることがあります。
- 電子キーが作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約30秒後に自動で施錠します）
- ワイヤレスリモコンなどでの施錠時にキーが車両の近くにあると、スマートエントリー&スタートシステムでの解錠ができないことがあります。（ワイヤレスリモコンを使用すると解錠できません）
- 手袋を着用していると施錠しないことがあります。
- ロック操作は、連続で2回まで有効です。3回目以降はロック動作しません。
- 電子キーを携帯したまま洗車をする、水がドアハンドルにかかったときに施錠・解錠をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をしてください。
 - ・ キーを車両から2m以上離れた場所におく（盗難に注意し保管してください）
 - ・ キーを節電モードに設定してスマートエントリー&スタートシステムの作動を停止する（→P.213）
- 洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、マルチインフォメーションディスプレイに警報が表示され車外のブザーが吹鳴することがあります。全てのドアを施錠すると警報は止まります。
- ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着すると、センサーが反応しない場合があります。その場合は氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。

●すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。センサーにふれ解錠したことを確認してからドアハンドルを引いてください。

●作動範囲内に他の電子キーがあると、解錠に時間がかかることがあります。

■長期間運転しないとき

●盗難防止のため、電子キーを車両から2m以上離しておいてください。

●あらかじめスマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることができます。

●電子キーの電池の消耗を抑えることができます。(→P.213)

■システムを正しく作動させるために

●電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。

作動時の電子キーの位置や持ち方によつては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。(誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります)

●トランク内に電子キーを置かないでください。

電子キーの場所(トランク内側の端)、状況(金属製のかばんの中、金属製のものの付近など)、または周囲の電波環境によつては、キー閉じ込み防止機能が作動しない場合があります。(→P.208)

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき

●ドアの施錠・解錠ができないとき、またはトランクが開けられないときは、次の方法を行ってください。

- ・電子キーをドアハンドルに近付けて施錠・解錠の操作をする
- ・電子キーをトランクにあるスイッチ(→P.206)に近付けてスイッチを押す
- ・ワイヤレスリモコンを使用する

上記の方法で施錠・解錠できないときは、メカニカルキーを使って操作してください。(→P.594)

なお、オートアラーム設定中にメカニカルキーで解錠すると、警報が鳴りますのでご注意ください。(→P.58)

●EVシステムの始動ができないときは、次の方法を行ってください。(→P.595)

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.618)

■カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたとき

- ドア・トランクの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドア・トランクの施錠・解錠ができます。(→P.197, 207, 594)
- EVシステムの始動・パワースイッチのモード切りかえ：P.595
- EVシステムの停止：P.260

 警告**■電波がおよぼす影響について（スマートエントリー&スタートシステムアンテナ）**

- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ（→P.211）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器以外の医療用電気機器をお使いの方は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波が医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることもできます。
詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

フロントシート

スイッチ操作により、シートの前後・上下位置などの調整ができます。

正しい運転姿勢がとれるよう調整してください。(→P.27)

警告

■シートを調整するとき

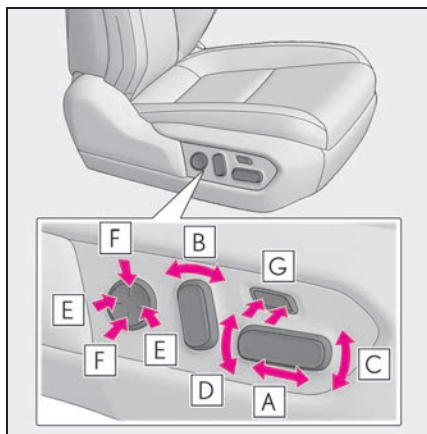
- 同乗者がシートにあたっけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■リクライニング調整について

背もたれは必要以上に倒さないでください。

必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

調整するには



- A** 前後位置調整
- B** リクライニング調整
- C** クッション前端の上下調整
- D** シート全体の上下調整
- E** 腰部前後調整（ランバーサポート）★
- F** 腰部上下調整（ランバーサポート）★
- G** クッションの長さ調整★（運転席）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■シートを調整するときは

- 周囲の人やものがシートに挟まれないよう注意してください。
- ヘッドレストが天井やサンバイザーなどにあたらないよう注意してください。

■パワーイージーアクセスシステム

パワースイッチのモード切りかえ・運転席シートベルトの脱着に連動して、ハン

ドルとシートが動きます。(→P.242)

運転席から助手席を操作するには (助手席ポジションメモリー シート装着車)

- 1 センターディスプレイメインメニューの  をタッチする
- 2 “シート・イルミネーション” にタッチする
- 3 “シート調整” または “シートアレンジ” にタッチする
- 4 操作したい項目にタッチし、助手席を操作する



知識

■運転席からの助手席操作について

次のときは、助手席を操作できません。

- パワースイッチがACCまたはOFFのとき
- 助手席が重量を検知したとき
- 一度シートが重量を検知すると、パワースイッチをOFFにするか、助手席ドアを開閉するまで、検知状態が継続します。
- 助手席シートベルトがバックルに留められているとき
- 助手席ドアが開いているとき（助手席の前方移動が不可）



警告

■運転席からの助手席操作について

助手席に乗員がいるときは操作をしないでください。また、操作中は、助手席に座らないでください。足を挟むなどして助手席乗員がけがをするおそれがあります。



注意

■運転席からの助手席操作について

操作するときは助手席の上や足元に作動をさまたげるものがないことを確認してください。シートに無理な力がかかり故障するおそれがあります。

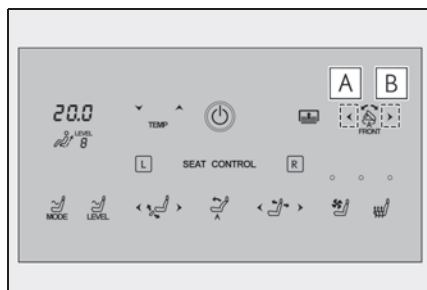
リヤ席から助手席を操作するには (パワーリヤシート装着車)

- 1 リヤアームレストを倒す
- 2 リヤコントロールパネルの操作スイッチを押す

操作スイッチが表示されていないときは、



を押してください。



A 助手席のヘッドレスト・背もたれを前倒しにし、前方および下方に移動する

B 助手席のヘッドレスト・背もたれを着座可能位置に戻す

作動中にもう一度押すと、作動を途中で停止します。



知識

■リヤ席からの助手席操作について

次のときは、助手席を操作できません。

- パワースイッチがACCまたはOFFのとき
- 助手席が重量を検知したとき

- 一度シートが重量を検知すると、パワースイッチを OFF にするか、助手席ドアを開閉するまで、検知状態が継続します。
- 助手席シートベルトがバックルに留められているとき
- 助手席ドアが開いているとき（助手席の前方移動が不可）

⚠ 警告

■ リヤ席からの助手席操作について

助手席に乗員がいるときは操作をしないでください。また、操作中は、助手席に座らないでください。足を挟むなどして助手席乗員がけがをするおそれがあります。

⚠ 注意

■ リヤ席からの助手席操作について

操作するときは助手席の上や足元に作動をさまたげるものがないことを確認してください。シートに無理な力がかかり故障するおそれがあります。

パワーリヤシート★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

リヤシートの背もたれを調整することができます。

⚠ 警告

■ シートを調整するとき

- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- オットマンの操作をするときは、足元のスペースを確保し、足をフロント席に挟まないように注意してください。

■ リクライニング調整について

背もたれは必要以上に倒さないでください。必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ オットマンの使用について

- オットマン部分には座らないでください。

シートベルトが適切に着用できないため、急ブレーキや事故のときに体がシートから投げ出され、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- つまずいてけがをするのを防ぐため、車を乗り降りする際はオットマンを格納してください。
- 走行中は角度調整をしないでください。

警告

- 格納するときにシートの下に手や足を入れないでください。挟まれてけがをするおそれがあります。

注意**■ オットマンの故障を防ぐために**

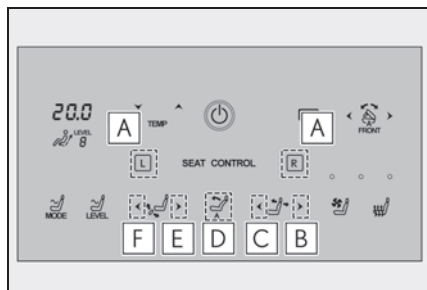
- 足元のスペースを確保し、オットマンの作動をさまたげないようにしてください。
- オットマン部分に重いものを載せないでください。
- オットマンを上げているときに下にものを置かないでください。格納時にものを挟み破損するおそれがあります。

調整するには

- 1 リヤアームレストを倒す
- 2 リヤコントロールパネルの操作スイッチを押す

操作スイッチが表示されていないときは、

⏻を押してください。



- A** 調整するシートを選択する
選択したスイッチが緑色に点灯します。
- B** 背もたれを後倒しにする
- C** 背もたれを前倒しにする

- D** 背もたれおよびオットマン（リヤ左側席のみ）を中立位置に戻す
- E** オットマンを下げる（リヤ左側席のみ）
- F** オットマンを上げる（リヤ左側席のみ）

知識**■ シートの調整について**

- フロントシートとの距離が近い場合、リヤシートの作動が制限されることがあります。
- 作動中にリヤアームレストを格納すると、作動が停止する場合があります。

フロント席からリヤ席を操作するには

- 1 センターディスプレイメインメニューの  をタッチする
- 2 “シート・イルミネーション” にタッチする
- 3 “シートアレンジ” にタッチする
- 4 操作したい項目にタッチし、リヤ席を操作する

知識**■ フロント席からのリヤ席操作について**

次のときは、リヤ席を操作できません。

- リヤ席が重量を検知したとき
- 一度シートが重量を検知すると、パワースイッチを OFF にするか、リヤ席ドアを開閉するまで、検知状態が継続します。
- リヤ席シートベルトがバックルに留められているとき

警告**■ フロント席からのリヤ席操作について**

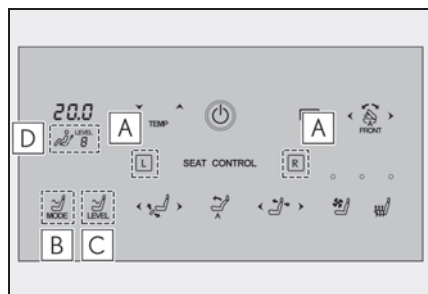
リヤ席の乗員が車を降りてから操作してください。

リヤシートリフレッシュシステム

リヤ席にエアーの作動による押圧機能を備えたリフレッシュシステムが装備されています。リヤコントロールパネルでモードや作動の強さなどをお好みにより調整することができます。

- 1 リヤアームレストを倒す
- 2 リヤコントロールパネルの操作スイッチを押す

操作スイッチが表示されていないときは、を押してください。

**A 調整するシートを選択する**

選択したスイッチが緑色に点灯します。

B モードを選択

5 パターンのモード（対象範囲）を選択することができます。

C 作動の強さ調整

5 段階で調整することができます。

D 選択したモードと調整した作動の

強さを表示

シートに乗員がいないときは、リフレッシュシステムを使用しないでください。

知識**■ 作動条件**

パワースイッチが ON のとき

■ 自動停止機能

作動開始から約 15 分で自動的に停止します。

警告**■ リヤシートリフレッシュシステムのご使用について**

- 妊娠中のかた、出産直後のかた、静養を要する疾患（心臓疾患）のあるかたは、使用する前に必ず医師に相談してください。
- お子さまは使用しないでください。
- 食後や飲酒後、または長時間の使用は避けてください。
- 使用中に気分が悪くなった場合は、ただちに使用を止めてください。

ヘッドレスト

ヘッドレストはすべてのシートに装備されています。

⚠ 警告

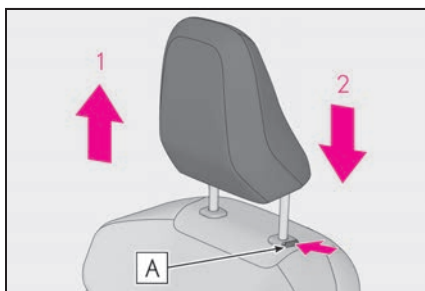
■ ヘッドレストについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

上下調整するには

■ 助手席可倒式ヘッドレスト★以外



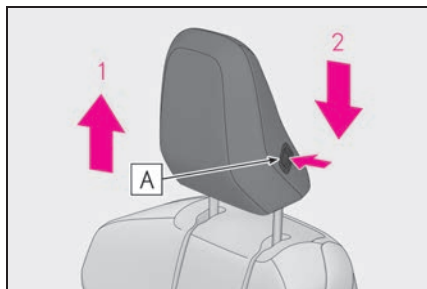
- 1 上げる
- 2 下げる

下げるときは、解除ボタン[A]を押しながら操作します。

★：グレード、オプションなどにより、

装備の有無があります。

■ 助手席可倒式ヘッドレスト★



- 1 上げる
- 2 下げる

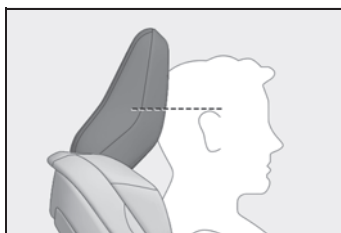
解除ボタン[A]を押しながら操作します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

□ 知識

■ ヘッドレストの高さについて（フロント席）

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



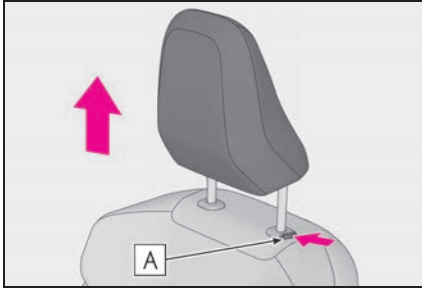
■ リヤ中央席について

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

ヘッドレストを取りはずすには（助手席可倒式ヘッドレスト以外）

解除ボタン[A]を押しながらヘッドレ

ストを引き上げます。
フロント席：ヘッドレストが天井にあたって取りはずしにくいときは、シートの高さや角度をかえてください。(→P.217)



知識

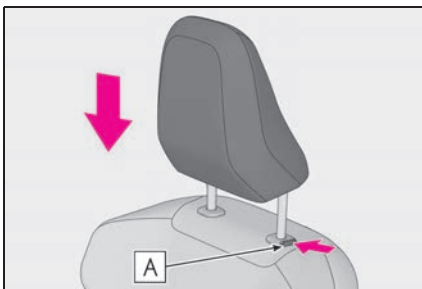
■ヘッドレストの取りはずしについて (助手席可倒式ヘッドレスト)

ヘッドレストの取りはずし・取り付けについてはレクサス販売店へご相談ください。

ヘッドレストを取り付けるには (助手席可倒式ヘッドレスト以外)

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

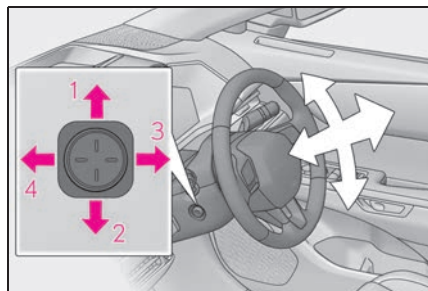
さらに下げるときは、解除ボタン **A** を押しながら操作してください。



ハンドル

調整のしかた

スイッチを操作すると、ハンドルを次の方向に動かします。



- 1 上方へ
- 2 下方へ
- 3 手前へ
- 4 前方へ



知識

■ハンドル位置調整の作動条件

パワースイッチがON のとき ※

※ 運転席シートベルトを装着していれば、パワースイッチを ACC または OFF にしたあとでも、約 45 秒間はハンドルの調整ができます。ただし、そのあいだに運転席シートベルトをはずすと作動しなくなります。

■ハンドル位置の自動調整

好みのハンドル位置を運転席ポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。(→P.243)

■パワーイージーアクセスシステム

パワースイッチのモード切りかえ・運転席シートベルトの脱着に連動して、ハンドルとシートが動きます。(→P.242)

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.619)

⚠ 警告

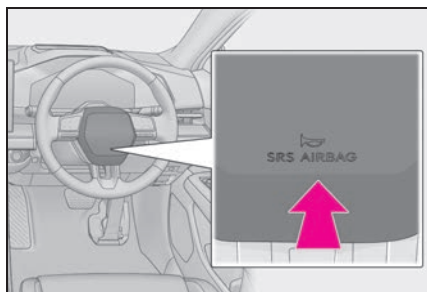
■走行中の留意事項

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。

運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ホーン（警音器）を使うには

ハンドルの  周辺部を押すとホーンが鳴ります



デジタルインナーミラー

車両後方カメラの映像をミラー内のディスプレイに表示する装置です。

切りかえレバーを操作することで、鏡面ミラーモードからデジタルミラーモードに切りかえることができます。

ヘッドレストや荷物などで視界をさえぎられずに後方を確認することができます。また、リヤ席を映さないことで乗員のプライバシーを保護することができます。

車両後方カメラの映像をドライブレコーダーに録画します。詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

警告

次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ デジタルインナーミラーをお使いになる前に

- 走行前に必ずミラーの調整を行ってください。(→P.227)
- ・ 鏡面ミラーモードに切りかえて、鏡面を後方が正しく映る位置に調整する
- ・ デジタルミラーモードに切りかえて、ディスプレイに表示される映像を調整する
- ディスプレイに表示される映像と鏡面ミラーに映る範囲は異なりますので、あらかじめ違いを確認してください。

■ 走行中の留意事項

- 走行中は、デジタルインナーミラーの位置やディスプレイに表示される映像を調整しないでください。デジタルインナーミラーの操作スイッチは、安全な場所に停車して操作してください。走行中に操作すると、ハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 必ず車両周辺の状況を直接確認してください。

デジタルミラーモード使用時は、ディスプレイ上に映る車両や障害物が実際の大きさとは異なる場合があります。後退時は、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。また、夜間など暗いところで後続車が接近したときは、周囲が暗く映る場合があります。

■ 安全にお使いいただくために

煙が出る、異臭がするなど異常な状態で使用すると、発火の原因になります。ただちに使用を中止してレクサス販売店にご相談ください。

注意

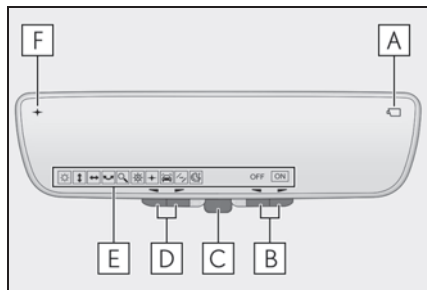
■ カメラの故障や誤作動を防ぐために

- デジタルインナーミラーが正常に作動しなくなるおそれがありますので、次のことにご注意ください。
- ・ カメラ部を強くたたいたり、ものをぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置・取り付け角度がずれるおそれがあります。
- ・ カメラ部は防水構造となっていますので、取りはずし・分解・改造をしないでください。

⚠ 注意

- ・カメラレンズを洗うときは、大量の水でカメラの汚れを流したあと、水で湿らせたやわらかい布でカメラレンズの水滴をふき取ってください。カメラレンズを強くこするとカメラレンズが傷付いて、車両後方の状態を鮮明に見ることができなくなるおそれがあります。
 - ・カメラのカバーは樹脂ですので、有機溶剤・ボデーワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。
 - ・寒いときにお湯をかけるなどして急激な温度変化を与えないでください。
 - ・洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。
- カメラ部をぶつけたときは、カメラの故障などのおそれがあります。早めにレクサス販売店で点検を受けてください。

各部の名称



A カメラインジケータ

カメラが正常に作動していることを示します。

B 選択／調整スイッチ

調整項目の設定を変更します。

C 切りかえレバー

デジタルミラーモードと鏡面ミラーモードの切りかえを行います。

D メニュースイッチ

調整アイコンの表示や、調整項目の移動を行います。

E アイコン表示エリア

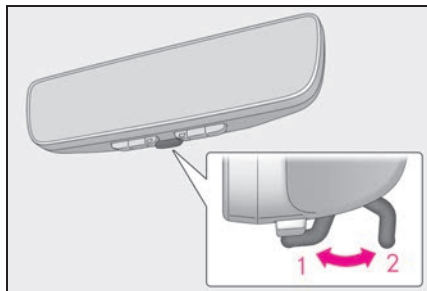
調整アイコン（→P.227）・調整ゲージが表示されます。

F デジタル防眩モードインジケータ

デジタルミラーモード時、防眩機能がONに設定されていることを示します。（→P.227）

モードを切りかえるには

切りかえレバーを操作することで、デジタルミラーモードと鏡面ミラーモードを切りかえることができます。



1 デジタルミラーモード

車両後方の映像を表示します。

ディスプレイに  が表示されます。

2 鏡面ミラーモード

映像が消え、鏡面ミラーとして使用できます。



知識

■ デジタルミラーモードの作動条件

パワースイッチが ON のとき

パワースイッチを ON から OFF または ACC にすると、数秒後に表示が消えます。

■ デジタルミラーモードについて

- カメラに水滴やホコリが付いているなどで、ディスプレイに表示される車両後方の状態が見えにくい場合は、リヤウオッシャー（→P.290）を作動させてください。それでも見えにくい場合は、鏡面ミラーモードに切りかえてください。
- トランクが開いているときは、デジタルインナーミラーの映像が正しく表示されません。走行前に必ずトランクが閉まっていることを確認してください。
- ディスプレイが反射して見えにくい場合は、電動サンシェードを閉めてください。
- 夜間など暗いところでは、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・ 映像の色と実際の色が異なって見える
 - ・ 後続車のライトの高さなどによっては、後続車の周囲が白くぼやけて見える
 - ・ 周辺を明るく見せるために映像が自動的に調整されることにより、特有のちらつきが発生する

映像が見えにくい場合や、ちらつきが気になる場合は、鏡面ミラーモードに切りかえてください。

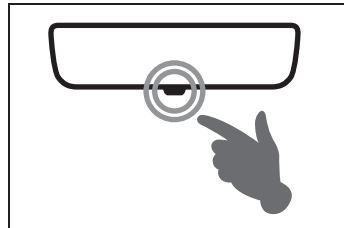
- デジタルインナーミラー本体が発熱することがありますが、異常ではありません。
- 体調・年齢などにより、ディスプレイに表示される映像に焦点が合うまで時間がかかる場合があります。焦点が合わせづらいと感じたときは、鏡面ミ

ラーモードに切りかえてください。

- 主に同乗者がディスプレイを凝視すると、車酔いを起こすおそれがあります。

■ システムに異常が発生したとき

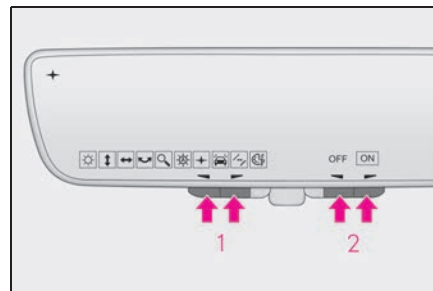
デジタルミラーモード時に、図で示すシンボルが表示されます。シンボルの表示は数秒後に消えます。切りかえレバーを操作し、鏡面ミラーモードに切りかえて、雷克萨斯販売店で点検を受けてください。



調整するには

■ ディスプレイの調整（デジタルミラーモード）

デジタルミラーモードの調整や機能の ON / OFF ができます。



- 1 メニュースイッチを操作し、調整したい項目を選択する
- 2 選択 / 調整スイッチを操作し、調整したい項目の設定を変更する

約 5 秒以上スイッチ操作をしないと、調整アイコンと各調整画面の表示が消えます。

調整アイコン	設定内容
	ディスプレイの明るさを調整することができます。
	ディスプレイの表示映像を上下に調整することができます。
	ディスプレイの表示映像を左右に調整することができます。
	ディスプレイの表示映像の傾きを調整することができます。 ◄：時計回りに映像が回転します ►：反時計回りに映像が回転します
	ディスプレイの表示映像を拡大／縮小することができます。
	鏡面ミラー時の自動防眩の ON/OFF 設定ができます。
	デジタル防眩モードの ON/OFF を切りかえることができます。ON にすることで、夜間にディスプレイの表示映像の明るさを抑えて表示し、後続車のヘッドランプのまぶしさを抑えます。 右側のメニュースイッチを 3 秒長押しすることでも ON/OFF を切りかえることができます。
	後方車両接近告知機能の表示を ON/OFF で設定することができます。

調整アイコン	設定内容
	ディスプレイの表示映像のエッジを調整することができます。
	ディスプレイの表示映像の色味を調整することができます。

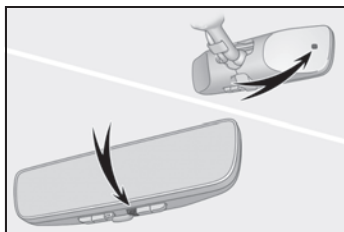
 知識

■ディスプレイの調整について（デジタルミラーモード）

- 約 5 秒以上スイッチ操作をしないと、調整アイコンと各調整画面の表示が消えます。
- ディスプレイ表示の調整を限界値まで行くと、映像がゆがむ場合がありますが故障ではありません。
- ディスプレイ表示が明るすぎると、目が疲れることがあります。適度な明るさに調整してください。
目が疲れた場合には、鏡面ミラーモードに切りかえてご使用ください。
- ディスプレイ表示の明るさは、車両前方の明るさに合わせて自動でかわります。
- デジタル防眩モードは周囲が暗い場所でのみ働き、周囲の照度環境によっては映像の明るさが抑えられず、後続車のヘッドランプのまぶしさが低減できない場合があります。
- ドライブレコーダー装着車：デジタル防眩モードを ON にすると、夜間のドライブレコーダーへの録画映像も暗くなります。

■センサーの誤作動防止

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。



お手入れについて

■ デジタルインナーミラーのお手入れについて

ミラー表面が汚れていると、映像が見えにくくなることがあります。あらかじめ、乾いたやわらかい布などで汚れをそっとふき取ってください。

■ カメラのお手入れについて

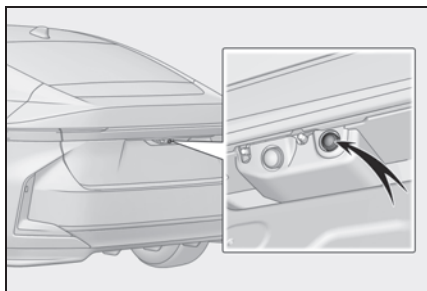
カメラレンズに水滴、雪、泥などの異物や汚れが付着していると、鮮明な画像を見ることができません。この場合、リヤウォッシャーでカメラレンズの汚れを流してください。(→P.290)



知識

■ カメラについて

デジタルインナーミラーのカメラは、図の位置にあります。



■ ウォッシャー液によるカメラ洗浄について

- カメラ洗浄中は、噴射されるウォッシャー液により、車両後方の状態が見えにくくなることがありますので、周囲の状況に注意して運転してください。
- カメラ洗浄後にウォッシャー液がカメラレンズ面に残った場合、夜間に後方車両のヘッドランプの高さや傾きにより、車両後方の状態が見えにくくなることがあります。この場合、鏡面ミラーモードに切りかえてください。
- カメラ洗浄をしても、汚れによっては完全にきれいにならない場合があります。この場合、大量の水でカメラの汚れを流し、水で湿らせた柔らかい布でカメラレンズの水滴をふき取ってください。
- カメラ洗浄は、カメラレンズ面にウォッシャー液を噴射するため、カメラ周辺に付着した氷や雪などの映り込むものについては、洗浄することができません。

故障とお考えになる前に

デジタルミラーモード使用時に次のような症状で気になったときやお困りになったときは、考えられる原因と処置を参考に、もう一度確認してください。処置をしても直らないときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

症状	考えられる原因	処置
ディスプレイに表示される映像が見にくい	ミラー表面が汚れている	乾いたやわらかい布などで汚れをそっとふき取ってください。
	強い光（太陽やヘッドランプの光など）がデジタルインナーミラーにあたった	鏡面ミラーモードに切りかえてください。 (パノラマムーンルーフからの光があたっているときは、電動サンシェードを閉めてください)
	・ 夜間など暗いところで使用した ・ テレビ塔・放送局・発電所など、強い電波やノイズが発生する場所の近くで使用した ・ カメラ付近の温度が高い、または低い ・ 外気温が低い ・ 雨天時など湿度が高い ・ 太陽やヘッドランプの光が直接カメラのレンズにあたった ・ 蛍光灯・ナトリウム灯・水銀灯などの照明の下で使用した。 ・ 排気ガスが映り込んでいる	鏡面ミラーモードに切りかえてください。 (カメラおよびその周辺環境が改善されてから、再びデジタルミラーモードをご使用ください)
	カメラのレンズに水滴、ほこりなどの異物や汚れが付着している	・ リヤウォッシャーを作動させ、カメラレンズの汚れを洗浄してください。(→P.290) ・ 鏡面ミラーモードに切りかえてください。
	トランクが完全に閉まっていない	トランクを閉めてください。
ディスプレイに表示される映像がずれている	カメラ部に強い衝撃が与えられた	鏡面ミラーモードに切りかえて、レクサス販売店で点検を受けてください。

症状	考えられる原因	処置
ディスプレイ上に  が表示され、 ディスプレイに表示される映像が暗くなった	システムに異常が発生した	鏡面ミラーモードに切りかえて、 レクサス販売店で点検を受けてください。
	デジタルインナーミラーの近くに電波を発信する機器（携帯電話など）がある	電波を発信する機器をデジタルインナーミラーから離してください。 症状が改善されない場合は、鏡面ミラーモードに切りかえて、 レクサス販売店で点検を受けてください。
ディスプレイ上の  が消灯した	システムに異常が発生した	鏡面ミラーモードに切りかえて、 レクサス販売店で点検を受けてください。
ディスプレイ上に  が表示された	デジタルインナーミラーの温度が非常に高い (徐々にディスプレイが暗くなり、その後も温度が上がると映像が消えます)	ミラーの温度を下げるために、 車室内の温度を下げることを推奨します。 (ミラーの温度が下がると  が消えます) ミラーの温度が下がっても  が消えない場合は、鏡面ミラーモードに切りかえて、 レクサス販売店で点検を受けてください。
切りかえレバーが正常に作動しない	切りかえレバーに異常が発生した	鏡面ミラーモードに切りかえて、 レクサス販売店で点検を受けてください。 (メニュー/決定スイッチを約10秒間押し続けることで、鏡面ミラーモードに切りかえることができます)
ディスプレイ上に  が表示された	デジタルインナーミラーに異常が発生した	すみやかにレクサス販売店で点検を受けてください。

ドアミラー

安全に運転していただくためには、運転する前に視界が確保できるようミラーの角度を調整してください。



知識

■ 寒冷時にドアミラーを使用するとき

寒冷時にドアミラーが凍結していると、ドアミラーの格納・復帰や鏡面の調整ができない場合があります。ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いてください。



警告

■ 走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。

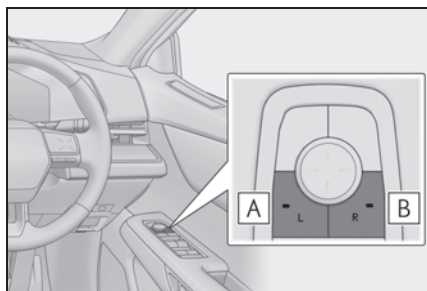
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

調整するには

- 1 調整するミラーを選ぶには、スイッチを押す

インジケーターが点灯します。

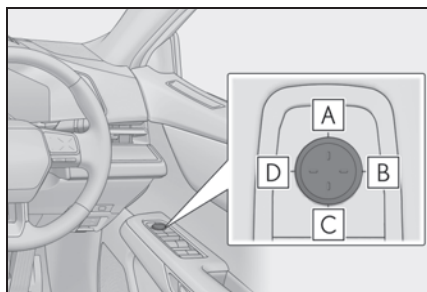


A 左

B 右

もう一度押すと、選択が解除されます。

- 2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを押す



A 上

B 右

C 下

D 左



知識

■ 鏡面調整の作動条件

パワースイッチが ACC または ON のとき

■ ミラーが曇ったとき

リヤウインドウデフォッガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。(→P.472)

■ 自動防眩機能

デジタルインナーミラーの自動防眩機能を ON にしておくと、運転席側ドアミラーも連動して防眩機能が作動します。(→P.227)

■ ミラー角度の自動調整

好みのミラー角度を運転席ポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。(→P.243)

⚠ 警告

■ ミラーヒーターが作動しているとき

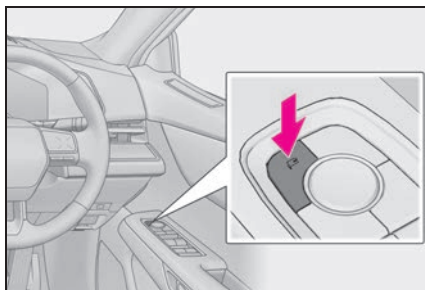
ドアミラーの鏡面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

ドアミラーを格納するには

■ マニュアル作動での格納・復帰

ボタンを押す

もう一度押すと、もとの位置にもどります。



■ オート作動での格納・復帰

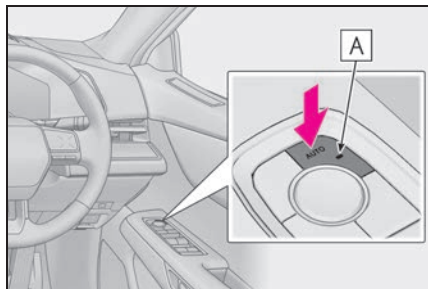
スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠に連動して、ドアミラーを自動的に格納・復帰させることができます。

ボタンを押す

ボタンを押すと、インジケーター **A** が点

灯します。

もう一度ボタンを押すとマニュアル作動にもどります。



□ 知識

■ 補機バッテリー端子の脱着をしたとき

オート電動格納機能の設定がリセットされ、OFF の状態にもどります。機能を ON にするときは、再度、オート電動格納機能の ON・OFF 切りかえを行ってください。

⚠ 警告

■ ミラーが動いているとき

手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

リバース連動機能

ミラー選択スイッチの L または R どちらかが選択されているときは、後退時に鏡面が下向きになり、下方が見やすくなります。

この機能を使用しないときは、ミラー選択スイッチの選択が解除された状態にしてください。

■ 後退時に下向きになる角度を調整するときは

シフトレバーを R に入れた状態で鏡面位置を調整することで、下向きに

動く角度を調整できます。

次回からシフトレバーを R に入れるたびに、その角度で作動します。

通常時（シフトレバーが R 以外のとき）の鏡面位置を基準に下向きに動く角度を記憶するため、調整後に通常時の鏡面位置を変更すると、それに伴って後退時の鏡面位置も変化します。

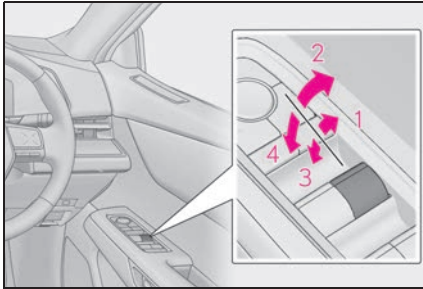
通常時の鏡面位置を変更したときは、後退時に下向きになる角度も調整してください。

パワーウィンドウ

ドアガラスを開閉するには

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。



- 1 閉める
- 2 自動全閉 ※
- 3 開ける
- 4 自動全開 ※

※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。



知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ EV システム停止後の作動

パワースイッチを ACC または OFF にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動なくなります。

■ 挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■ 巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれると、作動が停止します。

■ ドアガラスを開閉することができないとき

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉できないドアのパワーウィンドウスイッチで、次の操作を行ってください。

●車を停止し、パワースイッチを ON の状態で、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける。または、「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。

●上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

- 1 パワースイッチを ON にする
- 2 パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする
- 3 いったんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で約 6 秒以上引き続ける
- 4 パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続ける
- 5 いったんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で約 4 秒以上押し続ける。
- 6 再度、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ ドアロック連動ドアガラス開閉機能

● メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。＊（→P.595）

● ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。＊（→P.197）

● オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動ドアガラス開閉機能でドアガラスを閉めると、オートアラームが作動することがあります。（→P.57）

＊ レクサス販売店での設定変更が必要です。

■ 窓開警告ブザー

パワースイッチがOFFでドアガラスが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.630）

⚠ 警告

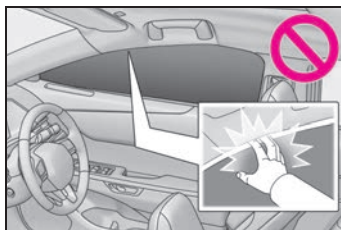
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ドアガラスを開閉するとき

● 運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

また、お子さまが同乗するときはウィンドウロックスイッチを使用することをおすすめします。（→P.237）

● ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



● ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

● 車から離れるときはパワースイッチをOFFにし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

警告

■ 挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

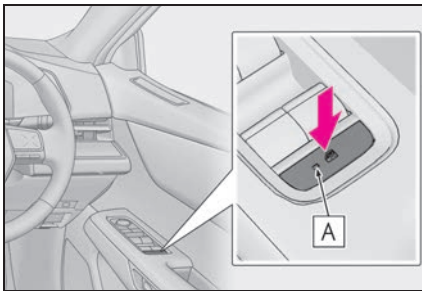
■ 巻き込み防止機能

- 巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。
- 巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などが巻き込まれないように注意してください。

誤操作を防止するには（ウインドウロックスイッチ）

スイッチを押すと、インジケーター **A** が点灯し、運転席以外のドアガラスが非作動になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。



知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ 補機バッテリーをはずしたとき

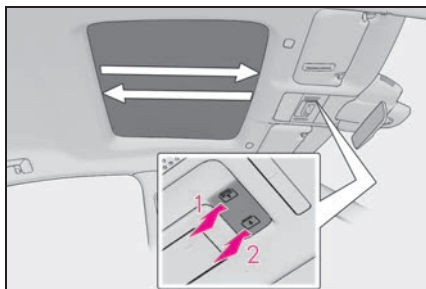
ウインドウロックスイッチが OFF になるため、補機バッテリーを接続したあと、再度ウインドウロックスイッチを ON にする必要があります。

パノラマムーンルーフ

頭上のスイッチでパノラマムーンルーフと電動サンシェードの操作ができます。

パノラマムーンルーフを操作するには

■ 電動サンシェードを開閉する



1 開ける

スイッチを長押しすると、自動で全開します。※1

2 閉める

スイッチを長押しすると、自動で全閉します。※2

パノラマムーンルーフが完全に閉まっていないときは、電動サンシェードが閉まる前にパノラマムーンルーフが閉まります。

※1途中で停止するときは、 スイッチをもう一度押します。

※2途中で停止するときは、 スイッチをもう一度押します。

■ パノラマムーンルーフをチルトアップ/ダウンする

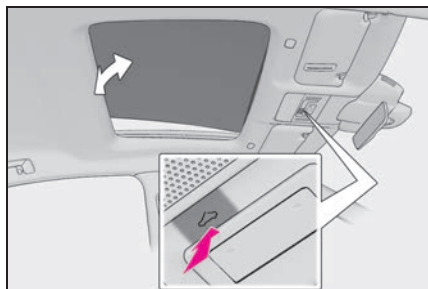
チルトアップ（長押し）※

パノラマムーンルーフをチルトアップすると、電動サンシェードが全開します。

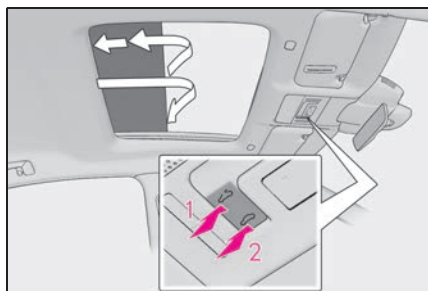
※途中で停止するときは、 スイッチをもう一度押します。

チルトダウン（長押し）

パノラマムーンルーフがチルトアップしている状態のときに、チルトダウンできます。



■ パノラマムーンルーフを開閉する



1 開ける ※1

スイッチを長押しすると、パノラマムーンルーフと電動サンシェードが開きます。チルトアップした状態からでも開くことができます。

2 閉める ※2

スイッチを長押しすると、パノラマムーンルーフが全閉します。

※1途中で停止するときは、 スイッチ

をもう一度押します。

- ※²途中で停止するときは、 スイッチをもう一度押します。

知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ EV システム停止後の作動

パワースイッチを ACC または OFF にしたあとでも、約 45 秒間はパノラマムーンルーフ・電動サンシェードの操作ができます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しくなくなります。

■ 挟み込み防止機能

次の状況で異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

- パノラマムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするとき
- 電動サンシェードを閉めるとき

■ ドアロック連動パノラマムーンルーフ開閉機能

- メカニカルキーでパノラマムーンルーフを開閉できます。※ (→P.595)
- ワイヤレスリモコンでパノラマムーンルーフを開閉できます。※ (→P.197)
- オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動パノラマムーンルーフ開閉機能でパノラマムーンルーフを閉めると、オートアラームが作動することがあります。(→P.57)

※ レクサス販売店での設定変更が必要です。

■ パノラマムーンルーフと電動サンシェードの両方を閉じるには

 スイッチを押す

電動サンシェードがルーフの半分の位置

まで閉まった後、いったん停止し、パノラマムーンルーフが閉じます。その後、電動サンシェードが全閉します。

■ パノラマムーンルーフまたは電動サンシェードが正常に閉まらないとき

次の操作を行ってください。

- 1 車を停止する
- 2 パワースイッチを ON にする
- 3  スイッチまたは  スイッチを押し続け、反転後も約 10 秒間スイッチを押し続けると閉じ切り作動を開始します。※
- 4 パノラマムーンルーフと電動サンシェードが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

※ 途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ パノラマムーンルーフ開警告ブザー

パワースイッチが OFF でパノラマムーンルーフが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.630)

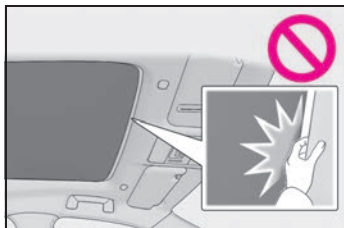
警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■ 電動サンシェードを開閉するときは

- 電動サンシェードを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。



- お子さまには、電動サンシェードの操作をさせないでください。電動サンシェードに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

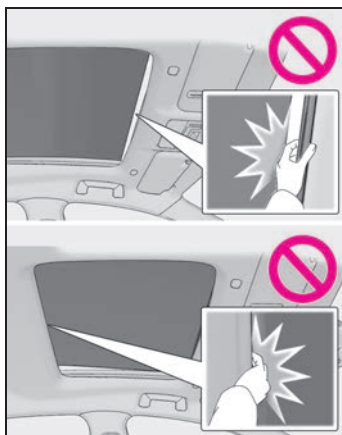
■ パノラマムーンルーフを開けているときは

- 走行中はルーフから手や顔を出さないでください。
- 開口部に腰かけないでください。

■ パノラマムーンルーフを開閉するときは

- 運転者は、パノラマムーンルーフの開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはパノラマムーンルーフの操作をさせないでください。お子さまや他の人がパノラマムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

- パノラマムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。



- ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってパノラマムーンルーフを操作するときは、パノラマムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がパノラマムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
- 車から離れる時はパワースイッチをOFFにし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

 警告

- 挟み込み防止機能は、パノラマムーンルーフ・電動サンシェードが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

■ やけどやけがを防ぐために

ルーフの下側と電動サンシェードの間にはふれないでください。

手を挟んでけがをするおそれがあります。また、車を直射日光のあたる場所に長時間駐車するとルーフの下側が熱くなるため、やけどをするおそれもあります。

 注意**■ パノラマムーンルーフの損傷を防ぐために**

- 開く前は、開口部付近に石や氷などの異物がないことを確認してください。
- パノラマムーンルーフの表面・端面には、固いものをぶつけないでください。
- パノラマムーンルーフが全開・全閉したあとに  スイッチまたは  スイッチを押し続けしないでください。

■ 洗車後や雨が降ったあとなどは

パノラマムーンルーフを開く前にルーフに付いた水をふき取ってください。そのまま開くと、車内に水が入るおそれがあります。

パワーイージーアクセスシステム／ポジションメモリー／メモリーコール機能

自動でシート・ハンドル・ドアミラー・ヘッドアップディスプレイを動かし、乗り降りしやすい位置に調整したり、お好みのドライビングポジションに調整します。

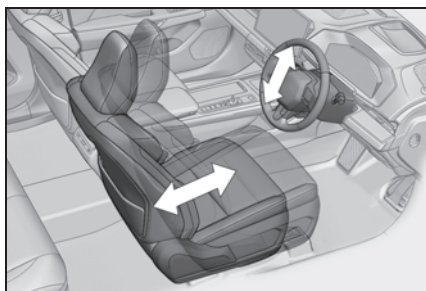
ドライビングポジションは、マイセッティングに登録した運転者(3 パターン) を登録できます。

マイセッティングに認証デバイスの割り当てを登録することで、登録した運転者ごとにドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。(メモリーコール機能)

マイセッティングについては、P.245 を参照してください。

パワーイージーアクセスシステム (運転席のみ)

乗降時に運転者が乗り降りしやすいよう、シートやハンドルが自動で動きます。



次のすべての操作を行ったとき、シートとハンドルが乗り降りしやすい位置に自動で調整されます。

- シフトポジションを P にする
- パワースイッチを OFF にする
- シートベルトをはずす

次のいずれかの操作を行ったとき、シートとハンドルがもとの位置にもどります。

- パワースイッチを ON にする
- シートベルトを着用する

知識

■ パワーイージーアクセスシステムの作動について

- 降車時に、シートの位置が最後方にあるときやリヤ席に近いときは、パワーイージーアクセスシステムが作動しない場合があります。
- パワーイージーアクセスシステム作動中にシート位置を調整すると、オート作動が停止しマニュアル調整になります。
- 降車時、パワーイージーアクセスシステム作動中または作動後にシート位置を調整すると、乗車時にパワーイージーアクセスシステムは作動しません。

■ 挟み込み防止機能

パワーイージーアクセスシステム作動中に、シートの後ろおよび前に異物の挟み込みを検知すると、作動が停止し、反対方向に少し移動します。

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.619)

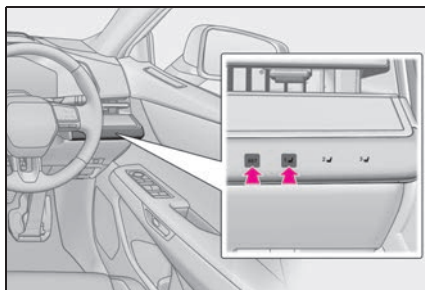
警告

■ パワーイーザーアクセスシステムで ハンドル・シートが作動している ときは

体や荷物などが挟まれないようにしてください。けがをしたり、荷物が破損するおそれがあります。

ドライビングポジションを登録 するには

- 1 シフトポジションがPにあることを確認する
 - 2 パワースイッチを ON にする
 - 3 運転席・ハンドル・ドアミラー角度・ヘッドアップディスプレイ表示をお好みの位置に調整する
 - 4 SET ボタンを押しながら、または SET ボタンを押したあと 3 秒以内に 1 ～ 3 のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す
- すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。



助手席側★を登録するときは、助手席をお好みの位置に調整し、助手席側のボタンで手順 4 の操作を行うと、助手席のシート位置が登録できます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ 登録できるシート位置 (→P.217)

腰部位置調整 (ランバーサポート) 以外の位置が登録できます。

■ レスポンシブヒドゥンスイッチについて

スイッチの点灯状態や手かざし機能の反応感度を変更することができます。

(→P.630)

警告

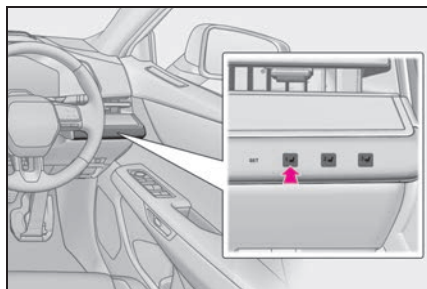
■ シート調整時の警告

シート調整中は、シートがリヤ席乗員にあたったり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

ドライビングポジションを呼び 出すには

- 1 シフトポジションがPにあることを確認する
- 2 パワースイッチを ON にする
- 3 1 ～ 3 のうち呼び出したいポジションのボタンを押す

走行中にボタンを押したとき、ポジション未登録のボタンを押したとき、またはすでに呼び出したいポジションのときは、ブザーが 2 回鳴り、作動しません。



助手席側★のシート位置を呼び出す

ときは、助手席側のボタンで手順 **3** の操作を行います。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



知識

■ポジションの呼び出し作動を途中で止めたいとき

次のいずれかの操作をします。

- SET ボタンを押す
- 1 ～ 3 のボタンを押す
- シート調整スイッチのいずれかを操作する（シートおよびハンドルのみ作動停止）
- ハンドル位置調整スイッチを操作する（ハンドルのみ作動停止）
- ドアミラーの鏡面角度調整スイッチを操作する（ドアミラーのみ作動停止）
- ヘッドアップディスプレイの表示位置を調整する（ヘッドアップディスプレイのみ作動停止）

■挟み込み防止機能

ドライビングポジション呼び出し中、シートの後ろおよび前に異物の挟み込みを検知すると、作動が停止し、反対方向に少し移動します。挟み込み防止機能作動時はシートポジションが設定した位置とは異なる位置で停止します。シートポジションを確認してください。

■パワースイッチ OFF 後の作動

運転席側：運転席ドアを開けて 180 秒以内、または運転席ドアを閉め 60 秒以内に呼び出したいポジションのボタンを押すと、シートの位置が調整されます。

助手席側★：助手席ドアを開けて 180 秒以内、または助手席ドアを閉め 60 秒以内に呼び出したいポジションのボタンを押すと、シートの位置が調整されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■登録したシート位置が呼び出せないとき

シート位置を特定の範囲内に登録した場合、状況によってはシート位置を呼び出せないことがあります。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

乗車時にドライビングポジションを自動で呼び出すには（メモリーコール機能）（運転席のみ）

■マイセッティングを使用してドライバーを特定したとき

マイセッティングに登録した運転者ごとのドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。（→P.245）

●ドライビングポジションの登録方法

運転を終了したあとにシフトポジションを P にすると、現在のドライビングポジションが登録されます。

●ドライビングポジションの呼び出し方法

- 1 電子キーで個人を特定：マイセッティングに割り当てを登録している電子キーを携帯し、運転席ドアをスマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで解錠してドアを開ける

ハンドルおよびヘッドアップディスプレイ表示を除くドライビングポジションが登録された位置へ動きますが、シート位置は乗り込みやすくするために、登録された位置より少し後方に動きます。

ドライビングポジションがすでに登録された位置にある場合は動きません。

2 パワースイッチを ON にする

● メモリーコール機能の解除方法

詳細については別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。



知識

■ メモリーコール機能によるドライビングポジションの呼び出しについて

個人を特定するデバイスによっては作動するタイミングが異なる場合があります。

■ 挟み込み防止機能

ドライビングポジション呼び出し中、シートの後ろおよび前に異物の挟み込みを検知すると、作動が停止し、反対方向に少し移動します。挟み込み防止機能作動時はシートポジションが設定した位置とは異なる位置で停止します。シートポジションを確認してください。



警告

■ 挟み込み防止機能について

挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。

マイセッティング

電子キーなどのデバイスから個人を特定し、運転者ごとのドライビングポジションや車両設定を記憶しておくことで、次回乗車時に再生します。

あらかじめ認証デバイスを割り当てておくことで、運転者に合わせたお好みの設定で乗車することができます。

マイセッティングには、運転者 3 名分の設定を記憶することができます。

認証デバイスの割り当て／削除、ドライバー名の設定、初期化方法、運転者の手動きりかえ、記憶してあるドライバーの削除については別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

割り当てる認証デバイスの種類

次の認証デバイスから個人を特定します。

● 電子キー／デジタルキー★

スマートエントリー&スタートシステムが電子キーまたはデジタルキーを検出することで個人を特定します。(→P.193, 211)

● 顔認証システム

ドライバーモニターカメラで登録した顔情報をドアの開閉時に顔認証することで個人を特定します。(→P.307)

電子キーまたは、デジタルキー★で個人を特定した場合でも、顔認証による個人

の特定が優先されます。

● Bluetooth® 機器

ハンズフリー電話で利用する、前回乗車時と同じ Bluetooth® 機器がオーディオシステムに接続されることで個人を特定します。

電子キー／デジタルキー★または顔認証で個人を特定したときは、Bluetooth® 機器での個人の特定はしません。

Bluetooth® ワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc. が所有権を有します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

再生される機能

認証デバイスから個人特定されたとき、次の機能の設定を再生します。

● ドライビングポジションメモリー (メモリーコール機能)

個人が特定されたあとに、以下の操作を行うと前回運転終了時（シフトポジションを P にしたとき）のドライビングポジションを再生します。

- ・電子キーで個人を特定：スマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで解錠して運転席ドアを開けたとき
- ・デジタルキー★で個人を特定：スマートエントリー&スタートシステムで解錠して運転席ドアを開けたとき
- ・顔認証システムで個人を特定：ドライバーモニターカメラが顔情報を認証したあとにパワースイッチを ON にしたとき
- ・Bluetooth® 機器で個人を特定：運転者がドライビングポジションの再生を承諾したとき

● メーター表示※／ヘッドアップ ディスプレイ表示※／マルチ メディア設定※

個人が特定されると、前回パワースイッチを OFF にしたときの車両設定を再生します。

● 安全運転支援機能※

個人が特定されると、前回パワースイッチを OFF にしたときの車両設定を再生します。

● センターディスプレイで設定可能 な車両設定※

個人が特定されると、前回パワースイッチを OFF にしたときの車両設定を再生します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 一部の設定を除く

知識

■ 顔認証システムについて

- ゲストの顔情報を登録することはできません。
- コンピュータに保存した顔情報を読み出したり他の媒体に移行したりすることはできません。消去、部品交換した場合は再度顔情報を登録する必要があります。
- 顔情報はお客様自身で削除することが可能です。
- 消去された顔情報は復元することはできません。再度登録を行う必要があります。
- 顔登録失敗や顔認証失敗が頻発する場合は、ドライバーモニターカメラを清掃または顔情報を登録し直してください。

- お客様が車両を売却するときは顔情報を必ず削除してください。
- 次のような状況のとき、ドライバーモニターカメラは運転者の顔を検知できず、機能が正常に作動しないおそれがあります。
 - ・ 強い光（太陽光や後続車のヘッドランプ光など）がドライバーモニターカメラにあたっているとき
 - ・ 強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が運転者の顔にあたっているとき
 - ・ 車内に近赤外線光源を搭載した機器（市販のドライバーモニタリングシステムなど）があるとき
- 本システムは顔の特徴の情報を認証に利用するものです。次の場合、顔登録／認証が正しくできない場合があります。
 - ・ 顔の一部（眉、目、鼻、口のいずれか）が隠れている状態
 - ・ 眼鏡やサングラス、マスク、マフラー等を着用している
 - ・ 正面を向いていない場合
 - ・ 髪の毛、ひげ、手、衣服、アクセサリ等で顔の一部が隠れている
 - ・ 目を閉じている
 - ・ 双子など、顔の特徴情報が極めて似通った非登録者

5-1. 運転にあたって

運転にあたって..... 251

荷物を積むときの注意..... 257

5-2. 運転のしかた

パワー（イグニッション）スイッチ
..... 258

シフトポジション..... 262

インタラクティブマニュアルドライ
ブ..... 269

方向指示レバー..... 270

パーキングブレーキ..... 271

ブレーキホールド..... 275

ASC（アクティブサウンドコン
ロール）..... 2775-3. ランプのつけ方・ワイパーの使
い方

ランプスイッチ..... 278

AHS（アダプティブハイビームシ
ステム [高精細式] ）..... 282AHB（オートマチックハイビーム）
..... 285

マルチウェザーライト..... 288

リヤフォグランプ..... 289

ワイパー & ウォッシャー 290

5-4. 運転支援装置について

運転支援システム情報..... 294

Lexus Safety System + ... 298

ドライバーモニター..... 307

PCS（プリクラッシュセーフティ）
..... 309LTA（レーントレーシングアシスト
）..... 318LCA（レーンチェンジアシスト）
..... 322LDA（レーンディパーチャーアラ
ート）..... 326PDA（プロアクティブドライビング
アシスト）..... 333FCTA（フロントクロストラフィッ
クアラート）..... 337

発進遅れ告知機能..... 339

RSA（ロードサインアシスト）
..... 340レーダークルーズコントロール
..... 343

クルーズコントロール..... 354

ドライバー異常時対応システム
..... 358アドバンスド ドライブ（渋滞時支
援）..... 360

急加速抑制..... 365

ITS Connect..... 369

BSM（ブラインドスポットモニ
ター）..... 375

後方車両接近告知..... 380

周辺車両接近時サポート（録画機
能、通報提案機能）..... 383

後方車両への接近警報..... 386

セカンダリーコリジョンブレーキ
（停車中後突対応）..... 388

安心降車アシスト..... 391

クリアランスソナー..... 396

RCTA（リヤクロストラフィックア
ラート）..... 403RCD（リヤカメラディテクション）
..... 408PKSB（パーキングサポートブレー
キ）..... 412パーキングサポートブレーキ（前後
方静止物／周囲静止物）..... 416

パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）..... 419

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）..... 421

Lexus Teammate Advanced Park 422

ドライブモードセレクトスイッチ 448

運転を補助する装置 450

プラスサポート（販売店装着オプション） 458

5-5. 運転のアドバイス

寒冷時の運転 463

運転にあたって

安全運転を心がけて、手順に従って走行してください。

安全に走行するには

■ EV システムを始動する

→P.258

■ 発進する

- 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトポジションを D にする

シフトポジション表示灯が D であることをメーターで確認します。

- 2 パーキングブレーキがかかっているときは、パーキングブレーキを解除する (→P.271)

パーキングブレーキがオートモードのときは、自動でパーキングブレーキが解除されます。(→P.272)

- 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

- 1 ブレーキペダルを踏む
- 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトポジションを P にします。(→P.263)

■ 駐車する

- 1 ブレーキペダルを踏み、車を完全に停止させる
- 2 パーキングブレーキが解除されているときは、パーキングブレーキをかける (→P.271)

パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します

- 3 シフトポジションを P にする (→P.263)

シフトポジション表示灯が P であることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

- 4 パワースイッチを押して、EV システムを停止する
- 5 ブレーキペダルからゆっくり足を離す
- 6 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※ 輪止めはレクサス販売店で購入することができます。

■ 上り坂で発進する

- 1 ブレーキペダルをしっかりと踏み、シフトポジションを D にする
- ヒルスタートアシストコントロールが作動します。

- 2 パーキングブレーキをかける (→P.271)
- 3 ブレーキペダルから足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み車を発進する
- 4 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除する (→P.271)



知識

■ 上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。(→P.451)

■ 雨の日の運転について

● 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください

い。

- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■ EV システム出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

- アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、EV システム出力を抑制する場合があります。
- ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■ 運転標識の取り付けについて

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などをバンパーやアルミ部分に取り付けることはできません。

▲ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 発進するとき

READY インジケーターが点灯している状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■ 運転するとき

- 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。
- ・ アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・ 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるように注意してください。
- ・ 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
- ・ ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 電気自動車は電気モーターで走行するためエンジン音がありません。そのため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が装備されていても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。
- 枯れ葉や紙くず、布きれなどの可燃物の上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

 警告

- 通常走行時は、走行中に EV システムを停止しないでください。走行中に EV システムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P.554 を参照してください。

- 急な下り坂では、回生ブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。(→P.262)
- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・デジタルインナーミラーの調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。
- オフロード走行をしないでください。本格的なオフロード走行を目的とした車ではありません。やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。
- 渡河などの水中走行はしないでください。電装品のショートや EV システムの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。

■ すべりやすい路面を運転するとき

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 急激なアクセル操作、シフト操作による回生ブレーキで車が横すべりするなどのおそれがあります。

- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に動くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■ シフトポジションを変更するとき

- 前進側のシフトポジションのまま惰性で後退したり、R のまま惰性で前進することは絶対にやめてください。思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車両が動いているあいだは、P ポジションスイッチを押さないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトポジションを R にしないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトポジションを前進側のシフトポジションにしないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトポジションを N にすると、EV システムの動力伝達が解除され、回生ブレーキが効かなくなります。

 警告

- アクセルペダルを踏み込んだままシフト操作をしないでください。シフトポジションがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。シフトポジションの変更後は、メーター内のシフトポジション表示灯で現在のシフトポジションを必ず確認してください。

■ 継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限度をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■ 停車するとき

- 不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。
シフトポジションがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するとき、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

■ 駐車するとき

- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにし、EVシステムを停止し、施錠してください。
READY インジケーターが点灯しているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトポジションをPにした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。
- フロントウィンドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやドアガラスを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

警告

- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
- ・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
- ・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
- ・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかけられないおそれもあります。
- 電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- ブレーキシステムは2つ以上の独立したシステムで構成されており、1つの油圧システムが故障しても、残りは作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

万一脱輪したときは

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

運転しているとき

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、EV システム出力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法はP.581を参照してください。



注意

■ 冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- 電装品がショートする
 - 水の侵入による駆動用電池の破損
- 万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずレクサス販売店で次の点検をしてください。
- ブレーキの効き具合
 - トランスミッションなどのオイルやフルードの量および質の変化
 - 各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

冠水によりシフト制御システムが損傷すると、シフトポジションがPに切りかえられない、またはPから他のシフトポジションに切りかえられなくなる可能性があります。その場合はレクサス販売店へご連絡ください。

■ 駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにしてください。
パーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏みこんだときに急発進するおそれがあります。

ときは、マルチインフォメーションディスプレイに“速度抑制中”が表示されます。

※ 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります。



知識

■ ドライブスタートコントロールについて

- タイヤがスリップ（空転）していると、後退速度の抑制制御が作動することがあります。
- 後退速度の抑制制御は急加速抑制（→P.365）に連動して切り変えることができます。
- ・ 急加速抑制をOFF（非作動）にしても、急発進の抑制制御は作動します。

後退速度の抑制（ドライブスタートコントロール）

■ 後退速度の抑制制御

後退時の速度が所定以下となるようにEVシステム出力を抑制※します。

後退速度の抑制制御が作動している

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

警告

■ 積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかつたり、荷物が視界をさえぎつたり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物はトランクに積んでください。
- 次の場所には荷物を積まないでください。
 - ・ 運転席足元
 - ・ 助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
 - ・ パッケージトレイ
 - ・ インstrumentパネル
 - ・ ダッシュボード
 - ・ センターディスプレイの前
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

■ 荷物の重量・荷重のかけ方について

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等につけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

パワー（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、EV システムの始動またはパワースイッチのモードを切りかえることができます。

EV システムを始動するには

- 1 充電ケーブルが車両に接続されていないことを確認する
- 2 パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを引く（→P.271）

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

- 3 ブレーキペダルをしっかりと踏む
マルチインフォメーションディスプレイにとメッセージが表示されます。

表示されないと、EV システムは始動しません。

シフトポジションがNと表示されている時は、EV システムを始動できません。

EV システムの始動時は、シフトポジションをPにしてください。（→P.263）

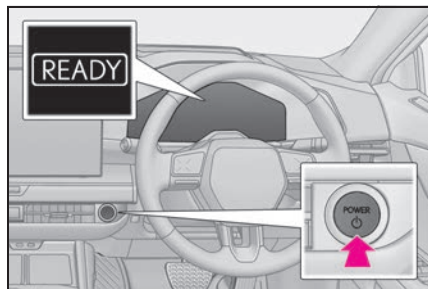
- 4 パワースイッチを短く確実に押す
短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

READY インジケーターが点灯すれば、EV システムは正常に始動しています。

READY インジケーターが点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

パワースイッチのどのモードからでもEV システムを始動できます。

プラスサポート★をご使用の方は、→P.458 も併せて参照してください。



- 5 READY インジケーターが点灯したことを確認する

READY インジケーターが消灯している状態では走行できません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■パワースイッチ照明

状況に応じて、次のようにパワースイッチ照明が切りかわります。

- 運転席または助手席のドアが開いているとき、もしくはパワースイッチをACC または ON から OFF にしたときは、パワースイッチ照明が暗く点灯します。
 - 電子キーまたはデジタルキー★を携帯したままブレーキペダルを踏むと、パワースイッチ照明が明るく点灯します。
 - パワースイッチがACC または ON のときは、パワースイッチ照明が点灯します。
- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■EV システムが始動しないときは

- イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→P.56）
レクサス販売店へご連絡ください。

- 始動操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されている場合は、画面の指示に従ってください。
- メカニカルキーを使ってドアを解錠した場合は、スマートエントリー&スタートシステムでEVシステムを始動することができません。EVシステムを始動するには、P.595を参照してください。または、乗車中に電子キーを携帯し、施錠した場合（→P.200）はEVシステムを始動できます。
- 外気温が低いときは
- EVシステム始動時にREADYインジケータの点滅時間が長くなることがあります。READYインジケータが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。
- 極寒の環境などで駆動用電池の温度が著しく低くなっている場合（およそ-30℃以下）、EVシステムが始動できなくなることがあります。その場合は気温の上昇を待つなど、駆動用電池の温度が上がってから再度始動操作をしてください。
- 電気自動車特有の音と振動について
- P.65
- 電子キーの電池の消耗について
- P.545
- スマートエントリー&スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況
- P.213
- ご留意いただきたいこと
- P.214
- マルチインフォメーションディスプレイに“スマートエントリー&スタートシステム故障 取扱書を確認”が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。

ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ 万一、READYインジケータが点灯しないときは

正しい手順で始動操作を行ってもREADYインジケータが点灯しない場合は、ただちにレクサス販売店へご連絡ください。

■ EVシステムに異常があるときは

→P.70

■ 電子キーの電池交換

→P.545

■ パワースイッチの操作について

- スイッチを短く確実に押せてない場合は、モードの切りかえやEVシステムの始動ができない場合があります。
- パワースイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、EVシステムが始動しない場合があります。パワースイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■ カスタマイズ機能

カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたときは、P.595を参照してください。

⚠ 警告

■ EVシステムを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意

■ EV システムを始動するとき

もし EV システムが始動しにくい場合は、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ パワースイッチの操作について

パワースイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにレクサス販売店にご連絡ください。

EV システムを停止するには

- 1 車両を完全に停止させる
- 2 パーキングブレーキをかける
(→P.271)
- 3 P ポジションスイッチを押す
(→P.263)

シフトポジション表示灯が P であることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

4 パワースイッチを押す

EV システムが停止し、メーター表示が消えます。(シフトポジション表示灯は、メーター表示が消えたあとも数秒間表示されています)

- 5 ブレーキペダルから足を離して、メーターの“アクセサリー”や“パワー ON”の表示が消灯していることを確認する



知識

■ シフト制御システムについて

シフト制御システムが故障すると、パワースイッチを操作して OFF にしようとしても OFF にならないことがあります。その場合は、パーキングブレーキをかけてからパワースイッチを操作すると OFF にすることができる場合があります。

システムが故障した場合は、すみやかにお近くのレクサス販売店で点検を受けてください。

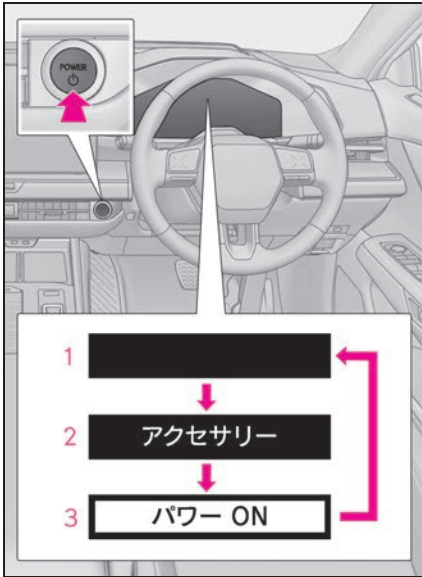
 警告

■ 緊急時の EV システム停止方法

- 走行中に EV システムを緊急停止したい場合には、パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。(→P.554)
ただし、緊急時以外は走行中にパワースイッチにふれないでください。
走行中に EV システムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
- 走行中にパワースイッチを操作すると、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、警告ブザーが鳴ります。
- 走行中に EV システムを緊急停止したあと、走行中に EV システムを再始動させる場合は、パワースイッチを短く確実に押してください。

パワースイッチを切りかえるには

ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押すと、モードを切りかえることができます。(スイッチを押すごとにモードが切りかわります)



1 OFF

非常点滅灯が使用できます。

2 ACC※

オーディオなどの電装品が使用できます。

3 ON

すべての電装品が使用できます。

※ カスタマイズメニューで ON / OFF を切りかえることができます。
(→P.619)



知識

■ ACC カスタマイズが OFF のとき

- パワースイッチが OFF の状態でも、節電機能が働くまでの一定時間はマルチメディアシステムが使用できます。
- 安心降車アシスト作動時、ブザー吹鳴に加え音声でも案内します。

■ 自動電源 OFF 機能

- シフトポジションが P にあるとき、20分以上 ACC または ON (EV システムが作動していない状態) にしたままにしておくと、パワースイッチが自動で

OFF になります。

- シフトポジションが P およびパワースイッチが ACC または ON (EV システムが始動していない状態) のときに補機バッテリーの残量が少なくなると、ブザーが鳴りマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。そのままの状態を続けると、パワースイッチが自動で OFF になります。

ただし、自動電源 OFF 機能は、補機バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。EV システムが作動していないときは、パワースイッチを ACC または ON にしたまま長時間放置しないでください。



注意

■ 補機バッテリーあがりを防止するために

- EV システム停止中は、パワースイッチを ACC または ON にしたまま長時間放置しないでください。
- EV システム停止中に、メーターの “アクセサリ” や “パワー ON” の表示が消灯していない場合、パワースイッチが OFF になっていません。パワースイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

シフトポジション

目的や状況に応じてシフトポジションを選択してください。

シフトポジションの使用目的について

■ ES350e

シフトポジション	目的および状態
P	駐車または EV システムの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行

■ ES500e

シフトポジション	目的および状態
P	駐車または EV システムの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行
M	M モード走行 ※ (→P.269)

※ M モードは、変速演出が実施されるため、通常走行とは異なる消費電力となります。電費向上のためには、通常走行を選択ください。

 知識

■ シフト操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されたとき

誤操作やシステムの状況等によりシフト

ポジションが切りかわらない、またはシフト操作が無効にされたときには、切りかえができない原因や、正しい操作方法などに関するメッセージが、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。その場合は、メッセージに従って操作し直してください。

■ 補機バッテリーを脱着したとき

→P.601

**警告**

■ すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作を行わないでください。横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

**注意**

■ 駆動用電池の充電について

シフトポジションが N では、駆動用電池は充電されないため、N で一定時間放置すると駆動用電池の残量が低下し、走行不能になるおそれがあります。

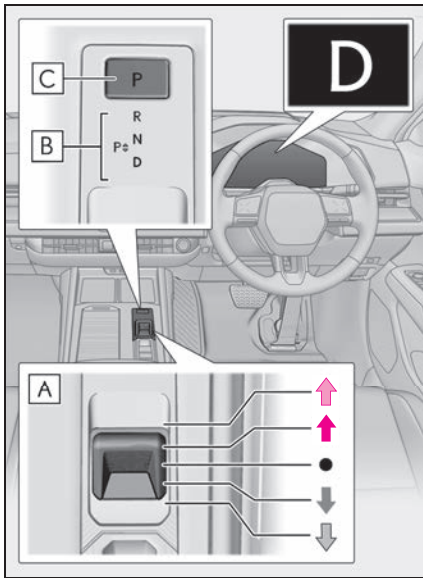
■ シフト制御システムの異常が考えられるとき

次のような状態になったときは、シフト制御システムの異常が考えられます。安全で平坦な場所に停車し、パーキングブレーキをかけて、レクサス販売店にご連絡ください。

- マルチインフォメーションディスプレイにシフト制御システムに関する警告メッセージが表示されたとき (→P.571)
- シフトポジションが選択されていない表示状態が、数秒以上続いているとき

シフトポジションの切りかえ方 法と表示について

■ ES350e



前 2 段



前 1 段



ホーム位置



後 1 段



後 2 段

A シフトレバー

シフトレバーは、シフトポジション表示灯を確認して、確実に操作してください。シフトレバーは前後それぞれ 2 段階ずつ動かすことができます。

R ポジションに切りかえるには：

ブレーキペダルを踏みながら前方に 2 段動かしてください。※¹

D ポジションに切りかえるには：

ブレーキペダルを踏みながら後方に 2 段動かしてください。※²

N ポジションに切りかえるには：

ブレーキペダルを踏みながら、現在のシフトポジションが P・D の場合は前方に 1 段、現在のシフトポジションが R の場合は後方に 1 段動かしてください。

※¹N からは前方に 1 段の操作で切りかわります。

※²P・N からは後方に 1 段の操作で切りかわります。

シフトレバーを操作したあとは、シフトレバーから手を離してください。シフトレバーがホーム位置（●）にもどります。

P から N・D・R、および N・D・R から P へ、または D から R、および R から D へ切りかえるときは、アクセルペダルから足をはなしてブレーキペダルを踏み、車が完全に停止している状態で行ってください。

B シフトポジション表示灯

メーター表示：

現在のシフトポジションが表示されます。

シフトレバー表示：

現在のシフトポジションが点灯表示されます。

シフトレバーを操作したあとは、シフトポジション表示灯で、目的のシフトポジションに切りかわったことを必ず確認してください。

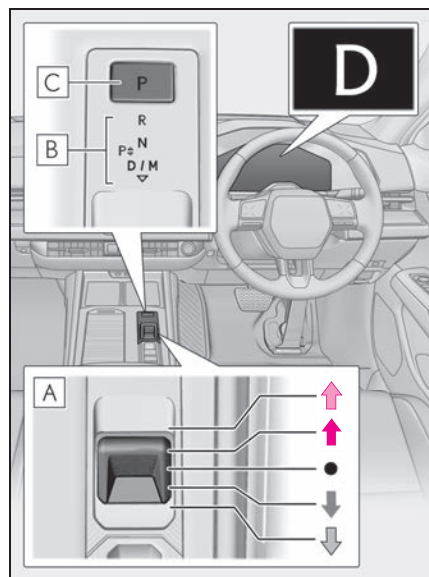
C P ポジションスイッチ

P ポジションに切りかえるには、車を完全に停止させ、パーキングブレーキをかけ、P ポジションスイッチを押してください。

シフトポジションを P にすると、シフトポジション表示灯の P の位置が点灯します。

シフトポジション表示灯が P であることを必ず確認してください。

■ ES500e



-  前 2 段
-  前 1 段
-  ホーム位置
-  後 1 段
-  後 2 段

[A] シフトレバー

シフトレバーは、シフトポジション表示灯を確認して、確実に操作してください。シフトレバーは前後それぞれ 2 段階ずつ

動かすことができます。

R ポジションに切りかえるには：

ブレーキペダルを踏みながら前方に 2 段階動かしてください。※1

D ポジションに切りかえるには：

ブレーキペダルを踏みながら後方に 2 段階動かしてください。※2

N ポジションに切りかえるには：

ブレーキペダルを踏みながら、現在のシフトポジションが P・D・M の場合は前方に 1 段、現在のシフトポジションが R の場合は後方に 1 段階動かしてください。

M ポジションに切りかえるには：

後方に動かしてください。現在のシフトポジションが D のときのみ切りかえが可能です。

※1N からは前方に 1 段の操作で切りかわります。

※2P・N・M からは後方に 1 段の操作で切りかわります。

シフトレバーを操作したあとは、シフトレバーから手を離してください。シフトレバーがホーム位置（●）にもどります。

P から N・D・R、および N・D・M・R から P へ、または D・M から R、および R から D へ切りかえるときは、アクセルペダルから足をはなしてブレーキペダルを踏み、車が完全に停止している状態で行ってください。

[B] シフトポジション表示灯

メーター表示：

現在のシフトポジションが表示されます。

シフトレバー表示：

現在のシフトポジションが点灯表示されます。

シフトレバーを操作したあとは、シフトポジション表示灯で、目的のシフトポジションに切りかわったことを必ず確認してください。

【C】P ポジションスイッチ

P ポジションに切りかえるには、車を完全に停止させ、パーキングブレーキをかけ、P ポジションスイッチを押してください。

シフトポジションを P にすると、シフトポジション表示灯の P の位置が点灯します。

シフトポジション表示灯が P であることを必ず確認してください。

□ 知識**■ パワースイッチの各モードにおけるシフトポジション切りかえ**

- パワースイッチが OFF または ACC のときはシフトポジションの切りかえはできません。
- パワースイッチが ON で、READY インジケーターが消灯しているときは、N のみに切りかえが可能です。
- READY インジケーターが点灯中は、P から、D・N・R を選択できます。
- READY インジケーターが点滅しているときは、シフトレバーを操作しても、P から他のシフトポジションへ切りかえることはできません。READY インジケーターが点滅から点灯にかわってから、再度シフトレバーを操作してください。

■ P から他のシフトポジションに切りかえる

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながら、シフトレバーを操作します。(ブレーキペダルを踏まずにシフトレバーを操作すると、ブザーが鳴りシフトポジションの切りかえができません)
- 操作後は、シフトポジション表示灯で、目的のシフトポジションに切りかわったことを必ず確認してください。
- P から直接、シフトポジションを M に切

りかえることはできません。
(ES500e)

■ シフトポジションを切りかえられなかった場合

次の操作を行うとブザーが鳴り、シフトポジションが切りかえられなかったことをお知らせします。適切な操作で、再度シフトポジションを切りかえてください。

- ブレーキペダルを踏まずに、P からシフトレバーを操作したとき
- アクセルペダルを踏んだまま、P からシフトレバーを操作したとき
- ブレーキペダルを踏まずに、停車中または極低速走行中に N からシフトレバーを操作したとき
- アクセルペダルを踏んだまま、停車中または極低速走行中に N からシフトレバーを操作したとき
- 走行中に、P ポジションスイッチを押した

極低速走行時は、P に切りかわることがあります

■ シフトポジションが自動的にNに切りかわった場合

次の操作を行うとブザーが鳴り、シフトポジションが N に切りかわったことをお知らせします。適切な操作で、再度シフトポジションを切りかえてください。

- ブレーキペダルを踏まずに、D から R にシフトレバーを操作したとき (ES350e)
- ブレーキペダルを踏まずに、D または M から R にシフトレバーを操作したとき (ES500e)
- アクセルペダルを踏んだまま、D から R にシフトレバーを操作したとき (ES350e)
- アクセルペダルを踏んだまま、D または M から R にシフトレバーを操作したと

き (ES500e)

- ブレーキペダルを踏まずに、R から D にシフトレバーを操作したとき
- アクセルペダルを踏んだまま、R から D にシフトレバーを操作したとき
- 車両が前進しているときに R を選択した
低速走行時は R に切りかわることがあります。
- 車両が後退しているときに D を選択した
低速走行時は D に切りかわることがあります。
- 走行中に、P ポジションスイッチを繰り返し押ししたとき、またはスイッチを押し続けたとき

■ リバース警告ブザー

シフトポジションを R にするとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■ 自動Pポジション切りかえ機能について

次のときは、自動的にシフトポジションが P に切りかわります。

- パワースイッチが ON、かつシフトポジションが P 以外の状態で、車両を停止させパワースイッチを押したとき（シフトポジションが P に切りかわったあと、パワースイッチが OFF になります）※
- シフトポジションが P 以外の状態で、万が一、運転席ドアを開け、次の条件をすべて満たしているとき
 - ・ パワースイッチが ON
 - ・ 運転席シートベルトを着用していない
 - ・ ブレーキペダルを踏んでいない

シフトポジションが P に切りかわったあと、車両を発進させるときは、シフトレバーを操作してください。

- 走行中に EV システムを緊急停止したあと、停車したとき

- シフトポジションが P 以外の状態で、補機バッテリーの電圧が低下したとき

※ 停車直前など、極低速走行時にパワースイッチを押すと、自動的にシフトポジションが P に切りかわる場合があります。必ず車両が完全に停止している状態でパワースイッチを押してください。

■ シフトポジションがPから切りかわらない場合は

補機バッテリーあがりの可能性があります。補機バッテリーがあがってしまった場合の対処法は、P.599 を参照してください。

⚠ 警告

■ シフトレバーについて

- シフトレバーのノブを取りはずしたり、純正品以外のノブを取り付けたりしないでください。また、ものをぶら下げたりしないでください。シフトレバーが定位置にもどらなくなって、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 意図せぬシフトポジションの切りかわりを防止するため、操作時以外はシフトレバーにふれないでください。
- シフトレバー操作後は、シフトインジケータが切りかわったことを確認したら、シフトレバーから手をはなしてください。
手でシフトレバーをホーム位置までもどしたり、シフトレバーを持ち続けたりすると、車両の振動時などにシフトレバーの位置が変化して、意図せぬシフトポジションに切りかわり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告**■ P ポジションスイッチについて**

- 車が動いているときは、P ポジションスイッチにふれないでください。

停車直前など、極低速走行中に P ポジションスイッチを押すと、シフトポジションが P に切りかわることがあるため、車が急停止して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 意図せぬシフトポジションの切りかわりを防止するため、操作時以外は P ポジションスイッチにふれないでください。

注意**■ 車を降るとき（運転席のみ）**

シフトポジション表示灯が P であることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認してから、ドアを開け、降車してください。

走行モードの選択**■ ドライブモード**

→P.448

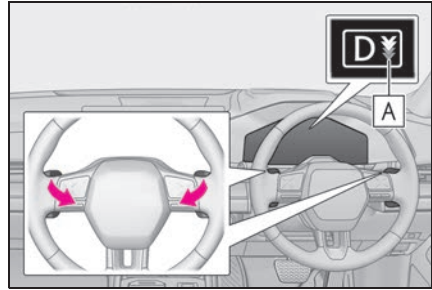
回生ブレーキ力を切りかえるには

シフトポジションを D ポジションで走行中、パドルシフトスイッチの“-”側または“+”側を操作すると、回生ブレーキ力を選択する走行へ切りかわります。

パドルシフトスイッチの“-”側または“+”側の操作で回生ブレーキ力を選択することができます。

通常走行にもどすときは、パドルシフトスイッチの“+”側を一定時間以上保持

します。

**【A】 回生ブレーキ力インジケータ**

回生ブレーキ力選択時はインジケータが表示されます。

回生ブレーキ力は 5 段階から選択できます。

回生ブレーキ力インジケータの v の数が多いほど回生ブレーキ力が強くなります。

知識**■ 回生ブレーキについて**

- 高速走行時は、通常の車にくらべて回生ブレーキによる減速感が小さくなります。
- マルチインフォメーションディスプレイに“回生ブレーキ制限中 減速時はブレーキを踏んでください”が表示されたときは、ブレーキペダルをしっかりと踏んで減速してください。
(→P.580)

M モードで変速操作をするには (ES500e)**■ インタラクティブマニュアルドライブ**

→P.269

自動 P ポジション切り替え機能 を作動させずに、シフトポジ ションを N に保持したいとき は

- 次の操作を行うと、シフトポジションが P に切りかわるまでの間、自動 P ポジション切り替え機能を作動させずに、シフトポジションを N に保持することができます。

- 1 停車する
- 2 ブレーキホールドシステムを OFF にする (→P.275)
- 3 EV システムが始動していることを確認して、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでパーキングブレーキスイッチを押し続ける

パーキングブレーキのオートモードが OFF になります。

- 4 シフトポジションを N に切りかえる
- 5 パーキングブレーキ表示灯が点滅するまで、パーキングブレーキスイッチを押し続ける
- 6 パワースイッチを押す

シフトポジションが N のまま EV システムが停止します ※

ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに “N 保持中 解除するには P スイッチを押してください” が表示されたことを必ず確認してください。

- シフトポジションを N 以外にするには、P ポジションスイッチを押して、一旦シフトポジションを P に切りかえてください

- 平らな場所で使用してください。必要に応じて輪止めを使用してください。

※ この状態を維持したい場合は、パワースイッチを操作しないでください。パワースイッチを繰り返し操作すると、自動的にシフトポジションが P に切りかわったあと、パワースイッチが OFF になります。

警告

- 自動Pポジション切り替え機能を作動させずに、シフトポジションを N に保持するときは

平らな場所で使用してください。
少しでも傾斜がある場合、車が動き思わぬ事故の発生や重大な傷害につながるおそれがあり危険です。必要に応じて輪止めを使用してください。
自走式洗車機を利用するとき以外は使用しないでください。

インタラクティブマニュアルドライブ (ES500e)

インタラクティブマニュアルドライブは、車の様々なデバイスを統合制御することで、ドライバーが車との対話をより深められる運転体験を提供します。M モード走行では、パドルシフトを使用した仮想ギア段の変速操作が可能です。

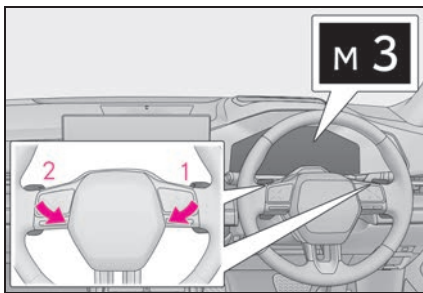
M モードへの切りかえ

→P.263

マルチインフォメーションディスプレイにシフトガイドメーター(→P.174)が表示され、ASC(→P.277)がインタラクティブマニュアルドライブサウンドに切り替わります。

M モードで変速操作をするには

パドルシフトスイッチの“－”または“＋”側の操作で仮想ギア段を選択することができます。



- 1 シフトアップ
- 2 シフトダウン

パドルシフトスイッチを操作するとに 1 速ずつ変速します。

M1 から M8 の中で選択した仮想ギア段に固定され、仮想ギア段がメーターに表示されます。M モードでは、パドルシフトスイッチを操作しない限り、変速しません。

ただし、M モードであっても、次の場合は自動で変速します。

- 車速が低下した (シフトダウンのみ)

シフトガイドメーター(→P.174)のバー表示が次の場合は、パドルシフトスイッチを操作しても変速しない場合があります。

- バー表示がシフトダウン推奨エリアでのシフトアップ操作
- バー表示がおおよそ 1/2 以上のエリアでのシフトダウン操作

知識

■ M モードの加減速演出について

- シフトガイドメーターがダウン推奨エリアの場合、アクセルを踏んでも加速しにくい状態となります。
- アクセルを踏みながらシフトダウンした場合、駆動力が増加し車両が加速します。
- 上限車速に到達すると、加速できないことを通知するため駆動力の制限・サウンドの変化・車両振動が発生する場合があります。
- 上限車速に到達している状態かつアクセルを大きく踏み込んでシフトアップを行うと、駆動力の制限が解除され、車両が加速します。

■ 上限車速について

バーチャルパワートレーン内にガソリン車のエンジンに相当する仮想パワーソースを持っており、上限回転数を設定して

います。

各ギヤ段は異なるギヤ比を持っているため、シフトアップにより上限車速が高くなります。

■シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、パドルシフトスイッチを操作してもシフトダウンできない場合があります。(このときブザーが2回鳴ります)

警告

■Mモードの速度範囲について

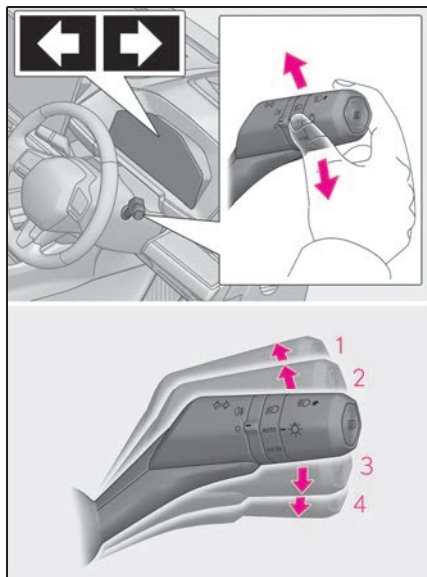
Mモードでは仮想ギヤ段毎に上限の車速が決められています。車速を上げるためには適切な仮想ギヤ段を使用してください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 選択ギヤ段：M1
最高速度：約 45km/h
- 選択ギヤ段：M2
最高速度：約 75km/h
- 選択ギヤ段：M3
最高速度：約 95km/h
- 選択ギヤ段：M4
最高速度：約 125km/h
- 選択ギヤ段：M5
最高速度：約 160km/h

方向指示レバー

操作のしかた

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。



- 1 左折
- 2 左側へ車線変更
(レバーを途中まで動かして離す)
左側方向指示灯が5回点滅します。
- 3 右側へ車線変更
(レバーを途中まで動かして離す)
右側方向指示灯が5回点滅します。
- 4 右折

知識

■作動条件

パワースイッチがONのとき

■表示灯の点滅が異常に速くなったときは

すべての方向指示灯が点滅しているか、

確認してください。

すべての方向指示灯が点滅しているのに点滅が異常に速いときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

パーキングブレーキ

自動または手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

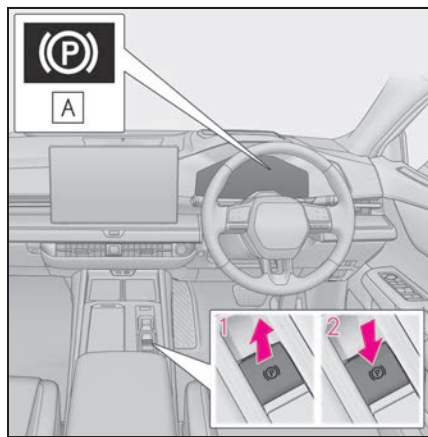
オートモードのときは、パーキングブレーキが自動で作動します。

また、オートモードのときでも手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

操作のしかた

■ マニュアルモード

手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。



A パーキングブレーキ表示灯

- 1 スイッチを引き、パーキングブレーキをかける

パーキングブレーキ表示灯が点灯します。
緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるとき、スイッチを引き続けてください。

- 2 スイッチを押し、パーキングブレーキを解除する

- ・ブレーキペダルを踏みながら操作してください。
- ・パーキングブレーキ自動解除機能により、アクセルペダルを踏むことでパーキングブレーキを解除することができます。アクセルペダルを踏むときはゆっくり踏んでください。(→P.272)

解除後、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。

パーキングブレーキ表示灯が点滅した場合は、再度スイッチを操作してください。(→P.568)

■ オートモードを ON にする

停車中に、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを引き続ける。

オートモードを ON にすると、パーキングブレーキが次のように作動します。

- シフトポジションをPからP以外にすると、パーキングブレーキが解除され、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。
- シフトポジションをP以外からPにすると、パーキングブレーキがかり、パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

シフトポジションおよびPポジションスイッチは、停車した状態でブレーキペダルを踏みながら操作してください。

急なシフト操作を行ったときやブレーキペダルが十分に踏み込まれていないときに、オートモードが作動しない場合があります。その場合は、手動でパーキングブレーキを操作してください。

(→P.271)

■ オートモードを OFF にする

停車中に、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを押し続ける。



■ パーキングブレーキの作動

- パワースイッチが ON 以外では、パーキングブレーキスイッチによる解除はできません。
- パワースイッチが ON 以外では、オートモード（かける・解除する）は作動しません。

■ パーキングブレーキ自動解除機能について

次の条件をすべて満たしたとき、アクセルペダルを踏むことによりパーキングブレーキを解除することができます。

- 運転席ドアが閉まっているとき
- 運転席シートベルトを着用しているとき
- シフトポジションが前進もしくは後退の位置にある
- ブレーキ警告灯（黄色）が消灯している。

アクセルペダルを踏むときはゆっくり踏んでください。

アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが解除しない場合、手動で解除してください。

オートモードではシフトポジションをPからP以外にすると、パーキングブレーキが自動的に解除されます。

■ EV システムオフ時パーキングブレーキ自動作動機能について

下記の条件をすべて満たしたとき、パーキングブレーキが作動します。

- EV システムを OFF したとき
- オートモード ON のとき
- ブレーキ警告灯（黄色）が消灯している
- 降車時パーキングブレーキ自動作動機能について

下記の条件をすべて満たしたとき、パーキングブレーキが作動します。

- ブレーキを踏んでいない
- 運転席のドアが開いている
- 運転席のシートベルトを装着していない
- EV システム異常警告灯やブレーキ警告灯（黄色）が消灯している

- 自走式洗車機を利用するときなど「降車時パーキングブレーキ自動作動」機能を作動させずに、シフトポジション N で車から降りたいときは

次の操作を行うと、シフトポジション N で車から降りても降車時パーキングブレーキ自動作動機能を止めることができます。

→P.268

- マルチインフォメーションディスプレイに“EPB が連続で操作されましたしばらくお待ちください”と表示されたときは

短時間に作動をくり返すと、システム過熱防止のために作動制限することがあります。その場合は、操作を控えてください。1 分程度でもとの状態にもどります。

- マルチインフォメーションディスプレイに“EPB 動作が途中で停止しました”または“EPB 現在使用できません”と表示されたときは

パーキングブレーキスイッチを操作してください。何度か操作しても表示が消えない場合は、システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店で点検を

受けてください。

- パーキングブレーキの作動音

パーキングブレーキが作動するとき、モーターの音（“ウィーン”という音）が聞こえることがあります。異常ではありません。

- パーキングブレーキ表示灯について

- パーキングブレーキをかけたとき、パワースイッチのモードによって、次のようにパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

ON：パーキングブレーキを解除するまで点灯します。

ON 以外：約 15 秒間点灯します。

- パーキングブレーキをかけた状態でパワースイッチを OFF にしたとき、パーキングブレーキ表示灯が約 15 秒間点灯したままになりますが、異常ではありません。

- パーキングブレーキスイッチが故障したとき

自動的にオートモードが ON になります。

- 駐車するとき

→P.251

- パーキングブレーキ未解除警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに“EPB がロックされています”と表示されます（車速が 5km/h をこえたとき）

- ブレーキ警告灯（黄色）が点灯したとき

→P.562

- 冬季のパーキングブレーキの使用について

→P.464

 警告**■ 駐車するとき**

お子さまだけを車の中に残したままにしないでください。お子さまが誤ってパーキングブレーキを解除し、車が動き出して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ パーキングブレーキスイッチについて

パーキングブレーキスイッチの周辺にものを置かないでください。また、EPB 指入れ部にもコインなどのものを置かないでください。ものとスイッチが干渉して、思わぬパーキングブレーキの作動／不作動につながるおそれがあります。

■ パーキングブレーキ自動作動機能について

パーキングブレーキ自動作動機能を日常のパーキングブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本機能は運転者のパーキングブレーキかけ忘れによって起こる事故を軽減するための機能です。機能に頼ったり、安全を委ねて駐車をしたりすると、重大な傷害に及ぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意**■ 駐車するとき**

車から離れるときは、シフトポジションを P にし、パーキングブレーキをかけてください。車が動かないことを確認してください。

■ システムに異常が発生したら

安全な場所に車を止め、警告メッセージを確認してください。

■ 補機バッテリーがあがったとき

パーキングブレーキシステムを作動させることはできません。(→P.599)

■ 故障などがかかったままになったとき

パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。この場合は、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

ブレーキホールド

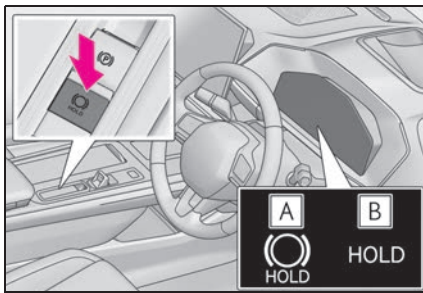
シフトポジションがD・M※・NまたはPでブレーキホールドシステムがONのとき、ブレーキペダルを踏んで停車するとブレーキがかかったまま保持されます。シフトポジションがDまたはM※のとき、アクセルペダルを踏むと同時に解除され、スムーズに発進できます。

※ ES500e のみ

システムを作動させるには

スイッチを押して、ブレーキホールドシステムをONにする

ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）**A**が点灯します。ブレーキ保持中はブレーキホールド作動表示灯（黄）**B**が点灯します。



知識

■ システムの作動条件

次のときはブレーキホールドシステムをONにできません。

- 運転席ドアが閉まっていない
- 運転席シートベルトを着用していない
- マルチインフォメーションディスプレイに、

“EPB 動作が途中で停止しました” や “EPB 故障 販売店で点検してください” が、表示されている

ブレーキホールドシステムがONのときに上記いずれかを検出したときは、ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が消灯しブレーキを保持できません。ブレーキ保持中に、運転席ドアが閉まっていないことや運転席シートベルトを着用していないことを検出した場合は、警告音と共にマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、自動的にパーキングブレーキがかかります。

ブレーキホールドシステムのONおよびOFF設定は、パワースイッチをOFFにしても維持されます。

■ ブレーキ保持について

- ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が消灯しているときは、ブレーキを保持できません。
- ブレーキ保持中にブレーキペダルが踏まれていない状態が約3分継続すると、自動的にパーキングブレーキがかかります。このときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- 急坂路ではブレーキ保持できないことがあります、その場合運転者が、ブレーキをかける必要があります。このときブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。
- ブレーキ保持中にシステムをOFFにするときは、ブレーキペダルをしっかりと踏み、もう一度スイッチを押してください。
- パーキングブレーキを自動的に作動させたくない場合は、ブレーキホールドスイッチを押してスタンバイ表示灯（緑）が消灯したのを確認してからパ

ワースイッチを OFF にしてください。

■ ブレーキ保持中にパーキングブレーキが自動的にかかったとき

発進時は次のいずれかの操作でパーキングブレーキを解除してください。

- 運転席シートベルトを着用した状態でアクセルペダルを踏む
- ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキスイッチを操作して手動で解除する

操作したあとパーキングブレーキ表示灯が消灯したことを確認してください。
(→P.271)

■ レクサス販売店で点検が必要なとき

ブレーキホールドシステムの作動条件を満たしているときに、ブレーキホールドスイッチを押してもブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が点灯しないときはシステムの異常が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ マルチインフォメーションディスプレイに " BrakeHold 故障 販売店で点検してください " が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。

ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ 警告メッセージ・警告ブザーについて

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ ブレーキホールド作動表示灯（黄）が点滅したときは

→P.562

 警告

■ 次のようなときは、ブレーキホールドシステムを OFF にしてください。

- 急坂路
- すべりやすい路面
- 自動洗車機を使用するとき
- けん引されるとき

 注意

■ 駐車するとき

ブレーキホールドは長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中にパワースイッチを OFF にすると、保持が解除されて車が動き出す場合があります。パワースイッチを操作するときは、ブレーキペダルを踏み、シフトポジションを P にして、パーキングブレーキをかけてください。

ASC (アクティブサウンド コントロール)

ASC は、車室の前後から車内に向けて特殊な音を付加することで、運転者が加速や減速といった運転状態をより実感しやすくするためのシステムです。

通常の D ポジションと M モードではそれぞれ音色が変わります。※

※ ES500e のみ



知識

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.620)

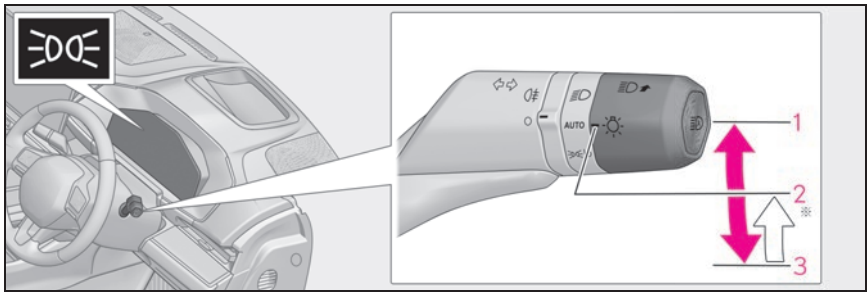
ランプスイッチ

自動または手でヘッドランプなどを点灯・消灯できます。

点灯／消灯のしかた

■ 点灯する

次のように  スイッチを操作すると、ランプが点灯します。



※ スイッチを **3**  の位置へ操作し手を離すと、自動的に **2**  の位置へ戻ります。

ポジション	点灯状態	
	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
1 	ヘッドランプ・スモールランプが点灯	
2 	デイトタイムランニングランプ (→P.279) が点灯 ※2	ヘッドランプ・スモールランプ が点灯
3  ※1	スモールランプが点灯	スモールランプが点灯 ※3

上記の表のスモールランプは、車幅灯・尾灯・インストルメントパネルランプを意味します。

※1 **3**  の状態に切りかえるには、 スイッチを下に回した状態で約 1 秒保持し

てから、手を離します。約 1 秒保持しないと、ランプ類の作動は **2**  のまま変化しません。

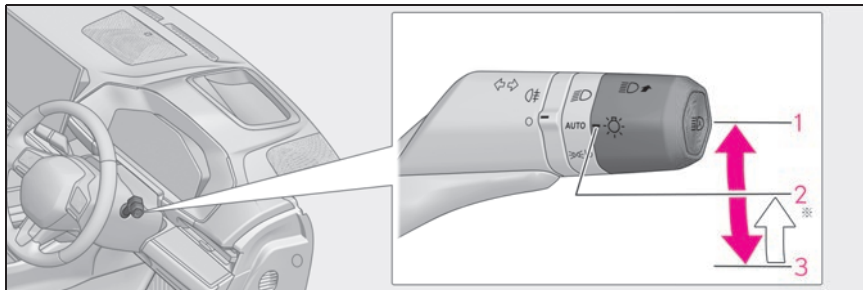
※2 周囲の明るさに従って、尾灯・番号灯が自動的に点灯・消灯します。

※3 停車中から低車速での走行中にのみ、点灯します。ただし、一定の車速をこえるか、走行開始後しばらくすると自動で解除され、**2**  での点灯状態に戻ります。

■ 消灯する

☀️ スイッチを **3**OFF/Oの位置で 2 秒以上保持すると、次のように作動します。

消灯中に **1**OFF か **3**OFF/Oの位置へ操作すると消灯状態が解除されます。



※ スイッチを **3**OFF/Oの位置へ操作し手を離すと、自動的に **2**AUTOの位置へ戻ります。

ポジション	点灯状態	
	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
3 OFF/O	ヘッドランプ・スモールランプ・デイトタイムランニングランプ (→P.279) が消灯	ヘッドランプ・スモールランプが消灯 ※

※ シフトポジションが P にある、またはパーキングブレーキがかかっているときに消灯できます。シフトポジションを P 以外にするか、パーキングブレーキを解除すると、消灯状態は解除されます。

知識

■ AUTO モードの作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ デイトタイムランニングランプ

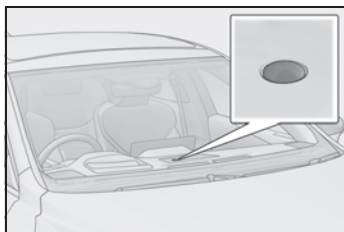
日中での走行時、自車が他の運転者から見えやすくなるように、EV システム始動後、ランプスイッチが **AUTO** の位置でパーキングブレーキを解除すると、デイトタイムランニングランプが自動で点灯します。(車幅灯より明るく点灯します)
デイトタイムランニングランプは夜間の使用を意図したものではありません。

■ 自動で点灯／消灯する明るさについて

周囲の明るさに応じて自動的にランプが点灯／消灯します。日中走行中でも周囲の環境や明るさによって、ヘッドランプが自動点灯する場合があります。

■ ライトセンサーについて

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ ランプ消し忘れ防止機能

パワースイッチを OFF にして運転席ドアを開けるとすべてのランプが自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、パワースイッチを ON にするか、一度ランプスイッチを AUTO にしてから  の位置にします。

■ ランプ消し忘れ警告ブザー

ヘッドランプ・尾灯が点灯している状態で運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■ オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■ ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能

日中での走行時、ランプスイッチが AUTO の位置でワイパーを作動してしばらくすると、自車が他車から見やすくなるようにヘッドランプが自動点灯します。

■ 節電機能

車両の補機バッテリーあがりを防止するため、パワースイッチが OFF の状態でヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 10 分後にすべてのランプが自動消灯します。パワースイッチを ON にすると、節電機能は解除されます。次のいずれかを行った場合、節電機能はいったん解除され、再度節電

機能が働き、約 10 分後すべてのランプが自動消灯します。

● ランプスイッチを操作したとき

● ドアを開閉したとき

■ おもてなし照明

ランプスイッチが AUTO の位置で車両周辺

が暗いとき、スマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンでドアを解錠すると、車幅灯が自動で点灯します。

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.620)

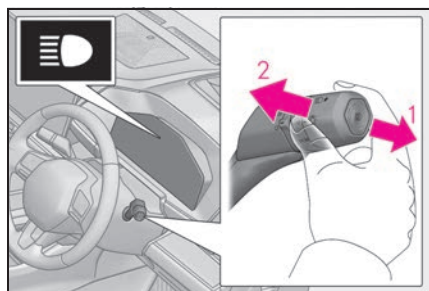


注意

■ 補機バッテリーあがりを防止するために

EV システムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

ハイビームにするには



1 ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

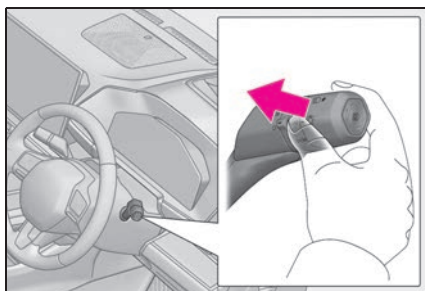
ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービー

ムにもどる、または消灯します。

ヘッドランプ点灯延長機能

パワースイッチが OFF の状態で、ヘッドランプを 30 秒間点灯させることができます。

パワースイッチを OFF にしたあと、ランプスイッチが AUTO の位置で、レバーを手前に引いて離します。



以下の操作でヘッドランプが消灯します。

- パワースイッチを ON にしたとき
- ランプスイッチを操作したとき
- ランプスイッチを再度手前に引いて離したとき

コーナリングランプ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ヘッドランプ（ロービーム）点灯時に次のいずれかの条件を満たしたとき、夜間走行時の交差点や駐車時に優れた視認性を確保するため、コーナリングランプが追加点灯し車両進行方向を照射します。

- ハンドルを操作したとき
- 方向指示レバーを操作したとき

- シフトレバーが R のとき（左右両側のコーナリングランプが点灯）

知識

■ コーナリングランプ制御について

- 車速が 35km/h 以上の場合は、コーナリングランプは点灯しません。
- 点灯した状態で 30 分間経過すると、自動で消灯します。

AHS (アダプティブハイビームシステム [高精細式]) ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アダプティブハイビームシステム（高精細式）は、フロントウインドウガラス上部に設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさや近くの歩行者を判定し、ヘッドランプの配光を制御します。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

アダプティブハイビームシステムを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手でハイビームとロービームを切りかえてください。

■ アダプティブハイビームシステムの誤作動を防ぐために

システムを OFF にする必要があるとき：→P.298

システムの制御

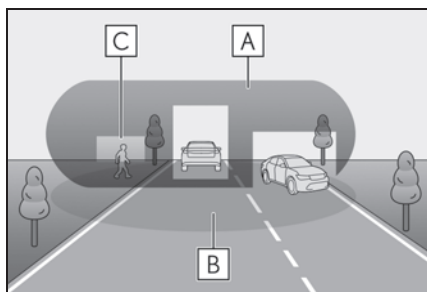
- 車速に応じて、ハイビームの明るさと照らす範囲を調整します。
- カーブを走行しているとき、進行方向側をハイビームでより明るく照らします。（スイブル機能）※

※ センターディスプレイで設定変更が必要です。

- 前方車両の周辺を遮光したハイビームを点灯します。（遮光ハイビーム）また、近くの歩行者など

を減光したハイビームで点灯します。（減光ハイビーム）

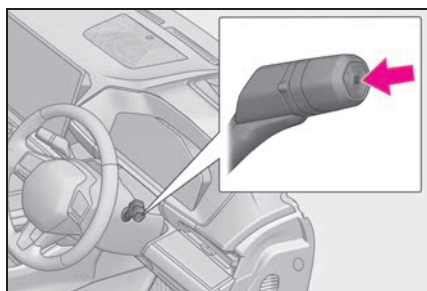
前方車両へのまぶしさを緩和しつつ、前方視界の確保を補助します。



- A** ハイビームで照らす範囲
- B** ロービームで照らす範囲
- C** 減光したハイビームで照らす範囲

アダプティブハイビームシステムを使うには

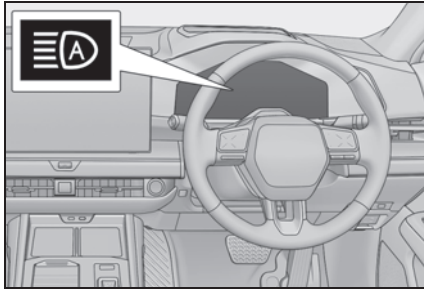
- 1 アダプティブハイビームシステムスイッチを押す



- 2 ランプスイッチをAUTOまたは  にする

レバーがもとの位置にあるとき、アダプティブハイビームシステムが ON にな

り、AHS 表示灯が点灯します。



表示灯とシステムの作動状況

アダプティブハイビームシステムの作動状態を示しています。

表示灯	状態
 白色	アダプティブハイビームシステムがスタンバイ中
 緑色	ロービームで作動中
 緑色	ハイビームで作動中
 緑色	遮光ハイビームで作動中

知識

■ システムの作動条件

- 次の条件をすべて満たすと、ハイビームが点灯し、システムが作動します。
 - ・ 車速が約 15km/h 以上
 - ・ 車両前方が暗い
- 次の条件をすべて満たすと、前方車両の位置に応じて遮光ハイビームに切りかわります。

- ・ 車速が約 15km/h 以上
- ・ 車両前方が暗い
- ・ 前方にランプを点灯した車両がいる
- ・ 前方の道路沿いの街路灯などの光が少ない

- 次の条件のいずれかのとき、ロービームに切りかわります。

- ・ 車速が約 12km/h 以下
- ・ 車両前方が明るい
- ・ 前方車両の台数が多い
- ・ 前方の道路沿いの街路灯などの光が多い

- 次の条件をすべて満たすと、ハイビームによるスイブル機能が作動します。

- ・ AHS でハイビームを作動中
- ・ スイブル機能が ON のとき
- ・ 車速が約 70 ～ 100km/h のとき

- 車速が約 3 ～ 15km/h のとき、両側のコーナリングランプが点灯します。

■ 前方カメラの検知について

- 次のような状況では、ハイビームが自動で遮光ハイビームに切りかわらない場合があります。

- ・ 車両が割り込んできたとき
- ・ 他車が前方を横切ったとき
- ・ 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
- ・ 前方車両が離れた車線から接近してきたとき
- ・ 前方車両が遠方を走行しているとき
- ・ 前方車両が無灯火のとき
- ・ 前方車両のランプ類の照度が低いとき
- ・ 前方車両が自車のヘッドランプなどの強い光を反射しているとき
- ・ 前方車両が横や斜めを向いているとき
- ・ 前方車両の周辺に自発光する光源や反射物が複数存在するとき
- ・ センサーやシステムが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.303

- 前方車両のフォグランプにより、ハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合があります。

- 街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板・反射板（リフレクター）などの反射物によりハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合や切りかわらない場合、または遮光範囲が変化する場合があります。
- 次の原因により、遮光範囲の追従速度やロービームへの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
 - ・ 前方車両のランプの明るさ
 - ・ 前方車両の動きや向き
 - ・ 前方車両との車間距離
 - ・ 前方車両との相対速度や自車両の速度
 - ・ 前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
 - ・ 前方車両が二輪車するとき
 - ・ 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
 - ・ 乗車人数や荷物の量
- ヘッドランプの配光制御が運転者の感覚に合わない場合があります。
- 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。
- 次の原因により、減光の切りかえタイミングが変化する場合や切りかわらない場合があります。
 - ・ 歩行者の動き、向き、位置、姿勢、服装など
 - ・ 歩行者が近くにいないとき
 - ・ 歩行者の一部が障害物などにより隠れているとき
 - ・ 歩行者の周辺が暗いもしくは影になっているとき
 - ・ 周囲の色とよく似た色の服装の歩行者がいるとき
 - ・ 歩行者の周辺に自発光物や反射物が存在するとき
 - ・ 自車両の移動速度が速いとき
- 次のような状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。

このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

- ・ 周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
- ・ 前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があつたり光軸がずれているとき
- ・ ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
- ・ ハイビームの点灯が不適切と思われるとき、またはほかの運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき
- ・ システムを OFF にする必要があるとき：→P.298
- ・ センサーやシステムが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.303

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.620）

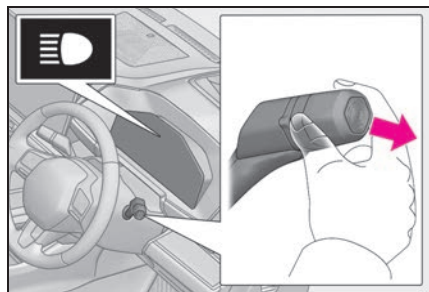
手動制御に切りかえるには

■ ハイビームへの切りかえ

1 レバーを前方へ押す

ハイビーム表示灯が点灯します。

アダプティブハイビームシステムにもどすには、レバーを手前に引き、もとの位置にもどします。

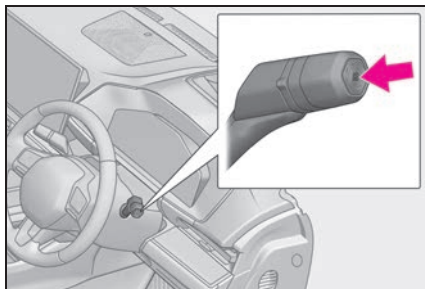


■ ロービームへの切りかえ

1 アダプティブハイビームシステムスイッチを押す

AHS 表示灯が消灯します。

アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度スイッチを押します。

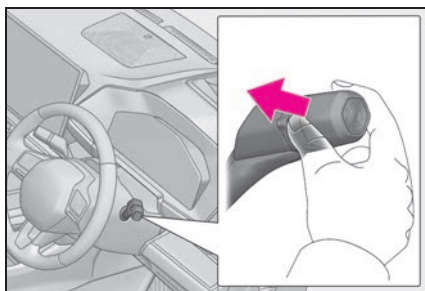


一時的なロービームへの切りかえ

ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるときに使用します。

- 1 レバーを手前に引き、もとの位置にもどす

レバーを引いているあいだはハイビームが点灯しますが、レバーがもとの位置にもどるとしばらくのあいだロービームが点灯します。その後、再度アダプティブハイビームシステムが作動します。



AHB（オートマチックハイビーム）

オートマチックハイビームは、フロントウィンドウガラス上部に設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

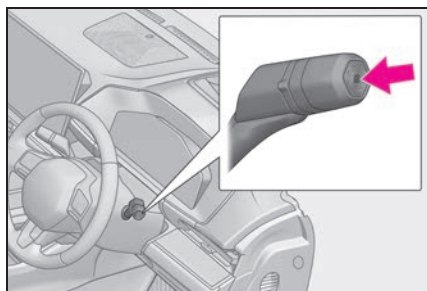
オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■ オートマチックハイビームの誤作動を防ぐために

システムを OFF にする必要があるとき：→P.298

オートマチックハイビームを使うには

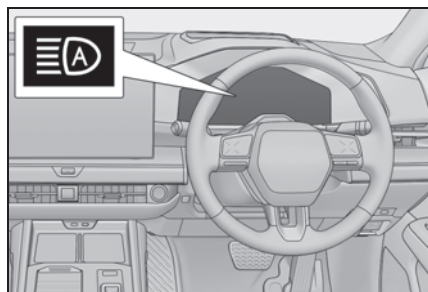
- 1 オートマチックハイビームスイッチを押す



- 2 ランプスイッチをAUTOまたは

☾にする

レバーがもとの位置にあるとき、オートマチックハイビームがONになり、AHB表示灯が点灯します。



表示灯とシステムの作動状況

オートマチックハイビームの作動状態を示しています。

表示灯	状態
 白色	オートマチックハイビームがスタンバイ中
 緑色	ロービームで作動中
 緑色	ハイビームで作動中

知識

■ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

- 次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。
 - ・ 車速が約 30km/h 以上
 - ・ 車両前方が暗い
 - ・ 前方にランプを点灯した車両がない
 - ・ 前方の道路沿いの街路灯などの光が少ない
- 次の条件のいずれかのとき、ロービー

ムに切りかわります。

- ・ 車速が約 25km/h 以下
- ・ 車両前方が明るい
- ・ 前方にランプを点灯した車両がいる
- ・ 前方の道路沿いの街路灯などの光が多い

■前方カメラの検知について

- 次のような状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。
 - ・ 車両が割り込んできたとき
 - ・ 他車が前方を横切ったとき
 - ・ 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
 - ・ 前方車両が離れた車線から接近してきたとき
 - ・ 前方車両が遠方を走行しているとき
 - ・ 前方車両が無灯火のとき
 - ・ 前方車両のランプ類の照度が低いとき
 - ・ 前方車両が自車のヘッドランプなどの強い光を反射しているとき
 - ・ 前方車両が横や斜めを向いているとき
 - ・ 前方車両の周辺に自発光する光源や反射物が複数存在するとき
 - ・ センサーやシステムが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.303
- 前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。
- 街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板・反射板（リフレクター）などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。
- 次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
 - ・ 前方車両のランプの明るさ
 - ・ 前方車両の動きや向き
 - ・ 前方車両との車間距離
 - ・ 前方車両との相対速度や自車両の速度
 - ・ 前方車両のランプが片側のみ点灯して

いるとき

- ・ 前方車両が二輪車のとき
- ・ 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
- ・ 乗車人数や荷物の量
- ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。
- 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。
- 次のような状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
- ・ 周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
- ・ 前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があつたり光軸がずれているとき
- ・ ハイビームとロービームをひんばんに切りかえているとき
- ・ ハイビームの点灯が不適切と思われるとき、またはほかの運転者・付近の歩行者の迷惑になるとと思われるとき
- ・ システムを OFF にする必要があるとき：→P.298
- ・ センサーやシステムが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.303

手動制御に切りかえるには

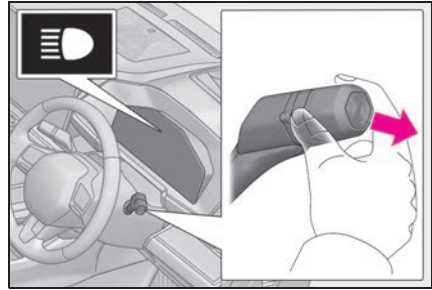
■ ハイビームへの切りかえ

1 レバーを前方へ押す

ハイビーム表示灯が点灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、レバーを手前に引き、もとの位置にもど

します。

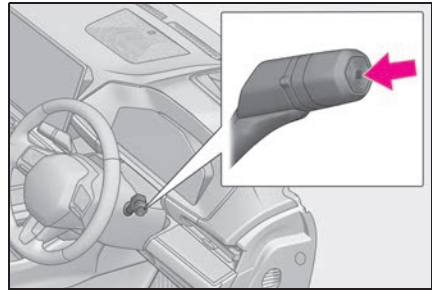


■ ロービームへの切りかえ

1 オートマチックハイビームスイッチを押す

AHB 表示灯が消灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度スイッチを押します。



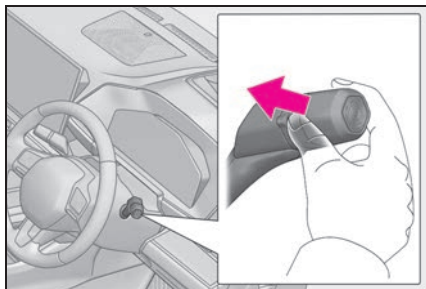
一時的なロービームへの切りかえ

ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になるとと思われるときに使用します。

1 レバーを手前に引き、もとの位置にもどす

レバーを引いているあいだはハイビームが点灯しますが、レバーがもとの位置にもどるとしばらくのあいだロービームが点灯します。その後、再度オートマチック

クハイビームが作動します。



マルチウェザーライト★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

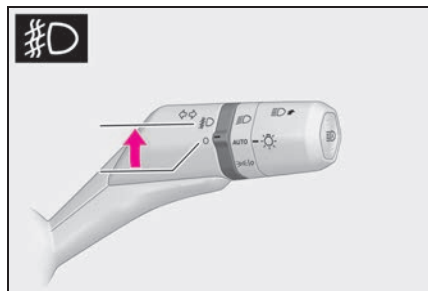
マルチウェザーライトはコーナリングランプを点灯させることにより、雨や霧などの悪天候下での視界を確保するシステムです。

マルチウェザーライトの ON / OFF 切りかえ

- 1 ランプスイッチを または AUTO の位置にする
- 2 リングを または の位置にする

手を離すと の位置までもどります。

マルチウェザーライトが ON になり、メーター内のマルチウェザーライト表示灯が点灯します。



再度操作すると OFF になります。

知識

■点灯条件

次の条件をすべて満たすとマルチウェザーライトが作動し、両側のコーナリングランプが点灯します。

- ・ ヘッドランプが点灯しているとき
- ・ 車速が 45km/h 未満のとき

車速が 45km/h 以上になると一時的に消灯しますが、35km/h 以下になると再点灯します。

■ リヤフォグランプについて

マルチウェザーライトが ON のときは、リヤフォグランプも点灯することがあります。(→P.289)

リヤフォグランプ

雨や霧などの悪天候下で後続車両に自車の存在を知らせることができます。

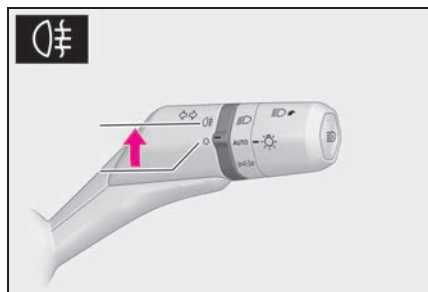
操作のしかた

- 1 ランプスイッチを  または AUTO の位置にする

- 2 リングを  の位置にする

手を離すと ○ の位置までもどります。

リヤフォグランプが点灯し、メーター内のリヤフォグランプ表示灯が点灯します。



再度操作すると消灯します。

知識

■ 点灯条件

ヘッドランプが点灯しているとき（リヤフォグランプ点灯後は車幅灯にしても点灯しています）

■ リヤフォグランプについて

- リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。
- 雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使

用します。

視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。

必要なとき以外は使用しないでください。

■マルチウェザーライト★の作動

リヤフォグランプが点灯時は、マルチウェザーライトも作動することがあります。(→P.288)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ワイパー & ウォッシャー

レバー操作で、ワイパーの作動を自動／手動に切りかえたり、ウォッシャーを作動させたりすることができます。



注意

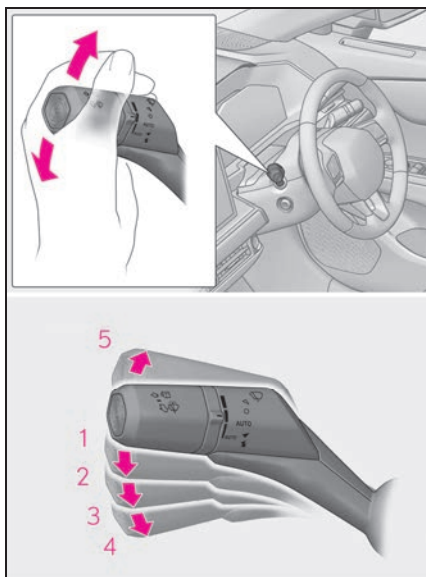
■フロントウインドウガラスが乾いているとき

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

操作のしかた

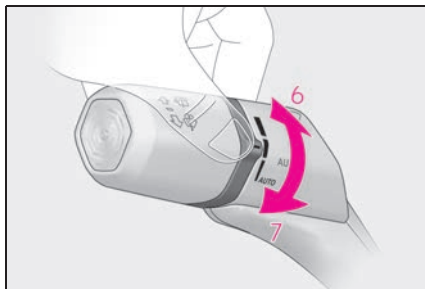
次のように  レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。

AUTOを選択したときは、雨滴量や車速に応じてワイパーが自動で作動します。

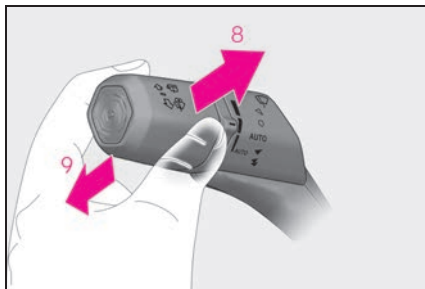


- 1 ○ 停止
- 2 AUTO/AUTO モード
- 3 ▼ 低速作動
- 4 ▼ 高速作動
- 5 △ 一時作動

AUTOが選択されているときは、次のようにつまみをまわして、雨滴センサーの感度を調整できます。



- 6 雨滴センサーの感度調整（高）
- 7 雨滴センサーの感度調整（低）



- 8  ウォッシャー液を出す（フロントウインドウガラス）

レバーを手前に引くとワイパーが連動してウォッシャーが作動します。（数回作動したあと、液だれ防止としてさらに1回作動します。ただし、走行中は液だれ防止作動は働きません）

パワースイッチがONの状態ではッドランプが点灯しているとき、5回手前に引くごとにヘッドランプクリーナーが作動します。

- 9  ウォッシャー液を出す（リヤカメラ）

レバーを前方へ押すとウォッシャーが作動して、リヤカメラとデジタルインナーミラーのカメラを洗浄します。

知識

■ 作動条件

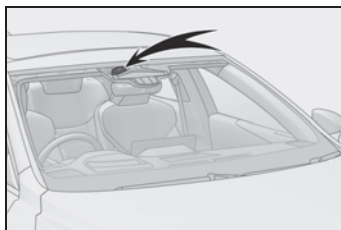
パワースイッチがONのとき

■ 車速による作動への影響

低速作動選択時は停車時のみ間欠作動へ切りかわります。（雨滴センサーの感度調整が最高に調整されているときは、低速作動を続けます）

■ 雨滴感知センサー

- 雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。
光学センサーを使用しているため、フロントウインドウガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに、正しく作動しないことがあります。



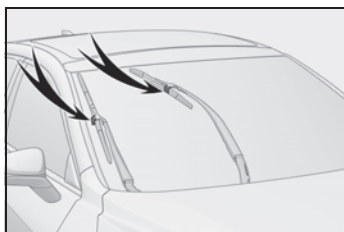
- パワースイッチがONのときにワイパー
スイッチをAUTOにすると、動作確認のためワイパーが1回作動します。
- AUTOモードかつセンサーが雨滴を検知しているとき雨滴センサーの感度調整

を（高）側へ調整すると、動作確認のためワイパーが1回作動します。

- 雨滴感知センサーの温度が85℃以上または-15℃以下のときは、AUTO作動しないことがあります。その場合は、AUTO以外を選択してワイパーを使用してください。

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。



■ フロントドア開連動ワイパー停止機能

AUTOモード選択中、シフトポジションがPの状態ではワイパーが作動しているときにフロントドアを開けると、ワイパーの水しぶきが車両の近くにいる人にかかるのを防ぐためにワイパーの作動が停止します。フロントドアを閉めると作動を再開します。

⚠ 警告

■ AUTO選択時のワイパー作動について

AUTOを選択しているときは、センサーにふれたり、フロントウインドウガラスに振動があるなどの要因で意図的にワイパーが動くおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

■ ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍り付き、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったとき

ノズルがつまったときはレクサス販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

■ 補機バッテリーあがりを防止するために

EVシステムを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

ワイパーの停止位置切りかえ／ワイパーの立て方

ワイパーは使用していないとき、ボンネット下に格納されています。

寒冷時やワイパーゴムを交換するときは、ワイパーの停止位置を格納位置からサービスポジションに切りかえた上でワイパーを立ててください。

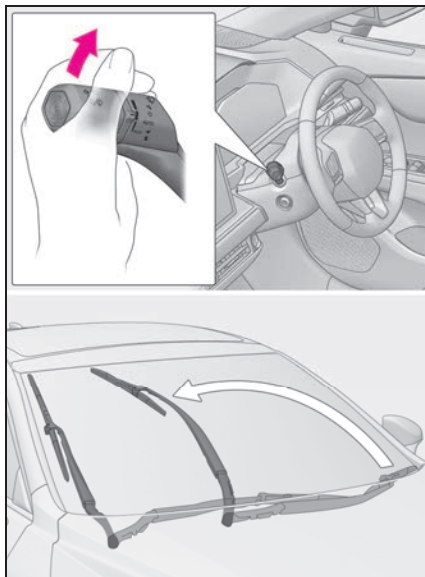
■ サービスポジションへ切りかえる

パワースイッチをOFFにしたあと、約45秒以内にワイパースイッチを

△の位置で約2秒以上保持する

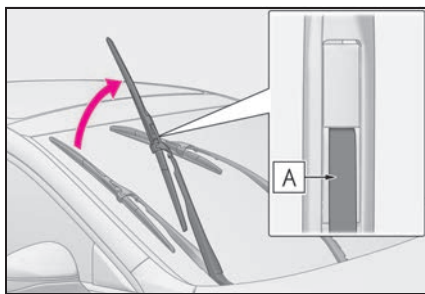
ワイパーがサービスポジションに移動し

ます。



■ ワイパーを立てる

ワイパーアームのフック部を持って
ガラス面から引き上げる



A フック部



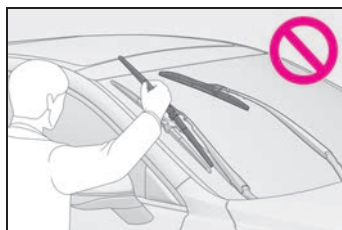
■ ワイパーを格納位置にもどすには

ワイパーを倒した状態でパワースイッチ
を ON にし、いずれかのワイパー操作を
してください。作動後は格納位置で停止
します。

⚠ 注意

■ ワイパーを立てるときは

- ワイパーがボンネット下の格納位置にあるときは、ワイパーを立てないでください。格納位置でワイパーを立てるとボンネットに干渉し、傷が付くおそれがあります。
- ワイパーブレードのみを持ってワイパーを立てないでください。ブレードが変形するおそれがあります。



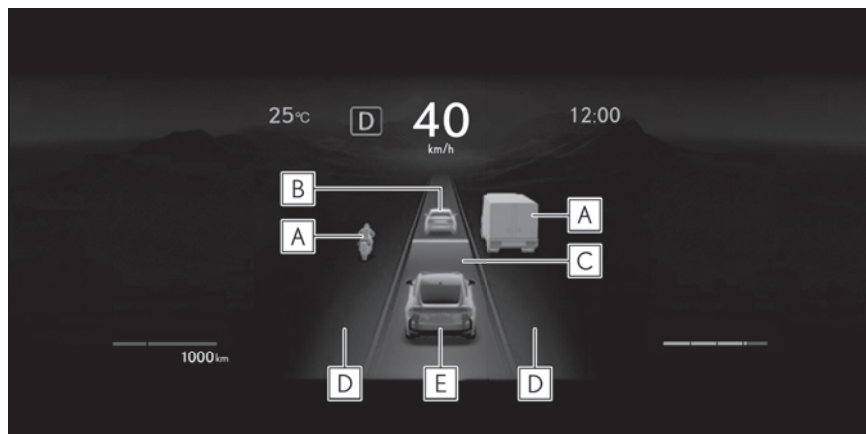
- ワイパーを立てた状態でワイパーを作動させないでください。ワイパーがボンネットに干渉し、傷が付くおそれがあります。

運転支援システム情報

マルチインフォメーションディスプレイ (→P.176) に自車線・隣接する車線の状況や自車の動き、一部のシステムの作動状況を表示します。

運転支援システム情報表示について

■ 運転支援システム情報表示画面



イラストは説明のための例であり、実際の表示状況とは異なります。

- A** 周辺車
- B** 先行車
- C** 自車線
- D** 隣接する車線
- E** 自車

■ 表示されるシステム

次のシステムの作動状況が表示されます。

表示内容は各システムの項目を参照してください。

- LTA (レーントレーシングアシスト)
→P.318
- LCA (レーンチェンジアシスト)
→P.322
- LDA (レーンディパーチャーアラート)

→P.326

● PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

→P.333

● レーダークルーズコントロール

→P.343

● アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）

→P.360

● BSM（ブラインドスポットモニター）

→P.375



知識

■ 周辺状況の表示について

車速が低いときや周辺の状況によっては、隣接する車線の情報が表示されない場合があります。



警告

■ 安全にお使いいただくために

周辺のすべての車両・状況がマルチインフォメーションディスプレイに表示されるわけではありません。ディスプレイの情報を過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

システムの停止および機能制限について

次の操作により一部のシステムを停止、または機能の一部を制限する場合があります。

マルチインフォメーションディスプレイに “ 一部の機能停止 ” または “ 一部の機能制限 ” が表示されます。

アイコンを記載しているシステムについては、メッセージと一緒にアイコンが表示されます。

操作	停止するシステム	機能の一部を制限するシステム
PCS（プリクラッシュセーフティ）を OFF にした（→P.318）	PDA（プロアクティブドライビングアシスト）（→P.335）  ドライバー異常時対応システム（→P.358）	LDA（レーンディパーチャーアラート）（→P.331）
VSC（ビークルスタビリティコントロール）を OFF にした（→P.452）	LDA（レーンディパーチャーアラート）（→P.331） PDA（プロアクティブドライビングアシスト）（→P.335）  ドライバー異常時対応システム（→P.358）  急加速抑制（→P.365）	PCS（プリクラッシュセーフティ）（→P.309）
TRC（トラクションコントロール）を OFF にした（→P.452）	PDA（プロアクティブドライビングアシスト）（→P.335）	LDA（レーンディパーチャーアラート）（→P.331）
ドライバーモニターカメラを OFF にした（→P.308）	—	LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.318） レーダークルーズコントロール（→P.343）
ドアミラーを格納した（→P.232）	 RCTA（リヤクロストラフィックアラート）（→P.403） PKSB（パーキングサポートブレーキ）（→P.412）	—
トランクを開けた（→P.203）	 RCD（リアカメラディテクション）（→P.408） PKSB（パーキングサポートブレーキ）（→P.412）	—

操作	停止するシステム	機能の一部を制限するシステム
ドア（フロントドア・リアドア）を開けた（→P.197）	PKSB（パーキングサポートブレーキ）（→P.412）	—
シートベルトを外した（→P.29）	PDA（プロアクティブドライビングアシスト）（→P.333）	—

Lexus Safety System +

Lexus Safety System + は、運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

警告

■ Lexus Safety System + について

Lexus Safety System+ は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■ 安全にお使いいただくために

- システムを過信しないでください。
運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。本システムはあらゆる状況で動作するものではなく、支援には限界があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お客様ご自身で作動テストを行わないでください。対象や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行操作に関して注意が必要なときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。ディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従い、周囲の状況に応じて適切な操作を行ってください。

● システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。ディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。(→P.570)

● 外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。また、路面状況などにより、システムの作動を感じにくい場合があります。

■ システムを OFF にする必要があるとき

- 次のときは、システムを OFF にしてください。
- システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 過積載やパンクで車両が傾いているとき
- 過度な高速走行をしているとき
- けん引時
- トラック／船舶／列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、タイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- 洗車機を使用するとき
- センサーやセンサー周辺への衝撃などによりセンサーの向きがずれているとき、変形しているとき
- センサーやライトをさえぎるような装備品を装着しているとき

⚠ 警告

- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき、タイヤパンク 応急修理キットで修理したとき
- タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- 事故や故障などにより走行不安定なとき

運転支援装置

■ AHS（アダプティブハイビームシステム）★

→P.282

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ AHB（オートマチックハイビーム）

→P.285

■ PCS（プリクラッシュセーフティ）

→P.309

■ LTA（レーントレーシングアシスト）

→P.318

■ LDA（レーンディパーチャアラート）

→P.326

■ LCA（レーンチェンジアシスト）

→P.322

■ FCTA（フロントクロストラフィックアラート）

→P.337

■ PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

→P.333

■ 発進遅れ告知機能

→P.339

■ RSA（ロードサインアシスト）

→P.340

■ レーダークルーズコントロール

→P.343

■ クルーズコントロール

→P.354

■ ドライバー異常時対応システム

→P.358

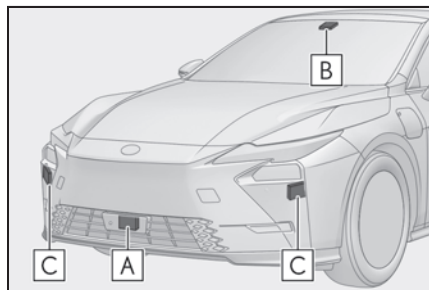
■ ドライバーモニター

→P.307

Lexus Safety System + で使用するセンサー

複数のセンサーにより、システムの作動に必要な情報を認識します。

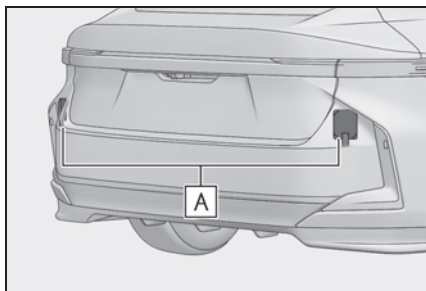
■ 周囲の状況を検出するセンサー



[A] 前方レーダー

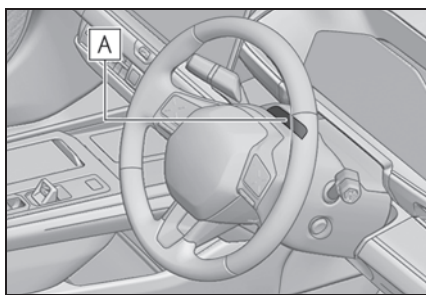
[B] 前方カメラ

[C] 前側方レーダー



A 後側方レーダー

■ 運転者の状態を検出するセンサー



A ドライバーモニターカメラ

警告

■ レーダーの故障や誤作動を防ぐために

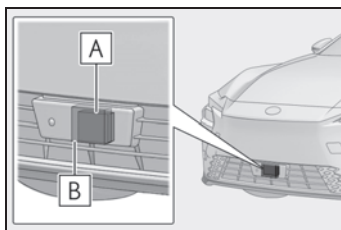
次のことをお守りください。

お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく

レーダー前面やレーダー専用カバー前後面に汚れ／水滴／雪などが付着した場合は、取り除いてください。

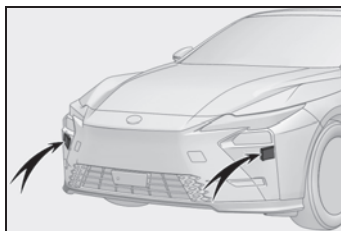
お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布で汚れをふき取ってください。



A レーダー

B レーダー専用カバー

- 前側方レーダー周辺のフロントバンパーは常にきれいにしておく。



- レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない
- レーダーの電波を妨害するような用品（ブルバー、ナンバープレートカバー、グリルパッチなど）やナンバープレートを装着しない

警告

● レーダー周辺への衝撃を避ける

レーダー／フロントグリル／フロントバンパー／リアバンパーに衝撃を受けた際は、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。

● レーダーを分解しない

● レーダーやレーダー専用カバーを改造、塗装したりしない。純正部品以外に交換しない。

● 次のようなときは、レーダーの再調整が必要です。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

- ・ レーダーを脱着や交換したとき
- ・ フロントバンパー／リアバンパー／フロントグリルを交換したとき

■ ヒーター機能付レーダー専用カバーについて

レーダー専用カバーに雪が堆積する可能性があるシステムが判断した場合、ヒーターが自動的に作動します。お手入れなどでレーダー専用カバー周辺にふれるときは、十分に冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■ 前方カメラの故障や誤作動を防ぐために

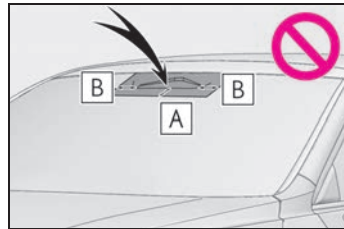
次のことをお守りください。

お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく

・ フロントウインドウガラス外側に汚れ／油膜／水滴／雪などが付着した場合は、取り除いてください。

- ・ フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用しても、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
- ・ フロントウインドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、レクサス販売店にご相談ください。
- フロントウインドウガラスの前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない



【A】 約 4cm

【B】 約 4cm

- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する
- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する
- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する

フロントウインドウガラスの交換後は、前方カメラの再調整が必要です。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

● 前方カメラに液体をかけない

 警告

- 前方カメラに強い光を照射しない
- 前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない

フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。

レンズに汚れ・傷がある場合は、レクサス販売店にご相談ください。

- 前方カメラに強い衝撃を加えない
- 前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方カメラを分解しない
- インナーミラーなどの前方カメラ周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリを取り付けない

詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方カメラの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

■ フロントウインドウガラスの前方カメラ取り付け部について

フロントウインドウガラスが曇る可能性がある場合、システムが判断した場合、ヒーターにより前方カメラ周辺のフロントウインドウガラスの曇り取りが自動的に作動します。お手入れなどで前方カメラ周辺にふれるときは、十分にフロントガラスが冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■ ドライバーモニターカメラの取り扱いについて

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、ドライバーモニターカメラの故障や誤作動によりシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ドライバーモニターカメラおよびその周辺に強い衝撃を与えない

強い衝撃を受けると、ドライバーモニターカメラの位置や向きがずれ、運転者を正しく検知できなくなるおそれがあります。必ずレクサス販売店で点検を受けてください。

- ドライバーモニターカメラを分解・改造しない
- ドライバーモニターカメラおよびその周辺にアクセサリを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない
- ドライバーモニターカメラおよびその周辺に液体をかけない
- ドライバーモニターカメラの前にものを置いたり、覆ったりしない
- ドライバーモニターカメラのレンズを傷付けない

警告

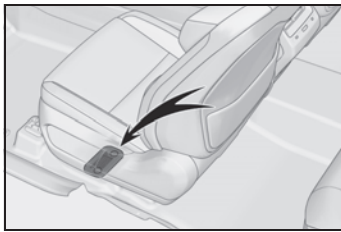
- ドライバーモニターカメラのレンズをさわったり、汚したりしない

レンズに指紋や汚れが付着した場合は、レンズを傷付けないよう乾いたやわらかい布でふき取ってください。

- お手入れする際は、樹脂を腐食させるような洗剤・有機溶剤を使用しない

■ LSS 制御ユニット冷却用の吸入口について

次のことをお守りください。お守りいただかないと LSS 制御ユニットが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な障害に及ぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- 吸入口をふさがないでください。
- 吸入口に水や異物を入れないでください。

知識

■ ご使用にあたっての留意事項

以下の機能を継続して利用するためには、G-Link 利用契約の更新が必要です。

- LCA（レーンチェンジアシスト）

→P.322

- レーダークルーズコントロール：再発進可能時間延長

→P.343

- アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）

→P.360

- ドライバー異常時対応システム：路肩に寄せて停車する機能

→P.358

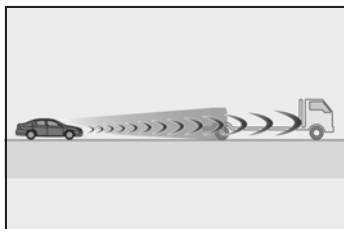
■ センサーやシステムが正しく作動しないおそれがあるとき

- 車両の高さや傾きが変わるような改造をしているとき
- フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき、ひび割れや破損があるとき
- 外気温が高温または低温のとき
- センサー前面に泥／雨滴／雪／氷／虫／ゴミなどが付着したとき
- 冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき
- 悪天候時（雨・霧・雪・砂嵐など）
- 前方に水／雪／土ほこりなどの巻き上げや水蒸気・煙があるとき
- 夜間やトンネル内など暗い場所でヘッドランプを点灯していないとき
- ヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いとき
- ヘッドランプの光軸がずれているとき
- ヘッドランプが故障しているとき
- 対向車のヘッドランプ光／太陽光／反射光などが前方カメラに入射しているとき
- 急激な明るさの変化があるとき
- テレビ塔／放送局／発電所／レーダー搭載車両など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき
- ワイパーブレードがセンサーの視界をさえぎっているとき
- トラス橋など鉄骨部分が多い場所を走行中のとき
- 周囲に次のようなレーダーの電波を反

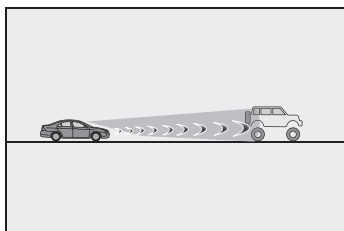
射するものがあるとき

- ・トンネル
- ・砂利道
- ・轍のある雪道
- ・壁
- ・大型トラック
- ・マンホール
- ・ガードレール
- ・鉄板

- 周囲に段差や突起物があるとき
- 超小型モビリティなどのように対象車両の全幅が狭いとき
- 空荷のトラックなど対象車両の前端・後端面積が小さいとき
- 低床トレーラーなど対象車両の前端・後端が低い位置にあるとき



- 対象車両の最低地上高が極端に高いとき



- 対象車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
- 対象車両の一部が布で覆われているなど金属の露出が少ない車両のとき
- トラクター・サイドカーなど対象車両が特殊な形状のとき
- 対象車両との車間距離が極端に短くなったとき

- 対象車両の位置がずれている場合
- 対象車両に雪や泥などが付着している場合
- 次のような道路を走行しているとき
 - ・急なカーブや曲がりくねった道
 - ・急な上り坂や下り坂など、路面勾配が変化する道
 - ・左右に傾きのある道
 - ・路面に深いわだちがある道
 - ・整備されていない荒れた道
 - ・起伏や段差が多い道路
- ハンドル操作が不安定な場合
- 車線内での自車の位置が一定でない場合
- 本システム部品もしくはブレーキ等の関連部品が冷えている・過熱している・ぬれているなど
- ホイールアライメントがずれているとき
- 凍結路・積雪路・砂利道などのすべりやすい路面を走行するとき
- カーブの形状とは異なる経路で走行するとき
- カーブに対して進入速度が過度に高いとき
- 駐車場や車庫、カーエレベータなどに入ったりするとき
- 駐車場内を走行するとき
- 生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など自車に覆い被さるような障害物がある場所を走行するとき
- 風が強いとき
- 車線を検知できないおそれがあるとき
- 車線の幅が極端に狭い、または広いとき
- 車線変更をした直後、または交差点を通過した直後
- 工事によって規制された車線、または

仮設の車線を走行しているとき

- 周囲に車線もしくは類似の構造物、模様、影があるとき
- 同一車線上に複数の白線があるとき
- 車線が明瞭でないとき、濡れた路面を走行しているとき
- 車線が縁石等の上に引かれているとき
- コンクリート路のような照り返しなどで明るい路面を走行しているとき
- システムの一部もしくは全てが作動しないとき
- 本システムもしくはブレーキ、ステアリング等関連システムに異常検出時
- VSC、TRC 等の安全システムが作動時
- VSC、TRC 等の安全システムが OFF の時

■ ブレーキの作動音や踏み応えの変化について

- ブレーキが作動したときにブレーキの作動音が聞こえたり、ブレーキペダルの踏み応えがかわったりすることがありますが異常ではありません。
- システムの制御によるブレーキ作動中はブレーキペダルがお客様の想定よりも固く感じられたり、ブレーキペダルが沈みこんだりすることがあります。どちらの場合もブレーキの踏み増しは可能です。必要に応じてブレーキを踏み増ししてください。

■ ドライバーモニターカメラが正常に作動しないおそれがある状況

次のような状況のとき、ドライバーモニターカメラは運転者の顔を検知できず、機能が正常に作動しないおそれがあります。

- 炎天下での駐車後など、車内が高温のとき
- 強い光（太陽光や後続車のヘッドラン

プ光など）がドライバーモニターカメラにあたっているとき

- 周囲の構造物の影響などで、車内の明るさがひんぱんに変化するとき
- 強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が運転者の顔にあたっているとき
- 眼鏡・サングラスのレンズに車内や車外からの光が映り込んでいるとき
- 助手席や後席の乗員が身を乗り出すなど、ドライバーモニターカメラの検知範囲に複数の顔があるとき
- 前に身を乗り出したり、窓から顔を出したりするなど、顔がドライバーモニターカメラの検知範囲から外れているとき
- ハンドルやハンドルを握る手・腕などでドライバーモニターカメラが隠れたとき
- 帽子を被っているとき
- 眼帯を着用しているとき
- 赤外線を通しにくい眼鏡やサングラスをかけているとき
- コンタクトレンズをつけているとき
- マスクを着用しているとき
- 笑ったり、眼を細めたりしているとき
- 眼・鼻・口や、顔の輪郭が隠れているとき
- 眼・鼻・口・顔の輪郭が判定できなくなるような化粧をしているとき
- 眼鏡・サングラスのフレームや髪などで眼が隠れているとき
- 車内に近赤外線光源を搭載した機器（市販のドライバーモニタリングシステムなど）があるとき

■ソフトウェアアップデート

- G-Link ご利用契約中のお客様は通信モジュール（DCM）を使ってソフトウェアアップデートを実施することで、システムのアップデート・機能の変更ができます。
- ご使用前に必ずシステムの更新内容をお読みください。

■レーダーの取り扱い

- ソフトウェアアップデートのアクティベート中は一部機能の使用が制限されます。

詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

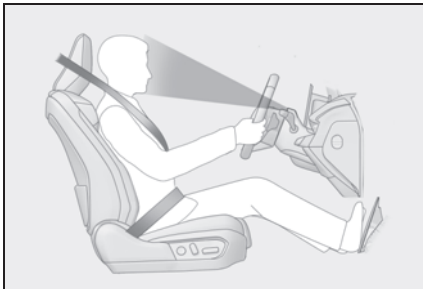
JP 01

ドライバーモニター

ドライバーモニターカメラを用いる機能

ドライバーモニターカメラで運転者の顔の位置・向きや眼の開閉状態等を検知し、運転者が周囲の状況を確認し運転操作できる状態であるかシステムが判断します。

正常に作動するためには、ドライバーモニターカメラが運転者の顔全体を撮影する必要があります。ハンドルやシートの位置が高すぎたり、低すぎたりするとドライバーモニターカメラが運転者の顔を一部撮影できず、運転支援システムが一部作動できなかつたり、ブザーとディスプレイ表示で注意喚起を行ったりすることがあります。



■ 注意喚起機能

次のようなとき、ブザーとディスプレイ表示で注意喚起を行うことがあります。

- 運転者が脇見している／眼を閉じているとシステムが判断したとき
- 運転者の顔が検知できない／姿勢が崩れているとシステムが判断したとき
- 運転者に眠気の兆候があるとシス

テムが判断したとき

ハンドル／シートの位置が高すぎたり低すぎたりする場合、ドライバーモニターカメラが運転者の顔全体を認識できず、注意喚起を行うことがあります。メーター全体が見える運転姿勢になるようにハンドル／シートの位置を調整してください。

運転姿勢を調整しても注意喚起が継続するときは、レクサス販売店にご相談ください。

■ 顔認証システム

マイセッティングの一機能として、ドライバーモニターカメラは顔認証システムのデバイスとして使われます。(→P.245)

■ アドバンスド ドライブ（渋滞時支援）

→P.360

■ その他の運転支援装置との連携

次の運転支援装置の一部の機能は、ドライバーモニターカメラにより検知された運転者の状態に応じて制御されます。

- プリクラッシュセーフティ (PCS) (→P.318)
- レーンディパーチャーアラート (LDA) (→P.327)
- レーダークルーズコントロール (→P.349)

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 注意喚起機能は運転者の不注意行動や姿勢崩れを未然に防ぐものではありません。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

警告

- 注意喚起機能は運転者の眠気を解消するものではありません。集中力の低下や眠気を感じたら、適度に休憩や仮眠を取り、安全運転に努めてください。

知識

■ 注意喚起機能

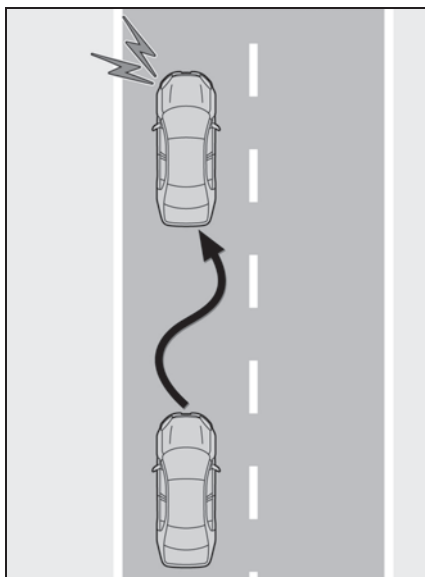
車速が低いときは作動しないことがあります。

■ ドライバーモニターカメラが正常に作動しないおそれがある状況

→P.305

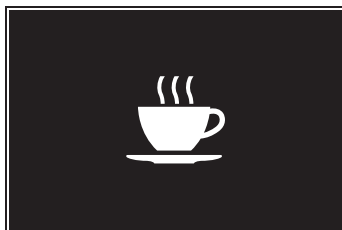
休憩提案機能

車両がふらついて走行しているときに、ディスプレイの表示およびブザーにより休憩をうながします。



知識

■ 休憩提案機能について



次の条件をすべて満たしたとき作動します。

● 車速が約 50km/h 以上のとき

車両の状態や路面状況によっては休憩提案が行われない場合があります。

ドライバーモニターの設定を変更する

ドライバーモニターの設定は、カスタマイズメニューから変更することができます。(→P.624)

ドライバーモニターカメラ設定が "OFF" の場合、カメラでの撮影が停止し、ドライバーモニターカメラを用いる機能 (→P.307) が停止します。

注意喚起感度設定が "OFF" の場合、注意喚起機能 (→P.307) が停止します。但し、他機能の動作のためのカメラでの撮影は継続します。

プラスサポートを使用する場合のカスタマイズ設定は以下の通りです。

● 初回プラスサポート用スマートキー (サポキー) でロックを解除した場合

- ・ ドライバーモニターカメラ：ON
- ・ 注意喚起感度：高い

- 2回目以降にプラスサポート用スマートキー（サポキー）でロックを解除した場合

前回サポキー使用時の設定を引き継ぎ再生します。

PCS（プリクラッシュセーフティ）

進路上の作動対象（→P.310）をセンサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

- プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件により異なります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。
- ・ 安全にお使いいただくために：→P.298
- プリクラッシュセーフティを OFF にするとき
- システムを OFF にする必要があるとき：→P.298

システムの作動対象

システムは次のものを作動対象として検出しています。(機能によって、作動対象が異なります)

- 車両
- 自転車 ※
- 歩行者
- 自動二輪車 ※
- 壁

※ 人が乗車している状態を作動対象としています。

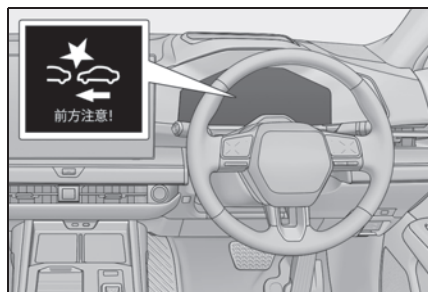
機能一覧

■ 衝突警報

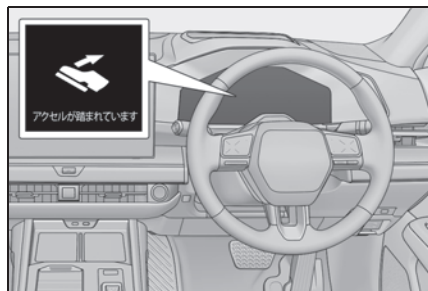
衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにアイコンとメッ

セージを表示し、回避操作をうながします。

作動対象が車両の場合、緩ブレーキによる警告を行う場合もあります。



アクセルが強く踏み込まれているとシステムが判断した場合は、図で示すアイコンとメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。



■ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、運転者のブレーキ操作で不足しているブレーキ力を増強します。

■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

■ 緊急時操舵支援

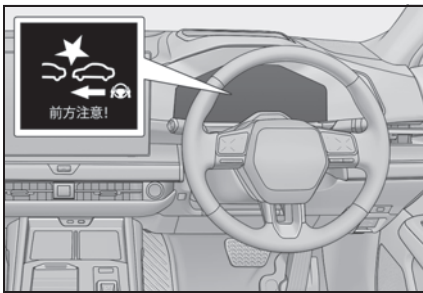
システムが次の条件を全て満たしたと判断した場合、操舵支援を行い、車両の安定性確保と車線逸脱の抑制に寄与します。

作動時には衝突警報に加え、図で示すアイコンがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

- 衝突する可能性が高い
- 自車線内に回避するための十分なスペースがある
- 運転者の回避操舵があった

運転者の回避操舵にかかわらず、ブレーキとハンドルの制御を行い、衝突回避の支援や衝突被害の軽減に寄与します。

作動時には衝突警報とディスプレイ表示で注意喚起を行います。

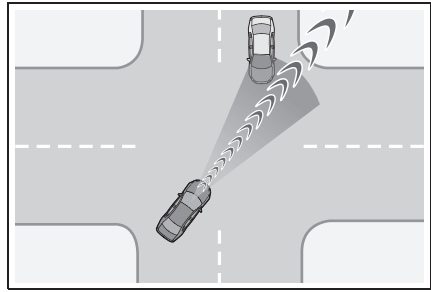


■ 交差点衝突回避支援（右左折）

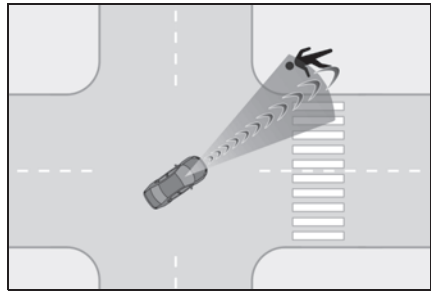
次のような状況において衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。

交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。

- 交差点で右折して対向車／対向自動二輪車の進路を横切るとき



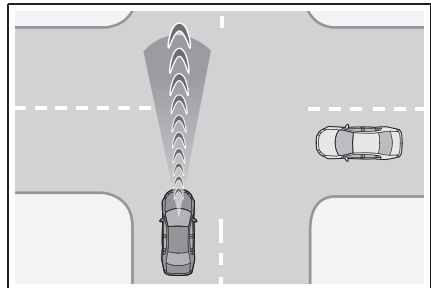
- 右左折中に、横断歩行者や、自転車を検出したとき



■ 交差点衝突回避支援（出合頭車両）

交差点など、側方から接近する車両や自動二輪車との衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。

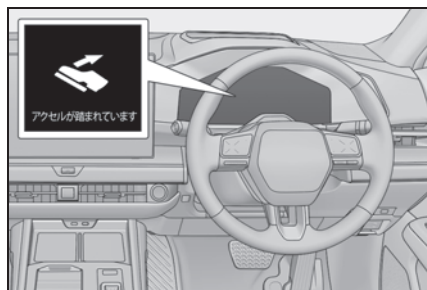
交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。



■ 低速時加速抑制

低速走行時にアクセルペダルが強く

踏み込まれ、衝突の可能性があるとき、EV システム出力を抑制または弱いブレーキをかけることで加速を抑制します。作動時には、ブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにアイコンとメッセージを表示します。



■ サスペンションコントロール★

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、AVS (→P.451) によってショックアブソーバーの減衰力を制御することで、安定した車両姿勢の維持に寄与します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■ プリクラッシュブレーキについて

- プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。
- プリクラッシュブレーキは停止状態を保持する機能ではありません。プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、必要に応じて速やかに運転者自らブレーキをかけてください。

● プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない、または作動が解除される場合があります。

● ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

■ 低速時加速抑制について

運転者がハンドルを操作していると、回避操作とシステムが判断し、低速時加速抑制が作動しない、または作動が解除される場合があります。

■ 緊急時操舵支援について

● 緊急時操舵支援は車線逸脱抑制制御が完了したとシステムが判断した段階で作動を解除します。

● 緊急時操舵支援は運転者の操作状態によっては作動しない、または作動中に解除される場合があります。

・ 運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいたり、方向指示レバーを操作すると、運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援が作動しない場合があります。

・ 緊急時操舵支援作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいると、運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援の作動が解除される場合があります。

⚠ 警告

- ・緊急時操舵支援作動中に、ハンドルを保持したりシステムと逆方向にハンドル操作した場合には、緊急時操舵支援の作動が解除されます。

📖 知識

■プリクラッシュセーフティ各機能の作動条件

プリクラッシュセーフティが ON で、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。

ただし、次のときシステムは作動しません。

- 補機バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ
- シフトポジションが R のとき
- VSC OFF 表示灯が点灯中に、カーブの走行や右左折をしているとき（衝突警報は作動可能状態になります）

各機能の作動速度、作動解除は次のとおりです。

●衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 5 ～ 180km/h	約 5 ～ 180km/h
対向車両	約 30 ～ 180km/h	約 80 ～ 220km/h
自転車	約 5 ～ 180km/h	約 5 ～ 90km/h
歩行者	約 5 ～ 80km/h	約 5 ～ 90km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約 5 ～ 180km/h	約 5 ～ 90km/h
対向自動二輪車	約 30 ～ 180km/h	約 30 ～ 180km/h

衝突警報が作動中にハンドルを大きく操作するか、すばやく操作すると、衝突警報が解除される場合があります。

●プリクラッシュブレーキアシスト

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 30 ～ 180km/h	約 10 ～ 180km/h
自転車	約 30 ～ 180km/h	約 30 ～ 90km/h

作動対象	自車速度	相対速度
歩行者	約 30 ～ 80km/h	約 30 ～ 90km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約 30 ～ 180km/h	約 10 ～ 90km/h

●プリクラッシュブレーキ

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 5 ～ 180km/h	約 5 ～ 180km/h
対向車両	約 30 ～ 180km/h	約 80 ～ 220km/h
自転車	約 5 ～ 180km/h	約 5 ～ 90km/h
歩行者	約 5 ～ 80km/h	約 5 ～ 90km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約 5 ～ 180km/h	約 5 ～ 90km/h
対向自動二輪車	約 30 ～ 180km/h	約 30 ～ 180km/h

プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除される場合があります。

- ・ アクセルペダルを強く踏み込む
- ・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

●緊急時操舵支援

方向指示灯が点滅しているときは、緊急時操舵支援が作動しません。

VSC OFF 表示灯が点灯しているときは、緊急時操舵支援が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両、自転車、歩行者、自動二輪車	約 40 ～ 80km/h アクティブ操舵機能：※ ～ 80km/h	約 40 ～ 80km/h アクティブ操舵機能：※ ～ 80km/h

※ 下限速度：プリクラッシュブレーキでは回避が困難な速度

緊急時操舵支援作動中に次の操作をすると、緊急時操舵支援の作動が解除される場合があります。

- ・ アクセルペダルを強く踏み込む
- ・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する
- ・ ブレーキペダルを踏む

●交差点衝突回避支援（右左折）

方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

作動対象	自車速度	対向車速度
対向車両	約 5 ～ 40km/h	約 10 ～ 75km/h
歩行者	約 5 ～ 30km/h	—
自転車	約 5 ～ 30km/h	—
対向自動二輪車	約 5 ～ 40km/h	約 10 ～ 75km/h

● 交差点衝突回避支援（出合頭車両）

作動対象	自車速度	相手車速度
車両、自動二輪車（側面）	約 5 ～ 80km/h	約 80km/h 以下

● 低速時加速抑制

方向指示灯が点滅しているときは、低速時加速抑制が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両、歩行者、自転車、壁	約 0 ～ 15km/h	約 0 ～ 15km/h

低速時加速抑制の作動中に次の動作をすると、低速時加速抑制の作動が解除されます。

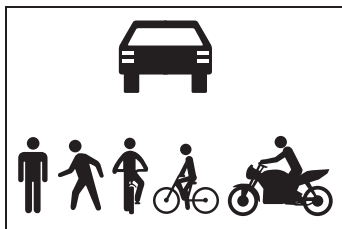
- ・ アクセルペダルを離す
- ・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

■ 作動対象の検出

大きさ・輪郭・動きなどから検出します。

周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

図は作動対象として検出する対象のイメージです。

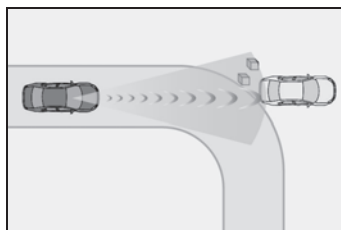


■ 衝突の可能性が高なくてもシステムが作動するおそれがあるとき

● 例えば次のような状況では、システム

が衝突の可能性が高いと判断し、作動するおそれがあります。

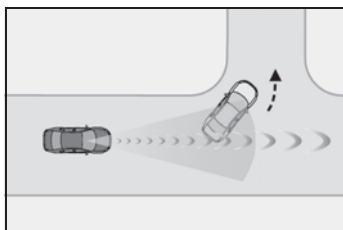
- ・ 作動対象などのすぐそばを通過するとき
- ・ 車線を変更して作動対象などを追いこすとき
- ・ 作動対象などに急接近したとき
- ・ 道路脇の作動対象や物体（ガードレール・電柱・木・壁など）に近付いたとき
- ・ カーブ入り口 / 出口の道路脇に作動対象や物体などが存在するとき



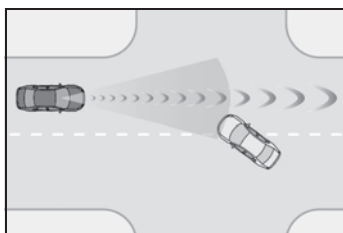
- ・ 自車の前方に作動対象との区別が付き

にくい模様・ペイントがあるとき

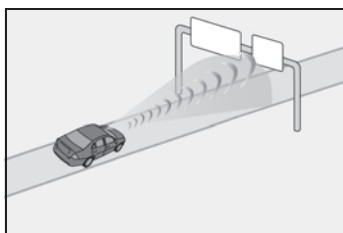
- ・ 車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき



- ・ 右左折待ちの作動対象などとすれ違うとき

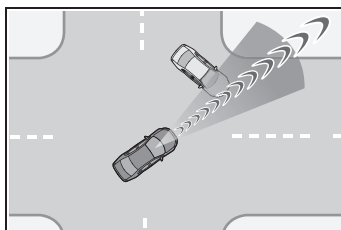


- ・ 作動対象などが自車進路内に入る手前で停止または進路変更したとき
- ・ 道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき

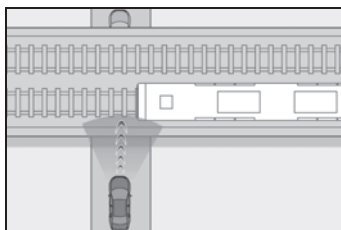


- ・ ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき
- ・ 右左折中に、対向車／対向自動二輪車／横断歩行者／横断自転車が自車の前方を通過したとき
- ・ 右左折中に、対向車／対向自動二輪車／横断歩行者／横断自転車の手前を通過しようとしたとき
- ・ 右左折中に、対向車／対向自動二輪車／横断歩行者／横断自転車が自車進路に入る手前で停止や進路変更したとき

- ・ 交差点内で右折中、対向車／対向自動二輪車が右折しているとき、または左折しているとき



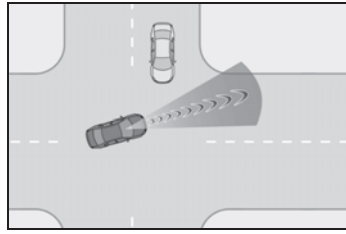
- ・ 対向車の進路に接近するようにハンドルを操作したとき
- ・ 道路上方／下方を移動するものがあるとき



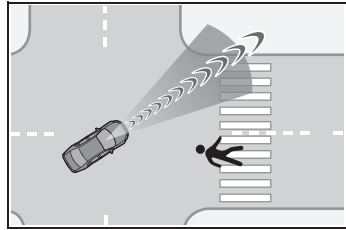
■ システムが正常に作動しないおそれがあるとき

- 例えば次のような状況では、前方センサーが作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
- ・ 自車に向かって作動対象が近付いてくるとき
- ・ 自車や作動対象がふらついているとき
- ・ 作動対象が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
- ・ 作動対象に急接近したとき
- ・ 作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車両などのそばにいるとき
- ・ 上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
- ・ 作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
- ・ 作動対象が複数重なっているとき

- ・ 作動対象が太陽光などの強い光を反射しているとき
- ・ 作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
- ・ 作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
- ・ 作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
- ・ 斜めを向いている前方車両に近付いたとき
- ・ 子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2人以上乗車している自転車、前傾姿勢で乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンDEM自転車など）
- ・ 歩行者・自転車の大きさが約1m以下、または約2m以上のとき
- ・ 歩行者・自転車の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
- ・ 歩行者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
- ・ 歩行者・自転車の移動速度が速いとき
- ・ 歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
- ・ 周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、または周囲が暗い（夜間やトンネル内など）など、作動対象が背景に溶け込んでいるとき
- ・ EVシステムを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- ・ 右左折中および右左折後の数秒間
- ・ カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間
- ・ 右折中に、対向車／対向自動二輪車が自車の走行する車線よりも3つ以上離れた車線を走行しているとき
- ・ 右折中に、自車の向きが対向車線に対する正対方向から大きく外れているとき



- ・ 右左折中に、横断歩行者／横断自転車が自車と同じ方向から直進して近づいてくるとき
- ・ 右左折中に、歩行者や自転車が自車の後方から追い抜くように前方にでてくるとき



- ・ 交差点で出会い頭に大型トラック／牽引トレーラーなど全長の長い車両が接近してくるとき
- ・ 交差車両が自車進行方向に対し斜めに接近するとき
- ・ 交差車両が自車から遠方を交差するとき
- ・ 自車と交差車両の間に障害物があるとき
- ・ 複数台の車両が狭い間隔で連続して接近するとき
- 上記に加えて、例えば次のような状況では緊急時操舵支援が作動しないおそれがあります。
 - ・ 作動対象に近づきすぎたとき
 - ・ 回避するための十分なスペースがない、または回避先に物があるとき
 - ・ 対向車がいるとき
- 上記に加えて、例えば次のような状況では壁を作動対象として検知できず、低速時加速抑制が作動しないおそれがあります。

- ・ ガラス扉や網目状のフェンスなど壁の背面が透けているとき
- ・ 壁が傾いていたり、高さが低いとき
- ・ 壁がポールなど幅の狭いもののとき
- ・ 壁が生垣など草木のとき
- ・ 壁に路面などが映りこんでいるとき
- ・ 自車が壁に斜めに近づくとき

PCS の設定を変更する

- PCS の作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→P.621)

パワースイッチが ON になるとシステムは ON になります。

- システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- 運転者が脇見をしているとシステムが判断した場合は、衝突警報が通常より早いタイミングで作動します。

LTA (レーントレーシングアシスト)

LTA の機能

- 車線が整備された道路を走行中かつ、レーダークルーズコントロールの作動中に、車線や先行車／周辺車を前方カメラやレーダーで認識し、車線維持に必要なハンドルの操作を支援します。

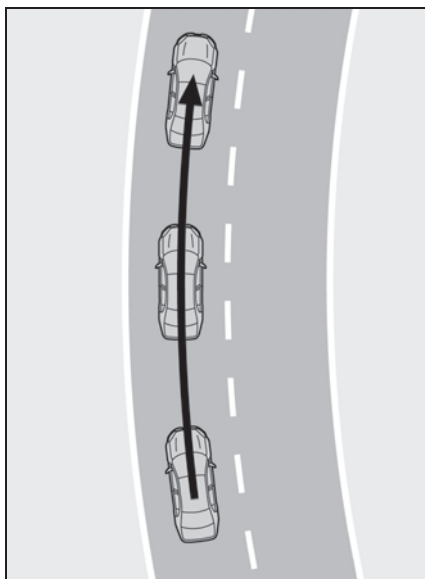
高速道路や自動車専用道路で使用してください。

レーダークルーズコントロールが作動していないとき LTA は作動しません。

渋滞のときなど車線が見えにくい、または見えない場合、先行車／周辺車の軌跡を利用して支援を行います。

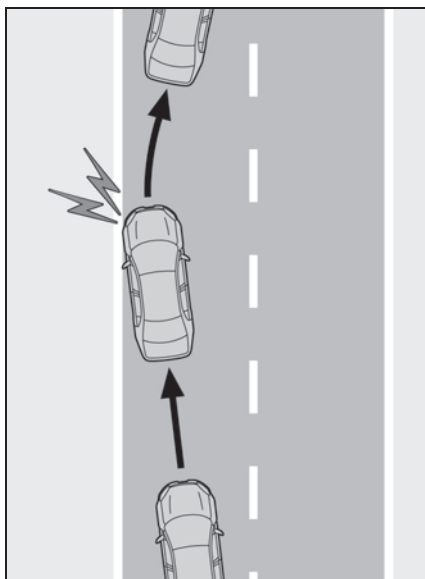
ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかりと握っていない状態での運転が続いたりしたときは注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。

機能が解除されたときはハンドルをしっかりと握り直してください。



- 車両が車線から逸脱した場合、ディスプレイの表示および、ブザーにより注意をうながします。

ブザー吹鳴時は、道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、車線内の中央付近にもどってください。



⚠ 警告

■ LTA をお使いになる前に

- LTA を過信しないでください。LTA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。
- 適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- LTA を使用しないときは、LTA スイッチでシステムを OFF にしてください。

■ LTA を OFF にするとき

- システムを OFF にする必要があるとき：→P.298

📖 知識

■ 機能の作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- システムが車線を認識しているとき、または先行車／周辺車の軌跡を認識しているとき
- レーダークルーズコントロールが作動しているとき
- 車線の幅が約 3 ～ 4m のとき
- 方向指示レバーを操作していないとき
- 急カーブを走行していないとき
- 一定以上の加減速がないとき
- 一定以上の操舵力でハンドルを操作していないとき
- 手放し運転に対する注意喚起（→P.320）が行われていないとき

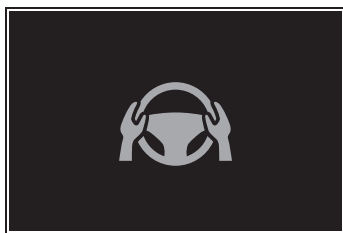
- 車線中央付近を走行しているとき

■機能の一時解除

- 機能の作動条件（→P.319）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。
- 機能作動中に、作動条件が満たされなくなった場合、“ピピッ”とブザー音で、一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。
- 機能によるステアリング制御は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

■手放し運転に対する注意喚起について

- 手放し運転をしているとシステムが判断したとき、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを操作しない状態が続くと、機能が一時的に解除されます。



- システムがハンドルの操作を検出すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

■手放し運転に対する注意喚起が正常に作動しないおそれがあるとき

- 車両の状態やハンドル操作状態、路面状況によっては注意喚起が行われないおそれがあります。
- 次の状況では、手放しをしていても注意喚起が作動しないことがあります。

- ・ハンドルに手以外の物が接触しているとき
- ・ハンドルに物や腕等を広い範囲で近づけるときの
- 次の状況では、ハンドル操作を正しく検知できず、注意喚起が作動することがあります。
- ・ハンドルに手を軽く添えて運転しているとき
- ・ハンドルにカバーを取り付けたとき
- ・運転者が手袋をしているとき
- ・ハンドルに異物が付着しているとき
- ・部分ウッド部、革の継ぎ目、スポーク部等のセンサ線が無い部分を握っているとき

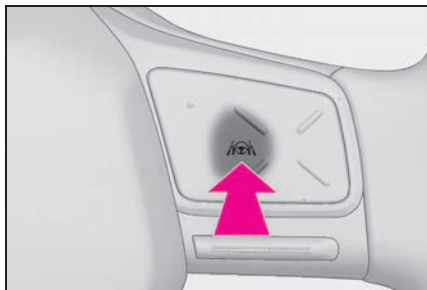
■LTA 中の車線逸脱に対する注意喚起警報について

- LDA の設定に関わらず、LTA 作動中は車線逸脱時に警報を実施します。
- 車線変更に相当するハンドル操作を検知した場合、システムは車線逸脱とは判断せず、警報も実施しません。

システムの ON / OFF を変更する

LTA の ON / OFF を切り替えるには LTA スイッチを押す

LTA が ON のときは LTA 表示灯が点灯します。

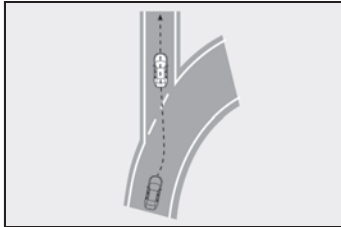


警告

機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

- 先行車／周辺車が車線変更／進路変更したとき（先行車／周辺車の動きに合わせて自車も車線変更／進路変更するおそれがあります）



- 先行車／周辺車がふらついたとき（先行車／周辺車の動きに合わせて自車もふらついて走行しレーンをはみ出すおそれがあります）
- 先行車／周辺車が車線から逸脱したとき（先行車／周辺車の動きに合わせて自車も車線から逸脱するおそれがあります）
- 先行車／周辺車がレーン内を右、または左に片寄って走行したとき（先行車／周辺車の動きに合わせて自車も片寄って走行しレーンをはみ出すおそれがあります）
- 周囲に移動物、構造物があるとき（移動物、構造物と自車の位置によっては自車がふらついて走行するおそれがあります）
- 横風を受けているときなど、周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- センサーやシステムが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.303
- 車線を検知できないおそれがあるとき：→P.304

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

LTA の作動状態を示しています。

表示灯	車線表示	状態
		
白色	灰色	LTA がスタンバイ中
緑色	緑色	LTA が作動中

LCA（レーンチェンジアシスト）

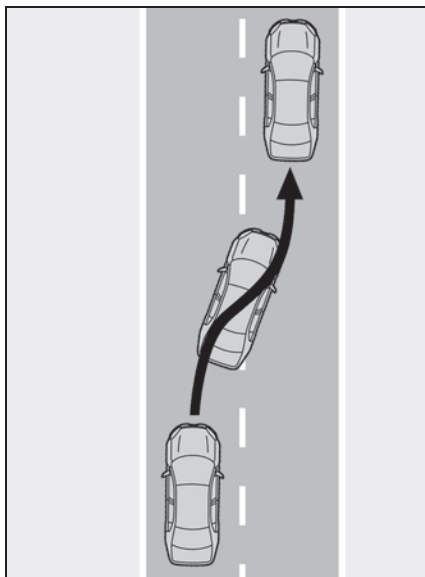
LCA の機能

LTA と連携し、車線変更に必要なハンドル操作を支援します。

高速道路や自動車専用道路で使用するください。

ステアリング制御は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

分岐・合流路での車線変更は作動の対象外です。



⚠ 警告

■ LCA をお使いになる前に

- LCA を過信しないでください。

LCA は自動で運転する装置でも車線変更先の並走車や急な接近車両等への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。

- LCA が作動途中で解除されたとき、自車両が車線を跨いだまま走行する場合があります。
運転者は自らの責任で適切に進路を修正する必要があります。

- 適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ LCA を使用してはいけない状況

- 高速道路や自動車専用道路でないとき
- 車線変更してはいけない車線（対向車線、路肩、工事などで規制されている車線、歩行者や自転車の侵入の可能性がある車線等）のとき
- 片側1車線の道路を走行しているとき
- 自車の走行車線と、車線変更先の車線の間が白線の破線でないとき
- システムを OFF にする必要があるとき：→P.298
- システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.305
- LCA が正常に作動しないおそれのある状況
 - センサーやシステムが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.303
 - 車線を検知できないおそれがあるとき：→P.304

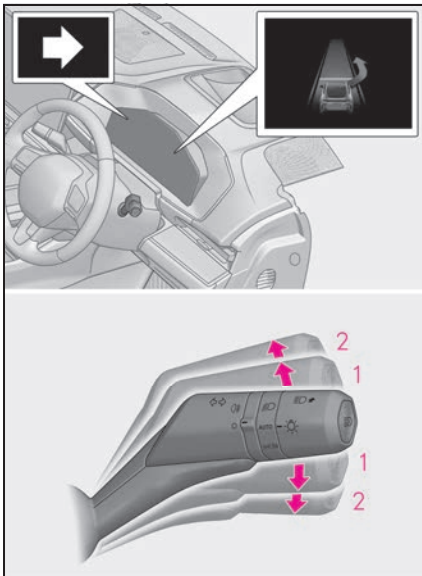
LCA の作動方法

車線変更を安全に行える道路状況であることを確認してください。

LCA インジケータが白色点灯しているときに、方向指示レバーを 1 段目の位置まで操作すると、車線変更方向の表示とともにシステムが作動します。

車線変更が完了すると、方向指示灯は自動で消灯し、再び LTA が作動します。

LCA を利用せず方向指示レバーを 1 段目の位置で保持して車線変更する場合は LCA のカスタマイズ設定を OFF としてください。



- 1 1 段目：LCA 作動位置
2 2 段目：LCA 非作動位置



知識

■機能の作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動しま

す。

- カスタマイズメニューでレーンチェンジアシストを ON に設定したとき
- レーダークルーズコントロールおよび LTA が作動しているとき
- LCA インジケータ（白色）が点灯しているとき
- 自車速度が約 60 ～ 140km/h のとき
- 大きな操舵力でハンドルを操作していないとき
- 一定以上の加減速がないとき
- 手放し運転に対する注意喚起（→P.320）が行われていないとき
- ドライバーモニターによる注意喚起（→P.307）が行われていないとき
- システムが高速道路または自動車専用道路（一部を除く）と認識しているとき
- システムが車線変更する側の白線を破線と認識しているとき
- 車線中央付近を走行しているとき
- 急カーブを走行していないとき
- 車線変更する先に車両や構造物が存在しないとき
- 自車周辺に接近してくる車両が存在しないとき
- EV システム始動後、システムが一度でも車両後方の移動物を検知しているとき
- コネクティッドサービスのご利用契約中
- ナビゲーションシステムの地図データが正常に取得できているとき

■機能の解除

LCA は以下を含むさまざまな状況で解除されることがあります。その際に、ディスプレイの表示およびブザーにより、機能が解除されたことをお知らせする場合

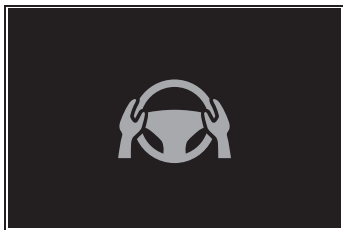
があります。

- 作動条件が満たされなくなった場合
(→P.323)
- システムが車線を認識できなくなったとき
- 方向指示レバーを 2 段目の位置
(→P.323) へ操作したとき
- 方向指示レバーを車線変更をする方向
とは逆方向に操作したとき
- 運転者によるハンドルやブレーキの操
作をシステムが検知したとき
- 手放し運転に対する注意喚起
(→P.324) が行われているとき

急な接近車両を検出した場合には、ブザー音、ディスプレイ表示で警報を行うとともに、小さな操舵力をハンドルに加えることで、接近車両へ近づかないよう支援を行う場合があります。

■ 手放し運転に対する注意喚起について

手放し運転をしているとシステムが判断したとき、ハンドル保持を促すメッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかり握ってください。



■ 手放し運転に対する注意喚起が正常に作動しないおそれがあるとき

- 車両の状態やハンドル操作状態、路面状況によっては注意喚起が行われないおそれがあります。

- 次の状況では、手放しを検知する性能が低下または検知できなくなるおそれがあります。

- ・ ハンドルにカバーを取り付けたとき
- ・ 運転者が手袋をしているとき
- ・ ハンドルに異物が付着しているとき
- ・ 部分ウッド部、革の継ぎ目、スポーク部等のセンサ線が無い部分を握っているとき

- 次の状況では、手放しをしても手放し運転警告が作動せず、LCA が継続することがあります。

- ・ ハンドルに手以外の物が接触しているとき
- ・ ハンドルに、物や腕等を広い範囲で近づけるとき

システムの ON / OFF を変更する

LCA の ON / OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→P.611)

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

LCA の作動状態を示しています。

表示灯 	LCA 表示	状態
白色	表示なし	他の作動条件 (→P.323) を満たせば LCA が作動できる状態
緑色	 緑色矢印／白色線	LCA が作動中
白色		LCA 作動中に自車に接近してくる車両を 検知した



■ LCA 表示灯

LCA 表示灯は LTA 表示灯の横に表示されます。



A LCA 表示灯

LDA (レーンディパーチャアラート)

車線または走路※から逸脱した場合、もしくは逸脱する可能性がある場合に、警報により注意をうながしたり、逸脱を避けるためのハンドル操作の一部を支援します。

道路または道路脇で歩行者などを検知した場合、車両が近づきすぎないようにハンドル操作の一部を支援したり、衝突の可能性を軽減するためにブレーキ操作の一部を支援します。

※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造物

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。

常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

- LDA は自動で運転するシステムでも事故を完全に防止するシステムでもなく、運転を補助するシステムです。
- システムに頼った運転をすると思われぬ事故につながり、死亡または重大な傷害に至るおそれがあります。

次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

- ・ 安全にお使いいただくために：→P.298

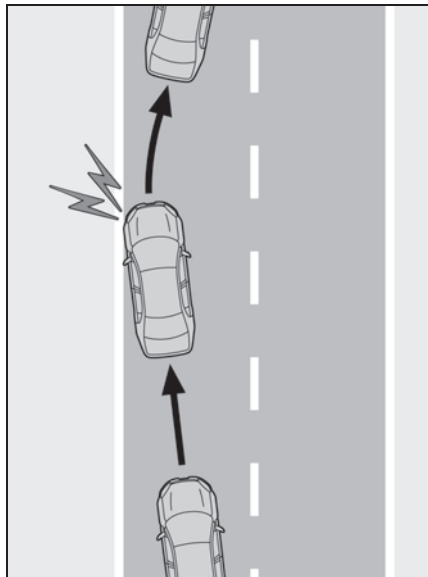
■ LDA を OFF にするとき

- システムを OFF にする必要があるとき：→P.298

基本機能

■ 車線逸脱警報機能

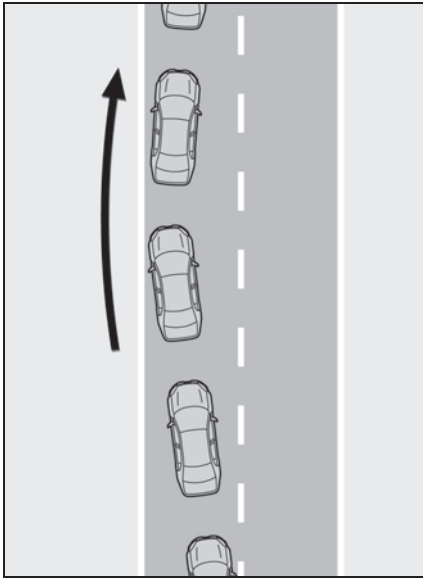
車両が車線または走路から逸脱した場合に、ディスプレイの表示に加えて、ハンドル振動またはブザー、またはハンドル振動&ブザーにより注意をうながします。



■ 車線逸脱抑制機能

車両が車線または走路から逸脱する可能性がある場合に、逸脱を避けるために必要なハンドル操作の一部を支援します。

ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかりと握っていない状態での運転が続いた場合は、一定時間ディスプレイの表示と警報ブザーで注意喚起が行われます。



知識

■車線逸脱警報機能および車線逸脱抑制機能の作動条件

●作動車速は次の通りです。

- ・車速が約 50km/h 以上のとき

車線の周囲に車両、自動二輪車、自転車、歩行者を検知した場合は約 40km/h 以上のときに作動します。

運転者の注意力が低下しているとシステムが判断した場合は約 40km/h 以上のときに作動します。

対象が縁石、ガードレールなどの構造物の場合は約 35km/h 以上のときに作動します。

次のような状況では、車線逸脱警報機能や車線逸脱抑制機能が作動しません。

- ・LDA が OFF のとき
- ・システムが車線または走路を認識していないとき（車線または走路が片側しかないとき、認識している方向のみ作動します）
- ・VSC を OFF にしているとき
- ・シフトポジションが R のとき

- ・ブリクラッシュセーフティのブレーキ制御または操舵支援が作動しているとき

次のような状況では、作動車速を満たしていても車線逸脱警報機能や車線逸脱抑制機能が作動しないことがあります。

作動中に作動条件が満たされなくなった場合は、一時的に作動が解除されます。

- ・狭い車線または走路を走行しているとき
- ・急カーブを走行しているとき
- ・急ブレーキもしくは急加速をしているとき
- ・逸脱方向と同方向に方向指示灯が点滅しているとき
- ・方向指示灯の点滅中でも、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとしてシステムが判断した場合に、車線逸脱警報機能と車線逸脱抑制機能が作動します。
- ・一定以上の操舵力でハンドルを操作しているとき
- ・車両挙動が不安定なとき
- ・運転者が歩行者や駐車車両を回避するなど、意図的に車線または走路を逸脱するとシステムが判断したとき

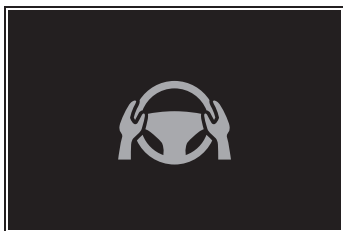
■車線逸脱警報機能および車線逸脱抑制機能の作動について

- ・車線逸脱抑制機能よりも、運転者のハンドル操作が優先されます。
- ・運転者の状態に応じて、走路逸脱に対する車線逸脱警報機能や、車線逸脱抑制機能のタイミングが変化します。
- ・車速や路面の状態によっては、車線逸脱警報機能と車線逸脱抑制機能の作動が感じにくい場合があります。

■手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル操作をうながすメッセージとアイコンのディスプレイの表示、および警報ブザーにより注意喚起を行います。システムを使用する際は注

意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。



- 車線逸脱抑制機能による操舵支援中にハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかりと握っていない状態だとシステムが判断したとき
- ・ 操舵支援の回数が増えるごとに、警報ブザーの継続時間が長くなります。
- ・ 操舵支援終了後にハンドルを操作したとシステムが判断しても、一定時間警報ブザーが鳴り続けます。

⚠ 警告

■ 車線逸脱警報機能および車線逸脱抑制機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、機能が正しく作動せず車線または走路から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

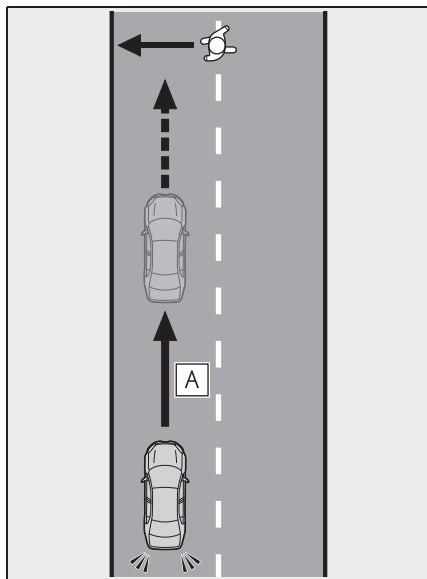
- アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造物が不明瞭または連続的でないとき
- 横風や、周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- 車線を検知できないおそれがあるとき：→P.304
- 周囲の状況を検出するセンサーやシステムが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.303

● システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.305

障害物先読みアシスト (OAA)

- 道路を横断中の歩行者など※を検知した場合に、ディスプレイの表示に加えて、衝突の可能性を軽減するためにブレーキ操作の一部を支援します。

※ 歩行者や自転車（人が乗車している状態を作動対象としています）

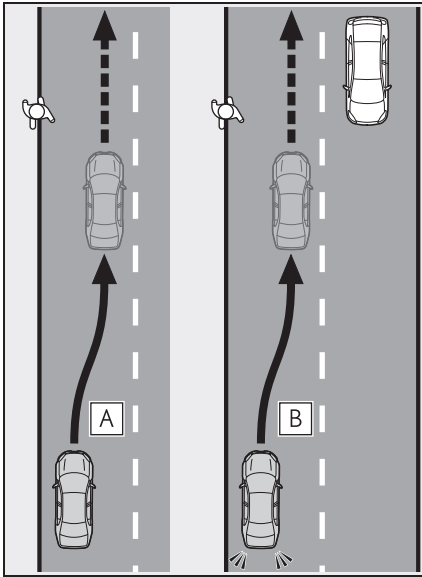


A 減速支援

- 道路脇の歩行者など※を検知した場合に、ディスプレイの表示に加えて、周囲の状況に応じて車両が近づきすぎないようにハンドル操作の一部を支援したり、衝突の可能性を軽減するためにブレーキ操作の一部を支援します。

ハンドル操作の支援は自車線から逸脱しない範囲で行います。

※ 歩行者や駐車車両や自転車（人が乗車している状態）を作動対象としています



A 操舵支援

B 減速 + 操舵支援



知識

■ 障害物先読みアシストの作動条件

作動速度は次の通りです。

- 道路を横断する作動対象に対する支援は車速が約 30km/h ~ 60km/h のときに作動します
- 道路脇の作動対象に対する支援は車速が約 30km/h ~ 60km/h のときに作動します

次のような状況では、障害物先読みアシストが作動しません。

- レーダークルーズコントロール、またはクルーズコントロールをセットしているとき
- ブリクラッシュセーフティを OFF にしているとき

- シフトポジションが P、R または N のとき

次のような状況では、障害物先読みアシストのブレーキ操作の支援が停止します。

- 車速が約 15km/h 以下のとき
- 周囲の状況からシステムが判断した目標の速度に到達したとき

次のような状況では、作動車速を満たしていても障害物先読みアシストが作動しないことがあります。

また、作動中に作動条件が満たされなくなった場合は、一時的に作動が解除されます。

- 運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき
- 作動対象が遠ざかったとシステムが判断したとき
- ブレーキ操作を行ったとき
- アクセル操作を行ったとき
- 一定以上の操舵力でハンドルを操作したとき
- 左または右の方向指示灯が点滅しているとき

⚠ 警告

■ 障害物先読みアシストが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、機能が正しく作動しないおそれがあります。

- 作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき
- ガードレールや柵などの奥にいる作動対象のすぐそばを通過するとき
- 車線を変更して作動対象などを追いつくとき
- 車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき

 警告

- 物体（ガードレール・電柱・木・壁、柵、ポール、工事用コーン、ポストなど）が周囲に存在するとき
- 自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき
- 道路上方に構造物（天井の低いトンネル・道路標識・看板など）がある場所を走行するとき
- 雪道、轍のある道路や凍結路を走行するとき
- 自車に向かって作動対象が近づいてくるとき
- 自車や作動対象がふらついているとき
- 作動対象の動きが変化したとき（方向転換、急加速、急減速など）
- 作動対象に急接近したとき
- 上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
- 作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
- 作動対象が複数重なっているとき
- 作動対象が太陽光や他車両からのヘッドランプなどの強い光を反射しているとき
- 作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
- 作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
- 作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
- 横向き、斜め、または自車方向を向いている前方車両に近付いたとき
- 駐車車両が横向き、斜め向きのとき

- 子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンDEM自転車など）
- 歩行者・自転車運転者の大きさが約1m以下、または約2m以上のとき
- 歩行者・自転車運転者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用しているときなど）
- 歩行者・自転車運転者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
- 歩行者・自転車の移動速度が速いとき
- 歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
- 周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、および周囲が暗い（夜間やトンネル内など）ため、作動対象が周囲に溶け込んでいるとき
- 車線幅が約4m以上あるとき
- 車線幅が約2.5m以下のとき
- EVシステムを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- 右左折中および右左折後の数秒間
- 進路変更中および進路変更後の数秒間
- 作動対象がカーブ進入前、カーブ走行中およびカーブを曲がり切ったからの数秒間に存在するとき
- 車線を検知できないおそれがあるとき：→P.304
- 周囲の状況を検出するセンサーやシステムが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.303

警告

- システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.305

LDA の設定を変更する

- LDA の設定は、カスタマイズメニューから変更することができます。(→P.621)

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

車線逸脱警報機能、または車線逸脱抑制機能の状態に応じて、次のような表示灯や作動表示をディスプレイに表示します。

表示灯	車線表示	状態
 白色	消灯	・ LDA が OFF
消灯	消灯	・ LDA が ON ・ 作動条件を満たしていない
 白色	消灯	・ LDA が ON ・ 作動条件を満たしている
 赤色	 赤色	・ LDA が ON ・ 作動表示が点灯している方向に対して、車線逸脱警報機能または車線逸脱抑制機能あるいはその両方が作動中

障害物先読みアシストは状況に応じて、ディスプレイに次のような表示灯やアイコンを表示します。

アイコンの種類によっては、ディスプレイを運転支援機能情報に切り替えないと表示されません。

表示灯	状態
	道路を横断中または道路脇の、歩行者または自転車を検知して、ブレーキまたはハンドルの操作を支援している
	道路脇の車両を検知して、ブレーキまたはハンドルの操作を支援している

PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

プロアクティブドライビングアシストは、作動対象（→P.334）を検出した場合、ドライバーのブレーキやハンドル操作を支援し、運転負荷を軽減します。

警告

■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。

- プロアクティブドライビングアシストは状況に応じてブレーキやステアリング操作の一部を支援し、運転負荷の軽減に寄与することを目的としていますが、支援の範囲には限りがあります。

必要に応じて運転者自らブレーキやステアリング操作を行ってください。次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。（→P.335）

- プロアクティブドライビングアシストは前方への注意を軽減する装置ではありません。システムが正常に機能していても運転者が認識している周囲の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。注意義務は運転者にあり、危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながる恐れがあります。

- わき見運転やぼんやり運転などを許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■ プロアクティブドライビングアシストを OFF にすると

- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.303
- システムを OFF にする必要があるとき：→P.298

システムが作動する状況と対象

プロアクティブドライビングアシストは、次のように自車が走行中の状況に応じて、作動内容と作動対象を切りかえます。

機能	状況	作動内容	作動対象
操舵アシスト (SA)	車線を認識しているとき	運転操作を先読みして、ハンドル操作を支援します。	なし
減速アシスト (DA)	先行車を検出したとき、または隣接車の割り込みを検出したとき	車間距離が近づきすぎないようにブレーキ操作の一部を支援します。	●先行車 ●自動二輪車
	自車前方にカーブを検出したとき	前方のカーブに対して自車の速度が速いと判定した場合、ブレーキ操作の一部を支援します。	なし
	信号のある交差点で右左折するとき	右左折する交差点に対して自車の速度が速いと判定した場合、ブレーキ操作の一部を支援します。	なし



知識

■システムの作動車速

●車線に対する操舵支援

約 10 ～ 140km/h

●先行車に対する減速支援

約 20 ～ 140km/h

●カーブに対する減速支援

約 20 ～ 140km/h

●信号のある交差点で右左折する際の減速支援

約 30km/h ～ 80km/h (信号のある交差点で方向指示レバーを操作したとき)

■システムの作動が停止するとき

●次のときシステムは作動を停止します

- ・レーダークルーズコントロール、またはクルーズコントロールをセットしたとき
 - ・プリクラッシュセーフティが OFF のとき
 - ・シフトポジションが P、R または N のとき
 - ・運転席シートベルトを着用していない
 - 次のときブレーキ操作の支援は作動を停止します
 - ・車速が約 15km/h 以下のとき
 - ・周囲の状況からシステムが判断した目標の速度に到達したとき
 - 次のときシステムは作動を停止する場合があります
 - ・運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき
- (例：プリクラッシュセーフティ、ドライ

プスタートコントロール)

- ・ 作動対象が遠ざかったとシステムが判断した場合
- ・ 車線が検出できなくなった場合
- ・ ブレーキ操作を行った場合
- ・ アクセル操作を行った場合
- ・ 一定以上の操舵力でハンドルを操作した場合
- ・ 方向指示レバーを左折または右折の位置へ操作したとき（信号のある交差点で右左折する際の減速支援を除く）

⚠ 警告

■ システムが正常に作動しないおそれがあるとき

- 車線を検知できないおそれがあるとき：→P.304
- 作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき
- 車線を変更して作動対象などを追いつくとき
- 車線変更や右左折している作動対象などを追いつくとき
- 物体（ガードレール・電柱・木・壁、柵、ポール、工事用コーン、ポストなど）が周囲に存在するとき
- 自車の前方に作動対象との区別が付きにくい模様・ペイントがあるとき
- 道路上方に構造物（天井の低いトンネル・道路標識・看板など）がある場所を走行するとき
- 雪道、轍のある道路や凍結路を走行するとき
- 自車に向かって作動対象が近づいてくるとき
- 自車や作動対象がふらついているとき
- 作動対象の動きが変化したとき（方向転換、急加速、急減速など）

- 作動対象に急接近したとき
- 先行車・自動二輪車が自車の中心軸からずれているとき
- 上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
- 作動対象が割り込んできたとき
- 横向き、斜め、または自車方向を向いている前方車両に近付いたとき
- 駐車車両が横向き、斜め向きのとき
- EV システムを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- 右左折中および右左折後の数秒間
- 進路変更中および進路変更後の数秒間
- 作動対象がカーブ進入前、カーブ走行中およびカーブを曲がり切ったからの数秒間に存在するとき
- 信号機の灯色が黄色のとき
- 信号機が一灯式や二灯式のとき

プロアクティブドライビングアシストの設定を変更する

- プロアクティブドライビングアシストの作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.622）
- プロアクティブドライビングアシストの設定は、カスタマイズメニューから変更することができません。（→P.622）

システムの作動表示

状況に応じて、ディスプレイに次のような表示灯やアイコンを表示します。
アイコンの種類によっては、ディスプレイを運転支援機能情報に切り替えないと表示されません。

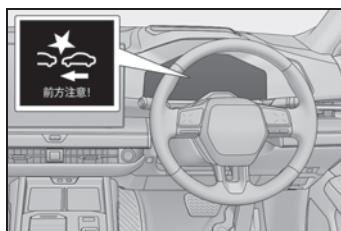
表示	意味
	車線内常時操舵支援が作動中 (作動時は車両横の輝度が増加します)
	先行車に対する減速支援が作動中
	適正な車間距離を確保するように促す通知
	カーブに対する減速支援が作動中
	信号のある交差点で右左折する際の減速支援が作動中

知識

■ 先行車への減速支援終了後の通知について

先行車への減速支援が終了後、ドライバーによるブレーキまたはアクセル操作が無く、先行車へ接近したとき、ディスプレイ表示とブザーによって通知し、減速をうながします。ドライバーがブレーキまたはアクセルを操作したとシステム

が判断した場合、通知を停止します。

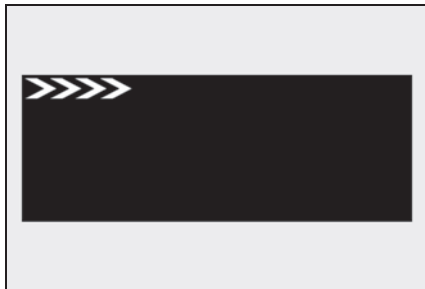


FCTA（フロントクロストラフィックアラート）

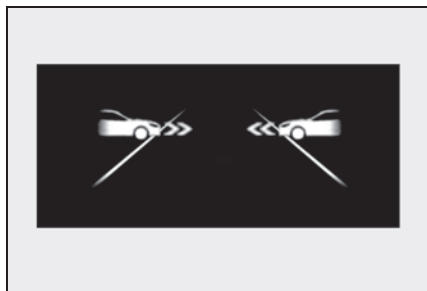
自車が低速で交差点などへ進入するとき、交差する車両の接近を検知して運転者へ注意喚起を行います。

システムの制御

- 運転者へ前方を交差する車両が接近していることを、ディスプレイの表示で知らせます。
- ・ ヘッドアップディスプレイ



- 前方を交差する車両が接近しているにも関わらず、運転者が発進しようとしている可能性があるとシステムが判断した場合、さらに、ディスプレイ表示とブザーによって注意喚起し、減速をうながします。
- ・ マルチインフォメーションディスプレイ



⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。FCTA は前方を交差する車両の存在を運転者に知らせる補助的なシステムです。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車両や歩行者がいないことを示すものではありません。

□ 知識

■ FCTA システムの作動条件

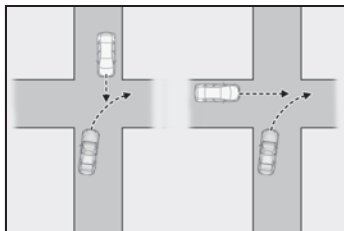
システムは、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- シフトポジションが P・R 以外にあるとき
- 自車速度が約 15 km / h 以下のとき
- 前方を交差する接近車両の速度が約 10 ~ 60km / h であるとき
- 先行車がないとき
- アクセルを強く踏み込んでいないとき
- ブレーキを強く踏み込んでいないとき

■検知対象となる車両の接近が無くてもシステムが作動するおそれがあるとき

例えば次のような状況では、検知対象となる車両が存在しない場合でもシステムが作動するおそれがあります。

- 道路脇の構造物（ガードレール・標識・電柱・街灯・木・草・壁など）に近付いたとき
- 路上駐車している車両等の横をすり抜けるとき
- 自車から遠方で車両や歩行者が交差するとき
- 自車線脇の駐車場等を車両や歩行者が移動しているとき
- 自転車や歩行者が歩道を通行しているとき
- 車両や歩行者が自車から遠ざかるとき
- 交差車両が減速し停止するとき
- 交差車両が自車直前で右左折するとき
- 歩行者が自車に接近するとき
- 対向車が右左折するとき
- 交差車両より先に自車が交差点を通過するとき
- 信号待ち時に交差車両が接近するとき
- 右左折など旋回時に交差車両が存在するとき



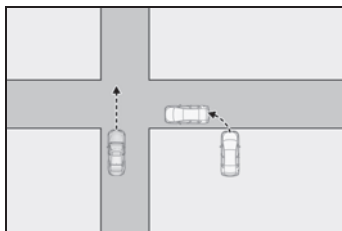
- 前方から車両が接近し、すれちがうとき
- 後方から車両が接近し、追い抜かれるとき
- 自車が車両や歩行者と並走するとき

- 自車側面に車両や歩行者が接近するとき

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

例えば次のような状況では、前側方センサーが対象となる車両を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- 交差車両が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）



- 交差車両が自車進行方向に対し斜めに接近するとき
- 交差車両が自車から遠方を交差するとき
- 自車と交差車両の間に障害物があるとき
- 複数台の車両が狭い間隔で連続して接近するとき

FCTA の設定を変更する

FCTA の作動／非作動は、カスタマイズ設定から切りかえることができます。（→P.622）

発進遅れ告知機能

先行車が発進または信号が青にかわったあと、自車が停止し続けた場合、告知音とマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせする機能です。

先行車発進告知機能

前の車に続いて停止中、先行車が発進しても停止し続けた場合にお知らせします。

信号切替り告知機能

交差点の先頭で停止中、信号が青（方向指示器と同一方向の青矢印信号も含む）にかわっても停止し続けた場合にお知らせします。



知識

■ 作動条件

次のいずれかの条件を満たしたときに作動します。

- シフトポジションがP・R以外でブレーキペダルを踏んで、停止している、またはシフトポジションがNで停止しているとき
- シフトポジションがR以外で、ブレーキペダルを踏んで停止しているとき
- ブレーキホールドが作動中のとき
- レーダークルーズコントロールが作動していて、制御停車中のとき

■ 発進遅れ告知機能が正しく作動しない恐れがある状況

例えば次のような状況では、前方カメラとレーダーが対象を検出できず、システムが正常に作動しない場合があります。

- 先行車がオートバイ・自転車などのとき
- 車両や樹木、看板などにより信号を正しく認識できないとき
- 右左折や車線変更などのために、ハンドルを大きくまわしたとき
- 先行車が発進していなくても告知する場合があります

例えば次のような状況では、先行車が発進したと判断し、システムが作動する場合があります。

- 先行車がいらない状態で停止時に、交差点の先にいる車両や自車の正面を横切る車両などを先行車として認識したとき
- 自車と先行車とのあいだに、ほかの車両が割り込んだり通過したりしたとき
- 信号機が青にかわっていても告知する場合があります

例えば次のような状況では、信号が青にかわったと判断し、システムが作動する場合があります。

- 道路標識や看板などの信号機でないものを信号機と認識したとき
- 歩行者用、または自転車用の信号機の形状が自動車用と似ているとき
- 交差側や遠くの交差点にある信号機など、自車の対象ではない信号機を認識したとき
- 日照条件などにより、正しく自車対象の信号機を判別できないとき

発進遅れ告知機能の設定を変更する

発進遅れ告知機能の設定は、カスタマイズメニューから変更することができます。(→P.611)

RSA (ロードサインアシスト)

前方カメラを使って特定の道路標識や信号などを認識し、ディスプレイ表示やブザーで運転者にお知らせします。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- RSA は、道路標識などの情報を知らせることで運転の支援を行います。支援の範囲には限りがあります。

■ RSA を使用してはいけない状況

- システムを OFF にする必要があるとき：→P.298

■ 機能が正常に作動しないおそれのある状況

- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.303

情報提供

- 道路標識などを認識すると、ディスプレイに表示します。
 - 複数の道路標識を表示できます。
- RSA 以外の機能により、表示される標識が制限される場合があります。
- RSA と他の機能（ナビゲーションシステムなど）で表示される標識情報が異なる場合があります。

□ 知識

■ 情報提供の作動条件

次の条件を満たしたとき、標識の表示を行います。

- システムが標識を認識しているとき

次の条件を満たしたとき、標識の表示が消えます。

- 車両がその標識を通過してから一定の距離を走行したとき
- 右左折等により走行する道路が変わったときシステムが判定したとき
- 終わりを示す補助標識を認識したとき

■ 情報提供が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、システムが正常に標識を認識できず、正しい標識の表示がされない場合があります。

- 標識に汚れ・色あせ・傾きや曲がりがあるとき
- 標識に光（街灯など）や影が映り込んでいるとき
- 電光標識のコントラストが低いとき
- 標識の全体または一部が、木・電柱などで隠れているとき
- 標識の後ろに木・電柱・建物・看板などがあるとき
- 太陽光／反射光／対向車のヘッドランプ光などにより、前方カメラが標識を認識しにくいとき
- 悪天候（雨、雪、霧、砂嵐、吹雪など）で前方カメラが標識を認識しにくいとき
- 前方カメラが標識を認識する時間が短いとき（右左折で近距離の標識が急に見えたときなど）
- 運転の状況（右左折・車線変更など）が誤って判断されたとき

- 標識が高速道路の分岐した直後、または合流直前の隣の車線にあるとき
- 標識が自転車から遠く離れた位置にあるとき
- システムが対応している標識と類似したものが認識されたとき（標識、電光掲示板、看板、構造物、先行車に貼付されたステッカー、案内標識上の数字など）
- 側道の標識が前方カメラの認識範囲内に入ったとき
- ロータリー（環状交差点）を走行しているとき
- 自転車以外の車両を対象にした標識を認識したとき（大型車両などを対象にした標識など）
- 補助標識（区間の終わり、曜日、時間など）があるとき
- 工事などの通行規制区間に標識があるとき
- 規定外の標識、新しく導入された標識があるとき

注意喚起

次の状況では、システムが運転者に注意喚起します。

- **速度超過**：自転車の車速がディスプレイに表示されている制限速度より一定の速度を超過したときには、点滅表示やブザーにより注意をうながします。
- **車両進入禁止**：進入禁止の標識を認識し、自転車が進入禁止区域に進入したとシステムが判定したときには、点滅表示やブザーにより注意をうながします。
- **赤信号**：赤信号を認識している場合に、信号を見落として自転車が交

差点に進入する可能性があるときシステムが判定したときには、点滅表示やブザーにより注意をうながします。

知識

■ 注意喚起の作動条件

● 速度超過に対する作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ 最高速度を表示しているとき
- ・ 自転車の速度が、表示している最高速度値を一定以上超過しているとき

● 車両進入禁止に対する作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ 進入禁止標識を2つ以上認識しているとき
- ・ 進入禁止標識の間を通過するとき

● 赤信号に対する作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ システムが信号機や路面ペイントを認識しているとき
- ・ 車速が約 20 ～ 70km/h のとき
- ・ 一定以上の減速がないとき
- ・ 方向指示レバーを操作していないとき
- ・ 一定以上のハンドル操作をしていないとき
- ・ 先行車がないとき

■ 注意喚起が正常に作動しないおそれのある状況

- 情報提供の項目に加えて、次のような状況では注意喚起対象があるのにシステムが作動しないおそれがあります。
 - ・ 左右折等により標識が検知できないとき
 - ・ 信号機が矢印信号のとき
 - ・ 信号機が点滅信号のとき
 - ・ 信号機の底で発光部の一部が隠れているとき

- るとき
- ・ ルーバー信号機で発光部が見えづらいとき
 - ・ 停止線などの路面ペイントが先行車などで隠れているとき
 - ・ 停止線などの路面ペイントがかすれているとき
 - ・ 停止線に対し信号機が遠くにあるとき
 - ・ 交差点間の距離が近いとき
- 情報提供の項目に加えて、次のような状況では注意喚起対象がないのにシステムが作動するおそれがあります。
- ・ 標識が通常とは異なる大きさのとき
 - ・ 標識や信号機が多数あるとき
 - ・ 自車が走行するレーンではない側道や分岐地点などの標識や信号機を認識したとき
 - ・ 作動対象の標識、信号機や路面ペイントとは区別が付きにくい模様・光源・ペイントがあるとき
 - ・ 信号機の灯色が黄色のとき
 - ・ 信号機が矢印信号のとき
 - ・ 予告信号があるとき

情報提供および注意喚起される道路標識などの種類

- 次の種類の対象を表示します。

	最高速度
	はみ出し通行禁止
	車両進入禁止

	一時停止
	赤信号

RSA の設定を変更する

- RSA の設定は、カスタマイズメニューから変更することができます。(→P.622)

レーダークルーズコントロール

車両前方の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況把握し、安全運転に努めてください。
- レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。

次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

- ・ システムが正しく作動しないおそれのある状況：→P.349
- 設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。

- システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

安全にお使いいただくために
に：→P.298

■ システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 運転者が見る過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。

走行中に限らず、運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

● 運転者が判断する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

 警告**● 運転者が操作する過程での支援内容**

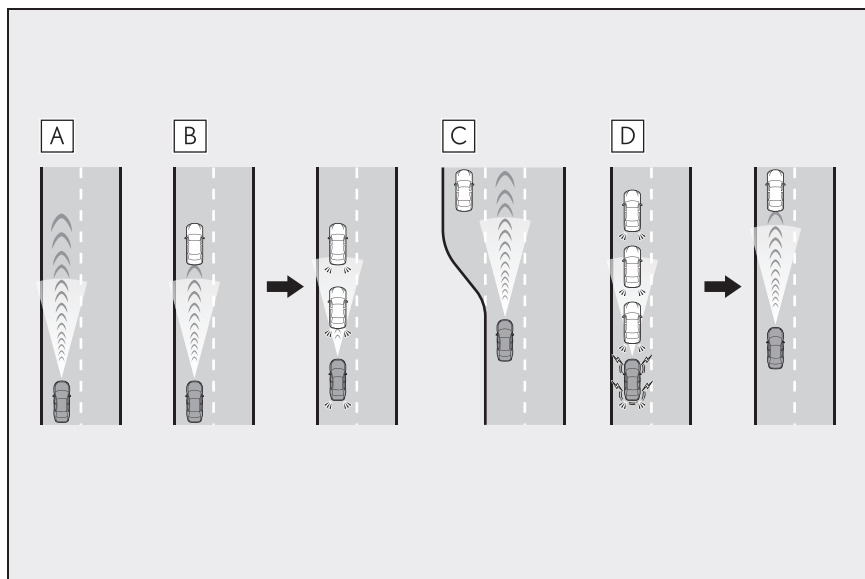
レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

■ レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 歩行者や自転車等が混在している道
- 高速道路や自動車専用道路の出入り口
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき
- 乗員や運転者が自転車に乗り降りしようとしているとき
- センサーやシステムが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.349
- システムを OFF にする必要があるとき：→P.298

基本機能

**A** 定速走行：

先行車がないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。

下り坂走行で設定車速を超えた時、設定車速が点滅し警報ブザーが吹鳴します。

B 減速走行・追従走行：

設定した速度より、遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

C 加速走行：

設定した速度より、遅い先行車がいなくなったとき

設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

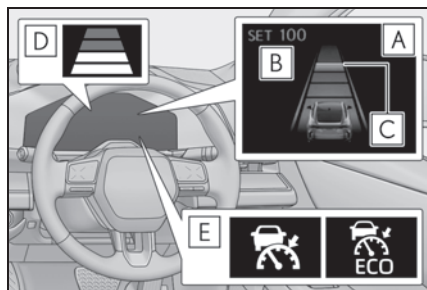
D 発進：

先行車が停止したときは、続いて停止します（制御停車）。先行車の発進後、“+”スイッチ／“RES”スイッチ／“-”スイッチを上方向に操作するか、アクセルペダルを踏むと追従走行にもどります（発進操作）。自車が発進操作を行わなかった場合は、制御停車を続けます。

高速道路／自動車専用道路の一部を走行中に先行車が停止したときは、続いて停車します。停車してから約3分以内に先行車が発進したとシステムが判断すると、ブザーとディスプレイ表示でお知らせし、先行車に続いて発進します。（再発進可能時間延長）

システムの構成部品

■ メーター表示



A マルチインフォメーションディスプレイ

B 設定速度

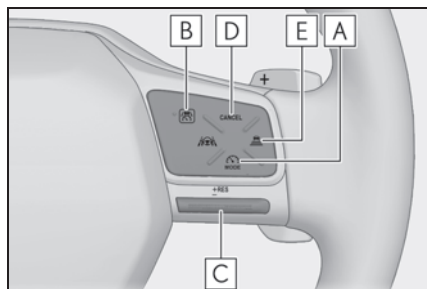
C 設定車間距離

車速や車間設定に応じて前後に動きます

D 車間距離表示灯

E レーダークルーズコントロール表示灯／レーダークルーズコントロールエコランモード表示灯

■ 操作スイッチ



A 走行支援モード選択スイッチ

B 走行支援スイッチ

C “+” スイッチ／“RES” スイッチ／“-” スイッチ

D キャンセルスイッチ

E 車間距離切りかえスイッチ

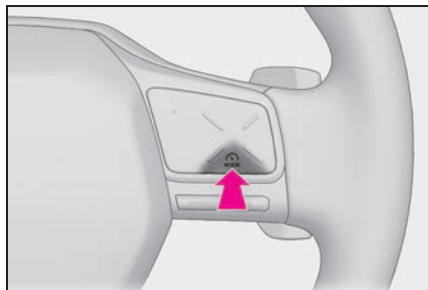
レーダークルーズコントロールを使用する

カスタマイズメニューから“クルーズコントロールへ切替”をOFFにしてクルーズコントロールを無効にします。(→P.623)

速度を設定する

- 1 走行支援モード選択スイッチを押してレーダークルーズモードを選択する

レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。

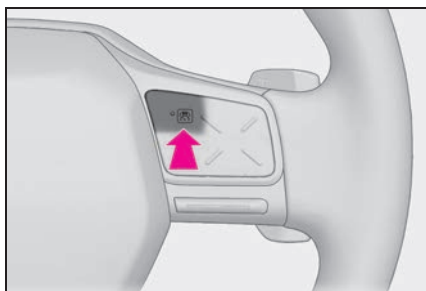


- 2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、走行支援スイッチを押して速度を設定する

マルチインフォメーションディスプレイに設定した速度が表示されます。

スイッチを離れたときの車速で定速走行

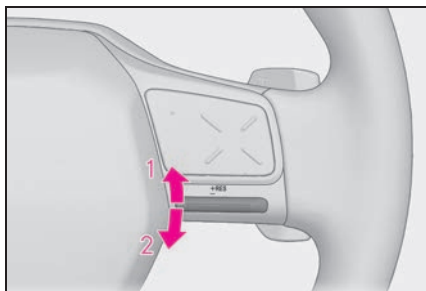
できます。



設定速度をかえる

● スイッチで設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで “+” スイッチ／“RES” スイッチ／“-” スイッチを操作します。



1 速度を上げる

2 速度を下げる

短押し調整：スイッチを操作

長押し調整：スイッチを操作・保持して速度をかえ、希望の速度で手を離す

設定速度は、次のとおりに増減されます：

短押し調整：スイッチを操作するごとに 1km/h

長押し調整：スイッチを保持し続けているあいだ、5km/h ずつ

● アクセルペダルで設定速度を上げ

る

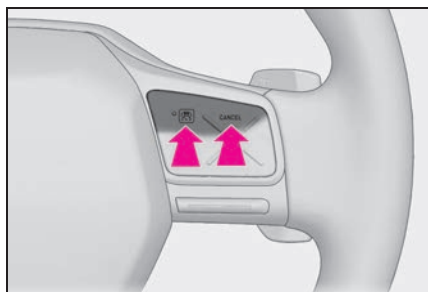
- 1 設定したい車速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速する
- 2 “+” スイッチ／“RES” スイッチ／“-” スイッチを上方向に操作する

制御を解除する・復帰させる

- 1 制御を解除するには、キャンセルスイッチまたは走行支援スイッチを押す

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。

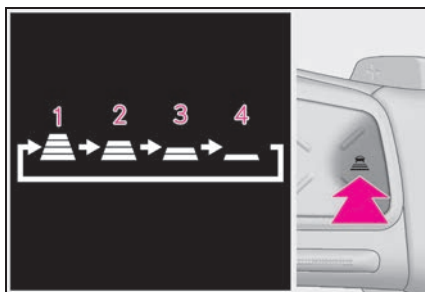
(制御停車中は、ブレーキペダルを踏んでも解除されません)



- 2 “+” スイッチ／“RES” スイッチ／“-” スイッチを上方向に操作する

車間距離を変更する

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。



イラスト番号	車間距離	距離の目安（車速 100km/h の場合）
1	最長	約 70m
2	長	約 60m
3	中	約 45m
4	短	約 30m

車速に応じて実際の車間距離は増減します。また、制御停車時は設定にかかわらず状況に応じた車間距離で停車します。

知識

■設定条件について

- シフトポジションがDのとき設定できません。
- 車速が約 30km/h 以上のとき、希望の設定速度に設定できます。
 - ・車速が約 30km/h 未満のときに設定すると、約 30km/h に設定されます。
 - ・車速がシステムの上限を超えているときに設定すると、設定速度の上限に設定されます。

■車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、レーダークルーズモード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■追従走行中の停車制御について

- 制御停車中に“+”スイッチ／“RES”スイッチ／“-”スイッチを上方向に操作した場合、約 3 秒以内に先行車が発進すれば追従走行にもどります。
- 先行車に続いて停車したあと約 3 秒以内に先行車が発進した場合、追従走行にもどります。

■レーダークルーズモードの自動解除

次のとき、自動的にレーダークルーズモードが解除されます。

- 運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき
- パーキングブレーキが作動したとき
- 走行中に運転席シートベルトを着用していないとき
- プリクラッシュセーフティが OFF のとき
- 急坂路で制御停車したとき
- 制御停車中に次を検出したとき
 - ・運転席シートベルトを着用していない
 - ・運転席ドアが開いた
 - ・車両が停止したあと約 3 分経過した（自動でパーキングブレーキがかかることがあります。）

- ナビゲーションシステムを利用できないとき

- システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.305

■レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

安全にお使いいただくために：→P.298

■“クルーズコントロール 使用できません 取扱書を確認してください”が表示されたときは

クルーズコントロールが停止しています。

走行支援スイッチを短時間に繰り返し操作したときにメッセージが表示されるこ

とがあります。走行支援スイッチを短く確実に押してください。

■ センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。

センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→P.350）も作動しないおそれがあります。

- 割込み車両、離脱車両の車線変更が極端に速い、または遅いとき
- 自車が車線変更しているとき
- 先行車が低速で走行中のとき
- 同じ車線に停車中の車がいるとき
- 同じ車線を二輪車が走行中のとき

■ システムが正しく作動しないおそれのある状況

次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってアクセルペダルを操作）してください。

センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- 先行車が急ブレーキをかけた場合
- 渋滞時等、低速で車線変更したとき

■ 二輪車や歩行者への減速について

二輪車や歩行者を検知すると減速する場合があります。

十分に減速できていない状態で二輪車や歩行者に接近したときは、接近警報を鳴らす場合があります。

■ 再発進可能時間延長の作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- 自動車専用道路など限定された道路を

走行中。

- 先行車が存在し、システムが先行車を検知できている
- 先行車と自車のあいだに他車が割り込んできていない
- 先行車が入れかわっていない
- クリアランスソナーおよび前側方レーダが前方の物体を検知していない
- ドライバーモニターカメラを OFF にしていない
- 運転者が前方を向いているとドライバーモニターカメラが判断している
- ハンドルを操作していない
- ブレーキペダルを操作していない

■ 走行支援モードの切りかえ

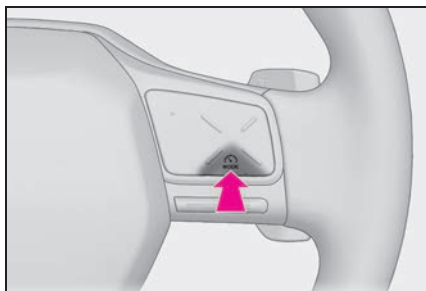
- カスタマイズメニューで“クルーズコントロールへ切替”を ON にしているときは、走行支援モード選択スイッチでレーダークルーズモードとレーダークルーズエコランモードを選択できません。
- レーダークルーズモードとレーダークルーズエコランモードの切りかえは走行支援モードを作動させたまま実施することができます。

レーダークルーズコントロール エコランモード

加速抑制と風除け効果表示によって、エコ運転（環境に配慮した走行）を支援します。

■ レーダークルーズコントロールエコランモードを使用する

走行支援モード選択スイッチを押してレーダークルーズエコランモードを選択します。



レーダークルーズコントロールエコランモード表示灯が点灯します。



速度の設定方法、設定速度・車間距離の変更方法、制御の解除・復帰の方法はレーダークルーズモードと同様です。(→P.346)

レーダークルーズモードの基本機能はレーダークルーズエコランモードでも同様に作動します。(→P.345)

■ 加速抑制

エコ運転を支援するために、状況に応じて加速を緩やかにします。

■ 風除け効果表示

先行車によって自車が得る風除け効果を5段階（効果0～4）でメーターに表示します。

風除け効果の高い先行車に追従走行することで、エコ運転がより容易に行えます。



● 効果0表示

次の条件のとき、効果0表示をします。

- ・ 車速が低いとき
- ・ 先行車が居ないとき
- ・ 先行車の風除け効果が小さいとき
- ・ アクセルペダルを操作しているとき
- ・ 接近警報が出ているとき

● 効果1～4表示

車速が約60km/h以上のとき、先行車の大きさおよび車間距離をもとに算出した効果1から4の表示を開始します。

接近警報

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。

■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルを踏んだとき

カーブ速度抑制機能

カーブを認識すると車速の抑制を開始します。カーブが終了すると車速の抑制が終了します。

状況に応じて設定速度まで復帰します。

先行車に割り込まれる等で、追従走行が

優先された場合も車速抑制は終了します。



A カーブ速度抑制制御表示



知識

■ カーブ速度抑制機能が作動しないおそれがある状況

次のような状況では、カーブ速度抑制機能が作動しない場合があります。

- 緩やかなカーブを走行しているとき
- アクセルペダルを操作しているとき
- 極端に短いカーブを走行しているとき

ドライバーモニター連携機能

ドライバーモニターによる注意喚起が表示されている場合、加速を抑制します。

ドライバーモニターによる注意喚起の表示が消えた場合、加速抑制を終了します。

車線変更時の補助機能

約 80km/h 以上で走行中に追い越し車線側へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して設定速度まで加速することで、追い越しを支援します。

約 80km/h 以上で走行中に自車より遅い車両の後方へ車線変更する場合、方向指

示レバーの操作と連動して緩減速することとで、車線変更を補助します。

通信利用型レーダークルーズコントロール

先行車の加減速の情報を通信で取得することにより、先行車の加減速に素早く追従して車間距離や速度の変動を抑制し、スムーズな追従走行に寄与します。また、先行車が認識できなくなった場合は自動的に通常のレーダークルーズコントロールに切りかわります。

先行車も通信利用型レーダークルーズコントロールに対応している場合に自動的に作動します。



A 先行車通信マーク



知識

■ 通信利用型レーダークルーズコントロールについて

- 本機能によって、レーダークルーズモードの速度や車間距離設定が変更されることはありません。
- 先行車が通信利用型レーダークルーズコントロールに対応していないときは、本機能は作動しません。
- 先行車や周囲の車両の走行状態によっては、スムーズな追従走行が行われない場合や、自車の速度や先行車との車

間距離に影響がおよぶ場合があります。
必要に応じてブレーキ・アクセルを操作してください。

■通信利用型レーダークルーズコントロールが作動しないおそれがある状況

次のような状況では、通信利用型レーダークルーズコントロールが作動しない、または通信利用型レーダークルーズコントロールから通常のレーダークルーズコントロールに切りかわる場合があります。

- 先行車との通信が途絶したとき
- センサーが先行車を誤って検知したとき
- トンネルやビル街などで、自車または先行車の GPS 受信状態や通信状態が悪

化しているとき

- 追従していた先行車が車線変更などで離脱したとき
- 通信していた先行車とのあいだに、通信利用型レーダークルーズコントロールに対応していない車両が割りこんできたとき

レーダークルーズコントロールの設定を変更する

- レーダークルーズコントロールの設定は、カスタマイズメニューから変更することができます
(→P.623)

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

レーダークルーズコントロールの作動状態を示しています。

表示灯		マルチインフォメーションディスプレイ表示		状態
レーダークルーズモード	レーダークルーズエコランモード			
				
車間距離	車間距離			
				
白色	白色		なし	レーダークルーズコントロール OFF
緑色	緑色		設定車間距離：緑色 設定速度：緑色	定速走行

表示灯		マルチインフォメーションディスプレイ表示		状態
レーダークルーズモード	レーダークルーズエコランモード			
				
車間距離	車間距離			
				
緑色	緑色		設定車間距離：緑色 設定速度：緑色 制御対象：白色	追従走行
緑色	緑色		設定車間距離：赤色 設定速度：緑色 制御対象：赤色点滅	接近警報
緑色	緑色		設定車間距離：灰色 設定速度：白色 制御対象：灰色	アクセルペダルによる加速中
緑色	緑色		設定速度：強調表示	設定速度超過時
緑色	緑色		設定車間距離：灰色 設定速度：白色 制御対象：灰色	制御停車
緑色	緑色		制御対象：赤色	歩行者表示

● 認識状態によって表示されている

対象物の種別が変わることがあり

ます

- ヘッドアップディスプレイとマルチインフォメーションの表示が異なる場合があります
- 接近警報表示中、選択しているメータ表示種類によっては路面も点滅します

クルーズコントロール

アクセルペダルを踏まなくても、一定の車速で走行できます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- 設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。

■ クルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

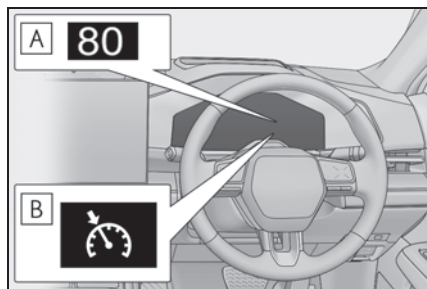
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂

急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。

- システムを OFF にする必要があるとき：→P.298

システムの構成部品

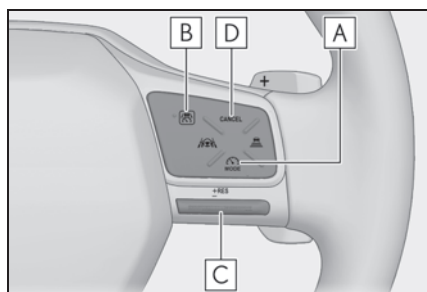
■ メーター表示



A 設定速度

B クルーズコントロール表示灯

■ 操作スイッチ



A 走行支援モード選択スイッチ

B 走行支援スイッチ

C “+” スイッチ / “RES” スイッチ / “-” スイッチ

D キャンセルスイッチ

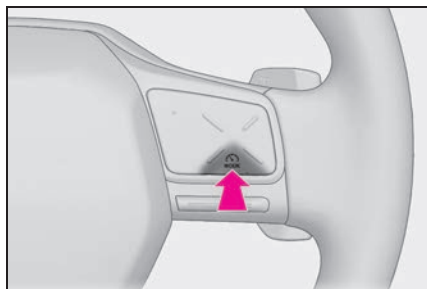
クルーズコントロールを使用する

カスタマイズメニューから“クルーズコントロールへ切替”をONにしてクルーズコントロールを有効にします。(→P.623)

速度を設定する

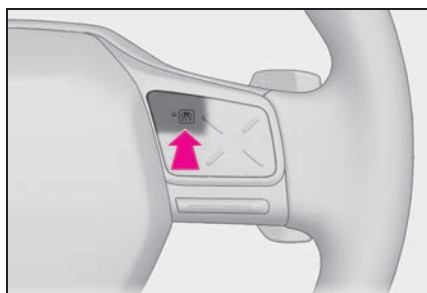
- 1 走行支援モード選択スイッチを押してクルーズコントロールモードを選択する

クルーズコントロール表示灯が点灯します。



- 2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、走行支援スイッチを押して速度を設定する

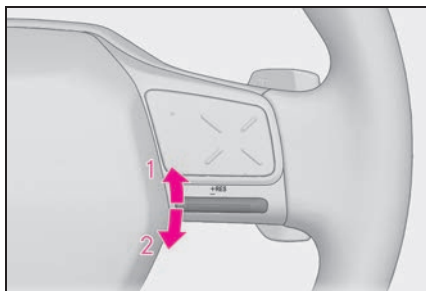
スイッチを離れたときの車速で定速走行できます。



設定速度をかえる

- スイッチで設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで“+”スイッチ／“RES”スイッチ／“-”スイッチを操作します。



1 速度を上げる

2 速度を下げる

設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：スイッチを操作するごとに1km/h

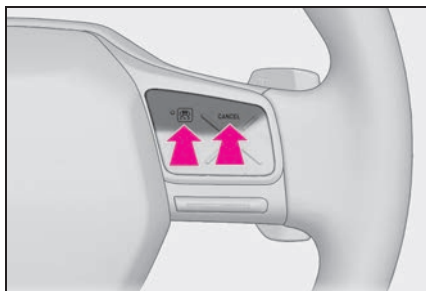
大幅調整：スイッチを保持し続けているあいだ連続して変化

● アクセルペダルで設定速度を上げる

1 設定したい車速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速する

2 制御を復帰させるには、“+” スイッチ／“RES” スイッチ／“-” スイッチを上方向に操作する

制御を解除する・復帰させる



1 制御を解除するには、キャンセルスイッチまたは走行支援スイッチを押す

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。

2 制御を復帰させるには、“+” スイッチ／“RES” スイッチ／“-” スイッチを上方向に操作する

知識

■ クルーズコントロールの自動解除

次のとき、自動的にクルーズコントロールが解除されます。

- 設定速度より車速が約16km/h以上低下したとき
- 車速が約30km/h未満になったとき
- 運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき
- パーキングブレーキが作動したとき
- 運転席シートベルトを着用していないとき
- システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.305

■ 走行支援モードの切りかえ

- “クルーズコントロールへ切替” がONのときは、走行支援モード選択スイッチでレーダークルーズモードとレーダークルーズエコランモードを選択できません。
- クルーズコントロールモード作動中は走行支援モードを切りかえることができません。他の走行支援モードに切りかえるためには、クルーズコントロールモードの作動を解除する必要があります。

■ “クルーズコントロール 使用できません 取扱書を確認してください” が表示されたときは

クルーズコントロールが停止しています。走行支援スイッチを短時間に繰り返し操

作したときにメッセージが表示されること
が
あります。走行支援スイッチを短く
確実に押してください。

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

クルーズコントロールの作動状態を示しています。

表示灯	マルチインフォメーションディスプレイ表示		状態
			
白色		なし	クルーズコントロール OFF
緑色		設定速度：緑色	定速走行
緑色		設定速度：強調表示	設定速度超過時

ドライバー異常時対応システム

ドライバー異常時対応システムは、走行中の運転者が、急病などにより運転の継続が困難になった場合に、自動的に車線内で自車を減速、停車させるシステムです。

LTA（レーントレーシングアシスト）作動中に、手放しなどの無操作運転状態からシステムが運転者が異常状態であると判断すると、車線内で減速、停車し、衝突事故の回避・衝突被害の低減に寄与します。

アドバンスド ドライブ（渋滞時支援）作動中のハンドル保持警告に運転者が反応しない場合も減速・停車します。

警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。ドライバー異常時対応システムは、運転者が急病などにより運転の継続が困難になった場合を対象とするシステムであり、居眠り運転や注意散漫な運転、体調が悪い場合の運転を対象とするものではありません。

- ドライバー異常時対応システムは、システムが運転者による運転の継続が困難と判断した場合に、自車線内で減速、停車を行うことで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としています。その効果はさまざまな条件により異なります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。また、作動には条件があり、作動条件を満たさない場合は作動しません。
- システム作動後、異常から復帰できた場合には、速やかに運転を再開するか、路肩へ避難し、三角表示板および発炎筒を設置して後続車両に停車していることをお知らせください。
- システム作動後、同乗者は運転者への救護措置をはじめとした必要な危険防止措置をとり、路側帯やガードレールの外側などの安全な場所にすみやかに退避してください。
- 本システムは運転者の異常をハンドルの操作状態などで判断しています。正常な運転者が意図的に無操作を続けた場合には、システムが作動することがあります。また、運転者が異常状態であっても、ハンドルにもたれかかるなどシステムが手放し運転と判断できない場合は、システムが作動しないことがあります。

システム概要

本システムは3つの状態に分けられます。「警告フェーズ」で運転者への注意喚起や速度抑制を実施しながら、運転者の正常／異常判定を行います。システムが、運転者が異常状態であると判断した場合には「減速停車フェーズ」、「停車保持フェーズ」で自車を減速、停車させます。

 知識

■ 作動条件

次の条件をすべて満たすと作動します。

- レーダークルーズコントロールおよび LTA が作動しているとき

または、アドバンスド ドライブ（渋滞時支援）作動中のとき

- 自車速が 35km/h 以上

アドバンスド ドライブ（渋滞時支援）作動中は 35km/h 以下でも作動します

■ 作動解除条件

次のいずれかの状況では作動解除されます。

- ドライバー操作が検出されたとき（非常点滅灯スイッチ操作、ハンドル操作、ペダル〔アクセルまたはブレーキ〕操作がされた時）
- 停止保持中、シフトポジションを P にしたとき
- 停止保持中、パーキングブレーキ操作をしたとき
- 停止保持中、ブレーキ操作およびパーキングブレーキを解除した時
- パワースイッチを OFF にしたとき

■ 作動時のアクセルペダル操作

システム作動中はアクセルペダル操作による加速が出来ません。

■ 作動解除時のレーダークルーズコントロールおよび LTA

システムの作動が解除された場合、レーダークルーズコントロールおよび LTA はキャンセルされます。

警告フェーズ

ブザー（早い断続音）とディスプレイ表示により注意喚起を行い、ゆる

やかに車速を減速させます。一定時間以内にハンドルやペダルの運転者による操作がされなかった場合には、システムが運転者が異常状態であると判断し、減速停車フェーズに移行します。

車両の減速時に道路環境等の要因によって、ストップランプが点灯する場合があります。

減速停車フェーズ

運転者が異常状態にあると判断し、ブザー（連続音）とディスプレイ表示で運転者に注意喚起を行うとともに、減速して車両を停車させます。減速と同時に、ストップランプの点灯、非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅とホーン吹鳴によって周囲に緊急事態であることをお知らせします。車両が停車すると停車保持フェーズに移行します。

また、高速道路または自動車専用道路において、十分な広さを持つ路肩に隣接する第 1 走行車線を走行しており、路肩に障害物がなく、周囲に接近車両がない場合、可能な範囲で車両を路肩へ寄せながら、減速して車両を停車させます。

停車保持フェーズ

停車後、パーキングブレーキが自動でかかります。引き続きブザー（連続音）で注意喚起を行うとともに、非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅とホーンによって周囲に緊急事態を知らせます。また、ドア解錠やヘルプネット自動接続による運転者の救命・救護要請（ヘルプネット契約

時のみ)を行います。

停車後、自動的にシフトポジションがPに切りかわります。引き続きブザー（連続音）で注意喚起を行うとともに、非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅とホーンによって周囲に緊急事態を知らせます。また、ドア解錠やヘルプネット自動接続による運転者の救命・救護要請（ヘルプネット契約時のみ）を行います。



知識

■ ヘルプネット自動接続について

ヘルプネット自動接続後、ヘルプネットのオペレーターからの声掛けに対して車内からの応答がない場合、救命・救護のために救急や警察へ通報を行います。

■ 作動解除後の機能制限

減速停車フェーズに移行後は、ドライバー異常時対応システムの作動が解除されていてもEVシステムを再始動するまで次の機能が使用できなくなります。

- LTA
- LCA
- アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）



警告

■ ヘルプネット自動接続について

ヘルプネット自動接続は、G-Link 通信エリア内、かつ G-Link 契約がされている場合にのみ行われます。G-Link 通信エリア外や G-Link 未契約、G-Link 契約が未更新の場合は接続が行われず、警察・救急への通報が行われません。あらかじめ通信エリアとご自身の G-Link 契約をご確認の上、システムをご利用ください。

アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）

アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）は、運転者による状況確認のもと、一部を除く、高速道路・自動車専用道路の本線での車線維持・車間維持を支援するシステムです。また、緊急時には減速・停車し、衝突事故の回避・衝突被害の低減に寄与します。



知識

■ ご使用にあたっての留意事項

→P.303

アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）で使用するセンサー

- 周囲の状況を検出するセンサー（→P.299）
- 運転者の状態を検出するセンサー（→P.300）



知識

■ システムの一部もしくは全てが作動しないとき

→P.305

■ ブレーキの作動音や踏み応えの変化について

→P.305

■ ドライバーモニターカメラが正常に作動しないおそれがある状況

→P.305

ドライバー異常時対応システム

→P.358

レーダークルーズ再発進可能時間延長

→P.349

渋滞時支援機能

渋滞時支援機能は、一部を除く、高速道路・自動車専用道路の本線において運転者による状況確認の下で車線維持・車間維持を支援するシステムです。



次の条件をすべて満たした場合、渋滞時支援機能が作動します。システム作動中はハンドルから手を離すことが可能です。

- レーダークルーズコントロール作動中
- LTA 作動中
- アドバンスド ドライブ（渋滞時支援）の作動条件を満たしている（→P.362）

レーダークルーズコントロール、LTA の内容をご理解いただいた上で、渋滞時支援機能をお使いください。

サービスエリア／パーキングエリア、インターチェンジ、料金所などに進入する際や、車線変更時は運転者自身の操作で運転を行ってください。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 渋滞時支援機能は自動で運転するシステムではありません。安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- 本システムの操舵アシストは、渋滞中の緩やかな操舵に限定した機能であり、本機能作動中は LDA の逸脱抑制機能は作動しません。何らかの理由で車線を逸脱しそうになった場合は運転者は自らの責任で運転操作してください。
- システムが正常に作動していたとしても、運転者が認識している周囲の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり安全を委ねる運転をしたりすると、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 渋滞時支援機能は状況に応じてディスプレイ表示でハンドルの保持を促すことがあります。ハンドルを保持し、運転者自身の操作で安全を確保してください。
- 渋滞時支援機能は、次のものを検出しません。必要に応じて自らハンドル・アクセル・ブレーキなどの操作をし回避してください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ 路上落下物
 - ・ 車線外（路肩など）にいる車両

警告

- ・ くぼみ・陥没・ひび割れなどの破損した道路
- ・ 動物
- ・ 至近距離の車や急な割り込み車

機能を使用してはいけない状況

次のような状況では渋滞時支援機能を使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- システムを OFF にする必要があるとき

→P.298

- センサーやシステムが正しく作動しないおそれがあるとき

→P.303

- 車線を検知できないおそれがあるとき

→P.304

機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では渋滞時支援機能が正常に作動しないおそれがあります。必要に応じて運転者自身で操作してください。

- 自車の前方に割り込みがあったとき
- 見通しが悪い状況で走行しているとき
- 車両姿勢が変化しているとき
- タイヤの接地面の状態が、左右で著しく異なる場所を走行しているとき
- 地図情報が最新でないとき
- 工事区間が周辺にあるとき

- レーダーの故障や誤作動を防ぐために

→P.300

- 前方カメラの故障や誤作動を防ぐために

→P.301

- フロントウインドウガラスの前方カメラ取り付け部について

→P.302

- ドライバーモニターカメラの取り扱いについて

→P.302

知識

機能の作動条件

次の条件を満たしたとき作動します。

- システムが車線および先行車／周辺車の軌跡を認識しているとき
- レーダークルーズコントロールおよび LTA が作動しているとき
- 方向指示レバーを操作していないとき
- 急なカーブを走行していないとき
- 車線中央付近を走行しているとき
- ドライバーの前方監視状態を検知しているとき
- 高速道路・自動車専用道路の本線を走行しているとき（中央分離帯がポール等で区切られている暫定供用区間や中央分離帯がない自動車専用道路、または工事区間が周辺にある場合を除く）
- 車速が約 40km/h 以下であるとき（渋滞開始時など、一部条件下では、約 30km/h 以下で機能が開始します）
- 運転席ドアが閉まっているとき
- アドバンストドライブ（渋滞時支援）が ON に設定されているとき

- システムを構成する機能や部品が正常な状態であるとき
- ドライバーモニターカメラがONに設定されているとき
- 周囲に高速で走行する車がないとき
- アクセルペダルを操作していないとき

■ 機能の一時解除

- 機能の作動条件が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。
- 機能作動中に作動条件が満たされなくなった場合、ブザー音や表示で一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。お知らせに対して運転者の反応がなかった場合、ドライバー異常時対応システムが作動することがあります。それぞれの表示の意味については以下をご覧ください。
(→P.363)

- 次の状況では、ハンドル操作を検知する性能が低下または検知できなくなるおそれがあります。
 - ・ ハンドルにカバーを取り付けたとき
 - ・ 運転者が手袋をしているとき
 - ・ ハンドルに異物が付着しているとき
 - ・ 部分ウッド部、革の継ぎ目、スポーク部等のセンサ線が無い部分を握っているとき

■ 制御走行中の運転操作について

- システムによる操舵・加減速制御は、運転者のハンドル、アクセルペダルおよびブレーキペダル操作によって修正することができます。

アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）の設定を変更する

アドバンストドライブ（渋滞時支援）の設定は、カスタマイズメニューから変更することができます。
(→P.624)

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

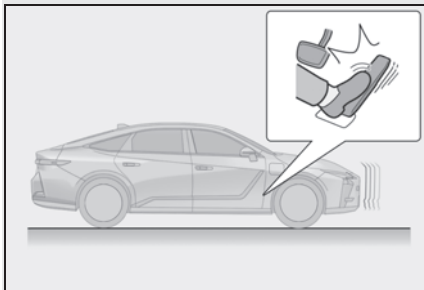
以下の表示を用いて渋滞運転支援システムの作動状態を示しています。

ディスプレイ表示		状態	対処
アイコン	メッセージ		
	" ハンドルを操作してください "	渋滞時支援機能が終了	ハンドルを操作する
	" 運転して下さい 支援終了しました "	レーダークルーズコントロール／LTAの両方、またはいずれかの作動が終了	運転者自身で速やかに運転操作を行う

ディスプレイ表示		状態	対処
アイコン	メッセージ		
	—	割り込みや周辺車両の動きに応じた運転操作が必要	運転者自身で周辺環境に応じて、運転操作を行う
	" 渋滞支援を開始できません ドライバーモニターカメラOFF "	ドライバーモニターカメラが OFF に設定されているため、渋滞時支援機能を開始できない	ドライバーモニターカメラを ON に設定

急加速抑制

低速走行中に、ペダルの踏み間違いなどでアクセルペダルが速く強く踏み込まれたとシステムが判断したとき、EV システムの出力を抑制することで、車両が急加速しないように制御します。



機能一覧

■ 急加速抑制（操舵時）

前進中にハンドルを大きくまわした状態でアクセルペダルを速く強く踏み込んだときに作動します。

■ 急加速抑制（後退時）

後退中にアクセルペダルを速く強く踏み込んだときに作動します。

■ 急加速抑制（出庫時）

シフトポジションが P の状態でアクセルペダルを操作したあと、前進中または後退中にアクセルペダルを速く強く踏み込んだときに作動します。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。急加速抑制は、状況によっては作動しない場合もあります。
- 急加速抑制は衝突を防止するシステムではありません。車両を自動で停止させる機能はないため、加速抑制後も車両は惰性で動きます。周囲の交通状況を確認の上、必ずご自身でブレーキペダルを踏んでください。
- 急加速抑制は意図せぬ急加速の防止を補助する機能ですが、走行状況によっては、加速が必要ときにも EV システムの出力が抑制される場合があります。安全、かつ環境に優しい運転をするためにも、日頃からアクセルペダルはゆっくり操作するように心がけてください。
- お客様ご自身で急加速抑制の作動テストを行わないでください。状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 急加速抑制が作動したとき

急加速抑制が作動すると、EV システムの出力を抑制します。すみやかにアクセルペダルから足を離して、ブレーキペダルを踏んでください。アクセルペダルを踏み込んだまましていると、しばらくしたあとに車両が加速し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 右左折・車線変更するとき

必ず方向指示灯を点滅させてください。方向指示灯が点滅していないと、急加速抑制（操舵時）により EV システムの出力が抑制され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告

■システムを OFF にする必要があるとき

次のときは、システムを OFF にしてください。システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

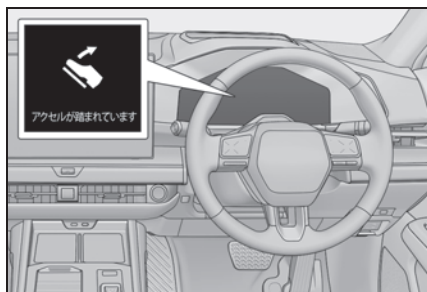
- 過積載やバンクで車両が傾いているとき
- けん引時
- トラック・船舶・列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、タイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき、タイヤパンク 応急修理キットで修理したとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- 事故や故障などによる走行不安定なとき

急加速抑制が作動したとき

急加速抑制が作動したときは、ブザーや音声発話でお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

急加速抑制が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

メッセージが表示されたときは、すみやかにアクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。



知識

■急加速抑制（操舵時）の作動条件

次の条件をすべて満たした場合に作動します。

- シフトポジションが D のとき
- 車速が低速のとき
- ハンドルを大きくまわしたとき
- アクセルペダルを速く強く踏み込んだとき（アクセルペダルを踏み込む速度と踏み込み量が一定以上のとき）

次の条件のいずれかを満たした場合、EV システムの出力抑制量を少なくし、前進時は約 30km/h、後退時は約 12km/h[※]までゆるやかに加速します。

- 急加速抑制作動中にアクセルペダルを約 5 秒間踏み続けたとき
- 急加速抑制作動後すぐにアクセルペダルを速く強く踏み直したとき

※ 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります

■急加速抑制（操舵時）が作動しないとき

次の場合は、加速が必要な場合を考慮し、急加速抑制（操舵時）が作動しません。アクセルペダルをゆっくり操作し、安全運転を心がけてください。

- 方向指示灯の点滅中、または消灯したあと一定時間
- ブレーキペダルを踏んでいるとき、またはブレーキペダルを離れたあと一定時間
- 停車状態から発進したあと一定時間
- アクセルペダルを速く強く踏み込む前にアクセルペダルを一定量踏み込んでいた場合
- 急な上り坂に自車がいるとき
- VSC OFF 表示灯が点灯しているとき

■ 急加速抑制（後退時）の作動条件

次の条件をすべて満たした場合に作動します。

- シフトポジションが R のとき
- 車速が低速のとき
- アクセルペダルを速く強く踏み込んだとき（アクセルペダルを踏み込む速度と踏み込み量が一定以上のとき）

次の条件のいずれかを満たした場合、EV システムの出力抑制量を少なくし、前進時は約 30km/h、後退時は約 12km/h[※]までゆるやかに加速します。

- 急加速抑制作動中にアクセルペダルを約 5 秒間踏み続けたとき
- 急加速抑制作動後すぐにアクセルペダルを速く強く踏み直したとき

※ 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります

■ 急加速抑制（後退時）が作動しないとき

次の場合は、加速が必要な場合を考慮し、急加速抑制（後退時）が作動しません。アクセルペダルをゆっくり操作し、安全運転を心がけてください。

- ブレーキペダルを踏んでいるとき、またはブレーキペダルを離れたあと一定時間

- 停車状態から発進したあと一定時間
- アクセルペダルを速く強く踏み込む前にアクセルペダルを一定量踏み込んでいた場合
- 急な上り坂に自車がいるとき
- VSC OFF 表示灯が点灯しているとき

■ 急加速抑制（出庫時）の作動条件

次の条件をすべて満たした場合に作動します。

- シフトポジションが P でアクセルペダルを所定時間踏み込み続けたあと、シフトポジションを D・R に変えたとき
- 車速が低速のとき
- アクセルペダルを速く強く踏み込んだとき（アクセルペダルを踏み込む速度と踏み込み量が一定以上のとき）

次の条件のいずれかを満たした場合、EV システムの出力抑制量を少なくし、前進時は約 30km/h、後退時は約 12km/h[※]までゆるやかに加速します。

- 急加速抑制作動中にアクセルペダルを約 5 秒間踏み続けたとき
- 急加速抑制作動後すぐにアクセルペダルを速く強く踏み直したとき

※ 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります

■ 急加速抑制（出庫時）が作動しないとき

次の場合は、加速が必要な場合を考慮し、急加速抑制（出庫時）が作動しません。アクセルペダルをゆっくり操作し、安全運転を心がけてください。

- EV システム始動後に所定速度を上回る速度を出した場合
- 急な上り坂に自車がいるとき
- VSC OFF 表示灯が点灯しているとき

■急加速抑制が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では急加速抑制が正常に作動しない場合があります。

●周辺環境の影響

- ・坂道・凸凹道・砂利道などの非舗装路を走行しているとき
- ・雪道などスリップが発生するような場所を走行しているとき
- ・坂道の入り口など車両姿勢が急激に変化したとき
- ・スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき

■加速したい場面で急加速抑制が作動するおそれのある状況

次のような状況では踏み間違いでなくても急加速抑制が作動する場合があります。アクセルを離してゆっくり踏み直してください。

●周辺環境の影響

- ・坂道・凸凹道・砂利道などの非舗装路を走行しているとき
- ・雪道などスリップが発生するような場所を走行しているとき
- ・坂道の入り口など車両姿勢が急激に変化したとき
- ・スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき

●運転操作の影響

- ・車線変更や右左折などで方向指示灯を点滅させずに急いで加速しようとしたとき
- ・惰性走行から急いで加速しようとしたとき
- ・ブレーキホールドによるブレーキ保持中に急発進しようとしたとき

急加速抑制の設定を変更する

急加速抑制の作動／非作動はカスタマイズメニューから切りかえることができます。(→P.620)

急加速抑制を非作動に変更した場合、再度、カスタマイズメニュー(→P.620)から作動に変更しないとシステムは復帰しません。

(パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、復帰しません)

急加速抑制を非作動にすると、後退速度の抑制制御(→P.256)も連動して非作動になります。

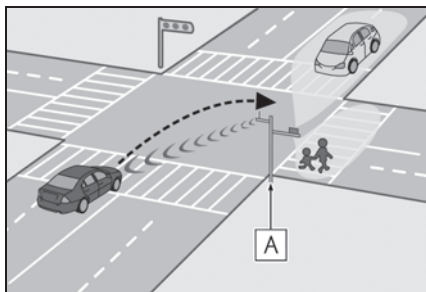
ITS Connect

ITS Connect は、交通情報や周辺車両の情報を受信することにより、安全運転や快適な運転を支援するシステムです。

ITS Connect の概要

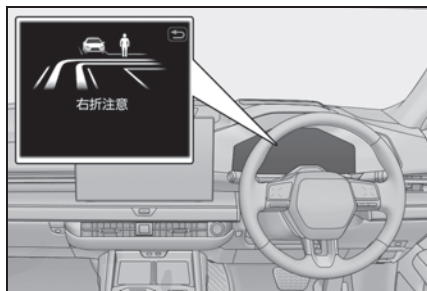
■ 安全運転を支援する通知・案内・注意喚起

ITS Connect は、道路に設置された DSSS※ 用路側装置や通信機を搭載した車両と無線通信することで、見通しが悪い交差点の交通状況などの情報を受信します。



A 路側装置

受信した情報は、状況に応じて通知・案内や注意喚起としてマルチインフォメーションディスプレイなどに表示され、運転者に注意を促すことにより安全運転を支援します。



※ DSSS (Driving Safety Support Systems) とは、運転者の認知・判断の遅れや誤りによる交通事故を未然に防止することを目的とするシステムで、警察庁が推進しているプロジェクトです。

■ 通信利用型レーダークルーズコントロール

先行車との通信により受信した加速／減速情報をレーダークルーズコントロールの制御に利用し、よりスムーズな追従走行に寄与することで快適な運転を支援します。詳細は P.343 を参照してください。

□ 知識

■ ITS Connect 機器に関する情報

- 本製品は、トロンフォーラム (www.tron.org) の T-License2.0 に基づき T-Kernel ソースコードを利用しています。
- ©1982-2013, QNX Software Systems Limited, All rights reserved.
- 本機は、ITS Connect 推進協議会が規定する相互接続性確認試験に適合しています。
機種名：DTU-1030
型式認定番号：10008
- 本システムは、周波数 760MHz の電波を発信するため、お車を海外へ持ち込んだ場合はその国の関連法規に違反す

る場合があります。

■ ITS Connect に関するお問い合わせについて

ITS Connect に関するお問い合わせ（機器の調子・機能・使用方法や路側装置の整備計画など）はレクススオーナーズデスクにお問い合わせください。

レクススオーナーズデスクについて詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

ITS Connect はあらゆる状況で安全運転の支援をするものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ITS Connect は安全運転の支援を目的として設計していますが、その効果はさまざまな条件によりかわり、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
「システムが正常に作動しないおそれがあるとき」（→P.373）をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

■ ITS Connect について

- 次のような状況では、ITS Connect は作動しません。
 - ・ 交差点に DSSS 用路側装置が設置されていないとき
 - ・ 先行車や接近してくる車両に通信機が搭載されていないとき

- 交差点に進入する方向によっては、作動する通知・案内・注意喚起が異なる場合があります。

■ 右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との通信）について

DSSS 用路側装置が設置された交差点であっても、DSSS 用路側装置の種類や交差点に進入する方向によっては、対向車のみを検知し、歩行者に対する注意喚起をしない場合があります。そのため、注意喚起の表示内容が実際の交通状況と異なる場合があります。「割り込み表示による通知・案内・注意喚起」（→P.371）をお読みいただき、必ず自らの目視による安全確認を行ってください。

■ 右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）・出会い頭注意喚起について

通信機を搭載した車両が接近してきても、地図データと実際の道路状況が異なるときは、交差点付近であることが判断できず、注意喚起をしなかったり、注意喚起の表示内容が実際の交通状況と異なる場合があります。

知識

■ ITS Connect機器取り扱いの注意

- ・ ITS Connect機器は電波法の基準に適合しています。ITS Connect機器に貼り付けられているラベルはその証明ですのではがさないでください。
- ・ ITS Connect機器を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

ITS Connect アイコンの見方

ITS Connect の機能が利用可能なとき、マルチインフォメーションディスプレイに次のアイコンを表示して通信の接続状態をお知らせします。

アイコン	接続状態
	道路に設置された DSSS 用路側装置から必要な情報を取得できている
	通信機を搭載した車両から必要な情報を取得できている
	道路に設置された DSSS 用路側装置、および通信機を搭載した車両、両方から必要な情報を取得できている

割り込み表示による通知・案内・注意喚起

状況に応じて、次の通知・案内・注意喚起をマルチインフォメーションディスプレイに割り込み表示します。

右折時注意喚起、赤信号注意喚起、出会い頭注意喚起はヘッドアップディスプレイにも割り込み表示します。

出会い頭注意喚起はパノラミックビューモニターにも表示します。

■ 右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との通信）

交差点で右側方向指示灯を点滅させて右折待ちをしているときに、対向車や歩行者がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、対向車や右折先の歩行者を見落している可能性があるとしてシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

交差点に設置されている DSSS 用路側装置（感知器）の種類によって、注意喚起の表示は次のように異なります。

- ▶ 対向車および歩行者を感知する交差点



▶ 対向車のみを感知する交差点



- ・ 注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
- ・ 一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

■ 右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）

DSSS 用路側装置が設置されていない交差点で、地図データを用いることにより、右側方向指示灯を点滅させて右折待ちをしているときに、通信機を搭載した対向車がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、対向車を見落している可能性があるときに、システムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。



- ・ 注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
- ・ 一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

■ 出会い頭注意喚起

地図データを用いることにより、交差点で停車しているときに、右または左方向から交差点に進入してくる車両がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、接近する右または左方向の車両を見落している可能性があるときに、システムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

低速走行中にも、表示による注意喚起を行います。



- ・ 注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
- ・ 一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

■ 赤信号注意喚起

赤信号の交差点手前にさしかかってもアクセルペダルを踏み続けているなど、赤信号を見落している可能性があるときに、システムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。



■ 信号待ち発進準備案内

赤信号で停車したとき、青信号にかわるまでの待ち時間の目安をバー表示で表します。

待ち時間が残り少なくなるとバー表示が消え、まもなく信号が変わることを表します。



■ 緊急車両存在通知

緊急車両（救急車）がサイレンを鳴らして近辺を走行しているときに、ブザーと音声案内により、自車に対する緊急車両のおおよその方向・距離・進行方向を表示します。

緊急車両の距離と進行方向が表示されていないときは、自車のすぐ近くに緊急車両がいることを表します。



□ 知識

■ 交差点ごとの作動する通知・案内・注意喚起について

道路に設置されている DSSS 用路側装置の種類により発信している情報が異なるため、交差点によって作動する通知・案内・注意喚起は異なります。

■ システムが正常に作動しないおそれがあるとき

- 例えば次のような状況などでは、車両の位置や向きを正しく特定できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
 - ・ 高いビルや高い街路樹に囲まれているとき
 - ・ トンネルや高架下を通過しているとき
 - ・ EV システムを始動してから、しばらく走行するまでの間
- 例えば次のような状況などでは、正しく通信ができず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
 - ・ 周囲に大型車が走行しているときなど、通信が遮られたとき
 - ・ 通信を妨害する電波が発せられているとき
 - ・ DSSS 用路側装置の向きが変わってしまっているとき
 - ・ DSSS 用路側装置がメンテナンス中や故障しているとき
 - ・ 他車両の通信機が故障しているとき
- 右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との通信）は、次のような状況などでは正

常に作動しないおそれがあります。

- ・交差点内で一旦停止せずに右折しようとしたとき
- ・周囲の環境や天候、DSSS 用路側装置の劣化などの影響により、対向車や歩行者の検知性能が低下しているとき
- ・対向車や歩行者が周囲の建物や別の車両に隠れているとき
- ・DSSS 用路側装置の検知範囲外に対向車や歩行者がいるとき
- ・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき

●右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。

- ・交差点内で一旦停止せずに右折しようとしたとき
- ・地図データと実際の道路状況が異なるため、交差点付近であることが判断できないとき
- ・相手通信車両から受信した情報が誤っているとき

●出会い頭注意喚起は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。

- ・交差点手前で一旦停止せずに通過しようとしたとき
- ・地図データと実際の道路状況が異なるため、交差点付近であることが判断できないとき
- ・相手通信車両から受信した情報が誤っているとき

●赤信号注意喚起は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。

- ・遅い速度で走行しているとき
- ・停車しているとき
- ・交差点付近の側道や駐車場内の通路など、DSSS 路側装置が設置された道路と並行する場所を走行しているとき
- ・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき

●信号待ち発進準備案内は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。

- ・前方の信号機が青信号、黄信号または矢印信号のとき
- ・青信号にかわるまでの待ち時間が残り少ないとき
- ・停車していないとき
- ・交差点付近の側道や駐車場など、DSSS 路側装置が設置された道路と並行する場所に停車しているとき
- ・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき

●緊急車両存在通知は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。

- ・緊急車両と自車の距離が一定以上離れているとき
- ・緊急車両が自車から遠ざかる方向に走行しているとき
- ・立体交差付近を走行しているとき
- ・緊急車両から受信した情報が誤っているとき

各機能の設定変更

センターディスプレイのカスタマイズ設定（→P.611）から、ITS Connect の設定を変更することができます。※1

● ITS Connect

次の機能の ON / OFF を切り替えることができます。（初期設定：ON）

- ・赤信号注意喚起
- ・信号待ち発進準備案内
- ・右折時注意喚起
- ・出会い頭注意喚起 ※2
- ・緊急車両存在通知
- ・通信利用型レーダークルーズコントロール

● 支援タイミング

次の機能の支援タイミング（早い／遅い）を切り替えることができます。※3, 4（初期設定：早い）

- ・ 赤信号注意喚起
- ・ 出会い頭注意喚起 ※5
- ・ 右折時注意喚起

※1 ITS Connect に含まれる各機能を個別に ON / OFF することはできません。

※2 FCTA の注意喚起が非作動のときは作動しません。

※3 各機能の支援タイミングを個別に変更することはできません。

※4 「早い」 に設定すると通知タイミングが早くなり、「遅い」 に設定すると通知タイミングが遅くなります。

※5 FCTA の注意喚起タイミングと連動します。



知識

■ 出会い頭注意喚起の支援タイミングについて

出会い頭注意喚起の支援タイミングは、FCTA の注意喚起タイミングと連動して変更されます。

BSM（ブラインドスポットモニター）

ブラインドスポットモニターは、バンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、運転者による車線変更時の判断、または右左折時の判断を支援するシステムです。

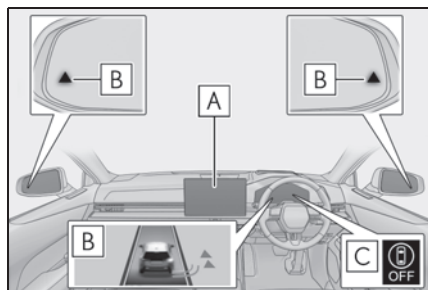


警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- ブラインドスポットモニターは、ドアミラーの死角領域に入った車両の存在とその死角領域に急速に接近してくる車両の存在を運転者に提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視とミラーによる安全確認をおこなう必要があります。

システムの構成部品



A センターディスプレイ

ブラインドスポットモニターの ON / OFF を切りかえます。

B ドアミラーインジケーターとメーター表示

ドアミラーの死角領域に車両を検知したとき、または後方からその死角領域に急速に接近してくる車両を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーター(→P.168) が点灯します。検知した側に方向指示レバーを操作している場合は、

■ 後側方レーダーセンサーの取り扱いについて

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

JP 01

警告

■ システムを正しく作動させるために
ブラインドスポットモニターのセンサーは、バンパー内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

ドアミラーインジケーターが点滅し、ブザーが鳴り、メーターにアイコンが表示されます。(→P.168)

C 運転支援情報 OFF 表示灯

ブラインドスポットモニターが OFF のときに点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

知識

■ ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらことがあります。

■ ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオや周辺環境などで大きな音がある場合、ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

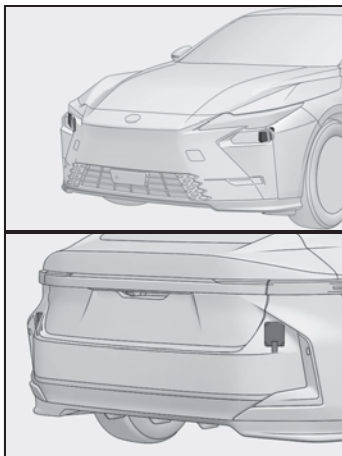
■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.624)

⚠ 警告

- センサー周辺のバンパーは常にきれいにしておく

センサー周辺のバンパーに汚れや着雪がある場合、警告表示とともにシステムが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落としたあと、BSM 機能の作動条件 (→P.379) でしばらく走行してください (目安: 約 10 分)。それでも警告表示が消えない場合はレクサス販売店にて点検を受けてください。



- センサーやセンサー周辺のバンパーにアクセサリを付けたり、ステッカー (透明なものを含む) やアルミテープなどを貼ったりしない
- センサー周辺のバンパーを塗装しない

- センサー周辺のバンパーへの強い衝撃を避ける
センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなるおそれがあります。
次のような場合には、必ずレクサス販売店にて点検を受けてください。
 - ・ センサーやセンサー周辺に強い衝撃を受けた
 - ・ センサー周辺のバンパーなどに傷や凹みがある、一部が外れている
- センサーを分解しない
- センサーやセンサー周辺のバンパーを改造しない
- センサーやバンパーの脱着や交換が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。
- センサーはバンパー表面の塗装の影響を受けやすく、正しい修理をしないと警告表示とともにシステムが作動しなくなることがあります。塗装修理の際はレクサス販売店にご相談ください。

ブラインドスポットモニターの ON / OFF を切りかえるには

ブラインドスポットモニターの ON / OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→P.624)

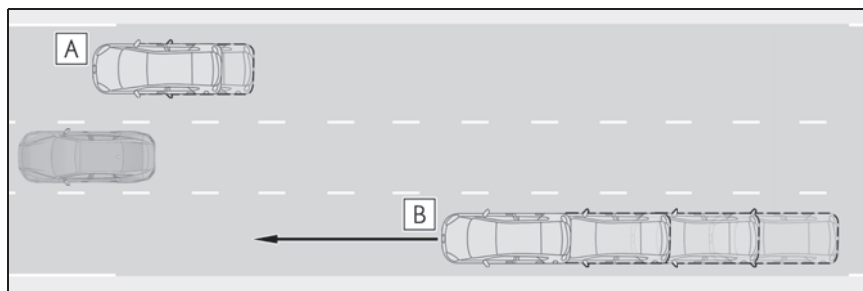
ブラインドスポットモニターが OFF になると、運転支援 OFF 表示灯 (→P.168) が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

パワースイッチが ON になるたび、ブラインドスポットモニターは ON になります。

ブラインドスポットモニターの作動

■ 走行中に検知できる車両

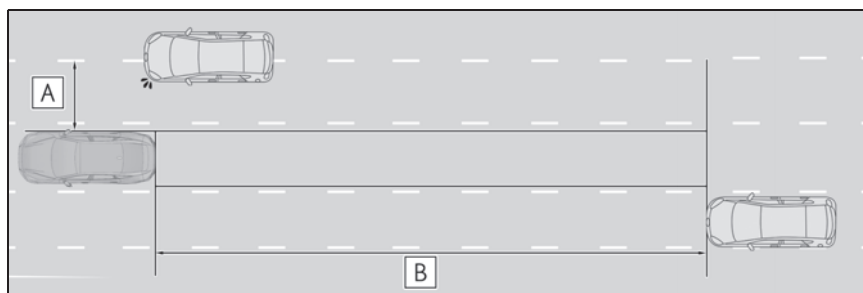
ブラインドスポットモニターはレーダーセンサーにより隣の車線を走行する次の車両を検知し、ドアミラーのインジケーターによってその車両の存在を運転者に知らせます。



- A** ドアミラーに映らない領域（死角領域）を併走する車両・自転車
- B** 後方からドアミラーに映らない領域（死角領域）に急速に接近してくる車両・自転車

■ 走行中に検知できる範囲

次の範囲に入った車両・自転車を検知します。



検知できる範囲：

- A** 車両の両側面について、側面から最大約 3.5m の領域 ※¹
- B** 車両後方から最大約 70m の領域 ※²

※¹ 自車から横距離が非常に近い位置を追い越していく二輪車（自転車、バイクなど）に対しては、検知開始が通常より遅くなることがあります。

※² 自車と他車の速度差が大きいほど、ドアミラーインジケーターは他車がより遠くにいる状態で点灯・点滅します。

■ 関連機能

隣の車線を走行する車両の検知を用いた機能が LDA（レーンディパー

チャーアラート)にあります。本機能の作動条件などの詳細についてはP.326を参照してください。

知識

■作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- パワースイッチがONのとき
- ブラインドスポットモニターがONのとき
- シフトポジションがR以外のとき
- 車速が0km/hより大きいとき

■センサーが車両を検知する条件

ブラインドスポットモニターは、次のような状況で検知範囲に入った車両や自転車を検知します。

- 隣の車線を走行する他車に自車が追いこされるとき
- 小さい速度差で隣の車線を走行する他車を追いこすとき
- 他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

■システムが検知しない条件

ブラインドスポットモニターは、次のような車両や自転車以外のものを検知対象としません。

- 歩行者など※
- 対向車
- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物※
- 同じ車線を走行する後続車※
- 2つ隣の車線を走行する他車※
- 大きい速度差で自車が追いこす他車※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

■ブザーが鳴らない条件

次のような状況では、方向指示レバーを操作していてもドアミラーインジケータは点滅しますが、ブザーは鳴りません。

- 方向指示レバーを継続して操作したまま、2台目の車両を検知したとき

- 大きい速度差で隣の車線を走行する他車を追い越すとき※

※ 状況によってはブザーが鳴ることがあります。

■システムが正しく作動しないおそれがある状況

- 次のような状況では車両を正しく検知しないおそれがあります。
 - ・ 過度な高速走行をしているとき
 - ・ 他車の速度が著しく遅いとき
 - ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
 - ・ 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のバンパーに付着したとき
 - ・ 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき
 - ・ 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
 - ・ 自車と後続車の車間距離が短いとき
 - ・ 検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎるとき
 - ・ 自車と他車の速度差に変化があるとき
 - ・ 検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき
 - ・ 停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
 - ・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみなどを走行しているとき
 - ・ きついカーブや連続したカーブなど、ハンドルを大きく操作しているとき
 - ・ 起伏がある場所を走行するとき

- ・ 車線の幅が広い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
 - ・ 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリを装着しているとき
 - ・ 検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
 - ・ ブラインドスポットモニターを ON にした直後
 - ・ けん引しているとき
- 特に次のような状況では、システムが不要に作動することがあります。
- ・ 複数の左折専用レーンまたは右折専用レーンがある交差点を右左折するとき
 - ・ 後続車が自車の後方から横方向にずれた状態で走行しているとき
 - ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
 - ・ ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
 - ・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみなどを走行しているとき
 - ・ 車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線以外を走行する車両が検知範囲に入ったとき
 - ・ きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
 - ・ タイヤがスリップ（空転）しているとき
 - ・ 自車と後続車の車間距離が短いとき
 - ・ 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリを装着しているとき
 - ・ けん引しているとき

後方車両接近告知

後方車両接近告知は、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、運転者に後方車両の接近をお知らせすることで、回避要否の判断を支援するシステムです。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

後方車両接近告知は自車の後方から接近してくる車両の存在を運転者に提供する補助的なシステムです。

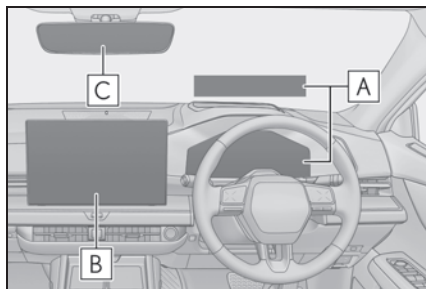
後方車両接近告知を使用しても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ システムを正しく作動させるために

→P.376

システムの構成部品



A マルチインフォメーションディスプレイ・ヘッドアップディスプレイ

後方車両の通行を妨げる可能性がある場合、メッセージとブザーでお知らせします。

B センターディスプレイ

後方車両接近告知の ON / OFF を切りかえます。

C デジタルインナーミラー

後方車両の通行を妨げる可能性がある場合、ディスプレイのまわりを橙色に点灯してお知らせします。デジタルインナーミラーのカスタマイズメニューで通知の ON / OFF を切りかえることができます。(→P.225)

後方車両接近告知の ON / OFF を切りかえるには

後方車両接近告知の ON / OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→P.625)



知識

■ ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオや周辺環境などで大きな音がある場合、ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

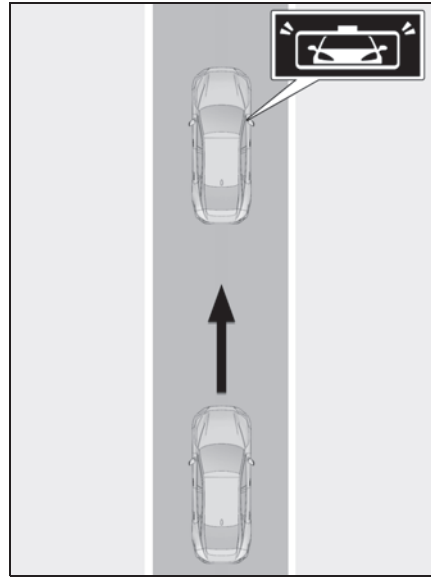
■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.625)

後方車両接近告知の作動

後方車両接近告知は後側方レーダーセンサーにより自車の後方から接近してくる車両を検知し、デジタルインナーミラーの点灯やマルチインフォメーションディスプレイまたは

ヘッドアップディスプレイの表示とブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。



知識

■ 後方車両接近告知の作動条件

後方車両接近告知は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- パワースイッチが ON のとき
- 後方車両接近告知が ON のとき
- シフトポジションが R 以外のとき
- 車速が約 60km / h 以上のとき
- 方向指示レバーを操作していないとき
- ブレーキペダルを踏んでいないとき
- 自車が追い越し車線[※]または片側 1 車線の道路を走行、かつ先行車がないとき

※ 販売された国（地域）と通行車線が左右で異なる道路を走行する場合、走行車線でも作動することがあります。

■ センサーが車両を検知する条件

後方車両接近告知は、同じ車線を走行する後方車両が近づいた状況のとき、検知範囲に入った車両を検知します。

■ システムが検知しない条件

後方車両接近告知は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 小型のオートバイ・自転車・歩行者など※
- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物※
- 対向車
- 隣の車線を走行する他車※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

■ 後方車両接近告知が正しく作動しないおそれがある状況

- 次のような状況では後方車両を正しく検知しないおそれがあります。
 - ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
 - ・ 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
 - ・ 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき
 - ・ 車線がはっきり見えないなど、自車の走行車線を正しく認識できないとき
 - ・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみなどを走行しているとき
 - ・ けん引しているとき
 - ・ 後方車両と自車の中心がずれているとき
 - ・ 斜め後方から車両が近付いてくるとき
 - ・ 自車の後方に他車が急に割り込んだとき
 - ・ 他車の前方に割り込んだとき
 - ・ 後方車両の周辺に他車が存在するとき
 - ・ 後方車両の周辺にガードレールや壁な

どの静止物があるとき

- ・ 後続車が自車に接近した後、一度離れて再度接近してきたとき
- ・ 後続車が自車から離れていくとき
- ・ 後続車が自車を追い越そうとしているとき
- ・ きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
- ・ 後続車の高さが自車と違いがありすぎるとき
- 特に次のような状況では、後続車の接近の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
 - ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
 - ・ けん引しているとき
 - ・ 自車の周辺に複数台の他車が存在するとき
 - ・ 自車が右左折するときに後続車が自車の真うしろを通過したとき
 - ・ 後方車両が近距離から自車を追い越したとき
 - ・ 車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線を走行する車両が検知範囲に入ったとき
 - ・ 後方車両の周辺に複数の車両が存在するとき
 - ・ 道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき
 - ・ 後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
 - ・ カーブ中に隣接車両がいるとき
 - ・ 他車の前方に割り込んだとき

周辺車両接近時サポート (録画機能、通報提案機能)

周辺車両接近時サポートは、リアバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用して至近距離の後方車両を検知し、運転者へ対処方法を提案するシステムです。ドライブレコーダー（前後方または全周囲）※が装着されている車両は、ドライブレコーダー（前後方または全周囲）の録画機能を使用して、状況を自動で記録します。

※ 標準装備、メーカーオプションまたはメーカーパッケージオプションのドライブレコーダー（前後方または全周囲）装着の場合に限ります。用品（販売店オプション）のドライブレコーダーではご利用になれません。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

周辺車両接近時サポートは後方車両が至近距離まで接近したときの対処方法を運転者に提案する補助的なシステムです。

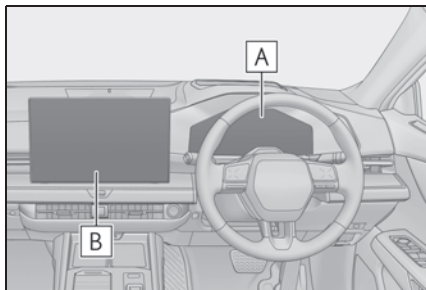
周辺車両接近時サポートを使用しても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ システムを正しく作動させるために

→P.376

システムの構成部品



A マルチインフォメーションディスプレイ

警察への通報またはヘルプネットへの接続を提案します。

B センターディスプレイ

周辺車両接近時サポートの ON / OFF を切りかえます。

周辺車両接近時サポートの ON / OFF を切りかえるには

周辺車両接近時サポートの ON / OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。
(→P.611)

□ 知識

■ 音声の聞こえ方について

大音量のオーディオや周辺環境などで大きな音がある場合、音声が届かなくなる場合があります。

周辺車両接近時サポートの作動

後方車両が至近距離まで接近したときに、マルチインフォメーションディスプレイと音声で下記の対処方法を提案します。

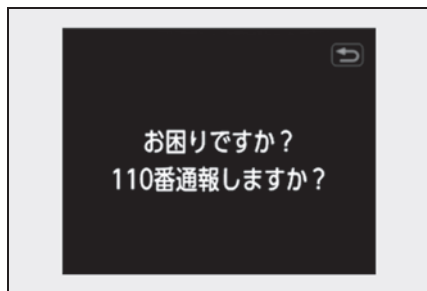
ドライブレコーダー装着車は、後方

車両の映像を記録します。

■ 通報提案

携帯電話をマルチメディアとハンズフリー接続しているときは、ハンズフリー電話での警察への通報を提案します。

通報する場合は、マルチインフォメーションディスプレイで“はい (YES)” を選択、または音声で回答してください。
ハンズフリー電話の詳細については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。



■ ヘルプネット接続提案

ヘルプネットを契約しているときは、ヘルプネットセンターへの通報を提案します。

通報する場合は、マルチインフォメーションディスプレイで“はい (YES)” を選択、または音声で回答してください。
ヘルプネットの詳細については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。



■ イベント録画（ドライブレコーダー [前後方または全周囲] 装着車）

車両後方の映像をイベント録画します。

ドライブレコーダー（前後方または全周囲）の詳細については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

□ 知識

■ イベント録画の通知（ドライブレコーダー [前後方または全周囲] 装着車）

通報提案もヘルプネット接続提案もしない場合は、イベント録画が記録されたことを通知します。

■ 周辺車両接近時サポートの作動条件

周辺車両接近時サポートは、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- パワースイッチが ON のとき
- 周辺車両接近時サポートが ON のとき
- シフトポジションが R 以外のとき
- 車速が約 60km / h 以上のとき
- 方向指示レバーを操作していないとき
- ブレーキペダルを踏んでいないとき
- 前回作動から約 10 分以上経過していること

■ 通報提案の作動条件

通報提案は、次の条件をすべて満たして

いるときに作動します。

●携帯電話がマルチメディアと

Bluetooth® でハンズフリー接続されているとき

Bluetooth® ワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc. が所有権を有します。トヨタ自動車株式会社は使用許諾の下でこれらのマークおよびロゴを使用しています。その他の商標および登録商標は、それぞれの所有者の商標および登録商標です。

●携帯電話の電波が圏外でないとき

●携帯電話が着信中、発信中、通話中でないとき

■ヘルプネット接続提案の作動条件

●通報提案がされていないとき

●ヘルプネットの契約がされている

■センサーが車両を検知する条件

周辺車両接近時サポートは、同じ車線を走行する後方車両が至近距離にいる状態が続いた状況のとき、検知範囲に入った車両を検知します。

■システムが検知しない条件

周辺車両接近時サポートは、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●小型のオートバイ・自転車・歩行者など※

●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物※

●対向車

●隣の車線を走行する他車※

※状況によっては検知をすることがあります。

■周辺車両接近時サポートが正しく作動しないおそれがある状況

●次のような状況では後方車両を正しく検知しないおそれがあります。

- ・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- ・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
- ・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき
- ・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみなどを走行しているとき
- ・けん引しているとき
- ・後方車両と自車の中心がずれているとき
- ・斜め後方から車両が近付いてくるとき
- ・自車の後方に他車が急に割り込んできたとき
- ・他車の前方に割り込んだとき
- ・後方車両の周辺に他車が存在するとき
- ・後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
- ・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
- ・後続車の高さが自車と違いがありすぎるとき
- 特に次のような状況では、後続車の接近がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
- ・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- ・けん引しているとき
- ・自車の周辺に複数台の他車が存在するとき
- ・自車が右左折するときに後続車が自車の真うしろを通過したとき
- ・後方車両が近距離から自車を追い越したとき
- ・車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線を走行する車

両が検知範囲に入ったとき

- ・ 後方車両の周辺に複数の車両が存在するとき
- ・ 道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき
- ・ 後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
- ・ カーブ中に隣接車両がいるとき
- ・ 他車の前方に割り込んだとき

後方車両への接近警報

後方車両への接近警報は、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、後方車両からの追突の可能性が高いと判断したときに、非常点滅灯を高速点滅させて後方車両に注意をうながすシステムです。

警告

■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

後方車両への接近警報は自車の後方から接近してくる車両に追突される可能性が高いと判断したときに、非常点滅灯を高速点滅させて後方車両に注意をうながす補助的なシステムです。

後方車両への接近警報を使用しても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

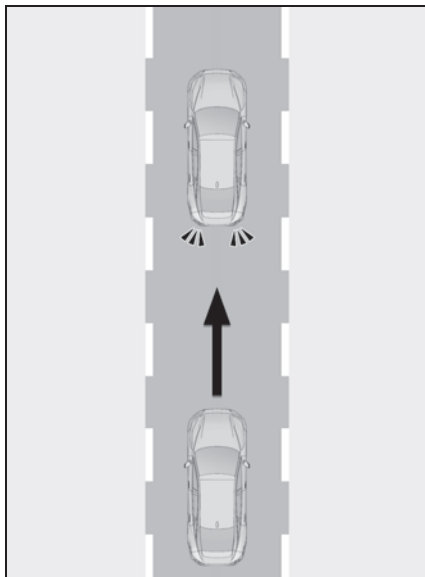
■ システムを正しく作動させるために

→P.376

後方車両への接近警報の作動

同じ車線を走行する後方車両を後側方レーダーセンサーで検出し、追突の可能性が高いと判断したときに、非常点滅灯を高速点滅させて後方車両に注意をうながします。このときマルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、後方車

両の接近を運転者に知らせます。



■ 後方車両への接近警報の作動条件

次の条件を満たしたときシステムが作動します。

- パワースイッチが ON のとき
- シフトポジションが R 以外するとき
- 方向指示レバーを操作していないとき
- 非常点滅灯が点滅していないとき
- 自車から見た後方車の接近速度が約 30km/h ~ 100km/h の間
- 自車の車速が約 10km/h 以下、または前進時でブレーキを踏んでいる

■ センサーが車両を検知する条件

後方車両への接近警報は、同じ車線を走行する後方車両が追突の可能性が高い状況のとき、検知範囲に入った車両を検知します。

■ システムが検知しない条件

後方車両への接近警報は、次のような車

両や車両以外のものを検知対象としません。

- 小型のオートバイ・自転車・歩行者など ※
- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※
- 対向車
- 隣の車線を走行する他車 ※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

■ 後方車両への接近警報が正しく作動しないおそれがある状況

- 次のような状況では後方車両を正しく検知しないおそれがあります。
 - ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
 - ・ 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
 - ・ 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面に停車、または走行しているとき
 - ・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみなどを走行しているとき
 - ・ けん引しているとき
 - ・ 後方車両と自車の中心がずれているとき
 - ・ 斜め後方から車両が近付いてくるとき
 - ・ 自車の後方に他車が急に割り込んできたとき
 - ・ 後方車両の周辺に他車が存在するとき
 - ・ 後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
 - ・ 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリを装着しているとき
 - ・ 後続車の高さが自車と違いがありすぎるとき
- 特に次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそ

れがあります。

- ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- ・ けん引しているとき
- ・ 自車の周辺に複数台の他車が存在するとき
- ・ 右左折待ちで停車したときなどに、自車の真うしろを車両が通過するとき
- ・ 道路脇に停車したときなどに、車両が真横を通過するとき
- ・ 後方車両が近距離から自車を追い越したとき
- ・ 後方車両が近距離まで急接近したとき
- ・ 後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）は、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、停車中に後方車両からの追突の可能性が非常に高いと判断したときに、自動的にブレーキを制御することで、二次衝突による被害の軽減に寄与するシステムです。

警告

■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）は停車中に同じ車線を走行する後方車両からの追突の可能性が非常に高いと判断したときに、自動的にブレーキを制御する補助的なシステムです。

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）を使用しても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ システムを正しく作動させるために

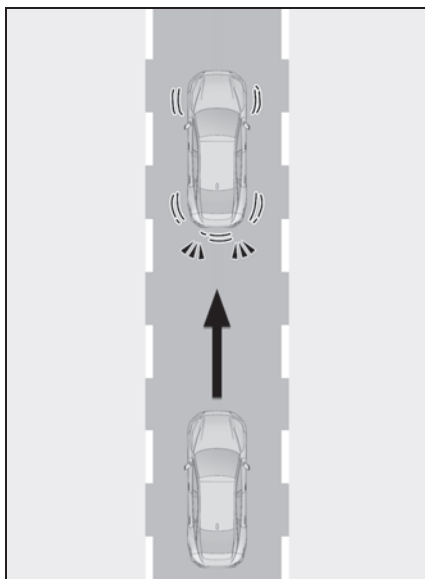
→P.376

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）の作動

セカンダリーコリジョンブレーキ

(停車中後突対応)は、停車中に同じ車線を走行する後方車両を後側方レーダーセンサーで検出し、追突の可能性が非常に高いと判断したときに、自動的にブレーキと制動灯を制御することで、追突後の自車速度を減速させ二次衝突による被害の軽減に寄与します。

このときマルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、後方車両の接近を運転者に知らせます。



知識

■セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）の作動条件

次の条件を満たしたときシステムが作動します。

- パワースイッチが ON のとき
- シフトポジションが R 以外のとき ※
- 方向指示レバーを操作していないとき
- 前回作動から約 7 分以上経過しているこ

と

- 自車から見た後方車の接近速度が約 30km/h ～ 100km/h の間

- 自車の車速が約 0km/h のとき

※ シフトポジションが N のときはブレーキペダル・パーキングブレーキ・ブレーキホールドをいずれも操作していないときは作動しません。

■センサーが車両を検知する条件

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）は、同じ車線を走行する後方車両が追突の可能性が非常に高い状況のとき、検知範囲に入った車両を検知します。

■システムが検知しない条件

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 小型のオートバイ・自転車・歩行者など ※
- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※
- 対向車
- 隣の車線を走行する他車 ※

※ 状況によっては検知をすることがあります

■セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）が正しく作動しないおそれがある状況

- 次のような状況では後方車両を正しく検知しないおそれがあります。
 - ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
 - ・ 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
 - ・ 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たま

- りなどのぬれた路面に停車しているとき
- ・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみなどで停車しているとき
- ・ けん引しているとき
- ・ 停車した直後に後方車両が接近したとき
- ・ 後方車両と自車の中心がずれているとき
- ・ 斜め後方から車両が近付いてくるとき
- ・ 自車の後方に他車が急に割り込んできたとき
- ・ 後方車両の周辺に他車が存在するとき
- ・ 後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
- ・ 後続車の高さが自車と違いがありすぎるとき
- ・ 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
- 特に次のような状況では、追突される可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
- ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- ・ けん引しているとき
- ・ 右左折待ちで停車したときなどに、自車の真うしろを車両が通過するとき
- ・ 道路脇に停車したときなどに、他車が真横を通過するとき
- ・ 後方車両が近距離から自車を追い越したとき
- ・ 後方車両が近距離まで自車に急接近したとき
- ・ 自車の周辺に複数台の他車が存在するとき
- ・ 後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
- ・ 停車間隙・発進直後に後方車両が接近したとき
- ・ 走行中にすべりやすい路面などでのブレーキ操作により、自車のタイヤがロックしたときに後方車両が接近したとき
- ・ 洗車機で洗車しているとき

安心降車アシスト

安心降車アシスト（ドアオープン制御付）は、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、各席乗員による降車時のドアと車両・自転車の衝突可能性の判断の支援、およびドア開放をキャンセルすることで、事故被害低減に貢献するシステムです。

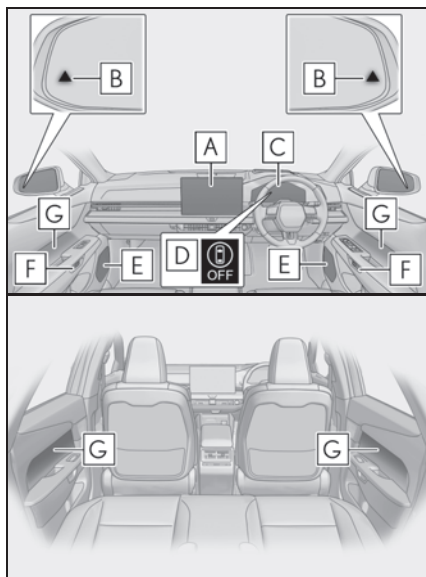
警告

■安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- 安心降車アシストは、停車中に接近してくる車両や自転車の存在を乗員に提供する補助的なシステムです。本システムだけで安全を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、乗員は自らの目視やミラーなどによる安全確認を行う必要があります。

安心降車アシストのシステム構成部品



A センターディスプレイ

安心降車アシストの ON / OFF を切りかえます。

B ドアミラーインジケーター

開いたドア（トランクを除く）と衝突する可能性がある車両・自転車を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーター（→P.168）が点灯します。検知している側のドアを開いた場合やドア開放をキャンセルした場合は、ドアミラーインジケーターが点滅します。

C マルチインフォメーションディスプレイ

衝突の可能性がある状態でドアの開放をした場合やドアの開放がキャンセルされた場合に対象のドアをメーターに表示します。また、ドアミラーインジケーターが点灯した状態でドアが開けられた場合などは、上記に加えてブザーで警報を行います。

パワースイッチを OFF にしたあとと安心降車アシストの作動条件を満たさなくなったとき、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されることがあります。

(車外から全ドア施錠したときは、表示されない場合があります。)

D 運転支援情報表示灯 (OFF)

安心降車アシストが OFF のときに点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

E スピーカー

ドアミラーインジケーターが点滅した場合に音声にてシステムが作動したことを通知します。音声による通知が行われた後は、そのドアが全閉されるまで音声による再通知は実施されません。

F ドア開スイッチ (手動リリースハンドル)

ドアミラーインジケーターが点灯中、ドア開スイッチでドアを開けようとしたときに、降車時のドアと車両・自転車の衝突の可能性が高い場合は、ドア開放がキャンセルされます。

G ドアイルミネーション

開いたドア (トランクを除く) と衝突する可能性がある車両・自転車を検知したときは、検知した側のドアイルミネーション (赤) が点灯します。

検知している側のドアを開いた場合やドア開放をキャンセルした場合は、ドアイルミネーション (赤) が点滅します。



知識

■ ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■ ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオや周辺環境などで大

きな音がする場合、ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■ 音声の通知について

以下のとき、音声による通知は実施されません。

- 車内に乗員がいないと推定されるとき※
- ドアを開いて乗車後、EV システムを始動するまで
- EV システム停止後 3 分以上経過したとき
- センターディスプレイの言語設定で音声発話に対応していない言語が設定されているとき
- 外部より全ドアが施錠されているとき
- EV システム停止後、同一のドアが開いている状態が 1 分以上継続しているとき
- EV システム停止後、センターディスプレイが使用できない時 (→P.619)
- センターディスプレイの駐車支援音量設定が OFF となっているとき

※ 各席毎に、走行前のドア開閉で乗車、走行後のドア開閉で降車と判断します。

■ ドア開放キャンセルについて

車内側ドア開スイッチを押下した時のみ、ドア開放をキャンセルします。車外側ドア開スイッチでのドア開放はキャンセルされません。

■ ドアイルミネーションの通知について

- ドアイルミネーションのカスタマイズ設定 (→P.629) や周辺環境によっては通知が見えない場合があります
- パワースイッチが ON で右側前席がシートベルトを締めた状態、かつ、右側後席がドアロックされた状態では、右側ドアイルミは点灯しません (左側も同様)。

■ カスタマイズ機能

- 機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.625)
- ドアイルミネーションでの警報の ON/OFF は、ドアイルミネーションのカスタマイズで設定を変更することができます。(→P.629)

⚠ 警告

■ システムを正しく作動させるために
→P.376

安心降車アシストの ON / OFF を切りかえる

安心降車アシストの ON / OFF は、

カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→P.625)

安心降車アシストが OFF になると、運転支援 OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

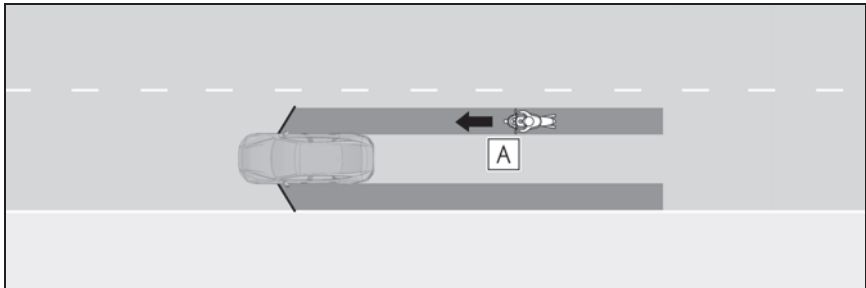
パワースイッチが ON になるたび、安心降車アシストは ON になります。※

※ パワースイッチ OFF 後、すぐにパワースイッチを ON にした場合は、安心降車アシストが ON にならない場合があります。

安心降車アシストの作動

■ 安心降車アシストが検知できる対象

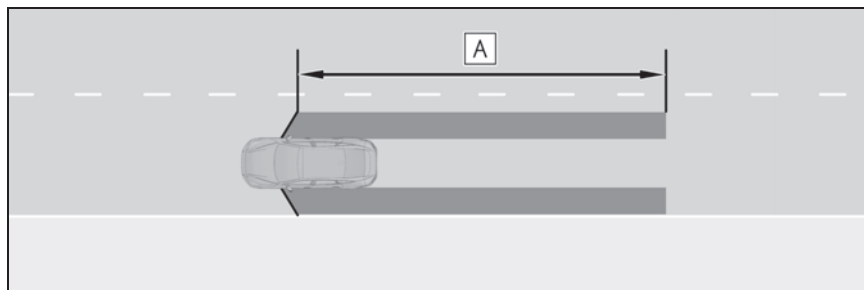
安心降車アシストは後側方レーダーセンサーにより自車の後方を走行する次の車両・自転車を検知し、ドアミラーインジケータ、ドアイルミネーション(赤)、ブザー、メーターの表示、および音声通知によってその車両の存在を乗員に知らせます。



A ドアを開けたときにドアと衝突する可能性が高いと判断された車両・自転車

■ 安心降車アシストが検知できる範囲

次の範囲に入った車両・自転車を検知します。



A フロントドアから後方約 45m の領域※

※ 接近する車両・自転車の速度が速いほど、ドアミラーインジケーター、ドアイルミネーション（赤）は車両・自転車がより遠くにいる状況で点灯・点滅します。

知識

■ 安心降車アシストの作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- パワースイッチがON のとき、EV システム OFF 後 3 分以内、およびドアを開けて車内に乗り込んでから 3 分以内（ドア開閉が行われた場合は、作動継続時間がさらに延長される場合があります）

- 安心降車アシストが ON のとき

- 停車中

■ センサーが車両を検知する条件

安心降車アシストは、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

- 停車している自転車と並行に走行する車両や自転車がドアを開けた範囲付近を通過するとき

■ システムが車両を検知しない条件

- 安心降車アシストは、次のような車両・自転車や車両・自転車以外のものを検知対象としません。
 - ・ 接近する車両・自転車の速度が遅いとき※
 - ・ ドアを開いたときに、衝突する可能性が低いと判断された車両・自転車※

- ・ 真うしろから接近する車両・自転車※
- ・ 前方から接近する車両・自転車※
- ・ ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物※
- ・ 歩行者、動物など※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

- 安心降車アシストは、次のような状況では作動しません。
 - ・ EV システム OFF 後に 3 分以上経過した場合（ドア開閉が行われた場合は、作動継続時間が延長される場合があります）
 - ・ 自車が完全に停車していないとき

■ システムがドア開放をキャンセルしたときの開き方

次の操作で、ドアを開くことができます。

- 接近してくる車両・自転車が通過または進路変更した後、周囲を確認してから再度車内のドア開スイッチを押してください。緊急時など警報中にドアを開きたい場合のみ、周囲の安全を確認したうえで下記の操作を実施してください。
 - ・ 車内のドア開スイッチを約 3 秒以上押し続ける
 - ・ 車内のドア開スイッチを 3 回以上連続で素早く押す

- ・ 手動リリースハンドルを引く

■ システムが正しく作動しないおそれがある状況

- 次のような状況では車両や自転車を有効に検知しないおそれがあります。

- ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- ・ 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
- ・ 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面に停車しているとき
- ・ 隣の駐車車両に後続する車両や自転車
- ・ 後方で急な進路変更をして接近する車両や自転車
- ・ 発進した直後の車両や自転車
- ・ トランクが開いているとき
- ・ 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリやスロープを装着しているとき
- ・ 後方に駐車車両や壁・標識などの静止物や人がいるとき
- ・ 道路に対して傾いて停車しているとき
- ・ 接近する車両や自転車の周囲に走行する車両があるとき
- ・ 接近する車両や自転車が壁・標識などの静止物の横を走行しながら接近しているとき
- ・ 接近する車両や自転車が排水溝などの金属のフタ（グレーチング）の上を走行しながら接近しているとき
- ・ 車両や自転車が高速で接近するとき
- ・ けん引しているとき
- ・ 急勾配の坂道に停車しているとき
- ・ カーブの途中や終了地点に停車しているとき
- 特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。
- ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき

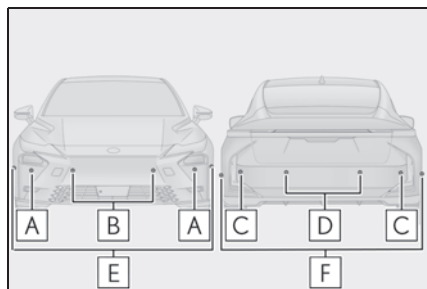
- ・ 自車の後方からずれた状態で車両や自転車が接近するとき
- ・ 道路に対して傾いて停車しているとき
- ・ 斜めに駐車している後方を車両や自転車が接近するとき
- ・ 後方に駐車車両や壁・標識などの静止物や人がいるとき
- ・ 後方で急な進路変更をして接近する車両や自転車
- ・ 接近する車両や自転車が壁・標識などの静止物の横を走行しながら接近しているとき
- ・ トランクが開いているとき
- ・ 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリやスロープを装着しているとき
- ・ 車両や自転車が高速で接近するとき
- ・ けん引しているとき
- ・ 急勾配の坂道に停車しているとき
- ・ カーブの途中や終了地点に停車しているとき
- ・ 隣接車線に停止している車両の後ろから車両や自転車が接近するとき

クリアランスソナー

クリアランスソナーは、車両と壁などの静止物とのおおよその距離を超音波センサーによって検知して、センターディスプレイの距離表示とブザー音、音声案内で運転者にお知らせします。

システムの構成部品

■ センサーの種類



A フロントコーナーセンサー

B フロントセンターセンサー

C リヤコーナーセンサー

D リヤセンターセンサー

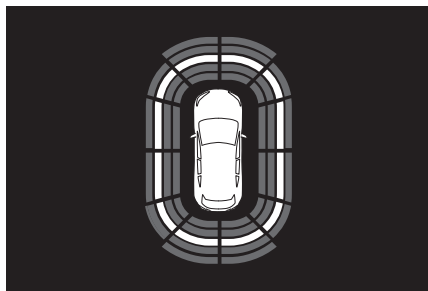
E フロントサイドセンサー

F リヤサイドセンサー

■ クリアランスソナーの表示のしかた

壁などの静止物を検知すると、センターディスプレイに表示されます。

イラストは説明のための例であり、仕様により異なります。



■ クリアランスソナー検知表示灯

静止物を検知するとクリアランスソナー検知表示灯が点灯します。



■ クリアランスソナー検知表示灯の有無について

クリアランスソナーがOFFの状態でシフトポジションをRにしたとき、クリアランスソナーOFF表示灯(→P.396)が点灯する車両はクリアランスソナー検知表示灯があります。

クリアランスソナーのON / OFF を切りかえるには

クリアランスソナーのON / OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→P.625)

クリアランスソナー機能がOFFのときは、クリアランスソナーOFF表示灯(→P.168)が点灯します。

OFF(非作動)に切りかえて、クリアランスソナーを停止させた場合、再度、カスタマイズメニュー(→P.625)からON(作動)に切りかえないとシステムは復帰しません。

(パワースイッチをOFFにしたあとで再度ONにしても、復帰しません)クリアランスソナー検知表示灯があ

る車両は、シフトポジションを R にすると自動的に ON(作動)になり、クリアランスソナー OFF 表示灯が消灯します。

このとき、クリアランスソナー機能の ON / OFF を切りかえることができません。

クリアランスソナー機能の設定自体は変更されません。

警告

■ 安全にお使いいただくために

本システムは認識性能／制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■ システムを正しく作動させるために

必ず次のことをお守りください。正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。守れないときはシステムを OFF してください。

- センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- センサー付近に市販の部品（字光式ナンバープレート・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けしないでください。
- センサー周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はレクサス販売店で点検を受けてください。前後のバンパーやグリルの脱着や交換が必要な場合はレクサス販売店にご相談ください。
- センサーやバンパーの脱着や交換が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

- 改造・分解・塗装をしないでください。
- ライセンスプレートカバーを取り付けないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。
- 純正品以外のサスペンションを取り付けしないでください。

■ 洗車時の注意

- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

知識

■ 補機バッテリーを脱着したときは

システムを初期化する必要があります。運転中、自動的に初期化されるため、しばらく運転を続けてください。

■ 作動条件

- パワースイッチが ON のとき
- クリアランスソナー機能が ON のとき
- 車両の速度が約 10km / h 以下のとき
- フロントコーナーセンサー：
 - ・ シフトポジションが P 以外にあるとき
- フロントセンターセンサー：
 - ・ シフトポジションが P・R 以外にあるとき
- リヤコーナー、リヤセンターセンサー：
 - ・ シフトポジションが R にあるとき
- サイドセンサー：

- ・ EV システム始動後、車両が約 7m 移動するあいだ
 - ・ シフトポジションを R から D にしたあと、車両が約 7m 移動するあいだ
 - ・ シフトポジションが R のとき
 - ・ センターディスプレイが表示されているとき
 - ・ フロントまたはリヤセンサーが静止物を検知しているとき
- クリアランスソナー検知表示灯がある車両は、シフトポジションを R にすると、クリアランスソナー機能を OFF（非作動）に設定している場合でも、自動的に ON（作動）になり、クリアランスソナー OFF 表示灯が消灯します。クリアランスソナー機能の設定自体は変更されません。

■ センサーの検知について

- センサーの検知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。
- 静止物の形状・条件によって検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。
- センサーが静止物に近付きすぎると検知できないことがあります。
- 静止物を検知してから、表示が出る（ブザーが鳴る）までに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示が出る（ブザーが鳴る）までに、静止物まで約 30cm 以内に接近するおそれがあります。
- オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。
- 他システムのブザー音などにより本システムの音が聞き取りづらくなる場合があります。
- メーター故障時はブザーの音が鳴らないことがあります。

■ システムが正しく検知できないことがある静止物

静止物の形状・条件によっては検知できる範囲が短くなることや、次のようなものは検知しないことがあります。注意して運転してください。

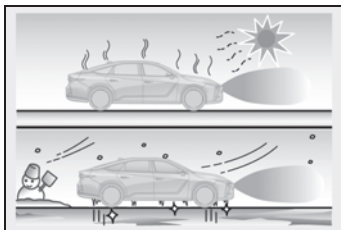
- 針金・フェンス・ロープなどの細いもの
- 綿・雪などの音波を吸収しやすいもの
- 鋭角的な形のもの
- 背の低いもの
- 背が高く上部が張り出しているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

■ システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、センサーが正常に作動しないことがあります。

- センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、壁などの静止物があっても検知しないことがあります。
- 炎天下や寒冷時



- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など
- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車の

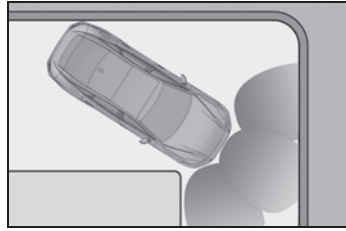
センサーなど超音波を発生するものが近付いたとき

- 大雨や水しぶきがかかったとき
 - センサーに静止物が近付きすぎたとき
 - 超音波を反射しにくい歩行者（例：ギャザーやフリルの多いスカートなど）
 - 自車が旋回しながら接近しているとき
 - 地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凹凸なもの、波打っているものが検知範囲にあるとき
 - 風が強いとき
 - 霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき
 - 作動対象物と車両のあいだに検知できない対象物があるとき
 - 車・オートバイ・自転車・歩行者などの作動対象が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき
 - 衝突などで、センサーの方向がずれたとき
 - センサー付近にけん引フック・輸送用フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノープラウ）などを取り付けたとき
 - 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
 - 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
 - タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
 - けん引しているとき
- 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

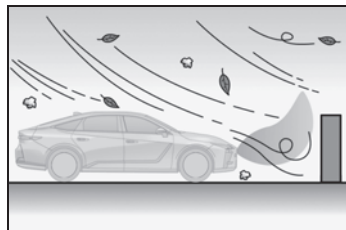
次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

す。

- 狭い道路を走行するとき

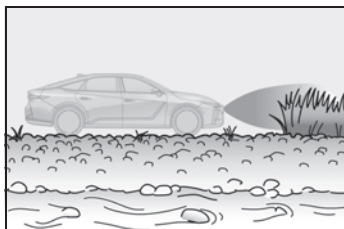


- 垂れ幕や旗やのれん、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETCのバー・駐車場のバーなど）に向かって走行するとき
- 地面にわだちや穴があるとき
- 排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時
- 急な登坂路や降坂路を走行するとき
- 冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき
- センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- 大雨や水しぶきがかかったとき
- 霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき
- 風が強いとき



- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）

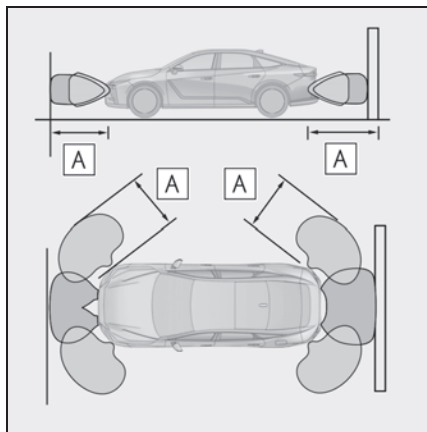
- 衝突などで、センサーの方向がずれたとき
- 背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき
- 立体駐車場や工事現場などで柱（H 形鋼など）の付近を走行するとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など



- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- けん引しているとき

距離表示の見方

■ 静止物を検知できる範囲



A 約 200cm

検知できる範囲は図のとおりです。ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると検知できません。

静止物の形状・条件によっては、検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。

■ 検知距離とブザー音

静止物までのおおよその距離	ブザー音
フロントセンターセンサー： 約 200cm ～ 100cm リヤセンターセンサー： 約 200cm ～ 150cm コーナーセンサー： 約 200cm ～ 60cm	なし（表示のみ）
フロントセンターセンサー： 約 100cm ～ 60cm [※] リヤセンターセンサー： 約 150cm ～ 60cm [※]	断続音

静止物までのおおよその距離	ブザー音
フロント/リヤセンサー、コーナーセンサー： 約 60cm ～ 45cm※	速い断続音
フロント/リヤセンサー、コーナーセンサー： 約 45cm ～ 30cm※	非常に速い断続音
約 30cm 以下	連続音

※ 自動ミュート機能あり (→P.401)

音声案内とブザー音

静止物を検知すると、ブザーが鳴ります。

- 静止物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。静止物との距離が約 30cm 以下のとき、ブザーは断続音「ピピ」から連続音「ピー」になります。
- 複数のセンサーが同時に静止物を検知しているときは、もっとも近い静止物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。
- 断続音ブザー吹鳴後、静止物との距離が近づかない場合は、自動でブザーが消音されます。(自動ミュート機能)
- RCTA または RCD と同時に作動した場合、より衝突の可能性が高いとシステムが判断した対象を優先してブザーを鳴らします。

知識

■ ブザー音量調整

カスタマイズメニューから、クリアランスソナー、RCTA、RCD の音量を一括で切りかえることができます。→P.611)

■ ブザー音の一時ミュート (消音) について

センターディスプレイに一時ミュート (消音) スイッチが表示されているときにこのスイッチを押すと、一時的にブザー音を消すことができます。

クリアランスソナー、RCTA、RCD のブザー音が一括でミュート (消音) されます。

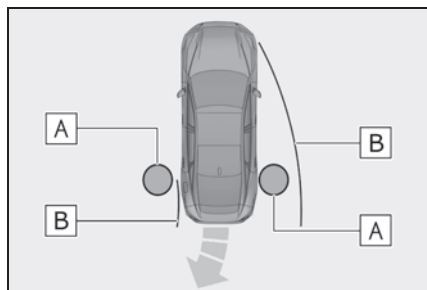
再度スイッチを押すと、解除されます。

● 次のとき、自動でミュート (消音) が解除されます。

- ・ シフトポジションを切りかえたとき
- ・ 車速が一定値以上になったとき
- ・ パワースイッチを OFF にしたとき

巻き込み警報機能

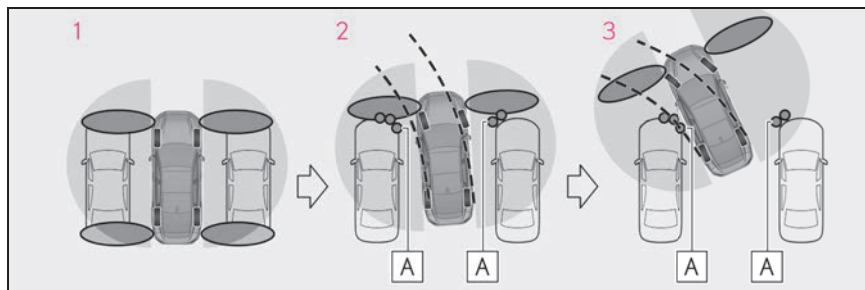
サイドエリアの静止物が車両の経路内にある場合に、表示とブザーで運転者に知らせます。



A 静止物

B 計算した車両経路

走行中にサイドセンサーまたはサイドカメラで静止物を検知します。車両が移動して静止物がサイドセンサーまたはサイドカメラで検知できない位置にあった場合も、車両の位置を計算することで静止物の位置を算出し、車両の経路内に静止物がある場合に、巻き込み警報機能が作動します。



A サイドセンサーまたはサイドカメラで検知した静止物

- 1 停車時はサイドエリアの静止物の検知は行いません。
- 2 車両移動中に静止物を検知
- 3 サイドセンサーまたはサイドカメラで静止物を直接検知していない状態でも、表示とブザーで知らせます。



知識

■ 巻き込み警報機能の作動条件

- EVシステム始動後、車両が約7m移動するあいだ
- シフトポジションをRからDにしたあと、車両が約7m移動するあいだ
- シフトポジションがRのとき
- センターディスプレイが表示されているとき
- フロントまたはリヤセンサーが静止物を検知しているとき

- 運転席・助手席・リヤ席のドアを完全に閉めているとき

■ サイドエリアの静止物の検知について

- サイドエリアの静止物は、センサーまたはカメラで直接検知するのではなく、車両前後のサイドセンサーまたはサイドカメラで検知したあと車両の位置を計算することで静止物の位置を算出します。そのためパワースイッチをONにしたあと、しばらく走行してセンサーまたはカメラでサイドエリアのスキャンが完了するまでは、サイドエリアに静止物があっても検知できない場

合があります。

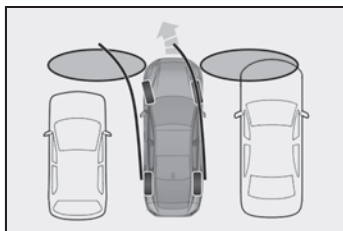
- サイドセンサーまたはサイドカメラで車・人・動物などがサイドセンサーまたはサイドカメラの検知範囲から出ても検知している状態が継続します。

⚠ 警告

■ サイドセンサーまたはサイドカメラについて

次のとき、クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

- パワースイッチをONにした直後の発進時、フロントサイドセンサーで検知できないような小さい車両や静止物が隣にあるとき。
下図の場合、前進しても左側にある車両を検知できないため、巻き込み防止警報機能は作動しません。



- サイドセンサーまたはサイドカメラで検知できない位置に静止物がある場合や、人がいるとき
- サイドエリアのスキャン完了後に、車・人・動物などが車両の横からサイドエリアに侵入してきたとき
- ドアミラーを格納しているとき
- 補機バッテリーを脱着したときやあがったときはドアミラーの開閉を実施してください。
- 運転席・助手席・リヤ席のドアが開いているとき

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）は、車両後退時に後側方レーダーセンサーが接近する車両や自転車を検知すると、ドアミラーインジケータとブザー、およびセンターディスプレイ上の表示により注意喚起を行います。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

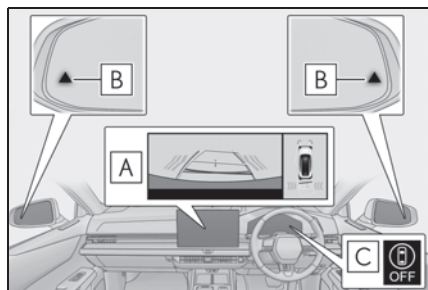
RCTA 機能は自車の右後方または左後方から接近してくる車両や自転車の存在を運転者に提供する補助的なシステムです。

RCTA 機能を使用しても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- システムを正しく作動させるために
→P.376

システムの構成部品



A センターディスプレイ

自車の右後方または左後方から接近している車両や自転車を検知したときは、センターディスプレイに検知した側の RCTA アイコン (→P.405) が点灯します。

イラスト※は両後方から車両や自転車が接近している例です。

※ 装備により、車両上部からの俯瞰映像が表示されない場合や、センターディスプレイに表示が出ない場合があります。

B ドアミラーインジケーター

自車の右後方または左後方から接近している車両や自転車を検知したときは、接近方向のドアミラーインジケーター (→P.168) が点滅し、ブザーが鳴ります。

C 運転支援 OFF 表示灯

RCTA が OFF のときに点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

設定のしかた

RCTA の ON / OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→P.626)

RCTA 機能が OFF のとき、運転支援 OFF 表示灯 (→P.168) が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。パワースイッチが ON になるたび、RCTA 機能は ON になります。

知識

■ ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらくなることがあります。

■ RCTA ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオなど大きな音がある場合、RCTA ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■ 後側方レーダーセンサーについて

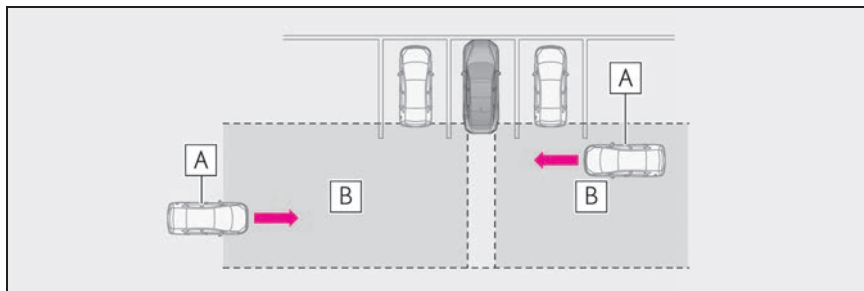
→P.376

RCTA 機能

■ RCTA 機能の作動

RCTA 機能は後側方レーダーセンサーにより自車の右後方または左後方から接近している車両や自転車を検知し、ドアミラーのインジケーターとブザー※によってその車両や自転車の存在を運転者に知らせます。

※ ブザーは停車中のとき吹鳴しません。



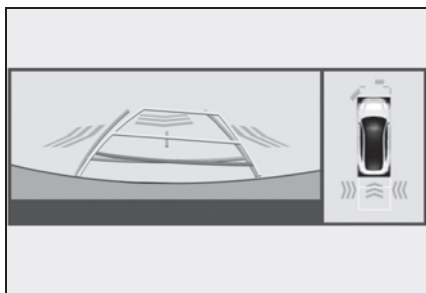
A 接近車両や自転車

B 接近車両や自転車を検知できる範囲

■ RCTA アイコンの表示

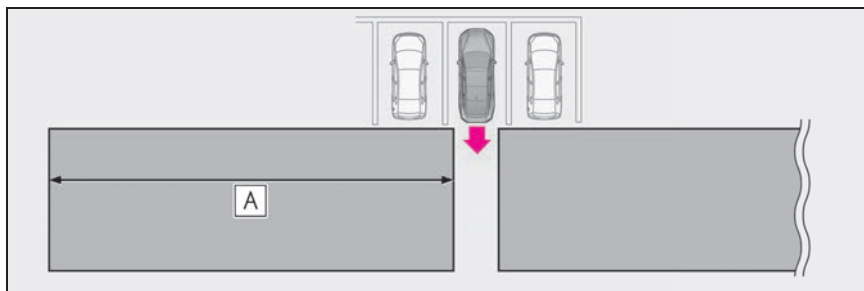
自車の右後方または左後方から接近している車両や自転車を検知したときは、センターディスプレイ上に次の表示をします。

例：両方向から車両や自転車が接近しているとき



■ RCTA 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両や自転車を検知します。



速度が速い車両や自転車に対しては、より離れた位置で警報ブザーを鳴らします。

接近する車両や自転車の速度	A 警報距離（概算）
56km / h（速い）	30m
8km / h（遅い）	4m

□ 知識

■ 補機バッテリーを脱着したときは

システムを初期化する必要があります。運転中、自動的に初期化されるため、しばらく運転を続けてください。

■ RCTA 機能の作動条件

RCTA 機能は、次の条件をすべて満たし

ているときに作動します。

- パワースイッチが ON のとき
- RCTA 機能が ON のとき
- シフトポジションが R のとき
- 自車の车速が約 15km / h 以下のとき
- 接近する車両や自転車の车速が約 8km / h ~ 56km / h のあいだのとき
- ドアミラーを格納していないとき

■ ブザーの音量調整について

カスタマイズメニューから、RCTA、クリアランスソナー、RCD の音量を一括で切りかえることができます。(→P.626)

■ ブザー音の一時ミュート（消音）

作動対象を検知した場合、センターディスプレイ上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。

これを押すとクリアランスソナー、RCTA、RCD のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

再度スイッチを押すと、解除されます。

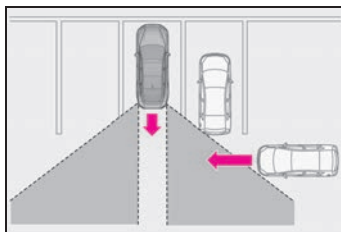
一時ミュート（消音）が解除されるとき：

- シフトポジションを切りかえたとき
- 车速が一定値以上になったとき
- センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
- 使用中の機能を OFF にしたとき
- パワースイッチを OFF にしたとき

■ システムが検知しない車両や自転車について

RCTA 機能は、次のようなものを検知対象としません。

- 真うしろから接近する車両や自転車
- 障害物のためにセンサーが検知できない車両や自転車



- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物※

- 小型のオートバイ・歩行者など※

- 自転車から遠ざかる車両や自転車

- 自車の隣の駐車スペースから接近する車両や自転車※

- センサーと接近する車両や自転車との距離が近すぎる場合

※ 状況によっては検知をすることがあります。

■ システムが正常に作動しないおそれがある状況

RCTA 機能は、次のような状況では車両や自転車を有効に検知しないおそれがあります。

- センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき

- 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリアバンパーに付着したとき

- 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき

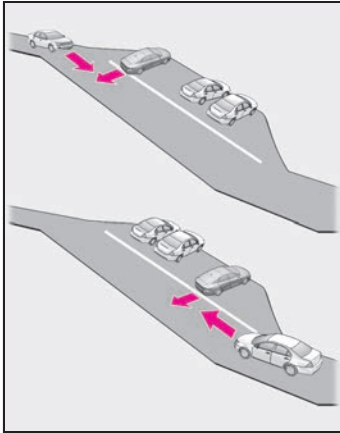
- 複数台の車両や自転車が狭い間隔で連続して接近するとき

- 車両や自転車が高速で接近するとき

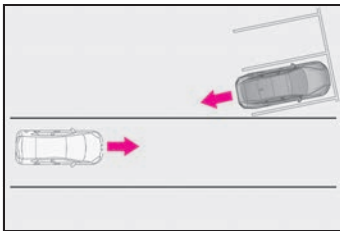
- センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき

- 勾配の変化が激しい坂で後退している

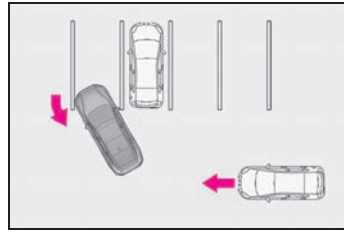
とき



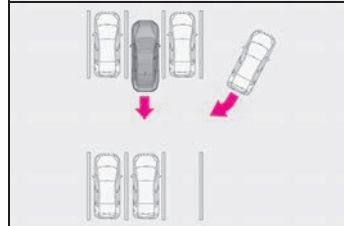
- 斜めの駐車場から出庫するとき



- RCTA 機能を ON にした直後
- RCTA 機能を ON にした状態で、EV システムを始動した直後
- 障害物のためにセンサーが車両や自転車を検知できないとき
- けん引しているとき
- 検知範囲に入る車両や自転車と自車の高さに差がありすぎるとき
- 炎天下や寒冷時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
- 車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- 自車が旋回しているとき



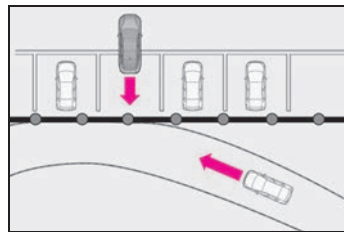
- 旋回しながら車両や自転車が近付いてきたとき



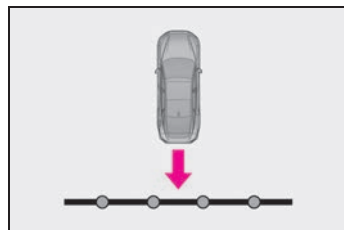
- 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

RCTA 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

- 駐車場に面した道を車両が走行しているとき



- 車両後方に電波の反射しやすい金属（ガードレール・壁・標識・駐車車両など）が存在するとき



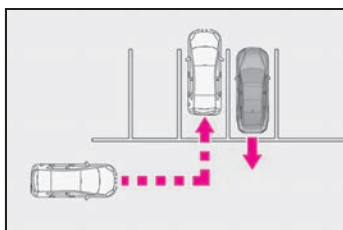
- センサー付近にけん引フック・バン

パープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき

- 車両や自転車が自車の横を通過するとき



- 自車の近くで旋回していく移動物が存在するとき



- 自車近くに室外機などの回転体があるとき
- センサーに向けてスプリンクラーなどによる水の飛散があったとき
- 動いているもの（旗・排気ガス・大粒の雨や雪、路面の雨水など）
- ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
- グレーチングや側溝
- 炎天下や寒冷時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
- 車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- けん引しているとき

RCD（リヤカメラディテクション）

車両後退時、リヤカメラが後方の歩行者を検知すると、ブザーとセンターディスプレイ上の表示により注意喚起を行います。

警告

■ 安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。

システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■ システムを正しく作動させるために

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- カメラに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- カメラ付近に市販の部品（字光式ナンバープレート、フォグランプなど）を取り付けしないでください。
- カメラ周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はレクサス販売店で点検を受けてください。
- カメラを分解・改造・塗装しないでください。
- カメラにアクセサリ・ステッカーを付けしないでください。
- リヤバンパーに市販の保護パーツ（バンパートリムなど）を取り付けしないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。
- トランクを完全に閉めてください。

警告

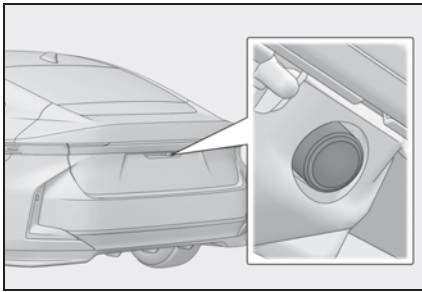
■ RCD の機能を OFF にするとき

次のときはシステムを OFF にしてください。RCD 機能が正常に作動しないことがあり思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

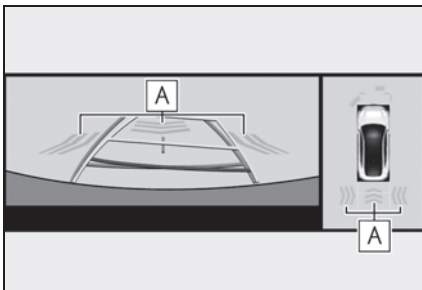
- 上記の内容が守られないとき
- 純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

システムの構成部品

リヤカメラの位置



RCD の表示



A 歩行者検知表示

車両後方の歩行者を検知すると、自動的に表示されます。

システムを作動させるには

RCD の ON / OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→P.626)

RCD が OFF のとき、運転支援 OFF 表示灯 (→P.168) が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

パワースイッチが ON になるたび、RCD は ON になります。

歩行者を検知した場合

車両後方エリアに歩行者がいる場合や、車両後方に向かって歩行者が接近してくるのをリヤカメラが検知した場合、下記のようにブザーとセンターディスプレイの歩行者検知表示で運転者に注意を促します。

- ▶ 歩行者が **A** または **B** エリアにいるとき

ブザー：3 回吹鳴 ※

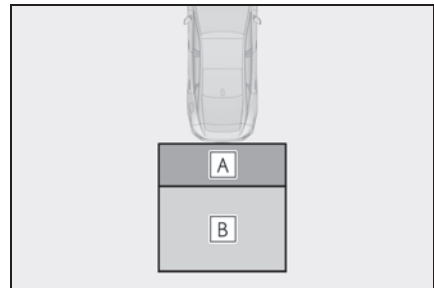
歩行者検知表示：点滅

- ▶ 歩行者が **A** エリアに向かって接近してくるとき

ブザー：くり返し吹鳴 ※

歩行者検知表示：点滅

※ ブザーは停車中のとき吹鳴しません。



 知識

■補機バッテリーを脱着したときは

システムを初期化する必要があります。運転中、自動的に初期化されるため、しばらく運転を続けてください。

■作動条件

- パワースイッチが ON のとき
- RCD 機能が ON のとき
- シフトポジションが R にあるとき
- Advanced Park が作動中でないとき

■ブザーの音量調整

カスタマイズメニューから、クリアランスソナー、RCTA、RCD の音量を一括で切りかえることができます。(→P.626)

■ブザー音の一時ミュート（消音）

作動対象を検知した場合、センターディスプレイ上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。

スイッチを押すとクリアランスソナー、RCTA、RCD のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

再度スイッチを押すと、解除されます。

次のいずれかの操作をすると、自動的にミュート（消音）を解除します：

- シフトポジションを切りかえたとき
- 車速が一定値以上になったとき
- センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
- 使用中の機能を OFF にしたとき
- パワースイッチを OFF にしたとき

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

- 例えば、次のような歩行者はカメラが正しく検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
- ・ 前かがみになっている、またはしゃが

んでいる人

- ・ 寝転んでいる人
- ・ 走っている人
- ・ 自転車や建物の影から突然現れる歩行者
- ・ 自転車やスケートボードなどに乗っている人
- ・ 合羽やロングスカートを着ていて、全身の輪郭があいまいな歩行者
- ・ カートや荷物、傘などにより体の一部が隠れている歩行者
- ・ 夜間の歩行者や周囲の色とよく似た色の服装の歩行者

- 例えば、次のような状況ではカメラが対象となる歩行者を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- ・ 悪天候（雨、雪、霧など）
- ・ レンズに汚れ（泥、融雪剤など）や傷があるとき
- ・ 強い光がカメラに直接あたっているとき
- ・ 明暗差があるとき（ガレージや地下駐車場の開いたシャッター付近など）
- ・ 夜間（日没後）や薄暗い駐車場
- ・ カメラの位置や向きがずれているとき
- ・ けん引フックを取り付けているとき
- ・ カメラレンズ上に水滴が流れているとき
- ・ 車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- ・ タイヤチェーン・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- ・ ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
- ・ リヤカメラ付近に市販の部品（字光式ナンバープレート、フォグランプなど）を取り付けているとき
- ・ リヤバンパーに市販の保護パーツ（バンパートリムなど）を取り付けているとき
- ・ けん引しているとき

■ システムが作動するおそれがあるとき

- 例えば、次のようなものに対しては、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
 - ・ 立体物（柱、パイロン、フェンス、駐車車両など）
 - ・ 移動物（通行車両、バイクなど）
 - ・ 動いている物（旗、排気ガス、大粒の雨や雪、路面の雨水など）
 - ・ 路面に模様があるとき（白線、横断歩道、石畳、路面電車のレール、補修痕、落ち葉、砂利など）
 - ・ 金属のフタ（グレーチング）や側溝
 - ・ 水たまりやぬれた路面への物体の映り込み
 - ・ 影
- 例えば、次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
 - ・ 路肩や段差があるとき
 - ・ 勾配変化があるとき
 - ・ 車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
 - ・ リヤカメラ付近に市販の部品（字光式ナンバープレート、フォグランプなど）を取り付けているとき
 - ・ リヤバンパーに市販の保護パーツ（バンパートリムなど）を取り付けているとき
 - ・ カメラの位置や向きがずれているとき
 - ・ けん引フックを取り付けているとき
 - ・ カメラレンズ上に水滴が流れているとき
 - ・ カメラが汚れているとき（泥、融雪剤など）
 - ・ 点滅する光源があるとき（ハザードランプなど）
 - ・ タイヤチェーン・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
 - ・ けん引しているとき
- 検知を妨げる状況
 - ・ オーディオの音量が大きい場合や周囲が騒がしい場合、ブザーの警報音が聞

こえない場合があります

- ・ 高温／低温環境では、ディスプレイの表示が見にくい場合があります

PKSB（パーキングサポートブレーキ）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、駐車時などの低速走行時に作動対象を検知した場合、警報とブレーキ制御で作動対象との衝突被害の低減に寄与するシステムです。

駐車支援機能

システムは次のものを作動対象として検出しています。（機能によって、作動対象が異なります。）

- パーキングサポートブレーキ（前方静止物）

→P.416

- パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）

→P.419

- パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）

→P.421

- パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）

→P.416

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

道路状況、車両状態および天候など、状況によっては作動しない場合があります。

センサー、レーダーでの検知には限界があります。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。PKSB（パーキングサポートブレーキ）は作動対象への衝突を緩和し、衝突被害低減に寄与できる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。

- PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。

- 故意に車や壁に向かって走行するなど、システムの作動を確認する行為は大変危険です。絶対におやめください。

■ パーキングサポートブレーキを OFF にするとき

次のときは、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF にしてください。衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

警告

- 点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用するとき
 - 船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
 - ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
 - 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
 - センサー付近にけん引フック・輸送用フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノープラウ）などを取り付けたとき
 - 自走式洗車機を利用するとき
 - 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
 - オフロード走行やスポーツ走行をするとき
 - タイヤの空気圧が適正でないとき
 - 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
 - タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
 - けん引しているとき
- **サスペンションの取り扱いについて**
- 車高や車の傾きが変化すると、センサーが作動対象物を正しく検知できなくなり、システムが正しく作動しなくなるおそれがあり危険です。サスペンションの改造はしないでください。

システムを作動させるには

パーキングサポートブレーキの ON / OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。
(→P.627)

PKSB（パーキングサポートブレーキ）が OFF のとき、PKSB OFF 表示灯（→P.168）が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にした場合、再度、カスタマイズメニュー（→P.627）から ON（作動）にしないとシステムは復帰しません。

（パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、復帰しません）

EV システム出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

EV システム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、センターディスプレイおよびマルチインフォメーションディスプレイに、システムによる加速制限を示すメッセージや、ブレーキ操作を促すメッセージが表示されます。

出力抑制制御は状況により、加速制限制御が出力最大抑制制御のいずれかが作動します。

● EV システム出力抑制制御作動中（加速制限制御）

一定以上の加速をシステムが制限しているとき：

センターディスプレイ表示：表示なし

マルチインフォメーションディスプレイ
表示例：“加速抑制中です”

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：吹鳴なし

● EV システム出力抑制制御作動中 (出力最大抑制制御)

通常よりやや強めのブレーキ操作が必要
だとシステムが判断したとき：

センターディスプレイ表示例：“ブレー
キ！”

マルチインフォメーションディスプレイ
表示例：“ブレーキ！”

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：ピー（連続音）

● ブレーキ制御作動中

急ブレーキが必要だとシステムが判断し
たとき：

センターディスプレイ表示例：“ブレー
キ！”

マルチインフォメーションディスプレイ
表示例：“ブレーキ！”

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：ピー（連続音）

● システム作動により車両停止

ブレーキ制御作動後に車両が停止したと
き：

センターディスプレイ表示例：“ブレー
キを踏んでください”

マルチインフォメーションディスプレイ
表示例：“アクセルが踏まれています
ブレーキを踏んでください”、“ブレー
キを踏んでください”

PKSB OFF 表示灯：点灯

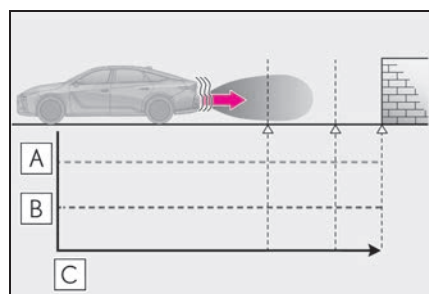
ブザー：ピー（連続音）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）の作動について

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、衝突の可能性がある作動対象（壁などの静止物、後方接近車両や後方歩行者）を検知したとき、EV システムの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます（EV システム出力抑制制御：図 2）

また、そのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます。（ブレーキ制御：図 3）

● 図 1（PKSB[パーキングサポートブレーキ]非作動時）

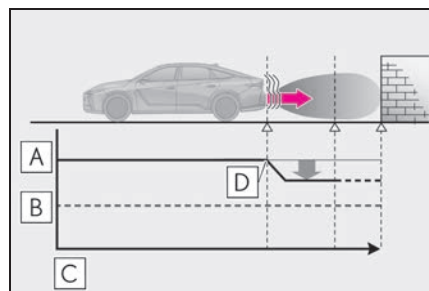


A EV システム出力

B 制動力

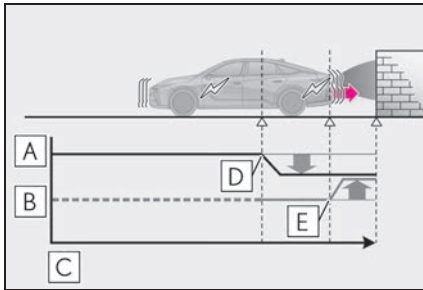
C 時間

● 図 2（EV システム出力抑制制御時）



- A** EV システム出力
- B** 制動力
- C** 時間
- D** EV システム出力抑制制御開始
(作動対象と衝突の可能性がある
とシステムが判断したとき)

● 図 3 (EV システム出力抑制制御かつブレーキ制御時)



- A** EV システム出力
- B** 制動力
- C** 時間
- D** EV システム出力抑制制御開始
(作動対象と衝突の可能性がある
とシステムが判断したとき)
- E** ブレーキ制御開始 (作動対象と衝突の可能性が非常に高いとシステムが判断したとき)

知識

■補機バッテリーを脱着したときは

システムを初期化する必要があります。運転中、自動的に初期化されるため、しばらく運転を続けてください。

■PKSB (パーキングサポートブレーキ) が作動したときは

システム作動により車両が停止した場合、PKSB (パーキングサポートブレーキ) が停止して、PKSB OFF 表示灯が点灯しま

す。

また、PKSB (パーキングサポートブレーキ) が作動した場合でもブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、そのまま発進できます。

また、ブレーキペダルを踏んでも解除されるため、再度アクセルペダルを踏むと発進できます。

■PKSB (パーキングサポートブレーキ) 作動後の復帰について

システム作動により PKSB (パーキングサポートブレーキ) が停止したときに、PKSB (パーキングサポートブレーキ) を復帰させたい場合は、再度 PKSB (パーキングサポートブレーキ) を ON にするか、パワースイッチをいったん OFF にしてから、再度 ON にしてください。

また、次の状況でも自動的に PKSB (パーキングサポートブレーキ) が復帰し、PKSB OFF 表示灯が消灯します。(→P.168))

- シフトポジションを P にする
- 進行方向の作動対象がなくなった状態で走行する
- 車両の進行方向を切りかえる

■クリアランスソナーのブザーについて

クリアランスソナーの ON / OFF に関係なく(→P.396)、PKSB (パーキングサポートブレーキ) を停止させていなければ(→P.413)、ブレーキ制御と EV システム出力抑制制御が作動すると、クリアランスソナーのブザーも鳴り、作動対象とのおよその距離をお知らせします。

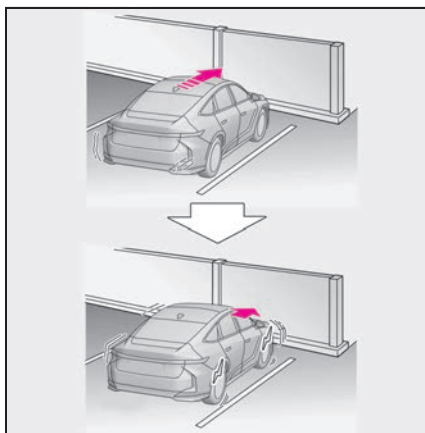
パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）

駐車時や低速走行時において、壁などの静止物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進、および、シフトポジション選択を誤っての発進時に、センサーが前後進行方向の静止物を検知するとシステムが作動し、衝突を緩和し衝突被害低減に寄与します。

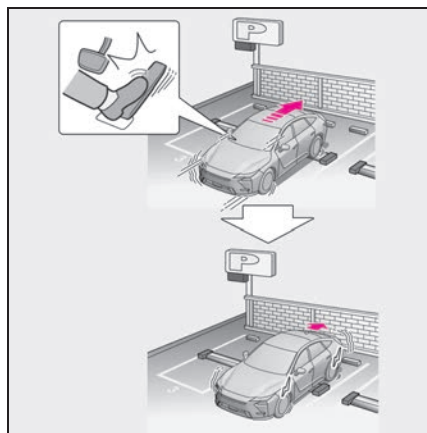
システム作動例（前後方静止物）

次のようなときに進行方向の静止物を検知してシステムが作動します。

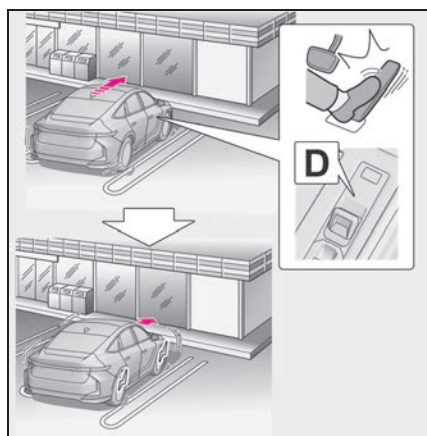
- 低速走行時にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき



- アクセルペダルを踏みすぎてしまったとき



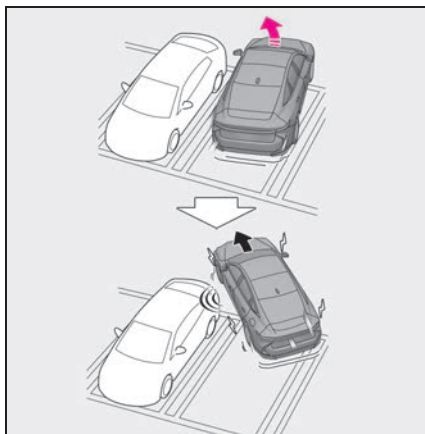
- 誤ってシフトポジションをDにして前進してしまったとき



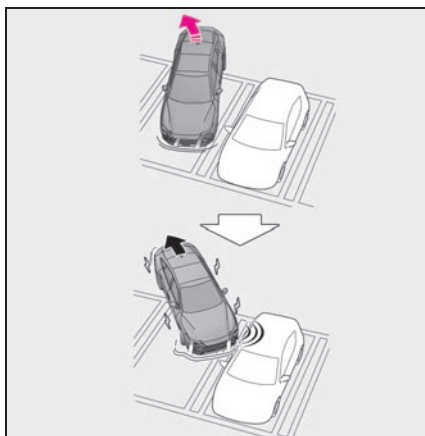
システム作動例（周囲静止物）

次のようなときに周囲の静止物を検知してシステムが作動します。

■ 前進中に内輪差で巻き込みによる衝突



■ 後退中に外輪差で巻き込みによる衝突



センサーの種類

→P.396



警告

■ システムを正しく作動させるために

→P.397

■ 万一、踏切内などで PKSB（パーキングサポートブレーキ）が誤って作動したときは

→P.415

■ 洗車時の注意

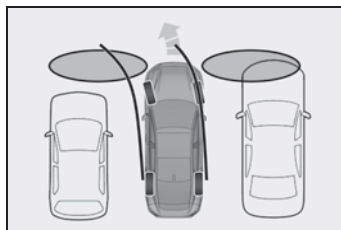
→P.397

■ サイドセンサーまたはサイドカメラについて

次のとき、パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）が正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

● パワースイッチをONにした直後の発進時、フロントサイドセンサーで検知できないような小さい車両や静止物が隣にあるとき。

下図の場合、前進しても左側にある車両を検知できないため、パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）は作動しません。



● サイドセンサーまたはサイドカメラで検知できない位置に静止物がある場合や、人がいるとき

● サイドエリアのスキャン完了後に、車・人・動物などが車両の横からサイドエリアに侵入してきたとき

● ドアミラーを格納しているとき

● 補機バッテリーを脱着したときやあがったときはドアミラーの格納・復帰を実施してください。

警告

- 運転席・助手席・リヤ席のドアが開いているとき

知識**■ パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）の作動開始条件**

PKSB OFF 表示灯が点灯（→P.168）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

- EV システム出力抑制制御
 - ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
 - ・ 車速が約 15km/h 以下
 - ・ 車両進行方向に作動対象となる静止物があるとき（約 2 ～ 4m 先まで）
 - ・ 衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

● ブレーキ制御

- ・ EV システム出力抑制制御作動中
- ・ 衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■ パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）の作動開始条件

前後方静止物の作動条件に加えて、次の条件のいずれかを満たすと作動します。

- EV システム始動後、車両が約 7m 前進するあいだ
- シフトポジションが R のとき
- シフトポジションを R から D にしたあと、車両が約 7m 前進するあいだ
- 運転席・助手席・リヤ席のドアが開いているとき
- ドアミラーを格納していないとき

■ パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了

します。

- EV システム出力抑制制御
 - ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
 - ・ 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとシステムが判断したとき
 - ・ 車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2 ～ 4m 先まで）

● ブレーキ制御

- ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
- ・ ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
- ・ ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
- ・ 車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2 ～ 4m 先まで）

■ パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）の検知範囲は、クリアランスソナーの検知範囲（→P.400）とは異なります。そのため、クリアランスソナーが静止物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）は作動を開始していない場合があります。

■ システムが正常に作動しないおそれのある状況

→P.398

■ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

→P.399

■ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況（周囲静止物）

前後方静止物の作動条件（→P.418）に加えて、次のような状況ではシステムが作動する可能性があります。

- 縦列駐車時など側方の幅寄せするとき

(→P.436)

■ サイドエリアの静止物の検知について

- サイドエリアの静止物は、センサーまたはカメラで直接検知するのではなく、車両前後のサイドセンサーまたはサイドカメラで検知したあと車両の位置を計算することで静止物の位置を算出します。そのためパワースイッチを ON にしたあと、しばらく走行してセンサーまたはカメラでサイドエリアのスキャンが完了するまでは、サイドエリアに静止物があっても検知できない場合があります。
- サイドセンサーまたはサイドカメラで車・人・動物などがサイドセンサーまたはサイドカメラの検知範囲から出て検知している状態が継続します。

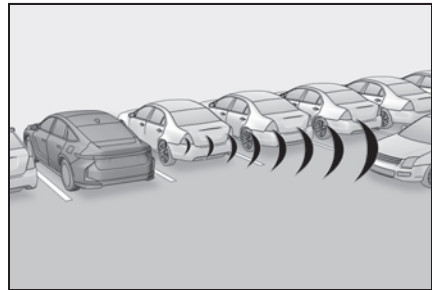
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）

後側方レーダーセンサーで自車の右後方または左後方から接近している車両や自転車を検知し、システムが衝突の危険性があると判断した場合にブレーキ制御をすることで、接近する車両や自転車への衝突を緩和し衝突被害軽減に寄与します。

システム作動例

次のようなときに進行方向の車両や自転車を検知してシステムが作動します。

- 後退時、車両や自転車が接近中にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき



センサーの種類

→P.376



警告

■ システムを正しく作動させるために

→P.376

⚠ 警告

■ 万一、パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）が誤って作動したときは

パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）作動後はすぐにブレーキを踏んでください。（ブレーキを踏むとシステムは解除されます。）

📖 知識

■ パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動開始条件

PKSB OFF 表示灯が点灯（→P.168）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

- EV システム出力抑制制御
 - ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
 - ・ 車速が約 15km / h 以下
 - ・ 後側方から接近する車両や自転車の車速が約 8km / h 以上
 - ・ シフトポジションが R のとき
 - ・ 後側方からの接近する車両や自転車への衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

● ブレーキ制御

- ・ EV システム出力抑制制御作動中
- ・ 後側方からの接近する車両や自転車への衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■ パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

- EV システム出力抑制制御
 - ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
 - ・ 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき

- ・ 自車後側方への接近する車両や自転車がなくなったとき

● ブレーキ制御

- ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
- ・ ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
- ・ ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき

■ システムが正常に作動しないおそれのある状況

→P.406

■ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

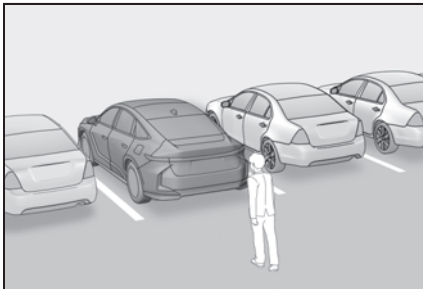
→P.407

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）

車両後退時、リヤカメラが検知した車両後方にいる歩行者と接触する可能性が高いとシステムが判断した場合は、警報やブレーキ制御により、後方歩行者との衝突を緩和し、衝突被害軽減に寄与します。

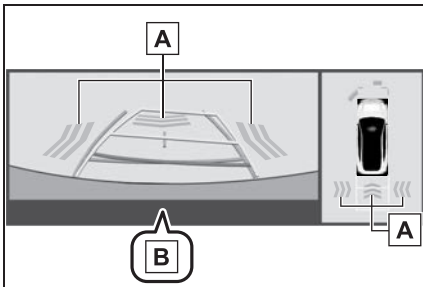
システム作動例

後退時、歩行者が車両後方に接近中、ブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったときにシステムが作動します。



後方歩行者の画面表示

車両後方の歩行者を検知すると自動的にセンターディスプレイ上に表示され、ブレーキ操作を促します。



A 歩行者検知表示

B 例：“ブレーキ！”

警告

■ 万一、パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）が誤って作動したときは

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）作動後はすぐにブレーキを踏んでください。（ブレーキを踏むとシステムは解除されます。）

■ パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）を正しくお使いいただくために

→P.408

知識

■ パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の作動開始条件

PKSB OFF 表示灯が点灯（→P.168 して）おらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

- EV システム出力抑制制御
- ・ パーキングサポートブレーキ（PKSB）を ON（作動）にしているとき
- ・ 車速が 15km/h 以下
- ・ シフトポジションが R のとき
- ・ 自車後方に歩行者がいるとき
- ・ 衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

● ブレーキ制御

- ・ EV システム出力抑制制御作動中
- ・ 後方歩行者との衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■ パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了

します。

- EV システム出力抑制制御
- ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
- ・ 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
- ・ 後方歩行者がいなくなった、または検知できなくなったとき
- ブレーキ制御
- ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
- ・ ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
- ・ ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき

■ パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の復帰について

→P.415

■ パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の検知範囲は、RCD の検知範囲（→P.409）とは異なります。そのため、RCD が後方歩行者との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）は作動を開始していない場合があります。

■ システムが正常に作動しないおそれがあるとき

→P.410

■ システムが作動するおそれがあるとき

→P.411

Lexus Teammate Advanced Park

機能概要

Advanced Park は、画面表示や音声／ブザー音による操作案内および、ハンドル操作、アクセル、ブレーキ、シフトチェンジの全操作を車両が支援するとともに、俯瞰映像に車両周辺の死角や目標駐車位置などを常に表示し、安全／安心でスムーズな駐車や出庫を実現するシステムです。

また、パノラミックビューモニター※で、障害物の位置をディスプレイのカメラ映像上に表示することで、運転者に周辺状況をわかりやすく伝えます。

アシストが開始してから目標駐車位置到達まで方向指示灯を自動的に点滅させることにより、周囲へ駐車中であることをお知らせします。

駐車時の路面や自車の状況／目標駐車位置までの距離などにより、設定した目標駐車位置に到達できない場合があります。

Advanced Park は、その地域の道路交通法及び規則に従ってご使用ください。

※ パノラミックビューモニターの詳細は、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ リモート機能

Advanced Park のリモート機能は、車外からスマートフォンを操作することで、ハンドル、シフトポジション、アクセルとブレーキ操作を遠隔でアシストし、画面上で確認した目標駐車位置付近への駐車や出庫を補

助するシステムです。

前後移動機能を除き、アシストが開始してから目標駐車位置到達まで方向指示灯を自動的に点滅させることにより、周囲へ駐車中であることをお知らせします。

使用前のご準備：→P.443

機能一覧

■ 並列前向き／バック駐車機能

目標駐車位置の横に停車した状態から、目標駐車位置までアシストを行います。(→P.432)

■ 並列前向き／バック出庫機能

並列駐車状態からアシストを開始し、駐車スペースから出られる位置までアシストを行います。(→P.435)

■ 縦列駐車機能

目標駐車位置の横に停車した状態から、目標駐車位置までアシストを行います。(→P.436)

■ 縦列出庫機能

縦列駐車状態からアシストを開始し、駐車スペースから出られる位置までアシストを行います。(→P.439)

■ リモート機能

車外からスマートフォンを操作することで、画面上で確認した目標駐車位置付近への駐車や出庫を補助します。(→P.441)



知識

■ 商標について

Bluetooth® ワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc. が所有権を有します。トヨタ自動車株式会社

は使用許諾の下でこれらのマークおよびロゴを使用しています。

その他の商標および登録商標は、それぞれの所有者の商標および登録商標です。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

本システムは認識性能／制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

- 一般の車と同様、必ず車両周辺の安全を直接確認しながら慎重に前進または後退してください。
- システムを使用するときは、必ず車両周辺の安全を直接確認してください。
- 使用中は必要に応じてブレーキを踏んで車両を減速、停車させてください。リモート機能を使用している場合は、リモート機能用のスマートフォン専用アプリ（以降、専用アプリ）の操作をやめて車両を停車させてください。
- 駐車するときは、必ず目標駐車位置に車を駐車できるかを確認してから操作を行ってください。
- 駐車時の路面や自車の状況、駐車スペースまでの距離などにより、駐車スペースを認識できなかったり、最後までアシストできないことがあります。
- 開始スイッチを押す前にブレーキペダルから足を離すと、アシストが開始されず車両が動いてしまう可能性があります。アシストが開始されるまでブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。

警告

- 本システムは適切な経路で切り返し位置の案内を出しますが、隣接車両への接近など、運転者が不安に感じた場合は、任意のタイミングでブレーキを踏んでからシフトポジションを切りかえてください。ただし、切り返し回数が多くなったり、駐車精度が悪化することがあります。

- 次のようなもの／場合は検知できないことがあるため、周辺の安全を直接確認し、接触のおそれがある場合はブレーキを踏んで停車してください。

リモート機能を使用している場合は、専用アプリの操作をやめて車両を停車させてください。

- ・ 細いもの（針金／フェンス／ロープ／ポールなど）や接近する角度によって細く見えるもの（看板／自転車など）
- ・ 音波を吸収しやすいもの（綿／雪など）
- ・ 鋭角的な形のもの（ブロック塀や柱、壁の角など）
- ・ 背の低いもの（縁石やブロック、階段、車止めなど）
- ・ 背が高く上部が張り出しているもの（梁など）
- ・ 地面に対し垂直でないもの
- ・ 障害物に対して斜めに接近する場合
- ・ 夜間など周囲が暗いとき
- 駐車スペース内に障害物が存在しても、検出できずにアシストすることがあります。

- 周辺の車両や障害物、人などに接触しそうなときや、車止めを乗り越えそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、Advanced Park メインスイッチを押してシステムを中止してください。

リモート機能を使用している場合は、専用アプリの操作をやめて車両を停車させてください。

- センターディスプレイだけを見ながら走行することは絶対にしないでください。画面に映っている映像と実際の状況は異なることがあり、画面だけを見て走行すると車をぶついたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。走行するときは、必ず目視やミラーなどで周辺の安全を直接確認してください。

- 外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像が薄れることがあります。特に動いているものの映像が歪む、または画面から見えなくなることがあるため、必ず周囲の安全を直接目で確認しながら運転してください。

- 次のとき、Advanced Park による停車保持が解除され、車両が動き出すおそれがあります。思わぬ事故につながるおそれがあるため、ただちにブレーキペダルを踏んでください。

リモート機能を使用している場合は、専用アプリの操作をやめて車両を停車させてください。

- ・ 作動中に運転席のドアが開けられたとき
- ・ 作動中に一定時間システムの指示に従わなかったとき
- ・ 作動中に一定時間ブレーキペダルを踏んで停車しているとき
- ・ 作動中に故障が発生したとき

警告

- 使用中はハンドルが回転するため、次の点に注意してください。
 - ・ネクタイ／スカーフ／腕などを巻き込むおそれがあります。上体をハンドルに近づけないでください。また、お子さまがハンドルに近づかないよう注意してください。
 - ・爪が長いとハンドルが回転する際にけがをするおそれがあります。
 - ・万一のときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、Advanced Park メインスイッチを押してシステムを中止してください。

リモート機能を使用している場合は、専用アプリの操作をやめて車両を停車させてください。

- 使用中は窓から手を出さないでください。

■Advanced Park を正しく作動させるために

必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 次のような状況では使用しないでください。
 - ・駐車場以外の場所
 - ・砂地／砂利地のような駐車スペースのない整備されていない駐車場
 - ・傾斜／段差／穴／側溝のある平坦でない駐車場
 - ・機械式駐車場
 - ・車両下部に接触して固定する装置がある駐車場
 - ・凍結したり、すべりやすい路面、または雪道

- ・真夏の炎天下でアスファルトがとけているようなとき
- ・車両周辺に障害物があるとき
- ・目標駐車位置（青色の枠の中）や自車と目標駐車位置とのあいだに障害物があるとき
- ・人や車両などの通行量が多いとき
- ・駐車スペースの確保が困難な場所（車両が入らないほど狭いなど）
- ・カメラのレンズの汚れ／西日／影／雪などで画面が見にくいとき
- ・タイヤチェーン／応急用タイヤを使用しているとき
- ・ドアまたはトランクが完全に閉まっていないとき
- ・ドアミラーを格納しているとき
- ・窓から手を出しているとき
- ・降雪や豪雨のとき
- メーカー出荷時装着タイヤ以外のタイヤは使用しないでください。Advanced Park が正常に作動しないおそれがあります。また、タイヤを交換すると、画面に表示される線や枠の表示位置に誤差が生じることがあります。タイヤを交換するときはレクサス販売店にご相談ください。
- 次のような状況では、設定した位置にアシストできなかつたり、システムが正常に作動しない場合があります。
 - ・タイヤが極端に摩耗していたり、空気圧が低いとき
 - ・極端に重いものを積んでいるとき
 - ・車両の片側にだけ荷物などを積んで車両が傾いているとき

 警告

- ・ 駐車場にロードヒーター（路面凍結防止用のヒーター）が設置されているとき
- ・ タイヤを縁石などに強く当てて、ホイールアライメントが正常でないとき
- ・ アシスト中に歩行者や通行車両を検知したとき
- ・ けん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- ・ 区画線と認識してしまうようなもの（光／建物の映り込み／段差／側溝／路面ペイント／引き直し線など）があるとき

上記以外で設定位置と車両の位置が大きくずれる場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ リモート機能を使用するとき

- リモート機能は Advanced Park の関連機能です。リモート機能を公道で使用する場合は、その地域の道路交通法及び規則に従ってください。
- 専用アプリの注意事項に同意いただいた方のみリモート機能がご利用いただけます。
- リモート機能は運転操作の一部です。必ず運転免許証を保有している運転者が操作してください。専用アプリ使用時は電子キーを必ず携帯してください。操作中は専用アプリ画面を注視せず、車両周辺を直接ご確認ください。緊急時には操作を中断し、車両を停止させてください。
- 一般の車と同様、必ず車両周辺の安全を直接確認しながら慎重に前進または後退してください。

- システムを使用するときは、必ず車両周辺の安全を直接確認してください。
- ボンネットが閉じていることをご確認の上、ご使用ください。
- リモート機能は、駐車や出庫の操作をスマートフォンによる遠隔操作でアシストするシステムです。リモート機能を使用するときは、運転者が電子キーとスマートフォンを保持した上で、車両周辺の安全確認を行ってください。
- リモート機能使用中はスマートフォンの操作をやめることで車両を停止することができます。また、専用アプリで停止操作を行うことや電子キーを使った解錠やドアを開けることでも車両を停止することができます。
- 障害物などに接触しそうなときは、スマートフォンの操作をやめて、必要に応じてリモート機能を中止してください。
- スマートフォンの操作方法によらずシステムで一定の速度となるように制御されます。
- スマートフォンの画面を注視して、車両を走行させることは絶対にしないでください。
- 走行時は必ず目視で周辺の安全を直接確認してください。
- 車内に人やペットが残っている状態でリモート機能を使用しないでください。
- 万一の時は電子キーのスイッチを操作するか、ドアを開けて車両を停止させてください。

警告

- リモート機能を使用する際は、スマートフォンと最新の専用アプリが必要です。

アプリストアから、専用アプリをダウンロードしてください。

- 専用アプリへの車両登録時は車両と接続している他のアプリを OFF にしてください。

- リモート機能を使用する場合は、Apple CarPlay / Android Auto ™の接続を OFF にしてください。

- ・ Apple CarPlay は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。

- ・ Android Auto ™は、Google LLC の商標です。

- 駐車するときは、必ず目標駐車位置に車を駐車できるかを確認してから操作を行ってください。

- リモート機能作動中は平坦ですべりにくい路面でのみ使用してください。駐車スペースが下り坂または上り坂にあるような場合では使わないでください。

- リモート機能使用中に故障またはシステムの限界が検知された場合は、以下の処理が自動的に行われます。

- ・ アシストを中止する
- ・ 車両を停止する
- ・ シフトポジションを P にし、パーキングブレーキをかける
- ・ パワースイッチを OFF にする（一部の故障ではパワースイッチを OFF にしない、またはできないことがあります。スマートフォン上のメッセージに従って乗車し、処置を実施してください。）

- ・ 車両が施錠されたままになる

- リモート機能開始時は電子キーのワイヤレス機能で解錠操作をしてください。

- リモート機能使用中は、運転者は車両から約 6m 以上離れて立たないでください。約 6m 以内であっても一定距離以上離れるとリモート機能が中断され、スマートフォンにメッセージが表示されることがありますが、車両に近づくことでアシストを再開できます。

- リモート機能使用中はヘッドライトを自動で点灯します。

- 異常終了時は非常点滅灯（ハザードランプ）が点滅します。非常点滅灯の消灯条件は以下項目です。

- ・ ドアを開く

- ・ 非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅開始から 3 分が経過

- 以下の車両状態からのみリモート機能を開始できます。

- ・ EV システム始動中に、アシストモードを選択後

- ・ パワースイッチが OFF の時

注意

■ Advanced Park をお使いいただくために

補機バッテリーを脱着したときやあがったときはドアミラーの開閉を実施してください。

 注意**■ リモート機能を使用するとき**

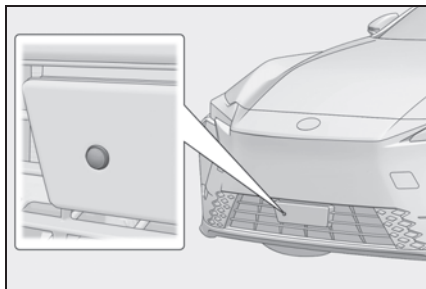
- 使用前にスマートフォンの電池残量をご確認ください。リモート機能作動中にスマートフォンの電池が切れてしまうとアシストを中断します。また、開始時にスマートフォンの電池残量が20%以上ない場合、リモート機能をご利用いただけません。
- 使用前にスマートフォンの Bluetooth® を ON にしてください。Bluetooth® 接続機能 OFF の状態ではリモート機能をご利用いただけません。
- 使用中にスマートフォンの Bluetooth® を OFF にしたり、マルチメディアシステムとの接続を OFF にしないでください。車両と Bluetooth® 接続できていない状態ではリモート機能を使用できません。
- リモート機能使用中に電話がかかってきた場合など、他のアプリが起動した場合はリモート機能は中断します。3分未満で専用アプリの利用を再開すればアシストを再開できます。3分以上経過した場合はアシストを中止します。
- リモート機能使用中にスマートフォンのホームボタンや電源ボタンを押して、画面ロック状態になった場合はリモート機能を中断します。3分未満で専用アプリの利用を再開すればアシストを再開できます。3分以上経過した場合はアシストを中止します。
- リモート機能使用中に専用アプリを強制終了しないでください。強制終了した場合はアシストを中止します。

- 低温環境下では、補機バッテリー充電のため、システム開始までに時間がかかる場合があります。
- 補機バッテリーの電圧が低下した場合、アシストを中止します。
- 下り勾配では、平坦な道路に比べ走行車速が遅くなり、障害物までの接近距離が遠くなります。
- システム異常時には、シフトポジションがPまたはパーキングブレーキで車両を停車後、パワースイッチをOFFしてシステムを中止することがあります。その場合は、レクサス販売店で点検を実施してください。
- システム不調時には、一時的にアシストを中断する場合があります。システムが復帰すれば再開できますので、スマートフォン画面の内容に従い再開操作をしてください。
- リモートスタートが作動している場合はリモート機能が正常に作動しない場合があります。
- リモート機能終了時は法規によりパーキングブレーキをロックします。凍結によりパーキングブレーキを解除できない場合がありますので、寒冷地でのご使用はお控えください。また、凍結した場合、パーキングブレーキ解除時に音がする場合がありますが性能に問題はありません。
- 電池切れの電子キーではリモート機能を使用しないでください。

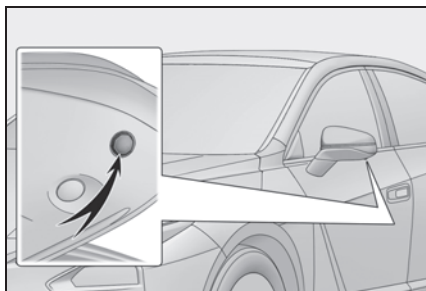
Advanced Park で使用するカメラとセンサーの種類

カメラとセンサーにより駐車車両を検出して、駐車位置を特定しやすくします。

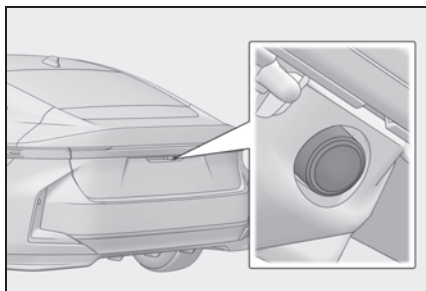
▶ フロントカメラ



▶ サイドカメラ



▶ リヤカメラ



▶ センサー

→P.396



知識

■ カメラの映像について

特殊なカメラを使用しているため、実際と異なる色味で表示されることがあります。

■ 使用上の注意点について

次の内容は、別冊「マルチメディア取扱説明書」のパノラミックビューモニター（Lexus Teammate Advanced Park 装着車）を参照してください。

- 画面の映る範囲について
- カメラについて
- 画面と実際の路面との誤差について
- 画面と実際の立体物との誤差について

■ カメラとセンサーの検知範囲について

- 駐車車両が目標駐車位置の奥にある場合は、距離が遠くなるため検出できないことがあります。駐車車両の形状や条件によっては検出距離が短くなったり、検出できないことがあります。
- 柱や壁など駐車車両以外は検出できないことがあります。また、検出できても目標駐車位置がずれることがあります。

■ 区画線認識が正常に作動しないおそれのある状況

- 次のような状況では、路面の区画線を検出することができない場合があります。
 - ・ 区画線のない駐車場（駐車スペースがロープ、ブロックなどでつくられている場合）
 - ・ 区画線がかすれや汚れなどによってはっきり見えないとき
 - ・ 路面が白っぽく白線とのコントラスト差が小さいとき（コンクリート路面に白線など）
 - ・ 路面の区画線が黄色と白以外の色のとき
 - ・ 夜間や地下、立体駐車場など周囲が暗いとき
 - ・ 降雨時や雨上がりなど、路面が濡れて光っていたり、水たまりがあるとき
 - ・ 朝日や夕日など、太陽の光がカメラに入るとき

- ・積雪や融雪剤があるとき
 - ・路面補修痕、路面表示などやポールなどの障害物があるとき
 - ・路面の色や明るさが一様でないとき
 - ・カメラにお湯や水をかけたときなど、レンズが曇っているとき
 - ・自車の影や木陰などの影響を受けてしまったとき
 - ・カメラのレンズが傷ついたり、汚れたり、水滴が付着しているとき
- 次のような状況では、目標駐車位置を誤認識する場合があります。
- ・路面補修痕、路面標示などや車止め、ポールなどの障害物があるとき
 - ・降雨時や雨上がりなど、路面が濡れて光っていたり、水たまりがあるとき
 - ・車両周辺が暗いときや逆光のとき
 - ・路面の色や明るさが一様でないとき
 - ・勾配がついている駐車場
 - ・ゼブラゾーンのある駐車スペース
 - ・駐車車両の影響を受けてしまったとき（駐車車両の影、駐車車両のグリルやサイドステップなど）
 - ・カメラの視界をさまたげるようなアクセサリーを取り付けたとき
 - ・区画線のかすれや汚れなどによってはっきり見えないとき
 - ・自車の影や木陰などの影響を受けてしまったとき

■ センサーの検知について

→P.398

■ センサーが正しく検知できないことがある静止物

→P.398

■ センサーが正常に作動しないおそれがある状況

→P.398

■ 衝突の可能性がなくてもアシストが作動しない状況

→P.399

⚠ 警告

■ カメラとセンサーの取り扱いについて

- カメラのレンズの特性により、画面に映る人や障害物は、実際の位置や距離と異なります。詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。
- センサーが正常に作動しなくなり、思わぬ事故につながるおそれがありますので、クリアランスソナー使用時の注意を参照してください。（→P.397）
- 次のとき、センサーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。
 - ・ 目標駐車位置の隣に駐車車両があるにもかかわらず、駐車枠が目標駐車位置から大きくずれた位置に表示されるときは、センサーの角度がずれているおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。
 - ・ センサーが検知する範囲には、アクセサリー用品などを取り付けしないでください。

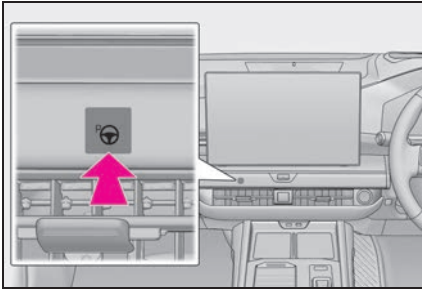
Advanced Park の ON / OFF を変更する

1 Advanced Park メインスイッチを押す

アシスト中にスイッチを押すと、アシスト

トを中止します。

(→P.611)



知識

■ Advanced Park の作動条件

次の条件をすべて満たしているときにアシストを開始できます。

- ブレーキペダルを踏んでいる
 - 停車している
 - 運転席シートベルトを着用している
 - ハンドルを操作していない
 - アクセルペダルを踏んでいない
 - ドアおよびバックドアが閉まっている
 - ドアミラーが電動格納されていない
 - パーキングブレーキがかかっていない
 - レーダークルーズコントロールが作動していない
 - ABS/VSC/TRC/PCS/PKSBが作動していない
 - けん引していない
 - 急勾配でない
 - TRC または VSC を OFF にしていない
- アシストを開始できないときは、センターディスプレイのメッセージを確認してください。(→P.447)

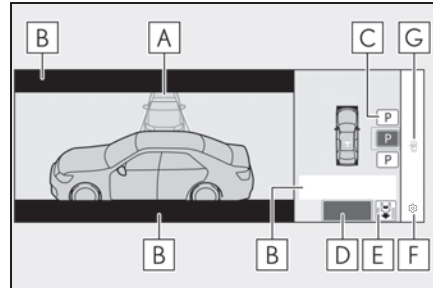
■ レスポンシブヒドゥンスイッチについて

スイッチの点灯状態や手かざし機能の反応感度を変更することができます。

Advanced Park のガイド画面を使う

センターディスプレイに表示されます。

▶ ガイド画面（開始時）



A 目標駐車枠（青色）

B アドバイス表示

C 駐車形態切りかえスイッチ

複数表示された場合は、スイッチの表示状態により次のことができます。

P または **P**：他の駐車可能な位置に変更

P または **P**：選択されている駐車位置

(P)：縦列駐車機能への切りかえ

(P)：並列前向き／バック駐車機能への切りかえ

D “開始” スイッチ

駐車アシストを開始します。

E 並列駐車向き切りかえスイッチ

並列前向き駐車機能と並列バック駐車機能を切りかえます。

：並列前向き駐車への切りかえ

：並列バック駐車への切りかえ

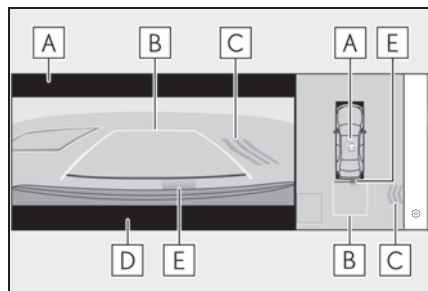
F カスタマイズ設定スイッチ

Advanced Park の設定画面に切りかわります。(→P.446)

G リモート機能開始スイッチ

スマートフォン画面上で駐車をアシスト操作します。

▶ ガイド画面（後退時）

**A** 作動中アイコン

Advanced Park が作動中に表示されます。

B ガイド線（黄色と赤色）

車両の前端部または後端部から目標停車位置までの距離（黄色）※と約 0.3m 先（赤色）を示しています。

C 移動物警報アイコン**D** 緊急ブレーキ制御の作動表示

“ブレーキ！”と表示されます。

E クリアランスソナー表示

→P.396

※ 2.5m 以上の位置に目標停車位置がある場合は、横線（黄色）が非表示になります。

**■ クリアランスソナーの割り込み表示について**

Advanced Park 作動中は、クリアランスソナーの ON / OFF (→P.396) に関係

なく、クリアランスソナーが障害物を検知すると、ガイド画面に自動的にクリアランスソナー表示が割り込み表示されます。

■ Advanced Park 作動中の緊急ブレーキ制御の作動について

Advanced Park 作動中は、衝突の可能性のある移動物または静止物を検知したとき、EV システム出力抑制制御／ブレーキ制御が作動します。

ブレーキ作動後は Advanced Park の作動を中断し、ブレーキの作動がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 音声案内について

システムの作動状態、運転者への操作案内を音声でお知らせします。

音量はマルチメディアシステムの設定に連動します。

■ ブザー音について

他システムや周囲の音により、本システムのブザー音が聞き取りづらくなることがあります。

■ Advanced Park 作動中にセンターディスプレイが黒くなったときは

無線の電波による影響を受けているか、システムに何らかの異常が発生しているおそれがあります。無線のアンテナをカメラ近くに設置している場合は、できるだけ離して設置してください。無線のアンテナがカメラの近くになく、パワースイッチを一度 OFF にしてから再度 EV システムを始動しても画面が正常に表示されない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

Advanced Park の並列前向き／バック駐車機能を使う

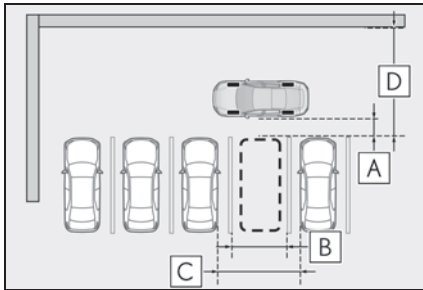
目標駐車位置の中央がほぼ真横に見

える位置で停車し、駐車スペースが検出できれば、並列前向き／バック駐車機能を使用することができます。また、駐車スペースなどの状況により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

並列前向き／バック駐車機能 を使用して駐車する

- 1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で車両を停車する

アシストが開始されるまで、ブレーキペダルをしっかりと踏み続けます。

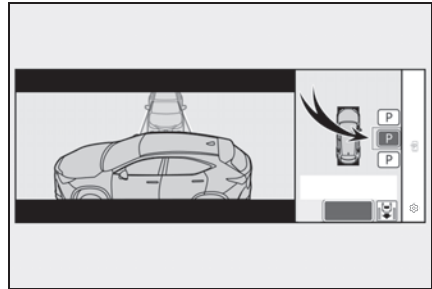


- A** 約 1m※
- B** 区画線あり：約 2.5m※
- C** 隣接車両あり：約 3m 以上 ※
- D** バック駐車：約 5.5m 以上 ※
前向き駐車：約 7.5m 以上 ※

※ 駐車スペースとして検出させるための目安です。周囲の環境によっては検出できないことがあります。

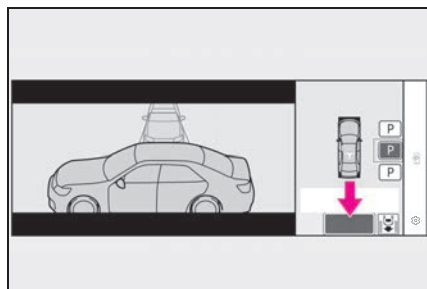
- 2 Advanced Park メインスイッチを押す (→P.434)

- 3 センターディスプレイに駐車可能なスペースが表示されたことを確認する



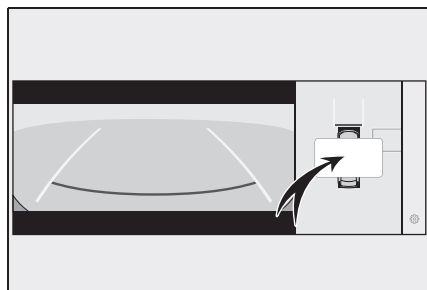
- 自車が駐車できるスペースがある場合に目標駐車枠が表示されます。
 - 縦列駐車が可能な場合、駐車スペースを選択して **(P)** を選択すると縦列駐車機能に切りかわります。
 - 駐車向きの変更が可能な場合、駐車スペースを選択して、 もしくは  を選択すると、駐車向きが変更できます。
 - 環境によっては使用できない場合があります。センターディスプレイの表示内容を参考に別の駐車スペースで使用してください。
- 4 “開始” スイッチを選択する
- “ピツ” という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始

されます。



- 5** “発進するにはブレーキを離してください”の表示を確認してからブレーキペダルを離す

“前進します”または“後退します”の音声案内と表示が出たあと、前進／後退が始まります。



アシストを中止するには、Advanced Park メインスイッチを押します。

アシストが中止されると“Advanced Park を中止しました”の音声案内と表示が出ます。

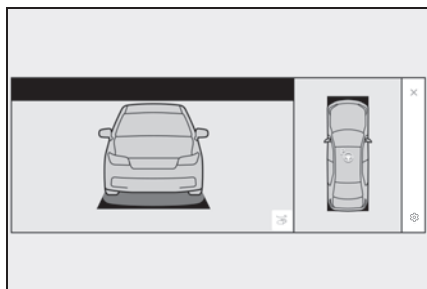
周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは：→P.434

- 6** 車両が目標駐車位置に停車するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する

車両が停車したら、“Advanced Park を終了しました”の音声案内と表示が出たあと、駐車アシストを終了します。

センターディスプレイのを選択する

と、駐車アシスト完了画面の車両が回転します。



知識

- 周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは

ブレーキペダルを踏んで停車し、進行方向とは逆のシフトポジションに切りかえてください。このときアシストは中断されますが、センターディスプレイの“再開”スイッチを選択するとシフトポジションの方向へアシストを再開します。

- ブレーキが作動したとき

ブレーキが作動したときにブレーキの作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

注意

- 並列前向き／バック駐車機能を使用するときは

- 黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置とのあいだに障害物がないことを必ず確認してください。黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置のあいだに障害物がある場合は中止してください。
- 路面に段差や勾配があると正しい位置に目標駐車位置を設定できないため、駐車位置がずれたり、車両が傾くことがあります。このような場所では使用しないでください。

⚠ 注意

- 狭いスペースに駐車するときは隣接車両に接近します。接触しそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車してください。
- 駐車車両の車幅が狭いときや駐車車両が路肩側に極端に近いときは、駐車をアシストする位置も路肩に接近します。接触、脱輪しそうなときはブレーキペダルを踏んで停車し、Advanced Park メインスイッチを押してシステムを解除してください。

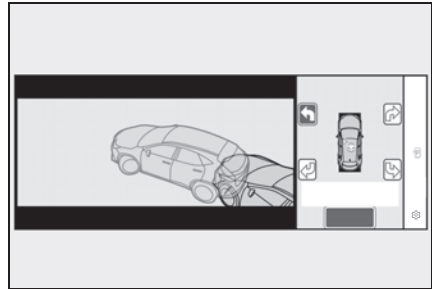
Advanced Park の並列前向き／バック出庫機能を使う

並列駐車スペースから出庫する際、システムが出庫可能と判断すれば、並列前向き／バック出庫機能を使用することができます。また、周辺的环境により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

並列前向き／バック出庫機能を使用して出庫する

- 1 ブレーキを踏み、シフトポジションが P の状態で Advanced Park メインスイッチを押す
(→P.434)

- 2 センターディスプレイが出庫方向を選択する画面に切りかわったことを確認する

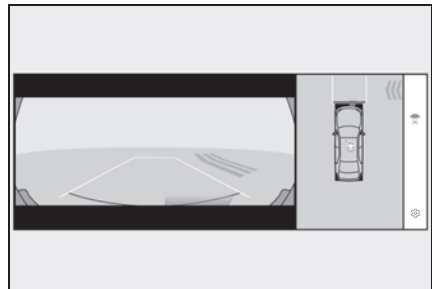


- 3 センターディスプレイ上の矢印で、出庫したい方向を選択する

方向指示レバーを使って操作する場合は、左右方向のみ選択することができます。

- 4 ブレーキペダルを踏んで “開始” スイッチを選択する

“ピッ” という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始されます。



アシストを中止するには Advanced Park メインスイッチを押します。

アシストが中止されると “Advanced Park を中止しました” の音声案内と表示が出ます。

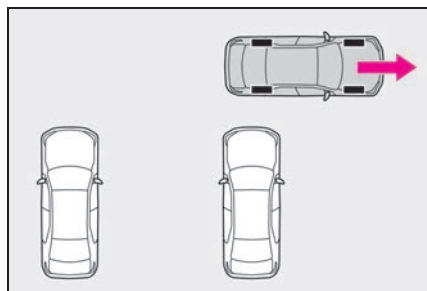
周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは：→P.434

5 車両が出庫可能位置に到達するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する

車両が出庫可能な位置に到達すると“ハンドルを操作すると終了できます”のメッセージが表示され、ハンドル操作すると“Advanced Park を終了しました”の音声案内と表示が出たあと、アシストが終了します。

走行中にアシストを終了するので、そのままハンドルを持ち、前進してください。

ハンドル操作がない場合は、出庫完了位置に停車するため、ブレーキペダルまたはアクセルを踏むと終了できます。



知識

■ 周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは

→P.434

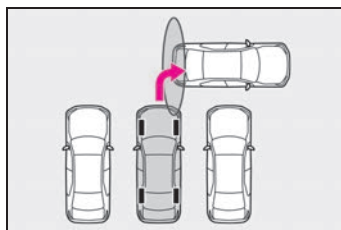
■ 並列前向き／バック出庫機能について

並列駐車から出庫する以外の目的では、並列前向き／バック出庫機能を使用しないでください。万が一、誤ってアシストを開始してしまった場合は、ブレーキペダルを踏んで停車し、Advanced Park メインスイッチを操作してアシストを中止してください。

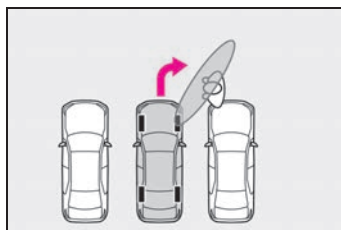
■ 並列前向き／バック出庫機能が作動しない状況

次のような状況では並列前向き／バック出庫は作動しません。

● 出庫方向に駐車待ちの車両があるとき



● フロントまたはリヤのセンター／コーナーセンサー付近に壁／柱などの障害物がある場合や、人がいるとき



■ ブレーキが作動したとき

→P.434

Advanced Park の縦列駐車機能を使う

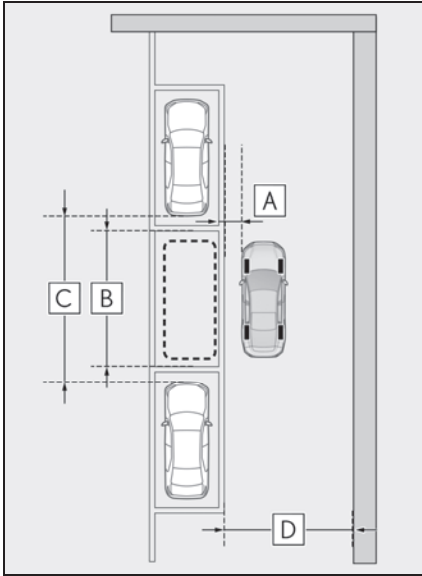
目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車し、駐車スペースが検出できれば、縦列駐車機能を使用することができます。また、駐車スペースなどの状況により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

縦列駐車機能を使用して駐車する

1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車する

アシストが開始されるまで、ブレーキペ

ダルをしっかり踏み続けます。



A 約 1m※

B 区画線あり：約 6m※

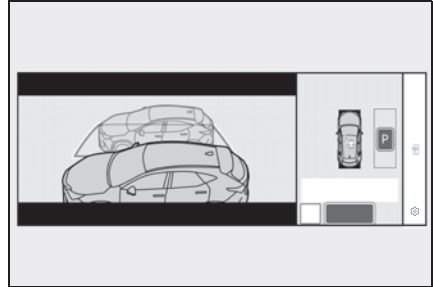
C 駐車車両あり：約 7m 以上 ※

D 約 4.5m 以上 ※

※ 駐車スペースとして検出させるための目安です。周囲の環境によっては検出できないことがあります。

2 Advanced Park メインスイッチを押す (→P.434)

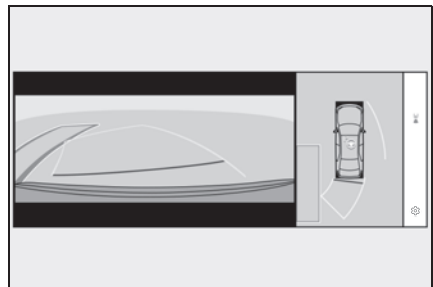
3 センターディスプレイに駐車可能なスペースが表示されたことを確認する



- 自車が駐車できるスペースがある場合に目標駐車枠が表示されます。
- 並列前向き／バック駐車が可能の場合、駐車スペースを選択して、**P** を選択すると並列前向き／バック駐車機能に切りかわります。
- 周囲の環境によっては使用できないことがあります。センターディスプレイの表示内容を参考に別の駐車スペースで使用してください。

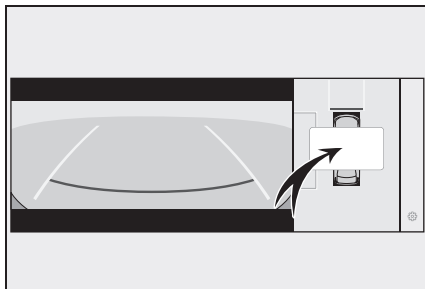
4 “開始” スイッチを選択する

“ピッ” という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始されます。



- 5 “発進するにはブレーキを離してください”の表示を確認してからブレーキペダルを離す

“前進します”の音声案内と表示が出たあと、前進が始まります。



アシストを中止するには、Advanced Park メインスイッチを押します。

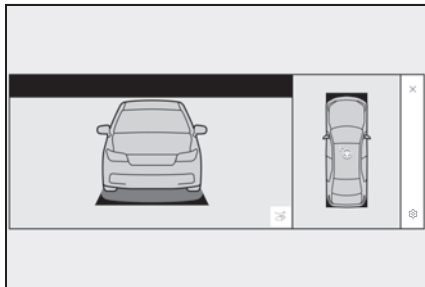
アシストが中止されると“Advanced Park を中止しました”の音声案内と表示が出ます。

周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは：→P.434

- 6 車両が目標駐車位置に停車するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する

車両が停車したら、“Advanced Park を終了しました”の音声案内と表示が出たあと、駐車アシストを終了します。

センターディスプレイのを選択すると、駐車アシスト完了画面の車両が回転します。



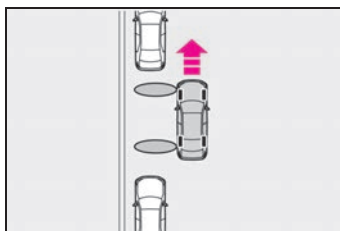
知識

- 周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは

→P.434

- “駐車できる場所が見つかりません”が表示されたときは

駐車位置の横に停車しても駐車車両を検知できていない場合があります。駐車車両を検知できる位置まで進むと開始できる場合があります。



- ブレーキが作動したとき

→P.434

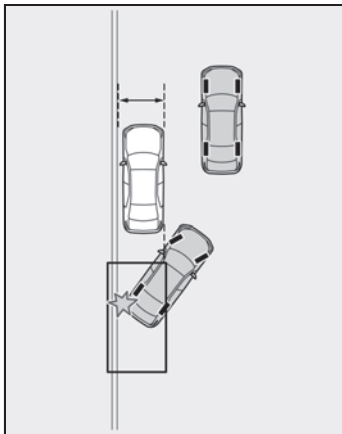
⚠ 注意

- 縦列駐車機能を使用するときは

- 黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置とのあいだに障害物がないことを必ず確認してください。黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置のあいだに障害物がある場合は、縦列駐車機能は中断／中止されます。
- 路面に段差や勾配があると正しい位置に目標駐車位置を設定できないため、駐車位置がずれたり、車両が傾くことがあります。このような場所では、縦列駐車機能は使用しないでください。

⚠ 注意

- 隣接車両の車幅が狭いときや駐車車両が路肩側に極端に近いときは、駐車車をアシストする位置も路肩に接近します。接触、脱輪しそうなときはブレーキペダルを踏んで停車し、メインスイッチを押してシステムを解除してください。



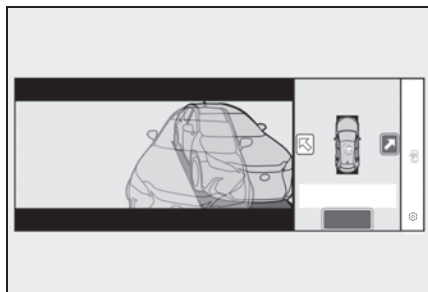
- 駐車スペースの奥側に壁などがある場合は、通路に少しはみ出した位置に目標駐車位置が設定されることがあります。

Advanced Park の縦列出庫機能を使う

縦列駐車スペースから出庫する際、システムが出庫可能と判断すれば、縦列出庫機能を使用することができます。また、周辺の環境により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

縦列出庫機能を使用して出庫する

- 1 ブレーキを踏み、シフトポジションがPの状態ではAdvanced Parkメインスイッチを押す
(→P.434)
- 2 センターディスプレイが出庫方向を選択する画面に切りかわったことを確認する



- 3 センターディスプレイ上の矢印で、出庫したい方向を選択する
方向指示レバーを使って操作する場合は、左右方向のみ選択することができます。
- 4 ブレーキペダルを踏んで“開始”スイッチを選択する

“ピッ”という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始されます。

アシストを中止するにはAdvanced Parkメインスイッチを押します。

アシストが中止されると“Advanced Parkを中止しました”の音声案内と表示が出ます。

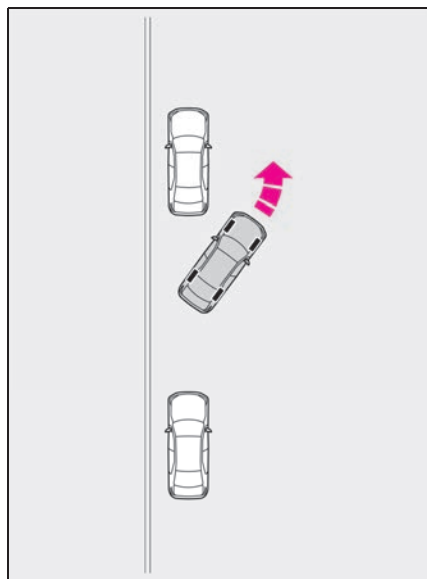
周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは：→P.434

- 5 車両が出庫可能位置に停車するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する

車両が出庫可能な位置に到達すると“ハンドルを操作すると終了できます”のメッセージが表示され、ハンドル操作すると“Advanced Park を終了しました”の音声案内と表示が出たあと、アシストが終了します。

走行中にアシストを終了するので、そのままハンドルを持ち、前進してください。

ハンドル操作がない場合は、出庫完了位置に停車するため、ブレーキペダルまたはアクセルを踏むと終了できます。



知識

■周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは

→P.434

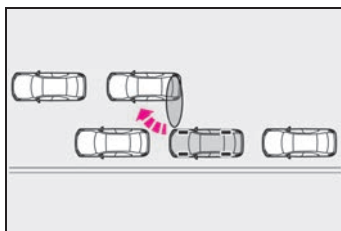
■縦列出庫機能について

縦列駐車から出庫する以外の目的では、縦列出庫機能を使用しないでください。万が一、誤ってアシストを開始してしまった場合は、ブレーキペダルを踏んで停車し、Advanced Park メインスイッチを操作してアシストを中止してください。

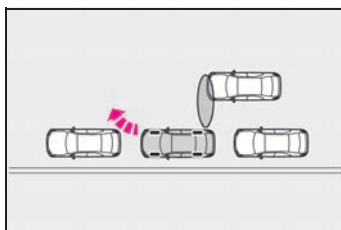
■縦列出庫機能が作動しない状況

次のような状況では縦列出庫機能は作動しません。

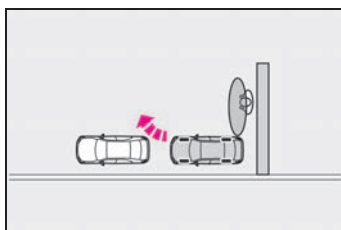
●出庫方向に信号待ちの車両があるとき



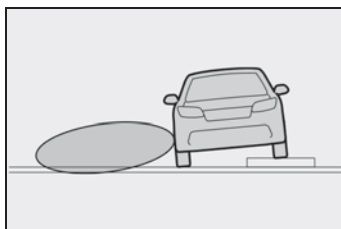
●出庫方向の後方に車両が待っているとき



●フロントまたはリアのサイドセンサー付近に壁／柱などの障害物がある場合や、人がいるとき



●縁石に乗り上げて駐車し、サイドセンサーが路面を検知しているとき



- 車両の前方に駐車車両がないとき
- 車両の前端と駐車車両との間隔があきすぎているとき

■ ブレーキが作動したとき

→P.434

Advanced Park のリモート機能を使う

スマートフォン操作で駐車機能／出庫機能を遠隔操作することができます。またガレージなどへの前後移動も遠隔操作でアシストできます。

リモート機能を使用して駐車する

目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車し、駐車スペースが検出できれば、スマートフォン操作で駐車機能を遠隔操作することができます。また、駐車スペースなどの状況により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

- 1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で車両を停車する (→P.433、436)
- 2 Advanced Park メインスイッチを押す (→P.434)
- 3 センターディスプレイに駐車可能なスペースが表示されたことを確認する (→P.433、436)
- 4  スイッチを選択し、“並列駐車／縦列駐車”を選択する
- 5 “設定完了”を選択する
- 6 車内から電子キーとスマートフォンを持って降車し、スマートフォンの専用アプリを起動する

障害物が進行方向に存在する場合は、先に障害物を移動させてください。障害物は降車後に移動させることもできます。

7 車外でスマートフォン画面の駐車スペースを確認し、スマートフォン画面で開始操作をする

車両から約 50cm 以上離れて、進行方向に立たないように開始してください。

8 車両周辺の安全を確認し、車外でスマートフォン画面を操作する

操作を継続することで車両が動き、駐車をアシストします。

車両の横に立ち、車両と一緒に移動するとアシストが中断しにくくなります。

スマートフォン画面の操作を中止することで、アシストを中断し、車両を停止させることができます。

再びスマートフォン画面の操作を行い車両を動かす場合、車両が動く前に自動でドアが施錠されます。

9 駐車位置に到着するとシフトポジションがPになり、パーキングブレーキで車両停止後、パワースイッチがOFFになり、自動でドアが施錠される

スマートフォンに完了画面が表示されません。

知識

■ 障害物があっても駐車機能を使用できる場合

- 白線で構成される駐車スペースへの駐車機能を使用する場合、駐車スペース内に障害物があってもそのスペースを目標枠として設定できます。これは車いす用の駐車スペース内にパイロンが置かれているときであっても、車内で駐車スペース設定をし、降車後に障害物を移動することで支援を継続するための機能です。

- Advanced Parkでの並列駐車では片側3枠ずつの最大6枠の駐車枠を検出可能ですが、リモート機能では片側1枠ずつの検出となります。

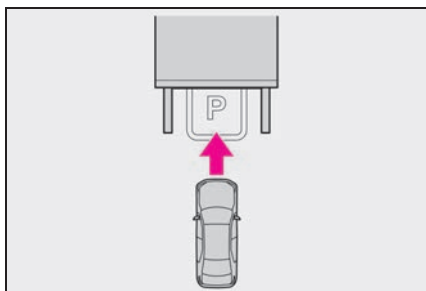
■ ブレーキが作動したとき

→P.434

リモート機能を使用して前後移動する

停車後に前後移動機能を使用して、ガレージなどへの移動をアシストします。

- 1 アシストを開始したい場所に車両を停車する



- 2 Advanced Park メインスイッチを押す (→P.434)
- 3  スイッチを選択し、“前後に移動”を選択する
- 4 必要に応じて方向キーで調整し、“設定完了”を選択する
- 5 車内から電子キーとスマートフォンを持って降車し、スマートフォンの専用アプリを起動する
- 6 車外でスマートフォン画面の進行方向を確認し、スマートフォン画面で開始操作をする

車両から約50cm以上離れて、進行方向に立たないように開始してください。

- 7 車両周辺の安全を確認し、車外でスマートフォン画面を操作する

操作を継続することで車両が動き、前後移動をアシストします。

車両の横に立ち、車両と一緒に移動するとアシストが中断しにくくなります。

スマートフォン画面の操作を中止することで、アシストを中断し、車両を停止させることができます。

アシスト中であっても、途中終了や方向転換ができます。

- 8 スマートフォン画面で車両の電源をオフにする操作を行う

パワースイッチがOFFになり、自動でドアが施錠されます。

知識

■ 進行方向の変更

前後移動機能では、アシスト中に進行方向を切りかえることができます。

後方に壁があるときなどに、スマートフォン画面で進行方向の切りかえ操作を行って車両を少し前進させて荷物を入れたあと、もとの場所にもどすといった使い方ができます。

■ ブレーキが作動したとき

→P.434

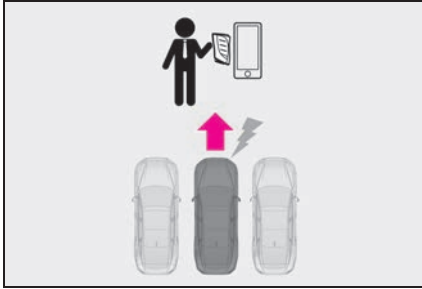
リモート機能を使用して出庫する

パワースイッチがOFFの車両に対して、並列／縦列駐車した状態からの出庫をアシストできます。

前後移動選択の際の移動距離は開始位置から進行方向に対して最大7mで、スマートフォン操作で進行方向を切りかえることができます。

1 駐車中の車両に近づき、専用アプリを起動する

専用アプリが接続できない場合は、電子キーで解錠操作を行ってください。



2 スマートフォン画面で開始操作をする

車両のパワースイッチがONになります。

3 出庫可能な方向が表示されたことを確認し、出庫したい方向を選択し、決定する

4 車両周辺の安全を確認し、スマートフォン画面を操作する

操作を継続することで車両が動き、出庫をアシストします。

車両の横に立ち、車両と一緒に移動するとアシストが中断しにくくなります。

スマートフォン画面の操作を中止することで、アシストを中断し、車両を停止させることができます。

アシスト中であっても、途中終了や方向転換ができます。

5 アシスト完了位置まで移動し、電子キーを持って車両に乗り込む

途中でアシストを完了したい場合は、スマートフォンで途中終了操作をするか、車両に乗り込むことでアシストを終了できます。

知識

■ ブレーキが作動したとき

→P.434

リモート機能の使用前のご準備

■ 使用前のご準備

リモート機能を使用する際は、事前に以下の手順を行ってください。

1 アプリストアから専用アプリをダウンロードする

2 車両のパワースイッチをONにし、マルチメディアシステムとスマートフォンのペアリング登録を実施する

ペアリング登録については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照ください。

3 専用アプリを立ち上げ、車両登録を実施する

4 ペアリング登録された車両がスマートフォン画面に表示されるため、車両を選択する

新規車両登録画面では、車両の名前や画像の変更が可能です。

メニュー画面から車両を追加することも可能です。

■ リモート機能のON / OFF

1 センターディスプレイの を選択して、“Advanced Park”を選択する

2 “Remote Park” のON / OFFを選択する（初期設定はON）

3 Advanced Park メインスイッチを押す（→P.434）

アシスト中にスイッチを押すと、アシス

トを中止します。

4 センターディスプレイに表示される スイッチを選択する



注意

■ リモート機能について

- 電子キーをポケットなどに携帯した状態で、リモート機能を使用してください。
- 電子キーとスマートフォンなどを重ねて持つと、電子キーが検知できない場合があります。
- デジタルキー設定車：デジタルキーのみの携帯では リモート機能は使用できません。必ず運転者が電子キーを携帯してください。
- 車に乗り込んで リモート機能を終了する際は、キーが車内にあり全てのドアが閉まっていることを確認してください。

車に乗り込んでリモート機能を終了した後後は、シートベルトを着用するかブレーキを踏むとシートリターン制御が実施されます。

- リモート機能終了または中止によりパワースイッチを OFF した場合、自動でドアが施錠しますが、ドアが開いている場合など施錠できないことがあります。リモート機能終了後は車両の状態を確認してください。
- リモート機能終了または中止により自動でドアが施錠した際、車内に人がいた場合は警報が鳴る場合があります。
- 機能が正常に働かないおそれのある状況
- スマートエントリー&スタートシステムの機能が正常に働かないおそれのあるとき：→P.213

- 近くにインバータ式蛍光灯があるとき

- 電波が及ぼす影響について：→P.216

■ 電子キーの電池の消耗について

- リモート機能使用中は、電子キーと電波の送受信をおこなうため、電池を消耗します。

- 電池が切れたとき：→P.545

■ センサーが正常に作動しないおそれのある状況

→P.398

- リモート機能使用中は車両周辺の視界が制限されることがあります。リモート機能使用時は以下の確認を行ってください。

- ・ 車両と車両の周囲が最もよく見えること
- ・ 車両の進路に人／動物、または物体がないこと
- ・ 車両との適切な距離を維持し、運転者も他の道路使用者も危険にさらされるおそれがないこと
- ・ 車両の周囲には常に注意をして、危険の可能性がないこと
- ・ 必要に応じて、リモート機能を中止すること

Advanced Park を中止／中断する

■ アシストが中止されるとき

次のような状況のとき、Advanced Park のアシストを中止します。ハンドルをしっかり持ち、ブレーキペダルをしっかり踏んで車両を停止してください。

システムが解除されているため、最

初からやり直すか、通常通りハンドルを操作して駐車してください。

- Advanced Park メインスイッチを押した
- シフトポジションを P に変更した
- パーキングブレーキをかけた
- ドアまたはトランクを開けた
- 運転席シートベルトをはずした
- ドアミラーを格納した
- TRC / VSC を OFF にした
- TRC / VSC / ABS が作動した
- けん引している
- パワースwitchを押した
- システムがアシスト継続できない駐車環境と判断した
- システム異常
- 停止中にセンターディスプレイ上で“中止”を選択した

■ アシストが中断されるとき

次のような状況のとき、Advanced Park のアシストを中断します。

センターディスプレイの指示に従うことでアシストを再開できます。

また、アシストが中断されている時にブレーキを踏みながらシフトポジションを 2 回変更した場合は、そのシフトポジションのままでアシストを中止します。

ただし、シフトポジションを変更してアシストが中断した場合は、1 回のシフトポジション変更によりアシストを中止します。

- ハンドルを操作した
- アクセルペダルを踏んだ

- シフトポジションを変更した
- 衝突の可能性のある移動物または静止物を検知し、EV システム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動した
- カメラスイッチを押した
- リモート機能のアシストが中止されるとき

次のような状況のとき、リモート機能のアシストを中止します。

システムが解除されているため、キーを持って車両に乗り込み、通常通りハンドルを操作して駐車してください。

- Advanced Park のアシスト中止条件を満たした場合、一部例外としてドアを開いた場合や運転席シートベルトを外した場合は中断します。
- リモート機能を起動してから 5 分以上が経過したとき
- 何も操作をせずに 3 分が経過したとき
- スマートフォン画面で車両の走行操作をしても走行できずに、30 秒が経過したとき
- スマートフォン画面で車両の電源をオフにする操作を行ったとき
- 専用アプリが強制終了されたとき
- 急勾配のとき
- リモート機能中断中に車内で電子キーを検知したとき
- 外気温がマイナス 10℃以下のとき

■ リモート機能のアシストが中断されるとき

次のとき、アシストを中断します。

- スマートフォンとマルチメディアシステムとの Bluetooth® 通信が切断されたとき
- スマートフォンの操作が中断されたとき
- 専用アプリのバックグラウンド移行（電話ボタンやホームボタン押下など）
- 電子キーが検知できないとき
- 前後の移動先に障害物があるとき
- アシスト走行中に車両が操作されたとき
- 走行中に電子キーの操作があったとき
- 走行中にドアの解錠操作があったとき
- 走行中にドアを開いたとき

Advanced Park の設定を変更する

Advanced Park メインスイッチを押

し、センターディスプレイの 

を選択して、“Advanced Park” を選択します。

■ Remote Park

リモート機能の ON / OFF を設定できます。

■ 音声案内

音声案内の ON / OFF を設定できます。

■ 速度モード

アシスト中の自車の速度を設定できます。

■ 障害物回避距離

アシスト中に回避する障害物との距離を設定できます。

■ 優先駐車方法

並列前向き／バック駐車と縦列駐車のうちでも駐車可能なとき、優先的に表示する駐車方法を設定できます。

■ 優先駐車向き

並列前向き駐車と並列バック駐車がどちらも可能な時に、優先的に表示する駐車向きを選択できます。

■ 優先出庫方向（並列）

並列前向き出庫と並列バック出庫で左右どちらへも出庫可能な時に、優先的に表示する方向を選択できます。

■ 優先出庫方向（縦列）

縦列出庫で左右どちらへも出庫可能な時に、優先的に表示する方向を選択できます。

■ 駐車時の映像

並列前向き／バック駐車中、縦列駐車中表示するカメラ映像の画角の設定ができます。

■ 出庫時の映像

並列前向き／バック出庫中、縦列出庫中表示するカメラ映像の画角の設定ができます。

■ 駐車進路調整

駐車アシスト中の進路が外側にふくらんでしまうと、内側に寄ってしまうときに進路を調整できます。

タイヤがすり減ったりしたとき、駐車進路が駐車する場所の中心からずれてしまいます。その場合、駐車進路を調整してください。

■ 道幅調整

駐車アシスト開始時、前進するときの横方向の移動量を調整できます。

■ 駐車位置調整（前向き）

並列前向き駐車の前向き位置を調整できます。

■ 駐車位置調整（バック）

並列バック駐車の前向き位置を調整できます。

■ 後部取付部品設定

車両後部にトレーラーヒッチなどを取り付けたとき、後方障害物との接触を防ぐために、車両後部の長さを調整できます。

⚠ 注意

- 「駐車位置調整（前向き）」、「駐車位置調整（バック）」による調整により、車止めや縁石など低いものへ接触するおそれがあるため、注意して使用してください。
- 周辺の車両や障害物／車止め／縁石などに接触しそうときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、Advanced Park メインスイッチを押してシステムを中止してください。

専用アプリの設定を変更する

■ クリアランスソナー警告音の ON / OFF（スマートフォンでの設定）

専用アプリからクリアランスソナー警告音の ON / OFF を設定できます。

■ クリアランスソナー警告音の音量調整（スマートフォンでの設定）

専用アプリからクリアランスソナー警告音の音量を設定できます。

センターディスプレイに表示される Advanced Park のメッセージ

Advanced Park の作動状態や操作のアドバイスなどをセンターディスプレイに表示します。メッセージが表示されたときは、内容に従って対処してください。

□ 知識

■ “駐車できる場所が見つかりません” が表示されたときは

駐車スペース、または認識できる駐車枠がある場所に移動して使用してください。

■ “この環境では使用できません” が表示されたときは

別の場所に移動して使用してください。

■ “出庫可能なスペースがありません” が表示されたときは

自車前後と駐車車両との間隔が狭い、または出庫方向に障害物があるなどの状況により、縦列出庫機能を使用できません。

周囲の状況を確認した上で、運転者自身の操作で出庫してください。

■ “速度が調整できません” が表示されたときは

傾斜や段差のある場所で使用したときに、速度が調整できないとシステムが判断すると、アシストを中止します。

平坦な場所で使用してください。

■ “障害物を検知しました”が表示されたときは

衝突の可能性がある移動物または静止物を検知したため、EV システム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動し、アシストを中断します。

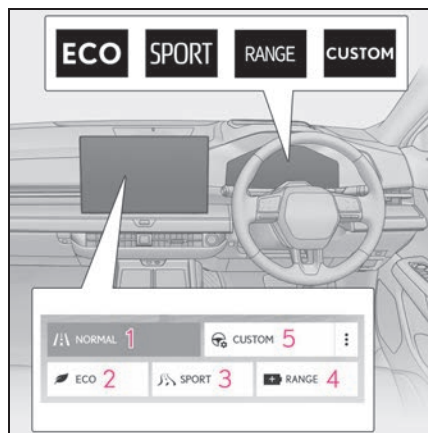
周囲の状況を確認してください。アシストを再開するときは、センターディスプレイの“再開”スイッチを選択してください。

ドライブモードセレクトスイッチ

走行・使用状況に合わせて次のモードを選択できます。

走行モードを選択するには

- 1 センターディスプレイの  を選択する
- 2 “ドライブモード”を選択する
- 3 走行モードを選択する



1 ノーマルモード

電費性能、静粛性、運動性能のバランスが良く、市街地を走行する場合に適しています。

2 エコドライブモード

通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになり、またエアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、電費を向上させる走行に適しています。

エコドライブモード表示灯が点灯します。

3 スポーツモード

AVS 非装着車：ステアリングの応答性、および EV システムの制御によるアクセルレスポンスなどがスポーツ走行に適した制御にかわります。山岳路などで、きびきびとした走りを楽しみたいときに適しています。

AVS 装着車：EV システムに加え、ステアリングやサスペンションを総合的に制御することにより操縦性・安定性の確保に貢献し、よりスポーティーな走りを楽しみたいときに適しています。

スポーツモード表示灯が点灯します。

4 レンジモード

電費を向上させる走行制御（車速制限／最大駆動力制限／前後駆動力配分最適化など）にかわり、エアコン（暖房／冷房）を OFF にします。レンジモードでクルーズコントロールまたはレーダークルーズコントロールが作動したときは、車速の上限が 100km/h になるため、設定速度にならない場合があります。航続可能距離を最大にする走行に適しています。

レンジモード表示灯が点灯します。

ES500e：M モード（→P.262）選択時は、レンジモードを使用しても、車速制限／最大駆動力制限機能は無効化されません。

5 カスタムモード

AVS 非装着車：パワートレーン制御・ステアリングフィール・エアコン作動の機能をお好みで設定し、走行することができます。（→P.628）

AVS 装着車：パワートレーン制御・ステアリングフィール・サスペンション制御・エアコン作動の機能をお好みで設定し、走行することができます。（→P.628）

カスタムモード表示灯が点灯します。

知識

■ ノーマルモード以外の走行モードを選択したとき（AWD 車）

AWD 制御は、選択した走行モードに適した制御に切りかわります。

■ エコドライブモード時のエアコン作動について

エコドライブモードは、暖房／冷房の作動や風量を抑制して、電費向上を図っています。空調の効きをより良くしたいときは、次の操作を行ってください。

● 風量を調整する（→P.471）

● エコドライブモードを解除する

■ スポーツ／レンジ／カスタムモードの自動解除

スポーツ／レンジ／カスタムモードは、パワースイッチを OFF にするとノーマルモードにもどります。

ノーマルモード、およびエコモードは、ほかの走行モードに切りかえるまで解除されません。（パワースイッチを OFF にしても自動では解除されません）

■ レンジモード時のエアコン作動について

レンジモードでは自動でエアコンが OFF になります。

エアコンを手動で ON にすると、レンジモード選択前に使用していたエアコンの設定で作動します。

■ レンジモード切りかえ提案

駆動用電池の残量が一定以下になると、ドライブモードをレンジモードに切りかえる提案メッセージを表示します。（→P.182）

■ 走行モードを選択しているときのマルチインフォメーションディスプレイ表示

選択した走行モードによって、マルチインフォメーションディスプレイの表示が切りかわる場合があります。

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.628)

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なもので、過信せずに運転には十分に注意してください。

運転を補助する装置について

■ ECB（電子制御ブレーキシステム）

電子制御により、ブレーキ操作に応じたブレーキ力を発生させます。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ S-VSC（ステアリングアシストビークルスタビリティコントロール）

ABS・TRC・VSC・EPSを協調して制御します。

すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

■ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

■ アクティブコーナリングアシスト（ACA）

旋回中に加速しようとするとき、内輪にブレーキ制御を行うことで、車両が外側に膨らむことを抑制します。

■ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

■ DRS（ダイナミックリヤステアリング）★

ハンドル操作と車速に応じて後輪が切れる角度を制御することで、低速走行時の取り回し性、中速走行時の操舵応答性、高速走行時の安定性向上に寄与します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

■ NAVI・AI-AVS （AVS：アダプティブバリアブルサスペンションシステム）★

路面の状態や運転操作などに応じ、ショックアブソーバーの減衰力を4輪独立に制御することで、なめらかな乗り心地と優れた安定感の確保に貢献し、車両の姿勢維持に寄与します。

また、ドライブモードセレクトスイッチで走行モードを選択することで、減衰力を切りかえることができます。（→P.448）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ VDIM（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント）★

ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロール・EPS・DRS ★を総合的に制御します。

すべりやすい路面の走行などで急な運転操作をした際に、ブレーキ・EVシステムの出力・ハンドル操作力・タイヤの切れる角度などを制御することで、車両の安定性確保に貢献します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に制動灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

■ セカンダリーコリジョンブレーキ

SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき、自動的にブレーキと制動灯を制御することで、車両を減速させ二次衝突による被害の軽減に寄与します。

■ ブレーキ車両姿勢制御（ヨー、ロール制御）

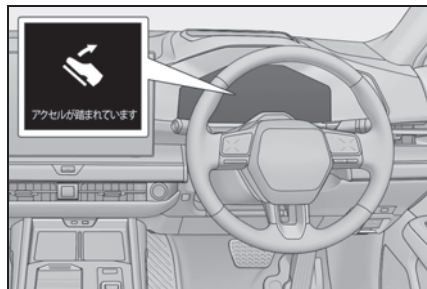
旋回時に前外輪及び後内輪にブレーキ制御をおこなうことで、ロール姿勢や旋回挙動の急な変化を抑え、快

適な姿勢を保てるようにサポートします。

■ 衝突時の急加速抑制

SRS エアバッグのセンサーが軽度の衝突を検知したときに、急アクセルによる EV システム出力を自動的に抑制することで、二次衝突による被害の軽減に寄与します。

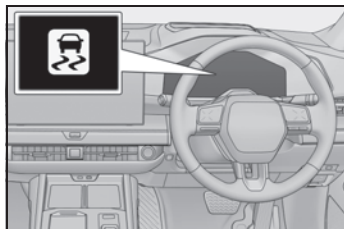
システム作動時はブザー、音声案内とマルチインフォメーションディスプレイのメッセージでお知らせします。



知識

■ TRC・VSC・ABS・DRS※★が作動しているとき

TRC・VSC・ABS・DRS※★が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



※ VDIM 作動中のみ

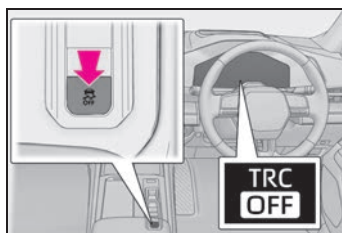
★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでも EV システムの出力が上がらず、脱出が困難場合があります。

このようなときに  スイッチを押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには  を押す



マルチインフォメーションディスプレイに“TRC OFF”表示灯が点灯します。

もう一度  を押すと、システム作動可能状態にもどります。

■ TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時に

 を押し 3 秒以上保持する

TRC OFF 表示灯と VSC OFF 表示灯が点灯します。

もう一度  を押すと、システム作動可能状態にもどります。

■ を押さなくても TRC OFF 表示灯が点灯したとき

TRC が一時的に作動できない状態になっています。表示が継続する場合は雷克萨斯販売店にご相談ください。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

- 前進での上り坂発進時にシフトポジションがDなどの前進シフトのとき
- 後退での上り坂発進時にシフトポジションがRのとき
- 車両停止状態
- アクセルペダルを踏んでいない
- パーキングブレーキがかかっている
- パワースイッチがON

■ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

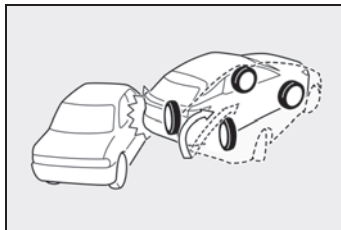
次のいずれかのときシステムが解除されます。

- 前進での上り坂発進時にシフトポジションがDなどの前進シフト以外のとき
- 後退での上り坂発進時にシフトポジションがR以外のとき
- アクセルペダルを踏んだ
- ブレーキペダルを踏んで、かつパーキングブレーキをかけた
- ブレーキペダルから足を離して最大2秒経過した
- パワースイッチがOFF

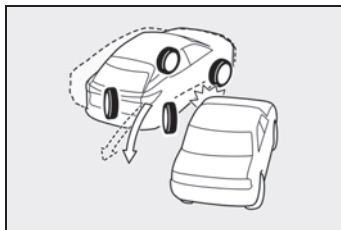
■DRS ★作動時の車両の動き

低速走行時は後輪が前輪と逆方向に切れ、車両の旋回半径が小さくなります。このとき後輪は、DRSのない車両と比べて前進時は外側、後退時は内側を通過します。そのため、駐車場など狭い場所での前進時は車両後部、後退時は車両側面にもご注意ください。

▶ 前進時



▶ 後進時



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■DRS ★の作動が停止する場合

次の状況ではDRSが作動を停止することがあります。この場合、DRS作動時に比べて最小回転半径が大きくなります。

- 極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けたとき
- ハンドルを操作した状態で短時間に発進・停止をくり返したとき

これらの状況が改善されれば、システムは復帰します。

- 補機バッテリー端子の脱着をしたとき
補機バッテリー端子を接続後、しばらく走行すればシステムは復帰します。
- スリップ表示灯が点灯しているとき
警告が解消されれば、システムは復帰します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

- EVシステム始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、モータールームから作動音が聞こえることがあります。異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・車体やハンドルに振動を感じる
 - ・車両停止後もモーター音が聞こえる

■ECBの作動音

次のような場合に ECB の作動音が聞こえることがあります。異常ではありません。

- ブレーキペダルを操作したときに、モータールームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー”という音）
- 運転席ドアを開けたときに車両前方から聞こえるブレーキシステムのモーター音（“ジー”という音）
- EVシステム停止後1～2分後経過時に、モータールームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー”という音）

■アクティブコーナリングアシストの作動音と振動

アクティブコーナリングアシストが作動したときに、ブレーキシステムから作動音や振動が発生することがありますが、異常ではありません。

■TRCやVSCの自動復帰について

TRCやVSCを作動停止にしたあと、以下のときはシステム作動可能状態にもどります。

- パワースイッチをOFFにしたとき

- (TRCのみを作動停止にしている場合) 車速が高くなったとき
ただし、TRCとVSCの作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■アクティブコーナリングアシストの作動条件

次のときシステムが作動します。

- TRC・VSCが作動可能状態
- 旋回中に加速しようとするとき
- 車両が外側に膨らんでいるとシステムにより判断された
- ブレーキを踏んでいない

■EPSの効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPSシステムのオーバーヒートを避けるため、EPSの効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。

その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、EVシステムを停止してください。10分程度でもとの状態にもどります。

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

- 非常点滅灯が点滅していないこと
- 車速 55km/h 以上
- 車両の減速度から急ブレーキであるとシステムにより判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- 非常点滅灯を点滅させた
- 車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された

■セカンダリーコリジョンブレーキの作動条件

走行中に SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき。ただし構成部品が破損した場合システムは作動しません。

■セカンダリーコリジョンブレーキの解除条件

次のいずれかのとき自動的にシステムが解除されます。

- 車速が約 0km/h になったとき
- 作動して一定時間経過したとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだとき

■ブレーキ車両姿勢制御（ヨー、ロール制御）の作動条件

次のときシステムが作動します。

- 車速が 40km/h 以上
- ブレーキペダルを踏んでいない
- 一定以上のハンドル操作をシステムが検出したとき
- スリップ表示灯が点灯、点滅していないとき（ABS や VSC, TRC など車両安定化制御中は作動しません）

■システム解除条件

次のときシステムが解除されます。

- VSC/TRC が作動禁止状態
- ブレーキペダルを踏んでいる（レーダークルーズコントロールなどの自動ブレーキ中も作動しません）

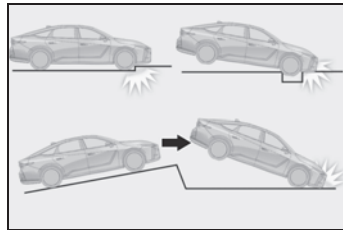
■衝突時の急加速抑制について

- 次の条件をすべて満たすと、システムが作動します。
 - ・ 車速が約 60km/h 以下のとき
 - ・ SRS エアバッグのセンサーが車両前方に軽度の衝突を検知したとき
 - ・ 衝突の直前にブレーキ操作をしていないとき

- ・ アクセルペダルを速く強く踏み込んだ
※ あとに衝突した、または衝突後にアクセルペダルを速く強く踏み込んだ※
とき

- ※ アクセルペダルを踏み込む速度と踏み込み量が一定以上のとき

- 次のような状況では衝突していても、システムが作動する場合があります。
 - ・ 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
 - ・ 深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき
 - ・ ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



- アクセルペダルを離すとシステムの作動が解除されます。

■NAVI・AI-AVS★のNAVI協調機能

ナビゲーションの道路コーナー情報により、コーナーの前からあらかじめ減衰力を制御します。これにより、優れたコーナリング性能を確保します。ナビゲーションにおいてルート探索可能な道路で作動します。

- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■マルチインフォメーションディスプレイに“DRS 故障 販売店で点検を受けてください”と表示されたときは★

DRS が正常に作動しないおそれがあります。このとき、DRS 正常作動時に比べて最小回転半径が大きくなることや、ハンドルが切れた状態で車両が直進する場合

があります。レクサス販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■ ABS の効果を発揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■ TRC や VSC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ アクティブコーナリングアシストの効果を発揮できないとき

- アクティブコーナリングアシストを過信しないでください。下り坂での加速中やすべりやすい路面などでは、アクティブコーナリングアシストが効かないことがあります。
- アクティブコーナリングアシストが頻繁に作動したときは、ブレーキ・TRC・VSC を正常に機能させるために、アクティブコーナリングアシストが一時的に作動しないことがあります。

■ ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

- ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。
- ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ スリップ表示灯が点滅しているとき

TRC・ABS・VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

 警告**■ TRC や VSC を OFF にするとき**

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要とき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■ タイヤまたはホイールを交換するとき

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。

（→P.610）

異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。タイヤ、またはホイールを交換するときは、レクサス販売店に相談してください。

■ タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

■ セカンダリーコリジョンブレーキについて

セカンダリーコリジョンブレーキを過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 衝突時の急加速抑制

● 衝突時の急加速抑制を過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 本システムは急加速を抑制するものであり、ブレーキを作動させるものではありません。必要に応じてブレーキペダルを操作してください。

プラスサポート（販売店装着オプション）

プラスサポートは、お客様の運転を補助し、より安全なドライブを支援します。プラスサポートを使用するためには、プラスサポート用スマートキー（以下、サポキー）が必要です。プラスサポートおよびサポキーは販売店装着オプションです。

プラスサポートでできること

プラスサポートを使用すると、機能の追加や、音声案内シーンの追加でより安心なドライブを支援します。また、通常の電子キーとは異なるカスタマイズ設定が可能です。

■ 機能の追加

- 急アクセル時加速抑制

■ 音声案内シーンの追加

対象機能：

- PCS（プリクラッシュセーフティ）
- 急アクセル時加速抑制
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）

■ 通常の電子キーとは異なるカスタマイズ設定

対象機能：

- LDA（レーンディパーチャーアラート）
- BSM（ブラインドスポットモニター）
- PDA（プロアクティブドライビ

ングアシスト）

- 安心降車アシスト
- 後方車両接近告知



知識

■ カスタマイズ初期値の変更

カスタマイズ設定から、各システムの設定を変更することができます。

サポキーで起動した場合、通常の電子キーとは異なる設定でシステムが作動します。

サポキーで起動後に変更した設定はサポキーにのみ記憶されます。通常キーには記憶されません。

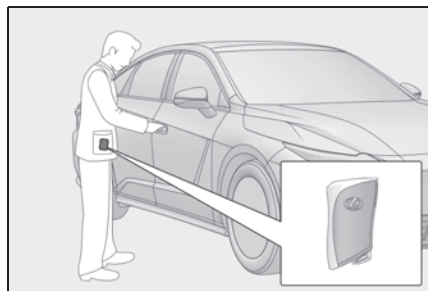
より安全に運転いただくため、通常の電子キーでは設定の変更ができた音声案内など、一部の項目が作動状態に固定されます。

プラスサポートを使用するには

■ プラスサポートを始動するには

- 1 サポキーを携帯していることを確認して、ドアを解錠する
(→P.190, 197)

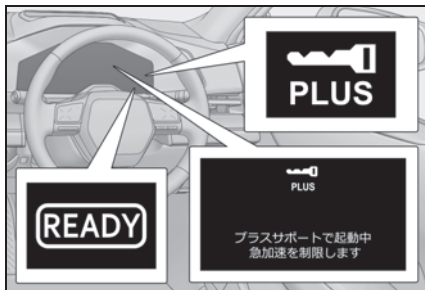
パワースイッチが OFF 以外の状態でドアが施錠されているときは、サポキーでドアを解錠しても、プラスサポートは作動可能になりません。



- 2 通常の手順で EV システムを始動する (→P.258)
- 3 “プラスサポートで起動中 急加速を制限します” というメッセージが表示され、プラスサポート表示灯が点灯したことを確認する

パワースイッチを OFF にするまで、プラスサポートが作動可能な状態になります。

EV システムの始動後は、プラスサポート表示灯が点灯していることを必ず確認してください。プラスサポート表示灯が点灯していないときは、プラスサポートが作動しません。また、プラスサポートが不要なときは、プラスサポート表示灯が消灯していることを必ず確認してください。



- 4 メーター操作スイッチの  を押してメッセージを非表示にする

メッセージ表示後約 30 秒経過するまで、またはスイッチ操作によりメッセージを非表示とするまで、“プラスサポートで起動中 急加速を制限します” のメッセージは表示されたままになります。

■ プラスサポートが不要なときは

標準装備の電子キーを携帯してドアを解錠し、EV システムを始動してください。プラスサポートが非作動になり、標準車と同様の制御になります。

す。

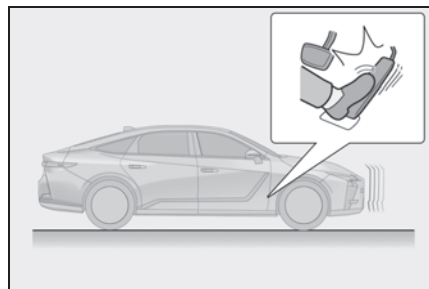
⚠ 警告

■ プラスサポートを正しく使用するために

- 必ずサポキーを携帯していることを確認してください。標準装備の電子キーを携帯しているときは、プラスサポートが始動しません。
- サポキーと標準装備の電子キーを同時に携帯しないでください。プラスサポートが始動しない場合があります。
- EV システムの始動後は、プラスサポート表示灯が点灯していることを必ず確認してください (→P.168)。プラスサポート表示灯が点灯していないときは、プラスサポートが作動しません。また、プラスサポートが不要なときは、プラスサポート表示灯が消灯していることを必ず確認してください。

急アクセル時加速抑制について

低速走行 (約 30km / h 以下) 中に、ペダルの踏み間違いなどでアクセルペダルが速く強く踏み込まれたとシステムが判断したとき、EV システムの出力を抑制することで、車両が急加速しないように制御します。



警告**■安全にお使いいただくために**

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。急アクセル時加速抑制は、状況によっては作動しない場合もあります。
- 急アクセル時加速抑制は衝突を防止するシステムではありません。車両を自動で停止させる機能はないため、加速抑制後も車両は惰性で動きます。周囲の交通状況を確認の上、必ずご自身でブレーキペダルを踏んでください。
- 急アクセル時加速抑制は意図せぬ急加速の防止を補助する機能ですが、走行状況によっては、加速が必要なときにも EV システムの出力が抑制される場合があります。安全、かつ環境に優しい運転をするためにも、日頃からアクセルペダルはゆっくり操作するように心がけてください。
- お客様ご自身で急アクセル時加速抑制の作動テストを行わないでください。状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■急アクセル時加速抑制が作動したとき

急アクセル時加速抑制が作動すると、EV システムの出力を抑制します。すみやかにアクセルペダルから足を離して、ブレーキペダルを踏んでください。アクセルペダルを踏み込んだままだと、しばらくしたあとに車両が加速し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

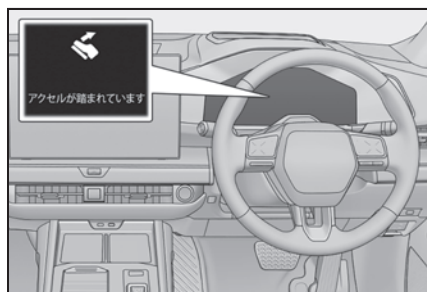
■右左折・車線変更するとき

必ず方向指示灯を点滅させてください。方向指示灯が点滅していないと、急アクセル時加速抑制により EV システムの出力が抑制され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

急アクセル時加速抑制が作動したとき

急アクセル時加速抑制が作動したときは、ブザーや音声発話でお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

メッセージが表示されたときは、すみやかにアクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。



知識

■ 急アクセル時加速抑制の作動条件

プラスサポートが始動したあと、次の条件をすべて満たした場合、急アクセル時加速抑制が作動します。

- シフトポジションが P・N 以外するとき
- 車速が約 30km / h 以下するとき
- アクセルペダルを速く強く踏み込んだとき（アクセルペダルを踏み込む速度と踏み込み量が一定以上するとき）

次の条件のいずれかを満たした場合、EV システムの出力抑制量を少なくし、前進時は約 30km / h、後退時は約 12km / h※ までゆるやかに加速します。

- 加速抑制作動中にアクセルペダルを約 5 秒間踏み続けたとき
- 加速抑制作動後すぐにアクセルペダルを速く強く踏み直したとき

※ 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります

■ 急アクセル時加速抑制が作動しないとき

次の場合は、加速が必要な場合を考慮し、急アクセル時加速抑制が作動しません。アクセルペダルをゆっくり操作し、安全運転を心がけてください。

- 方向指示灯の点滅中、または消灯したあと約 2 秒間（前進時）
- ブレーキペダルを踏んでいるとき、またはブレーキペダルを離したあと約 2 秒間（前進時）
- 急な上り坂に自車がいるとき

■ システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況ではシステムが正常に作動しない場合があります。

- 車両姿勢の変化

- ・ 積載状況などにより車両姿勢が大きく傾いたとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- ・ ローダウンサスペンション、純正と異なる径のタイヤなどを取り付けたとき

● 周辺環境の影響

- ・ 坂道・凸凹道・砂利道などの非舗装路を走行しているとき
- ・ 雪道などスリップが発生するような場所を走行しているとき
- ・ 坂道の出口など車両姿勢が急激に変化したとき
- ・ スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき

■ 加速したい場面でシステムが作動するおそれのある状況

次のような状況では踏み間違いでなくてもシステムが作動する場合があります。アクセルを離してゆっくり踏み直してください。

● 車両姿勢の変化

- ・ 積載状況などにより車両姿勢が大きく傾いたとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- ・ ローダウンサスペンション、純正と異なる径のタイヤなどを取り付けたとき

● 周辺環境の影響

- ・ 坂道・凸凹道・砂利道などの非舗装路を走行しているとき
- ・ 雪道などスリップが発生するような場所を走行しているとき
- ・ 坂道の入り口など車両姿勢が急激に変化したとき
- ・ スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき

● 運転操作の影響

- ・ 車線変更や右折などで方向指示灯を点滅させずに急いで加速しようとしたとき
- ・ 惰性走行から急いで加速しようとしたとき
- ・ ETC ゲート通過後に急加速したとき

- ・ ブレーキホールドによるブレーキ保持中に急発進しようとしたとき

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える前の準備について

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
 - ・ 冷却水
 - ・ ウォッシュャー液
- 補機バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4 輪）を使用してください。

タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。※

（タイヤについて：→P.528）

※ 21 インチタイヤ装着車には、タイヤチェーンを取り付けしないでください。



知識

■ タイヤチェーンについて（19 インチタイヤ装着車）

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 前 2 輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う
- 取り付け後約 0.5 ～ 1.0km 走行したら締め直しを行う

■ タイヤチェーンについて（21 インチタイヤ装着車）

タイヤとボデーの隙間が狭いため、タイヤチェーンを装着できません。

⚠ 警告

■ 冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■ タイヤチェーンを装着するとき（19 インチタイヤ装着車）

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激な回生ブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ
- LTA（レーントレーシングアシスト）を使用しない

警告

- LDA（レーンディパーチャーアラート）を使用しない

注意

■ タイヤチェーンの使用について（19 インチタイヤ装着車）

この車両に適合したレクサス純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。なお、レクサス純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。市販のタイヤチェーンを使用する場合は、車体に干渉しないことをあらかじめご確認ください。

詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

■ タイヤを修理・交換するとき

レクサス販売店へご依頼ください。タイヤの取り付け・取りはずしはタイヤ空気圧バルブ／送信機の作動に影響します。

（タイヤについての詳しい説明は P.528 を参照してください）

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除

いてください。

- 外装ランプ・ドアミラー・ドアガラス・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

知識

■ 寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。レクサス販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

注意

■ ガラスに付いた氷を除去するとき

氷をたたいて割らないでください。ガラスがひび割れるおそれがあります。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

- パーキングブレーキのオートモードを OFF にしてください。パーキングブレーキが自動的に作動し、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。

また、次のシステムの使用は控えてくだ

さい。オートモードを OFF にしていても、パーキングブレーキが自動的に作動します。

- ・ ブレーキホールドシステム
- ・ リモート駐車機能
- パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトポジションを P にして駐車し、必ず輪止め※をしてください。

※ 輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトポジションを P にした状態でシフトポジションが動かないことを確認してください。
- 寒冷時にブレーキ部品がぬれた状態で車を駐車したままにすると、凍結するおそれがあります。



知識

■ リバース連動機能

寒冷時に「リバース連動」を使用するとき、ドアミラーが凍結していると、自動で鏡面が下向きにならないことがあります。この場合、鏡面の周辺に付着している氷や雪などを取り除いてください。



警告

■ 駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ワイパーについて

積雪や凍結のおそれがある場合は、ボンネット下にあるワイパーをサービスポジションに切りかえてから立ててください。(→P.292)

6-1. レクサスクライメイト コンシェルジュ

レクサスクライメイトコンシェル
ジュ 468

6-2. エアコンの使い方

オートエアコン..... 469

ステアリングヒーター／シートヒーター／シートベンチレーター／輻射ヒーター 478

6-3. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 482

6-4. 収納装備

収納装備一覧 486

トランク内装備..... 491

6-5. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備..... 492

アクセサリーコンセント
(AC100V・1500W)・非常時給電システム 504

正常にアクセサリーコンセント
(AC100V 1500W) または非常時給電システムが使用できないときは 512

レクサスクライメイトコンシェルジュ

エアコンの設定温度・外気温・車室内温度などに応じて、フロント席のシートヒーターやベンチレーター・ステアリングヒーター・輻射ヒーターがそれぞれ自動制御されます。

各システムの調整の手間を省き、快適な状態を維持するよう制御します。

センターディスプレイのエアコン操作画面 (→P.474) で操作します。

クライメイトコンシェルジュを使用する

オプション画面 (→P.474) で “ クライメイトコンシェルジュ ” を

 (作動) にする

エアコン・フロント席のシートヒーター／ベンチレーター・ステアリングヒーター・輻射ヒーターがオート設定で作動します。

いずれかのシステムを手動で操作しても、操作した機能以外のオート設定は継続します。

各システムの作動について

■ エアコン (→P.469)

運転席および助手席の設定温度を別々に調整することができます。

■ フロント席のシートヒーター／ベンチレーター (→P.478)

エアコンの設定温度・外気温などに

応じて、暖房・換気が自動的に切りかわります。また、暖房・換気がOFFになることもあります。

助手席のシートヒーターやベンチレーターは、乗員を検知してオート設定で作動します。

■ ステアリングヒーター (→P.478)

エアコンの設定温度・外気温などに応じて自動で作動します。

■ 輻射ヒーター (→P.478)

エアコンの設定温度・外気温などに応じて自動で作動します。

知識

■ フロント席のシートヒーター／ベンチレーターの作動について

フロント席のシートヒーター／ベンチレーターのスイッチでオート設定にした場合は、乗員の検知を行いません。

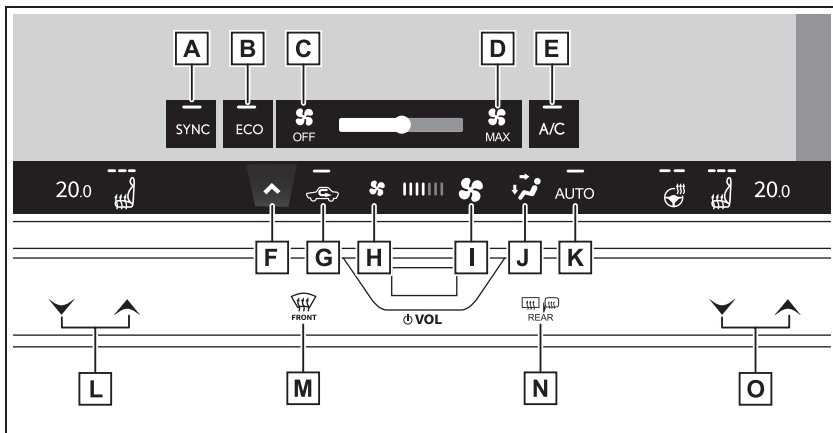
オートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

エアコン操作スイッチとセンターディスプレイのエアコン操作画面
(→P.474) で操作します。

エアコン操作スイッチについて（フロント席）

▶ 左右独立コントロールエアコン装着車



A SYNC（シンクロ）スイッチ（各席連動モード）

B エコ空調スイッチ

C OFF スイッチ

D MAX スイッチ

E 冷房・除湿スイッチ

F エアコンオプション画面表示スイッチ

G 内外気切りかえスイッチ

H 風量減スイッチ

I 風量増スイッチ

J 吹き出し口切りかえスイッチ

K AUTO スイッチ

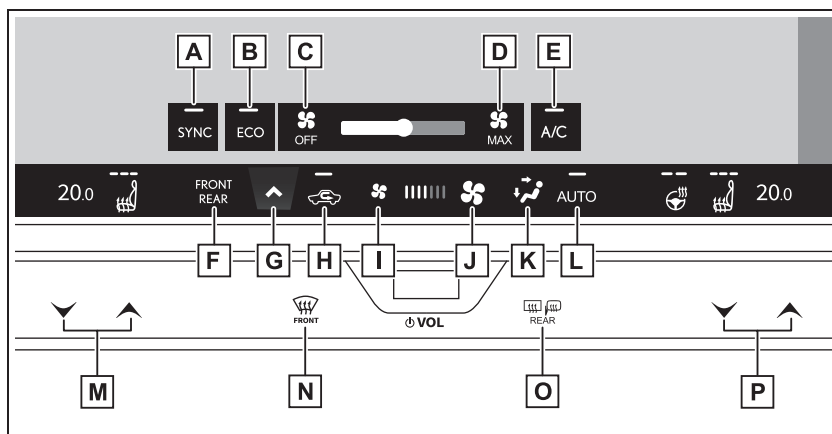
L 助手席側温度調整スイッチ

M フロントデフロスタースイッチ

N リヤウインドウデフォッガー & ミラーヒータースイッチ

O 運転席側温度調整スイッチ

▶ 3 席独立コントロールエアコン装着車



A SYNC (シンクロ) スイッチ (各席連動モード)

B エコ空調スイッチ

C OFF スイッチ

D MAX スイッチ

E 冷房・除湿スイッチ

F フロント・リヤエアコン操作画面切りかえスイッチ

MAX スイッチの選択や、リヤ席の温度を調整できます。

G エアコンオプション画面表示スイッチ

H 内外気切りかえスイッチ

I 風量減スイッチ

J 風量増スイッチ

K 吹き出し口切りかえスイッチ

L AUTO スイッチ

M 助手席側温度調整スイッチ

N フロントデフロスタースイッチ

O リヤウインドウデフォッガー & ミラーヒータースイッチ

P 運転席側温度調整スイッチ

■ 温度を調整する

SYNC スイッチのインジケーターが

点灯しているときは、運転席側の設定温度調整に合わせて助手席側の設定温度が調整されます。

SYNC スイッチのインジケーターが消灯しているときに、SYNC スイッチを選択すると、SYNC スイッチのインジケーターが点灯し、助手席側の設定温度が運転席側と同じ設定温度になります。

助手席側温度調整スイッチを操作すると SYNC スイッチのインジケーターが消灯し、助手席側の設定温度だけを調整できます。冷房・除湿スイッチのインジケーターが消灯している場合は、送風または暖房で使用できます。

設定温度表示部にタッチして操作バーを表示させ、“+”または“-”部を押すか、操作バー上の丸表示を上下にスライドすることでも、設定温度を調整できます。

■ 風量を切りかえる

風量を増やすときは、風量増スイッチを選択する、または風量調整スイッチのアイコンを右へスライドさせます。風量を減らすときは風量減スイッチを選択する、または風量調整スイッチのアイコンを左へスライドさせます。

OFF スイッチを押すと、ファンが止まります。

風量調整スイッチのアイコンを一番左にスライドさせることでも、ファンを停止することができます。

MAX スイッチを選択すると、風量が最大になります。

風量調整スイッチのアイコンを右にいっぱいまでスライドさせること

でも、風量を最大にすることができません。

■ 吹き出し口を切りかえる

吹き出し口切りかえスイッチを選択する

選択すると吹き出し口が切りかわります。

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。



：上半身に送風



：上半身と足元に送風



：足元に送風



：足元に送風／ガラスの曇り

を取る

■ 内気循環／外気導入を切りかえる

トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

内外気切りかえスイッチを選択するスイッチを選択するたびに内気循環／外気導入が切りかわります。内気循環を選択しているときはインジケーターが点灯します。

設定温度、室内温度、車両外気（排気ガス）の状態などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■ 冷房・除湿機能を使用する

冷房・除湿スイッチを選択する

冷房・除湿機能が ON のときは、スイッチの作動表示灯が点灯します。

■ エコ空調モード

電費を優先するため冷房／暖房の効きを抑えます。

エコ空調スイッチを選択する

エコ空調モードが ON のときは、作動表示灯が点灯します。

■ フロントウインドウガラスの曇りを取る

フロントデフロスタースイッチを押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。(自動的に外気導入に切りかわることがあります)

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度フロントデフロスタースイッチを押すと前のモードにもどります。

フロントデフロスタースイッチが ON のときは、作動表示灯が点灯します。

■ リヤウインドウデフォグガー & ミラーヒータースイッチ

リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用してください。

リヤウインドウデフォグガー & ミラーヒータースイッチを押す

リヤウインドウデフォグガー & ミラーヒータースイッチが ON のときは、作動表示灯が点灯します。

リヤウインドウデフォグガーとミラーヒーターは、約 15 分後に自動的に OFF になります。

□ 知識

■ レスポンシブヒドゥンスイッチについて

スイッチの点灯状態や手かざし機能の反応感度を変更することができます。

(→P.611)

■ ガラスの曇りについて

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、冷房・除湿機能を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。
- 冷房・除湿機能を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。
- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■ 外気温度が 0℃ 近くまで下がったとき

冷房・除湿機能を選択しても除湿機能が働かない場合があります。

■ エコ空調モード

ドライブモードセレクトスイッチのエコドライブモードを選択すると、エコ空調モードが ON になります。

エコドライブモード以外を選択したときは、エコ空調モードが OFF になる場合があります。

■ エコドライブモードのエアコン作動について

- エコドライブモードは電費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。
 - ・コンプレッサーの作動を制御し、暖房／冷房の能力を抑制します。
 - ・オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。
- 空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。
 - ・風量を調整する

- ・エコドライブモードを解除する
(→P.448)
- ・エコ空調モードを解除する (→P.469)
- エコドライブモード時は自動でエコ空調モードに切りかわっていますが、その場合でもエコ空調スイッチを選択するとエコ空調モードを解除することができます。

■換気とエアコンの臭いについて

- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。
- 駐車時に自動的に外気導入に切りかわることにより駐車中の換気をうながし、始動時に発生するにおいを緩和します。

■エアコンフィルターについて

→P.543



警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、フロントデフロスタースイッチを押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

■リヤウインドウデフォグガー＆ミラーヒーター作動中の警告

ドアミラーの鏡面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。



注意

■補機バッテリーあがりを防ぐために

EV システム停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

オート設定で使用する

1 AUTO スイッチを選択する

排ガスセンサーにより外気導入と内気循環を自動で切りかえます。

2 温度を設定する

3 ファンを止めたいときは、OFF スイッチを選択する

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。



知識

■オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、AUTO スイッチを押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■内外気切りかえの AUTO モード

AUTO モードでは排出ガスなどの有害成分を検知し、自動で外気導入と内気循環を切りかえます。

A/C が OFF で送風が作動中に AUTO モードにすると、A/C が ON になります。再度 A/C を OFF にすると内外気切りかえの AUTO モードは解除されます。

エアコン操作画面について

■ 表示のしかた

▶ メインメニュー

- 1 センターディスプレイのメインメニューから  を選択する
- 2 サブメニューの “ エアコン ” を選択する
- 3 各画面 を選択する

▶ エアコン操作オプション画面 (→P.469)

各機能の ON / OFF を切りかえる
 選択するたびに、機能の ON / OFF が
 切りかわります。

機能が ON のとき、インジケーターが点
 灯します。

- A/C : 冷房・除湿機能 (→P.471)
- ECO: エコ空調モード (→P.472)
- SYNC: SYNC モード (→P.470)
- ▶ オプション画面

各機能の  (作動) /  (非作
 動) を切りかえることができます。

- クライメイトコンシェルジュ (→P.468)
- S-FLOW モード (→P.475)
- ウインドシールドデアイサー (→P.475)
- ナノイー X[※] (→P.474)

※ nanoe、ナノイーおよび nanoe マーク
 は、パナソニック ホールディングス株
 式会社の商標です。

知識

■ カスタマイズ機能

AUTO スイッチを押したとき、除湿機能
 を連動させるかどうかなどを設定できま
 す。(カスタマイズ一覧: →P.611)

■ ナノイー X^{※1, 2} について

エアコンにはナノイー X 発生装置が搭載
 されています。この装置は運転席ドア側
 の吹き出し口からナノイー X を放出し、
 車室内を快適な空気環境に導きます^{※3}。

- ナノイー X が ON のとき、ファンが作動
 すると、自動的にナノイー X 発生装置
 が作動します。
- ナノイー X 発生装置が作動中、次の条
 件で効果を発揮します。
 - ・ 吹き出し口が上半身に送風、上半身と
 足元に送風、足元に送風のとき
 - ・ 運転席ドア側の吹き出し口が開いてい
 るとき
- ナノイー X 発生装置作動時は、微量の
 オゾンが発生し、かすかに臭うことが
 ありますが、森林など、自然界に存在
 する程度の量なので、人体に影響はあ
 りません。
- ナノイー X 発生装置作動中、かすかに
 作動音が聞こえることがありますが、
 故障ではありません。
 - ・ ナノイー X 発生装置が作動するまでに
 多少時間がかかることがあります。
 - ・ 作動直後は作動音が大きい場合があり
 ます。

※¹ nanoe、ナノイーおよび nanoe マーク
 は、パナソニック ホールディングス株
 式会社の商標です。

※² ナノイー X は、ナノイーに比べて、効
 果の元である OH ラジカルをより多く
 含む微粒子イオンです。

※³ 温湿度環境、風量・風向きによっては
 ナノイー の効果が十分に得られない場

合があります。

⚠ 警告

■ ナノイー X 発生装置について

高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、レクサス販売店にお問い合わせください。

⚠ 注意

■ ナノイー X 発生装置の損傷を防ぐために

運転席ドア側の吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。正常に働かなくなるおそれがあります。

ウインドシールドデアイサー

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用してください。

- 1 エアコンオプション画面表示スイッチを選択する（→P.474）
- 2 オプション画面を選択する
- 3 “デアイサー” スイッチを選択する

ウインドシールドデアイサーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

⚠ 警告

■ ウインドシールドデアイサーが作動しているとき

フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

フロント席集中送風モード (S-FLOW)

エアコンの送風がフロント席に優先されるよう、送風を自動的に制御する機能です。無駄な冷暖房を抑えることで、電費の向上に貢献します。

フロント席集中送風モードは、次のような状況で作動します。

- リヤ席に乗員を検知していない
- フロントウインドウガラスの曇り取りが作動していない

作動中は、スイッチの作動表示灯が点灯します。

■ 手動でフロント席集中送風モードの作動／非作動を切りかえる

フロント席集中送風モードは、スイッチ操作によりフロント席のみへの送風と全席への送風を切りかえることができます。このとき、送風の自動制御は作動しなくなります。

エアコン操作画面の S-FLOW モードの （作動）／（非作動）を選択し、送風を切りかえます。

- 表示灯が点灯：フロント席のみへの送風
- 表示灯が消灯：全席への送風

知識

■ 送風の自動制御について

- 車室内を快適に保つために、EV システム始動直後や外気温によっては、乗員がいないシートにも送風されることがあります。
- EV システム始動後に乗員が車室内を移動した場合や乗降した場合は、乗員の有無を正しく検知できず、送風の自動

制御は作動しません。

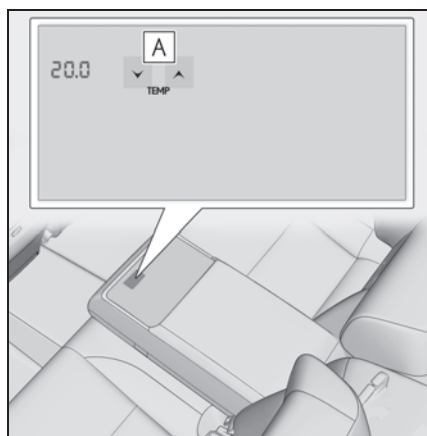
■ 送風の手動制御について

手動でフロント席のみへの送風に切りかえた場合でも、リヤ席に乗員がいると自動的に全席に送風されることがあります。

■ 送風を自動制御にもどすには

- 1 表示灯が消灯している状態でパワースイッチを OFF にする。
- 2 60 分以上経過後にパワースイッチを ON モードにする。

エアコン操作スイッチについて (リヤ席) ★



A リヤ席温度調整スイッチ

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときはリヤ席温度調整スイッチの“^”を、下げるときは“v”を押す



知識

■ リヤコントロールパネルの設定を変更する

以下の設定などを変更できます。

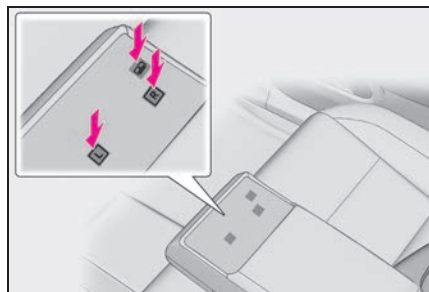
● リヤコントロールパネル押下時の確定時間

● リヤコントロールパネル押下時の Beep 音オン/オフ

- 1 安全な場所に駐車し、パワースイッチを OFF にする
- 2 ブレーキペダルから足を離し、パワースイッチを ACC にする

パワースイッチを ON にすると、設定は変更できません。

- 3 **L** スイッチと **R** スイッチに加え、 スイッチも同時に約 10 秒以上押す



- 4 **L** スイッチを押して、設定項目を選択する
- 5 **R** スイッチを押して、設定値を選択する

気象情報連動エアコン制御 ※1

現在地の気象情報 ※2 と車両情報を連携させて、次のようにエアコンを制御することで、暖房エネルギーを低減します。

● 自動内気化制御

現在地の気象情報から車室内の湿度を推定し、ガラスの曇りや車室内の臭いなどの快適性を確保しつつ、外気導入を内気循環に切りかえて外気の導入量を減らす

ことで、暖房エネルギーを低減します。

● 除湿機能自動 OFF 制御

現在地の気象情報とエアコンの作動状況からエアコン内の水分量を推定し、ガラスの曇りや車室内の臭いなどの快適性を確保しつつ、除湿機能を OFF することで、除湿エネルギーを低減します。

※¹ 車両連携エコを「あり」にしたときに作動します (→P.628)

※² 現在地の気象情報は、車両の GPS 情報をセンターに送信して取得します。



知識

■ 気象情報連動エアコン制御が作動する時期

冬期のみ作動します。地域によって冬期は異なります。また、ソフトウェアのアップデートにより、冬期は見直される場合があります。

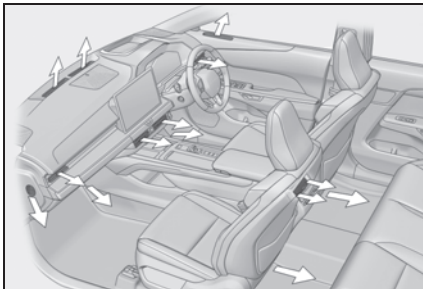
■ G-Link を解約したとき

気象情報連動エアコン制御は使用できなくなります。

吹き出し口の配置・操作

■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変わります。

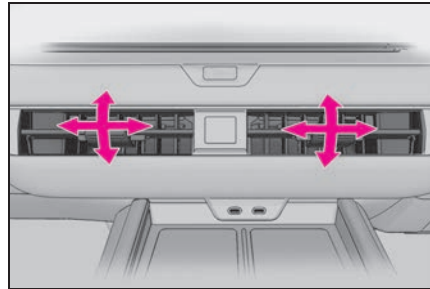


■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

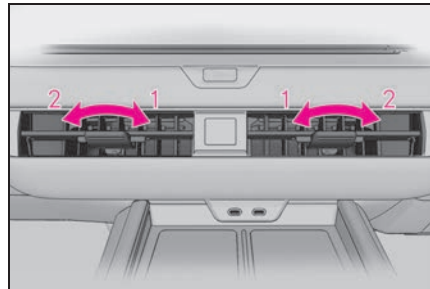
次のように操作して、風向きの調整

や吹き出し口の開閉をします。

▶ フロントセンター



風向きの調整

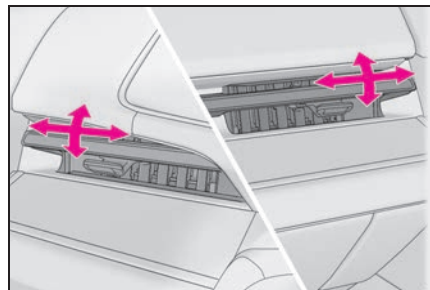


吹き出し口の開閉

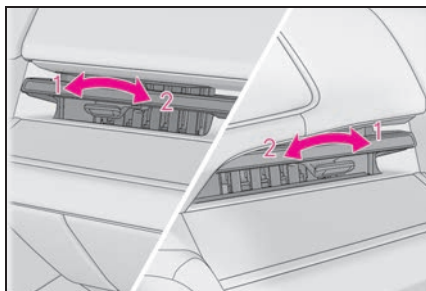
1 閉じる

2 開ける

▶ フロントサイド



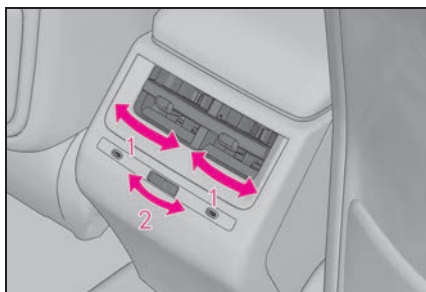
風向きの調整



吹き出し口の開閉

- 1 閉じる
- 2 開ける

▶ リヤ

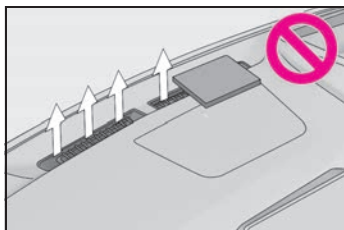


- 1 風向きを調整する
- 2 吹き出し口を開閉する

警告

■フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために

フロントウインドウガラスの曇り取りを妨げないために、吹き出し口をさえるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなる場合があります。



ステアリングヒーター／シートヒーター／シートベンチレーター／輻射ヒーター

●ステアリングヒーター

ハンドルのグリップ部を暖めることができます。

●シートヒーター／輻射ヒーター

シートの表面や前席の足元を暖めることができます。

●シートベンチレーター

シート内部に装備されたファンで換気することにより、シート表面の通気をよくします。

スイッチと、センターディスプレイの操作画面(→P.479)で操作します。

警告

■低温やけどについて

次の方がステアリングヒーター／シートヒーター／輻射ヒーターにふれないようにご注意ください。

- 乳幼児、お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬・風邪薬など）を服用された方



注意

■ シートヒーター／シートベンチレーターの損傷を防ぐために

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために
EV システムが停止した状態で使用しないでください。

ステアリングヒーター

センターディスプレイのを選択する

スイッチを選択するたびに、作動状態が次のように切りかわります。

AUTO→ 強 (2 個点灯) → 弱 (1 個点灯) → OFF

作動中は、スイッチ上のインジケーターと、レベルインジケーター (赤) が点灯します。AUTO 作動中は “AUTO” が点灯します。



知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ カスタマイズ機能

ステアリングヒーターの温度を設定できます。(カスタマイズ一覧：→P.611)

シートヒーター／輻射ヒーター

■ フロント

センターディスプレイのまたはを選択する

スイッチを選択するたびに、作動状態が次のように切りかわります。

AUTO→ 強 (3 個点灯) → 中 (2 個点灯) → 弱 (1 個点灯) → OFF

■ リヤ★

▶ センターディスプレイ

1 “REAR” を選択する
(→P.469)

2 または を選択する

▶ リヤコントロールパネル

1 または を押す

2 を押す

スイッチを選択するたびに、作動状態が次のように切りかわります。

強 (3 個点灯) → 中 (2 個点灯) → 弱 (1 個点灯) → OFF

リヤシートヒーター作動中はインジケーターが点灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



知識

■ シートヒーターの作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ カスタマイズ機能

フロントシートの温度を設定できます。(カスタマイズ一覧：→P.611)

■ 輻射ヒーターの作動条件

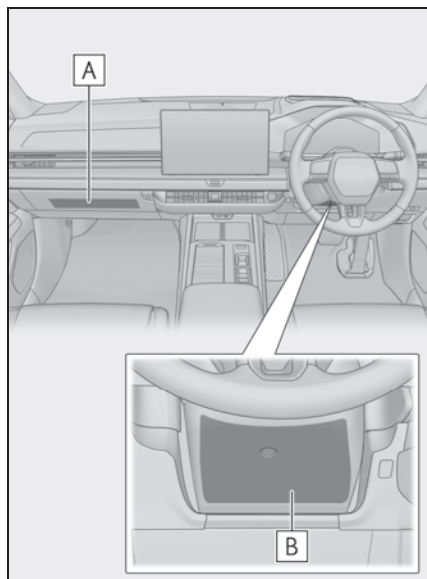
パワースイッチが ON かつシートベルトを装着しているとき

■ 輻射ヒーターの作動について

- ヒーター部に触り続けるなどによって、自動的に電源が切れることがあります。その場合は、センターディスプレイのシートヒーター／輻射ヒーターのスイッチを入れなおしてください。
- ヒーター温度が上昇するまでに時間が

かかる場合があります。

■ 輻射ヒーターの位置



A 助手席側輻射ヒーター

B 運転席側輻射ヒーター

⚠ 警告

■ 異常過熱や低温やけどを防ぐために
シートヒーター／輻射ヒーターを使用
するときは次のことにお守りください。

- 長時間連続使用しないでください。
- 毛布・クッションなどを使用しないでください。

■ 走行中の警告

ハンドルから手を放したりペダルから
足を放して、輻射ヒーターに触れたり
手や足をかざす行為は行わないでくだ
さい。

運転を誤って、重大な傷害におよぶか、
最悪の場合死亡につながるおそれがあ
ります。

シートベンチレーター

■ フロント

センターディスプレイの または
 を選択する

スイッチを選択するたびに、作動状態が
次のように切りかわります。

AUTO → 強 (3 個点灯) → 中 (2 個
点灯) → 弱 (1 個点灯) → OFF

作動中は、スイッチ上のインジケータ
ーと、レベルインジケータ (青) が点灯
します。AUTO 作動中は“AUTO” が点
灯します。

■ リヤ★

▶ センターディスプレイ

1 “REAR” を選択する
(→P.469)

2 または を選択する

▶ リヤコントロールパネル

1 または を押す

2 を押す

スイッチを選択するたびに、作動状態が
次のように切りかわります。

強 (3 個点灯) → 中 (2 個点灯) →
弱 (1 個点灯) → OFF

リヤシートベンチレーター作動中は
インジケータが点灯します。

★: グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ カスタマイズ機能

シートベンチレーターの温度を設定できます。(カスタマイズ一覧：→P.611)

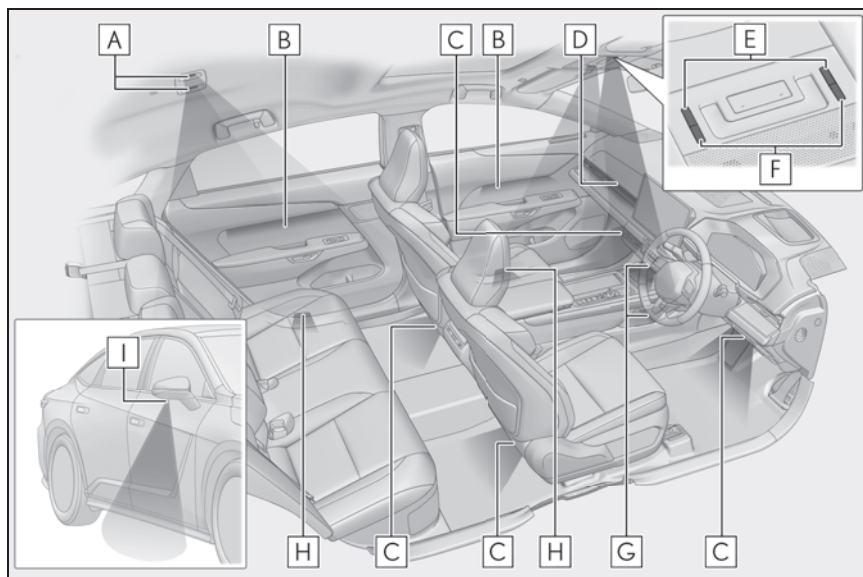
■ エアコン連動制御モードについて

フロントシートベンチレーションが強いとき、エアコンの風量に応じてフロントシートベンチレーションの風量が強くなります。

室内灯一覧

室内灯の位置

▶ タイプ A



A リヤパーソナルランプ (→P.485)

B ドアトリム照明 ※1

C 足元照明 ※1

D インストルメントパネルオーナメント照明 ※1

E フロントパーソナルランプ (→P.485)

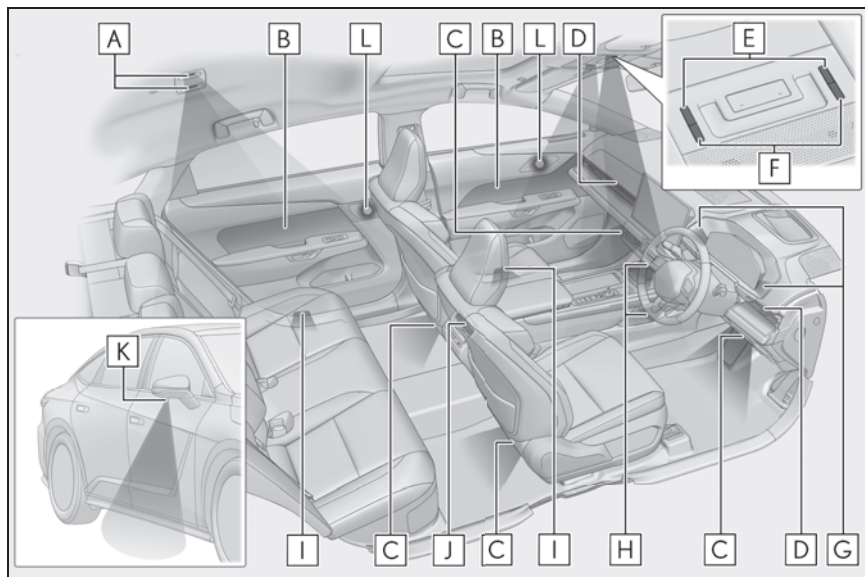
F インテリアランプ (→P.485)

G センターコンソール照明 ※1

H ドアカーテシランプ

I ドアミラー足元照明

▶ タイプ B



A リヤパーソナルランプ (→P.485)

B ドアトリム照明 ※1,2,3

C 足元照明 ※1

D インstrumentパネルオーナメント照明 ※1

E フロントパーソナルランプ (→P.485)

F インテリアランプ (→P.485)

G メーターサイド照明 ※1,2

H センターコンソール照明 ※1

I ドアカーテシランプ

J リヤコンソール照明 ※1

K ドアミラー足元照明

L ドアスピーカーイルミネーション ※1

※1 照明色を変更することができます。(→P.629)

※2 パワースイッチを OFF にしたときは消灯します。

※3 日中及びヘッドランプ消灯時は消灯します。



知識

■ イルミネテッドエントリーシステム

電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・パワースイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。また、シフト操作と連動して照度が自動的に調整されます。

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

パワースイッチを OFF にしたときに、室内灯が点灯したままの場合、約 10 分後に自動消灯します。

■ お知らせイルミネーション（イルミネーション通知）★

メーターサイド照明は、発進遅れ告知機能（→P.339）、障害物先読みアシスト（OAA）（→P.328）の告知音やマルチインフォメーションディスプレイの表示と連動して点滅します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ インテリアランプとパーソナルランプが正常に反応しないおそれのある状況

● レンズ面に水や汚れなどが付着しているとき

● めれた手で操作したとき

● 手袋などを装着しているとき

■ 室内灯の自動点灯について

SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、室内灯が約 20 分間自動で点灯します。

手動操作で消灯することもできますが、二次災害を防ぐため、安全が確保できるまでは消灯しないことをおすすめします。（衝撃の度合いや事故の状況によっては点灯しないことがあります）

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することがで

きます。（カスタマイズ一覧：→P.629）



注意

■ 補機バッテリーあがりを防止するために

EV システムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

■ ランプのレンズの取りはずしについて

インテリアランプとパーソナルランプのレンズを絶対に取りはずさないでください。ランプが故障する原因となります。レンズを取りはずす必要がある場合は、レクサス販売店にご相談ください。

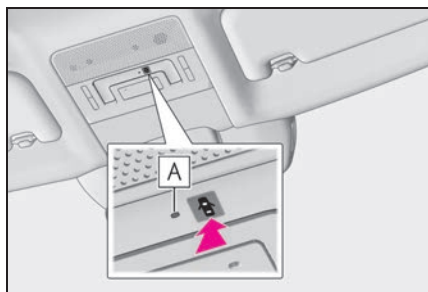
インテリアランプを操作するには

■ ドアポジション（ドア連動）を ON にする

ドア連動スイッチを押す

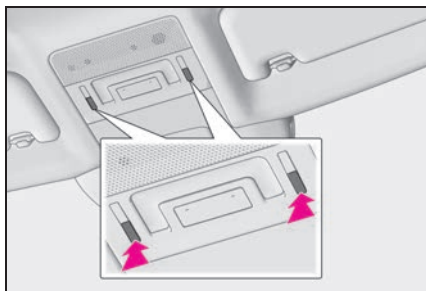
ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯が切りかわります。

ON のときはインジケーター **A** が点灯します。



■ ランプを点灯・消灯する

ランプを点灯・消灯する（ランプにタッチする）



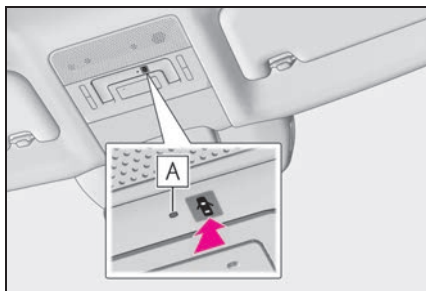
パーソナルランプを操作するには

■ ドアポジション（ドア連動）をONにする

ドア連動スイッチを押す

ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯が切りかわります。

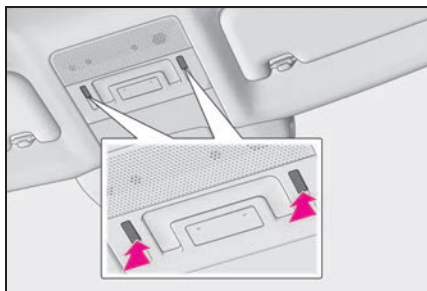
ON のときはインジケータ—**A**が点灯します。



■ ランプを点灯・消灯する

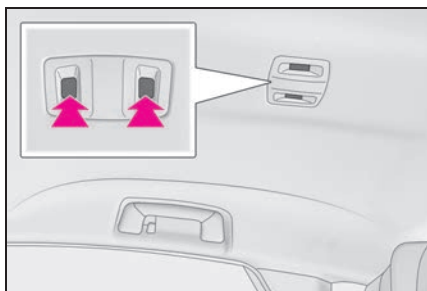
▶ フロント

ランプを点灯・消灯する（ランプにタッチする）



▶ リヤ

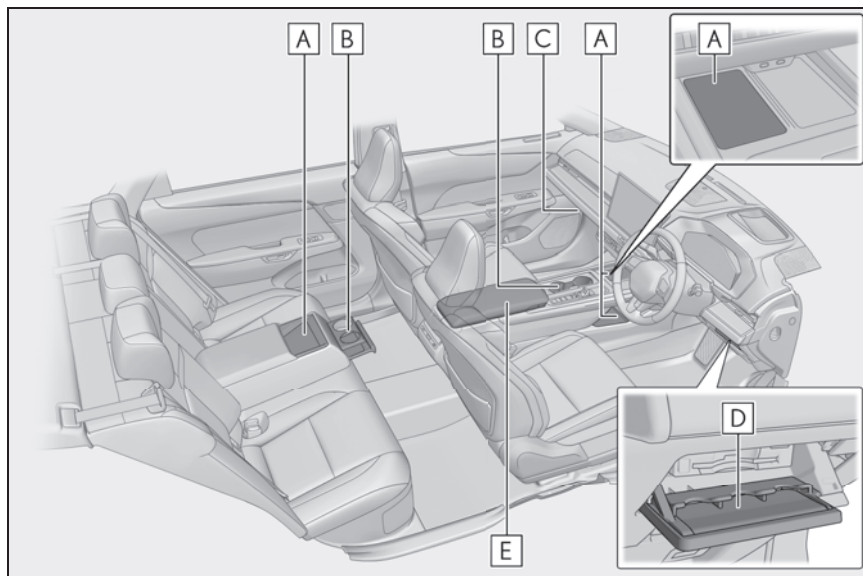
ランプを点灯・消灯する（ランプにタッチする）



収納装備一覧

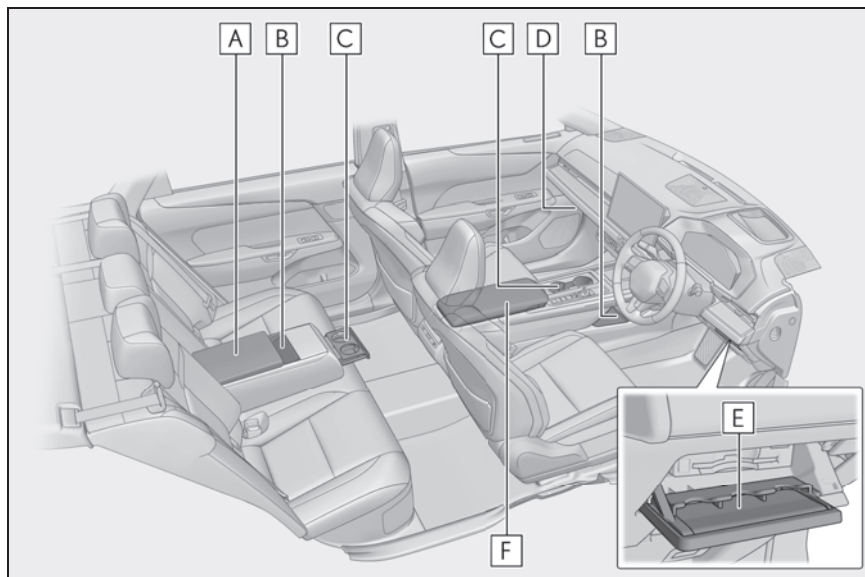
収納装備の位置

▶ タイプ A



- A** オープントレイ (→P.490)
- B** カップホルダー (→P.488)
- C** グローブボックス (→P.488)
- D** コインボックス (→P.489)
- E** コンソールボックス (→P.488)

▶ タイプ B



- A** 小物入れ (→P.489)
- B** オープントレイ (→P.490)
- C** カップホルダー (→P.488)
- D** グローブボックス (→P.488)
- E** コインボックス (→P.489)
- F** コンソールボックス (→P.488)

⚠ 警告

■ 収納装備に放置してはいけないもの
メガネ・ライターやスプレー缶を収納
装備内に放置したままにしないでくだ
さい。

放置したまましていると、次のようなこ
とが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の
収納物との接触などにより、メガネ
が変形やひび割れを起こす

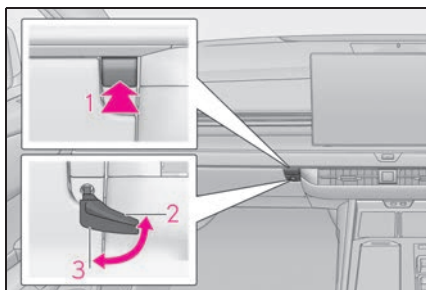
- 室温が高くなったときにライターや
スプレー缶が爆発したり、他の収納
物との接触でライターが着火したり
スプレー缶のガスがもれるなどして
火災につながる

■ 収納装備を使わないときは

収納装備を使わないときは、フタを必
ず閉じてください。

急ブレーキや急旋回時などに、開いた
フタに体があたったり、収納していた
ものが飛び出したりして、思わぬ事故
につながるおそれがあります。

グローブボックスを使うには



- 1 開ける（グローブボックスオープナーを押す）
- 2 メカニカルキーで解錠
- 3 メカニカルキーで施錠



■ グローブボックスランプ

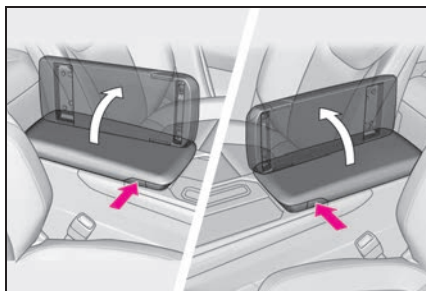
車幅灯点灯時は、グローブボックス内のランプが点灯します。

■ トランクオープナーメインスイッチ

→P.211

コンソールボックスを使うには

ボタンを押してフタを開ける
両側から開けることができます。



■ コンソールボックスランプ

車幅灯点灯時は、コンソールボックス内のランプが点灯します。



警告

■ 走行中の警告

コンソールボックスを必ず閉じてください。

急ブレーキ時などに、開いたフタが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



注意

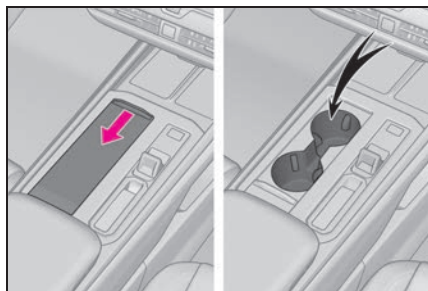
■ コンソールボックスの損傷を防ぐために

コンソールボックスが開いた状態で、開いている方向に無理な力をかけないでください。

カップホルダーを使うには

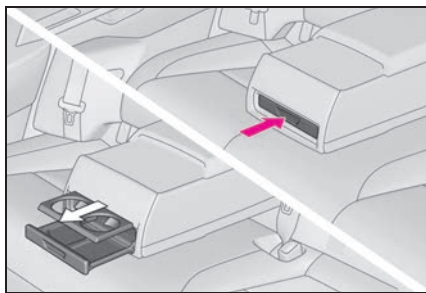
▶ フロント

フタを開ける



▶ リヤ

アームレストを手前に倒してカップホルダーを押す



知識

■ リヤカップホルダーを収納するとき

アームレストを倒した状態で収納してください。アームレストを倒した状態にしないと、収納できません。

警告

■ 収納してはいけないもの

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。また、フタを閉じているときでも、ものを収納しないでください。急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを開けておいてください。

■ 使わないときは

フタを必ず閉じてください。走行中の思わぬ事故や急停止により、けがをするおそれがあります。

■ 走行中の警告

カップホルダーの蓋の上にものを置かないでください。走行中に置いたものが飛び出し、ペダル操作のさまたげとなるおそれがあるほか、運転者の注意力がにぶることで思わぬ事故につながり、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

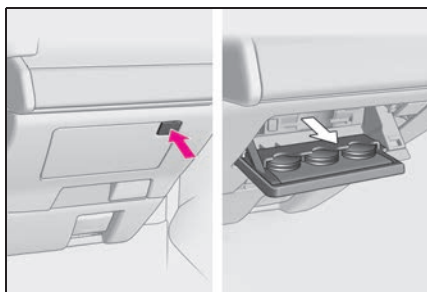
注意

■ カップホルダーの破損を防ぐために

リヤカップホルダーが出ている状態で、リヤアームレストを格納しないでください。

コインボックス

ボタンを押してフタを開ける



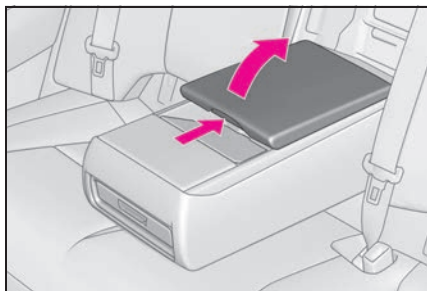
警告

■ 走行中の警告

コインボックスを必ず閉じてください。急ブレーキや急旋回時などに、開いたコインボックスが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

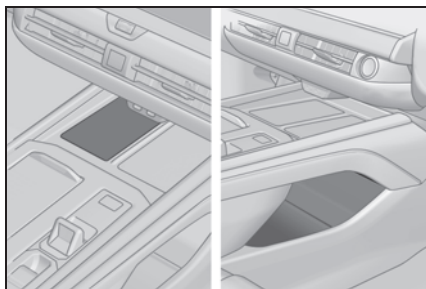
小物入れ

ボタンを押してフタを開ける

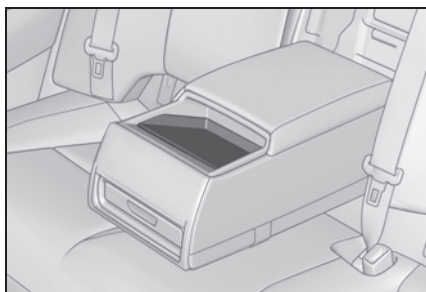


オープントレイ

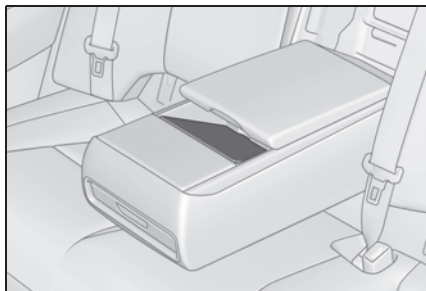
▶ フロント★



▶ リヤ (タイプ A)



▶ リヤ (タイプ B)



★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

⚠ 警告

■ 収納してはいけないもの

オープントレイにものを置くときは、次の注意事項を守ってください。急ブレーキや急ハンドル時などに収納していたものが飛びだし、ペダル操作のさまたげとなるおそれがあるほか、運転者の注意力がにぶり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

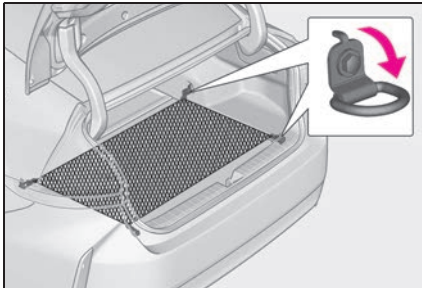
- 転がりやすいものや凹面より高さがあるものを置かないでください
- トレイの端よりも高くものを積み重ねないでください。
- トレイの端からはみ出してものを置かないでください。

トランク内装備

荷物固定用フック

フックを起こして使用する。

フックを使って荷物を固定することができます。

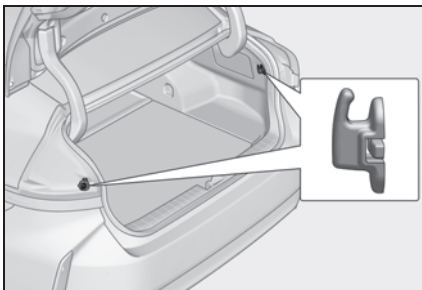


⚠ 警告

■ 荷物固定用フックを使用しないときは

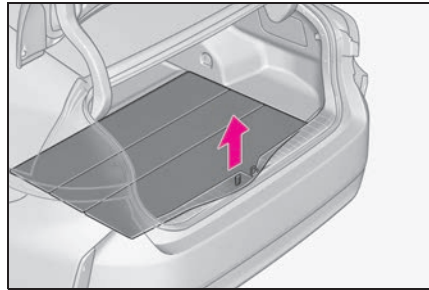
けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

買い物フック

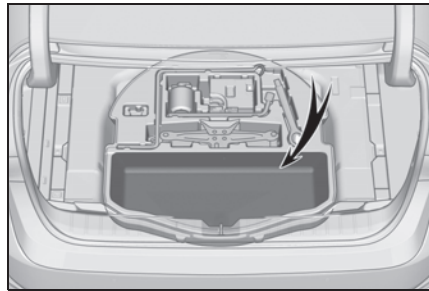


ラゲージマット

ストラップを引き上げて、ラゲージマットを持ち上げる

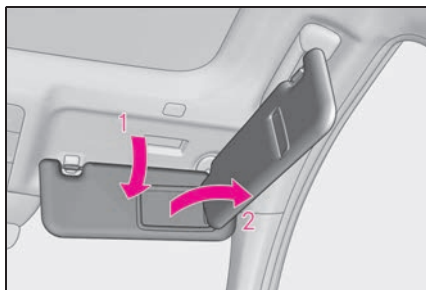


ラゲージアンダートレイ



その他の室内装備

サンバイザーを使うには

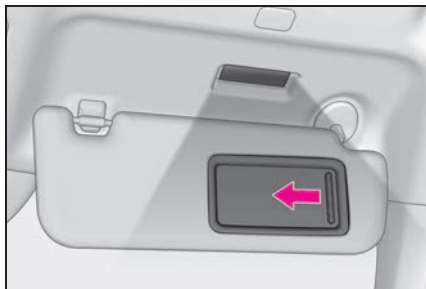


- 1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす
- 2 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

バニティミラーを使うには

カバーをスライドして開ける

カバーを開けるとバニティミラーランプが点灯します。



⚠ 注意

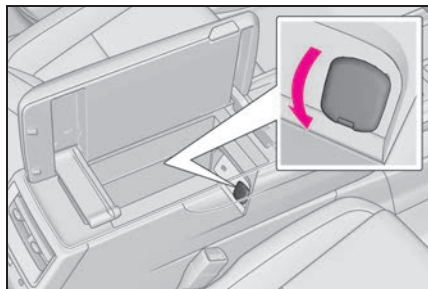
■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

EV システムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

アクセサリースOCKETを使うには

DC12V/10A（消費電力 120W）未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

フタを開けて使用する



📖 知識

■ 作動条件

パワースイッチが ACC、ON またはマルチメディアシステムの電源が ON のとき

■ EV システムを停止するとき

モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品をはずしてください。接続したままにしておくと、EV システムが正常に停止しなくなる場合があります。

⚠ 注意

■ アクセサリースOCKETを使用しないときは

異物が入ったり、飲料水などがかったりしないように、使用しないときはフタを閉めておいてください。

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

EV システムが停止した状態で、アクセサリースOCKETを使用しないでください。

充電用 USB Type-C 端子

15W : DC5V/3A (消費電力 15W) の電源としてお使いください。

45W : DC15V/3A (消費電力 45W) の電源としてお使いください。

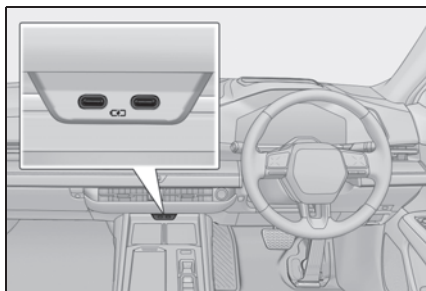
60W : DC20V/3A (消費電力 60W) の電源としてお使いください。※

この USB Type-C 端子は充電専用でありデータ転送などは行えません。また、使用する機器によっては、正常に充電できない場合があります。ご使用になる機器に付属の取扱説明書もお読みください。

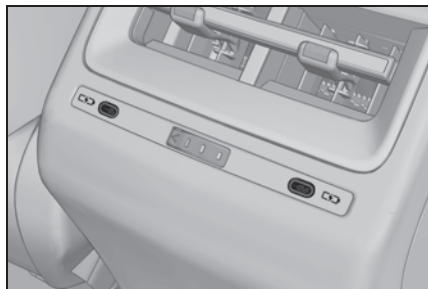
※ 2 つの端子で 60W のため、1 つの端子から 60W を使用するには、もう片方の端子を未接続状態にする必要があります。

■ 充電用 USB Type-C 端子を使用するには

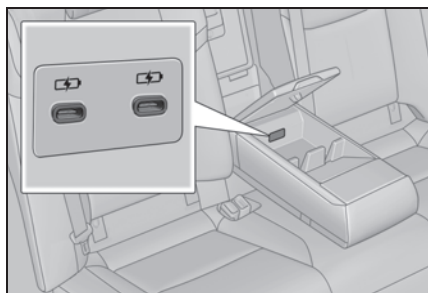
▶ フロント (60W)



▶ リヤ (コンソール後方) (45W)



▶ リヤ (アームレスト) (15W) ★



★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

□ 知識

■ 充電用 USB Type-C 端子の作動条件

パワースイッチが ACC、ON またはマルチメディアシステムの電源が ON のとき

■ 充電用 USB Type-C 端子が正常に動かないおそれのある状況

- 15W : DC5V/3A (消費電力 15W) をこえる電力を要求する機器を接続したとき
- 45W : DC15V/3A (消費電力 45W) をこえる電力を要求する機器を接続したとき
- 60W : DC20V/3A (消費電力 60W) をこえる電力を要求する機器を接続したとき
- パソコンと通信を行う機器を接続したとき

- 接続機器の電源が OFF のとき（機器により異なります）
- 炎天下に駐車したあとなど、車室内の温度が高いとき

■ 使用する外部機器について

一部の機器では、充電中に充電がいったん停止後、再充電を開始する場合がありますが、故障ではありません。



注意

■ 充電用 USB Type-C 端子の損傷を防ぐために

- 端子部に異物を入れないでください。
- 水や液体をかけないでください。
- 強い力や衝撃を加えないでください。
- 分解や改造、取りはずしをしないでください。

■ 外部機器の損傷を防ぐために

- 機器を車室内に放置しないでください。車室内が高温となり、故障の原因となります。
- 機器が接続されているときに、外部機器や外部機器のケーブルを押し下げたり、不要な力を加えたりしないでください。

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

EV システムが停止した状態で、充電用 USB Type-C 端子を長時間使用しないでください。

ワイヤレス充電器（おくだけ充電）を使うには

ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）によるワイヤレス充電規格 Qi に適合したスマートフォンやモバイルバッテリーなどの携帯機器を充電エリアに置くだけで、携帯機器を充電することができます。

充電トレイより大きい携帯機器には本機能を使用できません。また、携帯機器によっては、正常に作動しない場合があります。

ご使用になる携帯機器に付属の取扱説明書もお読みください。

■ 「Qi」マークについて

「Qi」、Qi マークは、ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）の商標です。Qi ID: 14561

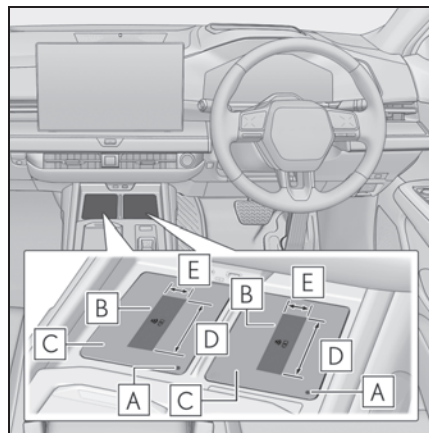


■ 「おくだけ充電」マークについて

「おくだけ充電」、「おくだけ充電」ロゴは、株式会社 NTT ドコモの登録商標です。



■ 各部の名称



A 作動表示灯

B 充電エリア※

C 充電トレイ★

D 約 10cm

E 約 2.5cm

※ 携帯機器およびワイヤレス充電器には充電用コイルが入っています。ワイヤレス充電器内の充電用コイルは、充電トレイの中央付近にある充電エリア内を移動することができます。充電エリア上で携帯機器内の充電用コイルが検出されると、その付近までワイヤレス充電器内の充電用コイルが移動し、充電を開始します。携帯機器内の充電用コイルが充電エリアからはずれた場合、充電は自動的に停止します。

また、2 つ以上の携帯機器を同時に充電トレイに置くと、正しく充電用コイルを検出できず、充電できないことがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 充電する

充電トレイに携帯機器を置く

携帯機器の充電面を下にして、機器の中央が充電エリアの中央に来るように置きましょう。

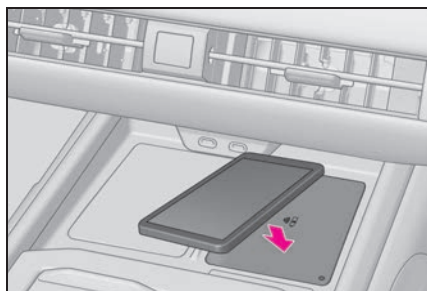
携帯機器によっては充電コイルが機器の中央にない場合があります。その場合は、携帯機器の充電コイルが充電エリアの中央に来るように置いてください。

充電中は作動表示灯が橙色に点灯します。

充電が行われないときは、できるだけ充電エリアの中央付近に携帯機器を置き直してください。

充電が行われないときは、作動表示灯が緑色と橙色の点灯をゆるやかにくり返し、充電コイルの作動音がくり返し聞こえることがあります。

充電が完了すると作動表示灯が緑色に点灯します。



■ 再充電機能

- 充電が完了し、充電停止状態が一定時間経過すると充電を再開します。
- 充電エリア内で携帯機器が大きく動くと、充電用コイルがはずれて充電がいったん停止しますが、充電エリア内に充電用コイルがある場合は、ワイヤレス充電器内の充電用コイルがその付近まで移動して充電を再開します。充電エリア外まで携帯機器が動くと、充電が停止します。充電エリアの中央付近に携帯機器を置き直してください。

■ 急速充電機能

- 次の携帯機器に対しては急速充電が行えます。
 - ・ WPC の Ver1.3.3 に準拠した、急速充電に対応した携帯機器
 - ・ 7.5W 充電に対応した iOS を搭載している iPhone (iPhone 8 以降の機種)
 - ・ Galaxy 独自の急速充電規格に対応した携帯機器
- 急速充電に対応した携帯機器を充電すると、自動的に急速充電機能に切りかわります。

■ 作動表示灯の点灯状況

作動表示灯	状況
消灯	マルチメディア電源が OFF、またはパワースイッチが OFF のとき
緑（点灯）	待機中（充電不可状態）※1
	待機中（充電可能状態）※2
	充電完了時 ※3
橙（点灯）	充電中
橙 2 回点滅後、点灯	充電周波数切替

※1 スマートエントリー&スタートシステムがキー検出を行う条件が成立している状態。

※2 待機中は充電用の電力は出力していません。この状態で金属製のものを充電トレイに置いて、加熱されることはありません。

※3 携帯機器によっては、充電完了後も表示灯が橙色に点灯し続ける場合があります。

■ ワイヤレス充電器が正しく作動しない状況

ワイヤレス充電器が正しく作動しない状況と、想定される原因の対処方法は次のとおりです。

作動表示灯	想定される原因・対処方法
橙（1 秒間に 1 回の点滅をくり返す）	車両とワイヤレス充電器の通信不良 → EV システムが始動しているときは、一度 EV システムを停止し、再始動してください。 パワースイッチのモードが ACC のときは、一度 EV システムを始動してください。（→P.258）
緑（1 秒間に 1 回の点滅をくり返す）	ワイヤレス充電器の通信異常 → EV システムが始動しているときは、一度 EV システムを停止し、再始動してください。 パワースイッチのモードが ACC のときは、一度 EV システムを始動してください。（→P.258）

作動表示灯	想定される原因・対処方法
緑（点灯）	スマートエントリー&スタートシステムがキーの検出を行っている。 → キーの検出が完了するのを待ちください。
	異物検知： ① 充電前に充電エリア内に金属製の異物があり、異物検知機能が働いた → 充電エリア内にある異物を取り除いてください。 ② Qi2 や MagSafe の金属リングの付いたケースを装着して、充電が停止した → ケースを取りはずす。
	携帯機器のずれ・充電面からの浮き： 携帯機器の充電用コイルの中心が充電エリアからはずれた、レンズの凸量が大きい、又はケースが厚いため、充電用コイルの異常過熱防止機能が働いた → 携帯機器を充電トレイから取り出し、5 秒後に充電トレイの中央付近に置き直してください。また、ケースやカバーを携帯機器に装着している場合は、はずしてください。
	携帯機器のバッテリー保護機能： 満充電に達する前に、携帯機器のバッテリー保護機能により充電が停止した → 携帯機器の仕様のため、設定を確認してください。
	電子キーの検出状態が継続： 車両カスタマイズによってマルチメディア機能を利用しているとき、電子キーが確定されず検出状態が継続された → パワースイッチを ACC または ON にして、電子キーの照合を完了させてください。
	ムービングメカの異常： ムービングメカの異常でコイルが動かなくなった → 置き直ししても、コイルの稼働音が聞こえない場合は、レクサス販売店にご相談ください。
	Qi 非対応端末： 置いても、緑点灯のままかわらない → ご使用の端末が Qi の BPP または EPP に対応しているか WPC の Web サイトをご確認ください。

作動表示灯	想定される原因・対処方法
橙（4 回連続の点滅をくり返す）	ワイヤレス充電器内の温度が一定値をこえたことによる安全停止 → いったん充電を停止し、携帯機器を充電トレイから取り出して、温度が下がるまでしばらく待ってから充電を開始してください。

知識

■ 使用条件

パワースイッチが ACC、ON またはマルチメディアシステムの電源が ON のとき

■ 使用できる携帯機器について

● ワイヤレス充電規格 Qi 準拠機器を使用できます。ただし、Qi Ver1.0 及び 1.3.2 以降および Qi2 規格の MPP (Magnet Power Profile) に対応した携帯機器に対しては、互換性を保証しているものではありません。

- 携帯電話やスマートフォンをはじめとする携帯機器を対象とした 5W 以下の低電力給電を対象としています。
- ただし、次の携帯機器に対しては、5W をこえる充電に対応しています。
 - ・ 7.5W の充電に対応した iPhone に対しては、7.5W 以下の充電に対応しています。
 - ・ Galaxy は、Galaxy 独自の充電規格に準拠した携帯機器に対しては、10W 以下の充電に対応しています。
 - ・ WPC 規格の Ver1.3.3 に規定されている EPP 出力に準拠した携帯機器に対しては、15W 以下の充電に対応しています。

■ 携帯機器にカバーやアクセサリーを付けるときは

携帯機器に、「Qi」非対応のカバーやアクセサリーを付けた状態で充電しないでください。カバー（一部メーカー純正品を含む）やアクセサリーの種類によっては充電できない場合があります。また、Qi2

に対応していないため、Qi2 に対応したアクセサリーおよびカバーを装着した状態では充電できない場合があります。充電エリアに携帯機器を置いて充電が行われないときは、カバーやアクセサリーをはずしてください。

■ スマートエントリー&スタートシステムの使用について

電子キーが車外に持ち出されたときなど、充電動作中にスマートエントリー&スタートシステムがキーの検出を行うために、一時的に充電を停止します。

■ AM 受信連動機能

AM 放送を試聴しているときに充電を行い、ノイズ音が混入した場合は、手動による周波数切りかえを実施してください。

- 1 充電中の端末をトレイから降ろす
- 2 作動表示灯が緑点灯にかわり、ノイズ音が消えたことを確認する
- 3 トレイから降ろした端末をもどし、作動表示灯が橙色に 2 回点滅し、点灯するか確認する
- 4 2 回点滅し、ノイズ音が消えた場合、周波数切りかえは完了です。
- 4 2 回点滅せず、橙色点灯し、ノイズ音が出ている場合は、再度手順 1 からの操作を行い 2 回点滅することを確認する

■ 充電中についての留意事項

充電中は、ワイヤレス充電器と携帯機器が温かくなりますが、異常ではありません。充電中に携帯機器が温かくなったときは、携帯機器側の保護機能により、充

電が停止することがあります。この場合、携帯機器の温度が十分に下がってから、再度、充電を行ってください。

また、ワイヤレス充電器内の温度を下げるためファンが作動することがありますが、異常ではありません。

■作動中の音について

パワースイッチを押して ACC または ON に変更したとき、および携帯機器を検出中は“ジー”や“カチツ”と作動音がしますが、異常ではありません。

■清掃について

→P.522

■機能が正常に動かないおそれのある状況

次のような場合は正常に充電しない場合があります。

- 携帯機器が満充電のとき
- 有線接続で携帯機器を充電中のとき
- 充電エリアと携帯機器のあいだに異物があるとき
- 充電により、携帯機器の温度が高温になっているとき
- 炎天下などにより、充電トレイ付近の温度が 35℃ 以上になっているとき
- 携帯機器の充電面を上にして置いたとき
- 折りたたみ式など小型の携帯機器の充電コイルが充電エリアから外れているとき
- 携帯機器が充電トレイよりも大きいとき
- 携帯機器のカメラ部の突起が充電面より 3mm 以上あるとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいますとき

● 携帯機器の充電面と充電エリアのあいだに、次のようなものが挟まれているとき

- ・ 厚みがあるケースやカバー
- ・ 厚みがあるデコレーション
- ・ 指リングやストラップなどのアクセサリ
- ・ レンズ部に凸形状があるケースやカバー
- ・ レンズ面を保護するカバー

● 携帯機器が、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき

- ・ アルミ箔などの金属の貼られたカード
- ・ アルミ箔を使用したタバコの箱
- ・ 金属製の財布やかばん
- ・ 小銭
- ・ カイロ
- ・ CD や DVD などのメディア
- ・ 金属製のデコレーション（含む MagSafe / Qi2 用の金属性リングシール）
- ・ 金属製のケースやカバー（含む MagSafe / Qi2 用の金属性リングが付いたもの）
- ・ 携帯機器の充電面側に磁石が入ったケース

● 近くで電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

● 2つ以上の携帯機器を同時に充電トレイに置いたとき

● S ペン（Galaxy 端末付属のタッチペン）内蔵の端末（Note シリーズ等）をご使用の場合、S ペンを挿入したままトレイに置いたとき

また、上記以外で、充電が正常に行われず、または、作動表示灯が点滅したままのときは、ワイヤレス充電器の異常が考えられます。レクサス販売店へお問い合わせください。

■スマートフォンの OS を更新したとき

スマートフォンの OS バージョンを更新

したとき、充電の仕様が大きく変更されることがあります。WPC の対応バージョンが変更された場合、急速充電機能が使えなくなる場合があります。詳しくは各メーカーのホームページ情報等でご確認ください。

■ 商標について

iPhone は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。なお、iPhone の商標はアイホン株式会社のライセンスにもとづき使用されています。

MagSafe は Apple Inc. の商標または登録商標です。

Galaxy は、Samsung Electronics Co.,Ltd. の商標または登録商標です。



警告

■ 運転中の注意

携帯機器を充電する場合、安全のため、運転者は運転中に携帯機器本体の操作をしないでください。

■ 走行中の注意

コードレスヘッドフォンなど小型軽量の携帯機器は、走行中に充電しないでください。非常に軽量のため充電トレイから飛び出し、思わぬ事故の原因になるおそれがあり危険です。

■ 電波がおよぼす影響について

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器などの医療用電気機器を装着されている方は、ワイヤレス充電器のご使用にあたっては医師とよくご相談ください。ワイヤレス充電器の動作が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。

■ 故障ややけどを防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと装置の故障や損傷、車両火災、発熱によるやけど、または感電につながるおそれがあります。

- 充電中に、充電エリアと携帯機器のあいだに金属物を挟まない
- 充電エリアにアルミなどのシールや金属製のものを貼り付けない
- 携帯機器本体および外付けのケースやカバーなどに対して、充電エリアと接触する側に、アルミなどのシールや金属製のものを貼り付けたまま充電しない。
MagSafe / Qi2 用の後付け用金属製リングおよび、純正品以外のケースも発熱する危険性があるため、ご使用を控えてください。
- 小物入れがわりにものを置かない
- 強い力や衝撃をかけない
- 分解や改造、取りはずしをしない
- 指定された携帯機器以外は充電しない
- 磁気を帯びたものを近付けない
- 充電エリアに、ほこりがかぶった状態で充電しない
- 布などをかぶせて充電しない



注意

■ 故障やデータ破損を防止するために

- 充電中に、充電エリアにクレジットカード・ETC カードなどの磁気カードや磁気記録メディアなどを近づけると、磁気の影響によりデータが消えるおそれがあります。また、腕時計などの精密機器を近づけると、こわれたりするおそれがありますので、近づけないでください。

⚠ 注意

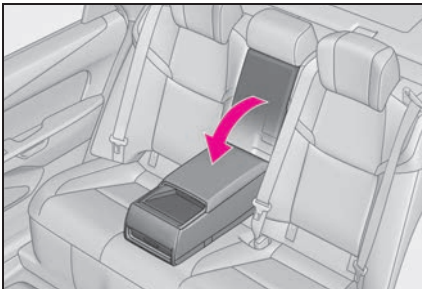
- 携帯機器の充電面と充電エリアのあいだに、交通系 IC カードなど非接触型 IC カードを挟んだまま充電しないでください。IC チップが非常に高温になり、携帯機器や IC カードが破損するおそれがあります。特に、非接触型 IC カードを取り付けられるケースやカバーを携帯機器に装着したまま充電しないようにご注意ください。
- 携帯機器は車室内に放置しないでください。炎天下など車室内が高温となり、故障の原因になります。
- 補機バッテリーあがりを防止するために

EV システムを停止した状態で、ワイヤレス充電器を長時間使用しないでください。

リヤアームレストを使うには

手前に倒して使用します。

▶ タイプ A



▶ タイプ B

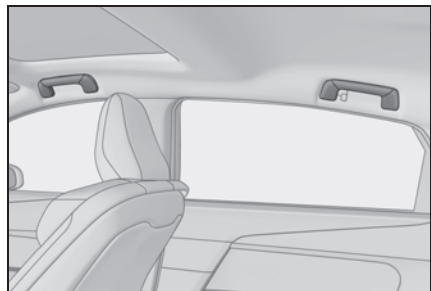


⚠ 注意

- アームレストの破損を防ぐために過度の負荷をかけないでください。

アシストグリップを使うには

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



⚠ 警告

■ アシストグリップについて

乗降時やシートから立ち上がる時などに使用しないでください。

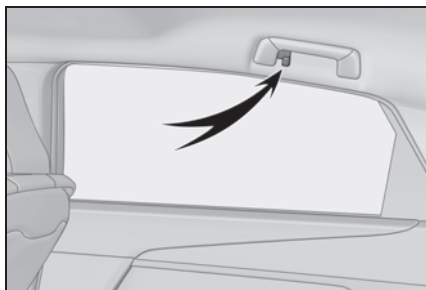
⚠ 注意

■ アシストグリップの破損を防ぐために

破損を防ぐために、アシストグリップに過度の負荷をかけないでください。

コートフック

コートフックは、リヤのアシストグリップに付いています。



⚠ 警告

■ コートフックへかけてはいけないもの

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。

SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

リヤサンシェード★／リヤドアサンシェード★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ リヤサンシェード

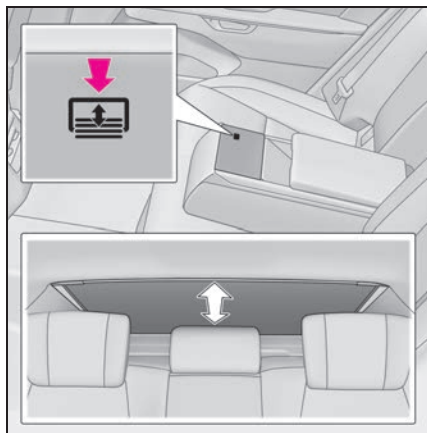
スイッチ操作でリヤサンシェードが上昇／下降します。

▶ フロント席からの操作

- 1 センターディスプレイのメインメニューから  を選択する
- 2 “車両カスタマイズ” を選択する
- 3 “ドア” を選択する
- 4 “リヤウィンドウサンシェード” を選択する

▶ リヤ席からの操作

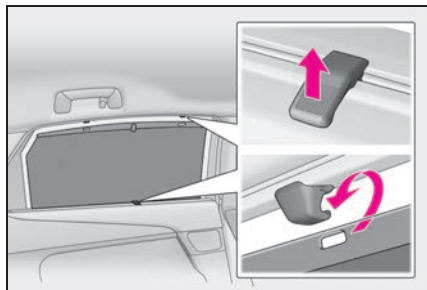
スイッチを押す（上昇／下降）



■ リヤドアサンシェード

ツマミをしっかりと持って引き出し、フックにかける

もどすときはフックからはずし、ゆっくり収納します。



知識

■ リバース連動機能

リヤサンシェードが上がった状態でシフトポジションを R にすると、後方を見やすくするためにリヤサンシェードが下降します。

ただし、次のいずれかを行うと、リヤサンシェードは再度上昇します。

- スイッチをもう一度押す ※
- シフトポジションを P に入れる
- シフトポジションを D にし、15km/h 以上で走行する

※ スイッチ操作後はリバース連動機能が作動しない場合があります。作動可能状態にするには、再度上記の操作を行ってください。

警告

■ リヤサンシェード作動中は

リヤサンシェードが作動しているとき、リヤサンシェードの留め金部分や溝に指を置かないでください。

巻き込まれてけがをするおそれがあります。

注意

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

EV システムが停止しているときは、リヤサンシェードを操作しないでください。

■ 正常に機能させるために

以下のことをお守りください。

- リヤサンシェードのモーターや他の部分に負荷をかけすぎない
- 開閉のさまたげになる部分にものを置かない

- リヤサンシェード・リヤドアサンシェードにものを貼らない

- 溝をきれいに保つ

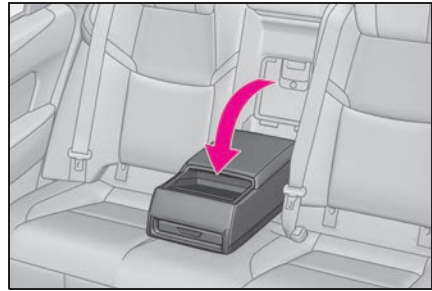
- 長時間リヤサンシェードの操作を続けない

トランクスルー

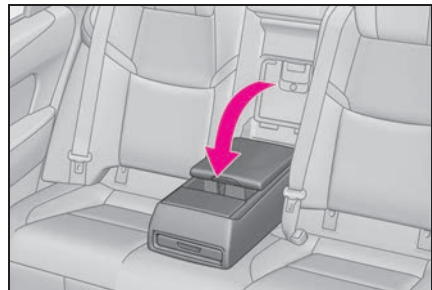
トランクとリヤ席のスペースを利用して、長い荷物を積むことができます。

1 アームレストを倒す

- ・ タイプ A



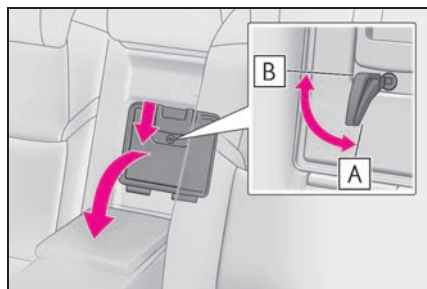
- ・ タイプ B



2 ハンドルを押し下げてアームレストドアを開ける

アームレストドアはメカニカルキーを

使って施錠／解錠できます。



A 解錠

B 施錠

⚠ 警告

■ 使用しないときは

アームレストドアを閉めておいてください。

急ブレーキをかけたときに収納していたものが客室に飛び出したり、けがをするおそれがあります。

アクセサリコンセント (AC100V・1500W)・非常時給電システム

● アクセサリコンセント

車内において、AC100V で消費電力の合計が 1500W の電気製品を使用することができるシステムです。(→P.505)

災害などによる非常時に電力が必要なときは非常時給電システムのご使用をおすすめします。(→P.506)

● 非常時給電システム

災害などによる非常時に電力が必要なとき、車両の走行機能を停止した状態で、AC100V で消費電力の合計が 1500W 以下の電気製品を使用することができるシステムです。(→P.506)

駆動用電池充電警告灯が点灯するまで給電機能が使用できるシステムです。

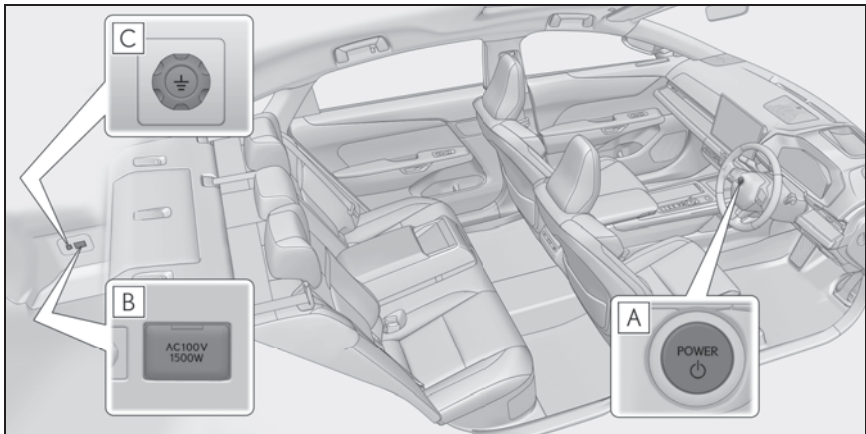
駐車中に使用するときの重要確認事項

必ず、給電作業前に次の点をご確認ください。

- 地面が固く平らな場所に駐車すること
- 輪止めの使用をおすすめします。輪止めはレクサス販売店で購入することができます。
- ボンネットが閉まっていること
- パーキングブレーキがかかっていること

- シフトポジションがP になっていること
- パワースイッチがOFF になっていること
- 給電中はオートアラームを設定することができません。盗難を防ぐために、車内やトランク内に貴重品などを放置しないこと
- 普通充電を行っていないこと
- AC 外部給電を行っていないこと
非常時給電システムを使用するときには次の点についても確認ください
- 急速充電を行っていないこと
- DC 外部給電または V2H 給電を行っていないこと

各部の名称



- A** パワースイッチ (→P.258)
- B** トランク内コンセント
- C** アース端子

アクセサリコンセントを使用するには

■ コンセントを ON するとき

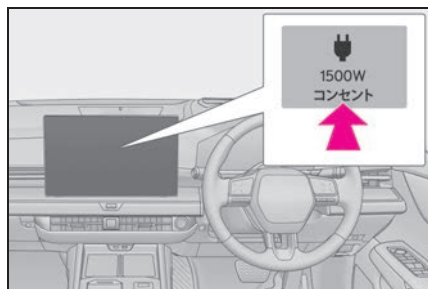
- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認し、ブレーキペダルをしっかり踏みながらパワースイッチを押す (→P.258)
- 2 READY インジケータが点灯したことを確認し、センターディスプレイ

プレイのクイックコントロール画面※を表示する

- 3 “1500W コンセント” にタッチする

“1500W コンセント” をタッチするたびにコンセントの ON / OFF が切りか

ります。



- 4 フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり差し込む (→P.507)

■ コンセントを OFF するとき

次の手順をお守りください。

- 1 使用している電気製品の電源を OFF にする
- 2 センターディスプレイのクイックコントロール画面※を表示する
- 3 “1500W コンセント” にタッチする
- 4 コンセントから電源プラグを取りはずす
- 5 コンセントのフタを閉める

※ 詳しくは「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

非常時給電システムを使用するには

■ 非常時給電システムを起動するとき

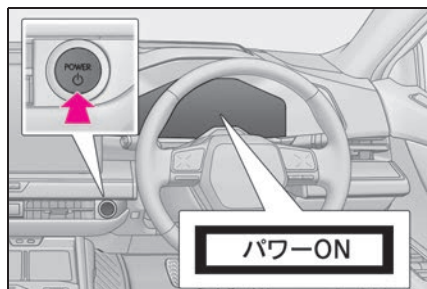
- 1 ブレーキペダルを踏まずに、パワースイッチを ON にする (パワースイッチを 1 回もしくは 2 回押す。※) (→P.260)

マルチインフォメーションディスプレイに “パワー ON” と表示されているこ

とを確認してください。

※ ACC カスタマイズ機能の設定状態により異なります。

ブレーキペダルを踏んだまま、パワースイッチを押し、READY インジケーターが点灯した場合、非常時給電システムは使用できません。



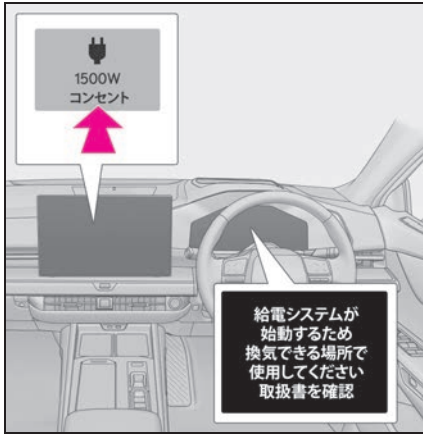
- 2 センターディスプレイのクイックコントロール画面※を表示する
- 3 READY インジケーターが点灯していないことを確認し、“1500W コンセント” に、約 1 秒間隔で 3 回連続タッチする

マルチインフォメーションディスプレイに非常時給電モードの表示がされ起動が完了します。

タッチの間隔が 2 秒以上あいた場合、マルチインフォメーションディスプレイの表示がされないときがあります。この場合は、はじめから操作をやり直してください。

“1500W コンセント” を 4 回以上連続でタッチすると、非常時給電システム起動直後、停止することがあります。この場合は、はじめから操作をやり直して

ください。



- 4 フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり挿し込む (→P.507)

■ 非常時給電システムを停止するとき

次の手順をお守りください。

- 1 使用している電気製品の電源を OFF にする
- 2 センターディスプレイのクイックコントロール画面 ※ を表示する
- 3 “1500W コンセント” にタッチする
- 4 コンセントから電源プラグを取りはずす
- 5 コンセントのフタを閉める
- 6 パワースイッチを OFF にする

※ 詳しくは「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

電気製品の電源プラグを接続するには

■ 電源プラグを接続するとき

各電気製品の取扱説明書に記載され

ている注意事項に従ってください。

電源プラグをコンセントに接続する前に、電気製品の電源が OFF になっていることを確認してください。

- 1 フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり挿し込む

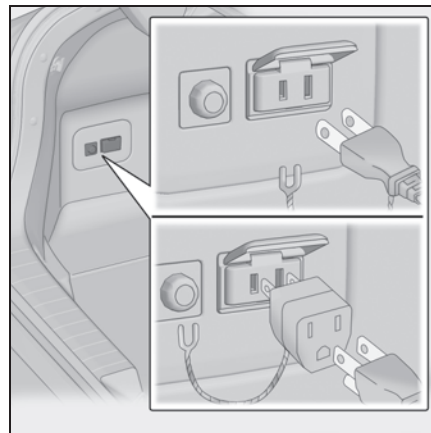
電源プラグが半挿しの状態にならないようにしてください。

次の場合は、延長ケーブルなどを使用し、電源プラグを確実に接続してご使用ください。

- 電源プラグが大きくコンセントの奥までしっかり挿し込めない
- 電源プラグが重くコンセントから抜けるおそれがある

アース線のある電気製品を使用するときは、アース端子付きのコンセントを使用し、アース線をアース端子に接続してください。

また、接地極付プラグのある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線をアース端子に接続してください。



■ 車外にコードを引いて使用するとき

付属の外部給電アタッチメントを後席ドアガラスに取り付けてください。外部給電アタッチメントを使用するときは、外部給電アタッチメント付属の取扱説明書に従って、安全に作業してください。



知識

■ アクセサリーコンセント、非常時給電システムについて

● AC100Vで消費電力の合計が1500W以下の電気製品を使用してください。規定容量をこえる電気製品を使用すると、保護機能が働き、給電機能が停止することがあります。

● 消費電力が大きな電気製品（ホットプレートなど）の中には、コンセントを単独で使うことを必須としているものがあります。その場合は、他の電気製品と併用しないでください。

● 複数の電気製品に給電する場合、電気製品によっては正常に作動しない可能性があります。その場合は、単独で電気製品を使用してください。

● コンセントの使用、使用する電気製品によっては、大きな電流が流れ、瞬間電力が1500Wをこえることがあります。この場合は、保護機能が働き、給電機能が停止することがあります。

● コンセントの使用、使用する電気製品によっては、テレビやラジオに雑音が入ることがあります。

● 非常時給電システムの使用中は、駆動用電池充電警告灯が点灯すると給電機能が停止します。

■ 正しく作動しないおそれがある電気製品

次のような電気製品は、消費電力の合計

が1500W以下でも正常に作動しないおそれがあります。

● 起動時の電力が大きい電気製品

● 取扱説明書などに記載されている消費電力よりも大きな供給電力を必要とする電気製品

● 精密なデータ処理をする計測機器

● きわめて安定した電力供給を必要とする電気製品

● タイマー設定する機器など、コンセントの出力が連続して必要な電気製品

■ 駐車中または停車中に使用するとき

● スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠・解錠することはできません。

● 非常時給電システム起動後はメカニカルキー（→P.594）で施錠・解錠することができます。

● ドアの開閉などにより、ブザーが鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに“キーが見つかりませんキーの所在を確認してください”と表示されたりすることがあります。電子キーを携帯していることを確認してください。

● 給電中に周囲が暗くなると、自動でヘッドランプなどが点灯します。ランプについては、P.278を参照してください。

● 普通充電または急速充電はできません。

● AC外部給電はできません。車内のコンセントに接続してください。

● DC外部給電またはV2H給電はできません。

警告

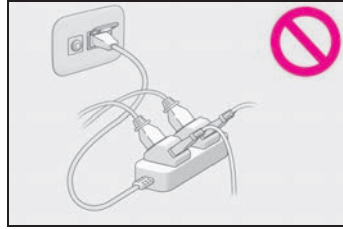
■安全にお使いいただくために

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 非常時給電システムの使用中は、お子さまや介護を必要とする方、ペットを車内に残さないでください。エアコンを使用していても、システムの自動停止等により室内が高温、または低温になる場合があります、熱中症・脱水症状・低体温症になるおそれがあります。
- お子さまなど、不慣れな方だけで給電作業を行わないでください。
- めれた手で電気製品の電源プラグを抜き差ししたり、ピンなどをコンセントに挿したりしないでください。また、コンセントに雨水・飲料水・雪などが付着した場合は乾燥させてから使用してください。
- コンセントの改造・分解・修理などはしないでください。修理についてはレクサス販売店にご相談ください。
- コンセントにはほこりやゴミが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。
- コンセントへは電源プラグ本体を持って抜き差しをし、プラグの刃にふれないようにしてください。コードを引っ張って電源プラグを抜くと、電源プラグやコードが損傷するおそれがあります。

- コードやコンセントに異常な発熱を感じたらただちに使用を中止してください。また、コードやコンセントの発熱を防ぐために、次のことをお守りください。

- ・ コンセントに、分岐用コンセントを複数接続しない



- ・ コードリールを使用する場合、コードはリールからすべて引き出す
- アース線のある電気製品を使用するときは、アース端子付きのコンセントを使用し、アース線をアース端子に接続してください。また、接地極付プラグのある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線をアース端子に接続してください。
- 電気製品の電源プラグをコンセントに挿し込んでもゆるいときは、コンセントを交換してください。交換についてはレクサス販売店にご相談ください。

■アクセサリコンセント、非常時給電システムがおよぼす影響について

ペースメーカー（植込み型心臓ペースメーカー／植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータ）装着のお客様は、給電の操作はご自身ではなさらず、ほかの方をお願いしてください。

- 給電中は車内にとどまらないでください。給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

 警告

- ものを取るときなどに、ラゲージルームなど含めた車内に入り込まないでください。給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

■ 接続する電気製品について

- 使用する電気製品に付属の取扱説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。
- 電源プラグや、電気製品が故障しているときは使用しないでください。
- 特に外気温が低いときや高いときは、故障や作動不良になる可能性があります。
- 水平設置が必要な電気製品は、正常に作動しない可能性があります。
- 防水仕様の電気製品を除き、雨や水のかかる場所、湿気の多い場所では使用しないでください。
- 水没や浸水した、またそのおそれのある電気製品は使用しないでください。
- 車両の状態によっては、一時的に給電機能が停止することがあります。

■ 電源周波数について

- 工場出荷時、車両側の電源周波数は、50Hzに設定されています。コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しないでください。誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。電気製品によっては、電源周波数の切りかえ(50/60Hz)機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を同じにしてください。車両側の電源周波数切りかえが必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

- 特に電子レンジは使用中に発熱するおそれがあるため、必ずコンセントと電源周波数が合っていることを確認してください。

■ 駐車中または停車中に使用するとき

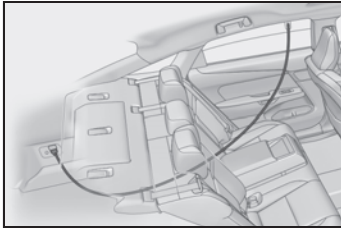
- コンセントは、照明器具などの電気製品と直接接続して使用するものです。家屋などへ電気を供給する発電機として使用しないでください。また、家屋などに設置されている非常時の給電システム(外部電源と接続ができる専用設備、外部電源からの供給回路が電力会社からの電気配線と分離されている設備など)に接続する場合は、当該システムの製造業者または販売業者にご相談ください。
- コンセントの使用中はパーキングブレーキをしっかりとかけ、シフトポジションをPから切りかえないでください。車両が動いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- コンセントの使用中は車両から離れないでください。
- 落雷の可能性がある天候のときは給電を行わないでください。給電中、雷に気付いたときは給電を停止してください。
- 車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しないでください。
- 暖房器具などの電気製品を使用して車中に泊まる際は、十分注意してください。給電システムの自動停止などにより、電気製品が意図せず停止するおそれがあります。
- 傾いた場所や坂道などに停めて使用しないでください。使用中に車両を移動させたり、傾けたりしないでください。
- 車外にコードを引いて使用する場合は、次のことに注意してください。

⚠ 警告

- ・ 雨水の侵入などに注意する

コンセントに雨水が付着した場合は、乾燥させてから使用してください。

- ・ コードを窓やドアで挟まない
- ・ たるみをもたせ、異常な張りが発生しないようにする



- ・ 誤って車両を発進させない

- 洗車は行わないでください。
- ボンネットが閉まっていることを確認してください。
- モータールーム内に顔や手を近付けないでください。ラジエーター冷却用のファンが急にまわりますことがあります。ファンの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれるおそれがあります。
- 燃えやすいものの近くに停めて使用しないでください。
- 腐食性のガスまたは溶液の発散する場所では使用しないでください。

■ 走行中に使用するとき

- 走行中、次のような場合は、電気製品を使用しないでください。また、電気製品を確実に固定できない状態で使用しないでください。
- ・ わき見運転など、安全運転のさまたげになる場合（テレビ・ビデオ・DVD など）

- ・ 急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、固定が不完全で転倒のおそれがある場合
- ・ 落下による事故や、発熱により火災が発生するおそれがある場合
- ・ やけどなどのおそれがある場合（トースター・電子レンジ・電熱器・ポット・コーヒーメーカーなど）
- ・ ペダルの下に電気製品が入り込み、ブレーキペダルが踏めなくなるおそれがある場合（ドライヤー・AC アダプター・マウスなど）
- 窓を閉めたまま、蒸気が出る電気製品を使用しないでください。ガラスが曇って視界が悪化し、運転に支障が出るなどのおそれがあります。また、他の電装品に悪影響をおよぼすおそれがあります。やむを得ず使用するときは、車両を停車した状態で窓を開けて使用してください。

■ 車載充電器について

モータールームに車載充電器があります。車載充電器については、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給電時は高温になります。やけどをするおそれがあるため、ふれないでください。
- 分解・修理・改造しないでください。修理が必要な場合は、必ずレクサス販売店にご相談ください。

 注意

■ ショートや故障を防ぐために

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、正常に作動しなかったり、車両や電気製品が損傷したりするおそれがあります。

● 車内のトリムの近くやシートの上などで、トースターなどの熱気を出す電気製品を使用しないでください。熱により溶損や焼損のおそれがあります。

● 振動や熱などに弱い電気製品を車内で使用しないでください。車両の振動や、炎天下での駐車時の熱などにより、電気製品が故障するおそれがあります。

● コンセントを使用しないときは、フタを閉めてください。コンセントに異物が入ったり、飲料水などがこぼれたりすると、故障したり、ショートしたりするおそれがあります。

■ 非常時給電システムを使用したあと、走行させるとき

非常時給電システムを停止してから EV システムを始動してください。

正常にアクセサリーコンセント (AC100V 1500W) または非常時給電システムが使用できないときは

正しい手順に従って作業してもアクセサリーコンセントまたは非常時給電システムが使用できない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。

正常にアクセサリーコンセントが使用できないとき

正しい手順に従って作業しても給電が開始されない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。

■ アクセサリーコンセントが使用できない

考えられる原因	対処法
駆動用電池の残量が不足している	駆動用電池を充電して駆動用電池の残量を回復させてから、再度“1500W コンセント”をタッチしてください。
普通充電または AC 外部給電を実施している	普通充電または AC 外部給電を終了し、充電コネクターまたはヴィークルパワーコネクタを取り外し、はじめから操作をやり直してください。

考えられる原因	対処法
特に外気温が高いときなど、駆動用電池、車載充電器などが高温になっている	外気温が下がってから、再度“1500W コンセント”をタッチしてください。
特に外気温が低いときなど、駆動用電池、車載充電器などが低温になっている	外気温が上がってから、再度“1500W コンセント”をタッチしてください。
電気製品が故障などで作動しない	電気製品の電源プラグを抜き、電気製品自体が故障していないか確認後、再度“1500W コンセント”をタッチしてください。“1500W コンセント”が点灯しない場合は、一度パワースイッチをOFFにし、はじめから操作をやり直してください。それでも作動しない場合は電気製品の取扱説明書を確認してください。

考えられる原因	対処法
消費電力の合計が1500Wを超えている	電気製品の電源プラグを抜き、消費電力の合計が1500W以下になっているか確認後、再度“1500W コンセント”をタッチしてください。
コンセントがショートしている	電気製品の電源プラグを抜き、下記項目を確認後、再度“1500W コンセント”をタッチしてください。 ・ピンなどの異物が挿さっていないか ・飲料水、雨水、雪などが付着していないか ・ほこりやゴミが付着していないか

以上の処置を行ってもアクセサリコンセントが使用できない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

正常に非常時給電システムが使用できないとき

正しい手順に従って作業しても給電が開始されない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。

■ 非常時給電システムが使用できない

考えられる原因	対処法
ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを操作している	ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを操作してください。
パワースイッチがACC になっている	パワースイッチがOFF の状態から、ブレーキペダルを踏まずに、パワースイッチをON にしてください。 (→P.260) マルチインフォメーションディスプレイに“POWER ON”と表示されていることを確認してください。
“1500W コンセント” をタッチする間隔が長すぎる、または“1500W コンセント” を3 回よりも多くタッチしている	“1500W コンセント” は2 秒以上間隔をあけずに3 回連続でタッチしてください。
特に外気温が高いときなど、駆動用電池、車載充電器などが高温になっている	パワースイッチをOFF にし、外気温が下がってから、はじめから操作をやり直してください。
特に外気温が低いときなど、駆動用電池、車載充電器などが低温になっている	パワースイッチをOFF にし、外気温が上がってから、はじめから操作をやり直してください。

考えられる原因	対処法
電気製品が故障などで作動しない	電気製品の電源プラグを抜き、製品自体が故障していないかを確認後、パワースイッチをOFF にし、はじめから操作をやり直してください。それでも作動しない場合は電気製品の取扱説明書を確認してください。
消費電力の合計が1500W を超えている	電気製品の電源プラグを抜き、消費電力の合計が1500W 以下になっているかを確認後、パワースイッチをOFF にし、はじめから操作をやり直してください。
コンセントがショートしている	電気製品の電源プラグを抜き、下記項目を確認後、パワースイッチをOFF にし、はじめから操作をやり直してください。 ・ ピンなどの異物が挿さっていないか ・ 飲料水、雨水、雪などが付着していないか ・ ほこりやゴミが付着していないか

考えられる原因	対処法
普通充電を実施している	普通充電を終了し、パワースイッチをOFFにし、はじめから操作をやり直してください。
AC 外部給電を実施している	AC 外部給電を終了し、パワースイッチをOFFにし、はじめから操作をやり直してください。
急速充電を実施している	急速充電を終了し、パワースイッチをOFFにし、はじめから操作をやり直してください。
DC 外部給電を実施している	DC 外部給電を終了し、パワースイッチをOFFにし、はじめから操作をやり直してください。
V2H 給電を実施している	V2H 給電を終了し、パワースイッチをOFFにし、はじめから操作をやり直してください。

非常時給電に関するメッセージが表示されたとき

メッセージの指示に従って、それぞれ必要な処理を行ってください。

■ ” 駆動用電池の残量低下により給電停止しました ” と表示されたとき

考えられる原因	対処法
駆動用電池の残量が少なくなった	駆動用電池を充電後、再度非常時給電システムを起動することが可能になります。

以上の処置を行っても非常時給電システムが使用できない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

お手入れのしかた

7

7-1. お手入れのしかた

外装の手入れ 518

内装の手入れ 522

7-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット 525

ガレージジャッキ 526

ウォッシュ液の補充 527

タイヤについて 528

タイヤの交換 538

タイヤ空気圧について 542

エアコンフィルターの交換 543

電子キーの電池交換 545

ヒューズの点検・交換 547

電球（バルブ）の交換 549

外装の手入れ

お手入れは、部位や素材にあった適切な方法で実施してください。

手入れの作業要領

- 水を十分かけながら車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスかけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、レクサスケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。

詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。



知識

■セルフリストアリングコートについて

お車のボデーには、洗車などによる小さなすり傷を自然に復元する、傷付きにくい塗装を使用しています。

- 新車時から5～8年のあいだ、効果が持続します。
- 傷が復元するまでの時間は、傷の深さや周囲の温度により変化します。なお、お湯をかけて塗装を温めると、

復元するまでの時間が短くなる場合があります。

- 鍵や硬貨などによる深い傷は復元できません。
- 成分にコンパウンド（磨き粉）が含まれるワックス類は使用しないでください。

■自動洗車機を使うとき

- お車を洗う前に：
 - ・ ドアミラーを格納する
 - ・ パワートランクリッドを停止する

車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にしてください。

- ブラシで車体などに傷が付き、塗装を損なうことがあります。

- 洗車機によっては、リヤスポイラー★が引っかかり洗車できない場合や、傷付いたり、破損するおそれがあります。

- 自走式洗車機を利用するときなど、Nポジションに保持したままにする必要があるときは、P.268を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■高圧洗浄機を使うとき

室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。

■スマートエントリー&スタートシステムについて

電子キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠・解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

- 電子キーを車両から2m以上離れた場所に保管する

(電子キーの盗難に注意してください)

- 電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー&スタートシステムの作動を停止する (→P.213)

■ ホイール・ホイールキャップについて (マット塗装ホイール非装着車)

- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。
- 洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。
- 塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。
 - ・ 酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
 - ・ 硬いブラシを使用しない
 - ・ 夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■ ホイール・ホイールキャップについて (マット塗装ホイール装着車)

マット塗装のホイール・ホイールキャップの場合はお手入れ方法が異なります。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

- 水洗いで早めに汚れを落としてください。
汚れがひどい場合は、中性洗剤を薄めて使用してください。
- 洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流し、柔らかい布で水滴をふき取ってください。
- スポンジまたは柔らかい布を用いて手洗いで汚れを落としてください。
- マット塗装の損傷や艶が出ることを防ぐために、次のことをお守りください。
 - ・ コーティング剤やワックスは使用しない
 - ・ 酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
 - ・ タイヤクリーナーやタイヤワックスを付着させない

- ・ 乾いた布やブラシ等で磨いたり、こすったりしない
- ・ 高圧式スプレーガンやスチームクリーナーは使用しない
- ・ 夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■ ブレーキパッドやディスクローターについて

水に濡れた状態のまま駐車しておくと、錆びて貼り付くことがあります。洗車後は低速で走行し、ブレーキを数回かけて乾燥させてから駐車してください。

■ バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■ フロントドアガラスの撥水コーティングについて

撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。

- フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす
- 汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
- コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
- 金属製の道具で霜取りをしない

警告

■ 洗車をするとき

モータールーム内に水をかけないでください。

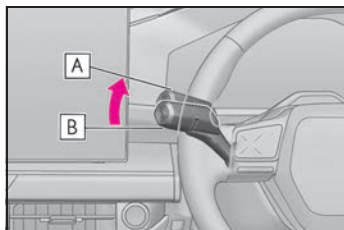
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

警告

■ フロントウインドウガラスを清掃するとき

ワイパースイッチを OFF にしてください。(→P.290)

AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。



A OFF

B AUTO

- 雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき
- 水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき
- フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき
- 車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

■ 排気管について

排気管は排気ガスにより熱くなりますので、EV システムが作動しているときや、停止直後などにふれないでください。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■ リヤバンパー・フロントバンパーについて

リヤバンパーまたはフロントバンパーの塗装に傷がつくと、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。レクサス販売店にご相談ください。

- Lexus Safety System +
- BSM (ブラインドスポットモニター)
- 後方車両への接近警報
- 安心降車アシスト
- クリアランスソナー
- RCTA (リヤクロストラフィックアラート)
- PKSB (パーキングサポートブレーキ)
- 後方車両接近告知
- 周辺車両接近時サポート
- セカンダリーコリジョンブレーキ (停車中後突対応)

注意

■ 塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

- 次のような場合は、ただちに洗車してください。
 - ・ 海岸地帯を走行したあと
 - ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ・ コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
 - ・ ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
 - ・ ほこり・泥などで激しく汚れたとき

注意

- ・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

● 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

● ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ ランプの清掃

● 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。

ランプを損傷させるおそれがあります。

● ランプにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■ 自動洗車機を使用するとき

ワイパースイッチを OFF にしてください。(→P.290)

AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

■ 高圧洗浄機を使用するときは

● 洗浄時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水をあてないでください。

高い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

● レーダー専用カバー裏に搭載されているレーダーに直接水をかけないでください。部品故障の原因になるおそれがあります。

● ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。

高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

- ・ 駆動系部品
- ・ ステアリング部品
- ・ サスペンション部品
- ・ ブレーキ部品

● モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。

● フロントウィンドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。

● 高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。

● 充電リッド付近に使用しないでください。充電インレットに水が入り、車両故障につながるおそれがあります。

内装の手入れ

お手入れは、部位や素材に合った適切な方法で実施してください。

室内の手入れをするには

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1% にうすめてやさらかい布に含ませふき取る
水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る



知識

■ カーベットの洗浄について

カーベットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。スポンジまたはブラシを使用して泡をカーベットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■ スカッフプレートの取り扱いについて

金属部の表面に貼ってある保護フィルムを必ず剥がしてください。錆の原因や金属部に固着し、はがせなくなるおそれがあります。

■ シートベルトの取り扱いについて

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■ グローブボックス・コンソールボックス・コインボックスなどの植毛部分を掃除する場合

粘着力の強いテープを使用すると植毛が

はがれるおそれがあります。

⚠ 警告

■ 車両への水の浸入

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。
(→P.33)
電気の不具合により、SRS エアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ワイヤレス充電器（おくだけ充電）（→P.494）をぬらさないでください。発熱によるやけど、または感電により重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 内装の手入れをするときは（特にインストールメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストールメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ 清掃するとき使用する溶剤について

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
- ・ シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤

⚠ 注意

- ・ シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール、その他の酸性やアルカリ性の溶剤

- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。
インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■ 革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次のことをお守りください。

- 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く
- 直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する
- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■ 床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■ フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは

前方カメラのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。(→P.299)

■ リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

- 熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- 熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

サテン仕上げ金属コーティング部分の手入れをするには

- 水で湿らせたやわらかい布または合成セーム皮で汚れをふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面に残った水分を完全にふき取る

□ 知識

■ サテン仕上げ金属コーティング部分のお手入れについて

表面に本物の金属層を使用していますので、普段のお手入れが大切です。汚れたまま長い間放置すると、汚れが落ちにくくなります。

本革部分の手入れをするには

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- 薄めた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る

ウール用の中性洗剤を水で約5%にうすめて使用してください。

- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で

乾燥させる



知識

■ 本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に2回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

合成皮革部分の手入れをするには

- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約1%にうすめて
やわらかい布に含ませふき取る
- 水を浸した布を固くしぼり、表面
に残った洗剤・水分をふき取る

ファブリック部分の手入れをするには

- 掃除機や粘着テープなどでほこり
を取り除く
- 水を浸した布を固くしぼり、汚れ
をふき取る

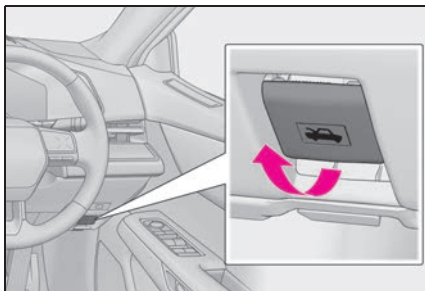
クリーナー等の洗剤を使用しないでください

- 輻射ヒーター（→P.479）のファブリック部分を強く擦らない

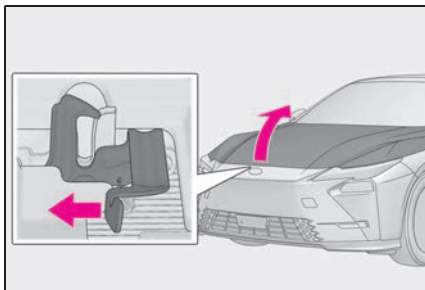
ボンネット

ボンネットを開けるには

- 1 ボンネット解除レバーを引く
ボンネットが少し浮き上がります。



- 2 レバーを引き上げて、ボンネットを開ける



知識

■ボンネットの閉め方

ボンネット閉めるときは、少し高い位置（約 20 cm）から落として閉めてください。

閉まりきらない場合は、手で押して両側がロックされていることを確認してください。

⚠ 警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■修理・車検・整備点検をする場合は

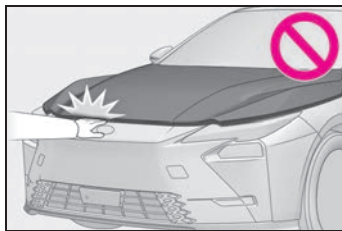
整備モードに切りかえる必要がありますので、必ずレクサス販売店にご相談ください。高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■モータールーム点検後の確認

モータールーム内に工具や布を置き忘れていることを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをモータールーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、モータールーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ボンネットを閉めるとき

手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



■補機バッテリーの取り扱いについて

→P.599

⚠ 注意

■ ボンネットやダンパーステーへの損傷を防ぐために

- ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。
- ボンネットには、ボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。
 - ・ ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
 - ・ ロッド部を軍手などでふれない
 - ・ ボンネットにレクサス純正品以外のアクセサリー用品を付けない
 - ・ ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

ガレージジャッキ

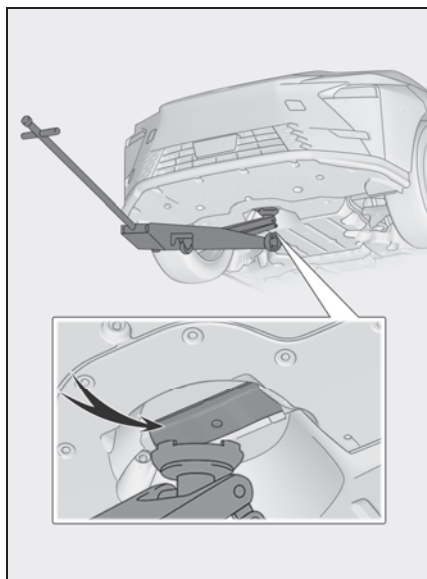
ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取扱説明書に従って、安全に作業してください。

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。

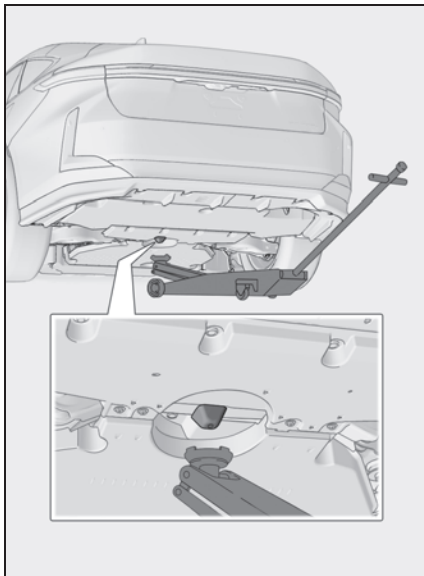
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

ジャッキポイントの位置を確認する

■ フロント側



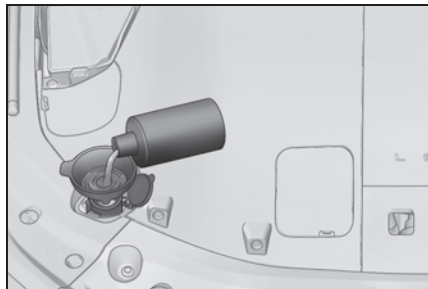
■ リヤ側



ウォッシャー液の補充

補充するには

ウォッシャー液が出なかったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたら、ウォッシャー液を補充する



⚠ 警告

■ ウォッシャー液を補充するとき

EV システムが熱いときや EV システムが作動しているときは、ウォッシャー液を補充しないでください。

ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、EV システムなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水や不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を5,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

● タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

● タイヤの亀裂・損傷の有無

● タイヤの溝の深さ

● タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無



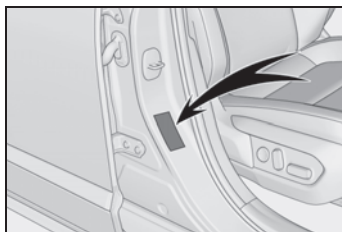
知識

■ タイヤ空気圧の数値

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

空気圧 ※ kPa (kg/cm ²)	
前輪	後輪
240 (2.4)	240 (2.4)

※ タイヤが冷えているときの空気圧



■ タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、レクサス販売店にご相談ください。

■ 低扁平タイヤについて（21 インチタイヤ装着車）

低扁平タイヤは、走行性能を優先したタイヤです。特に空気圧は定期的に点検してください。2 週間に 1 回（最低でも 1 ヶ月に 1 回）、または長距離ドライブの前には、必ず空気圧を点検してください。

また、雪道や凍結路では、普通のタイヤとくらべてグリップ力が低下します。冬用タイヤを使用し、道路状態に応じた速度で注意深く運転するようにしてください。

⚠ 警告

■ 点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスペルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない

⚠ 警告

- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ（マッド&スノータイヤ）・冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を混在使用しない
- 他の車両で使用していたタイヤを使用しない
以前どのように使用されていたか不明なタイヤは使用しない

■ 異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じる場合があります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（電費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■ 異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。
走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ 低扁平タイヤについて（21 インチタイヤ装着車）

低扁平タイヤのホイールは、路面から衝撃を受けたとき、ホイールに通常より大きなダメージを与えることがあります。そのため次のことにご注意ください。

- 適切なタイヤ空気圧で使用する
空気圧が低すぎると簡単に損傷することがあります。
- 段差や凹凸のある路面、路上にあいた穴、平らでない舗道・縁石や他の障害物避ける
タイヤおよびホイールがひどく損傷することがあります。

■ 走行中に空気もれが起こったら

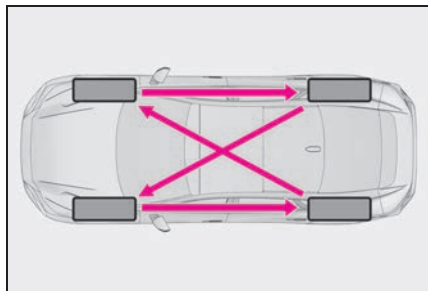
走行を続けしないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■ 悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤローテーションをするには

図で示すようにタイヤのローテーションを行います。



タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、レクサスは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

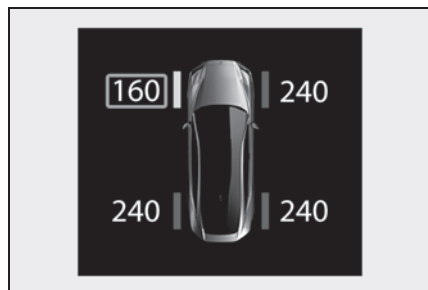
タイヤローテーション後は、タイヤ空気圧警報システムへタイヤ位置の

登録の操作を確実に行ってください。
(→P.532)

タイヤ空気圧警報システム

ディスクホイールに装着された空気圧バルブ、および送信機が一定周期ごとに各輪のタイヤ空気圧を監視し、タイヤの空気圧の低下を早期に知らせるタイヤ空気圧警報システムが付いています。

タイヤ空気圧警報システムは状況に応じて 4 種類の警報とタイヤ空気圧警告灯、ブザーでお知らせをします。
(→P.565)



- マルチインフォメーションディスプレイに “タイヤ空気圧低下 空気を入れてください” が表示されたとき

通常の使用によって、タイヤの空気圧が低下した場合に表示されます。

- マルチインフォメーションディスプレイに “タイヤ空気圧大幅低下 速度を落として走行” が表示されたとき

タイヤの空気圧が大幅に低下し、さらに低下するとタイヤが破裂する可能性がある場合に表示されます。

- マルチインフォメーションディスプレイに “すみやかに安全な場

所でタイヤ点検” が表示されたとき

急激にタイヤの空気圧が低下した場合に表示されます。

ただし、このシステムはパンク等を検出できない場合があります。

- マルチインフォメーションディスプレイに “タイヤ空気漏れ 最寄りの販売店で点検” が表示されたとき

空気が漏れ、タイヤの空気圧が低下した場合に表示されます。

知識

■ タイヤ空気圧警報システムについて

タイヤ空気圧警報システムは、日常点検の代用ではありません。

日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの点検方法は、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

■ タイヤ空気圧表示について

- パワースイッチを ON にしたあと、空気圧が表示されるまで約 3 分かかります。また、空気圧が調節された場合も、表示が更新されるまで約 3 分かかります。

- タイヤ空気圧は温度によって変化します。また、表示された空気圧は、空気圧計で測定した数値と異なる場合があります。

■ タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれのある状況

- 次の場合は、タイヤ空気圧警報システムが正しく作動しない場合があります。
 - ・ 純正ホイール以外を使用したとき
 - ・ 純正装着タイヤ以外に交換したとき
 - ・ 指定サイズ以外のタイヤに交換したとき
 - ・ タイヤチェーンなどを装着していると

き

- ・電波を遮断するフィルムがウインドウに貼り付けられているとき
 - ・車両（特にホイール・ホイールハウスの周辺）に多くの雪や氷などが付着しているとき
 - ・タイヤ空気圧が指定空気圧より極端に高いとき
 - ・タイヤ空気圧警報バルブ／送信機を搭載していないホイールを使用しているとき
 - ・タイヤ空気圧警報バルブ／送信機のIDがタイヤ空気圧警報コンピューターに登録されていないとき
- 次の場合は正しい性能が確保できない場合があります。
- ・近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港など、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
 - ・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器が車両付近にあるとき

電波状況によってタイヤ位置情報が正しく表示されない場合は、走行して電波状況がかわることによって正しく表示されることがあります。

- 停車時は警報開始・警報解除までの時間が長くなる場合があります。
- タイヤが破裂（バースト）したときなど、空気圧が急激に低下したときは、警報できない場合があります。

空気圧バルブ／送信機の装着について

タイヤやホイールを交換するときは、付けかえたホイールにも空気圧バルブ／送信機を装着してください。

バルブ／送信機を装着する場合は、専用のIDコードをコンピューターに登録する必要があります。（→P.534）

知識

■ ホイールごとタイヤを交換するとき

タイヤ空気圧バルブ／送信機のIDコードが登録されていないと、タイヤ空気圧警報システムは正しく作動しません。その場合、約10分走行したあとシステム異常となり、タイヤ空気圧警告灯が約1分間点滅、その後点灯します。

注意

■ タイヤ・ホイール・空気圧バルブ／送信機・バルブキャップの修理・交換

- タイヤをホイールから脱着する際は、空気圧バルブ／送信機が損傷しないよう注意してください。脱着手順の詳細は、レクサス販売店へご相談ください。
- レクサス指定の純正ホイールを使用してください。
レクサス指定の純正ホイール以外を使用すると、空気圧警報システムが正しく作動しないおそれがあります。
- ホイールを交換したときは、空気圧バルブ／送信機を装着してください。空気圧バルブ／送信機が装着されていないと、タイヤ空気圧警告灯が消灯しません。
- バルブキャップを必ず取り付けてください。バルブキャップをはずしていると、水が浸入してバルブが固着する場合があります。
- バルブキャップを交換するときは、指定以外のバルブキャップを使用しないでください。バルブキャップが固着するおそれがあります。

**注意****■パンク修理剤を使用したとき**

空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、空気圧バルブ/送信機を交換してください。

タイヤ位置を登録するには**■ タイヤ位置の登録が必要なとき**

タイヤローテーションを行ったときは、タイヤの位置を登録する必要があります。

お客様自身でタイヤ位置を登録することができます。適度に右左折もしながら、直進走行をすることでタイヤ位置は登録されますが、走行条件や走行環境によっては、登録が完了するまでに時間がかかる場合があります。

■ タイヤ位置の登録のしかた

- 1 車を安全な場所に駐車し、15分以上EVシステムを停止する
- 2 EVシステムを始動する

車両が動いているときは、タイヤ位置の登録操作はできません。

- 3 センターディスプレイの  を選択する

- 4 “車両カスタマイズ” を選択する

- 5 “タイヤ&サスペンション” を選択する

- 6 “タイヤローテーション” を選択する

- 7 “タイヤ位置自動検知” を選択する

- 8 “OK” を選択する

マルチインフォメーションディスプレイにタイヤ位置登録中のメッセージが表示されます。タイヤ空気圧表示が“---”になり、タイヤの位置判定を開始します。

- 9 約40km/h以上で適度に右左折や直進をしながら約10～30分走行する

タイヤの位置判定が完了するとマルチインフォメーションディスプレイに各タイヤの空気圧の表示と登録完了のメッセージが表示され、タイヤ位置の登録が完了します。

約40km/h以上を維持できない場合でも長時間運転すると登録は完了しますが、1時間以上走行しても登録ができない場合は、パワースイッチはONのまま、安全な場所に約15分以上停車したあと、再度走行し直して下さい。

 知識
■ タイヤ位置を登録するとき

- 通常は約30分以内の走行で登録が完了します。
- 車速が約40km/h以上のときに行われず。

■ タイヤ位置登録の操作について

- タイヤ位置登録中にパワースイッチをOFFにしてしまった場合は、次回ONにしたとき、自動的にタイヤ位置判定処理が再開されるため、あらためて登録し直す必要はありません。
- タイヤ位置判定中にタイヤ空気圧が表示されない場合でも、空気圧低下時はタイヤ空気圧警告灯が点灯します。

■ タイヤ位置登録がうまくいかないとき

- 次の場合は、タイヤ位置の登録に時間がかかる場合や、登録ができない場合があります。
 - ・ 約40km/h以上で走行していない
 - ・ 未舗装の場所を走行した

1 時間以上走行しても登録が完了できない場合は、安全な場所に約 15 分以上停車したあと、再度走行し直してください。

- タイヤ位置登録中に車を後退させると、それまでのデータがリセットされるため、再度走行し直してください。

タイヤの空気圧を設定するには

■ タイヤ空気圧の設定が必要なとき

次のような場合は、タイヤの空気圧をタイヤ空気圧警報システムに設定する必要があります。

- 指定空気圧が複数ある場合に、タイヤの指定空気圧を変更したとき
- タイヤのサイズを変更するなどして、タイヤの設定空気圧を変更したとき

タイヤ空気圧を指定空気圧に調整している場合は、指定空気圧の値を選択して設定します。(→P.533)

指定サイズ以外のタイヤの使用などにより、タイヤ空気圧が指定空気圧以外の場合は、現在の空気圧で設定します。必ず空気圧を適切な値に調整してから設定操作をしてください。タイヤ空気圧警報システムは、この空気圧を基準として作動します。(→P.533)

■ 指定空気圧での設定のしかた

1 EV システムを始動する

車両が動いているときは、空気圧は設定できません。

2 センターディスプレイの を選択する

3 “車両カスタマイズ” を選択する

4 “タイヤ&サスペンション” を選択する

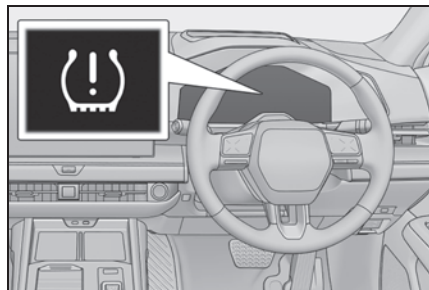
5 “タイヤ空気圧設定” を選択する

6 “指定の空気圧を基準値として設定” を選択し、フロントタイヤとリヤタイヤの空気圧を選択する

7 “保存” を選択する

タイヤ空気圧警告灯がゆっくり 3 回点滅します。

空気圧の設定が完了するとマルチインフォメーションディスプレイに設定完了のメッセージが表示されます。



■ 現在の空気圧での設定のしかた

1 タイヤの空気圧を適切な値に調整する

タイヤ空気圧の調整はタイヤが冷えた状態で行ってください。

2 EV システムを始動する

車両が動いているときは、空気圧は設定できません。

3 センターディスプレイの を選択する

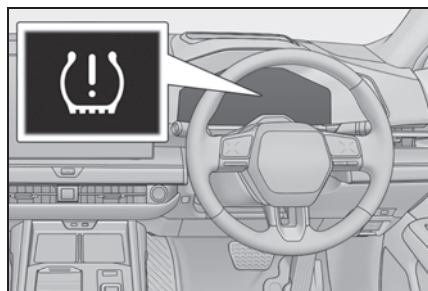
4 “車両カスタマイズ” を選択する

5 “タイヤ&サスペンション” を選択する

- 6 “タイヤ空気圧設定” を選択する
- 7 “現在の空気圧を基準値として設定” を選択する
- 8 “OK” を選択する

タイヤ空気圧警告灯がゆっくり 3 回点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに設定中のメッセージが表示されます。

空気圧の設定が完了するとマルチインフォメーションディスプレイに設定完了のメッセージが表示されます。



知識

- **タイヤ空気圧警報システムの警報精度について（現在の空気圧で設定するとき）**
 - 現在の空気圧で設定する場合、タイヤ空気圧警報システムの警報精度は、空気圧設定を実施したときの状況によって異なります。このため、空気圧がわずかに低下している場合や、空気圧設定したときより高い空気圧の場合でも警報することがあります。
 - 必ず空気圧を調整した上で、現在の空気圧で設定を実施してください。なお、空気圧の調整および設定操作は、タイヤが冷えた状態で行ってください。
- **空気圧設定の操作について（現在の空気圧で設定するとき）**
 - 空気圧設定中にパワースイッチを OFF

にしてしまった場合は、次回 ON にしたとき、自動的に設定処理が再開されるため、あらためて設定し直す必要はありません。

- 空気圧設定の必要がない状態で誤って現在の空気圧で設定の操作を行ってしまったときは、タイヤが冷えている状態で指定空気圧に調整し、再度指定空気圧で設定もしくは、現在の空気圧で設定で空気圧設定操作を行ってください。

■ **タイヤ空気圧の設定がうまくいかないとき**

- 現在の空気圧で設定をする場合、通常約 3 分で終了します。
- 空気圧設定操作時に警告灯が 3 回点滅しない場合、設定が開始されていないおそれがありますので、設定手順を最初からやり直してください。
- 上記の方法でも空気圧を設定できない場合は、レクサス販売店にご相談ください。

警告

■ **現在の空気圧で設定するとき**

必ず空気圧を適切な値に調整してから設定操作をしてください。お守りいただかないと、タイヤ空気圧が低下してもタイヤ空気圧警告灯が点灯しない、または適切な空気圧でもタイヤ空気圧警告灯が点灯してしまうことがあります。

ID コードを登録するには

■ **ID コード登録が必要なとき**

タイヤ空気圧バルブ／送信機には固有の ID コードが設定されているため、新しいバルブ／送信機を装着したときは、車両のコンピューターに ID コードを登録する必要があります。

す。

■ ID コードの登録のしかた

登録操作を行う前に、車両の近くにタイヤ空気圧バルブ／送信機を装着したホイールがないことを確認してください。

- 1 車を安全な場所に駐車し、15 分以上 EV システムを停止する
- 2 EV システムを始動する

車両が動いているときは、ID コードの登録操作ができません。

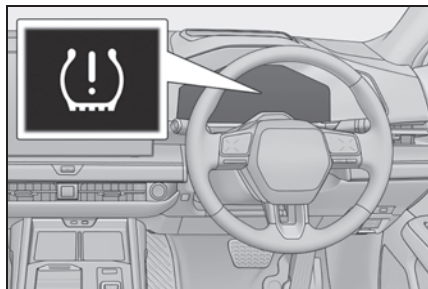
- 3 センターディスプレイの  を選択する
- 4 “車両カスタマイズ” を選択する
- 5 “タイヤ&サスペンション” を選択する
- 6 “タイヤ交換” を選択する
- 7 セット選択に表示されているセット（“セット 1” または “セット 2”）を確認する

表示されているセットに ID コードを登録します。

登録するセットを変更したい場合は、表示されているセットをタッチし、登録したいセットを選択します。

すでに ID コードが登録されているときは、タイヤ空気圧警告灯がゆっくり 3 回点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに切り替え中のメッセージが表

示されます。

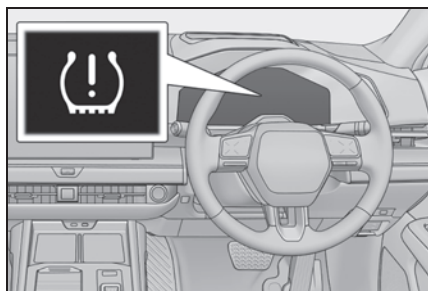


- 8 “タイヤセット登録” を選択する

- 9 “OK” を選択する

タイヤ空気圧警告灯がゆっくり 3 回点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに登録中のメッセージが表示されます。ID コードの切りかえが中止され、登録を開始します。

ID コードの登録が開始すると、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅したあと点灯します。また、登録中はマルチインフォメーションディスプレイのタイヤ空気圧表示が “---” になります。



- 10 約 40km/h 以上で適度に右左折や直進をしながら約 10 ～ 30 分走行する

登録が完了すると、タイヤ空気圧警告灯が消灯し、マルチインフォメーションディスプレイに登録完了のメッセージが表示されます。

約 40km/h 以上を維持できない場合でも

時間をかけることにより登録は完了しますが、1 時間以上走行しても登録できない場合は、最初からやり直してください。

11 異なる空気圧に調整されているタイヤを取り付けた場合は、タイヤ空気圧警報システムにタイヤ空気圧を設定する (→P.533)

同じ空気圧に調整されている場合は、空気圧を設定する必要はありません。



知識

■ ID コードの登録をするとき

- 通常は約 30 分以内の走行で登録が完了します。
- 車速が約 40km/h 以上のときに行われます。
- ID コードはお客様自身で登録することができます。適度に右左折もしながら、直進走行をすることで登録されますが、走行条件や走行環境によっては、登録が完了するまでに時間がかかる場合があります。
- すでに ID コードの登録がされているタイヤセットを使用する場合は、ID 切りかえを行うと短い時間で切りかえることができます。(→P.536)

■ ID コードの登録がうまくいかないとき

- 次の場合は、ID コードの登録に時間がかかる場合や、登録できない場合があります。
 - ・ 走行前に約 15 分以上駐車していない
 - ・ 約 40km/h 以上で走行していない
 - ・ 未舗装の場所を走行した
 - ・ 他車と併走し、自車のセンサーと他車のセンサーが判別できない
 - ・ タイヤ空気圧バルブ/送信機を装着したホイールが車内や車両の近くにある
- 登録中に車を後退させると、それまでのデータがリセットされるため、再度走行し直してください。

- 1 時間以上走行しても登録できない場合は、ID コードの登録手順を最初からやり直してください。
- 登録操作時に警告灯が点滅しない場合、ID コードが登録されていないおそれがありますので、登録手順を最初からやり直してください。
- 上記の方法でも ID コードを登録できない場合は、レクサス販売店にご依頼ください。

ID コードの登録を中止するには

ID コードの登録を中止するには、センターディスプレイの“タイヤセット登録”を再度選択します。

ID コードの登録を中止すると、タイヤ空気圧警告灯が消灯します。

タイヤ空気圧警告灯が消灯しないときは、ID コードの登録が正常に中止できていません。正しく中止するためには、再度、“タイヤセット登録”を選択し、警告灯が消灯することを確認してください。

ID コードを切りかえるには

この車両は 2 セット分の ID コードを登録することができるタイヤ空気圧警報システムが備わっています。通常使用するタイヤと冬用タイヤの 2 セットを登録しておくとう便利です。

- この機能は 2 セット目 (セット 2) のタイヤを登録してある場合のみ、切りかえをすることができます。セット 2 のタイヤが登録されていない場合、“セット 2 (未登録)”と表示され、選択しても切りかえはできません。

ID コードの登録はお客様自身で登録することができます。(→P.534)

● ID コードを登録したときのセットでタイヤの交換をしたときのみ切りかえをすることができます。他のセットの ID コードを混在させた場合は作動しません。

● ID コード登録中は、正常に ID コードの切りかえができないおそれがあります。ID コードの登録を中止してから切りかえを行ってください。

■ ID コードの切りかえかた

- 1 切りかえをしたいタイヤセットに交換する
- 2 センターディスプレイの  を選択する
- 3 “車両カスタマイズ” を選択する
- 4 “タイヤ&サスペンション” を選択する
- 5 “タイヤ交換” を選択する
- 6 セット選択に表示されているセット (“セット 1” または “セット 2”) を選択する

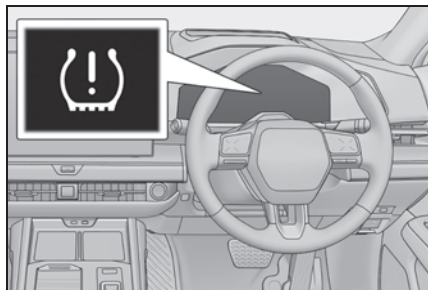
タイヤ空気圧警告灯がゆっくり 3 回点滅し、切りかえ中のメッセージが表示され、ID コードの切りかえを開始します。

ID コードの切りかえが開始すると、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅したあと点灯します。また、切りかえ中はマルチインフォメーションディスプレイのタイヤ空気圧表示が “---” になります。

約 2 分後に ID コードの切りかえが完了し、タイヤ空気圧警告灯が消灯して、マルチインフォメーションに登録完了のメッセージが表示されます。

約 4 分経過しても切りかえが完了しない場合は、切りかえが完了しないメッセージが表示されます。

装着しているタイヤセットを確認して、切りかえ手順を最初からやり直してください。



- 7 異なる空気圧に調整されているタイヤを取り付けた場合は、タイヤ空気圧警報システムにタイヤ空気圧を設定する (→P.533)

同じ空気圧に調整されている場合は、空気圧を設定する必要はありません。

- 8 タイヤの位置を登録する (→P.532)

タイヤの交換

ご自身でタイヤを交換するときは、
工具とジャッキをご準備ください。

ご自身でのタイヤの交換に不安が
ある場合は、レクサス販売店にご
相談ください。

ジャッキで車体を持ち上げる前 に

- 地面が固く平らで安全な場所に移
動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトポジションを P にする

● EV システムを停止する

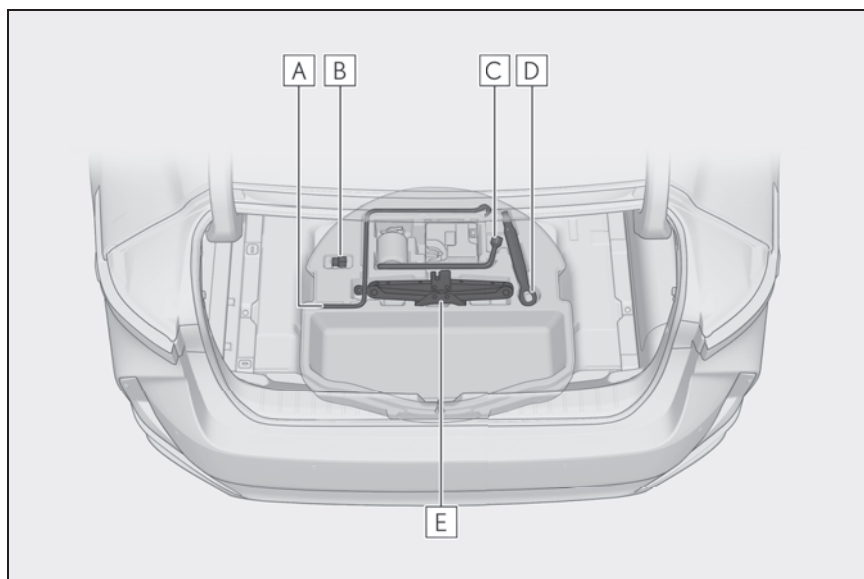
知識

■ 工具とジャッキについて

お客様の車にはタイヤパンク応急修理
キットが標準装着のため、タイヤ交換に
使用する以下の工具とジャッキは搭載さ
れていません。工具とジャッキはレクサ
ス販売店で購入することができます。

- 輪止め
- ジャッキ
- ジャッキハンドル
- ホイールナットレンチ
- ホイールロックキー

工具とジャッキ位置



- A** ジャッキハンドル ※
- B** ホイールロックキー ※
- C** ホイールナットレンチ ※

D けん引フック**E** ジャッキ ※

※ レクサス販売店で購入することができます。

⚠ 警告

■ ジャッキの使用について

次のことをお守りください。
ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- この車両用のジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、EV システムを始動したり車を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

■ パワートランクリッド装着車のタイヤ交換について

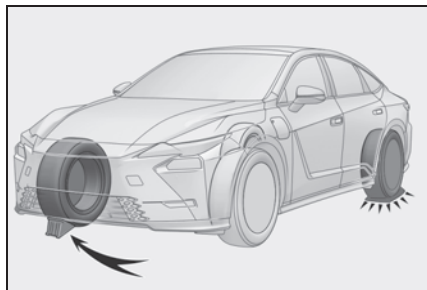
タイヤ交換などをする際は、トランクオープナーメインスイッチ（→P.211）を OFF にしてください。OFF にしないと、誤ってパワートランクリッドスイッチを操作したときにトランクが動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。

ジャッキの取り出し方

- 1 ラゲージマットを取り出す
- 2 ジャッキを取り出す

タイヤの取りはずし

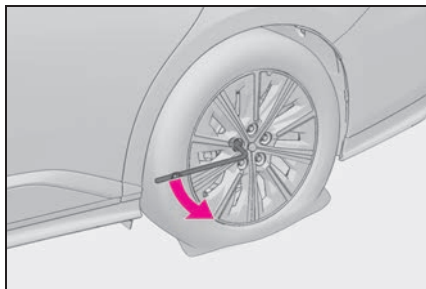
- 1 輪止め※をする



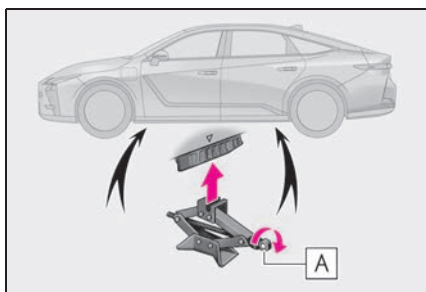
交換するタイヤ	輪止めの位置
左側前輪	右側後輪うしろ
右側前輪	左側後輪うしろ
左側後輪	右側前輪前
右側後輪	左側前輪前

※ 輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

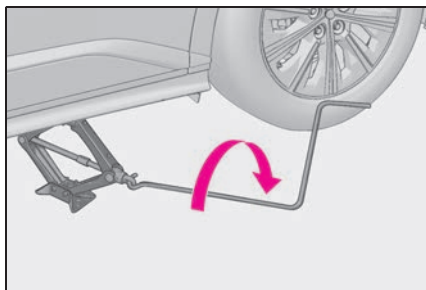
- 2 ホイールナットレンチを使用し、すべてのホイールナットを少し（約 1 回転）ゆるめる



- 3 ジャッキの[A]部を手でまわして、ジャッキの溝をジャッキセット位置にしっかりかける



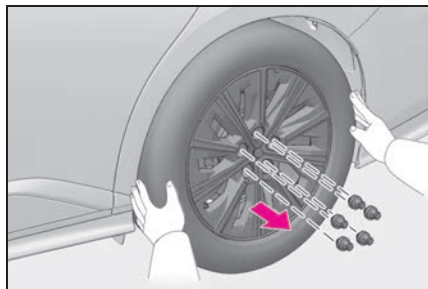
- 4 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



- 5 残りのホイールナットをすべて取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう表面を上

します。



知識

■ホイール意匠カバーについて（ホイール意匠カバー装着車）

ホイールに装着されている意匠カバーを取りはずさないでください。無理に取りはずすと、再度取り付けができなくなるおそれがあります。ホイールの修理が必要な際は、レクサス販売店にご相談ください。

警告

■タイヤ交換について

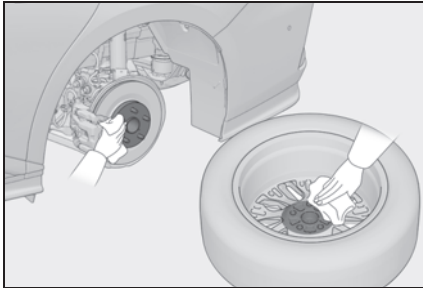
走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

タイヤの取り付け

- 1 ホイール接触面の汚れをふき取る

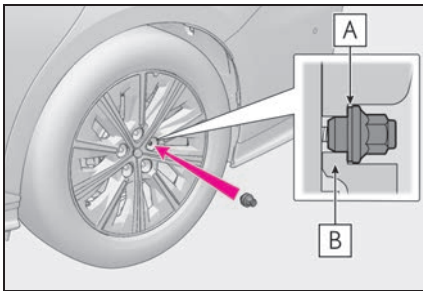
ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるお

それがあります。

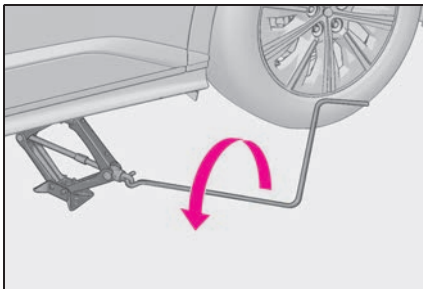


- 2 タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

ナットのテーパ部 **A** がホイールのシート部 **B** に軽くあたるまでまわす



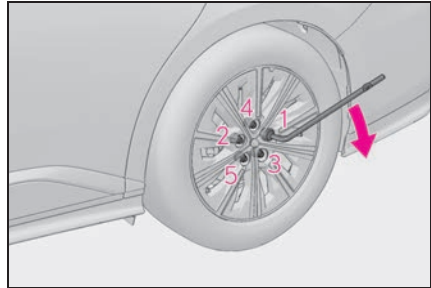
- 3 車体を下げる



- 4 ホイールナットレンチを使用し、図の番号順でナットを2、3度しっかり締め付ける

締め付けトルク：140N・m

(1428kgf・cm)



- 5 すべての工具・ジャッキを収納する

警告

■タイヤを取り付けるときは

次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ねじ部にオイルやグリースを塗らない

ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。ナットを取り付けるときに、オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

- タイヤを交換したあとは、速やかに締め付けトルクを確認してください。お客様ご自身で締め付けトルクの確認ができない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

- タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する

- ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれ、亀裂や錆びなどの異常がある場合は、レクサス販売店で点検を受ける



注意

■ タイヤ・ホイール・バルブ/送信機・バルブキャップの修理・交換

→P.531

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に1回以上実施してください。低扁平タイヤの場合、2週間に1回、または長距離ドライブの前には必ず空気圧を点検してください。



知識

■ タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 電費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、レクサス販売店でタイヤの点検を受けてください。

■ タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等につけないようにする

警告**■タイヤの性能を発揮するために**

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気もれ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
(路上障害物、道路のつなぎ目や段差など)

注意**■タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは**

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気がもれ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

エアコンフィルターの交換

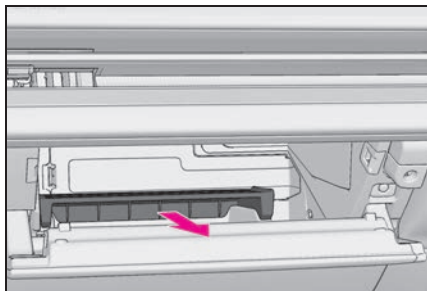
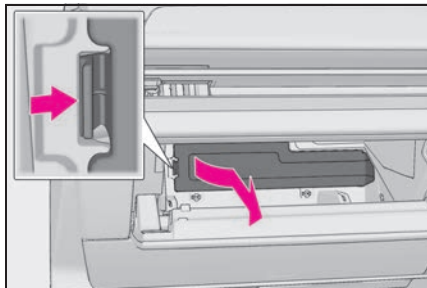
エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

交換するには**1 パワースイッチを OFF にする**

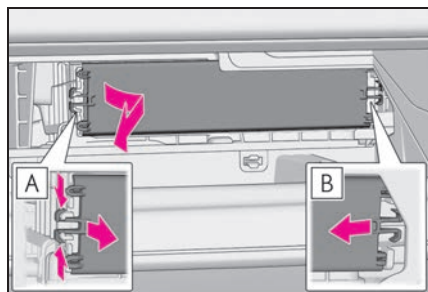
充電コネクタが接続されていないことを確認してください。また、作業中はリモートエアコンシステムを使用しないでください。

2 助手席ドアを開ける

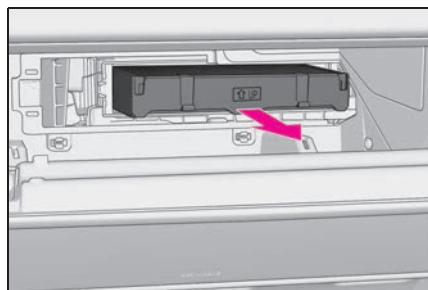
ドアを開けておくことで、リモートエアコンシステムの意図せぬ作動を防止できます。

3 グローブボックスを開き、仕切り板をはずす**4 パネルを取りはずす**

- 5 フィルターカバーのロックをはずし (A)、ツメからフィルターカバーを抜き (B)、フィルターカバーを取りはずす

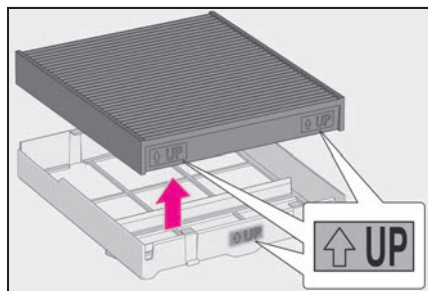


- 6 フィルターケースを取りはずす



- 7 フィルターケースからフィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。



知識

■ エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは下記の時期を目安に交換してください。

15000km[7500km※1] ごと、ただし12ヶ月をこえないこと ※2

※1 大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

※2 芳香剤などの使用により脱臭寿命が著しく低下する場合があります。エアコンの臭いが気になりましたらフィルターを交換してください。

■ エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

⚠ 注意

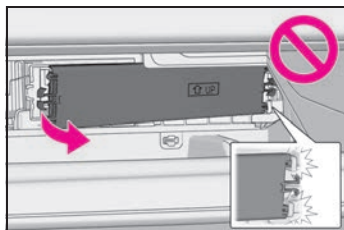
■ エアコンを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは、交換するタイプです。水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

⚠ 注意

■ フィルターカバーの破損を防ぐために

フィルターカバーのロックをはずすときに、フィルターカバーを矢印の方向に動かす際は、ツメに無理な力がかからないように注意してください。ツメが破損するおそれがあります。



電子キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

📖 知識

■ 電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

- スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

事前に準備するもの

電池交換をするには、次のものを準備してください。

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池 CR2032

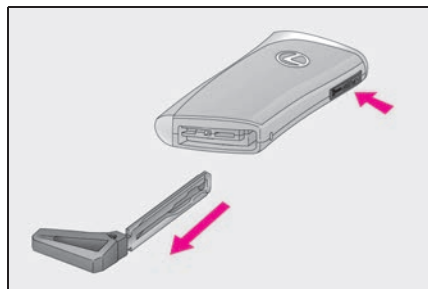
📖 知識

■ リチウム電池 CR2032 の入手

電池はレクサス販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

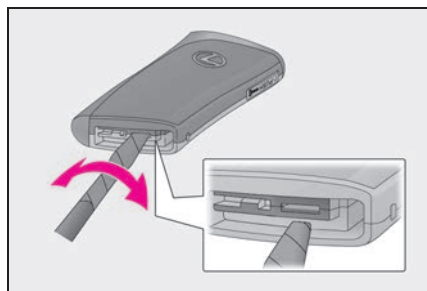
電池を交換するには

1 メカニカルキーを抜く



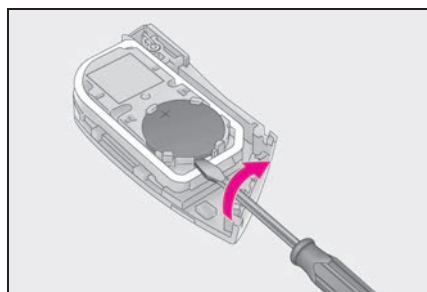
2 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端にテープなどを巻いて保護してください。



3 消耗した電池を取り出す

新しい電池は、+極を上にして取り付けます。



⚠ 警告

■ 電子キーの電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。
- 電子キーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか2時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせないでください。
- カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、レクサス販売店で点検を受けてください。
- 誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。
- 電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために
- 同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。
- 極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。
- 電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

⚠ 注意

■ 電池を交換するときは

適切なサイズのマイナスドライバーを使用してください。無理な力がかかると、カバーが変形したり破損したりするおそれがあります。

■ 交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- めれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かし
たりしない
- 電極を曲げない

ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

ヒューズの点検・交換をするには

1 パワースイッチを OFF にする

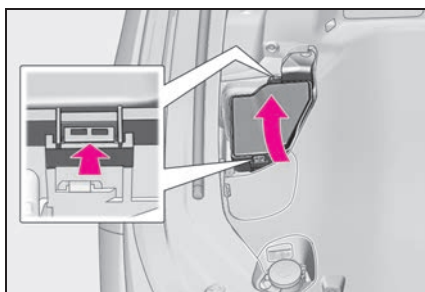
充電コネクタが接続されていないことを確認してください。また、作業中はリモートエアコンシステムを使用しないでください。

2 ヒューズボックスを開ける

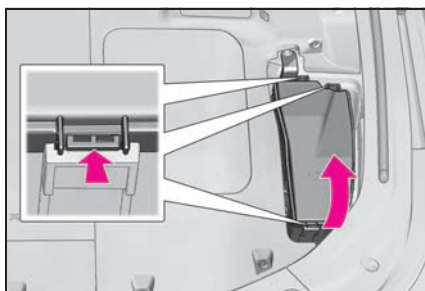
▶ モータールーム

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

・タイプ A

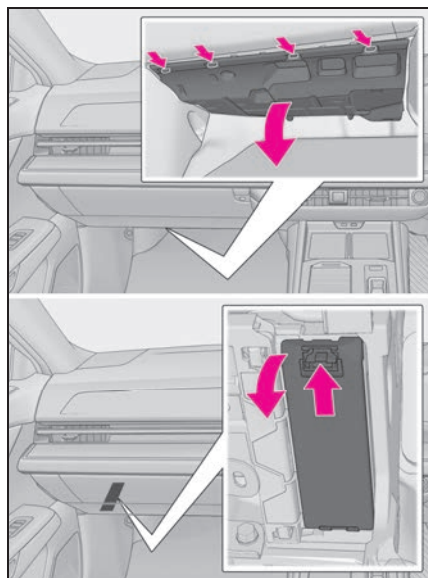


・タイプ B



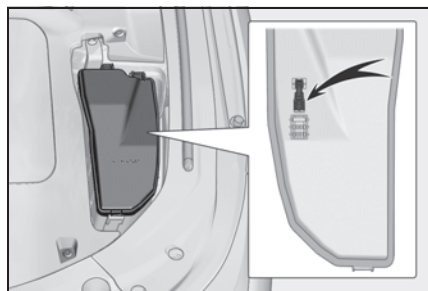
▶ 助手席足元

足元のカバーを取りはずし、ヒューズボックスカバーを取りはずす

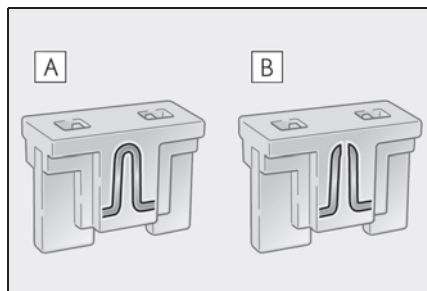


3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。



4 ヒューズが切れていないか点検する



A 正常

B ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



知識

■ ヒューズを交換したあとは

- カバーを取り付けるときは、ツメをしっかりと取り付けてください。
- 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。
(→P.549)
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ 補機バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。



警告

■ 車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずレクサス純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。



注意

■ ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

ランプが切れたときは、レクサス販売店で交換してください。



知識

■LED ランプについて

すべてのランプは、数個のLEDで構成されています。もしLEDがひとつでも点灯しないときは、レクサス販売店で交換してください。

■レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、レクサス販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

8-1. まず初めに

故障したときは.....	552
非常点滅灯（ハザードランプ）	553
発炎筒	553
車両を緊急停止するには	554
水没・冠水したときは	555
車中泊が必要なときは	556

8-2. 緊急時の対処法

けん引について.....	557
警告灯がついたときは	562
警告メッセージが表示されたときは	570
パンクしたときは.....	581
EV システムが始動できないときは	591
キーをなくしたときは	593
充電リッドが開かないときは ..	593
電子キーが正常に働かないときは	594
ドア開スイッチでドアを開けること ができないときは.....	597
補機バッテリーがあがったときは	599
オーバーヒートしたときは	603
スタックしたときは.....	605

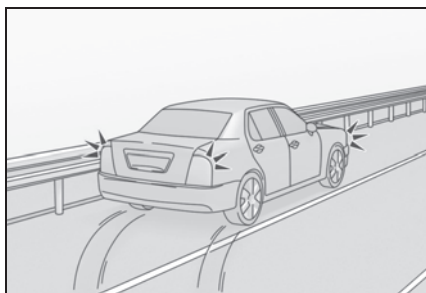
故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

対処のしかた

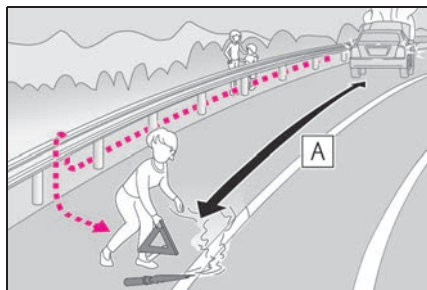
- 非常点滅灯（→P.553）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



- 高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う
- 1 同乗者を避難させる
 - 2 車両の50m以上後方（**A**）に発炎筒（→P.553）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
 - ・ 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
 - ・ 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。

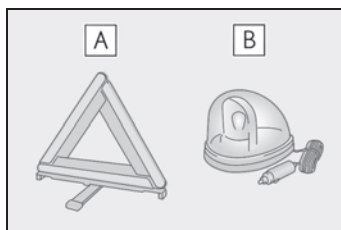
- 3 その後、ガードレールの外側などに避難する



知識

■ 停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。



A 停止表示板

B 停止表示灯

- 停止表示板のご購入については、レクサス販売店にお問い合わせください。

非常点滅灯（ハザードランプ）

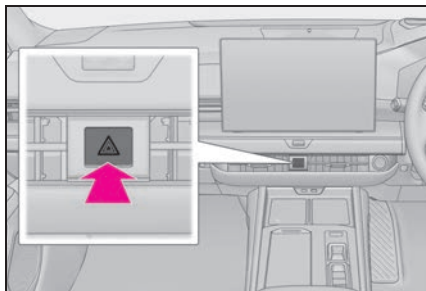
事故などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

点滅させるには

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。

もう一度押すと消灯します。



■ 非常点滅灯について

- EV システム停止中（“READY” インジケーターが点灯していないとき）に、非常点滅灯を長時間使用すると、補機バッテリーがあがるおそれがあります。
- SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、非常点滅灯が自動で点滅します。
非常点滅灯スイッチを 2 回押すか、約 20 分経過すると消灯します。
（衝撃の度合いや事故の状況によっては点滅しないことがあります）

発炎筒

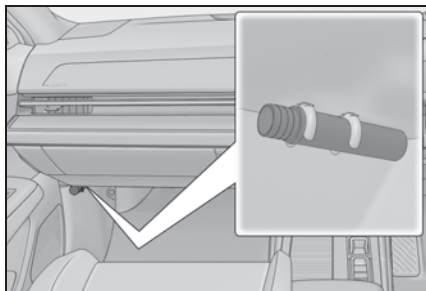
高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。

（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）

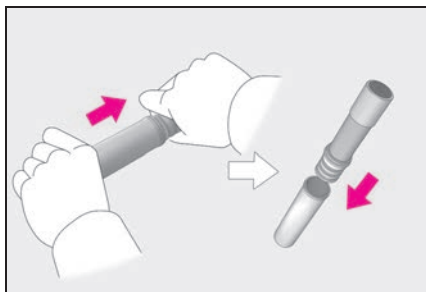
発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してください。

発炎筒を使うには

1 助手席足元の発炎筒を取り出す



2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む

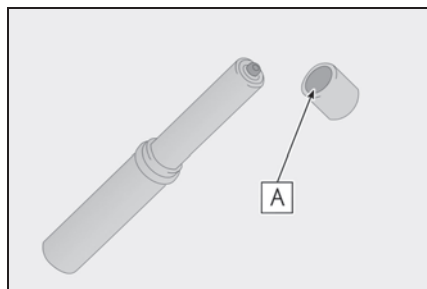


3 先端のフタを取り、すり薬 **A** で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。

着火させる際は、筒先を顔や体に向けな

いでください。



知識

■ 発炎筒の交換について

本体に表示してある有効期限が切れる前に、レクサス販売店で求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。



警告

■ 発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。

煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

● トンネル内

● ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

● 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない

● 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、手順に従って車を停止させてください。

車を停止するには

- 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

- 2 シフトポジションを N にする

▶ シフトポジションが N になった場合

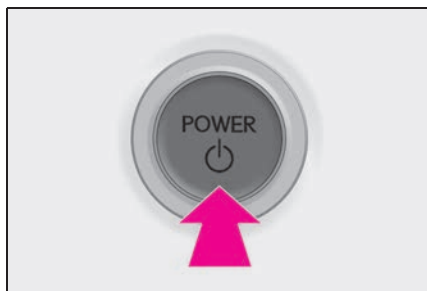
- 3 減速後、車を安全な道路脇に停める

- 4 EV システムを停止する

▶ シフトポジションが N にならない場合

- 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

- 4 パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押して EV システムを停止する



- 5 車を安全な道路脇に停める

⚠ 警告

■ 走行中にやむを得ず EV システムを停止するときは

走行中に EV システムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、補機バッテリーの残量や使用状況によっては、車両が停止する前にハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になるおそれがあるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。EV システムを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されています。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウィンドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

車外の水位がドア高さの半分をこえると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。

□ 知識

■ 水位がフロアをこえると

水位がフロアをこえて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウィンドウが作動しなくなったり、モーターが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

■ 緊急脱出用ハンマー※の使用について

この車両のフロントウインドウガラスと

ドアガラスには合わせガラスが使用されております。

合わせガラスは、緊急脱出用ハンマー※で割ることができません。

※ 詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。



警告

■ 走行中の警告

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

車中泊が必要なときは



警告

車中泊としてお車をご利用になる場合は、エコノミークラス症候群や熱中症、一酸化炭素中毒などのリスクを伴うため十分注意してください。

● 詳しい注意事項などを以下の URL で確認することができます。

https://lexus.jp/news/bousai/#help_book



けん引について

けん引は、できるだけレクサス販売店または専門業者にご依頼ください。その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。



注意

■ 長い下り坂でけん引するときは

レッカー車または、車両運搬車でけん引してください。他車にけん引してもらうと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

他車によるけん引が不可能な状況

次の場合は、パーキングロックにより前輪が固定されている可能性があるため、他車にロープでけん引してもらうことはできません。レクサス販売店または専門業者にご依頼ください。

- シフト制御システムに異常があるとき (→P.260, 571)
- イモビライザーシステムに異常があるとき (→P.56)
- スマートエントリー&スタートシステムに異常があるとき (→P.594)
- 補機バッテリーがあがったとき (→P.599)

けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

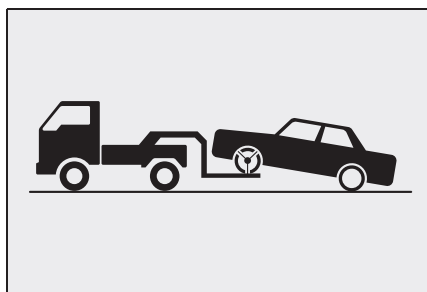
次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、レクサス販売店または専

門業者へご連絡ください。

- EV システム異常警告灯が点灯し、車が動かない
- 異常な音がする

レッカー車でけん引するとき

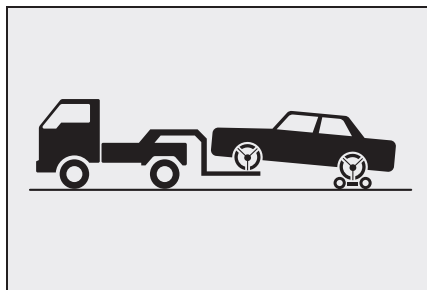
- ▶ 前向きにけん引するときは (2WD 車)



パーキングブレーキを解除する

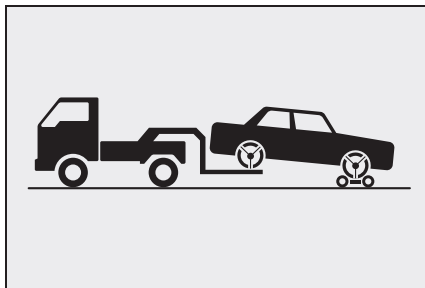
オートモードを OFF にしてください。
(→P.272)

- ▶ 前向きにけん引するときは (AWD 車)



台車を使用して後輪を持ち上げる

▶ うしろ向きにけん引するときは



台車を使用して前輪を持ち上げる

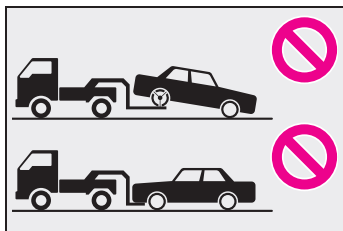
警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ レッカー車でけん引するとき

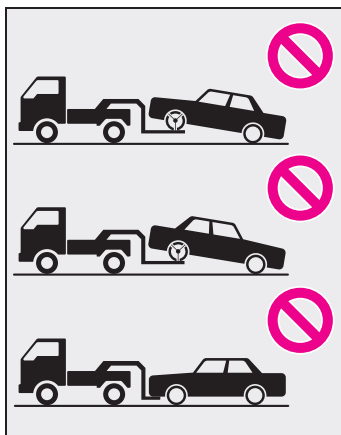
▶ 2WD（前輪駆動）

必ず前輪を持ち上げるか、4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。



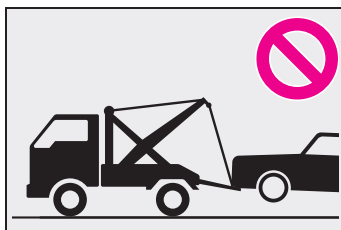
▶ AWD（4輪駆動）

4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品の破損や、車が台車から飛び出したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。

**注意**

■ レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。

**車両運搬車を使用するとき**

車両運搬車で輸送するときは、タイヤ固縛ベルトを使用します。タイヤの固縛方法は、車両運搬車の取扱説

明書を確認してください。

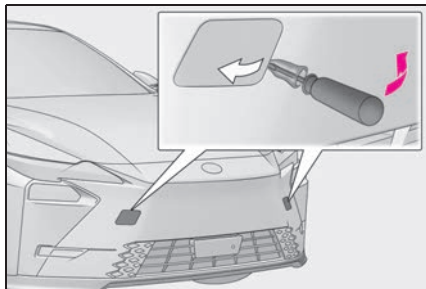
運搬中の車両の揺れを抑えるため、パーキングブレーキをかけ、パワースイッチを OFF にしてください。

他車にけん引してもらおうとき

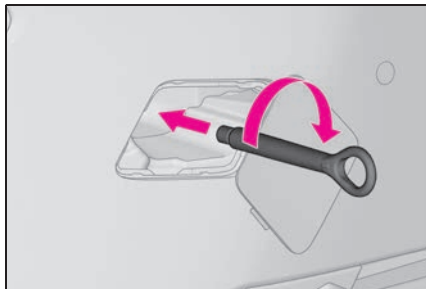
他車にけん引してもらおうときは、けん引フックを取り付ける必要があります。手順に従って取り付けてください。

- 1 トランク内のけん引フックを取り出す (→P.583)
- 2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

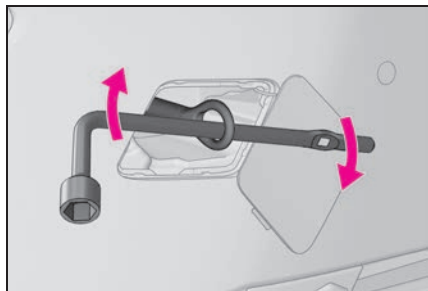


- 3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



- 4 ホイールナットレンチ※や金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

※ レクサス販売店で購入することができます。



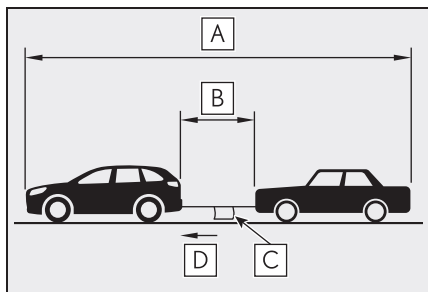
- 5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

- 6 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：

0.3m 平方 (30cm×30cm) 以上



A 25m 以内

B 5m 以内

C 白い布

D けん引方向

- 7 運転者はけん引される車両に乗り、EV システムを始動する

EV システムが始動しないときは、パ

ワースイッチを ON にしてください。

8 けん引される車両のシフトポジションを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

オートモードを OFF にしてください。
(→P.272)

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。



■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

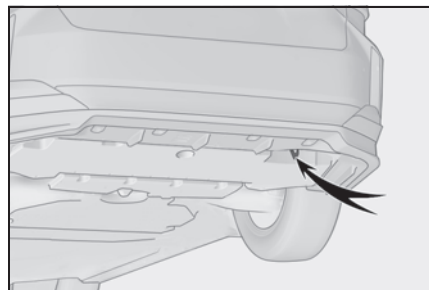
EV システムが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ホイールナットレンチについて

レクスas販売店で購入することができます。

■緊急用フックについて

雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったとき、やむを得ず他車に引っ張り出してもらうために使用することができます。他車をけん引することはできません。



⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■他車にけん引してもらうときの運転について

- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
- けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。
- パーキングロックにより前輪が固定され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。次のことをしないでください。

- ・運転席シートベルトを外し、運転席のドアを開ける
- ・パワースイッチを OFF にする

■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかりと取り付けられないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

⚠ 注意

■車両の損傷を防ぐために

- 他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。
- ・ワイヤーロープは使用しない
- ・速度 30km/h 以下、距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめる
- ・前進方向でけん引する

 注意

- ・ サスペンション部などにロープをかける

- この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■ 緊急用フックについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

- やむを得ない場合以外は使用しないでください。
- 緊急用フックで他車をけん引しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザーへの対応

■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (赤色)	●ブレーキ液の不足 ●ブレーキ系統の異常 → ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	●回生ブレーキシステムの異常 ●電子制御ブレーキシステムの異常 ●パーキングブレーキシステムの異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ 充電警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	充電系統の異常 → ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 駆動用電池充電警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	駆動用電池の残量や状態から充電が必要 低温時には、早めの充電を促すために早く点灯することがあります。 → 駆動用電池を充電してください。(→P.92)

■ EV システム異常警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (赤色)	EV システムの異常 → ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。
 (黄色)	

■ SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	●SRS エアバッグシステムの異常 ●プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ ポップアップフード警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	ポップアップフードが作動した → ポップアップフードは、一度作動すると再使用できません。レクサス販売店で交換してください。 ポップアップフードの異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ ABS & ブレーキアシスト警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	●ABS の異常 ●ブレーキアシストの異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ ペダル誤操作警告灯 ※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	ブザーが鳴った場合： ●ブレーキオーバーライドシステムの異常 ●ドライブスタートコントロールの異常 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。 ブザーが鳴らなかった場合： ブレーキオーバーライドシステム作動時 → アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ パワーステアリング警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (赤色)	EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 DRS（ダイナミックリヤステアリング）★の異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。
 (黄色)	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 運転席・助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー ※）

警告灯	警告内容・対処方法
	運転席・助手席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用する 助手席乗員がいるときは、助手席乗員もシートベルトを着用してください。

※ 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：

運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

■ リヤ席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー ※）

警告灯	警告内容・対処方法
	リヤ席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用する

※ リヤ席シートベルト非着用警告ブザー：

リヤ席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

■ タイヤ空気圧警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	警告灯が点灯し、ブザーが鳴った場合： ●自然要因 → タイヤが十分に冷えてから空気圧を確認し、適切な値に調整してください。 ●タイヤのパンク → ただちに安全な場所に停車し、対処方法に従ってください。 警告灯が約 1 分間点滅したあとに点灯し、ブザーが鳴らなかった場合： タイヤ空気圧警報システムの異常 → レクサス販売店で点検を受けてください。

■ クリアランスソナー OFF 表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
	クリアランスソナーの異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。 センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.570）

■ PCS 警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	プリクラッシュセーフティ（PCS）の異常が考えられます。 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。 プリクラッシュセーフティが OFF のときや機能が制限されているときも点灯します。

■ PKSB OFF 表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
	マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングサポートブレーキ故障 販売店で点検してください」が表示されている： PKSB（パーキングサポートブレーキ）の異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。 マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングサポートブレーキ現在使用できません」が表示されている： センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.570）

■ LTA 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	レーントレーシングアシスト（LTA）の異常が考えられます。 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。

■ LDA 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	レーンディパーチャーアラート（LDA）の異常が考えられます。 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。

■ レーダークルーズコントロール表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	レーダークルーズコントロールの異常が考えられます。 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。

■ クルーズコントロール表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	クルーズコントロールの異常が考えられます。 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。

■ レーダークルーズコントロールエコランモード表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	レーダークルーズコントロールエコランモードの異常が考えられます。 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。

■ 運転支援警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	次のシステムに異常が考えられます。 ●後方車両への接近警報 ●セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応） ●RCD（リヤカメラディテクション） ●ドライバー異常時対応システム ●休憩提案 ●BSM（ブラインドスポットモニター） ●RCTA（リヤクロストラフィックアラート） ●安心降車アシスト（ドアオープン制御付） → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。

■ ドライバーモニター警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	ドライバーモニター注意喚起機能の異常が考えられます。 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。

■ スリップ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
 (点灯)	●VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムの異常 ●TRC（トラクションコントロール）システムの異常 ●ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ パーキングブレーキ表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅)	パーキングブレーキが完全にかかっていない、または解除されていない可能性がある → パーキングブレーキスイッチを再度操作してください。 パーキングブレーキが解除されていないときは点灯します。解除後、消灯すれば正常です。 パーキングブレーキシステムの異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ ブレーキホールド作動表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅)	ブレーキホールドシステムの異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。



知識

■ 警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■ シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅し、ブザーが鳴ることがあります。
- 助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■ パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

補機バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

■ タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

タイヤがパンクしていないか確認してください。

パンクしているときは：→P.581

パンクしていないときは：

パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON にして、タイヤ空気圧警告灯が点灯しているか点滅しているかを確認してください。

▶ タイヤ空気圧警告灯が1分間点滅したあとに点灯した場合

タイヤ空気圧警報システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

▶ タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

タイヤが十分に冷えてから空気圧を確認し、適切な値に調整してください。

数分たっても警告灯が消灯しない場合は、タイヤ空気圧が適切な値であることを確認し、タイヤ空気圧警報システムの空気圧設定を行ってください。（→P.533）

空気圧設定を行ってから数分たっても警告灯が消灯しない場合は、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■自然要因によるタイヤ空気圧警報について

自然な空気もれ、外気温による空気圧の変化など、自然要因によりタイヤ空気圧警告灯が点灯することがあります。この場合、タイヤ空気圧を適切な値に調整してください。数分後に警告灯が消灯します。

■タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれがある状況

→P.530

警告

■ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは

ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店にご連絡ください。

ABS またはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■パワーステアリング警告灯が点灯したときは

黄色に点灯したときは操作力補助が制限され、赤色に点灯したときは操作力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●できる限り速やかに安全な場所に停車し、タイヤ空気圧を調整してください。

●タイヤ空気圧を調整したあとも警告灯が点灯する場合は、タイヤがパンクしている可能性があります。タイヤを確認し、パンクしている場合はタイヤパンク応急修理キットで応急修理し、最寄りのレクサス販売店でタイヤを修理してください。

●急ハンドル・急ブレーキを避けてください。

タイヤの状態が悪化すると、ハンドル操作やブレーキが効かなくなるおそれがあります。

■タイヤの破裂、突然の空気もれが発生した場合

急激にタイヤ空気圧が低下した場合は、タイヤ空気圧警報システムによる警報ができない場合があります。

注意

■タイヤ空気圧警報システムについて

●純正ホイール以外を使用した場合、バルブ/送信機から発信する電波の飛び方がかわり、システムが正常に作動しないことがあります。

●構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用しないでください。タイヤ空気圧警報システムが正常に作動しないことがあります。

●タイヤ空気圧警告灯の点灯および点滅は、空気圧設定では解除できません。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。

処置後に再度メッセージが表示されたときは、レクサス販売店へご連絡ください。

また、メッセージと同時に専用警告灯が点灯・点滅する場合があります。その際は、各警告灯が点灯・点滅したときの対処方法（→P.562）に従ってください。



知識

■ 警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■ 警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

メッセージと警告作動

- “降車時支援機能を一時停止します 降車の際は接近車両にご注意ください” が表示されたときは

原因	対処方法
安心降車アシストの機能が一時停止していることがあります。	降車時の接近車両にご注意ください。

- “降車時支援機能を停止します” が表示されたときは

原因	対処方法
パワースイッチを OFF にしたあと、安心降車アシストの作動条件を満たさなくなったときにメッセージが表示される場合があります。	→P.391

- “EV システム停止のため ハンドルが 重くなります” が表示されたときは

原因	対処方法
走行中に EV システムが停止したときにメッセージが表示されます。	ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

- “バッテリー保護のため 自動で電源を OFFしました” が表示されたときは

原因	対処方法
自動電源 OFF 機能が作動したときにメッセージが表示されます。	次回 EV システム始動時に、約 5 分間 EV システムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。

- “EVシステムが 高温になるため 停車時は ブレーキを 踏んでください” が表示されたときは

原因	対処方法
上り坂などでの停車時にアクセルペダルを踏んで車両を保持するとメッセージが表示される場合があります。	そのままの状態を続けると EV システムが過熱するおそれがあります。アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

- “切替未完了 登録し直してください 取扱説明書を確認”が表示されたときは

原因	対処方法
タイヤ空気圧警報システムの ID 切りかえができません。	装着しているタイヤセットを確認して、切りかえ手順を最初からやり直してください。

- “ヘッドランプシステム 故障 販売店で 点検してください”が表示されたときは

原因	対処方法
次のシステムに異常があるおそれがあります。 ●LED ヘッドランプ ●ヘッドランプオートレベリングシステム	ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

- “スマートエントリー&スタートシステム故障 取扱書を確認”が表示されたときは

原因	対処方法
故障している可能性があります。	ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

- “故障のためブレーキ力が低下 安全な場所に停車して 取扱書を確認”が表示されたときは

原因	対処方法
故障している可能性があります。	ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

- “電力消費が大きいため 一部の空調・ヒータ作動を 制限中です”が表示されたときは

原因	対処方法
ひんぱんに表示されるときは、充電系の異常やバッテリーが劣化している可能性があります。	レクサス販売店で点検を受けてください。

- 販売店での点検を促すメッセージが表示されたときは

原因	対処方法
警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。	すみやかにレクサス販売店で点検を受けてください。

- “ブレーキを踏み電子キーでコンソールBOX内のマークに触れてください” が表示されたときは

原因	対処方法
車両のシステムが電子キーを検知できていない状態です。	P.595 の手順で EV システムを始動してください。

- “シフトシステム故障 シフト切りかえ不可 安全な場所まで走行し 停車” が表示されたときは

原因	対処方法
シフト制御システムが故障しています。	ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

- “シフトシステム故障 走行を継続できません” が表示されたときは

原因	対処方法
シフト制御システムが故障しています。	ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

- シフト操作に関するメッセージが表示されたときは

原因	対処方法
誤ったシフトポジションの選択や、停車中の意図せぬ車両の動き出しなどを防止するため、自動的にシフトポジションが切りかわったり、シフトレバーの操作が指示されたりすることがあります。	画面の指示に従ってシフトポジションを変更してください。

- “シフトシステム故障 駐車時は パーキングブレーキ をかけ 取扱書確認” が表示されたときは

原因	対処方法
故障している可能性があります。	ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

- “P スイッチ故障 駐車時は パーキングブレーキ をかけ 取扱書確認” が表示されたときは

原因	対処方法
故障している可能性があります。	ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

- “シフトシステム不作動 駐車時 パーキングブレーキ をかけ 取扱書確認” が表示されたときは

原因	対処方法
故障している可能性があります。	ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

- “シフトシステム故障 取扱書確認” が表示されたときは

原因	対処方法
故障している可能性があります。	ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

- “シフトシステム故障 安全な場所に停車して 取扱書確認” が表示されたときは

原因	対処方法
故障している可能性があります。	ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

- “バッテリー充電不足 シフト切りかえ できません 取扱書確認” が表示されたときは

原因	対処方法
故障している可能性があります。	ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ 運転支援システムに関するメッセージが表示されたときは

原因	対処方法
機能停止や故障を示すメッセージと関連するシステムのアイコンが一緒に表示されます。 ●  PCS（プリクラッシュセーフティ） ●  LDA（レーンディパーチャーアラート） ●  LTA（レーントレーシングアシスト） ●  LCA（レーンチェンジアシスト） ●  AHB（オートマチックハイビーム） ●  AHS（アダプティブハイビームシステム）★ ●  レーダークルーズコントロール ●  クルーズコントロール ●  レーダークルーズコントロールエコランモード ●  RSA（ロードサインアシスト） ●  発進遅れ告知 ●  PDA（プロアクティブドライビングアシスト） ●  FCTA（フロントクロストラフィックアラート） ●  アドバンスド ドライブ（渋滞時支援） ●  ドライバー異常時対応システム	すみやかにレクサス販売店で点検を受けてください。

原因	対処方法
● 休憩提案 ● BSM（ブラインドスポットモニター） ● RCTA（リヤクロストラフィックアラート） ● 後方車両接近告知 ● セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応） ● 後方車両への接近警報 ● 周辺車両接近時サポート ● 安心降車アシスト ● クリアランスソナー ● PKSB（パーキングサポートブレーキ） ● RCD（リアカメラディテクション） ● 急加速抑制 ● ドライバーモニター すみやかにレクサス販売店で点検を受けてください。	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ “ 機能故障 販売店で点検 ” が表示されたときは

原因	対処方法
表示されたアイコンのシステムが停止しています。	すみやかにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ “機能停止 取扱書を確認” が表示されたときは

原因	対処方法
表示されたアイコンのシステムが停止しています。	次の対処法に従ってください。 ●補機バッテリー電圧を確認する ●Lexus Safety System+で使用するセンサーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。(→P.299) ●LSS 制御ユニット冷却用の吸入口がふさがれていないか確認し、該当する場合はふさいでいるものを取り除いてください。(→P.303) ●センサーが正しく作動しなくなる状況を確認し、該当する場合は改善してください。(→P.379, 382, 387, 389, 395, 398, 406, 410) ●センサーとカメラに付着物がないか確認し、ある場合には取り除いてください。(→P.376, 396, 428) ●地図情報取得の妨げとなる製品を取り付けている場合は取り除いてください。(例：TV キャンセラーなど) ●センサーが正しく作動しなくなる状況が解決すると、表示が消える場合があります。

■ “機能停止 前方カメラ視界不良 取扱書を確認” が表示されたときは

対処方法
次の対処法に従ってください。 ●ワイパー機能を使って、フロントウインドウガラスの汚れや付着物を取り除く。 ●エアコン機能を使って、フロントウインドウガラスの曇りを取り除く。 ●ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、カメラの視界を遮らないようにする。

- “機能停止 前方カメラ作動温度範囲外 常温までお待ちください” が表示されたときは

対処方法
次の対処法に従ってください。 ●炎天下での駐車時など、前方カメラが高温のときは、エアコンでカメラ周辺の温度を下げる。 ●特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウインドウガラスに使用すると前方カメラが高温になりやすくなります。 ●極寒での駐車時など、前方カメラが低温の時は、エアコンで前方カメラ周辺の温度を上げる。

- “機能停止 前方レーダー汚れ 汚れを除去してください” が表示されたときは

対処方法
次の対処法に従ってください。 ●レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。(→P.300) ●砂漠・草原・郊外などの、周辺車両や構造物が少ない広々とした地域を走行すると表示される場合があります。 車両周辺に構造物や車両などが存在する場所まで走行すると、表示が消える場合があります。

- “機能停止 前方レーダー作動温度範囲外 常温までお待ちください” が表示されたときは

対処方法
レーダー周辺の温度が作動条件外です。適切な温度になるまでお待ちください。

- “機能停止 前方レーダー向き調整中 取扱書を確認” が表示されたときは

対処方法
次の対処法に従ってください。 ●レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。(→P.300) ●レーダの向きがずれている可能性があり、レーダーが走行中に自動で再調整しています。しばらく走行を続けてください。

■ “機能停止 周辺監視用カメラ視界不良 取扱書を確認” が表示されたときは

対処方法
リヤカメラやサイドカメラの汚れや付着物を取り除いてください。汚れを取り除いたあとも、復帰までに一定の時間がかかります。

■ “機能停止 バッテリー脱着により学習中 走行を続けてください” が表示されたときは

対処方法
ステアリング舵角中立点が初期化されている可能性があり、運転中に自動的に調整しています。しばらく運転を続けてください。

■ “機能停止 ドライバーモニター作動温度範囲外 常温までお待ちください” が表示されたときは

原因	対処方法
ドライバーモニターカメラの温度が作動条件外です。	適切な温度になるまでお待ちください。

■ “機能停止 ドライバーモニターカメラ視界不良取扱書を確認” が表示されたときは

原因	対処方法
ドライバーモニターカメラのレンズが汚れている可能性があります。	レンズを傷付けないよう乾いたやわらかい布で汚れをふき取ってください。

■ “条件を満たしていないため 開始できません 取扱書を確認” が表示されたときは

原因	対処方法
LCA の作動条件を満たしていないため使用できません。(→P.323)	次の作動条件を満たしているときに、再度方向指示レバーを操作してください。 ●システムが車線を変更する側の白線を破線と認識している。 ●EV システム始動後、システムが一度でも車両後方の移動物を検知している。

■ “ソナーに水滴、雪等が付着しています” が表示されたときは

対処方法
クリアランスソナーのセンサーに水滴、氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。この場合はセンサーの水滴、氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。 また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、静止物があっても検知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。 汚れているセンサーの位置はディスプレイ上に表示されます。 水滴・氷・雪・泥がないのに異常表示が出ている場合は、センサーの異常が考えられますので、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ “EV システム 故障” が表示されたときは

原因	対処方法
故障している可能性があります。	ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ “アクセル系故障” が表示されたときは

原因	対処方法
故障している可能性があります。	ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ “バッテリー系故障” が表示されたときは

原因	対処方法
故障している可能性があります。	ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ “回生ブレーキ制限中 減速時は ブレーキを踏んでください” が表示されたときは

原因	対処方法
次のような状況では、回生ブレーキが制限されることがあります。 ●満充電により、これ以上回生ができないとき ●駆動用電池の温度が極端に高いとき、または極端に低いとき ●電気モーターやパワーコントロールユニットの温度が極端に高いとき	ブレーキペダルをしっかりと踏んで減速して下さい。

 注意

- “補機バッテリー（始動用）充電不足 取扱書確認ください” がひんばんに表示されるときは

補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておくと、補機バッテリーあがりを起こすおそれがあるため、レクサス販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

パンクしたときは

タイヤパンク応急修理キット装着車には、応急用タイヤ、ジャッキ、ジャッキハンドル、ホイールナットレンチが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、レクサス販売店にご相談ください。

 警告

- パンクしたままの走行について

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。

- 短い距離の運転でも、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 短い距離でもパンクしたタイヤで走行すると、タイヤおよびホイールが損傷し修理できなくなります。パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂する危険があります。

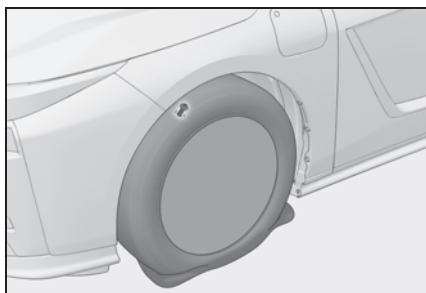
応急修理する前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトポジションを P にする

- EV システムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる
(→P.553)
- タイヤの損傷程度を確認する
- 2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1 本のタイヤに 2 箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき
- 補修液の有効期限がきれているとき

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

- ・ タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。
- ・ パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。



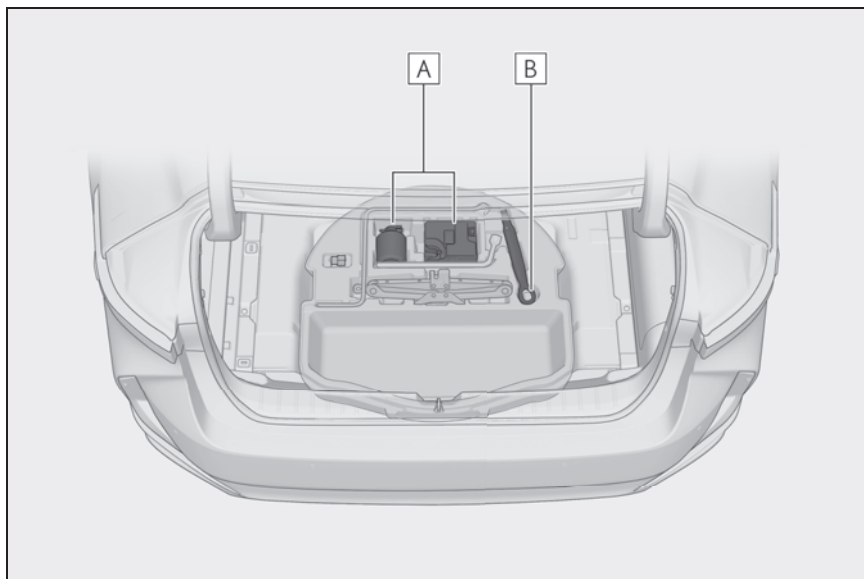
知識

■ 応急修理キットで修理できないパンク

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。レクサス販売店にご連絡ください。

- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき

タイヤパンク応急修理キットと工具の位置



A タイヤパンク応急修理キット

B けん引フック



知識

■ 工具について

お客様の車にはタイヤパンク応急修理キットが標準装着のため、タイヤ交換に使用する以下の工具とジャッキは搭載されていません。工具とジャッキはレクサス販売店で購入することができます。

- ジャッキ
- ジャッキハンドル
- ホイールナットレンチ

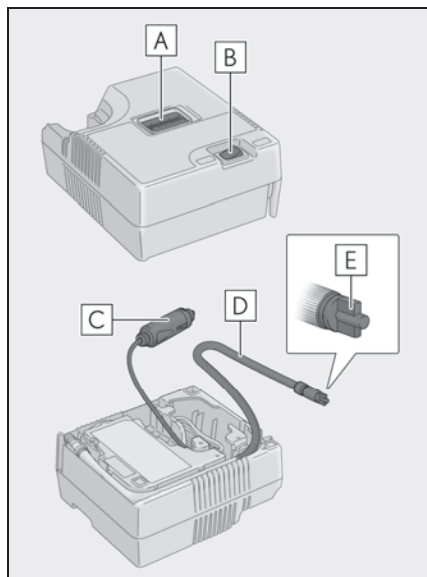
タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称

■ ボトル



A 速度制限ラベル

■ コンプレッサー



- A** 空気圧計
- B** 電源スイッチ
- C** 電源プラグ
- D** ホース
- E** 空気逃がしキャップ



知識

■ 応急修理キットについて

- パンク補修液がボトル1本でタイヤ1本を1回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、レクサス販売店にご相談ください。
- コンプレッサーは、くり返し使用できます。
- 外気温度が -30°C ～ 60°C のときに使用できます。
- 応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。

- パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。
- パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。
- 応急修理キット作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。
- タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

■ 応急修理キットの点検について

- パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。有効期限はボトルに表示されています。
- 有効期限が切れたパンク補修液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。
- 有効期限が切れる前に交換してください。交換については、レクサス販売店にご相談ください。

⚠ 警告

■ 応急修理キットについて

- 応急修理キットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。
他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。
応急修理が完全に行われぬおそれがあります。

警告

■ バック補修液について

- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさん水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

応急修理キットを取り出すには

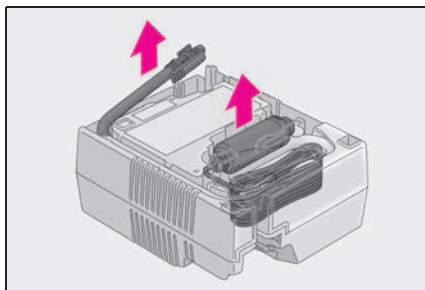
- 1 ラゲージマットを取りはずす
- 2 応急修理キットを取り出す

応急修理をするには

- 1 応急修理キットをビニール袋から取り出す

ボトルに同封されているラベルは指定の位置へ貼り付けます。(手順 10 へ)

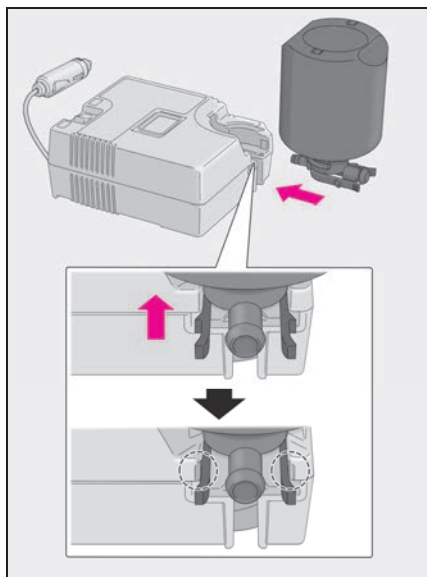
- 2 コンプレッサーからホースを取りはずし、電源プラグを取り出す



- 3 ボトルをコンプレッサーに接続する

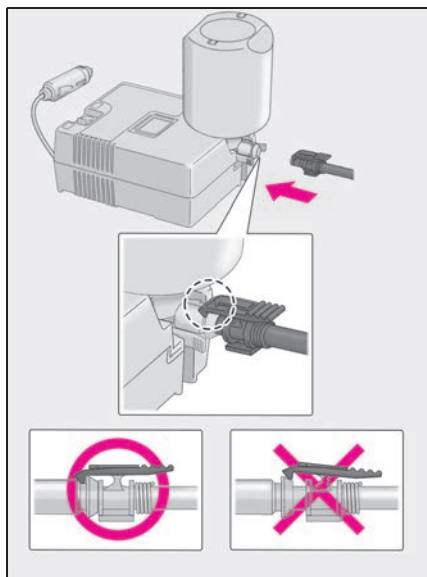
図のように、ボトルをまっすぐコンプレッサーに挿入・接続し、ボトルのツメが穴に隠れていることを確認してくださ

い。

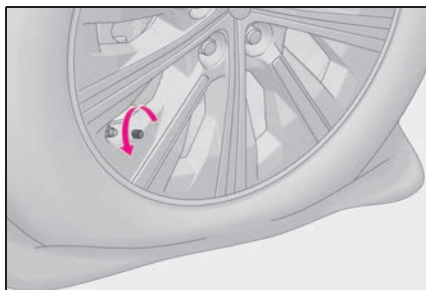


- 4 ホースをボトルに取り付ける

図のように、ボトルにホースがしっかり接続しているか確認してください。

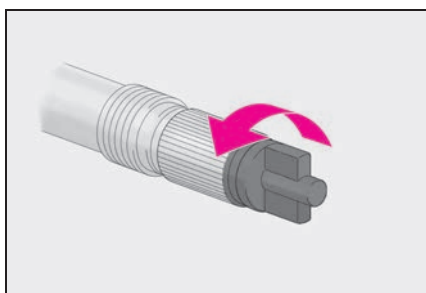


- 5 パンクしたタイヤのバルブからバルブキャップを取りはずす



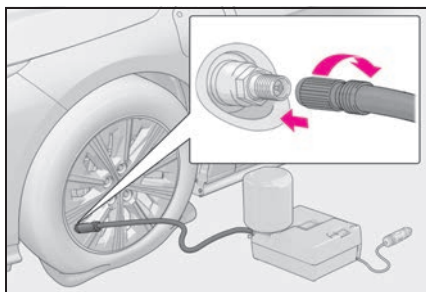
- 6 ホースをのばし、ホースから空気逃がしキャップを取りはずす

空気逃がしキャップは再度使用するため、なくさないように保管してください。

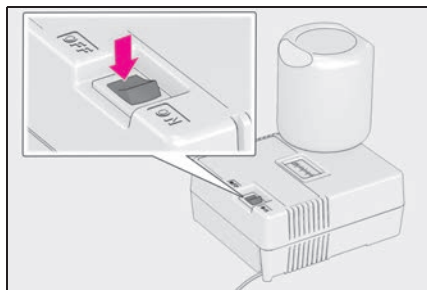


- 7 ホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する

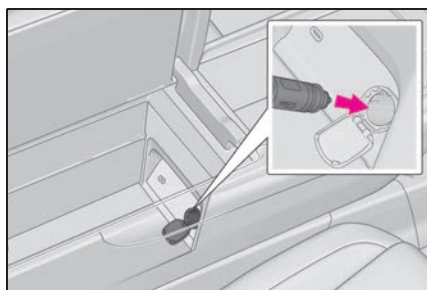
ホース先端を時計まわりにまわしてしっかりと最後までねじ込みます。



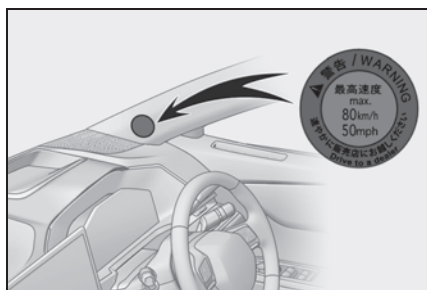
- 8 コンプレッサーのスイッチがOFFであることを確認する



- 9 コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込む

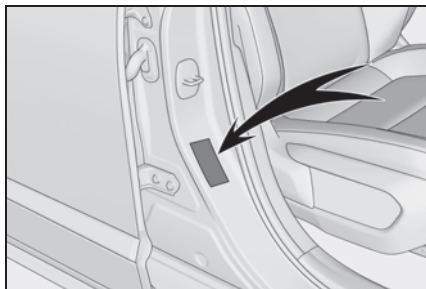


- 10 運転席から見やすい位置に、付属のラベルを貼り付ける



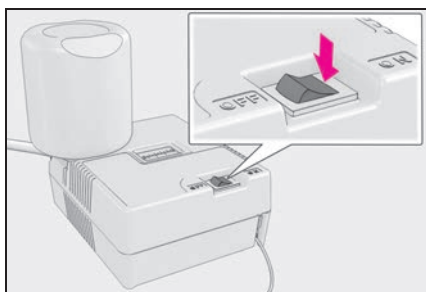
- 11 タイヤの指定空気圧を確認する
運転席側の空気圧ラベルで確認すること

ができます。(→P.528)

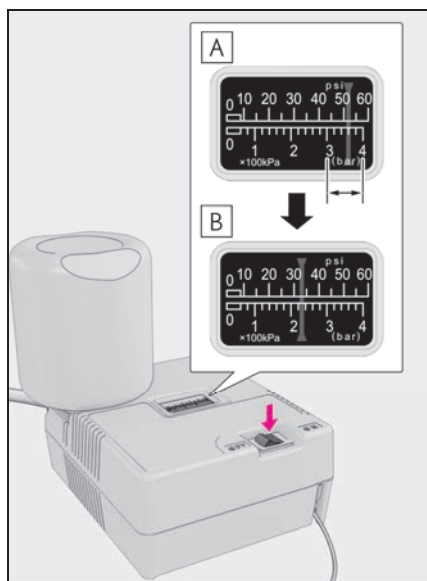


12 EV システムを始動する
(→P.258)

13 コンプレッサーのスイッチを ON
にし、パンク補修液と空気を充填
する



14 空気圧が指定空気圧になるまで空
気を充填する



- A** 一時的に空気圧計が 300 ～
400kPa (3.0 ～ 4.0kg/cm²)
まで上昇し、徐々に減少します。
- B** スwitch を ON にしてから約 1
～ 5 分程度で実際の空気圧にな
ります。

空気圧を確認するときは、コンプレッサーのスイッチを OFF にしてください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

充填までに必要な時間は、約 5 ～ 20 分です (外気温により異なります)。25 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。コンプレッサーのスイッチを OFF にして、レクサス販売店にご連絡ください。

空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。
(→P.528, 610)

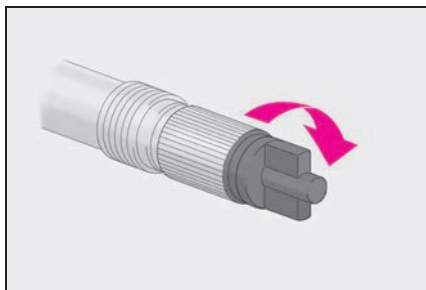
- 15** コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認した上で、アクセサリースOCKETから電源プラグを抜き、タイヤのバルブからホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

- 16** バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

- 17** ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。



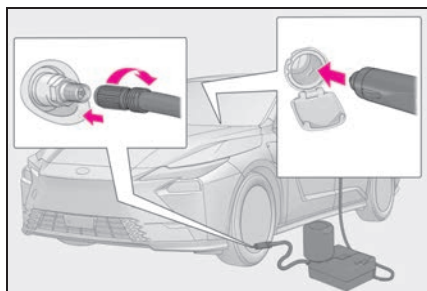
- 18** いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままトランク内に収納する

- 19** タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約 5km、速度 80km/h 以下で安全に走行する

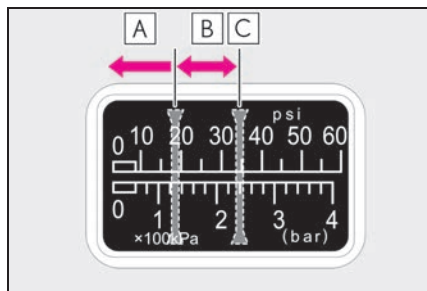
- 20** 走行後、平坦な場所に停車して再度、応急修理キットを接続する

ホースを接続する前に、空気逃がし

キャップを取りはずしてください



- 21** コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にしてから再度 OFF し、空気圧を確認する



- A** 空気圧が 130kPa (1.3kg/cm²) 未満の場合：応急修理できません。レクサス販売店にご連絡ください。

- B** 空気圧が 130kPa (1.3kg/cm²) 以上、指定空気圧未満の場合：手順 **22** へ

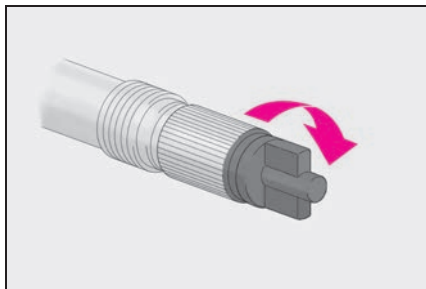
- C** 空気圧が指定空気圧 (→P.610) の場合：手順 **23** へ

- 22** コンプレッサーのスイッチを ON にして指定空気圧まで空気を充填し、再度約 5km 走行後にあらためて手順 **20** から実施する

- 23** ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる

る可能性があります。



24 ボトルとコンプレッサーを接続したままトランク内に収納する

25 急ブレーキ・急加速・急ハンドルを避け、走行距離が約 100km 以内、80km/h 以下の速度で、レクサス販売店まで慎重に運転する

タイヤの修理・交換、応急修理キットの処理についてはレクサス売店にご相談ください。

レクサス販売店でタイヤを修理・交換するときに、パンク補修液注入済みであることを必ずお伝えください。



知識

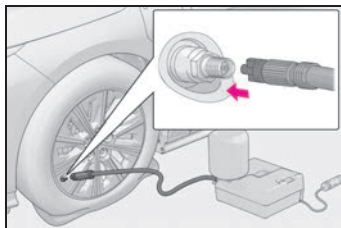
■ 応急（パンク）修理キットを使用したとき

- 空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、空気圧バルブ／送信機を交換してください。
- タイヤの指定空気圧に達していても、タイヤ空気圧警告灯が点灯する可能性があります。

■ 空気を入れすぎてしまったとき

- 1 タイヤからホースを取りはずす

- 2 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付け、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあて、空気を抜く



- 3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する
- 4 コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にし、OFF にしてから空気圧計を確認する

指定空気圧より低いときは、再度、コンプレッサーのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■ 補修液を廃棄するとき

補修液には環境に有害な物質が含まれています。補修液のボトル、および補修液の廃棄が必要な際は、レクサス販売店、または都道府県知事の許可を受けた、専門の廃棄物処理業者に処理をご依頼ください。

⚠ 警告

■ パンクしたタイヤを応急修理するとき

- 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

 警告

- タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとボトルのホースをしっかりと接続してください。ホースの接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。
- 空気充填中にボトルのホースがはずれると、圧力でホースが暴れ大変危険です。
- 空気充填後は、ボトルのホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。
- 作業手順に従って応急修理を行ってください。
手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。
- 破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを OFF にし、修理を中止してください。
- 応急修理キットは、長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。40 分以上連続で作動させないでください。
- 応急修理キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中、または使用後の取り扱いには注意してください。ボトルとコンプレッサー接続箇所付近の金属部分は特に熱くなるのでふれないでください。
- 速度制限ラベルは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

■ 補修液を均等に広げるための運転について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。
- 車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、運転を中止し、次のことを確認してください。
 - ・ タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
 - ・ 空気圧を確認してください。
130kPa (1.3kg/cm²) 未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

 注意**■ 応急修理をするときは**

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- 応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ほこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ほこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。
- 応急修理キットは倒れた状態では正常に作動しません。必ず立ててご使用ください。

 注意

■ 応急修理キットについて

- 応急修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。
- 応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- 応急修理キットはビニール袋に入れて砂ほこりや水を避けて収納してください。
- 応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。
- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、空気圧計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

■ パンク修理剤を使用したとき

空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、空気圧バルブ／送信機を交換してください。

EV システムが始動できないときは

EV システムが始動できない原因は状況によって異なります。次の状況の中であてはまるものを確認し、適切に対処してください。

正しい EV システムの始動方法
(→P.258) に従っても始動できない

次の原因が考えられます。

- 電子キーが正常に働いていない可能性があります。(→P.594)
- 駆動用電池が電欠している可能性があります。
駆動用電池を充電してください。
- イモビライザーシステムに異常がある可能性があります。(→P.56)
- シフト制御システムに異常がある可能性があります。※ (→P.260, 571)
- 電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、EV システムを一時的な処置でかけることができます。
(→P.592)
- 駆動用電池の温度が著しく低い (およそ -30℃ 以下) 可能性があります。(→P.68, 259)

※ シフトポジションを P から切りかえることができない可能性があります。

**室内灯・ヘッドランプが暗い／
ホーンの音が小さい、または鳴
らない場合**

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。(→P.599)
- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

**室内灯・ヘッドランプが点灯し
ない／ホーンが鳴らない場合**

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。(→P.599)
- 補機バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしても EV システムが始動できないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

緊急時の始動について

通常の EV システム始動操作で EV システムが始動しないときは、次の手順で EV システムが始動する場合があります。

緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを押す
(→P.271)

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

- 2 シフトポジションが P の位置にあることを確認する

- 3 パワースイッチを ACC^{*1} にする^{*2}

- 4 ブレーキペダルをしっかりと踏んでパワースイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法で EV システムが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

※¹ カスタマイズメニューで ON / OFF を切りかえることができます。
(→P.619)

※² ACC がない場合は、パワースイッチを ON にしたあとにパワースイッチを OFF にして、5 秒以内に次の手順を実施してください。

キーをなくしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのメカニカルキーから、レクサス販売店でレクサス純正品の新しいメカニカルキーを作ることができます。

キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。



注意

■ 電子キーを紛失したとき

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーとNFC キーカード★をすべてお持ちの上、ただちにレクサス販売店にご相談ください。

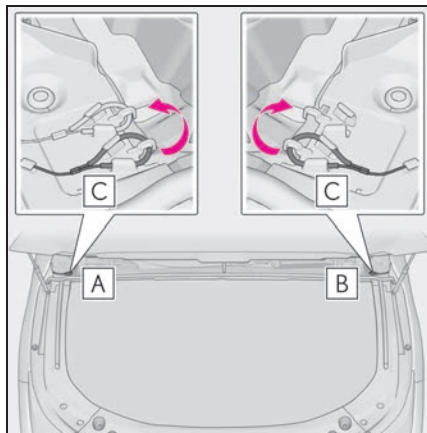
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

充電リッドが開かないときは

充電リッドが通常の手順で開かないときは、次の手順で充電リッドを開けることができます。

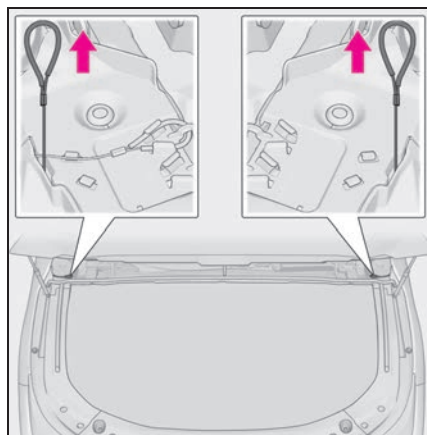
充電リッドを開けるには

- 1 ボンネットを開ける（→P.525）
- 2 緊急解除ケーブル（黒）をツメから取り外す

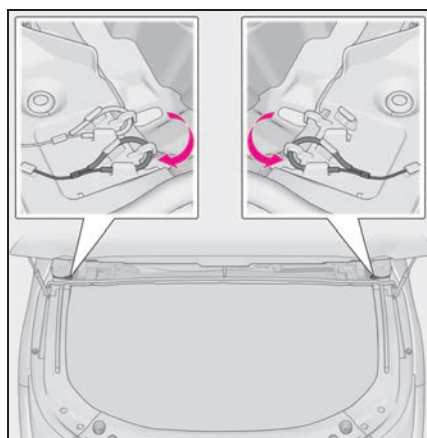


- A** 普通充電リッド側
- B** 急速充電リッド側
- C** 緊急解除ケーブル（黒）

3 緊急解除ケーブル（黒）を上側に引く



4 緊急解除ケーブル（黒）をツメに取りつける



電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P.213）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアやトランクを開けたり、EV システムを始動したりすることができます。

知識

■ 電子キーが正常に働かないときは

- 車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。（→P.618）
- 電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。設定されている場合は解除してください。（→P.213）
- 電子キーの機能が停止している可能性があります。（→P.213）

⚠ 注意

- スマートエントリー&スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

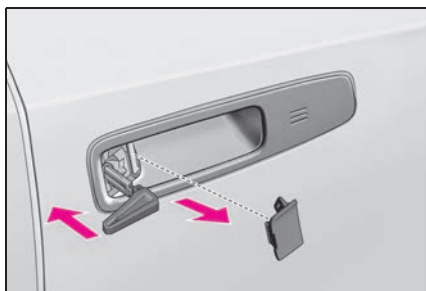
車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

ドアの施錠・解錠、トランクの解錠とキー連動操作

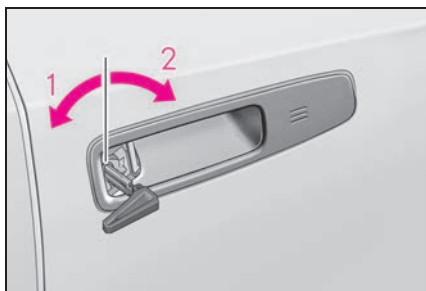
メカニカルキー（→P.192）を使って次の操作ができます。

■ ドアの施錠・解錠

- 1 キーカバーを外してメカニカルキーを挿し込む



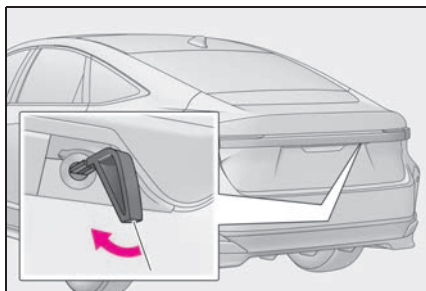
- 2 メカニカルキーを回す



- 1 全ドア解錠
- 2 全ドア施錠

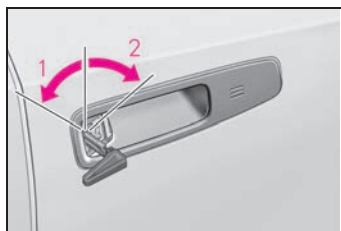
■ トランクの解錠

メカニカルキーを時計まわりにまわして開ける



□ 知識

■ キー連動機能



- 1 ドアガラスとパノラマムーンルーフが開く（まわし続ける）※
- 2 ドアガラスとパノラマムーンルーフが閉まる（まわし続ける）※

※ レクサス販売店ででの設定が必要です。

⚠ 警告

■ メカニカルキーを使ってドアガラスやパノラマムーンルーフを操作するとき

ドアガラスやパノラマムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやパノラマムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

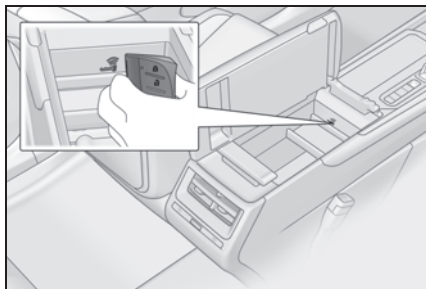
EV システムを始動するには

- 1 シフトポジションがPの状態ブレーキペダルを踏み続ける
- 2 コンソールボックスのふたを開き、電子キーを  マークにかざす。

電子キーをかざす場合はかざし位置との間に金属物や障害物を取り除いてください。

電子キーを認識するとブザーが鳴り、ON へ切りかわります。

車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定が非作動になっている、かつACC カスタマイズがON のときは、ACC へ切りかわりません。



3 パワースイッチを短く確実に押す
処置をしても作動しないときは、レクサス販売店にご連絡ください。



■EV システムの停止方法

通常の EV システムの停止方法と同様に、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしてパワースイッチを押します。

■電子キーの電池交換

ここで説明している EV システムの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→P.545)

■オートアラームについて

メカニカルキーで施錠した場合、オートアラームが設定されません。なお、オートアラーム設定中にメカニカルキーでドアを解錠すると、警報が鳴りますのでご注意ください。(→P.57)

■モードの切りかえ

EV システム始動方法の手順 3 で、ブレー

キペダルから足を離してパワースイッチを押すと、EV システムが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→P.260)

ドア開スイッチでドアを開けることができないときは

ドア開スイッチでドアを開けることができない場合、手動リリースハンドルを使用してドアを開けることができます。



注意

■ 手動リリースハンドルについて

通常は手動リリースハンドルを用いてドアを開けることはできません。手動リリースハンドルの作動を有効にするためには以下の操作を行ってください。以下の操作を行わずに手動リリースハンドルを強い力で操作すると、破損／変形する恐れがあります。

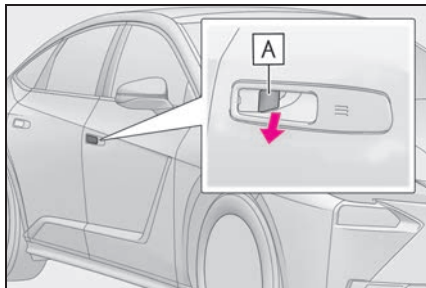
手動リリースハンドルでドアを開くには

■ 車外から手動リリースハンドルでドアを開くには

手動リリースハンドル[A]を手前に引いてドアを開く

通常は手動リリースハンドルでドアを開けることはできません。

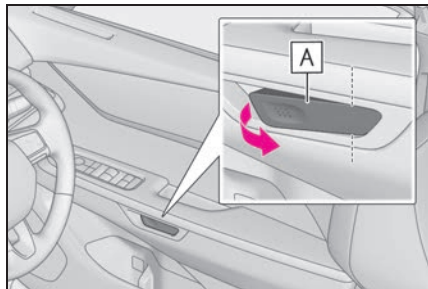
ドアを開けるには作動を有効にする必要があります。(→P.598)



■ 車内から手動リリースハンドルでドアを開くには

手動リリースハンドル[A]を手前に2回引いてドアを開く

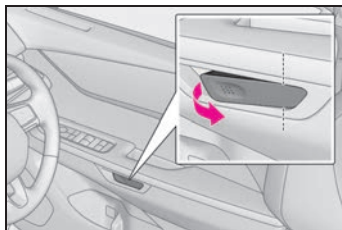
1回ハンドルを引くと作動が有効になり、再度ハンドルを引くとドアが開きます。



知識

■ 手動リリースハンドルの作動が有効になる条件

- 衝突時など強い衝撃を受けたとき
衝撃の度合いや事故の状況によっては作動しないことがあります。
- ドアが解錠状態で補機バッテリー電圧が徐々に低下したとき
低下のしかたによっては、作動しない場合があります。
- 車内から手動リリースハンドルの作動を有効にしたとき



- 車外からメカニカルキーで手動リリースハンドルの作動を有効にしたとき

■メカニカルキーで車外手動リリースハンドルの作動を有効にするには

メカニカルキーを使ってドアを解錠することで手動リリースハンドルの作動を有効にすることができます。

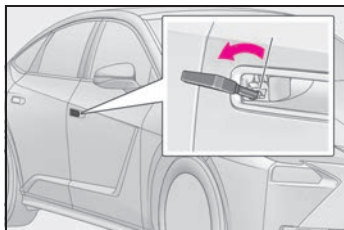
- 1 キーカバーを外してメカニカルキーを挿し込む



- 2 メカニカルキーを使って解錠側にまわし、手動リリースハンドルの作動を有効にする

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。

キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。



■手動リリースハンドルの作動が無効になる条件

- 車外の手動リリースハンドルは、通常は作動が無効のためドアを開けることができません。

メカニカルキーや手動リリースハンドルで作動を有効にしても、ドア開スイッチでドアを開いたり、施錠することで自動的に作動が無効になります。

- 車内の手動リリースハンドルは、パワースイッチがONのとき作動が無効

のためドアを開くことができません。

メカニカルキーや手動リリースハンドルで作動を有効にしても、ドア開スイッチでドアを開いたり、施錠することで自動的に作動が無効になります。

- 車内の手動リリースハンドルは、意図せずドアを開けることを防ぐため、パワースイッチがONのとき1回目の操作後、約1秒で自動的に作動が無効になります。

補機バッテリーがあがったときは

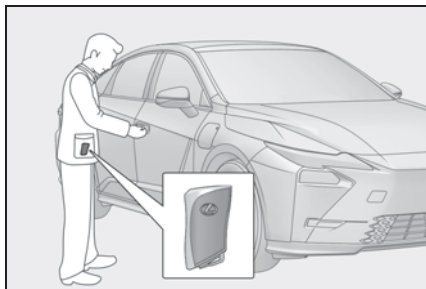
補機バッテリーがあがった場合、次の手順で EV システムを始動することができます。

EV システムを再始動するには

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、手順に従って、EV システムを始動させることができます。

1 電子キーを携帯していることを確認する

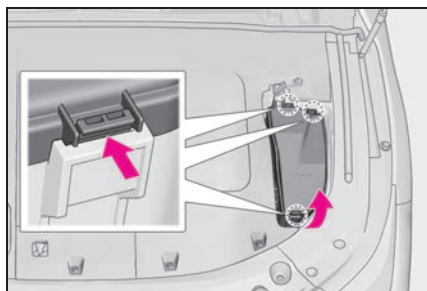
ブースターケーブル接続時、場合によっては、オートアラームが作動し自動的にドアが施錠されます。(→P.58)



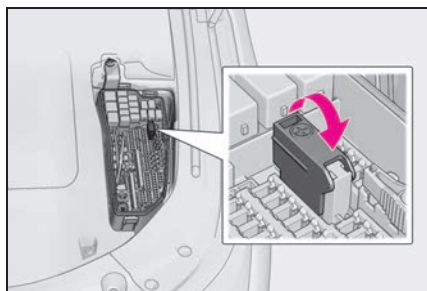
2 ボンネットを開けて (→P.525)、ヒューズボックスのカバーをはずす

5 赤色のブースターケーブルを自車の救援用端子 **A** につなぎ、もう一方の端を救援車の補機バッテリーの+端子 **B** につなく。その後、黒色のブースターケーブルを救援車の補機バッテリーの-端子 **C** につなぎ、もう一方の端を金属部 **D** につなく

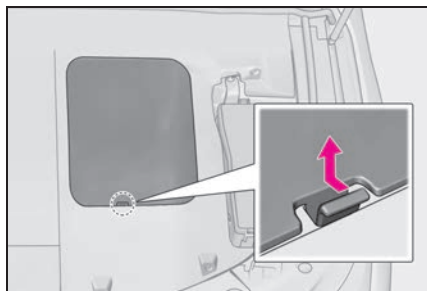
ツメを押しながらカバーを持ち上げる



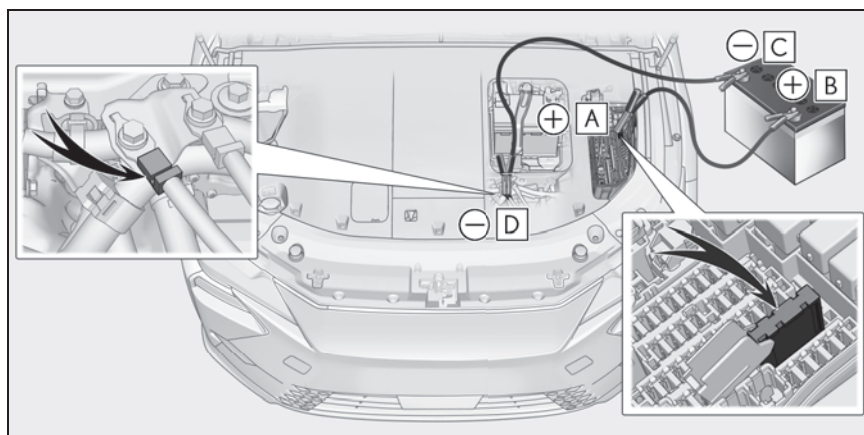
3 ヒューズボックス内の救援用端子のカバーを開ける



4 モーターカバーを取りはずす



ブースターケーブルは、指定の端子および接続箇所に届くものを使用してください。



- A** 救援用端子（自車）
B バッテリーの+端子（救援車）
C バッテリーの-端子（救援車）
D 図に示す金属部

- 6 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めに設定し、約5分間自車の補機バッテリーを充電する
 - 7 パワースイッチがOFFの状態ではいずれかのドアを開閉する
 - 8 救援車のエンジン回転を維持したまま、パワースイッチをいったんONにしてからEVシステムを始動する
 - 9 READY インジケーターが点灯することを確認する
- 点灯しない場合はレクサス販売店にご連絡ください。
- 10 EVシステムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす
 - 11 救援用端子カバーを閉じ、ヒューズボックスのカバーをもとどおりに取り付ける

EVシステムが始動しても、早めにレ

クサス販売店で点検を受けてください。

知識

■補機バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

- EVシステムが停止しているときは、ランプ、エアコンやオーディオなどの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。
- ACCカスタマイズがOFFのときは、パワースイッチがOFFの状態でもマルチメディアシステムに電源が供給されます。マルチメディアシステムの電源をOFFにしてください。詳しくは、別冊

「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■補機バッテリーがあがってしまったときは

- コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリーがあがったときはレクサス販売店で点検を受けてください。
- 初期設定が必要な機能があります。(→P.636)

■補機バッテリー端子をはずすときは

補機バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリー端子をはずすときは、レクサス販売店にご相談ください。

■補機バッテリーの充電について

補機バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長時間放置すると、補機バッテリーがあがってEVシステムが始動できなくなるおそれがあります。(補機バッテリーはEVシステムの作動中に自動で充電されます)

■補機バッテリーあがり時や取りはずし時など

- 補機バッテリー脱着直後はスマートエントリー&スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合はワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。
- 補機バッテリー脱着後、最初のEVシステム始動は失敗することがあります。2回目以降のEVシステム始動は正常に動作しますので、問題ではありません。
- 車両は常に電源の状態を記憶しています。補機バッテリー脱着時、車両は補機バッテリーをはずす前の状態に復帰

します。補機バッテリーを脱着する際は、パワースイッチをOFFにしてから行ってください。

補機バッテリーがあがる前の状態が不明の場合、補機バッテリー接続時は特に注意してください。

- 補機バッテリーがあがった場合は、Pから他のポジションに切りかえることができない可能性があります。その場合は、前輪が固定されているため、前輪を持ち上げないと車両の移動ができません。
- 初期設定が必要な機能があります。(→P.636)
- 補機バッテリーを交換するときは
- 欧州規格バッテリーを使用してください。
- 交換前と同一のケースサイズ(LN2-EFB)、20時間率容量(20HR)が同等(60Ah)以上、かつ性能基準値(CCA)が同等(345A)以上の補機バッテリーを使用してください。
- ・ケースサイズが異なると、補機バッテリーが正しく固定されません。
- ・適切な補機バッテリーをご使用いただかない場合は、補機バッテリーの早期劣化や、最悪の場合にはEVシステムの始動ができなくなるおそれがあります。
- ・20時間率容量が小さいと、車両を使用していない期間が短い期間であっても補機バッテリーがあがって、EVシステムの始動ができなくなるおそれがあります。
- 一括排気タイプのカルシウムバッテリーを使用してください。

詳しくは、レクサス販売店にご相談ください。

 警告

■ **補機バッテリー端子をはずすときは**
必ず－端子を先にはずしてください。
＋端子を先にはずすと、＋端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがあるほか、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **補機バッテリーの引火または爆発を防ぐために**

補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない
- ＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは＋側と一側の端子を絶対に接触させない
- 補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起さない

■ **補機バッテリーの取り扱いについて**

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- 補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近付けない

- 誤って補機バッテリー液（酸）が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく

- 誤って補機バッテリー液（酸）を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける

- 補機バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う

- お子さまを補機バッテリーに近付けない

■ **補機バッテリーあがりの処置をしたあと**

早めにレクサス販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

補機バッテリーが劣化している場合、そのまま使い続けると補機バッテリーから異臭ガスが発生し、乗員に健康障害をおよぼすおそれがあり危険です。

■ **補機バッテリーを交換するときは**

- 液栓やインジケーターがステアに近いと、補機バッテリー液（酸）がもれだすおそれがあります。

- 補機バッテリーの交換については、レクサス販売店にご相談ください。

■ **補機バッテリーのマイナス端子について**

ボデーに接続された補機バッテリーのマイナス端子をはずさないでください。誤ってはずすとプラス端子と接触し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ ブースターケーブルの取扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

■ ブースターケーブルを接続するとき

指定の端子および接続箇所以外にブースターケーブルを接続しないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、破損につながったりするおそれがあります。

■ 救援用端子について

この車の救援用端子は、他の車から応急的に補機バッテリーを充電するためのものです。この救援用端子を使用して、他の車のバッテリーあがりを救援することはできません。

オーバーヒートしたときは

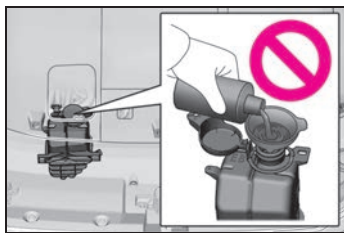
次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- スピードが出ないなどEVシステムの出力が低下する
- マルチインフォメーションディスプレイに“EV システム高温出力制限中です”が表示される
- モータールームから蒸気が出ている

⚠ 注意

■ ラジエーター用冷却水

ラジエーターの冷却水は、ラジエーター専用品です。水や他の種類の冷却水を入れると、故障の原因になりますので、絶対に入れないでください。トヨタ純正駆動用バッテリークーラントがない場合は、ただちにレクサス販売店にご連絡ください。

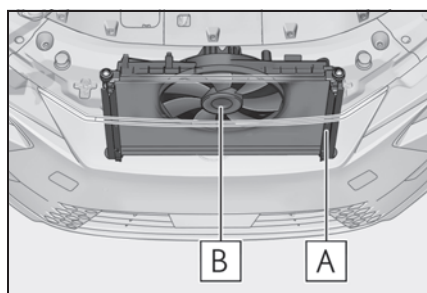


対処方法

- ▶ マルチインフォメーションディスプレイに“EV システム高温出力制限中です”が表示されたとき
- 1 安全な場所に停車し、エアコンをOFFにする
- 2 EV システムが作動している状態で、ボンネットを開ける

- 3 ラジエーター冷却用のファンが作動しているかを確認する
ファンが作動している場合：“EV システム高温 出力制限中です” 表示が消えるまで待ち、EV システムを停止する
ファンが作動していない場合：すぐに EV システムを停止し、レクサス販売店に連絡する
- 4 EV システムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

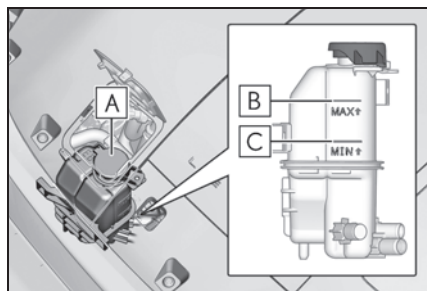
多量の冷却水もれがある場合は、ただちにレクサス販売店に連絡してください。



A ラジエーター

B ファン

- 5 冷却水の量がリザーバータンクの“MAX”（上限）と“MIN”（下限）のあいだにあるかを点検する



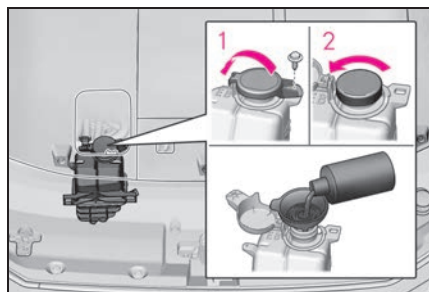
A リザーバータンク

B “MAX”（上限）

C “MIN”（下限）

- 6 冷却水が不足している場合は、トヨタ純正駆動用バッテリークーラントを補給する

冷却水がない場合は、レクサス販売店に連絡してください。



1 ボルトを取りはずす

2 リザーバーキャップを開ける

できるだけ早く最寄りのレクサス販売店で点検を受けてください。

警告

■ モータールームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- モータールームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。モータールーム内が高温になっています。
- 手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

- EV システムおよびラジエーターが熱い場合は、冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

⚠ 注意**■ 冷却水を入れるとき**

EV システムが十分に冷えてからゆっくり入れてください。

EV システムが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、EV システムが損傷するおそれがあります。

■ 冷却システムの故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 冷却水には、水や他の冷却水を補充しないでください。また、冷却水用添加剤は使用しないでください。

スタックしたときは

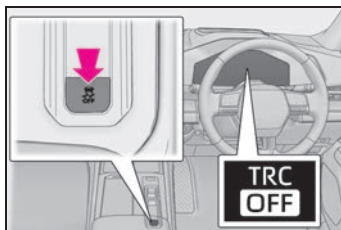
ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法を試みてください。

脱出するには

- 1 パーキングブレーキをかけシフトポジションを P にして、EV システムを停止する
- 2 前輪周辺の土や雪などを取り除く
- 3 前輪の下に木や石などをあてがう
- 4 EV システムを再始動する
- 5 シフトポジションを確実に D または R にし、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

📖 知識**■ 脱出しにくいとき**

スイッチを押して TRC を OFF にしてください。



 警告**■ 脱出するとき**

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何も無いことを確認してください。

スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■ シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。

車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 注意**■ トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

- 前輪が空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

9-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ 608

9-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能一覧
..... 611

9-3. 初期設定

初期設定が必要な項目 636

9-4. フリー／オープンソースソフトウェア

フリー／オープンソースソフトウェア
情報 637

メンテナンスデータ

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。

お車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

クーリングシステム

指定銘柄	容量 [L] (参考値)
弊社純正駆動用バッテリークーラント	7.0※ ¹
凍結保証温度	8.7※ ²
濃度 50% − 35° C	

※¹ES350e

※²ES500e

ヒーターシステム

指定銘柄	容量 [L] (参考値)
弊社純正スーパーロングライフクーラント	4.3
凍結保証温度	
濃度 50% − 35° C	

フロント eAxle（イーアクスル）

指定銘柄	容量 [L] (参考値)
弊社純正 e- トランスアクスルフルード TE※	3.0

※ 交換が必要な際はレクサス販売店にご相談ください。



注意

■ フロント eAxle フルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

リヤ eAxle（イーアクスル）（ES500e）

指定銘柄	容量 [L]（参考値）
弊社純正 e- トランスアクスルフルード TE※	2.7

※ 交換が必要な際はレクサス販売店にご相談ください。



注意

■ リヤ eAxle フルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
弊社純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル ※1

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間 ※2	63

※1 ブレーキペダルの点検に併せて、EV システムが作動している状態のとき、ブレーキ警告灯（赤色）が点灯していないことも必ず確認してください。

（警告灯が点灯した場合の対処については、P.562 を参照してください）

※2 EV システムが作動している状態で 300N（30.6kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

ウォッシャータンク

容量 [L]（参考値）
4.8

タイヤ・ホイール

■ サイズ・空気圧

▶ 19 インチタイヤ装着車

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの 空気圧 kPa (kg/cm ²)	
		前輪	後輪
235/55R19 101V	19 × 8J	240 (2.4)	240 (2.4)

▶ 21 インチタイヤ装着車

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの 空気圧 kPa (kg/cm ²)	
		前輪	後輪
235/45R21 101W	21 × 8 1/2J	240 (2.4)	240 (2.4)

■ ホイールナット締め付けトルク

トルク [N・m (kgf・cm)]
140 (1428)

車両仕様

名称	型式	電動機型式	駆動方式
ES350e	XXZM21	2XM	2WD (前輪駆動)
ES500e	XXZM26	フロント：2XM リヤ：3XM	AWD (4 輪駆動)

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてレクサス販売店で作動内容を変更することができます。また、マルチインフォメーションディスプレイ・センターディスプレイの操作により、設定を変更することができる機能もあります。

設定を変更するには

■ センターディスプレイで設定するには

- ▶ メインメニューの  から設定する
- 1 メインメニューの  を選択する
- 2 設定を変更したいカテゴリーを選択する
- 3 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する

作動・非作動を変更できる機能では、

 (作動)・ (非作動) を選択します。

音量や照度などを変更できる機能では、バー上のアイコンをスライドしてレベルを調整します。

- ▶ アドバンストパークの設定を変更する
- 1 Advanced Park メインスイッチを押す
- 2 メインメニューの  を選択して、“Advanced Park” を選択する

■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

- 1 メーター操作スイッチの ▲ または ▼ を押してコンテンツ表示エリア（左）から  を選択し、OK を押す
- 2 メーター操作スイッチの ▲ または ▼ を押して変更する項目を選択する
- 3 ON / OFF を切りかえる機能では、メーター操作スイッチの OK を押してご希望の設定に切りかえる
- 4 詳細設定が可能な機能では、OK を押し続けて設定画面を表示する

詳細設定の方法は、各画面ごとに異なります。画面に表示されているアドバイス文を参考に設定を行ってください。

前の画面にもどる、もしくは設定を終了する場合は  スイッチを押します。

知識

■ カスタマイズ設定を行うとき

安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしてください。また、補機バッテリーあがりを防ぐため、EV システムが作動している状態で操作を行ってください。



注意

■ カスタマイズ設定を行うとき

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実に EV システムが作動している状態で実施してください。

車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはレクサス販売店へお問い合わせください。

センターディスプレイ・マルチインフォメーションディスプレイで
設定変更する

A センターディスプレイの画面操作で設定変更可能

B マルチインフォメーションディスプレイで設定変更可能

■ メーター、マルチインフォメーションディスプレイ (→P.171, 176)

機能の内容 ※1	カスタマイズ設定	A	B
メーター輝度調整	●任意の照度	—	○
言語 ※2	●日本語 ●英語	○	○
単位	●km (km / kWh) ●km (kWh / 100km)	○	○

機能の内容 ※1			カスタマイズ設定	A	B
メーター タイプ設 定 ※2	シンプ ル	シンプル表示	●あり ●なし	—	○
		ウィジェット	●あり ●なし	—	○
	1 メー ター	1 メーター表示	●あり ●なし	—	○
		アナログメーター 切替	●スピードメーター ●パワーメーター	—	○
		ウィジェット	●あり ●なし	—	○
	2 メー ター	2 メーター表示	●あり ●なし	—	○
	ナビ	ナビゲーション表 示	●あり ●なし	—	○
	運転支 援シス テム情 報	運転支援システム 情報	●あり ●なし	—	○
		ウィジェット	●あり ●なし	—	○
	ECO	ECO 表示	●あり ●なし	—	○
		ウィジェット	●あり ●なし	—	○
		電費	グラフ情 報切替	●電費推移 ●過去電費	— ○
			電費推移 削除	●はい ●いいえ	— ○
			過去電費 更新	●はい ●いいえ	— ○
			過去電費 削除	●はい ●いいえ	— ○

機能の内容 ※1			カスタマイズ設定		A	B
インフォメーション設定	電費グラフ	電費グラフ表示	●あり ●なし	—	○	
		グラフ情報切替	●始動後平均電費 ●通算平均電費	—	○	
	エネルギー消費割合		●あり ●なし	—	○	
	ナビゲーション表示		●あり ●なし	—	○	
	オーディオ表示		●あり ●なし	—	○	
	ドライブインフォ表示		●あり ●なし	—	○	
	TRIP A 表示		●あり ●なし	—	○	
	TRIP B 表示		●あり ●なし	—	○	
	タイヤ空気圧		●あり ●なし	—	○	
	AWD 作動状態表示★,※2		●あり ●なし	—	○	
	G モニター		●あり ●なし	—	○	
ドライブインフォ項目選択（上段）※2			●走行距離 ●平均車速 ●走行時間	—	○	
ドライブインフォ項目選択（下段）※2			●走行距離 ●平均車速 ●走行時間	—	○	
TRIP A 項目選択（上段）※2			●走行距離 ●平均車速 ●走行時間	—	○	

機能の内容 ※1		カスタマイズ設定	A	B
TRIP A 項目選択 (下段) ※2		●走行距離 ●平均車速 ●走行時間	—	○
TRIP B 項目選択 (上段) ※2		●走行距離 ●平均車速 ●走行時間	—	○
TRIP B 項目選択 (下段) ※2		●走行距離 ●平均車速 ●走行時間	—	○
割込表示 ※2	交差点案内	●あり ●なし	—	○
	電話	●あり ●なし	—	○
	オーディオ操作	●あり ●なし	—	○
	ボリューム操作	●あり ●なし	—	○
	音声操作	●あり ●なし	—	○
カレンダー ※2, 3		—	—	○
提案サービス ※2		●常に On ●停車中のみ On ●Off	○	—
表示設定初期化		●はい ●いいえ	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1機能についての詳しい説明は P.183 を参照してください

※2マイセッティングと連動して設定が変更されます。

※3マルチメディアシステムの設定で、時計の GPS 補正を OFF にした場合にのみ、設定が可能になります。

■ ヘッドアップディスプレイ (→P.184)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
ヘッドアップディスプレイ表示 ※	●あり ●なし	—	○
ヘッドアップディスプレイ表示タイプ ※	●ミニマム ●スタンダード ●フル	—	○
ヘッドアップディスプレイの明るさ ※	●任意の照度	—	○
ヘッドアップディスプレイの表示位置	●任意の位置	—	○
ヘッドアップディスプレイの傾き調整 ※	●任意の傾き	—	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ セキュリティ (→P.57)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
侵入センサー	●ON ●OFF	○	—

■ 充電システム (→P.92, 99, 106)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
充電電流 ※	●8A ●16A ●24A ●Max	○	○
充電量上限	●50% ●60% ●70% ●80% ●90% ●Full	○	○

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
急速充電電力	●50 kW ●75 kW ●100 kW ●125 kW ●Max	○	○
電池冷却	●あり ●なし	○	○

※ 100V での充電時には、この設定は反映されません。(→P.101)

■ 給電システム (→P.139, 155)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
給電量下限	●Min ●20% ●30% ●40%	○	○

■ ドアロック (→P.197, 203, 594)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
シフトポジションを P 以外にしたときの全ドア施錠 (シフト操作連動ドアロック) ※	●あり ●なし	○	—
オートドアアンロック機能 ※	●シフトポジションを P にしたときの全ドア解錠 (シフト操作連動アンロック) ●運転席を開けたときの全ドア自動解錠 (運転席ドア開連動アンロック) ●なし	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ リヤシートリマインダー (→P.199)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
リヤシートリマインダー機能 ※	●ON ●OFF	○	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ デジタルキー★ (→P.194)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
デジタルキー	●ON ●OFF	○	—

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ トランク (→P.203)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
ハンズフリーパワートランクリッド ★	●ON ●OFF	○	○

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスドアロック共通 (→P.197, 211)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
作動の合図 (ブザー音量調整) ※	●レベル 0 (なし) ~ 7	○	—
作動の合図 (非常点滅灯) ※	●あり ●なし	○	—
解錠後、ドアを開けなかったときの 自動施錠までの時間 ※	●OFF ●30 秒 ●60 秒 ●120 秒	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ スマートエントリー&スタートシステム (→P.197, 211)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
スマートエントリー&スタートシステム	●あり ●なし	○	—
解錠されるドアの選択	●全席解錠 ●運転席のみ解錠	○	—
降車オートロック	●あり ●なし	○	○
接近時オートアンロック	●あり ●なし	○	○

■ ワイヤレスドアロック (→P.190, 197, 203)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
解錠時の操作 ※	●1 回で全ドア解錠 ●1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ パワーイーजीアクセスシステム (→P.242)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
降車時の運転席シート前後移動量 ※	●OFF ●少なめ ●標準	○	—
ハンドルの作動 ※	●OFF ●上下のみ ●前後のみ ●全て作動	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ パワースイッチ (→P.260)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
ACC カスタマイズ ACC の ON / OFF を切りかえる	●ON ●OFF	○	—

■ ASC（アクティブサウンドコントロール）（→P.277）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
ASC（アクティブサウンドコントロール）の音量	●大 ●中 ●小 ●なし	○	—

■ 急加速抑制（→P.365）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
急加速抑制 ※	●On ●Off	○	—

※ ドライブスタートコントロールの後退速度の抑制制御 ON・OFF も連動します。

■ ランプ自動点灯・消灯システム（→P.278）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
ライトセンサーの感度調整 ※	●より明るい ●明るい ●標準 ●暗い ●より暗い	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ AHS（アダプティブハイビームシステム）★（→P.282）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
スイブル機能	●On ●Off	○	—
遮光エリア	●くつきり ●ややくつきり ●標準／通常 ●ややほんやり ●ほんやり	○	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ PCS（プリクラッシュセーフティ）（→P.309）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
プリクラッシュセーフティ	☒ On ☐ Off	☐	—

■ LDA（レーンディパーチャーアラート）（→P.326）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
LDA（レーンディパーチャーアラート）※	☒ On ☐ Off	☐	—
逸脱抑制アシスト ※	☒ 警報 ☐ ハンドル支援 ☐ 警報 & ハンドル支援	☐	—
支援タイミング ※	☒ 遅い ☐ 標準 ☐ 早い	☐	—
警報手段 ※	☒ ハンドル振動 ☐ ブザー ☐ ハンドル振動 & ブザー	☐	—
OAA（障害物先読みアシスト）※	☒ On ☐ Off	☐	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ LCA（レーンチェンジアシスト）（→P.322）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
LCA（レーンチェンジアシスト）※	☒ On ☐ Off	☐	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ PDA（プロアクティブドライビングアシスト）（→P.333）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
PDA（プロアクティブドライビングアシスト）※	●On ●Off	○	—
支援レベル※	●弱 ●中 ●強	○	—
操舵アシスト (SA)※	●On ●Off	○	—
減速アシスト (DA)※	●On ●Off	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ FCTA（フロントクロストラフィックアラート）（→P.337）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
フロントクロストラフィックアラート※	●On ●Off	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ RSA（ロードサインアシスト）（→P.340）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
RSA（ロードサインアシスト）※	●On ●Off	○	—
制限速度注意喚起※	●Off ●表示 ●表示 & ブザー	○	—
制限速度注意喚起タイミング※	●制限速度 +2km/h ●制限速度 +5km/h ●制限速度 +10km/h	○	—
進入禁止・赤信号注意喚起※	●Off ●表示 ●表示 & ブザー	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ レーダークルーズコントロール (→P.343)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
加速度 ※	☒ 弱 ☐ 中 ☐ 強	☐	—
カーブ速度抑制 ※	☒ Off ☐ 弱 ☐ 中 ☐ 強	☐	—
クルーズコントロールへ切替	☒ On ☐ Off	☐	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ 発進遅れ告知機能 (→P.339)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
先行車発進告知 ※	☒ Off ☐ 遅い ☐ 標準 ☐ 早い	☐	—
信号切替り告知 ※	☒ Off ☐ 遅い ☐ 標準 ☐ 早い	☐	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ ITS Connect (→P.369)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
ITS Connect	☒ On ☐ Off	☐	—
支援タイミング	☐ 遅い ☐ 早い	☐	—

■ アドバンスド ドライブ（渋滞時支援）（→P.360）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
アドバンスド ドライブ（渋滞時支援）※	●On ●Off	○	—

※マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ ドライバーモニター（→P.307）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
ドライバーモニターカメラ	●On ●Off	○	—
注意喚起感度	●高い ●低い ●Off	○	—
休憩提案 ※	●On ●Off	○	—

※マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ BSM（ブラインドスポットモニター）（→P.375）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
ブラインドスポットモニター機能	●あり ●なし	○	—
ドアミラーインジケーターの明るさ ※1	●暗い ●明るい	○	—
接近車両を知らせるタイミング（感度）※1	●遅い ●標準 ●早い	○	—
ブザー警報 ※1, 2	●あり ●なし	○	—

※1マイセッティングと連動して設定が変更されます。

※2ブザー警報をなしに設定するとディスプレイ表示もなしになります

■ 安心降車アシスト (→P.391)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
安心降車アシスト機能	☒ On ☐ Off	☐	—
接近車両検知の感度 ※	☒ 低い ☐ 標準 ☐ 高い	☐	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ 後方車両接近告知 (→P.380)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
後方車両接近告知機能 ※	☒ あり ☐ なし	☐	—
接近車両を知らせるタイミング (感度) ※	☒ 遅い ☐ 標準 ☐ 早い	☐	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ 周辺車両接近時サポート (→P.383)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
周辺車両接近時サポート機能 ※	☒ あり ☐ なし	☐	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ クリアランスソナー (→P.396)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
クリアランスソナー機能 ※1	☒ On ☐ Off	☐	—
ブザー音量 ※1, 2	☒ 小 ☐ 中 ☐ 大	—	☐

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
クリアランスソナー 3D 表示 ※1, 3	●あり ●なし	○	—
フロントセンターセンサーの検知開始距離 ※1, 3	●近い ●標準	○	—
リヤセンターセンサーの検知開始距離 ※1, 3	●近い ●標準	○	—

※1 マイセッティングと連動して設定が変更されます。

※2 クリアランスソナー、リヤクロストラフィックアラート、リヤカメラディテクションの音量調整は連動しています。

※3 パノラミックビューモニターの設定画面で設定を変更できます。詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ RCTA（リヤクロストラフィックアラート）（→P.403）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能	●On ●Off	○	—
リヤクロストラフィックアラート作動時のブザー音量 ※1, 2	●小 ●中 ●大	—	○

※1 マイセッティングと連動して設定が変更されます。

※2 クリアランスソナー、リヤクロストラフィックアラート、リヤカメラディテクションの音量調整は連動しています。

■ RCD（リヤカメラディテクション）（→P.408）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
RCD（リヤカメラディテクション）機能	●On ●Off	○	—
リヤカメラディテクション作動時のブザー音量 ※1, 2	●小 ●中 ●大	—	○

※1 マイセッティングと連動して設定が変更されます。

※2 クリアランスソナー、リヤクロストラフィックアラート、リヤカメラディテクションの音量調整は連動しています。

■ PKSB（パーキングサポートブレーキ）（→P.412）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
PKSB（パーキングサポートブレーキ）機能 ※	●On ●Off	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ Lexus Teammate Advanced Park（→P.422）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
Remote Park	●あり ●なし	○	—
音声案内	●あり ●なし	○	—
速度モード	●遅め ●標準 ●速め	○	—
障害物回避距離	●標準 ●遠い	○	—
優先駐車方法	●並列 ●縦列	○	—
優先駐車向き	●バック ●前向き	○	—
優先出庫方向（並列）	●左 ●右	○	—
優先出庫方向（縦列）	●左 ●右	○	—
駐車時の映像	●ノーマル ●ワイド	○	—
出庫時の映像	●ノーマル ●ワイド	○	—
駐車進路調整	●－3（内側）～＋3（外側）	○	—

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
道幅調整	●狭い ●やや狭い ●標準	○	—
駐車位置調整（前向き）	●－ 3（後）～＋ 3（前）	○	—
駐車位置調整（バック）	●－ 3（後）～＋ 3（前）	○	—
後部取付部品設定	●取付なし ●10cm ●20cm ●30cm ●40cm	○	—

■ ドライブモードセレクトスイッチ（→P.448）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
カスタムモード時のパワートレイン制御	●Normal ●Sport ●Eco ●Range	○	—
カスタムモード時のサスペンション制御★	●Normal ●Sport	○	—
カスタムモード時のステアリング制御	●Normal ●Sport	○	—
カスタムモード時のエアコン作動	●Normal ●Eco ●Range	○	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 車両連携エコ（→P.476）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
車両連携エコの設定	●あり ●なし	○	—

■ エアコン (→P.469)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
AUTO スイッチを ON にしたとき、 A/C スイッチが連動して ON になる ※	●する ●しない	○	—
AUTO スイッチが ON のとき、連動 して外気導入と内気循環を自動的に 切りかえる ※	●する ●しない	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ シートヒーター／シートベンチレーター (→P.478)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
運転席シートヒーター／ベンチレー ター AUTO モード時の温度または風 量調整	●－2（涼しめ）～＋2（暖かめ）	○	—
助手席シートヒーター／ベンチレー ター AUTO モード時の温度または風 量調整	●－2（涼しめ）～＋2（暖かめ）	○	—

■ ステアリングヒーター (→P.478)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
ステアリングヒーター AUTO モード 時の温度調整	●－2（低め）～＋2（高め）	○	—

■ イルミネーション (→P.482)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
室内灯の消灯までの時間 ※	●7.5 秒 ●15 秒 ●30 秒	○	—
室内照明の点灯 ※	●あり ●なし	○	—
照度調整 ※	●任意の照度	○	—
照明色の選択 ※	●任意のテーマ、または色	○	—
ダイナミックカラーテーマの選択 ※	●任意のテーマ	○	—

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
シーン連動 乗降時おもてなし※	●あり ●なし	○	—
シーン連動 前方お知らせ★※	●あり ●なし	○	—
シーン連動 安心降車アシスト※	●あり ●なし	○	—
シーン連動 ドライブモード※	●あり ●なし	○	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ スイッチシンボル (→P.14, 177, 243, 430, 469)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
表示モード	●操作時 ●常時	○	—
感度	●低い ●標準 ●高い	○	—

レクサス販売店で設定変更する

機能の内容	カスタマイズ設定
メカニカルキー 2 回操作ドアアンロック機能	運転席ドアをメカニカルキーで解錠したとき、1 回目の操作で運転席ドアのみ解錠され、2 回目の操作ですべてのドアが解錠される機能の設定
降車オートロック機能	降車オートロック機能有無の設定
オートアンロック連動機能	ドアを自動で解錠する機能の設定
車室内外ドア開スイッチの操作方式設定	車内のドア開スイッチまたは車外のドア開スイッチを操作した時、ドア開状態を保持する時間の設定

機能の内容	カスタマイズ設定
ドアロックスイッチインジケータ点灯時間調整	パワースイッチがOFFで、ドアを施錠したとき、ドアロックスイッチインジケータが点灯してから消灯するまでの時間設定
車室内ドア開スイッチ操作警告機能	走行中などドア開できない場合に車内ドア開スイッチを操作したとき、警告する機能の設定
シフト連動ドアロック機能	パワースイッチがONで、すべてのドアが閉じているとき、シフトポジションをPから他のポジションに操作すると、ドアが自動的に施錠される機能の設定
接近時オートアンロック機能	車両に接近したとき、自動でドアを解錠する機能の設定
ドア開スイッチ作動調整	車室内からドアを開けるときの、ドア開スイッチを押し続ける時間の設定
デジタルキー機能	デジタルキーの機能有無の設定
デジタルキー電波範囲の設定（開始位置）	デジタルキーの位置判定を開始するエリアの設定
デジタルキー電波範囲の設定（停止位置）	デジタルキーの位置判定を停止するエリアの設定
デジタルキー車室内エリア設定	デジタルキーの室内作動エリアの設定
デジタルキー車室外エリア設定	デジタルキーの室外作動エリアの設定
デジタルキー 節電モード設定	デジタルキーで一定時間操作がないとき、スマートフォンのバッテリー消費を抑える時間、及び車両の補器バッテリーの消費を抑える時間の設定
ドアロック連動トランク	ドアが解錠されている状態のとき、電子キーを携帯していなくても車室外トランクオープナースイッチでトランクを開けることができる設定
ワイヤレスリモコン トランクアンロック機能	ワイヤレスリモコンでトランクを解錠するときの操作設定
ブザーアンサーバック音量設定	ワイヤレスリモコンで施錠／解錠したとき、吹鳴するブザー音量の調節
ブザーアンサーバック機能	ワイヤレスリモコン及びスマートエントリー&スタートシステム操作で施錠・解錠したとき、ブザーを吹鳴させる機能の設定

機能の内容	カスタマイズ設定
スマートエントリー&スタートシステムアンロック ドア解錠 2 段階操作	運転席のドアハンドルロックセンサー操作で解錠するとき、触り方に応じてドアの解錠範囲を切替える事ができます。
半ドア警告ブザー機能	いずれかのドアが開いているとき、ワイヤレスリモコン及びスマートエントリー&スタートシステム操作で施錠するとブザーが吹鳴する設定
ワイヤレスリモコンオートロック機能	ワイヤレスリモコン及びスマートエントリー&スタートシステム操作でドアを解錠した後、ドアを開けなかったとき、自動的に施錠する機能の設定
スマートエントリー&スタートシステム：アンロックセンサー長触り時間の設定	ドアハンドルアンロックセンサーを長触りする時間の設定。
スマートエントリー&スタートシステム：ロックセンサー長触り時間の設定	ドアハンドルロックセンサーを長触りする時間の設定
スマートエントリー&スタートシステム機能節電制御	長期間駐車する場合に、ワイヤレスリモコンの電池消耗と車両の補機バッテリー上がりを防止する機能の設定
スマートエントリー&スタートシステム機能キャンセル	スマートエントリー&スタートシステム機能を全て無効にする設定
非常点滅灯アンサーバック機能	ワイヤレスリモコン及びスマートエントリー&スタートシステム操作で施錠／解錠したとき、非常点滅灯（ハザードランプ）を点滅させる機能の設定
ワイヤレスリモコンオートロック時間設定	ワイヤレスリモコン及びスマートエントリー&スタートシステム操作でドアを解錠した後ドアを開けなかったとき、自動的に施錠されるまでの時間の設定
ワイヤレスリモコン 2 回操作アンロック機能	ワイヤレスリモコンで解錠したとき、1 回目の操作で運転席ドアのみ解錠され、2 回目の操作ですべてのドアが解錠される機能の設定
ワイヤレス連動開時のパノラマムーンルーフ作動方向設定	ワイヤレスリモコンを操作し続けたとき、パノラマムーンルーフをスライド作動させるかチルト作動させるかの設定
降車時運転席シート移動量調節	パワースイッチが OFF のとき、運転席シートとハンドルが乗降しやすい位置に自動で調整される際の移動量を設定

機能の内容	カスタマイズ設定
降車時ステアリング移動	パワースイッチを OFF にしたときのハンドル位置移動部位の設定
ACC カスタマイズ	パワースイッチを操作したとき、ACC 電源モードへ遷移する機能の設定
アクティブサウンドコントロール機能	アクティブサウンドコントロール機能の作動を設定
ライトセンサー感度調整	ライトセンサーの明るさ感度を設定
ヘッドランプ点灯時間延長機能	パワースイッチを OFF にしたあと、パッシング操作にて点灯させたヘッドランプが自動的に消灯するまでの時間設定
ランプ消し忘れ防止機能	ランプスイッチが AUTO 位置のとき、スモールランプを OFF するタイミングの設定
デイトタイムランニングランプ機能	デイトタイムランニングランプ機能有無の設定
ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能	ランプスイッチが AUTO 位置のとき、ワイパーに連動してヘッドランプを点灯する機能の設定
内気循環 / 外気導入自動切り替え	AUTO スイッチ ON もしくはパワースイッチ ON に連動して、内気循環と外気導入を自動で切り替える機能の設定
AUTO スイッチ連動	AUTO スイッチを ON にしたとき、自動で A / C スイッチを ON にする機能の設定
自動シート温度調節（運転席）	シートヒーター／シートベンチレーター AUTO モード時の運転席シート温度を 5 段階に設定
自動シート温度調節（助手席）	シートヒーター／シートベンチレーター AUTO モード時の助手席シート温度を 5 段階に設定
自動シート温度調節（後席左）	シートヒーター／シートベンチレーター AUTO モード時の後席左シート温度を 5 段階に設定。
自動シート温度調節（後席右）	シートヒーター／シートベンチレーター AUTO モード時の後席右シート温度を 5 段階に設定。
自動ステアリングヒーター調節	ステアリングヒーター AUTO モードのとき、温度値を 5 段階に設定。

機能の内容	カスタマイズ設定
室内イルミネーション	室内イルミネーションランプの光り方の設定
室内灯点灯時間設定	室内灯が自動で点灯したとき、自動で消灯するまでの時間の設定
室内灯点灯設定	室内灯が自動で点灯する機能全般を有効にする設定
全室内灯輝度調整	全室内灯の輝度を設定
室内灯輝度調整エリア設定	室内灯を輝度調整するエリアの設定
室内灯フロント照明輝度調整	フロントエリアの室内灯輝度を設定
室内灯リヤ照明輝度調整	リヤエリアの室内灯輝度を設定
室内足元照明輝度調整	足元エリアの室内灯輝度を設定
室内灯アクセント照明輝度調整	アクセントエリア室内灯輝度を設定
室内灯テーマ設定	室内灯のテーマカラーを設定
室内灯カスタマイズテーマ設定	室内灯のカスタマイズテーマカラー設定
接近時室内灯点灯機能	ワイヤレスリモコンを携帯して車両に接近すると室内灯が点灯する機能の設定
アンロック時室内灯点灯機能	解錠操作に連動して室内灯が点灯する機能の設定
接近時室外照明点灯機能	ワイヤレスリモコンを携帯して車両に接近したとき、室外照明が点灯する機能の設定
解錠時室外照明点灯機能	解錠したとき、室外照明が点灯する機能の設定
パワースイッチ OFF 時室内灯点灯機能	パワースイッチ ON の状態からパワースイッチ OFF の操作に連動してルームランプ／足元照明が点灯する機能の設定
室内灯 シーン連動 乗降時おもてなし	乗降に連携して室内灯を点灯する機能の設定
室内灯 シーン連動 安心降車アシスト	降車時の状況に連携して室内灯を点灯または点滅する機能の設定
室内灯 シーン連動 ドライブモード	ドライブモードの状況に連携して室内灯を点灯する機能の設定
室内灯 シーン連動 前方お知らせ	システムに連携して室内灯を点滅する機能の設定

機能の内容	カスタマイズ設定
メカニカルキー連動パワーウインドウ閉機能	メカニカルキーで施錠方向に回し続けたとき、窓を自動で閉める機能の設定
メカニカルキー連動パワーウインドウ開機能	メカニカルキーで解錠方向に回し続けたとき、窓を自動で開ける機能の設定
ワイヤレス機能連動パワーウインドウ閉機能	ワイヤレスリモコンで施錠を押し続けたとき、窓を閉める機能の設定
ワイヤレス機能連動パワーウインドウ開機能	ワイヤレスリモコンで解錠を押し続けたとき、窓を開ける機能の設定
メカニカルキー連動開時のパノラマムーンプーフ作動方向設定	メカニカルキーに連動して、パノラマムーンプーフをスライド動作するかチルト動作するかの設定
メカニカルキーでのオートアラーム解除機能	メカニカルキーでの解錠時にオートアラームを解除する機能の設定
パワーウインドウ作動	パワースイッチを ACC または OFF したとき、一定時間パワーウインドウを作動可能とする機能の設定
提案サービス機能	状況に応じて運転者に提案メッセージを表示する機能の設定

知識

■ 車両カスタマイズについて

- “スマートエントリー&スタートシステム” の設定が “なし” の場合、“解錠されるドアの選択” の設定はできません。
- 解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動したときの合図は、“作動の合図（非常点滅灯）” ・ “作動の合図音量（ブザー音量調整）” の設定に依存します。

初期設定が必要な項目

次の項目は補機バッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

初期設定が必要な項目

項目	初期設定が必要なとき	参照先
充電リッド	・ 補機バッテリーの充電・交換後の再接続時	P.77
クリアランスソナー	・ 補機バッテリーを脱着した時やあがったとき	P.396
PKSB（パーキングサポートブレーキ）		P.412
RCD（リヤカメラディテクション）		P.408
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）		P.403
タイヤ空気圧警報システム	・ タイヤサイズの変更などにより、タイヤの指定空気圧が変更になったとき ・ 指定空気圧が複数ある場合に、タイヤの空気圧を変更したとき	P.533
パワーウインドウ	・ 正常に動かないとき	P.235
パノラマムーンルーフ		P.239

フリー／オープンソースソフトウェア情報

ウォーターポンプ

AWD 向けインバータウォーターポンプは、オープンソースソフトウェアのライセンスが適応されたソフトウェアを含みます。

このようなフリー／オープンソフトウェアのライセンス情報は以下の URL で入手することができます。

<https://www.aisin.com/info/ewp/license001.html>

デジタルキー★

本製品はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下の URL で入手することができます。

<https://www.denso.com/global/en/opensource/dkey/toyota/>

https://www.aisin.com/info/digitalkey/oss/toyato_gen2/

<https://www.tokai-rika.co.jp/en/products/opensource/digitalkey>

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

計器類

本製品はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下の URL で入手することができます。

<https://www.denso.com/global/en/opensource/meter/toyota/>

Lexus Safety System +

本製品はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下の URL で入手することができます。

<https://www.denso.com/global/en/opensource/adu/toyota/>

ITS Connect

本製品はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下の URL で入手することができます。

<https://www.denso.com/global/en/opensource/v2x/toyota/>

デジタルインナーミラー

本製品はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下の URL で入手することができます。

<https://car.panasonic.jp/oss/n03pkdl6/>

電動チルト&テレスコピックステアリング

本製品はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下の URL で入手することができます。

<https://www.aisin.com/info/tat/004-gj3a.html>

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）	640
車から音が鳴ったときは（音さくい ん）	642
アルファベット順さくいん	645
五十音順さくいん.....	647

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、レクサス販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない



キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、レクサス販売店でレクサス純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→P.593）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにレクサス販売店にご相談ください。（→P.593）



キーが正常に働かないときは

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→P.545）



施錠・解錠できない

- パワースイッチがONになっていませんか？
施錠するときは、パワースイッチをOFFにしてください。（→P.260）
- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？
施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してくださ

い。

- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。（→P.213）



リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていませんか？

チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→P.202）



誤ってトランク内にキーを閉じ込めた

- キー閉じ込み防止機能が働き、通常通りトランクを開けることができます。キーを取り出してください。（→P.208）

故障かな？と思ったら



EV システムが始動できない

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらパワースイッチを押していますか？（→P.258）
- シフトポジションはP になっていませんか？（→P.262）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→P.212）
- キーの電池が消耗、または電池が

切れていませんか？

このときは、一時的な方法で EV システムを始動することができます。（→P.592）

- 補機バッテリーがあがっていませんか？（→P.599）



パワーウィンドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

- ウィンドウロックスイッチが押されていませんか？
ウィンドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウィンドウは操作できなくなります。（→P.237）



パワースイッチが自動的に OFF になった

- 一定時間 ACC または ON (EV システムが作動していない状態) にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→P.261）



警告音・アラーム・ホーンが鳴りだした

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→P.642）をご確認ください。



警告灯や警告メッセージが表示されたとき

- 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P.562, 570 をご確認ください。

トラブルが発生した



タイヤがパンクした

- 車を安全な場所に止め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→P.581）



立ち往生した

- ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→P.605）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
解錠したとき	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した ※	P.57
ドアを開閉したとき トランクを開めたとき	シフトポジションがP以外になっている	P.570
	窓・パノラマムーンルーフが開いている（EVシステム停止中のみ）	P.236 P.239
	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した ※	P.57
	後方から自動車・自転車が接近している	P.391
	電子キーをトランク内に置き忘れている	P.208
パワースイッチをOFFにしたとき	リヤシートリマインダー機能が作動した	P.199
EVシステムを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P.190

状況	原因	詳細
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P.199
	電子キーを車内に置き忘れている	P.212

※ スマートエントリー&スタートシステムを使ってドアを解錠する、またはパワースイッチをACCまたはONにするか、EVシステムを始動すると、警報を解除することができます。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドア・トランク・ボンネットが確実に閉まっていない	P.201
	パーキングブレーキが解除されていない	P.273
	シートベルトを着用していない ※1	P.564
シフトダウンしたとき	シフトダウン制限をこえて操作した	P.270
シフトポジションの切りかえをしたとき	無効なシフト操作をした ※2	P.265
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P.254

状況	原因	詳細
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロールを使用している	P.343
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティ）が作動した	P.309
車線から逸脱しそうになったとき	LTA（レーントレーシングアシスト）	P.318
車線変更時、後方から車が接近しているとき	LCA（レーンチェンジアシスト）を使用している	P.322
低速で交差点などへ進入するとき、交差する車両の接近を検知したとき	FCTA（フロントクロストラフィックスアラート）が作動した	P.337
前の車が発進または信号が青に替わっても停車し続けたとき	発進遅れ告知機能が作動した	P.339
制限速度より一定の速度を超過したとき	RSA（ロードサインアシスト）が作動した	P.340
進入禁止区域に進入したとき		
障害物との距離が近付いたとき	クリアランスソナーが作動した	P.396
無操作運転が継続されたとき	ドライバー異常時対応システムが作動した	P.358

状況	原因	詳細
後退時に左右からの車を検知したとき	RCTA（リヤクロストラフィックアラート）が作動した	P.403
後退時に後方の歩行者を検知したとき	RCD（リヤカメラディテクション）が作動した	P.408
自車の後方から接近してくる車両を検知したとき	後方車両接近告知が作動した	P.380
対向車や右折先の歩行者がいるときに右折しようとしたとき	ITS Connect が作動した	P.369
左右から交差点に進入する車がいるときに発進しようとしたとき		
赤信号の交差点に進入しそうになったとき		
緊急車両（救急車）がサイレンを鳴らして近辺を走行しているとき		

※1 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

※2 シフトポジションの切り替えが無効になるときや、自動的に N ポジションに切りかわる場合があります。その場合は適切なシフトポジションに切りか

えてください。

アルファベット順さくいん

A/C

(エアコン) 469

ABS

(アンチロックブレーキシステム)
..... 450

ACA

(アクティブコーナリングアシスト)
..... 451

Advanced Park..... 422

操作 430

AHS

(アダプティブハイビームシステム)
..... 282

AI-AVS

(アーティフィカルインテリジェン
スアダプティブバリアブルサスペン
ションシステム) 451, 455

AUTO スイッチ

(オートスイッチ) 469

AVS

(アダプティブバリアブルサスペン
ションシステム) 451

AWD

(オールホイールドライブ) 610

BSM

(ブラインドスポットモニター) 375

DRS

(ダイナミックリヤステアリング)
..... 451

ECB

(エレクトロニカリーコントロール
ドブレーキシステム) 450

EDR

(イベントデータレコーダー) 9

EPS

(エレクトリックパワーステアリン
グ) 451

FCTA

(フロントクロストラフィックア
ラート) 337

HUD

(ヘッドアップディスプレイ) ..184

ISOFIX

(アイソフィックス/イソフィッ
ク) 42

ITS Connect

通信利用型レーダークルーズコント
ロール 351

LCA

(レーンチェンジアシスト) 322

LDA

(レーンディパーチャーアラート)
..... 326

LED

(ライトエミットングダイオード)
..... 278, 549

Lexus Safety System +

AHS (アダプティブハイビームシス
テム) 282

FCTA (フロントクロストラフィッ
クアラート) 337

LCA (レーンチェンジアシスト)
..... 322

LDA (レーンディパーチャーアラ
ート) 326

LTA (レーントレーシングアシス
ト) 318

PCS (プリクラッシュセーフティ)
..... 309

PDA (プロアクティブドライビング
アシスト) 333

RSA (ロードサインアシスト) 340

アドバンスドドライブ (渋滞時支
援) 360

運転支援システム情報 294

オートマチックハイビーム 285

クルーズコントロール	354
ドライバー異常時対応システム	358
ドライバーモニター	307
発進遅れ告知機能	339
レーダークルーズコントロール	343

LTA

(レーントレーニングアシスト)	318

MAX スイッチ

(マックススイッチ)	469

PCS

(プリクラッシュセーフティ)..	309

PDA

(プロアクティブドライビングアシスト)	333

PKSB

(パーキングサポートブレーキ)	412

RCD

(リヤカメラディテクション).	408

RCTA

(リヤクロストラフィックアラート)	403

RSA

(ロードサインアシスト)	340

SRS

(サブリメンタルレストレイントシステム)	33

S-VSC

(ステアリングアシステッドピークルスタビリティコントロール)	450

SYNC スイッチ

(シンクロスイッチ)	469

TRC

(トラクションコントロール)	451, 605

VDIM

(ピークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント)	451

VSC

(ピークルスタビリティコントロール)	450

五十音順さくいん

あ

アースポイント（バッテリーあがりの処 置）.....	599
アームレスト.....	501
ITS Connect.....	369
アウターミラー（ドアミラー）.....	232
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）	403
安心降車アシスト	391
格納のしかた	233
操作.....	232
ブラインドスポットモニター（BSM）	375
ポジションメモリー.....	242
リバース連動機能	233
アクセサリーコンセント	504
アクセサリーソケット	492
アクセサリーモード.....	260
アクティブコーナリングアシスト （ACA）.....	451
アシストグリップ.....	501
足元照明	482
アダプティブハイビームシステム...	282
アドバンスドドライブ（渋滞時支援）	360
アラーム	
オートアラーム	57
音さくいん	642
警告ブザー	562
安心降車アシスト.....	391
アンチロックブレーキシステム（ABS）	450
アンテナ（スマートエントリー&スター トシステム）.....	211

い

イージークローザー	
ドア.....	200

トランク.....	208
EV システム	64
運転のアドバイス	71
回生ブレーキ	65
急速充電のしかた	106
緊急始動機能.....	592
緊急時の停止方法	554
緊急停止システム	70
高電圧部位.....	67
サービスプラグ	67
事故が発生したとき	69
始動できないときは	591
始動方法.....	258
車両接近通報装置	66
注意	67
電気モーター	64
電欠になったとき	70
特徴	64
特有の音と振動	65
パワー（イグニッション）スイッチ...	258
普通充電のしかた	99
メンテナンス・修理・廃車するとき.....	66
イグニッションスイッチ（パワースwit チ）.....	258
EV システム始動のしかた.....	258
自動電源 OFF 機能.....	261
車両を緊急停止するには	554
モードの切りかえ	260
位置交換（タイヤローテーション）..	529
イベントデータレコーダー（EDR）.....	9
イモビライザーシステム.....	56
インジケータ（表示灯）	
エラーインジケータ	81
充電インジケータ（普通充電ケーブル）	81
電源インジケータ	81
普通充電インジケータ（普通充電ポー ト）.....	77

普通充電ケーブル	81
インストルメントパネルオーナメント照明	482
インストルメントパネル照度調整スイッチ	175
インタラクティブマニュアルドライブ	269
インテリアランプ	482

う

ヴィークルパワーコネクタ	140
ウinker (方向指示灯)	
電球 (バルブ) の交換	549
方向指示レバー	270
ウインドウ	
ウオッシャー	290
パワーウインドウ	235
リヤウインドウデフォッガー	472
ウインドウロックスイッチ	237
ウオッシャー	290
液の補給	527
スイッチ	290
タンク容量	609
冬の前の準備・点検	463
動けなくなったときは (スタック)	605
雨滴感知式ワイパー	290
運転	
雨の日の運転	251
運転を補助する装置	450
寒冷時の運転	463
走行可能距離	73
正しい運転姿勢	27
手順	251
電気自動車運転のアドバイス	71
運転支援システム情報表示	181
運転席シートベルト非着用警告灯...	564

え

エアコン	
曇り取り (フロントガラス)	472
ナノイーX	474
フィルターの清掃	543
フロント席集中送風モード (S-FLOW)	475
マイルームモード	122
エアコン・デフォッガー	469
エアバッグ	
SRS エアバッグ警告灯	563
改造・廃棄	38
警告ブザー	563
作動条件	33, 34
正しい姿勢	27
配置	33
AC 外部給電システム	139
正常に給電できないときは	152
S-FLOW	
フロント席集中送風モード	475
エレクトリックパワーステアリング (EPS)	
機能	451

お

オーディオシステム連携表示	181
オートアラーム	57
オートドアロック・アンロック機能	203
オートマチックハイビーム	285
オートレベリングシステム (ヘッドランプ)	
作動	280
オーバーヒート	603
オープナー	
トランク	206
ボンネット	525
オープントレイ	490

おだけ充電（ワイヤレス充電器）. 494

お子さまを乗せるとき

ウインドウロックスイッチ	237
お子さまの安全のために	41
キーの電池	546
シートベルトの着用	29, 30
ステアリングヒーター・シートヒーターに 関する警告	478
チャイルドシート	42
チャイルドシートの取り付け	42
チャイルドプロテクター	202
発炎筒の取り扱いに関する警告	554
バッテリーに関する警告	602
パワーウィンドウに関する警告	236

か

カーテシランプ

装着位置	482

カーテンシールドエアバッグ 33

カーペット

洗浄	522
フロアマットの取り付け方	26

外気温度表示..... 171

回生ブレーキ..... 65

外装の電球（バルブ）..... 549

交換要領	549

外部給電システム

AC 外部給電システム	139
DC 外部給電システム	154

買い物フック..... 491

カスタマイズ機能..... 611

仮想ギヤ段..... 269

仮想ギヤ段の切りかえ 269

型式 610

カップホルダー 488

カメラ

前方カメラ（PCS）	299
デジタルインナーミラー	229

ドライバーステアリングヒーター	307

ガラスの曇り取り（リヤウインドウデ

フォグガー）	472

ガレージジャッキ 526

冠水路走行 256

寒冷時の運転 463

き

キー

EV システムが始動できない	591
カードキー	190
キーナンバープレート	190
キーの構成	190
キーレスエントリー	192, 211
キーをなくした	593
正常に働かない	594
施錠・解錠ができない	594
電子キー	190
電池が切れた	545
メカニカルキー	192
ワイヤレスリモコン	192

キーレスエントリー

スマートエントリー&スタートシステム	211
ワイヤレスドアロック	192

急加速抑制 365

緊急時シートベルト固定機構 31

緊急始動機能（EV システム）..... 592

緊急時の対処

EV システムが始動できない	591
オーバーヒートした	603
キーの電池が切れた	545, 594
キーをなくした	593
警告灯がついた	562
警告メッセージが表示された	570
けん引	557
故障したときは	552
車中泊が必要なときは	556

車両を緊急停止する.....	554
水没・冠水したときは.....	555
スタックした.....	605
電子キーが正常に働かない.....	594
発炎筒.....	553
バッテリーがあがった.....	599
パンクした.....	581
補機バッテリーがあがった.....	599
緊急停止システム.....	70
緊急ブレーキシグナル.....	451

<

空気圧 (タイヤ)	
タイヤ空気圧警報システム.....	530
メンテナンスデータ.....	610
クーリングシステム	
メンテナンスデータ.....	608
駆動用電池	
充電について.....	75
搭載位置.....	64
駆動用電池残量計.....	171
曇り取り	
フロントガラス.....	472
リヤウインドウデフォッガー.....	472
クラクション (ホーン).....	224
クリアランスソナー.....	396
クリアランスランプ (車幅灯).....	278
スイッチ.....	278
電球 (バルブ) の交換.....	549
クリップ	
フロアマット.....	26
クルーズコントロール	
クルーズコントロール.....	354
レーダークルーズコントロール.....	343
グローブボックス.....	488
グローブボックスランプ.....	488

け

警告器 (ホーン).....	224
計器類 (メーター).....	171
警告灯.....	562
EV システム.....	563
運転支援警告灯.....	567
ABS & ブレーキアシスト.....	563
SRS エアバッグ.....	563
LTA 表示灯.....	566
LDA 表示灯.....	566
クリアランスソナー OFF 表示灯.....	565
クルーズコントロール表示灯.....	566
シートベルト非着用.....	564
スリップ表示灯.....	567
タイヤ空気圧.....	565
ドライバーモニター警告灯.....	567
パーキングブレーキ表示灯.....	568
パワーステアリング.....	564
PKSB OFF 表示灯.....	566
PCS.....	565
ブレーキ.....	562
ブレーキホールド作動表示灯.....	568
ペダル誤操作.....	564
ポップアップフード.....	563
レーダークルーズコントロールエコラン	
モード表示灯.....	567
レーダークルーズコントロール表示灯.....	566
警告ブザー	
EV システム.....	563
ABS & ブレーキアシスト.....	563
SRS エアバッグ.....	563
LDA (レーンディパーチャーアラート)	
.....	566
LTA (レーンレーシングアシスト).....	566
クルーズコントロール.....	566
シートベルト非着用.....	564
衝突警報.....	310

接近警報（レーダークルーズコントロール）	350
タイヤ空気圧	565
手放し運転警告（LCA）	324
手放し運転警告（LTA）	320
ドライバーモニター	567
トランク開	201
パーキングブレーキ	568
パノラマムーンルーフ開	239
パワーステアリング	564
半ドア	199
半ドア走行時	201
プリクラッシュセーフティシステム ..	565
ブレーキ	562
ブレーキホールド	568
ペダル誤操作	564
ポップアップフード	563
ボンネット開	201
窓開	236
リバース	266
レーダークルーズコントロール	566
レーダークルーズコントロールエコラン モード	567
警告メッセージ	570
警告ラベル（EV システム）	67
化粧ミラー（バニティミラー）	492

こ

コインボックス	489
交換	
キーの電池	545
タイヤ	538
電球（バルブ）	549
ヒューズ	547
工具（ツール）	538, 583
後退速度の抑制制御（ドライブスタート コントロール）	256

後退灯（バックアップランプ）	
電球（バルブ）の交換	549
高電圧部位	67
後方車両接近告知	380
後方車両への接近警報	386
コートフック	502
コーナリングランプ	281
電球（バルブ）の交換	549
子供専用シート	
取り付け方	43
小物入れ	486, 489
コンセント	
アクセサリーコンセント	504
ヴィークルパワーコネクタ	140
コンソールボックス	488
コンソールボックスランプ	488
コンライト（自動点灯・消灯装置） ..	279

さ

サービスプラグ	67
サイドエアバッグ	33
サイド方向指示灯	
電球（バルブ）の交換	549
方向指示レバー	270
サイドミラー（ドアミラー）	232
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）	403
安心降車アシスト	391
格納のしかた	233
操作	232
ブラインドスポットモニター（BSM） ..	375
ポジションメモリー	242
リバース連動機能	233
サンバイザー	492

し

シート

正しい運転姿勢	27
チャイルドシート	42
調整	217, 219, 220
手入れ	522
パワーイージーアクセスシステム	242
ヘッドレスト	222
ポジションメモリー	242
メモリーコール機能	244
リヤシートリフレッシュシステム	221
シートヒーター	478
シートベルト	29
お子さまの着用	29, 30
緊急時シートベルト固定機構	31
高さ調整	31
正しく着用するには	30
着け方・はずし方	30
手入れ	522
妊娠中の方の着用	29
非着用警告灯	564
シートベルト非着用警告灯	564
シートベルトプリテンショナー	
機能	31
プリテンショナー警告灯	563
シートベンチレーター	478
シートポジションメモリー	242
G モニター	179
事故が発生したとき (EV システムの注 意)	69
室内灯 (インテリアランプ)	482
始動のしかた	258
シフトガイドメーター	174
シフトポジション	262, 269
シフトレバー	262
シフトポジションの切りかえ	263
操作	263

リバース警告ブザー	266
車中泊が必要なときは	556
ジャッキ	
ガレージジャッキ	526
車幅灯	
電球 (バルブ) の交換	549
ランプスイッチ	278
車両型式	610
車両仕様 (スペック)	608
車両接近通報装置	66
車両データの記録	7
車両を緊急停止するには	554
充電	
急速充電	106
車載充電器	104
充電スケジュール機能	112
充電装備	75
充電に関するアドバイス	94
充電に関する警告	103, 109
充電のしかた	99, 106
充電方法	92
充電リッドの開閉	75
正常に充電できない	125
電源について	88, 92
バッテリープレコンディショニング	120
V2H 充電	106
普通充電	99
普通充電ケーブル	78
マイルームモード	122
メッセージ	132
充電ケーブル (普通充電ケーブル)	
安全機能	80
インジケーター	81
コントロールユニット	80
充電ケーブルに関する警告	78
電源プラグコードの交換	82
普通充電コネクターを解錠できないとき	86
充電スケジュール機能	112

充電ポート

急速充電リッド	75
充電リッドの開閉	75
普通充電コネクターの施錠・解錠	85
普通充電リッド	75

充電用 USB Type-C 端子

充電リッドが開かないときは

周辺車両接近時サポート

瞬間電費

仕様（車両仕様）

衝撃感知ドアロック解除システム... ..

衝突時の急加速抑制

初期化

充電リッド	77
パノラマムーンルーフ	239
パワーウインドウ	235

初期設定

助手席シートベルト非着用警告灯... ..

侵入センサー（オートアラーム）

す

スイッチ

LTA	320
RCTA	404
TRC OFF	452
VSC OFF	452
イグニッション	258
インストルメントパネル照度調整	175
ウインドウロック	237
ウォッシャー	290
シート調整	217, 219, 220
シートヒーター	479
シートベンチレーター	480
シートポジションメモリー	242
車間距離切りかえ（レーダークルーズコン トロール）	346
侵入センサー OFF	59
ステアリングヒーター	479

デジタルインナーミラー

ドア開（車外）

ドア開（車内）

ドアミラー

ドアロック

ドライブモードセレクト

トランクオープナー

トランクオープナーメイン

トランククローザー

パーキングブレーキ

ハザードランプ

パドルシフト

パノラマムーンルーフ

パワーウインドウ

パワースイッチ

ハンドル位置調整

非常点滅灯（ハザードランプ）

フォグランプ

輻射ヒーター

ブレーキホールド

方向指示レバー

ホーン（警音器）

ポジションメモリー

マルチウエザーライト

メーター操作

ランプ

リヤウインドウデフォッガー

リヤサンシェード

レーダークルーズコントロール

ワイパー

スタック

ステアリングホイール（ハンドル）

位置調整

ステアリングヒーター

パワーイージーアクセスシステム

ポジションメモリー

メーター操作スイッチ

ストップランプ (制動灯)

緊急ブレーキ信号..... 451

電球 (バルブ) の交換..... 549

スノータイヤ (冬用タイヤ) 463

スピードメーター 171

スペック (車両仕様) 608

スマートエントリー&スタートシステム

アンテナの位置 211

EV システムの始動 258

カスタマイズ設定 611

緊急始動機能 592

作動範囲 212

正常に働かないとき 594

節電機能 212

電波がおよぼす影響について 216

ドアの解錠・施錠 197

トランクの開閉 206

スモールランプ (車幅灯)

電球 (バルブ) の交換..... 549

ランプスイッチ 278

スリップ表示灯 452

せ

清掃

アルミホイール 519

外装 518

シートベルト 522

内装 522

レーダー 300

制動灯

緊急ブレーキ信号..... 451

電球 (バルブ) の交換..... 549

セカンダリーコリジョンブレーキ. 388,
451

セキュリティインジケータ 56, 57

接近警報 (レーダークルーズコントロー
ル) 350

センサー

雨滴感知センサー 291

LCA (レーンチェンジアシスト) 322

LDA (レーンディパーチャーアラート)

..... 326

LTA (レーントレーシングアシスト) .. 318

侵入センサー 59

デジタルインナーミラー 228

ライトセンサー 279

レーダー 299, 376, 393

洗車 518

前照灯 (ヘッドランプ) 278

電球 (バルブ) の交換 549

ライトセンサー 279

ランプ消し忘れ防止機能 280

ランプスイッチ 278

センターコンソールランプ 482

そ

走行モード (ドライブモード) 448

送信機 (タイヤ空気圧警報システム)

..... 530

速度計 (スピードメーター) 171

た

ターンシグナルランプ (方向指示灯)

電球 (バルブ) の交換 549

方向指示レバー 270

ダイナミックリヤステアリング (DRS)

..... 451

タイヤ

空気圧 542, 610

空気圧警告灯 565

交換 538

チェーン 463

低扁平タイヤ 528

点検 528

パンクしたときは	581
パンク応急修理キット	581
冬用タイヤ	463
ホイールサイズ	610
ローテーション（位置交換）	529
タイヤが空まわりする（スタックした）	605
タイヤ空気圧	
警告灯	565
タイヤ空気圧警報システム	
ID コードの切りかえ	536
ID コードの登録	534
機能について	530
空気圧バルブ／送信機について	531
空気圧表示画面	530
警告灯	565
タイヤ位置の登録	532
タイヤ空気圧の設定	533
タイヤチェーン	463

ち

チェーン（タイヤチェーン）	463
チャイルドシート	42
ISOFIX ロアアンカレッジでの取り付け	53
シートベルトでの固定	51
選択方法	42
駐車ブレーキ（パーキングブレーキ）	271
警告灯	568
警告メッセージ	273
操作	271
冬季の注意	464
未解除走行時警告ブザー	273

つ

通信利用型レーダークルーズコントロー ル	351

2WD（2 ホイールドライブ）	610
ツール（工具）	538, 583

て

提案サービス機能	182
DC 外部給電システム	154
正常に給電できないときは	162
ディスプレイ	
ヘッドアップディスプレイ	184
マルチインフォメーションディスプレイ	176
デイトタイムランニングランプ	279
低扁平タイヤ	528
手入れ	
アルミホイール	519
外装	518
シートベルト	522
デジタルインナーミラー	229
内装	522
レーダー	300
テールランプ（尾灯）	278
電球（バルブ）の交換	549
ランプスイッチ	278
デジタルインナーミラー	225
リヤカメラウォッシャー	290
デジタルキー	193
デフォッガー（リヤウインドウデフォッ ガー）	472
電気モーター	64
電球（バルブ）	
交換要領（外装バルブ）	549
電欠になったとき	70
点検基準値（メンテナンスデータ）	608
電子キー	190
作動範囲	212
正常に動かないとき	594
節電機能	213
電池が切れた	594

電池交換	545
電池交換（キー）	545
電費	
瞬間電費	179
平均電費	179

と

ドア	197
イージークローザー	200
オートドアロック・アンロック機能 ..	203
衝撃感知ドアロック解除システム	198
スマートエントリー&スタートシステム	211
チャイルドプロテクター	202
ドア開スイッチ（車外）	201
ドア開スイッチ（車内）	202
ドアガラス	235
ドアロックスイッチ	200
ワイヤレスリモコン	197
ドアカーテシランプ	
位置	482
ドアトリム照明	482
ドアミラー	232
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）	403
安心降車アシスト	391
格納のしかた	233
操作	232
ブラインドスポットモニター（BSM） ..	375
ポジションメモリー	242
リバース連動機能	233
ドアミラー足元照明	482
盗難防止装置	
イモビライザーシステム	56
オートアラーム	57
時計	171
トップテザーアンカレッジ	54

ドライバー異常時対応システム	358
ドライビングポジションメモリー ...	242
メモリーコール機能	244
ドライブスタートコントロール	
後退速度の抑制制御	256
抑制制御	256
ドライブモードセレクトスイッチ ...	448
トラクションコントロール（TRC）..	451
トランク	
イージークローザー	208
オープナー	206
キー閉じ込み防止機能	208
クローザースイッチ	208
警告メッセージ	201
電子キーが正常に働かないとき	594
トランクオープナーを使用できなくするに	211
トランク内の装備	491
パワートランクリッド	203
ハンズフリーパワートランクリッド ...	207
メインスイッチ	211
トランクスルー	503
トランクリンプ	208

な

内装	
収納装備	486
手入れ	522
ナノイー X	474

に

ニーエアバッグ	33
荷物	
積むときの注意	257
トランク	203
トランク内装備	491
荷物固定用フック	491

ぬ

ぬかるみにはまった (スタック) 605

は

パーキングサポートブレーキ

後方接近車両 419

後方歩行者 421

前後方静止物／周囲静止物 416

パーキングブレーキ 271

警告灯 568

警告メッセージ 273

操作 271

冬季の注意 464

未解除走行時警告ブザー 273

パーソナルランプ 482

ハイビーム (ヘッドランプ) .. 280, 281

アダプティブハイビームシステム 282

オートマチックハイビーム 285

電球 (バルブ) の交換 549

ランプスイッチ 280, 281

ハイマウントストップランプ

電球 (バルブ) の交換 549

ハザードランプ (非常点滅灯)

スイッチ 553

電球 (バルブ) の交換 549

挟み込み防止機能

パノラマムーンルーフ 239

パワーウィンドウ 235

発炎筒 553

バックアップランプ (後退灯)

電球 (バルブ) の交換 549

発進遅れ告知機能 339

バッテリー

警告灯 562

バッテリー (駆動用電池)

充電について 75

搭載位置 64

バッテリー (補機バッテリー)

補機バッテリーがあがった 599

補機バッテリーを交換するとき 601

BEV (バッテリー電気自動車) 64

バッテリーがあがった 599

バッテリープレコンディショニング 120

パドルシフトスイッチ 267, 269

バニティ (化粧用) ミラー 492

バニティミラーランプ

装備について 492

パノラマムーンルーフ

閉めることができないときは 239

初期化 239

操作 238

ドアロック連動パノラマムーンルーフ開閉

機能 239

挟み込み防止機能 239

バルブ (電球)

交換要領 (外装のバルブ) 549

パワーイージーアクセスシステム ... 242

パワーウィンドウ 235

ウィンドウロックスイッチ 237

閉めることができないときは 235

初期化 235

操作 235

ドアロック連動ドアガラス開閉機能 ... 236

挟み込み防止機能 235

巻き込み防止 235

パワースイッチ 258

自動電源 OFF 機能 261

車両を緊急停止するには 554

モードの切り替え 260

パワースイッチ (イグニッションスイッチ) 258

パワーステアリング 451

警告灯 564

パワートランクリッド 203

パワーメーター	173, 187
パンク応急修理キット	581
パンクした	
タイヤ空気圧警告灯	565
タイヤパンク応急修理キット	581
番号灯 (ライセンスプレートランプ)	
.....	278
電球 (バルブ) の交換	549
ランプスイッチ	278
ハンズフリーパワートランクリッド	207
ハンドル (ステアリングホイール)	
位置調整	224
ステアリングヒーター	478
パワーイーザーアクセスシステム	242
ポジションメモリー	242
メーター操作スイッチ	177

ひ

ビークルスタビリティコントロール (VSC)	450
ビークルダイナミクスインテグレイテッド マネージメント (VDIM)	451
ヒーター	
エアコン・デフォッガー	469
駆動用電池	93
シートヒーター	478
ステアリングヒーター	478
輻射ヒーター	478
ヒーターシステム	
メンテナンスデータ	608
非常時給電システム	504
非常点滅灯 (ハザードランプ)	
スイッチ	553
電球 (バルブ) の交換	549
尾灯 (テールランプ)	278
電球 (バルブ) の交換	549
ランプスイッチ	278

ヒューズ	547
表示灯	168
日よけ (サンバイザー)	492
ヒルスタートアシストコントロール	451

ふ

V2H 給電	106
ブースターケーブルのつなぎ方	599
フード (ボンネット)	
開け方	525
警告メッセージ	201
フォグラмп	289
スイッチ	289
電球 (バルブ) の交換	549
輻射ヒーター	478
ブザー	
接近警報 (レーダークルーズコントロー ル)	350
手放し運転警告 (LCA)	324
手放し運転警告 (LTA)	320
ドライバーモニター	307
パーキングブレーキ未解除走行時警告	273
パノラマムーンルーフ警告	239
半ドア走行時警告	201
窓開警告	236
リバース警告	266
普通充電ケーブル	
安全機能	80
インジケーター	81
コントロールユニット	80
充電ケーブルに関する警告	78
電源プラグコードの交換	82
普通充電コネクターを解錠できないとき	86
普通充電コネクターの施錠・解錠	85
フック	
買い物フック	491
けん引フック	559
コートフック	502

荷物固定用フック	491
フロアマット固定フック	26
冬の前の準備（寒冷時の運転）	463
冬用タイヤ	463
ブラインドスポットモニター（BSM）	375
プラスサポート	458
プリクラッシュセーフティ（PCS）	
機能	309
PCS 警告灯	565
プリクラッシュブレーキ	310
ブレーキ	
回生ブレーキ	65
緊急ブレーキシグナル	451
警告灯	562
パーキングブレーキ	271
ブレーキホールド	275
メンテナンスデータ	609
ブレーキアシスト	
機能	450
ブレーキフルード	609
ブレーキホールド	275
フロアマット	26
フロント eAxle	608
フロントクロストラフィックアラート（FCTA）	337
フロントシート	
シートヒーター	478
シートベンチレーター	478
正しい運転姿勢	27
調整	217
手入れ	522
パワーイージーアクセスシステム	242
ヘッドレスト	222
メモリーコール機能	244
フロントシートポジションメモリー	242
フロントパーソナルランプ	482

フロント方向指示灯	
電球（バルブ）の交換	549
方向指示レバー	270

へ

平均電費	179
ヘッドアップディスプレイ	184
運転支援システム表示	186
設定	185
走行状況表示	184
割り込み表示	187
ヘッドランプ	278
クリーナー	290
電球（バルブ）の交換	549
ライトセンサー	279
ランプ消し忘れ防止機能	280
ランプスイッチ	278
ヘッドランプオートレベリングシステム	280
ヘッドレスト	222
ベンチレーター（シートベンチレーター）	478

ほ

ホイール	
意匠カバー	540
交換（タイヤ）	538
メンテナンスデータ	610
方向指示灯	
電球（バルブ）の交換	549
方向指示レバー	270
ホーン（警音器）	224
補機バッテリー	
交換するとき	601
補機バッテリーがあがった	599
ポジションメモリー	242
保証	10

ポップアップフード	39
ボンネット	
開け方	525
警告メッセージ	201
ポップアップフード	39

ま

マイセッティング	245
マイルームモード	122
マルチインフォメーションディスプレイ	176
運転支援システム情報	181
オーディオシステム連携	181
警告メッセージ	570
G モニター	179
設定	183
タイヤ空気圧	530
提案サービス機能	182
表示項目	176
メーター操作スイッチ	177
割り込み表示	176
マルチウェザーライト	288
スイッチ	288

み

ミラー	
アウターミラー	232
デジタルインナーミラー	225
ドアミラー	232
パニティミラー	492
リヤカメラウオッシャー	290

め

メーター	
計器類	171
警告灯	562

警告メッセージ	570
シフトガイドメーター	174
照度調整	175
設定	183
時計	171
パワーメーター	173, 187
表示灯	168
マルチインフォメーションディスプレイ	176
メーター操作スイッチ	177
メーターサイド照明	482
メカニカルキー	192
メモリーコール機能	244
メンテナンスデータ	608

も

モーター	
EV システムが始動できない	591
モーター（電気モーター）	64

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能	611
雪道ですべて動けない（スタックした）	605
油脂類	608

ら

ライセンスプレートランプ（番号灯）	278
電球（バルブ）の交換	549
ランプスイッチ	278
ラゲージアンダートレー	491
ラゲージマット	491
ラゲージルーム（トランク）	203, 491
ラジエーター	
オーバーヒート	603

ランプ

アダプティブハイビームシステム	282
コーナリングランプ	281
室内灯	482
電球（バルブ）の交換	549
非常点滅灯（ハザードランプ）	553
ヘッドランプ（前照灯）	278
方向指示灯（ターンシグナルランプ／ウィンカー）	270
マルチウェザーライト	288
ライトセンサー	279
ランプ消し忘れ防止機能	280
リヤフォグランプ	289
ランプ消し忘れ防止機能	280

リ

リバース連動機能	233
リヤアームレスト	501
リヤ eAxe	609
リヤウィンドウデフォッガー	472
リヤコンソール照明	482
リヤサンシェード	502
リヤシート	219
シートヒーター	478
シートベンチレーター	478
調整	220
ヘッドレスト	222
リフレッシュシステム	221
リヤ席シートベルト非着用警告灯	565
リヤドアサンシェード	502
リヤパーソナルランプ	482
リヤフォグランプ	289
スイッチ	289
電球（バルブ）の交換	549
リヤ方向指示灯	
電球（バルブ）の交換	549
方向指示レバー	270

れ

冷却水

冬の前の準備	463
メンテナンスデータ	608

冷却装置（ラジエーター）

オーバーヒート	603

レーダークルーズコントロール

警告メッセージ	348

接近警報	350

レーンチェンジアシスト（LCA）

レーンディパーチャーアラート（LDA）	322

.....	326

レーントレーシングアシスト（LTA）

レクサスクライメイトコンシェルジュ	468

.....

レバー

シフト	262
方向指示	270
ボンネット解除	525

ろ

ロードサインアシスト（RSA）

ロック	340

ウインドウロック	237

スマートエントリー&スタートシステム	211

.....	211

チャイルドプロテクター	202

ドア	197

ワイヤレスリモコン	192

わ

ワイパー & ウォッシャー

ウォッシャー液の補充	527

ワイパー停止位置の切りかえ

ワイパーブレード（寒冷地用）	464

ワイヤレス充電器（おくだけ充電）

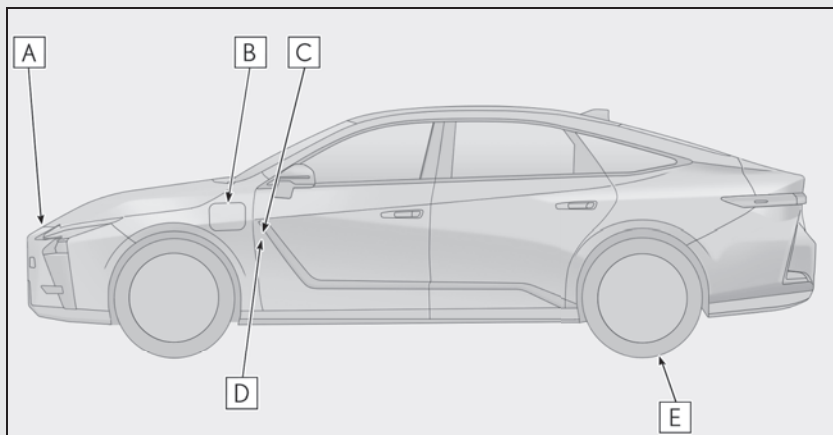
.....	494

ワイヤレスリモコン	192
作動の合図	198
操作	192
電池の交換	545
半ドア警告ブザー	199
ワックス	518

次の装備は、別冊「マルチメディア取扱説明書」をお読みください。

- ・オーディオ
- ・パノラミックビューモニター
- ・バックガイドモニター
- ・ナビゲーションシステム
- ・音声対話サービス
- ・ハンズフリー
- ・G-Link
- ・ETC2.0 システム

充電設備での情報



- A** ボンネットフック (→P.525)
- B** 充電ポート (→P.75)
- C** トランクオープナースイッチ (→P.206)
- D** ボンネット解除レバー (→P.525)
- E** タイヤ空気圧 (→P.610)

- 充電設備の仕様により、満充電の前に電源供給が停止されることがあります。
- 充電方法については、(→P.99, 106) を参照してください。
- 充電器（スタンド）に備え付けの充電コネクタにより、取り扱いが異なる場合があります。充電器（スタンド）の取り扱い方法をご確認ください。

「個人情報保護方針」については、<https://lexus.jp> にて掲載しております。



Publication No. M33J52V
01-2603
ES500e / ES350e